

中 医 協 檢 - 5 - 2  
2 9 . 5 . 3 1

平成 28 年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（平成 28 年度調査）の  
報告案について

○ 重症度や居住形態に応じた評価の影響調査等を含む在宅医療・訪問看護の実施状況調査

・報告書（案）（在宅医療、訪問看護）	1 頁
・報告書（案）（在宅歯科医療）	244 頁
・NDB データ	305 頁
・調査票	310 頁
・結果概要	※検-5-1 と同様のため添付省略

平成 28 年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（平成 28 年度調査）

重症度や居住形態に応じた評価の影響調査等を含む  
在宅医療・訪問看護の実施状況調査 報告書（案）

◇◆目 次◆◇

I . 調査の概要 .....	1
II . 調査の結果 .....	6
1 . 回収結果 .....	6
2 . 在宅医療調査 .....	7
(1) 施設の概要 .....	7
(2) 診療体制 .....	16
(3) 在支診・在支病の状況等 .....	33
(4) 在宅医療を提供した患者の状況等 .....	41
(5) 訪問診療を受けている患者の状況等（「患者調査」） .....	92
3 . 訪問看護調査 .....	161
(1) 事業所の概要 .....	161
(2) 診療報酬の算定状況や利用者の状況等 .....	174
(3) 土日や夜間、緊急時の対応等 .....	187
(4) 他の医療機関や訪問看護ステーション等との連携状況 .....	189
(5) 訪問看護を行った利用者の状況 .....	201

## I . 調査の概要

### 1. 目的

平成 28 年度診療報酬改定では、①休日の往診・看取り・重症児に対する医学管理等について実績を有する医療機関に対する評価が行われた。また、②個々の患者の状態や居住場所に応じたきめ細やかな報酬体系に見直しが行われた他、③在宅医療専門の保険医療機関が設けられた。さらに、④機能強化型訪問看護ステーションの要件の見直しが行われた他、⑤同一日 2 か所目の訪問看護ステーションによる緊急訪問の評価等が行われた。

本調査では、このような診療報酬改定の内容を踏まえ、在宅医療・訪問看護を提供する医療機関等の状況や、在宅医療・訪問看護を受けている患者の居住場所や重症度、診療の状況等を検証するための調査を行った。

なお、在宅歯科医療の実施状況については別に報告書をとりまとめた。

<主なねらい>

- ・ 在宅医療・訪問看護の対象患者の状態・居住形態・診療の所要時間等の把握
- ・ 重症患者に対する在宅医療・訪問看護の提供状況等の把握
- ・ 在宅専門医療機関における在宅医療の実施状況等の把握

### 2. 調査対象

本調査では、「在宅医療調査」「訪問看護調査」の 2 つの調査を実施した。各調査の対象は、次のとおりである。

#### ○在宅医療調査

- ・ 保険医療機関の中から無作為抽出した、①在宅療養支援診療所 1,000 施設、②在宅療養支援病院 400 施設、③在宅時医学総合管理料又は施設入居時等医学総合管理料の届出を行っている診療所（①②は除く）600 施設。合計 2,000 施設。

#### ○訪問看護調査

- ・ ①機能強化型訪問看護管理療養費の届出事業所（悉皆）、②全国の訪問看護ステーションの中から無作為抽出した訪問看護ステーション。①②合わせて 1,000 事業所。

### 3. 調査方法

- ・ 対象施設の開設者・管理者が記入する自記式調査票の郵送配布・回収とした。
- ・ 調査回答期限後、督促を実施した。
- ・ 調査実施時期は、「在宅医療調査」が平成 28 年 10 月 14 日～平成 28 年 12 月 22 日、「訪問看護調査」が平成 28 年 10 月 27 日～平成 29 年 1 月 4 日であった。

#### 4. 調査項目

調査項目は以下のとおりである。

##### 【調査項目案】

区分	主な調査項目
(1) 在宅医療票	<p>○施設概要</p> <ul style="list-style-type: none"><li>所在地、開設者、訪問診療を行っている診療科、医療機関種別、許可病床数、医師会への入会の有無</li><li>同一法人・関連法人が運営している施設・事業所・サービス等、同一・隣接施設の施設・事業所・サービス等</li></ul> <p>○診療体制等</p> <ul style="list-style-type: none"><li>外来初診患者数、再診延べ患者数、往診及び訪問診療を行った延べ患者数</li><li>訪問診療を行う時間</li><li>全職員数、在宅医療の実施のため、患者に訪問をする職員数</li><li>在宅医療を担当する常勤の医師数、「認知症サポート医養成研修事業」を受講した医師数、「がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会の開催指針に準拠した研修」又は「緩和ケアの基本教育のための都道府県指導者研修会等」を修了した医師数</li><li>在宅褥瘡管理者の有無と人数</li><li>他医療機関との連携窓口を担当する職員として配置している職種とその人数</li><li>24時間訪問看護の提供体制の状況</li></ul> <p>○在宅療養支援病院（在支病）・在宅療養支援診療所（在支診）の届出状況等</p> <ul style="list-style-type: none"><li>在支病・在支診の届出状況、届出をしていない場合の理由・最大の理由、届出意向</li><li>機能強化型在支病・在支診の届出状況、届出をしていない場合の理由・最大の理由、届出意向</li><li>機能強化型（連携型）在支病・在支診の場合の在宅支援連携体制、届出時期</li></ul> <p>○在宅医療の実施状況等</p> <ul style="list-style-type: none"><li>主治医として訪問診療を提供している患者の人数、年齢別患者数、超重症児・準超重症児の患者数、要介護度別の患者数、身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳を保有する患者数、特定疾患医療受給者証を保有する患者数</li><li>半年間の在宅療養患者数、このうちの死亡患者数、医療機関・医療機関以外で死亡した患者数等</li><li>最も遠く／近くに住む訪問診療患者について移動時間、当該患者の「单一建物診療患者数」、住居形態、医療機関との位置関係</li><li>在総管・施設総管の「重症患者」数、重症患者に該当しないが診療</li></ul>

	<p>において困難を伴う患者の状態や環境、診療内容等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 在宅がん医療総合診療料、在宅患者緊急時等カンファレンス料等に関する半年間の算定回数</li> <li>・ 担当患者の医療・介護等を担う医療機関・事業所との連携のための会議開催の有無、半年間の開催回数</li> <li>・ 在宅療養実績加算1・2、在宅緩和ケア充実診療所・病院加算の届出状況</li> <li>・ 在宅患者訪問看護・指導料、同一建物居住者訪問看護・指導料、精神科訪問看護・指導料（I・III）の算定患者数、算定回数</li> <li>・ 訪問看護指示書、特別訪問看護指示書、精神科訪問看護指示書、精神科特別訪問看護指示書の交付件数</li> <li>・ 在宅療養患者に対する治療の状況</li> </ul> <p>○在宅医療提供患者の状況等【患者調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 患者の性別、年齢、要介護度、認知症高齢者の日常生活自立度、精神疾患の有無、障害者手帳などの種類</li> <li>・ 訪問先、单一建物における訪問診療患者数、調査日の診察状況</li> <li>・ 患家</li> <li>・ 訪問するのに用いる交通手段と移動時間</li> <li>・ 訪問診療を行ったきっかけ、訪問診療を開始した時期</li> <li>・ 訪問診療の対象病名、ターミナルかどうか、経口摂取の状況</li> <li>・ 医師が実施した診療内容・連携等、医師以外の職種が提供した医療内容</li> <li>・ 1か月間の訪問回数、医学管理料の算定状況</li> <li>・ 調査日の診療時間、看護職員の同行の有無</li> <li>・ 当該患者に関する歯科医療機関との連携の有無</li> <li>・ 半年間における往診を行った回数、入院に至った回数、夜間の往診回数、深夜の往診回数／等</li> </ul>
(2) 訪問看護票	<p>○事業所概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 所在地、開設者、同一敷地内または隣接する施設・事業所、指定を受けている介護保険サービス・障害福祉サービス</li> <li>・ 訪問看護の開始時期、サテライトの有無・設置数</li> <li>・ 機能強化型訪問看護ステーションの届出の有無・届出時期・満たしている要件、今後の届出意向</li> <li>・ 24時間対応体制加算・連絡体制加算の届出（医療保険）の有無、特別管理加算（医療保険）の届出の有無、精神科訪問看護基本療養費の届出の有無、精神科複数回訪問加算の届出の有無、精神科重症患者早期集中支援管理連携加算の届出の有無、訪問看護基本療養費（I）のハ及び（II）のハに係る専門の研修を受けた看護師に係る届出の有無</li> <li>・ 常勤換算の職員数（保健師・助産師・看護師、准看護師、リハビリ職等）／等</li> </ul> <p>○診療報酬の算定状況や利用者の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新規利用者数、対応が終了した利用者数、訪問看護の利用者数およ</li> </ul>

	<p>び訪問回数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 40歳以上の医療保険利用者の要介護度別人数、日常生活自立度別人数、認知症高齢者の日常生活自立度の区別別人数、超重症児・準超重症児・医療的ケア児等の人数</li> <li>・ ターミナルケアを行った利用者数</li> <li>・ ケアの内容別利用者数（医療処置、看護師によるリハビリテーション、リハビリ職によるリハビリテーション等）</li> <li>・ 特別地域訪問看護加算（医療保険）の対象地域かどうか、算定利用者数、対象地域に居住する利用者数</li> <li>・ 中山間地域等小規模事業所加算（介護保険）の対象地域かどうか、対象地域に居住する利用者数・算定利用者数</li> <li>・ 早朝・夜間・深夜・土日祝日の計画的な訪問への対応状況、緊急訪問した利用者の有無・人数・延べ訪問回数、緊急訪問看護加算（医療保険）の算定回数／等</li> </ul>
	<p>○医療機関、訪問看護ステーション等との連携状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 連携に関する診療報酬項目の算定利用者数と算定回数（退院時共同指導加算（医療保険）、在宅患者連携指導加算、在宅患者緊急時等カンファレンス加算、訪問看護情報提供療養費）</li> <li>・ 在宅褥瘡管理者の有無・人数、「在宅褥瘡対策チーム」への参加の有無</li> <li>・ 医療保険利用者のうち、他実施主体による訪問看護も利用している人数</li> <li>・ 訪問看護指示書、訪問看護計画書・訪問看護報告書の受け渡し（医療保険）について、授受のあった病院・診療所数と受け渡し方法別の回数</li> <li>・ 医療保険の利用者についての情報提供等の状況</li> <li>・ 地域住民に対する情報提供や相談、人材育成のための研修等の地域での活動として行ったこと／等</li> </ul>
	<p>○「医療保険」で訪問看護を行った利用者の状況【利用者調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 利用者の基本属性、要介護度、障害高齢者の日常生活自立度、認知症高齢者の日常生活自立度、在宅療養を続けている原因の病名等</li> <li>・ ターミナル期かどうか、超重症児・準超重症児かどうか</li> <li>・ 訪問看護の開始時期、在宅移行前の場所、直近の退院月</li> <li>・ 訪問看護の種別、訪問看護の加算等の状況</li> <li>・ 訪問日数、緊急訪問の有無・回数・理由、1日につき複数回訪問した日の有無・日数、1回の訪問時間</li> <li>・ 提供する職員の職種、訪問看護を提供する他の施設・事業所の有無、種別、訪問者の職種</li> <li>・ 特別訪問看護指示書の交付の有無・回数</li> <li>・ ケア内容</li> <li>・ リハビリテーションに関する計画を訪問看護計画書と一体で作成しているか、計画の作成・評価への看護職の関与、リハビリテーションの主たる実施者、看護職による訪問看護の実施有無／等</li> </ul>

## 5. 調査検討委員会

本調査を実施するにあたり、調査設計、調査票の作成、調査の実施、集計・分析、報告書案等の検討を行うため、以下の通り、調査検討委員会を設置・開催した。

【委 員】(○は委員長、五十音順、敬称略)

- 印南 一路 慶應義塾大学総合政策学部 教授
- 太田 秀樹 全国在宅療養支援診療所連絡会 事務局長
- 川越 正平 あおぞら診療所 院長
- 川島 孝一郎 仙台往診クリニック 院長
- 新田 國夫 全国在宅療養支援診療所連絡会 会長
- 平原 優美 日本訪問看護財団立あすか山訪問看護ステーション 統括所長
- 福井 小紀子 日本赤十字看護大学 教授
- 松原 由美 早稲田大学人間科学学術院 准教授

## II. 調査の結果

### 1. 回収結果

「在宅医療調査」は発送数 2,000 件に対し、回答数が 774 件（回答率 38.7%）、有効回答数が 764 件（有効回答率 38.2%）であった。

また、「訪問看護調査」は発送数 1,000 件に対し、回答数が 628 件（回答率 62.8%）、有効回答数が 610 件（有効回答率 61.0%）であった。

図表 1 回収の状況

	①発送数	②回答数	③有効回答数	④回答率 (②／①)	⑤有効回答率 (③／①)
在宅医療調査	2,000	774	764	38.7%	38.2%
訪問看護調査	1,000	628	610	62.8%	61.0%

## 2. 在宅医療調査

### 【調査対象等】

調査対象：全国の保険医療機関のうち無作為抽出した、  
 ①在宅療養支援診療所（在支診）1,000 施設、  
 ②在宅療養支援病院（在支病）400 施設、  
 ③在宅時医学総合管理料又は施設入居時等医学総合管理料の届出を行っている診療所（①②は除く、在支診以外の診療所）600 施設、  
 の合計 2,000 施設。

回答数：764 施設

回答者：管理者

### （1）施設の概要

#### ①在宅療養支援診療所・在宅療養支援病院の届出状況

本調査では、調査対象に記載したとおり、在宅療養支援診療所（以下、「在支診」）、在宅療養支援病院（以下、「在支病」）の届出を行っている医療機関を対象とした。また、診療所については、在支診以外の診療所で、在宅時医学総合管理料又は施設入居時等医学総合管理料の届出を行っている診療所を本調査の対象とした。

本調査では、平成 28 年 10 月 1 日時点の在支診・在支病の届出状況を尋ねているが、その結果は以下のとおりである。

本調査では、診療所については「機能強化型在支診」（76 施設：単独型 10 施設、連携型 66 施設）、「在支診」（327 施設）、「在支診以外の診療所」（223 施設）の 3 類型または 4 類型ごとに、病院については「機能強化型在支病」（58 施設：単独型 19 施設、連携型 39 施設）、「在支病」（75 施設）の 2 類型または 3 類型ごとに分析を行っている。

図表 2 在支診・在支病の届出状況

		回答施設数	構成割合
診療所	機能強化型(単独型)在支診	10	1.6%
	機能強化型(連携型)在支診	66	10.5%
	在支診	327	52.2%
	在支診以外の診療所	223	35.6%
	診療所合計	626	100.0%
病院	機能強化型(単独型)在支病	19	13.8%
	機能強化型(連携型)在支病	39	28.3%
	在支病	75	54.3%
	在支病以外の病院	5	3.6%
	病院合計	138	100.0%

※「在支病以外の病院」は調査対象外であることから、分析対象外としている。

**②所在地**

回答施設の所在地は、以下のとおりである。

図表 3 回答施設の所在地

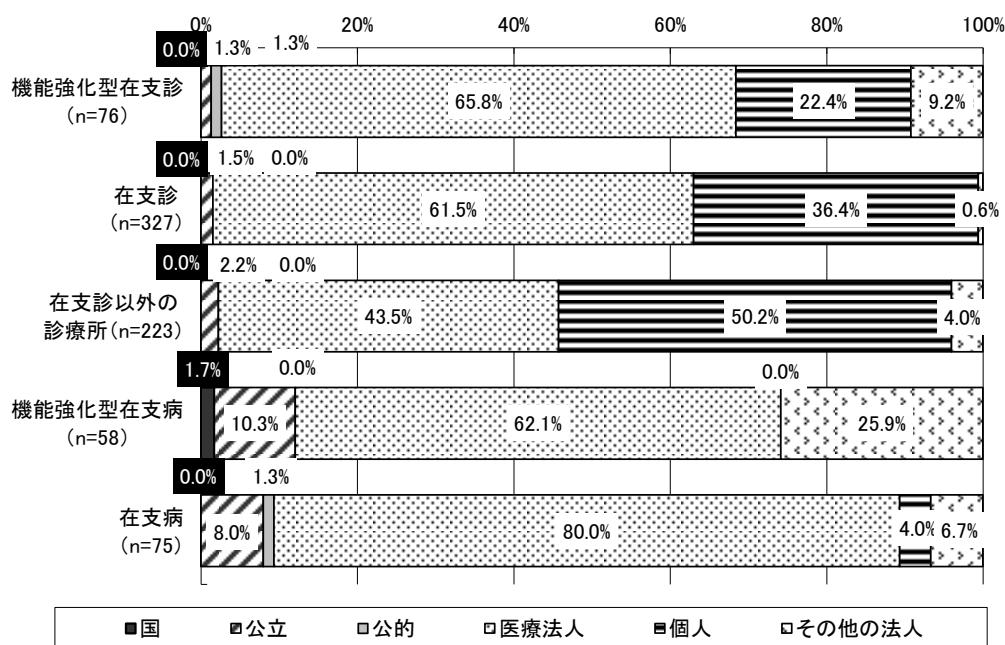
	機能強化型 在支診	在支診	在支診以外の 診療所	機能強化型 在支病	在支病
総数	76	327	223	58	75
北海道	0	7	2	1	6
青森県	0	2	1	0	1
岩手県	1	2	2	1	0
宮城県	1	2	4	2	0
秋田県	1	4	2	1	0
山形県	0	3	4	0	0
福島県	2	6	3	0	0
茨城県	1	5	5	1	3
栃木県	2	1	3	0	0
群馬県	3	7	6	1	0
埼玉県	4	8	7	2	2
千葉県	2	5	5	2	2
東京都	20	25	16	4	5
神奈川県	4	19	15	2	3
新潟県	1	2	6	0	0
富山県	1	2	1	2	0
石川県	0	7	1	0	2
福井県	0	2	1	0	0
山梨県	0	2	2	0	0
長野県	3	6	6	0	2
岐阜県	3	5	6	1	1
静岡県	2	7	5	2	1
愛知県	3	17	11	3	3
三重県	2	1	2	1	0
滋賀県	1	3	0	3	0
京都府	2	3	9	2	2
大阪府	4	29	17	4	4
兵庫県	3	13	16	2	5
奈良県	3	4	1	0	0
和歌山県	1	7	6	2	2
鳥取県	1	1	2	0	1
島根県	0	4	1	1	0
岡山県	0	6	4	1	3
広島県	2	18	8	0	3
山口県	0	3	3	0	1
徳島県	0	5	1	0	3
香川県	0	6	2	1	1
愛媛県	0	5	3	2	1
高知県	1	2	1	1	1
福岡県	1	30	12	6	5
佐賀県	0	6	3	1	1
長崎県	0	9	3	1	3
熊本県	0	5	3	0	4
大分県	0	8	5	1	2
宮崎県	1	2	2	1	0
鹿児島県	0	9	3	2	2
沖縄県	0	2	2	1	0

### ③開設者

開設者をみると、診療所について、機能強化型在支診、在支診では「医療法人」が最も多く、次いで「個人」であった。特に機能強化型在支診では在支診と比較して「医療法人」の割合が4.3ポイント高かった。一方、在支診以外の診療所では「個人」が最も多く、次いで「医療法人」であった。

病院について、機能強化型在支病、在支病では「医療法人」が最も多く、次いで「その他の法人」であった。

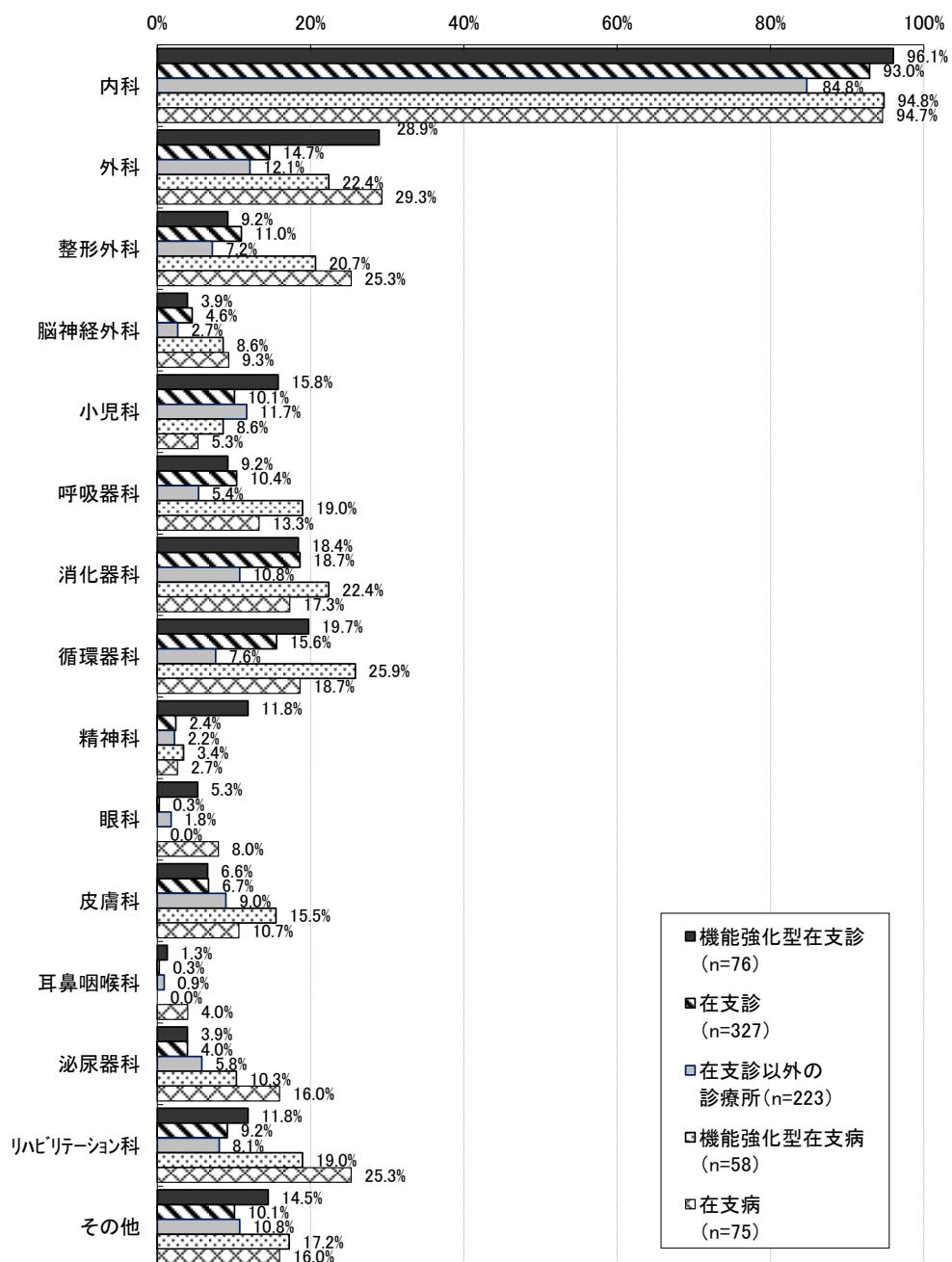
図表 4 開設者



#### ④訪問診療を行っている診療科

訪問診療を行っている診療科をみると、機能強化型在支診では在支診や在支診以外の診療所と比較して「内科」、「外科」、「小児科」、「循環器科」、「精神科」、「眼科」、「リハビリテーション科」の割合が高かった。

図表 5 訪問診療を行っている診療科（複数回答）

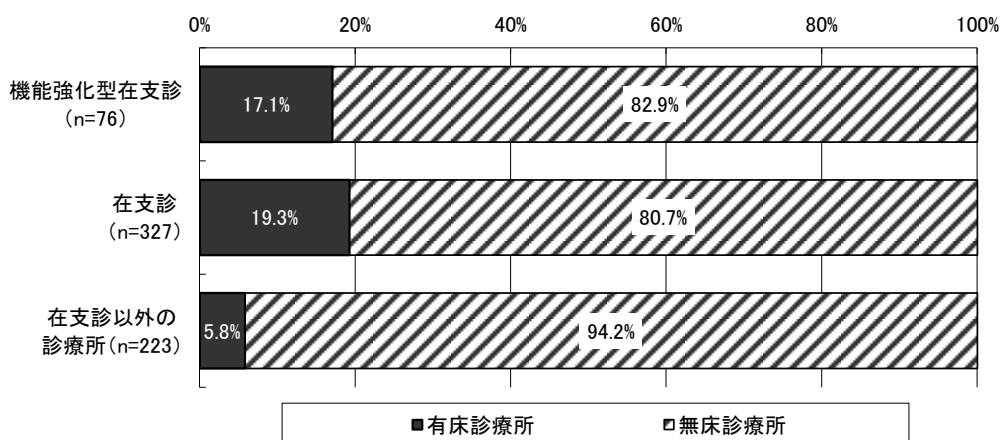


(注)「その他」の内容として、「胃腸科」、「緩和ケア科」、「肛門科」、「神経内科」、「麻酔科」、「リウマチ科」等が挙げられた。

## ⑤医療機関の種別（診療所）

診療所について医療機関の種別をみると、有床診療所の割合は機能強化型在支診が 17.1%、在支診が 19.3%、在支診以外の診療所が 5.8%であった。

図表 6 医療機関の種別【診療所】



## ⑥病床数

### 1) 許可病床数

有床診療所及び病院における 1 施設あたりの許可病床数は、以下のとおりである。

図表 7 許可病床数【有床診療所】

(単位：床)

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	3	14.7	6.7	18.0
機能強化型在支診(連携型)	10	17.7	3.0	19.0
在支診	63	16.3	4.8	19.0
在支診以外の診療所	13	17.8	3.1	19.0

(注) 許可病床数について記入のあった施設を集計対象とした。

図表 8 許可病床数【病院】

(単位：床)

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支病(単独型)	19	111.2	44.8	100.0
機能強化型在支病(連携型)	39	104.6	45.9	98.0
在支病	75	108.0	59.7	99.0

(注) 許可病床数について記入のあった施設を集計対象とした。

## 2) 在宅患者緊急一時入院病床数

在宅患者緊急一時入院病床数は、以下のとおりである。

図表 9 在宅患者緊急一時入院病床数【有床診療所】

(単位：床)

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	3	2.3	4.0	0.0
機能強化型在支診(連携型)	10	0.1	0.3	0.0
在支診	63	0.2	0.9	0.0
在支診以外の診療所	13	0.2	0.6	0.0

(注) 在宅患者緊急一時入院病床数について記入のあった施設を集計対象とした。

図表 10 在宅患者緊急一時入院病床数【病院】

(単位：床)

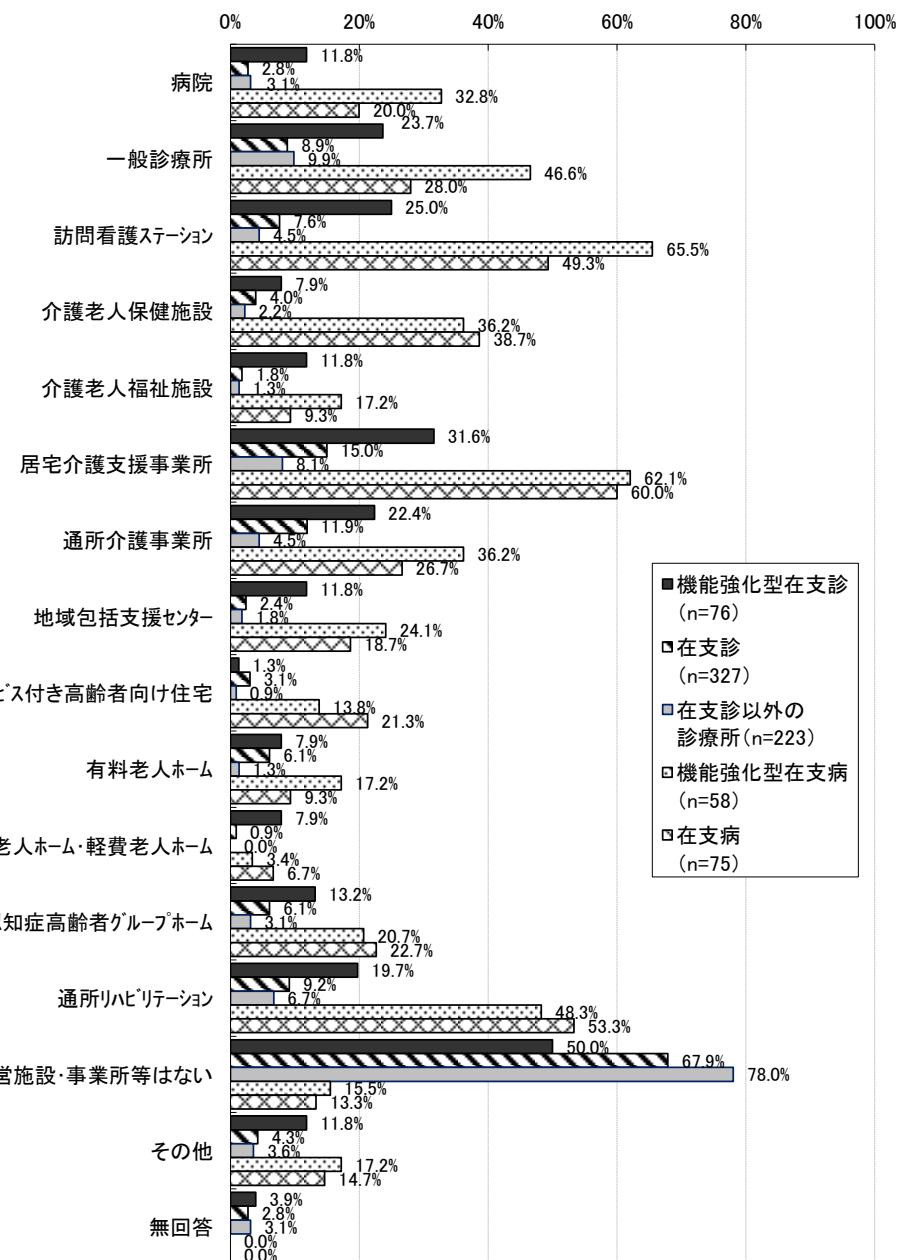
	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支病(単独型)	19	2.4	9.1	0.0
機能強化型在支病(連携型)	39	2.0	7.8	0.0
在支病	75	0.3	0.8	0.0

(注) 在宅患者緊急一時入院病床数について記入のあった施設を集計対象とした。

## ⑦自法人・関連法人が運営している施設・事業所等

自法人・関連法人が運営している施設・事業所等をみると、機能強化型在支診では他の診療所と比較して、「居宅介護支援事業所」、「訪問看護ステーション」等を運営している施設の割合が高かった。また、機能強化型在支病でも同様に「訪問看護ステーション」、「居宅介護支援事業所」を運営している施設は6割を超えた。

図表 11 自法人・関連法人が運営している施設・事業所等（複数回答）

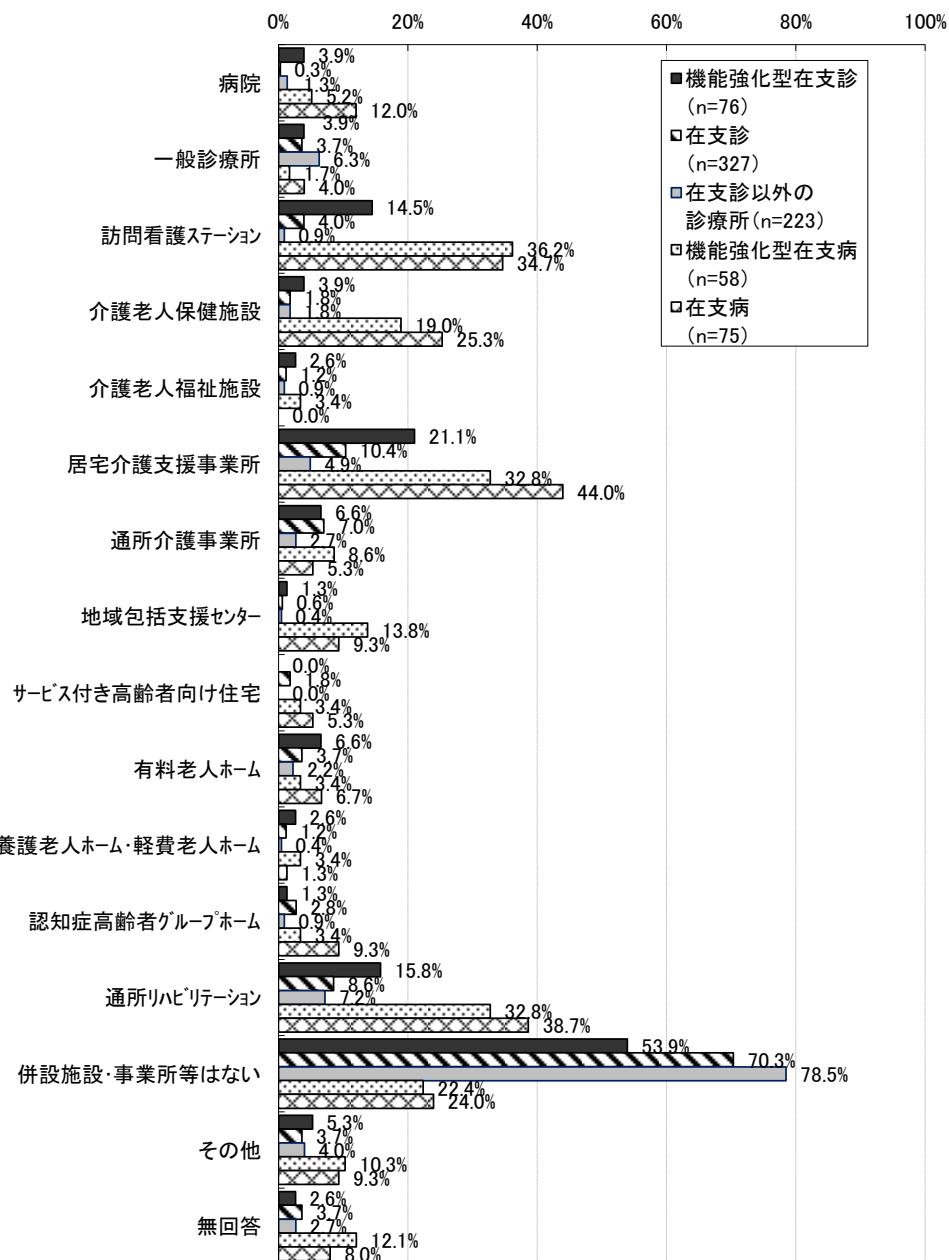


(注) 「その他」の内容として、「介護療養型医療施設」、「小規模多機能型居宅介護」、「短期入所生活介護」、「短期入所療養介護」、「病児保育室」、「放課後等児童デイサービス」、「訪問介護事業所」、「訪問リハビリテーション」等が挙げられた。

## ⑧同一敷地内または隣接している施設・事業所・サービス等

同一敷地内または隣接している施設・事業所・サービス等をみると、機能強化型在支診、機能強化型在支病では他の診療所と比較して、「居宅介護支援事業所」、「通所リハビリテーション」、「訪問看護ステーション」等の割合が高かった。機能強化型在支病でも同様に「訪問看護ステーション」、「居宅介護支援事業所」、「通所リハビリテーション」の割合が高かった。

図表 12 同一敷地内または隣接している施設・事業所・サービス等（複数回答）

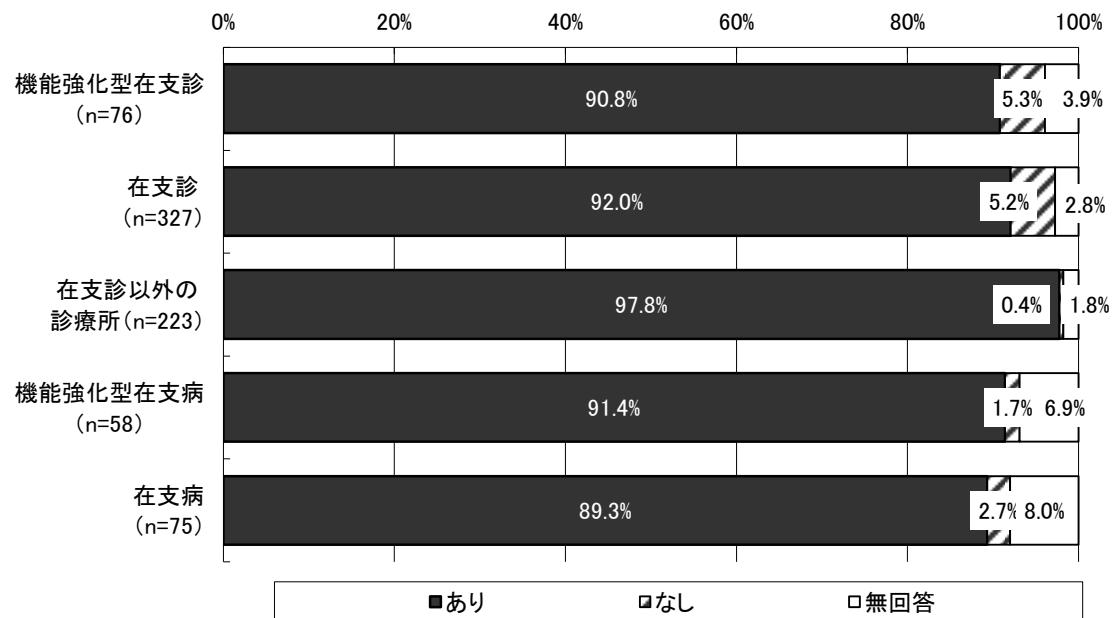


(注)「その他」の内容として、「介護療養型医療施設」、「小規模多機能型居宅介護事業所」、「短期入所生活介護」、「短期入所療養介護」、「調剤薬局」、「保育園」、「訪問介護事業所」、「訪問リハビリテーション」、「介護福祉用品レンタル・販売」等が挙げられた。

### ⑨医師会への入会の有無

医師会への入会の有無は、以下のとおりである。

図表 13 医師会への入会の有無



## (2) 診療体制

### ①全職員数（常勤換算）

1 施設あたりの全職員数（常勤換算）は、以下のとおりである。

1 施設あたりの医師の人数は、機能強化型在支診が平均 2.6 人（中央値 2.0）、在支診が 1.3 人（中央値 1.0）、在支診以外の診療所が 1.2 人（中央値 1.0）であった。また、機能強化型在支診では 1 施設あたりの職員数が平均 18.9 人となっており、在支診（平均 9.6 人）、在支診以外の診療所（平均 7.3 人）と比較すると多かった。

図表 14 全職員数【機能強化型在支診】（常勤換算、n=74）

（単位：人）

	平均値	標準偏差	中央値
医師	2.6	3.6	2.0
歯科医師	0.3	2.0	0.0
保健師・助産師・看護師	3.5	6.4	2.0
准看護師	1.2	2.2	0.0
薬剤師	0.5	3.0	0.0
リハビリ職	1.0	3.3	0.0
管理栄養士	0.2	0.7	0.0
その他の医療職	2.2	15.2	0.0
社会福祉士	0.1	0.4	0.0
その他の職員	7.3	29.9	3.0
合計	18.9	63.3	8.3

（注）全職員数について記入のあった施設を集計対象とした。

図表 15 全職員数【在支診】（常勤換算、n=317）

（単位：人）

	平均値	標準偏差	中央値
医師	1.3	0.6	1.0
歯科医師	0.0	0.2	0.0
保健師・助産師・看護師	2.0	2.3	1.1
准看護師	1.8	2.4	1.0
薬剤師	0.1	0.3	0.0
リハビリ職	0.3	1.1	0.0
管理栄養士	0.1	0.3	0.0
その他の医療職	0.5	1.3	0.0
社会福祉士	0.1	0.3	0.0
その他の職員	3.6	4.1	2.5
合計	9.6	8.8	7.0

（注）全職員数について記入のあった施設を集計対象とした。

図表 16 全職員数【在支診以外の診療所】(常勤換算、n=214)

(単位：人)

	平均値	標準偏差	中央値
医師	1.2	0.5	1.0
歯科医師	0.0	0.1	0.0
保健師・助産師・看護師	1.4	1.7	1.0
准看護師	1.2	1.6	1.0
薬剤師	0.1	0.2	0.0
リハビリ職	0.1	0.6	0.0
管理栄養士	0.0	0.1	0.0
他の医療職	0.4	1.2	0.0
社会福祉士	0.0	0.2	0.0
他の職員	2.8	2.7	2.4
合計	7.3	4.8	6.2

(注) 全職員数について記入のあった施設を集計対象とした。

図表 17 全職員数【機能強化型在支病】(常勤換算、n=57)

(単位：人)

	平均値	標準偏差	中央値
医師	12.2	6.8	10.8
歯科医師	0.3	1.0	0.0
保健師・助産師・看護師	61.4	40.8	46.6
准看護師	10.9	7.8	9.5
薬剤師	3.4	2.0	3.0
リハビリ職	19.2	21.1	10.0
管理栄養士	2.2	1.4	2.0
他の医療職	15.1	11.9	12.0
社会福祉士	2.1	1.5	2.0
他の職員	41.5	22.0	37.0
合計	168.3	93.4	133.8

(注) 全職員数について記入のあった施設を集計対象とした。

図表 18 全職員数【在支病】(常勤換算、n=70)

(単位：人)

	平均値	標準偏差	中央値
医師	9.0	5.2	7.2
歯科医師	0.0	0.2	0.0
保健師・助産師・看護師	45.3	31.4	38.1
准看護師	12.5	8.6	10.0
薬剤師	3.2	2.2	2.8
リハビリ職	16.8	20.5	9.7
管理栄養士	2.1	1.2	2.0
他の医療職	12.9	14.8	6.8
社会福祉士	1.9	2.0	1.5
他の職員	40.5	50.0	29.3
合計	144.3	105.0	120.8

(注) 全職員数について記入のあった施設を集計対象とした。

## ②在宅医療の実施体制

### 1) 在宅医療の実施ため、患家に訪問をする職員数

在宅医療の実施のため、患家に訪問をする職員数は、以下のとおりである。

機能強化型在支診（単独型）では平均 4.7 人、機能強化型在支診（連携型）では平均 3.6 人、在支診では平均 1.7 人、在支診以外の診療所では平均 1.0 人であった。

**図表 19 在宅医療の実施のため、患家に訪問をする職員数【機能強化型在支診（単独型）】**

（常勤換算、n=9）

（単位：人）

	平均値	標準偏差	中央値
医師	2.4	1.7	3.0
歯科医師	0.0	–	0.0
保健師・助産師・看護師	1.4	2.2	0.0
准看護師	0.3	0.7	0.0
薬剤師	0.0	–	0.0
リハビリ職	0.4	1.3	0.0
管理栄養士	0.1	0.3	0.0
その他の医療職	0.0	–	0.0
社会福祉士	0.0	–	0.0
その他の職員	0.0	–	0.0
合計	4.7	4.2	3.0

（注）すべての職員数について記入のあった施設を集計対象とした。

**図表 20 在宅医療の実施のため、患家に訪問をする職員数【機能強化型在支診（連携型）】**

（常勤換算、n=65）

（単位：人）

	平均値	標準偏差	中央値
医師	1.2	1.2	1.0
歯科医師	0.0	–	0.0
保健師・助産師・看護師	1.0	1.6	0.4
准看護師	0.3	0.7	0.0
薬剤師	0.0	–	0.0
リハビリ職	0.4	1.3	0.0
管理栄養士	0.1	0.7	0.0
その他の医療職	0.0	–	0.0
社会福祉士	0.1	0.3	0.0
その他の職員	0.6	1.5	0.0
合計	3.6	4.3	2.1

（注）すべての職員数について記入のあった施設を集計対象とした。

図表 21 在宅医療の実施のため、患家に訪問をする職員数【在支診】  
(常勤換算、n=305)

(単位：人)

	平均値	標準偏差	中央値
医師	0.7	0.5	1.0
歯科医師	0.0	0.1	0.0
保健師・助産師・看護師	0.4	0.8	0.0
准看護師	0.3	0.9	0.0
薬剤師	0.0	-	0.0
リハビリ職	0.0	0.3	0.0
管理栄養士	0.0	0.1	0.0
その他の医療職	0.0	0.2	0.0
社会福祉士	0.0	0.2	0.0
その他の職員	0.1	0.5	0.0
合計	1.7	2.0	1.0

(注) すべての職員数について記入のあった施設を集計対象とした。

図表 22 在宅医療の実施のため、患家に訪問をする職員数【在支診以外の診療所】  
(常勤換算、n=202)

(単位：人)

	平均値	標準偏差	中央値
医師	0.6	0.5	1.0
歯科医師	0.0	-	0.0
保健師・助産師・看護師	0.2	0.6	0.0
准看護師	0.2	0.5	0.0
薬剤師	0.0	0.1	0.0
リハビリ職	0.0	0.2	0.0
管理栄養士	0.0	0.1	0.0
その他の医療職	0.0	0.3	0.0
社会福祉士	0.0	-	0.0
その他の職員	0.0	0.2	0.0
合計	1.0	1.3	1.0

(注) すべての職員数について記入のあった施設を集計対象とした。

在宅医療の実施のため、患者に訪問をする職員数は、機能強化型在支病（単独型）では平均 6.5 人、機能強化型在支病（連携型）では平均 3.4 人、在支病では平均 2.3 人であった。

図表 23 在宅医療の実施のため、患者に訪問をする職員数【機能強化型在支病（単独型）】  
(常勤換算、n=19)

(単位：人)

	平均値	標準偏差	中央値
医師	2.4	2.8	1.1
歯科医師	0.0	-	0.0
保健師・助産師・看護師	1.9	2.3	0.9
准看護師	0.5	1.3	0.0
薬剤師	0.1	0.2	0.0
リハビリ職	0.5	1.2	0.0
管理栄養士	0.1	0.2	0.0
その他の医療職	0.0	-	0.0
社会福祉士	0.1	0.3	0.0
その他の職員	1.0	3.7	0.0
合計	6.5	7.2	3.0

(注) すべての職員数について記入のあった施設を集計対象とした。

図表 24 在宅医療の実施のため、患者に訪問をする職員数【機能強化型在支病（連携型）】  
(常勤換算、n=34)

(単位：人)

	平均値	標準偏差	中央値
医師	1.0	1.1	0.5
歯科医師	0.0	0.0	0.0
保健師・助産師・看護師	1.1	1.6	0.5
准看護師	0.2	0.5	0.0
薬剤師	0.0	0.0	0.0
リハビリ職	0.5	1.6	0.0
管理栄養士	0.0	0.0	0.0
その他の医療職	0.0	0.2	0.0
社会福祉士	0.0	0.2	0.0
その他の職員	0.5	1.2	0.0
合計	3.4	5.0	1.7

(注) すべての職員数について記入のあった施設を集計対象とした。

図表 25 在宅医療の実施のため、患者に訪問をする職員数【在支病】  
(常勤換算、n=68)

(単位：人)

	平均値	標準偏差	中央値
医師	0.8	1.2	0.3
歯科医師	0.0	—	0.0
保健師・助産師・看護師	0.7	1.5	0.1
准看護師	0.2	0.4	0.0
薬剤師	0.0	0.0	0.0
リハビリ職	0.3	0.9	0.0
管理栄養士	0.0	—	0.0
その他の医療職	0.0	—	0.0
社会福祉士	0.0	0.2	0.0
その他の職員	0.3	1.0	0.0
合計	2.3	4.0	0.8

(注) すべての職員数について記入のあった施設を集計対象とした。

## 2) 在宅医療を担当する常勤の医師数（自施設単独）

在宅医療を担当する常勤の医師数（自施設単独）をみると、機能強化型在支診（単独型）では平均 2.8 人（中央値 3.0）、機能強化型在支診（連携型）では平均 1.3 人（中央値 1.0）、在支診では平均 1.0 人（中央値 1.0）、在支診以外の診療所では平均 0.9 人（中央値 1.0）であった。また、機能強化型在支病（単独型）では平均 4.4 人（中央値 4.0）、機能強化型在支病（連携型）では平均 3.4 人（中央値 2.5）、在支病では平均 2.6 人（中央値 2.0）であった。

図表 26 在宅医療を担当する常勤の医師数（自施設単独）

(単位：人)

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	9	2.8	1.2	3.0
機能強化型在支診(連携型)	66	1.3	0.7	1.0
在支診	318	1.0	0.3	1.0
在支診以外の診療所	206	0.9	0.5	1.0
機能強化型在支病(単独型)	18	4.4	1.7	4.0
機能強化型在支病(連携型)	38	3.4	2.6	2.5
在支病	69	2.6	1.8	2.0

(注) 在宅医療を担当する常勤の医師数について記入のあった施設を集計対象とした。

### 3) 認知症サポート医養成研修事業を受講した認知症サポート医の医師数

在宅医療を担当する常勤の医師のうち、認知症サポート医養成研修事業を受講した認知症サポート医の医師数をみると、機能強化型在支診（単独型）では平均 0.8 人、機能強化型在支診（連携型）では平均 0.4 人、在支診では平均 0.4 人、在支診以外の診療所では平均 0.2 人であった。同様に病院についてみると、機能強化型在支病（単独型）では平均 0.4 人、機能強化型在支病（連携型）では平均 0.4 人、在支病では平均 0.4 人であった。

図表 27 認知症サポート医養成研修事業を受講した認知症サポート医の医師数

(単位：人)

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	9	0.8	1.4	0.0
機能強化型在支診(連携型)	60	0.4	0.5	0.0
在支診	288	0.4	0.5	0.0
在支診以外の診療所	189	0.2	0.4	0.0
機能強化型在支病(単独型)	16	0.4	0.8	0.0
機能強化型在支病(連携型)	35	0.4	0.6	0.0
在支病	66	0.4	0.6	0.0

(注) 認知症サポート医養成研修事業を受講した認知症サポート医の医師数について記入のあった施設を集計対象とした。

### 4) 緩和ケアに関する研修等を修了した医師数

在宅医療を担当する常勤の医師のうち、緩和ケアに関する研修等（「がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会の開催指針に準拠した研修」又は「緩和ケアの基本教育のための都道府県指導者研修会等」）を修了した医師数をみると、機能強化型在支診（単独型）では平均 1.0 人、機能強化型在支診（連携型）では平均 0.8 人、在支診では平均 0.3 人、在支診以外の診療所では平均 0.1 人であった。同様に病院についてみると、機能強化型在支病（単独型）では平均 1.8 人、機能強化型在支病（連携型）では平均 1.0 人、在支病では平均 0.6 人であった。

図表 28 緩和ケアに関する研修等を修了した医師数

(単位：人)

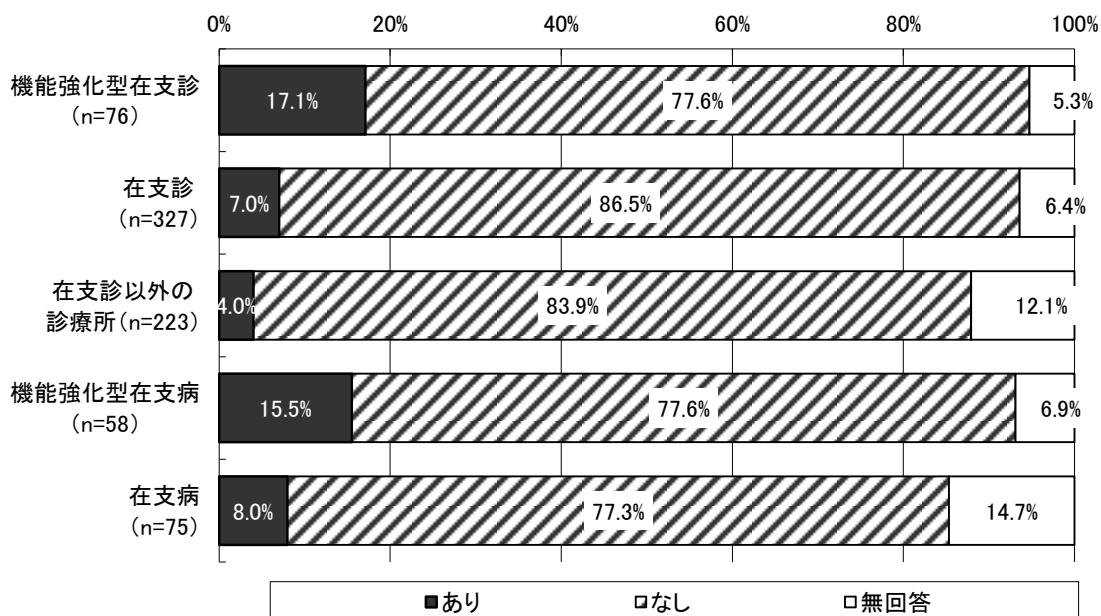
	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	9	1.0	1.4	0.0
機能強化型在支診(連携型)	64	0.8	0.6	1.0
在支診	292	0.3	0.5	0.0
在支診以外の診療所	187	0.1	0.3	0.0
機能強化型在支病(単独型)	16	1.8	1.4	1.0
機能強化型在支病(連携型)	36	1.0	0.9	1.0
在支病	63	0.6	0.9	0.0

(注) 緩和ケアに関する研修等を修了した医師数について記入のあった施設を集計対象とした。

## 5) 在宅褥瘡管理者の有無と人数

在宅褥瘡管理者の有無についてみると、「あり」の割合は機能強化型在支診では17.1%、在支診では7.0%、在支診以外の診療所では4.0%、機能強化型在支病では15.5%、在支病では8.0%であった。「あり」の割合は、機能強化型在支診で最も高く、次いで機能強化型在支病という順であった。

図表 29 在宅褥瘡管理者の有無



在宅褥瘡管理者がいる施設における、在宅褥瘡管理者数をみると、機能強化型在支診（単独型）では平均1.0人、機能強化型在支診（連携型）では平均2.1人、在支診では平均1.4人、在支診以外の診療所では平均1.4人であった。また、機能強化型在支病（単独型）では平均1.8人、機能強化型在支病（連携型）では平均1.3人、在支病では平均1.2人であった。

図表 30 在宅褥瘡管理者数（在宅褥瘡管理者がいる施設）

（単位：人）

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	2	1.0	-	1.0
機能強化型在支診(連携型)	11	2.1	1.2	2.0
在支診	21	1.4	0.8	1.0
在支診以外の診療所	9	1.4	0.9	1.0
機能強化型在支病(単独型)	5	1.8	0.8	2.0
機能強化型在支病(連携型)	4	1.3	0.5	1.0
在支病	5	1.2	0.4	1.0

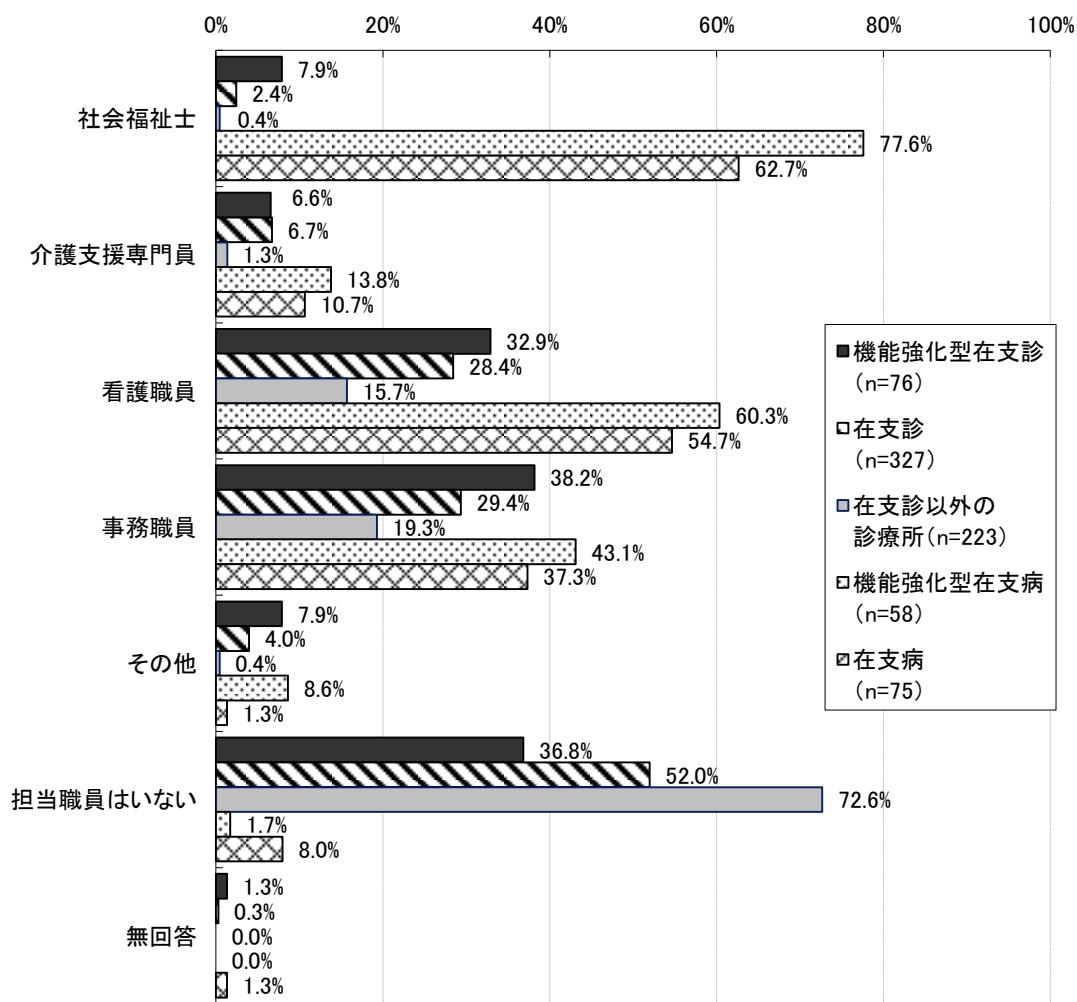
(注) 在宅褥瘡管理者数について記入のあった施設を集計対象とした。

## 6) 他医療機関との連携窓口を担当する職員として配置している職種とその人数

診療所における、他医療機関との連携窓口を担当する職員として配置している職種についてみると、「事務職員」の割合が機能強化型在支診では38.2%、在支診では29.4%、在支診以外の診療所では19.3%で最も多かった。ただし、在支診、在支診以外の診療所では「担当職員はいない」の割合が最も多かった。

病院についてみると、機能強化型在支病では「社会福祉士」が77.6%、「看護職員」が60.3%と高かった。在支病でも「社会福祉士」が62.7%、「看護職員」が54.7%であった。

図表 31 他医療機関との連携窓口を担当する職員として配置している職種（複数回答）



各職種がいる施設について、他医療機関との連携窓口を担当する職員として配置している人数をみると、機能強化型在支診では看護職員が平均 1.9 人、事務職員が平均 1.7 人で、在支診では事務職員が平均 1.6 人、看護職員が平均 1.4 人、在支診以外の診療所では介護支援専門員が平均 2.3 人、社会福祉士が平均 2.0 人であった。また、機能強化型在支病では社会福祉士が平均 2.3 人であった。

**図表 32 他医療機関との連携窓口を担当する職員数【機能強化型在支診】  
(各職種がいる施設)**

(単位：人)

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
社会福祉士	5	1.2	0.4	1.0
介護支援専門員	5	1.4	0.9	1.0
看護職員	25	1.9	1.3	1.0
事務職員	28	1.7	1.2	1.0
その他	5	1.0	-	1.0

(注) 他医療機関との連携窓口を担当する職員数について記入のあった施設を集計対象とした。

**図表 33 他医療機関との連携窓口を担当する職員数【在支診】  
(各職種がいる施設)**

(単位：人)

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
社会福祉士	8	1.1	0.4	1.0
介護支援専門員	22	1.2	0.5	1.0
看護職員	91	1.4	0.9	1.0
事務職員	94	1.6	0.8	1.0
その他	12	1.3	0.5	1.0

(注) 他医療機関との連携窓口を担当する職員数について記入のあった施設を集計対象とした。

**図表 34 他医療機関との連携窓口を担当する職員数【在支診以外の診療所】  
(各職種がいる施設)**

(単位：人)

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
社会福祉士	1	2.0	-	2.0
介護支援専門員	3	2.3	2.3	1.0
看護職員	34	1.7	1.1	1.0
事務職員	43	1.8	0.9	2.0
その他	1	4.0	-	4.0

(注) 他医療機関との連携窓口を担当する職員数について記入のあった施設を集計対象とした。

図表 35 他医療機関との連携窓口を担当する職員数【機能強化型在支病】  
(各職種がいる施設)

(単位：人)

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
社会福祉士	45	2.3	1.2	2.0
介護支援専門員	8	1.4	0.7	1.0
看護職員	35	1.3	0.5	1.0
事務職員	25	1.4	0.6	1.0
その他	5	1.4	0.5	1.0

(注) 他医療機関との連携窓口を担当する職員数について記入のあった施設を集計対象とした。

図表 36 他医療機関との連携窓口を担当する職員数【在支病】  
(各職種がいる施設)

(単位：人)

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
社会福祉士	46	2.3	1.3	2.0
介護支援専門員	8	1.9	1.5	1.0
看護職員	41	1.3	0.6	1.0
事務職員	28	1.2	0.4	1.0
その他	1	1.0	-	1.0

(注) 他医療機関との連携窓口を担当する職員数について記入のあった施設を集計対象とした。

### ③患者数の推移

機能強化型在支診では、1か月の往診及び訪問診療を行った患者数は平均 140 人程度で全患者に占める往診及び訪問診療の患者数の割合はおよそ 8.0% 前後であった。同様にみると、在支診では、1か月の往診及び訪問診療を行った患者数は平均 46 人程度で全患者に占める往診及び訪問診療の患者数の割合はおよそ 4.5% 前後であった。さらに、在支診以外の診療所では、1か月の往診及び訪問診療を行った患者数は平均 17 人程度で全患者に占める往診及び訪問診療の患者数の割合はおよそ 1.8% 前後であった。

図表 37 外来患者数及び訪問診療患者数の推移【機能強化型在支診】(n=70)

(単位：人)

	平成 28 年 7 月			平成 28 年 8 月			平成 28 年 9 月		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
①初診患者数	125.0	313.3	60.5	125.2	322.2	45.5	119.5	289.1	52.5
②再診延べ患者数	1,512.9	5,997.5	635.5	1,535.2	6,132.7	628.5	1,500.6	6,018.9	635.5
③往診及び訪問診療を行った延べ患者数	140.3	159.7	89.5	142.9	164.4	95.5	141.0	165.3	86.5
④合計患者数	1,778.2			1,803.3			1,761.2		
⑤往診・訪問診療患者割合(③/④)	7.9%			7.9%			8.0%		

(注) 初診患者数、再診延べ患者数、往診及び訪問診療を行った延べ患者数について、平成 28 年 7 月～9 月の 3 か月分すべて記入のあった施設を集計対象とした。

図表 38 外来患者数及び訪問診療患者数の推移【在支診】(n=298)

(単位：人)

	平成 28 年 7 月			平成 28 年 8 月			平成 28 年 9 月		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
①初診患者数	107.6	133.6	73.0	99.5	120.7	69.5	102.4	126.1	69.0
②再診延べ患者数	879.0	729.5	731.5	858.8	699.1	713.0	859.1	715.0	717.0
③往診及び訪問診療を行った延べ患者数	45.6	88.9	15.0	46.6	93.3	15.0	45.8	89.0	15.0
④合計患者数	1,032.2			1,004.8			1,007.2		
⑤往診・訪問診療患者割合(③／④)	4.4%			4.6%			4.5%		

(注) 初診患者数、再診延べ患者数、往診及び訪問診療を行った延べ患者数について、平成 28 年 7 月～9 月の 3 か月分すべて記入のあった施設を集計対象とした。

図表 39 外来患者数及び訪問診療患者数の推移【在支診以外の診療所】(n=178)

(単位：人)

	平成 28 年 7 月			平成 28 年 8 月			平成 28 年 9 月		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
①初診患者数	115.1	145.7	66.0	105.3	129.3	58.5	109.2	127.0	60.5
②再診延べ患者数	845.2	639.3	674.0	825.9	622.1	669.5	844.6	631.0	693.5
③往診及び訪問診療を行った延べ患者数	17.4	30.7	5.0	17.6	31.0	5.0	17.7	31.3	5.0
④合計患者数	977.7			948.8			971.5		
⑤往診・訪問診療患者割合(③／④)	1.8%			1.9%			1.8%		

(注) 初診患者数、再診延べ患者数、往診及び訪問診療を行った延べ患者数について、平成 28 年 7 月～9 月の 3 か月分すべて記入のあった施設を集計対象とした。

機能強化型在支病では、1 か月の往診及び訪問診療を行った患者数は平均 250 人前後で全患者に占める往診及び訪問診療の患者数の割合はおよそ 6.0%台であった。同様にみると、在支病では、1 か月の往診及び訪問診療を行った患者数は平均 46 人程度で全患者に占める往診及び訪問診療の患者数の割合はおよそ 2.0%であった。

図表 40 外来患者数及び訪問診療患者数の推移【機能強化型在支病】(n=57)

(単位：人)

	平成 28 年 7 月			平成 28 年 8 月			平成 28 年 9 月		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
①初診患者数	482.2	425.2	362.0	474.5	417.8	383.0	436.4	375.0	364.0
②再診延べ患者数	3,183.0	1,803.4	2,968.0	3,234.9	1,860.4	3,031.0	3,133.5	1,825.8	2,984.0
③往診及び訪問診療を行つた延べ患者数	245.8	405.2	109.0	253.7	435.9	118.0	251.6	418.5	121.0
④合計患者数	3,911.1			3,963.2			3,821.6		
⑤往診・訪問診療患者割合(③／④)	6.3%			6.4%			6.6%		

(注) 初診患者数、再診延べ患者数、往診及び訪問診療を行つた延べ患者数について、平成 28 年 7 月～9 月の 3 か月分すべて記入のあった施設を集計対象とした。

図表 41 外来患者数及び訪問診療患者数の推移【在支病】(n=68)

(単位：人)

	平成 28 年 7 月			平成 28 年 8 月			平成 28 年 9 月		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
①初診患者数	247.4	270.2	163.0	255.4	280.0	156.0	235.8	255.3	127.5
②再診延べ患者数	2,203.7	2,126.5	1,704.5	2,259.0	2,151.8	1,730.0	2,173.6	2,057.9	1,683.0
③往診及び訪問診療を行つた延べ患者数	46.8	68.0	20.0	46.5	62.4	20.5	46.8	66.2	20.0
④合計患者数	2,497.9			2,560.9			2,456.2		
⑤往診・訪問診療患者割合 (③／④)	1.9%			1.8%			1.9%		

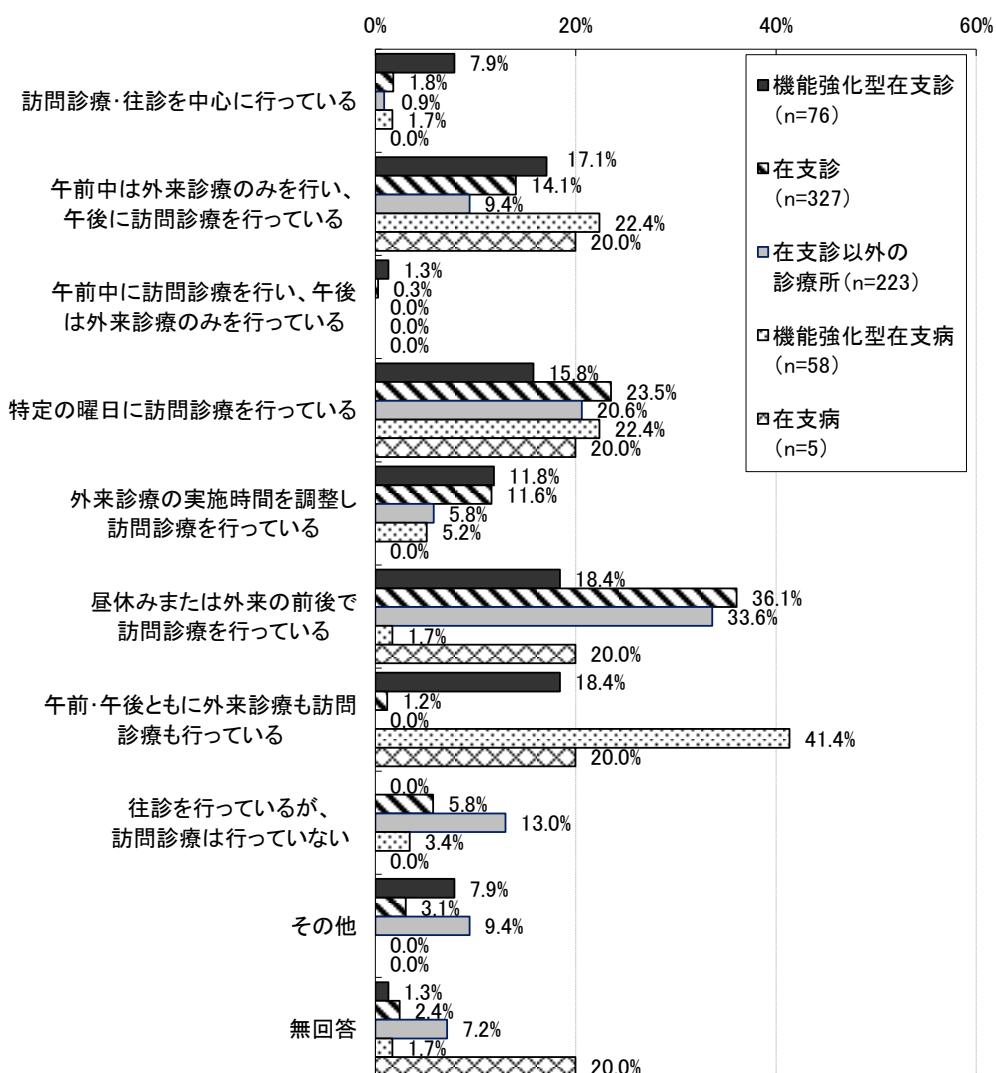
(注) 初診患者数、再診延べ患者数、往診及び訪問診療を行つた延べ患者数について、平成 28 年 7 月～9 月の 3 か月分すべて記入のあつた施設を集計対象とした。

#### ④訪問診療を行う時間等

訪問診療を行う時間等をみると、機能強化型在支診では「昼休みまたは外来の前後で訪問診療を行っている」と「午前・午後ともに外来診療も訪問診療も行っている」がともに 18.4%で最も多かった。在支診、在支診以外の診療所では「昼休みまたは外来の前後で訪問診療を行っている」がそれぞれ 36.1%、33.6%で最も多く、次いで「特定の曜日に訪問診療を行っている」が 23.5%、20.6%であった。機能強化型在支病では「午前・午後ともに外来診療も訪問診療も行っている」が 41.4%で最も多かった。在支病では「特定の曜日に訪問診療を行っている」が 40.0%で最も多く、次いで「午前中は外来診療のみを行い、午後に訪問診療を行っている」が 14.7%であった。

「訪問診療・往診を中心に行っている」は機能強化型在支診では 7.9%であった。

図表 42 訪問診療を行う時間等（単数回答）

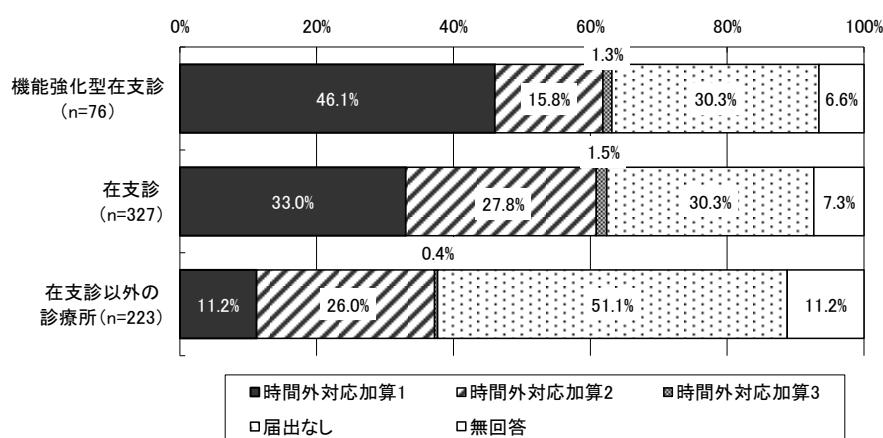


(注)「その他」の内容として、「曜日は患者（家庭）に合わせて決定し、時間も早朝か夕方に決定する」、「随時」等が挙げられた。

## ⑤時間外対応加算の届出状況（診療所）

診療所について、時間外対応加算の届出状況をみると、機能強化型在支診では「時間外対応加算1」が46.1%で、在支診（33.0%）、在支診以外の診療所（11.2%）よりも高かった。在支診では「時間外対応加算2」が27.8%で、「時間外対応加算1」と合わせた割合は6割近くとなり、機能強化型在支診と同程度となった。「届出なし」の割合は、在支診以外の診療所では51.1%と5割近くとなった。

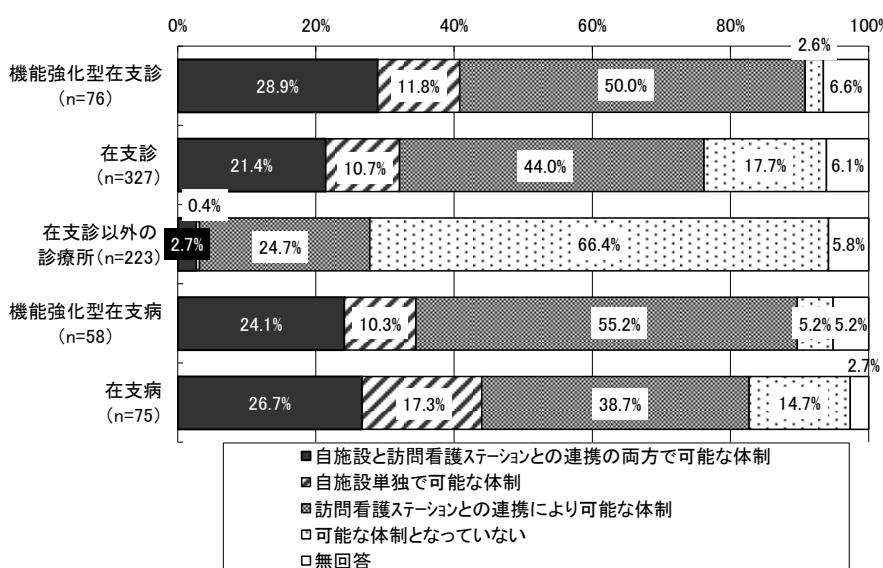
図表 43 時間外対応加算の届出状況【診療所】



## ⑥24時間訪問看護の提供体制

機能強化型在支診、在支診、機能強化型在支病、在支病では、「訪問看護ステーションとの連携により可能な体制」が最も多かったが、「自施設と訪問看護ステーションとの連携の両方で可能な体制」の割合も高かった。在支診以外の診療所では「可能な体制となっていない」の割合が高かった。

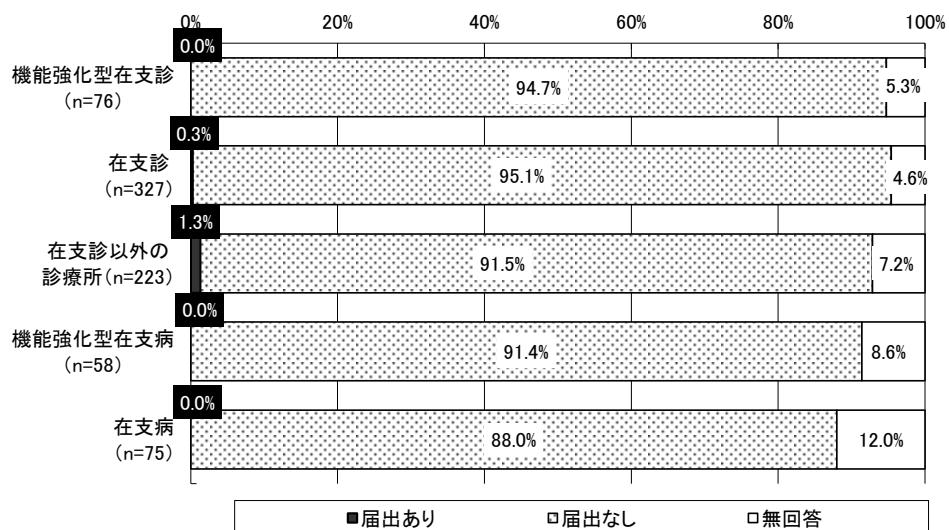
図表 44 24時間訪問看護の提供体制



## ⑦精神科重症患者早期集中支援管理料の届出の有無

精神科重症患者早期集中支援管理料の届出の有無は、以下のとおりである。

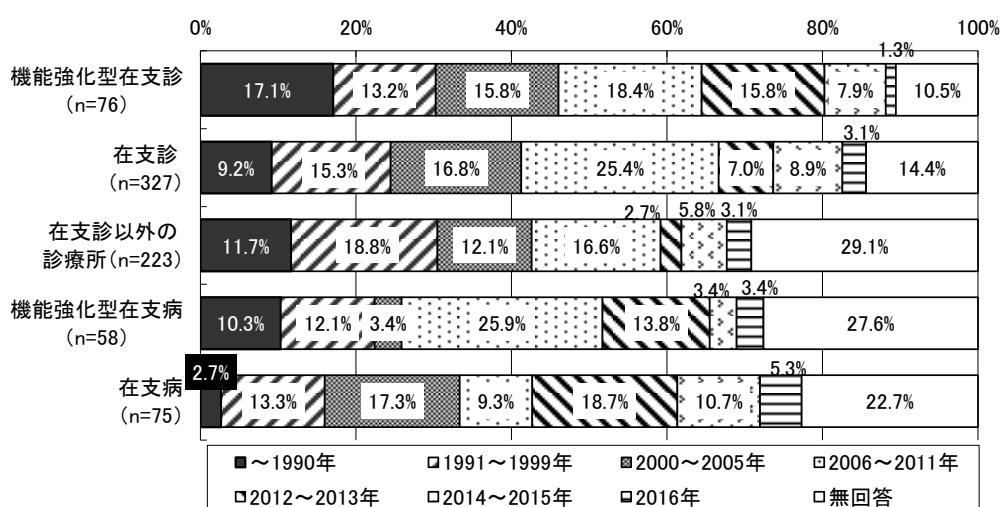
図表 45 精神科重症患者早期集中支援管理料の届出の有無



## ⑧訪問診療を開始した時期

訪問診療を開始した時期をみると、機能強化型在支診については「～1990年」が17.1%と早い時期から実施している施設の割合が他と比較すると相対的に高かった。また、機能強化型在支診、在支診、機能強化型在支病では「2006～2011年」が最も多いかった。なお、機能強化型在支診、在支診以外の施設については無回答が多かったことに留意する必要がある。

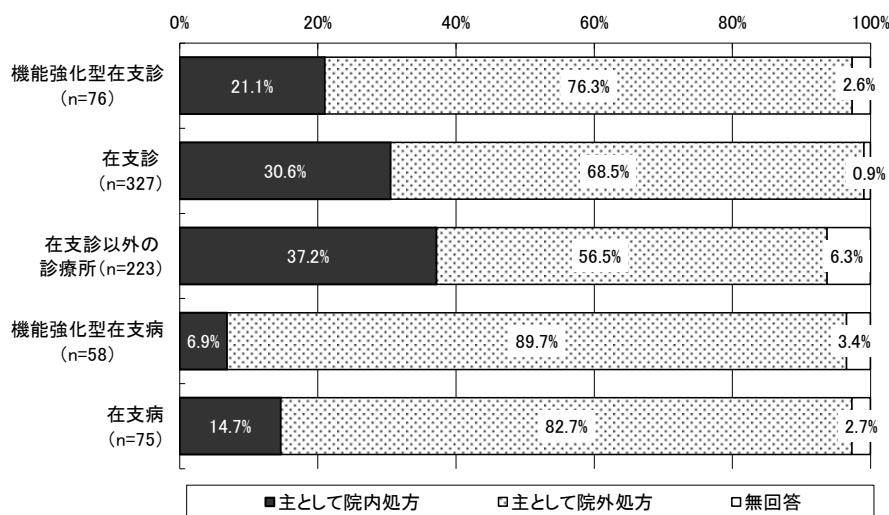
図表 46 訪問診療を開始した時期



## ⑨外来における院内・院外処方の状況

外来における院内・院外処方の状況をみると、機能強化型在支診では、在支診、在支診以外の診療所と比較すると、「主として院外処方」の割合が高く、76.3%であった。また、機能強化型在支病では「主として院外処方」が89.7%で在支病と比較して7.0ポイント高かった。

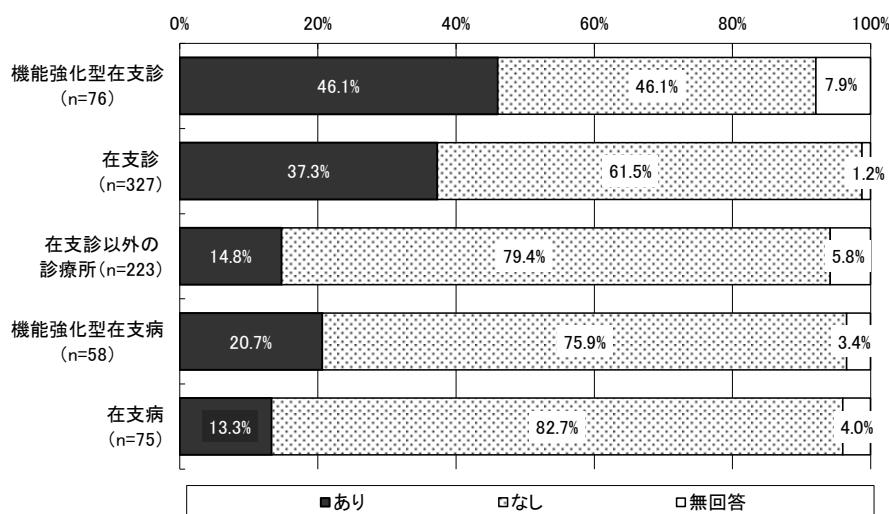
図表 47 外来における院内・院外処方の状況



## ⑩連携している24時間対応の薬局の有無

連携している24時間対応の薬局の有無をみると、「あり」の割合は、診療所では、機能強化型在支診が46.1%、在支診が37.3%、在支診以外の診療所が14.8%と、機能強化型在支診で特に高かった。また、病院では、「あり」の割合は、機能強化型在支病が20.7%、在支病では13.3%であった。

図表 48 連携している24時間対応の薬局の有無



### (3) 在支診・在支病の状況等

#### ①機能強化型在支診・在支病

##### 1) 在支診・在支病の届出時期

機能強化型在支診に対して在支診の届出時期を尋ねたところ、機能強化型在支診（単独型）では「平成 18～19 年度」が、機能強化型在支診（連携型）では「平成 24～25 年度」が最も多かった。また、機能強化型在支病に対して在支病の届出時期を尋ねたところ、機能強化型在支病（単独型）では「平成 22～23 年度」が、機能強化型在支病（連携型）では「平成 26～27 年度」が最も多かった。

図表 49 在支診・在支病の届出時期

(単位：上段「人」、下段「%」)

	総数	平成 18 ～ 19 年度	平成 20 ～ 21 年度	平成 22 ～ 23 年度	平成 24 ～ 25 年度	平成 26 ～ 27 年度	平成 28 年度 以降～	無回答
機能強化型在支診 (単独型)	10 100.0	5 50.0	0 0.0	0 0.0	1 10.0	2 20.0	1 10.0	1 10.0
機能強化型在支診 (連携型)	66 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	32 48.5	14 21.2	8 12.1	12 18.2
機能強化型在支病 (単独型)	19 100.0	0 0.0	0 0.0	9 47.4	3 15.8	6 31.6	0 0.0	1 5.3
機能強化型在支病 (連携型)	39 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	10 25.6	11 28.2	6 15.4	12 30.8

##### 2) 機能強化型在支診・在支病の届出時期

機能強化型在支診に対して機能強化型在支診の届出時期を尋ねたところ、機能強化型在支診（単独型）、機能強化型在支診（連携型）ともに「平成 24 年度」が最も多かった。また、機能強化型在支病に対して機能強化型在支病の届出時期を尋ねたところ、機能強化型在支病（単独型）では「平成 24 年度」が、機能強化型在支病（連携型）では「平成 26 年度」が最も多かった。

図表 50 機能強化型在支診・在支病の届出時期

(単位：上段「人」、下段「%」)

	総数	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	無回答
機能強化型在支診 (単独型)	10 100.0	5 50.0	0 0.0	2 20.0	0 0.0	2 20.0	1 10.0
機能強化型在支診 (連携型)	66 100.0	25 37.9	7 10.6	10 15.2	4 6.1	8 12.1	12 18.2
機能強化型在支病 (単独型)	19 100.0	7 36.8	2 10.5	5 26.3	2 10.5	1 5.3	2 10.5
機能強化型在支病 (連携型)	39 100.0	7 17.9	3 7.7	9 23.1	2 5.1	6 15.4	12 30.8

### 3) 在宅支援連携体制（機能強化型（連携型））

機能強化型在支診（連携型）における、届出をしている連携医療機関数についてみると、「連携診療所数（病床あり）」は平均 0.3 施設（中央値 0.0）、「連携診療所数（病床なし）」は平均 3.0 施設（中央値 3.0）、「連携病院数」は平均 0.6 施設（中央値 0.0）で、その合計は平均 3.8 施設（中央値 3.0）であった。

機能強化型在支病（連携型）における、届出をしている連携医療機関数についてみると、「連携診療所数（病床あり）」は平均 0.3 施設（中央値 0.0）、「連携診療所数（病床なし）」は平均 2.8 施設（中央値 2.0）、「連携病院数」は平均 0.8 施設（中央値 0.0）で、その合計は平均 3.8 施設（中央値 3.0）であった。

図表 51 届出をしている連携医療機関数【機能強化型在支診（連携型）】(n=63)

(単位：施設)

	平均値	標準偏差	中央値
連携診療所数(病床あり)	0.3	0.6	0.0
連携診療所数(病床なし)	3.0	2.1	3.0
連携病院数	0.6	0.9	0.0
合計	3.8	2.4	3.0

(注) 届出をしている連携医療機関数について記入のあった施設を集計対象とした。

図表 52 届出をしている連携医療機関数【機能強化型在支病（連携型）】(n=38)

(単位：施設)

	平均値	標準偏差	中央値
連携診療所数(病床あり)	0.3	0.6	0.0
連携診療所数(病床なし)	2.8	1.8	2.0
連携病院数	0.8	1.4	0.0
合計	3.8	2.2	3.0

(注) 届出をしている連携医療機関数について記入のあった施設を集計対象とした。

在宅医療を担当する常勤の医師数（自施設+連携施設）は、機能強化型在支診（連携型）では平均 5.6 人（中央値 4.5）、機能強化型在支病（連携型）では平均 7.4 人（中央値 7.0）であった。

図表 53 在宅医療を担当する常勤の医師数（自施設+連携施設）

(単位：人)

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(連携型)	62	5.6	3.2	4.5
機能強化型在支病(連携型)	36	7.4	3.5	7.0

(注) 在宅医療を担当する常勤の医師数について記入のあった施設を集計対象とした。

## ②在支診・在支病

### 1) 在支診・在支病の届出時期

在支診の届出時期は「平成 18~19 年度」が 39.4%で、在支病は「平成 26~27 年度」が 24.0%で最も多かった。また、「平成 28 年度以降」が在支診では 7.6%、在支病では 18.7%であった。

図表 54 在支診・在支病の届出時期

(単位：上段「人」、下段「%」)

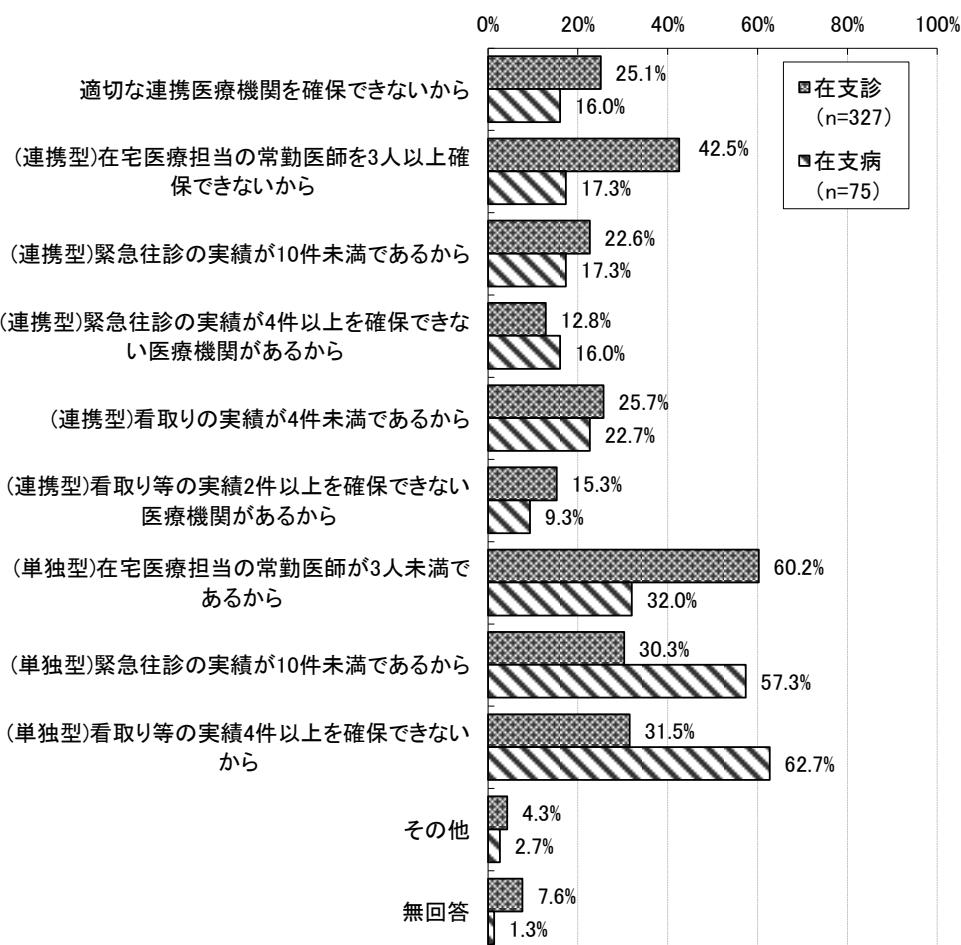
	総数	平成 18 ~ 19 年度	平成 20 ~ 21 年度	平成 22 ~ 23 年度	平成 24 ~ 25 年度	平成 26 ~ 27 年度	平成 28 年度以降	無回答
在支診	327 100.0	129 39.4	29 8.9	20 6.1	33 10.1	36 11.0	25 7.6	55 16.8
在支病	75 100.0	0 0.0	0 0.0	17 22.7	14 18.7	18 24.0	14 18.7	12 16.0

## 2) 機能強化型在支診・在支病の届出をしていない理由

在支診が機能強化型在支診の届出をしていない理由としては、「(単独型) 在宅医療担当の常勤医師が3人未満であるから」が60.2%で最も多く、次いで「(連携型) 在宅医療担当の常勤医師を3人以上確保できないから」が42.5%となっており、在宅医療を担当する常勤医師の確保が理由として多く挙げられた。

また、在支病が機能強化型在支病の届出をしていない理由としては、「(単独型) 看取り等の実績4件以上を確保できないから」が62.7%で最も多く、次いで「(単独型) 緊急往診の実績が10件未満であるから」が57.3%であった。

**図表 55 機能強化型在支診・在支病の届出をしていない理由  
(在支診・在支病、複数回答)**

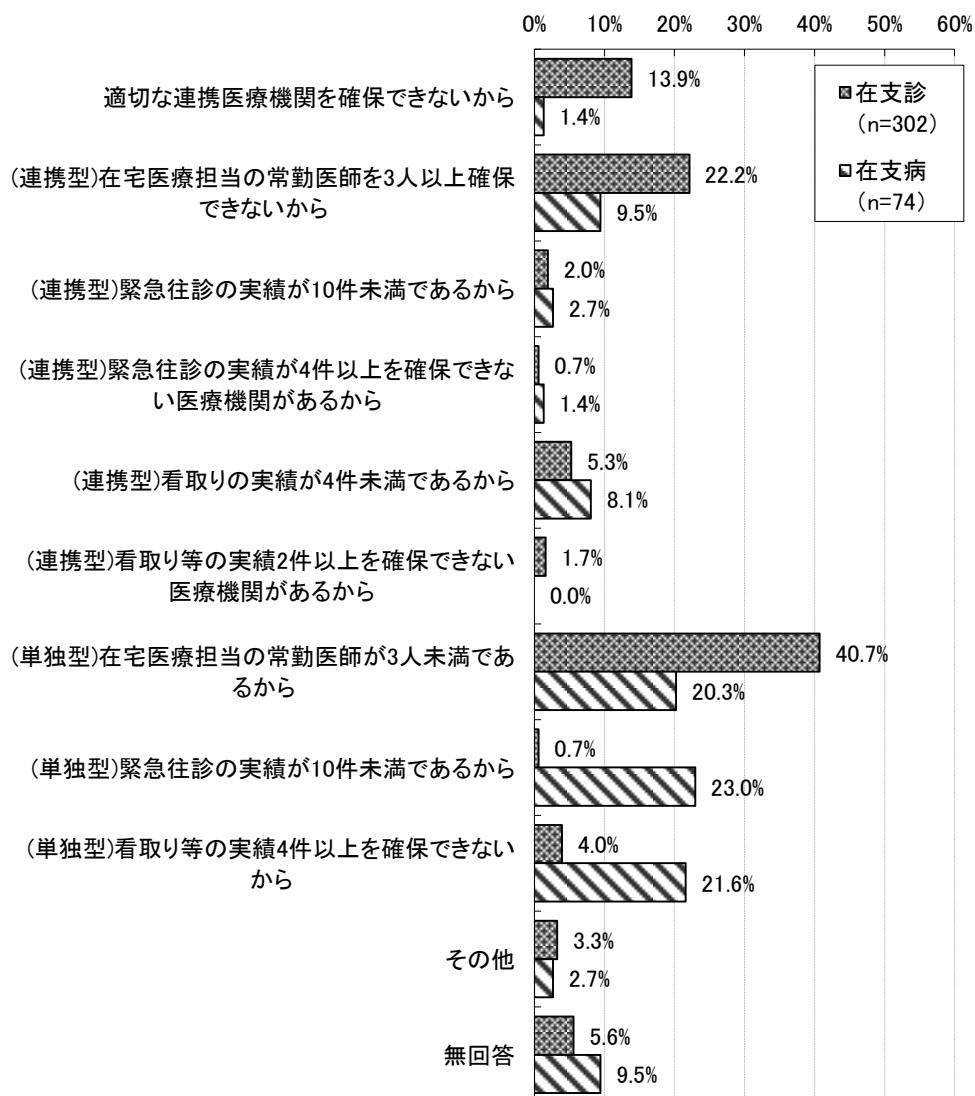


(注)「その他」の内容として、「連携先との共通の携帯電話／月1回のカンファレンスの時間が実現不可能なため」、「精神負担が大きくなるから」、「料金が高くなると患者が嫌がる」、「いろいろな制約が多いから」、「医師が高齢のため」、「新規開設病院のため」、「診療方針、スタイルの違いにより連携が難しい」等が挙げられた。

在支診が機能強化型在支診の届出をしていない最大の理由については、「(単独型) 在宅医療担当の常勤医師が 3 人未満であるから」が 40.7%で最も多く、次いで「(連携型) 在宅医療担当の常勤医師を 3 人以上確保できないから」が 22.2%と在宅医療を担当する常勤医師の確保が理由として多く挙げられた。

また、在支病が機能強化型在支病の届出をしていない最大の理由については、「(単独型) 緊急往診の実績が 10 件未満であるから」が 23.0%で最も多く、次いで「(単独型) 看取り等の実績 4 件以上を確保できないから」が 21.6%、「(単独型) 在宅医療担当の常勤医師が 3 人未満であるから」が 20.3%であった。

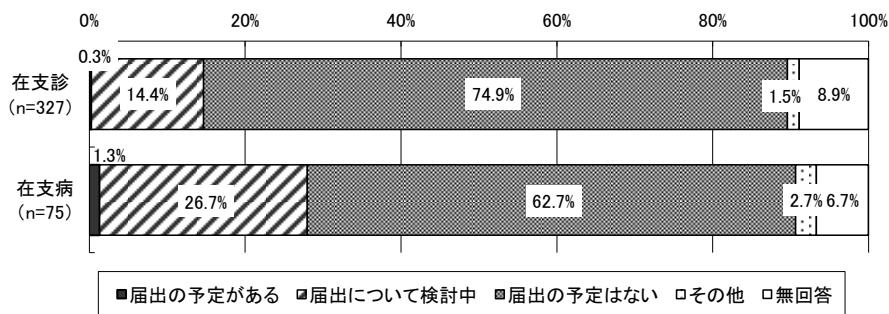
図表 56 機能強化型在支診・在支病の届出をしていない最大の理由  
(在支診・在支病、単数回答)



### 3) 機能強化型在支診・在支病の届出意向

在支診・在支病における機能強化型在支診・在支病の届出意向をみると、「届出について検討中」が在支診では14.4%、在支病では26.7%であった。

図表 57 機能強化型在支診・在支病の届出意向（在支診・在支病）



(注) 「その他」の内容として、「連携するのに適切な医療機関がみつかったら、その時点で考える」、「在宅療養支援病院がみつかれば届出をしたい」、「条件が揃えば届出を検討したい」、「常勤の医師を確保できれば届出をする予定」等が挙げられた。

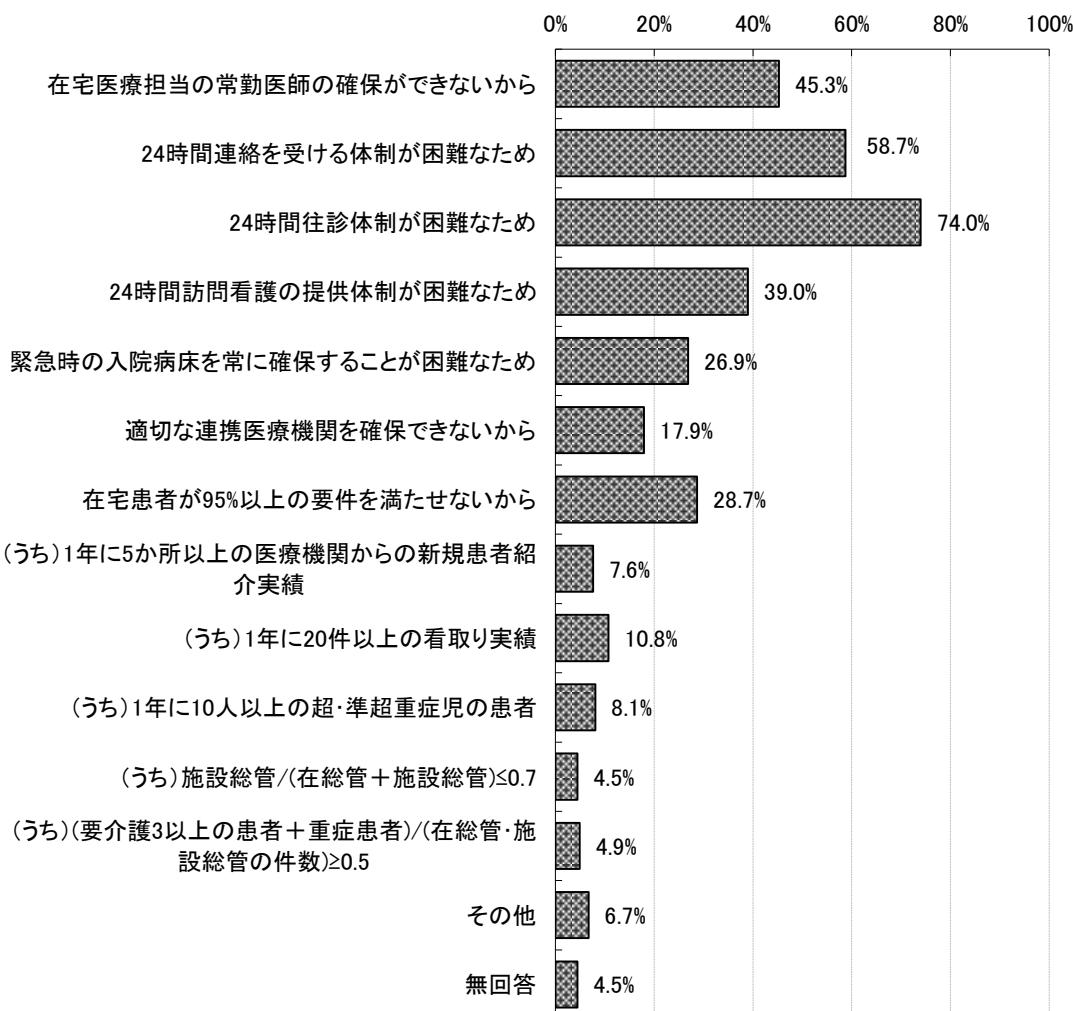
### ③在支診の届出をしていない診療所

#### 1) 在支診の届出をしていない理由

在支診の届出をしていない診療所（在支診以外の診療所）に対して、在支診の届出をしていない理由を尋ねたところ、「24時間往診体制が困難なため」が74.0%で最も多く、次いで「24時間連絡を受ける体制が困難なため」（58.7%）、「在宅医療担当の常勤医師の確保ができないから」（45.3%）、「24時間訪問看護の提供体制が困難なため」（39.0%）であった。

また、「在宅患者が95%以上の要件を満たせないから」という回答は28.7%であったが、このうち、「1年に20件以上の看取り実績」が10.8%で最も多く、次いで「1年に10人以上の超・準超重症児の患者」が8.1%、「1年に5か所以上の医療機関からの新規患者紹介実績」が7.6%であった。

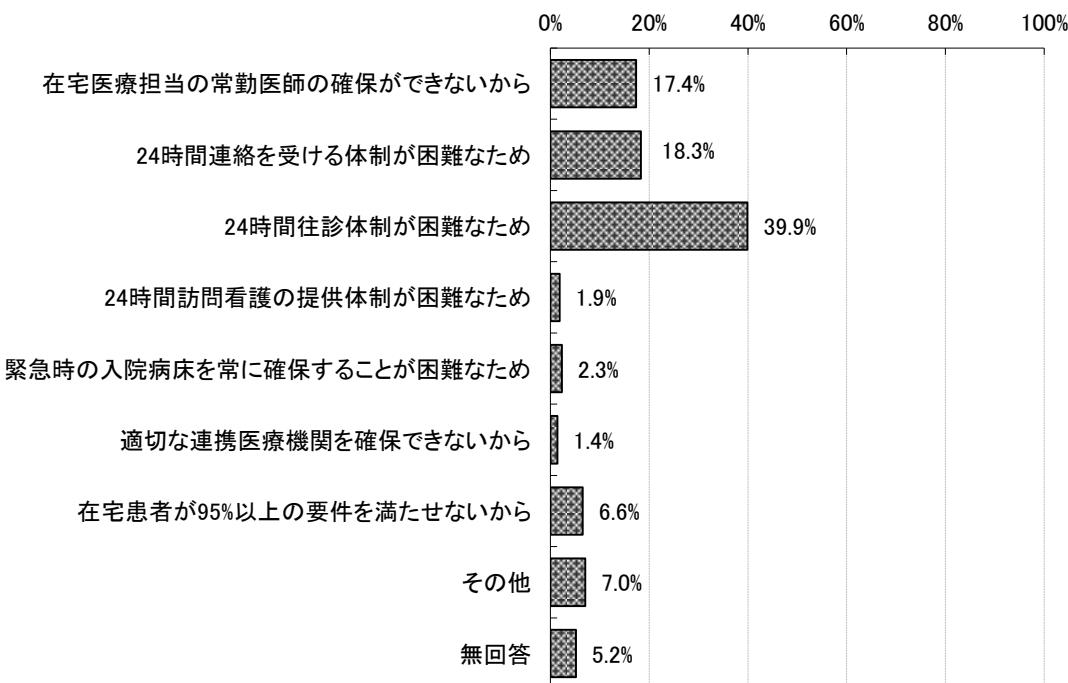
**図表 58 在支診の届出をしていない理由  
(在支診の届出をしていない診療所、複数回答、n=223)**



(注)「その他」の内容として、「在支診になると当局での管理チェックが厳しく面倒だから」、「申請を行ったが、役所に却下された」等が挙げられた。

在支診の届出をしていない診療所に対して、在支診の届出をしていない最大の理由を尋ねたところ、「24時間往診体制が困難なため」が39.9%で最も多く、次いで「24時間連絡を受ける体制が困難なため」(18.3%)、「在宅医療担当の常勤医師の確保ができないから」(17.4%)であった。また、「在宅患者が95%以上の要件を満たせないから」という回答は6.6%であった。

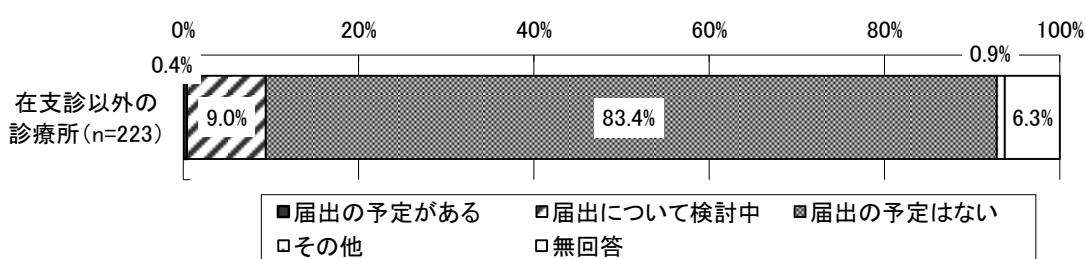
**図表 59 在支診の届出をしていない最大の理由**  
(在支診の届出をしていない診療所、単数回答、n=213)



## 2) 在支診の届出を行う意向

在支診の届出をしていない診療所に対して、在支診の届出を行う意向を尋ねたところ、「届出の予定がある」が0.4%、「届出について検討中」が9.0%、「届出の予定はない」が83.4%であった。

**図表 60 在支診の届出を行う意向（在支診の届出をしていない診療所）**



(注)「その他」の内容として、「届出をしていたが要件が厳しくなり取り消した」が挙げられた。

#### (4) 在宅医療を提供した患者の状況等

##### ①在宅医療を提供した患者数

平成 28 年 9 月 1 か月間に主治医として訪問診療を実施した患者数（実人数）は、機能強化型在支診（単独型）では平均 137.4 人（中央値 31.5）、機能強化型在支診（連携型）では平均 80.5 人（中央値 49.0）、在支診では平均 22.5 人（中央値 8.0）、在支診以外の診療所では平均 9.4 人（中央値 3.0）、機能強化型在支病（単独型）では平均 120.8 人（中央値 84.0）、機能強化型在支病（連携型）では平均 89.6 人（中央値 54.0）、在支病では平均 22.1 人（中央値 12.0）であった。

図表 61 在宅医療を提供した患者数（実人数）

（単位：人）

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	10	137.4	172.6	31.5
機能強化型在支診(連携型)	65	80.5	95.2	49.0
在支診	314	22.5	36.2	8.0
在支診以外の診療所	188	9.4	17.4	3.0
機能強化型在支病(単独型)	19	120.8	113.9	84.0
機能強化型在支病(連携型)	37	89.6	151.4	54.0
在支病	75	22.1	25.6	12.0

（注）・平成 28 年 9 月 1 か月間に、主治医として訪問診療を実施した患者数（実人数）。

・在宅医療を提供した患者数について記入のあった施設を集計対象とした。

## ②年齢別患者数

年齢別患者数は、いずれの診療所・病院においても「75歳以上」が最も多く、機能強化型在支診（単独型）では平均119.4人（中央値30.5）、機能強化型在支診（連携型）では平均66.7人（中央値42.0）、在支診では平均19.9人（中央値7.0）、在支診以外の診療所では平均8.1人（中央値3.0）、機能強化型在支病（単独型）では平均105.9人（中央値69.0）、機能強化型在支病（連携型）では平均58.0人（中央値42.5）、在支病では平均19.4人（中央値11.0）であった。

**図表 62 年齢別患者数【機能強化型在支診（単独型）】(n=10)**

(単位：人)

	平均値	標準偏差	中央値
15歳未満	0.1	0.3	0.0
15歳以上 40歳未満	0.5	0.7	0.0
40歳以上 65歳未満	5.1	7.4	0.5
65歳以上 75歳未満	12.3	15.2	3.0
75歳以上	119.4	151.9	30.5

(注) 年齢別患者数について記入のあった施設を集計対象とした。

**図表 63 年齢別患者数【機能強化型在支診（連携型）】(n=63)**

(単位：人)

	平均値	標準偏差	中央値
15歳未満	0.1	0.9	0.0
15歳以上 40歳未満	0.7	2.2	0.0
40歳以上 65歳未満	3.7	9.8	1.0
65歳以上 75歳未満	9.0	16.2	4.0
75歳以上	66.7	75.0	42.0

(注) 年齢別患者数について記入のあった施設を集計対象とした。

**図表 64 年齢別患者数【在支診】(n=312)**

(単位：人)

	平均値	標準偏差	中央値
15歳未満	0.0	0.2	0.0
15歳以上 40歳未満	0.1	0.4	0.0
40歳以上 65歳未満	0.7	1.9	0.0
65歳以上 75歳未満	1.9	4.3	0.0
75歳以上	19.9	32.3	7.0

(注) 年齢別患者数について記入のあった施設を集計対象とした。

図表 65 年齢別患者数【在支診以外の診療所】(n=187)

(単位：人)

	平均値	標準偏差	中央値
15歳未満	0.0	0.1	0.0
15歳以上 40歳未満	0.0	0.2	0.0
40歳以上 65歳未満	0.3	1.3	0.0
65歳以上 75歳未満	0.9	3.0	0.0
75歳以上	8.1	14.6	3.0

(注) 年齢別患者数について記入のあった施設を集計対象とした。

図表 66 年齢別患者数【機能強化型在支病（単独型）】(n=19)

(単位：人)

	平均値	標準偏差	中央値
15歳未満	0.1	0.2	0.0
15歳以上 40歳未満	0.6	1.4	0.0
40歳以上 65歳未満	3.9	3.0	4.0
65歳以上 75歳未満	10.3	8.1	6.0
75歳以上	105.9	107.2	69.0

(注) 年齢別患者数について記入のあった施設を集計対象とした。

図表 67 年齢別患者数【機能強化型在支病（連携型）】(n=36)

(単位：人)

	平均値	標準偏差	中央値
15歳未満	0.3	1.5	0.0
15歳以上 40歳未満	0.5	1.4	0.0
40歳以上 65歳未満	1.7	2.7	1.0
65歳以上 75歳未満	7.2	9.7	4.0
75歳以上	58.0	61.8	42.5

(注) 年齢別患者数について記入のあった施設を集計対象とした。

図表 68 年齢別患者数【在支病】(n=75)

(単位：人)

	平均値	標準偏差	中央値
15歳未満	0.0	-	0.0
15歳以上 40歳未満	0.1	0.3	0.0
40歳以上 65歳未満	0.6	1.3	0.0
65歳以上 75歳未満	1.9	3.4	0.0
75歳以上	19.4	23.5	11.0

(注) 年齢別患者数について記入のあった施設を集計対象とした。

### ③超重症児・準超重症児の患者数

超重症児・準超重症児の患者数をみると、いずれの施設も実績がほとんどなかった。

図表 69 超重症児・準超重症児の患者数

(単位：人)

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	10	0.1	0.3	0.0
機能強化型在支診(連携型)	65	0.1	0.9	0.0
在支診	313	0.0	0.1	0.0
在支診以外の診療所	188	0.0	0.1	0.0
機能強化型在支病(単独型)	19	0.1	0.2	0.0
機能強化型在支病(連携型)	36	0.2	1.0	0.0
在支病	75	0.0	-	0.0

(注) 超重症児・準超重症児の患者数について記入のあった施設を集計対象とした。

### ④要介護度別の患者数

要介護度別の患者数をみると、機能強化型在支診（単独型）では「要介護 5」が平均 32.0 人（中央値 10.0）で最も多く、次いで「要介護 4」の平均 31.6 人（中央値 11.0）、「要介護 3」の平均 27.1 人（中央値 10.0）であった。

図表 70 要介護度別の患者数【機能強化型在支診（単独型）】(n=9)

(単位：人)

	平均値	標準偏差	中央値
対象外(40 歳未満など)	0.8	1.1	0.0
自立・未申請	4.8	6.3	3.0
要支援1・2	7.3	12.7	1.0
要介護1	20.3	27.0	5.0
要介護2	24.9	30.0	7.0
要介護3	27.1	33.6	10.0
要介護4	31.6	34.6	11.0
要介護5	32.0	38.6	10.0
申請中	2.4	3.5	0.0
不明・その他	1.1	2.4	0.0

(注) 要介護度別の患者数について記入のあった施設を集計対象とした。

機能強化型在支診（連携型）では「要介護 5」が平均 14.5 人（中央値 10.0）で最も多い、次いで「要介護 3」の平均 14.4 人（中央値 9.0）、「要介護 4」の平均 14.1 人（中央値 9.0）であった。

図表 71 要介護度別の患者数【機能強化型在支診（連携型）】(n=57)

(単位：人)

	平均値	標準偏差	中央値
対象外(40 歳未満など)	1.4	3.0	0.0
自立・未申請	2.4	8.9	0.0
要支援1・2	3.9	6.7	1.0
要介護1	10.4	16.5	5.0
要介護2	12.7	18.4	8.0
要介護3	14.4	18.8	9.0
要介護4	14.1	17.4	9.0
要介護5	14.5	14.9	10.0
申請中	0.6	1.8	0.0
不明・その他	1.1	3.2	0.0

(注) 要介護度別の患者数について記入のあった施設を集計対象とした。

在支診では「要介護 5」が平均 4.4 人（中央値 1.0）、「要介護 3」が平均 4.4 人（中央値 1.0）で最も多く、次いで「要介護 4」の平均 4.2 人（中央値 1.0）であった。

図表 72 要介護度別の患者数【在支診】(n=284)

(単位：人)

	平均値	標準偏差	中央値
対象外(40 歳未満など)	0.2	1.1	0.0
自立・未申請	0.6	1.9	0.0
要支援1・2	1.1	2.7	0.0
要介護1	3.1	6.1	1.0
要介護2	3.9	7.2	1.0
要介護3	4.4	8.0	1.0
要介護4	4.2	8.0	1.0
要介護5	4.4	8.3	1.0
申請中	0.1	0.6	0.0
不明・その他	0.5	1.7	0.0

(注) 要介護度別の患者数について記入のあった施設を集計対象とした。

在支診以外の診療所では「要介護 3」が平均 1.7 人（中央値 0.0）で最も多く、次いで「要介護 4」、「要介護 2」の平均 1.4 人（中央値 0.0）であった。

図表 73 要介護度別の患者数【在支診以外の診療所】(n=166)

(単位：人)

	平均値	標準偏差	中央値
対象外(40 歳未満など)	0.1	0.3	0.0
自立・未申請	0.3	1.2	0.0
要支援1・2	0.4	1.6	0.0
要介護1	0.9	2.3	0.0
要介護2	1.4	2.9	0.0
要介護3	1.7	3.4	0.0
要介護4	1.4	2.7	0.0
要介護5	1.2	2.7	0.0
申請中	0.0	0.2	0.0
不明・その他	0.4	1.4	0.0

(注) 要介護度別の患者数について記入のあった施設を集計対象とした。

機能強化型在支病（単独型）では「要介護 2」が平均 23.9 人（中央値 16.0）で最も多く、次いで「要介護 4」の平均 22.1 人（中央値 21.0）、「要介護 3」の平均 20.9 人（中央値 14.0）であった。

図表 74 要介護度別の患者数【機能強化型在支病（単独型）】(n=17)

(単位：人)

	平均値	標準偏差	中央値
対象外(40 歳未満など)	0.8	1.6	0.0
自立・未申請	2.6	5.3	0.0
要支援1・2	6.4	9.9	1.0
要介護1	19.4	29.2	12.0
要介護2	23.9	28.1	16.0
要介護3	20.9	21.4	14.0
要介護4	22.1	18.5	21.0
要介護5	20.3	15.9	17.0
申請中	0.5	1.1	0.0
不明・その他	12.6	25.9	2.0

(注) 要介護度別の患者数について記入のあった施設を集計対象とした。

機能強化型在支病（連携型）では「要介護 5」が平均 14.0 人（中央値 8.5）で最も多く、次いで「要介護 3」の平均 12.3 人（中央値 7.0）、「要介護 2」の平均 12.0 人（中央値 7.5）であった。

図表 75 要介護度別の患者数【機能強化型在支病（連携型）】(n=32)

(単位：人)

	平均値	標準偏差	中央値
対象外(40 歳未満など)	0.8	2.7	0.0
自立・未申請	0.8	2.1	0.0
要支援1・2	3.1	3.8	1.0
要介護1	9.0	11.0	6.0
要介護2	12.0	14.6	7.5
要介護3	12.3	15.2	7.0
要介護4	11.5	14.5	6.0
要介護5	14.0	15.7	8.5
申請中	0.7	1.7	0.0
不明・その他	1.6	3.1	0.0

(注) 要介護度別の患者数について記入のあった施設を集計対象とした。

在支病では「要介護 2」が平均 4.5 人（中央値 1.0）で最も多く、次いで「要介護 3」の平均 4.3 人（中央値 2.0）、「要介護 4」の平均 3.7 人（中央値 1.0）であった。

図表 76 要介護度別の患者数【在支病】(n=67)

(単位：人)

	平均値	標準偏差	中央値
対象外(40 歳未満など)	0.1	0.6	0.0
自立・未申請	0.3	1.0	0.0
要支援1・2	0.8	2.0	0.0
要介護1	3.3	5.2	1.0
要介護2	4.5	6.2	1.0
要介護3	4.3	5.8	2.0
要介護4	3.7	5.2	1.0
要介護5	3.1	4.9	1.0
申請中	0.1	0.4	0.0
不明・その他	1.3	4.2	0.0

(注) 要介護度別の患者数について記入のあった施設を集計対象とした。

## ⑤身体障害者手帳等を保有する患者数

身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳を保有する患者数をみると、機能強化型在支診（単独型）では平均 15.0 人（中央値 4.0）、機能強化型在支診（連携型）では平均 8.6 人（中央値 4.0）、在支診では平均 2.9 人（中央値 1.0）、在支診以外の診療所では平均 1.4 人（中央値 0.0）、機能強化型在支病（単独型）では平均 28.2 人（中央値 13.5）、機能強化型在支病（連携型）では平均 6.6 人（中央値 2.0）、在支病では平均 3.5 人（中央値 1.0）であった。

図表 77 身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳を保有する患者数

(単位：人)

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	9	15.0	23.4	4.0
機能強化型在支診(連携型)	55	8.6	10.8	4.0
在支診	253	2.9	5.9	1.0
在支診以外の診療所	146	1.4	2.9	0.0
機能強化型在支病(単独型)	14	28.2	32.6	13.5
機能強化型在支病(連携型)	29	6.6	9.8	2.0
在支病	60	3.5	6.3	1.0

(注) 身体障害者手帳を保有する患者数について記入のあった施設を集計対象とした。

## ⑥特定疾患医療受給者証を保有する患者数

特定疾患医療受給者証を保有する患者数をみると、機能強化型在支診（単独型）では平均 7.2 人（中央値 1.0）、機能強化型在支診（連携型）では平均 3.2 人（中央値 1.0）、在支診では平均 0.9 人（中央値 0.0）、在支診以外の診療所では平均 0.3 人（中央値 0.0）、機能強化型在支病（単独型）では平均 5.8 人（中央値 3.0）、機能強化型在支病（連携型）では平均 2.3 人（中央値 1.0）、在支病では平均 0.9 人（中央値 0.0）であった。

図表 78 特定疾患医療受給者証を保有する患者数

(単位：人)

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	9	7.2	8.6	1.0
機能強化型在支診(連携型)	55	3.2	5.1	1.0
在支診	241	0.9	2.0	0.0
在支診以外の診療所	133	0.3	0.9	0.0
機能強化型在支病(単独型)	17	5.8	7.0	3.0
機能強化型在支病(連携型)	30	2.3	3.4	1.0
在支病	61	0.9	1.7	0.0

(注) 特定疾患医療受給者証を保有する患者数について記入のあった施設を集計対象とした。

## ⑦在宅療養患者数

定例報告形式による平成28年4月から平成28年9月までの6か月間の在宅療養患者数についてみると、機能強化型在支診（単独型）では在宅療養を担当した患者数平均173.3人（中央値92.5）のうち、死亡した患者数は平均18.0人（中央値5.0）で、このうち、医療機関以外で死亡した患者数は平均13.7人（中央値4.5）、自宅での死亡患者数は平均9.6人（中央値4.0）であった。

図表 79 在宅療養患者数【機能強化型在支診（単独型）】(n=10)

(単位：人)

	平均値	標準偏差	中央値	割合
①在宅療養を担当した患者数	173.3	192.3	92.5	100.0%
②上記①のうち、死亡患者数	18.0	24.8	5.0	10.4%
③上記②のうち、医療機関以外で死亡した患者数	13.7	18.2	4.5	7.9%
④上記③のうち、自宅での死者数	9.6	14.4	4.0	5.5%
⑤上記③のうち、居住系施設・介護老人福祉施設での死者数	3.7	5.4	0.0	2.1%
⑥上記③のうち、自宅・居住系施設以外での死者数	0.4	0.7	0.0	0.2%
⑦上記③のうち、看取りを行った患者数	12.4	18.1	3.0	7.2%
⑧上記②のうち、医療機関で死亡した患者数	4.3	7.3	1.0	2.5%
⑨上記⑧のうち、連携医療機関で死亡した患者数	3.5	5.6	1.0	2.0%
⑩上記⑧のうち、連携医療機関以外で死亡した患者数	0.8	2.2	0.0	0.5%

(注)・在宅療養患者数について記入のあった施設を集計対象とした。

・「割合」は在宅療養を担当した患者数に対する各患者の割合。

機能強化型在支診（連携型）では在宅療養を担当した患者数平均184.9人（中央値85.0）のうち、死亡した患者数は平均13.4人（中央値7.0）で、このうち、医療機関以外で死亡した患者数は平均8.7人（中央値5.0）、自宅での死亡患者数は平均6.0人（中央値3.0）であった。

図表 80 在宅療養患者数【機能強化型在支診（連携型）】(n=61)

(単位：人)

	平均値	標準偏差	中央値	割合
①在宅療養を担当した患者数	184.9	291.5	85.0	100.0%
②上記①のうち、死亡患者数	13.4	16.5	7.0	7.3%
③上記②のうち、医療機関以外で死亡した患者数	8.7	10.5	5.0	4.7%
④上記③のうち、自宅での死者数	6.0	9.1	3.0	3.2%
⑤上記③のうち、居住系施設・介護老人福祉施設での死者数	2.4	3.4	1.0	1.3%
⑥上記③のうち、自宅・居住系施設以外での死者数	0.4	1.8	0.0	0.2%
⑦上記③のうち、看取りを行った患者数	7.7	10.0	4.0	4.2%
⑧上記②のうち、医療機関で死亡した患者数	4.7	6.9	2.0	2.5%
⑨上記⑧のうち、連携医療機関で死亡した患者数	2.2	4.4	0.0	1.2%
⑩上記⑧のうち、連携医療機関以外で死亡した患者数	2.4	5.0	1.0	1.3%

(注)・在宅療養患者数について記入のあった施設を集計対象とした。

・「割合」は在宅療養を担当した患者数に対する各患者の割合。

在支診では在宅療養を担当した患者数平均 38.9 人（中央値 12.0）のうち、死亡した患者数は平均 2.9 人（中央値 1.0）で、このうち、医療機関以外で死亡した患者数は平均 1.9 人（中央値 0.0）で、自宅での死亡患者数は平均 1.0 人（中央値 0.0）であった。

図表 81 在宅療養患者数【在支診】(n=309)

(単位：人)

	平均値	標準偏差	中央値	割合
①在宅療養を担当した患者数	38.9	79.7	12.0	100.0%
②上記①のうち、死亡患者数	2.9	5.3	1.0	7.4%
③上記②のうち、医療機関以外で死亡した患者数	1.9	3.9	0.0	4.9%
④上記③のうち、自宅での死者数	1.0	2.6	0.0	2.6%
⑤上記③のうち、居住系施設・介護老人福祉施設での死者数	0.8	2.4	0.0	2.1%
⑥上記③のうち、自宅・居住系施設以外での死者数	0.1	0.6	0.0	0.2%
⑦上記③のうち、看取りを行った患者数	1.4	3.3	0.0	3.7%
⑧上記②のうち、医療機関で死亡した患者数	1.0	2.3	0.0	2.5%
⑨上記⑧のうち、連携医療機関で死亡した患者数	0.5	1.2	0.0	1.2%
⑩上記⑧のうち、連携医療機関以外で死亡した患者数	0.5	1.6	0.0	1.3%

(注)・在宅療養患者数について記入のあった施設を集計対象とした。

・「割合」は在宅療養を担当した患者数に対する各患者の割合。

在支診以外の診療所では在宅療養を担当した患者数平均 16.0 人（中央値 3.0）のうち、死亡した患者数は平均 0.9 人（中央値 0.0）で、このうち、医療機関以外で死亡した患者数は平均 0.6 人（中央値 0.0）、自宅での死亡患者数は平均 0.4 人（中央値 0.0）であった。

図表 82 在宅療養患者数【在支診以外の診療所】(n=184)

(単位：人)

	平均値	標準偏差	中央値	割合
①在宅療養を担当した患者数	16.0	32.8	3.0	100.0%
②上記①のうち、死亡患者数	0.9	2.2	0.0	5.7%
③上記②のうち、医療機関以外で死亡した患者数	0.6	1.6	0.0	3.5%
④上記③のうち、自宅での死者数	0.4	1.3	0.0	2.3%
⑤上記③のうち、居住系施設・介護老人福祉施設での死者数	0.2	0.8	0.0	1.0%
⑥上記③のうち、自宅・居住系施設以外での死者数	0.0	0.3	0.0	0.3%
⑦上記③のうち、看取りを行った患者数	0.4	1.5	0.0	2.3%
⑧上記②のうち、医療機関で死亡した患者数	0.4	1.0	0.0	2.2%
⑨上記⑧のうち、連携医療機関で死亡した患者数	0.2	0.6	0.0	1.1%
⑩上記⑧のうち、連携医療機関以外で死亡した患者数	0.2	0.7	0.0	1.2%

(注)・在宅療養患者数について記入のあった施設を集計対象とした。

・「割合」は在宅療養を担当した患者数に対する各患者の割合。

機能強化型在支病（単独型）では在宅療養を担当した患者数平均 449.0 人（中央値 183.5）のうち、死亡した患者数は平均 16.2 人（中央値 11.0）で、このうち、医療機関以外で死亡した患者数は平均 8.7 人（中央値 6.5）、自宅での死亡患者数は平均 6.4 人（中央値 2.0）であった。

図表 83 在宅療養患者数【機能強化型在支病（単独型）】(n=18)

(単位：人)

	平均値	標準偏差	中央値	割合
①在宅療養を担当した患者数	449.0	828.7	183.5	100.0%
②上記①のうち、死亡患者数	16.2	14.6	11.0	3.6%
③上記②のうち、医療機関以外で死亡した患者数	8.7	10.5	6.5	1.9%
④上記③のうち、自宅での死亡者数	6.4	10.3	2.0	1.4%
⑤上記③のうち、居住系施設・介護老人福祉施設での死亡者数	2.3	2.2	2.0	0.5%
⑥上記③のうち、自宅・居住系施設以外での死亡者数	0.0	-	0.0	0.0%
⑦上記③のうち、看取りを行った患者数	7.3	10.8	3.0	1.6%
⑧上記②のうち、医療機関で死亡した患者数	7.4	7.7	5.0	1.7%
⑨上記⑧のうち、連携医療機関で死亡した患者数	4.9	7.6	2.0	1.1%
⑩上記⑧のうち、連携医療機関以外で死亡した患者数	2.5	4.5	1.0	0.6%

(注)・在宅療養患者数について記入のあった施設を集計対象とした。

・「割合」は在宅療養を担当した患者数に対する各患者の割合。

機能強化型在支病（連携型）では在宅療養を担当した患者数平均 355.6 人（中央値 110.0）のうち、死亡した患者数は平均 12.9 人（中央値 7.0）で、このうち、医療機関以外で死亡した患者数は平均 6.3 人（中央値 4.0）、自宅での死亡患者数は平均 3.6 人（中央値 1.0）であった。

図表 84 在宅療養患者数【機能強化型在支病（連携型）】(n=36)

(単位：人)

	平均値	標準偏差	中央値	割合
①在宅療養を担当した患者数	355.6	909.4	110.0	100.0%
②上記①のうち、死亡患者数	12.9	15.3	7.0	3.6%
③上記②のうち、医療機関以外で死亡した患者数	6.3	8.4	4.0	1.8%
④上記③のうち、自宅での死亡者数	3.6	6.1	1.0	1.0%
⑤上記③のうち、居住系施設・介護老人福祉施設での死亡者数	2.3	3.4	1.0	0.7%
⑥上記③のうち、自宅・居住系施設以外での死亡者数	0.4	1.2	0.0	0.1%
⑦上記③のうち、看取りを行った患者数	4.3	5.7	2.5	1.2%
⑧上記②のうち、医療機関で死亡した患者数	6.6	13.1	2.0	1.9%
⑨上記⑧のうち、連携医療機関で死亡した患者数	5.3	11.1	1.5	1.5%
⑩上記⑧のうち、連携医療機関以外で死亡した患者数	1.4	3.0	0.0	0.4%

(注)・在宅療養患者数について記入のあった施設を集計対象とした。

・「割合」は在宅療養を担当した患者数に対する各患者の割合。

在支病では在宅療養を担当した患者数平均 63.3 人（中央値 15.0）のうち、死亡した患者数は平均 2.4 人（中央値 1.0）で、このうち、医療機関以外で死亡した患者数は平均 0.9 人（中央値 0.0）、自宅での死亡患者数は平均 0.6 人（中央値 0.0）であった。

図表 85 在宅療養患者数【在支病】(n=71)

(単位：人)

	平均値	標準偏差	中央値	割合
①在宅療養を担当した患者数	63.3	168.3	15.0	100.0%
②上記①のうち、死亡患者数	2.4	2.9	1.0	3.8%
③上記②のうち、医療機関以外で死亡した患者数	0.9	1.4	0.0	1.4%
④上記③のうち、自宅での死亡者数	0.6	1.2	0.0	1.0%
⑤上記③のうち、居住系施設・介護老人福祉施設での死亡者数	0.2	0.5	0.0	0.3%
⑥上記③のうち、自宅・居住系施設以外での死亡者数	0.1	0.3	0.0	0.1%
⑦上記③のうち、看取りを行った患者数	0.6	1.4	0.0	0.9%
⑧上記②のうち、医療機関で死亡した患者数	1.5	2.1	1.0	2.4%
⑨上記⑧のうち、連携医療機関で死亡した患者数	1.0	1.8	0.0	1.6%
⑩上記⑧のうち、連携医療機関以外で死亡した患者数	0.5	1.2	0.0	0.8%

(注) • 在宅療養患者数について記入のあった施設を集計対象とした。

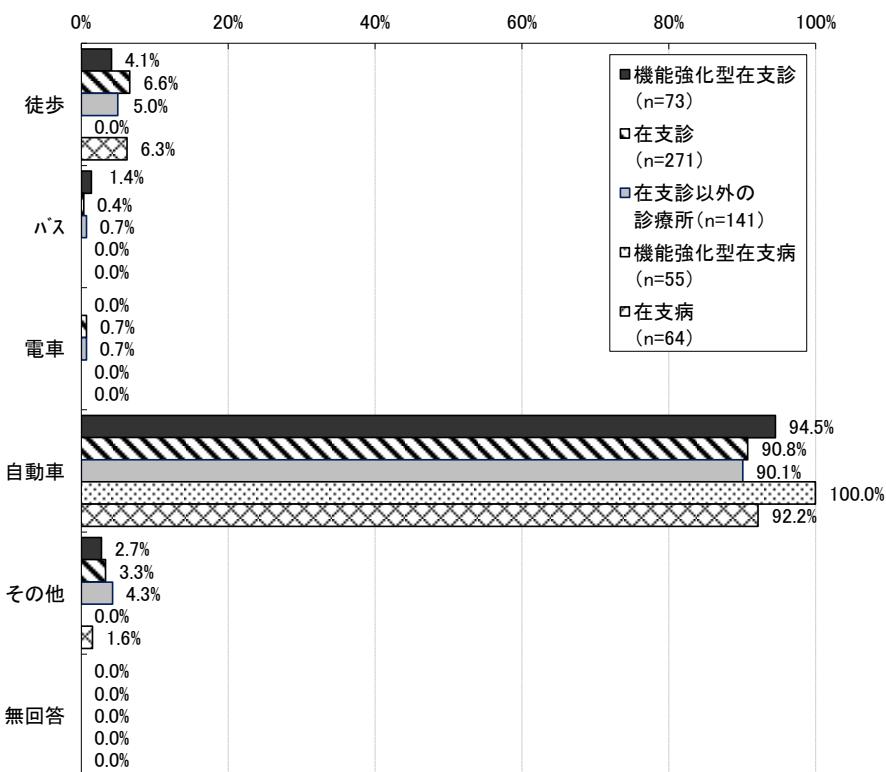
• 「割合」は在宅療養を担当した患者数に対する各患者の割合。

## ⑧訪問先

### 1) 最も遠くに住む患者

訪問診療を行っている患者のうち、最も遠くに住む患者の患家に訪問するのに用いる交通手段をみると、自動車が最も多かった。

図表 86 患家に訪問するのに用いる交通手段【最も遠くに住む患者】(複数回答)



(注) 「その他」の内容として、「自転車」が挙げられた。

訪問診療を行っている患者のうち、最も遠くに住む患者の患家への移動に要する総時間(往復)をみると、最短が在支診以外の診療所の平均 32.1 分で、最長が機能強化型在支病(単独型)の平均 58.9 分であった。

図表 87 患家への移動に要する総時間(往復)【最も遠くに住む患者】

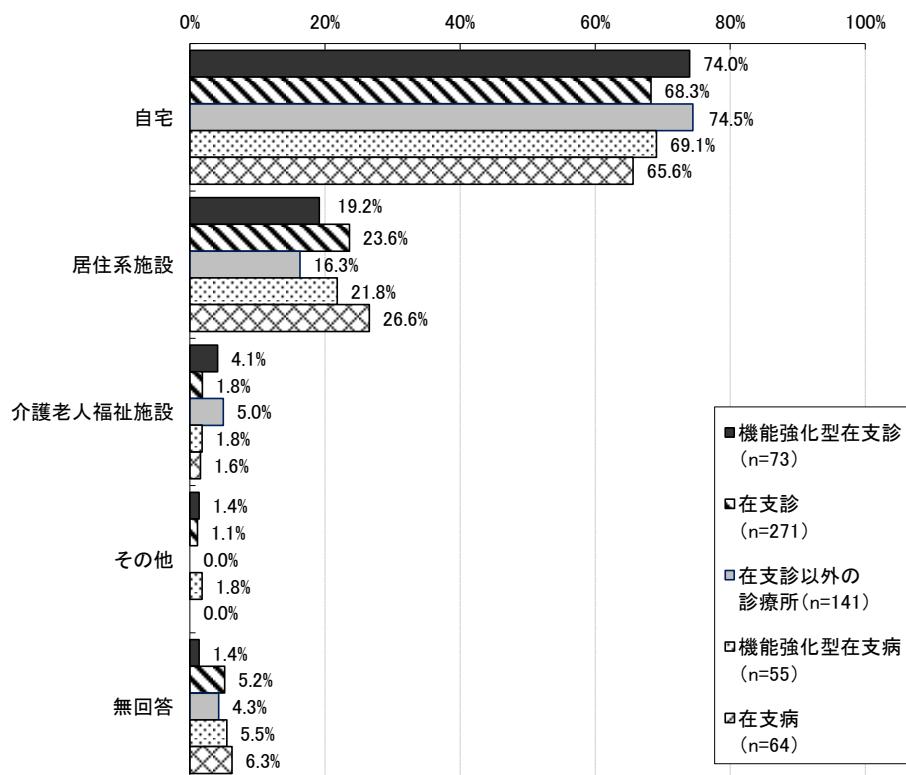
(単位:分)

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	10	53.0	27.9	50.0
機能強化型在支診(連携型)	61	48.2	23.3	40.0
在支診	269	35.1	19.1	30.0
在支診以外の診療所	140	32.1	17.6	30.0
機能強化型在支病(単独型)	18	58.9	22.2	60.0
機能強化型在支病(連携型)	35	53.2	27.2	50.0
在支病	61	33.0	20.7	30.0

(注) 移動に要する総時間(往復)について記入のあった施設を集計対象とした。

訪問診療を行っている患者のうち、最も遠くに住む患者の住居形態をみると、「自宅」が最も多かった。一方、「居住系施設」は機能強化型在支診が 19.2%、在支診が 23.6%、在支診以外の診療所が 16.3%、機能強化型在支病が 21.8%、在支病が 26.6%であった。

図表 88 住居形態【最も遠くに住む患者】(単数回答)



訪問診療を行っている患者のうち、最も遠くに住む患者の患家の「单一建物診療患者数」は、以下のとおりである。

図表 89 患家における「单一建物診療患者数」【最も遠くに住む患者】

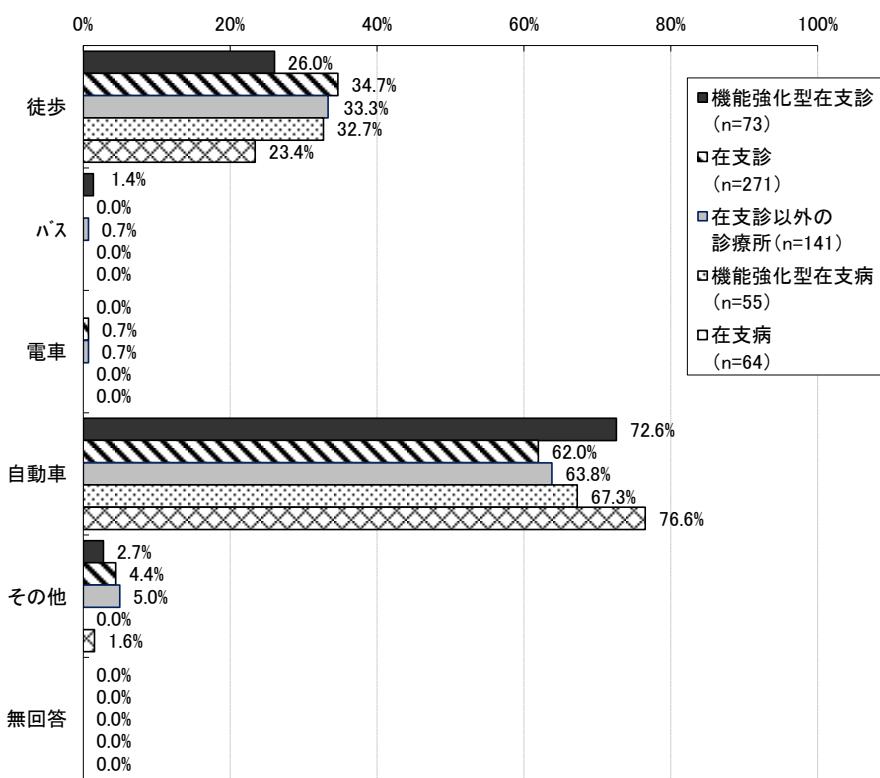
(単位：人)

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	10	3.3	5.3	1.0
機能強化型在支診(連携型)	57	3.7	9.4	1.0
在支診	250	4.1	9.0	1.0
在支診以外の診療所	129	1.6	2.8	1.0
機能強化型在支病(単独型)	17	2.1	4.9	1.0
機能強化型在支病(連携型)	34	8.4	16.5	1.0
在支病	56	4.1	6.8	1.0

## 2) 最も近くに住む患者

訪問診療を行っている患者のうち、最も近くに住む患者の患者に訪問するのに用いる交通手段をみると、「自動車」が最も多かったが、「徒歩」が次いで多かった。

図表 90 患家に訪問するのに用いる交通手段【最も近くに住む患者】(複数回答)



(注) 「その他」の内容として、「自転車」が挙げられた。

訪問診療を行っている患者のうち、最も近くに住む患者の患者への移動に要する総時間(往復)をみると、最短が機能強化型在支病(単独型)の平均 7.2 分で、最長が在支診以外の診療所の平均 13.4 分であった。

図表 91 患家への移動に要する総時間(往復)【最も近くに住む患者】

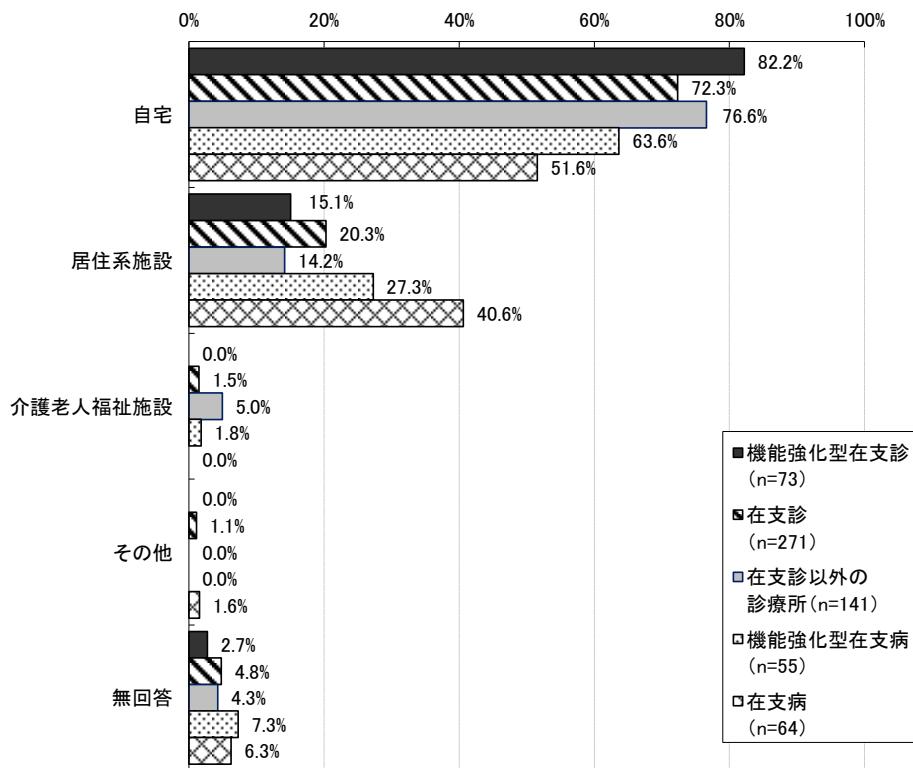
(単位:分)

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	10	7.7	4.9	7.0
機能強化型在支診(連携型)	61	7.5	5.6	6.0
在支診	265	10.7	10.2	10.0
在支診以外の診療所	141	13.4	11.0	10.0
機能強化型在支病(単独型)	18	7.2	4.5	6.0
機能強化型在支病(連携型)	36	8.9	6.0	8.0
在支病	62	9.7	6.1	10.0

(注) 移動に要する総時間(往復)について記入のあった施設を集計対象とした。

訪問診療を行っている患者のうち、最も近くに住む患者の住居形態をみると、「自宅」が最も多かった。一方、「居住系施設」は機能強化型在支診が 15.1%、在支診が 20.3%、在支診以外の診療所が 14.2%、機能強化型在支病が 27.3%、在支病が 40.6%であった。

図表 92 住居形態【最も近くに住む患者】(単数回答)



訪問診療を行っている患者のうち、最も近くに住む患者の患家の「单一建物診療患者数」をみると、機能強化型在支診（単独型）の平均 1.0 人が最も少なく、機能強化型在支病（連携型）の平均 6.5 人が最も多かった。

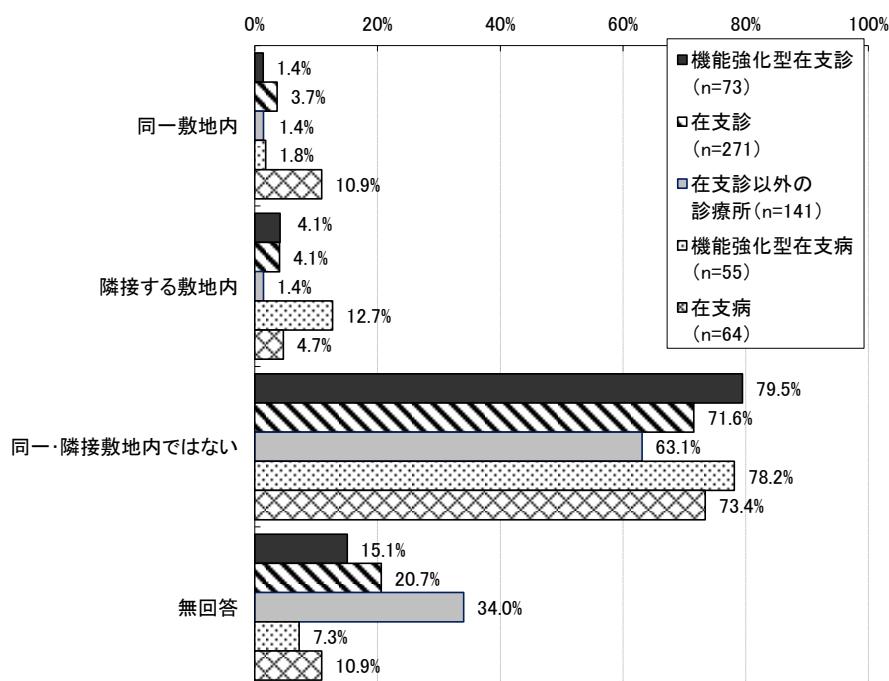
図表 93 患家における「单一建物診療患者数」【最も近くに住む患者】

(単位：人)

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	10	1.0	-	1.0
機能強化型在支診(連携型)	57	3.5	8.1	1.0
在支診	249	4.1	9.3	1.0
在支診以外の診療所	128	2.1	3.5	1.0
機能強化型在支病(単独型)	17	5.1	11.2	1.0
機能強化型在支病(連携型)	33	6.5	11.1	1.0
在支病	55	4.0	6.1	1.0

訪問診療を行っている患者のうち、最も近くに住む患者の患家と自院との位置関係をみると、「同一・隣接敷地内ではない」が最も多かった。また、「同一敷地内」は機能強化型在支診が1.4%、在支診が3.7%、在支診以外の診療所が1.4%、機能強化型在支病が1.8%、在支病が10.9%であった。さらに、「隣接する敷地内」は機能強化型在支診が4.1%、在支診が4.1%、在支診以外の診療所が1.4%、機能強化型在支病が12.7%、在支病が4.7%であった。

図表 94 自院と患家との位置関係【最も近くに住む患者】(単数回答)



## ⑨在総管・施設総管の重症患者数

平成 28 年 9 月 1 か月間に在総管・施設総管の「重症患者」を算定した患者で「末期の悪性腫瘍患者」は機能強化型在支診（連携型）が平均 3.7 人で最も多く、次いで、機能強化型在支診（単独型）が平均 3.6 人、機能強化型在支病（単独型）が平均 3.2 人であった。機能強化型在支診・在支病では他と比較して多かった。

図表 95 平成 28 年 9 月 1 か月間に在総管・施設総管の「重症患者」を算定した患者数  
～末期の悪性腫瘍患者～

(単位：人)

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	10	3.6	5.9	0.0
機能強化型在支診(連携型)	66	3.7	8.9	1.0
在支診	327	0.4	1.4	0.0
在支診以外の診療所	223	0.1	0.6	0.0
機能強化型在支病(単独型)	19	3.2	4.8	1.0
機能強化型在支病(連携型)	39	1.0	2.7	0.0
在支病	75	0.3	0.8	0.0

(注) 患者数について記入のあった施設を集計対象とした。

平成 28 年 9 月 1 か月間に在総管・施設総管の「重症患者」を算定した患者で「スモンの患者」はほとんどいなかった。

図表 96 平成 28 年 9 月 1 か月間に在総管・施設総管の「重症患者」を算定した患者数  
～スモンの患者～

(単位：人)

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	10	0.0	-	0.0
機能強化型在支診(連携型)	66	0.0	0.1	0.0
在支診	327	0.0	0.1	0.0
在支診以外の診療所	223	0.0	0.1	0.0
機能強化型在支病(単独型)	19	0.0	-	0.0
機能強化型在支病(連携型)	39	0.1	0.2	0.0
在支病	75	0.0	-	0.0

(注) 患者数について記入のあった施設を集計対象とした。

平成 28 年 9 月 1 か月間に在総管・施設総管の「重症患者」を算定した患者で「指定難病の患者」は機能強化型在支診（単独型）と機能強化型在支病（単独型）が平均 4.3 人で最も多く、次いで、機能強化型在支診（連携型）が平均 3.3 人、機能強化型在支病（連携型）が平均 1.9 人であった。機能強化型在支診・在支病では他と比較して多かった。

図表 97 平成 28 年 9 月 1 か月間に在総管・施設総管の「重症患者」を算定した患者数  
～指定難病の患者～

(単位：人)

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	10	4.3	7.3	0.0
機能強化型在支診(連携型)	66	3.3	6.4	1.0
在支診	327	0.6	1.9	0.0
在支診以外の診療所	223	0.1	0.6	0.0
機能強化型在支病(単独型)	19	4.3	6.4	2.0
機能強化型在支病(連携型)	39	1.9	3.9	0.0
在支病	75	0.4	1.2	0.0

(注) 患者数について記入のあった施設を集計対象とした。

平成 28 年 9 月 1 か月間に在総管・施設総管の「重症患者」を算定した患者で「後天性免疫不全症候群の患者」はほとんどいなかった。

図表 98 平成 28 年 9 月 1 か月間に在総管・施設総管の「重症患者」を算定した患者数  
～後天性免疫不全症候群の患者～

(単位：人)

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	10	0.0	—	0.0
機能強化型在支診(連携型)	66	0.0	0.2	0.0
在支診	327	0.0	0.1	0.0
在支診以外の診療所	223	0.0	—	0.0
機能強化型在支病(単独型)	19	0.0	—	0.0
機能強化型在支病(連携型)	39	0.0	—	0.0
在支病	75	0.0	—	0.0

(注) 患者数について記入のあった施設を集計対象とした。

平成 28 年 9 月 1 か月間に在総管・施設総管の「重症患者」を算定した患者で「脊髄損傷の患者」は機能強化型在支診（連携型）が平均 1.1 人であったが、多くの施設では該当患者はいなかった。

図表 99 平成 28 年 9 月 1 か月間に在総管・施設総管の「重症患者」を算定した患者数  
～脊髄損傷の患者～

(単位：人)

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	10	0.5	1.0	0.0
機能強化型在支診(連携型)	66	1.1	6.1	0.0
在支診	327	0.1	0.3	0.0
在支診以外の診療所	223	0.0	0.3	0.0
機能強化型在支病(単独型)	19	0.6	1.3	0.0
機能強化型在支病(連携型)	39	0.2	0.4	0.0
在支病	75	0.1	0.3	0.0

(注) 患者数について記入のあった施設を集計対象とした。

平成 28 年 9 月 1 か月間に在総管・施設総管の「重症患者」を算定した患者で「真皮を超える褥瘡の患者」は機能強化型在支診（単独型）が平均 1.5 人で最も多く、次いで、機能強化型在支病（単独型）が平均 1.2 人、機能強化型在支診（連携型）が平均 1.1 人であった。

図表 100 平成 28 年 9 月 1 か月間に在総管・施設総管の「重症患者」を算定した患者数  
～真皮を超える褥瘡の患者～

(単位：人)

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	10	1.5	3.2	0.0
機能強化型在支診(連携型)	66	1.1	2.1	0.0
在支診	327	0.3	1.6	0.0
在支診以外の診療所	223	0.1	0.3	0.0
機能強化型在支病(単独型)	19	1.2	1.7	0.0
機能強化型在支病(連携型)	39	0.2	0.5	0.0
在支病	75	0.0	0.2	0.0

(注) 患者数について記入のあった施設を集計対象とした。

平成 28 年 9 月 1 か月間に在総管・施設総管の「重症患者」を算定した患者で「人工呼吸器を使用している患者」は、いずれも平均値が 1 人未満で、中央値が 0.0 であった。

図表 101 平成 28 年 9 月 1 か月間に在総管・施設総管の「重症患者」を算定した患者数  
～人工呼吸器を使用している患者～

(単位：人)

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	10	0.8	1.2	0.0
機能強化型在支診(連携型)	66	0.5	1.7	0.0
在支診	327	0.1	0.8	0.0
在支診以外の診療所	223	0.0	0.1	0.0
機能強化型在支病(単独型)	19	0.7	1.3	0.0
機能強化型在支病(連携型)	39	0.2	0.7	0.0
在支病	75	0.1	0.3	0.0

(注) 患者数について記入のあった施設を集計対象とした。

平成 28 年 9 月 1 か月間に在総管・施設総管の「重症患者」を算定した患者で「気管切開の管理を要する患者」は機能強化型在支診（単独型）が平均 1.4 人であったが、他の施設では 1 人未満であり、中央値も 0.0 であった。

図表 102 平成 28 年 9 月 1 か月間に在総管・施設総管の「重症患者」を算定した患者数  
～気管切開の管理を要する患者～

(単位：人)

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	10	1.4	1.8	0.5
機能強化型在支診(連携型)	66	0.7	1.9	0.0
在支診	327	0.2	0.7	0.0
在支診以外の診療所	223	0.0	0.1	0.0
機能強化型在支病(単独型)	19	0.6	1.0	0.0
機能強化型在支病(連携型)	39	0.3	0.6	0.0
在支病	75	0.1	0.3	0.0

(注) 患者数について記入のあった施設を集計対象とした。

平成 28 年 9 月 1 か月間に在総管・施設総管の「重症患者」を算定した患者で「気管カニューレを使用している患者」は機能強化型在支診（単独型）が平均 1.2 人であったが、他の施設では 1 人未満であり、中央値も 0.0 であった。

図表 103 平成 28 年 9 月 1 か月間に在総管・施設総管の「重症患者」を算定した患者数  
～気管カニューレを使用している患者～

(単位：人)

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	10	1.2	1.5	0.5
機能強化型在支診(連携型)	66	0.5	1.6	0.0
在支診	327	0.2	0.7	0.0
在支診以外の診療所	223	0.0	0.1	0.0
機能強化型在支病(単独型)	19	0.8	1.8	0.0
機能強化型在支病(連携型)	39	0.1	0.5	0.0
在支病	75	0.0	0.2	0.0

(注) 患者数について記入のあった施設を集計対象とした。

平成 28 年 9 月 1 か月間に在総管・施設総管の「重症患者」を算定した患者で「ドレーンチューブ等を使用している患者」は機能強化型在支診（単独型）が平均 4.8 人で最も多く、次いで、機能強化型在支病（単独型）が平均 2.6 人、機能強化型在支病（連携型）が平均 1.8 人であった。

図表 104 平成 28 年 9 月 1 か月間に在総管・施設総管の「重症患者」を算定した患者数  
～ドレーンチューブ等を使用している患者～

(単位：人)

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	10	4.8	8.4	0.0
機能強化型在支診(連携型)	66	1.3	2.8	0.0
在支診	327	0.4	2.8	0.0
在支診以外の診療所	223	0.0	0.2	0.0
機能強化型在支病(単独型)	19	2.6	5.5	0.0
機能強化型在支病(連携型)	39	1.8	4.8	0.0
在支病	75	0.1	0.7	0.0

(注) 患者数について記入のあった施設を集計対象とした。

平成 28 年 9 月 1 か月間に在総管・施設総管の「重症患者」を算定した患者で「人工肛門等の管理を要する患者」は機能強化型在支診（単独型）が平均 1.4 人で最も多く、次いで、機能強化型在支病（単独型）が平均 1.1 人であった。

図表 105 平成 28 年 9 月 1 か月間に在総管・施設総管の「重症患者」を算定した患者数  
～人工肛門等の管理を要する患者～

(単位：人)

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	10	1.4	2.3	0.0
機能強化型在支診(連携型)	66	0.8	1.4	0.0
在支診	327	0.1	0.5	0.0
在支診以外の診療所	223	0.0	0.2	0.0
機能強化型在支病(単独型)	19	1.1	1.4	0.0
機能強化型在支病(連携型)	39	0.2	0.6	0.0
在支病	75	0.0	0.2	0.0

(注) 患者数について記入のあった施設を集計対象とした。

平成 28 年 9 月 1 か月間に在総管・施設総管の「重症患者」を算定した患者で「在宅自己腹膜灌流を実施している患者」はいずれも平均値が 1 人未満で、中央値が 0.0 であった。

図表 106 平成 28 年 9 月 1 か月間に在総管・施設総管の「重症患者」を算定した患者数  
～在宅自己腹膜灌流を実施している患者～

(単位：人)

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	10	0.0	-	0.0
機能強化型在支診(連携型)	66	0.0	-	0.0
在支診	327	0.0	-	0.0
在支診以外の診療所	223	0.0	-	0.0
機能強化型在支病(単独型)	19	0.1	0.3	0.0
機能強化型在支病(連携型)	39	0.0	-	0.0
在支病	75	0.0	0.1	0.0

(注) 患者数について記入のあった施設を集計対象とした。

平成 28 年 9 月 1 か月間に在総管・施設総管の「重症患者」を算定した患者で「在宅血液透析を実施している患者」はいずれも平均値が 1 人未満で、中央値が 0.0 であった。

図表 107 平成 28 年 9 月 1 か月間に在総管・施設総管の「重症患者」を算定した患者数  
～在宅血液透析を実施している患者～

(単位：人)

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	10	0.0	-	0.0
機能強化型在支診(連携型)	66	0.0	0.1	0.0
在支診	327	0.0	0.1	0.0
在支診以外の診療所	223	0.0	-	0.0
機能強化型在支病(単独型)	19	0.1	0.5	0.0
機能強化型在支病(連携型)	39	0.0	-	0.0
在支病	75	0.0	-	0.0

(注) 患者数について記入のあった施設を集計対象とした。

平成 28 年 9 月 1 か月間に在総管・施設総管の「重症患者」を算定した患者で「酸素療法を実施している患者」は機能強化型在支診（単独型）が平均 6.1 人で最も多く、次いで、機能強化型在支病（単独型）が平均 4.8 人、機能強化型在支診（連携型）が平均 3.4 人、機能強化型在支病（連携型）が平均 2.0 人であった。

図表 108 平成 28 年 9 月 1 か月間に在総管・施設総管の「重症患者」を算定した患者数  
～酸素療法を実施している患者～

(単位：人)

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	10	6.1	7.5	1.0
機能強化型在支診(連携型)	66	3.4	4.8	1.0
在支診	327	0.7	1.9	0.0
在支診以外の診療所	223	0.2	0.6	0.0
機能強化型在支病(単独型)	19	4.8	5.0	4.0
機能強化型在支病(連携型)	39	2.0	3.2	1.0
在支病	75	0.3	0.8	0.0

(注) 患者数について記入のあった施設を集計対象とした。

平成 28 年 9 月 1 か月間に在総管・施設総管の「重症患者」を算定した患者で「在宅中心静脈栄養を実施している患者」はいずれの施設でも平均値が 1 人未満であり、中央値も 0.0 であった。

図表 109 平成 28 年 9 月 1 か月間に在総管・施設総管の「重症患者」を算定した患者数  
～在宅中心静脈栄養を実施している患者～

(単位：人)

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	10	0.3	0.5	0.0
機能強化型在支診(連携型)	66	0.5	1.1	0.0
在支診	327	0.1	0.8	0.0
在支診以外の診療所	223	0.0	0.2	0.0
機能強化型在支病(単独型)	19	0.6	1.8	0.0
機能強化型在支病(連携型)	39	0.8	2.1	0.0
在支病	75	0.0	0.2	0.0

(注) 患者数について記入のあった施設を集計対象とした。

平成 28 年 9 月 1 か月間に在総管・施設総管の「重症患者」を算定した患者で「在宅成分栄養経管栄養法を実施している患者」は機能強化型在支診（単独型）が平均 1.4 人で最も多く、次いで、機能強化型在支指診（連携型）と機能強化型在支病（単独型）が平均 1.2 人、機能強化型在支病（連携型）が平均 1.1 人であった。

図表 110 平成 28 年 9 月 1 か月間に在総管・施設総管の「重症患者」を算定した患者数  
～在宅成分栄養経管栄養法を実施している患者～

(単位：人)

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	10	1.4	2.8	0.0
機能強化型在支診(連携型)	66	1.2	2.2	0.0
在支診	327	0.3	1.1	0.0
在支診以外の診療所	223	0.0	0.3	0.0
機能強化型在支病(単独型)	19	1.2	2.6	0.0
機能強化型在支病(連携型)	39	1.1	3.6	0.0
在支病	75	0.1	0.2	0.0

(注) 患者数について記入のあった施設を集計対象とした。

平成 28 年 9 月 1 か月間に在総管・施設総管の「重症患者」を算定した患者で「在宅自己導尿を実施している患者」は、機能強化型在支病（単独型）が平均 1.1 人であったが、他のいずれの施設でも平均値が 1 人未満であり、中央値も 0.0 であった。

図表 111 平成 28 年 9 月 1 か月間に在総管・施設総管の「重症患者」を算定した患者数  
～在宅自己導尿を実施している患者～

(単位：人)

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	10	0.0	-	0.0
機能強化型在支診(連携型)	66	0.7	2.2	0.0
在支診	327	0.2	0.7	0.0
在支診以外の診療所	223	0.1	0.3	0.0
機能強化型在支病(単独型)	19	1.1	3.1	0.0
機能強化型在支病(連携型)	39	0.6	1.6	0.0
在支病	75	0.1	0.4	0.0

(注) 患者数について記入のあった施設を集計対象とした。

平成 28 年 9 月 1 か月間に在総管・施設総管の「重症患者」を算定した患者で「植込み型脳・脊髄電気刺激装置による疼痛管理を受けている患者」は、いずれの施設でも平均値が 1 人未満であり、中央値も 0.0 であった。

図表 112 平成 28 年 9 月 1 か月間に在総管・施設総管の「重症患者」を算定した患者数  
～植込み型脳・脊髄電気刺激装置による疼痛管理を受けている患者～

(単位：人)

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	10	0.0	-	0.0
機能強化型在支診(連携型)	66	0.0	-	0.0
在支診	327	0.0	-	0.0
在支診以外の診療所	223	0.0	-	0.0
機能強化型在支病(単独型)	19	0.0	-	0.0
機能強化型在支病(連携型)	39	0.0	-	0.0
在支病	75	0.0	0.1	0.0

(注) 患者数について記入のあった施設を集計対象とした。

平成 28 年 9 月 1 か月間に在総管・施設総管の「重症患者」を算定した患者で「携帯型精密輸液ポンプによるプロスタグラジン I 2 製剤の投与を受けている患者」はいなかつた。

図表 113 平成 28 年 9 月 1 か月間に在総管・施設総管の「重症患者」を算定した患者数  
～携帯型精密輸液ポンプによるプロスタグラジン I 2 製剤の投与を受けている患者～

(単位：人)

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	10	0.0	-	0.0
機能強化型在支診(連携型)	66	0.0	-	0.0
在支診	327	0.0	-	0.0
在支診以外の診療所	223	0.0	-	0.0
機能強化型在支病(単独型)	19	0.0	-	0.0
機能強化型在支病(連携型)	39	0.0	-	0.0
在支病	75	0.0	-	0.0

(注) 患者数について記入のあった施設を集計対象とした。

⑩訪問診療を行う際に、診療において困難を伴う患者の状態等

訪問診療を行う際に、診療において困難を伴う患者の状態や環境、診療内容として、次の内容が挙げられた。

図表 114 訪問診療を行う際に、診療において困難を伴う患者の状態等（自由記述式）

○診療が困難な疾患・状態

- ・ 肝不全、腎不全の治療方法のない患者。
- ・ 経鼻経管栄養チューブを使用している患者。
- ・ 膀胱留置カテーテルを使用している患者。
- ・ 下血に伴う頻回な輸血管管理、重症感染症に伴う呼吸循環管理。
- ・ 在宅診療は入院と違って CT や MRI、レントゲンがすぐとれないため、骨折疑いの患者に困ることがある。
- ・ 長時間トイレ生活による両大腿後面褥瘡。
- ・ 介護上（着替え等）時の肩脱臼。
- ・ 寝たきり、及び人工股関節のゆるみのため、律動が困難な患者。
- ・ 肺炎や心不全を繰り返し、入退院を繰り返している患者。
- ・ 血液疾患や膠原病、リウマチなど専門性の高い治療が必要な患者。
- ・ 末期癌がんで腹水大量貯留の人。 ／等

○精神疾患を伴う患者

- ・ 重度認知症の独居患者。
- ・ BPSD の著しい認知症患者（特に有料老人ホーム入居者）。
- ・ 精神障害。 ／等

○訪問が困難な居住環境

- ・ エレベーターなし、超狭い階段（外）のみのビルの 4 階に居住する人の検査（レントゲンやエコー）を要する時。
- ・ 遠隔地に居住し、訪問に時間がかかる。 ／等

○家庭環境

- ・ 老老介護。
- ・ 家族の協力が得られない場合。
- ・ 経済的問題からの訪問回数の制限。 ／等

### ⑪6か月間の在宅医療に関する実績

6か月間の在宅がん医療総合診療料の算定回数をみると、機能強化型在支診（単独型）では平均15.3回（中央値0.0）、機能強化型在支診（連携型）では平均35.4回（中央値0.0）、在支診では平均12.7回（中央値0.0）、機能強化型在支病（単独型）では平均17.9回（中央値0.0）、機能強化型在支病（連携型）では平均11.7回（中央値0.0）、在支病では平均2.4回（中央値0.0）であった。

図表 115 在宅がん医療総合診療料の算定回数（平成28年4月～9月6か月間）

（単位：回）

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	9	15.3	46.0	0.0
機能強化型在支診(連携型)	53	35.4	133.8	0.0
在支診	257	12.7	82.8	0.0
在支診以外の診療所	185	0.0	-	0.0
機能強化型在支病(単独型)	16	17.9	47.9	0.0
機能強化型在支病(連携型)	32	11.7	33.1	0.0
在支病	64	2.4	19.5	0.0

（注）在宅がん医療総合診療料の算定回数について記入のあった施設を集計対象とした。

図表 116 在宅がん医療総合診療料の算定回数別分布（平成28年4月～9月6か月間）

（単位：上段「件」、下段「%」）

	総数	0回	1～9回	10～19回	20～29回	30～39回	40～49回	50回以上	無回答
機能強化型在支診(単独型)	10 100.0	8 80.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 10.0	1 10.0
機能強化型在支診(連携型)	66 100.0	41 62.1	5 7.6	0 0.0	0 0.0	1 1.5	0 0.0	6 9.1	13 19.7
在支診	327 100.0	236 72.2	8 2.4	0 0.0	1 0.3	0 0.0	0 0.0	12 3.7	70 21.4
在支診以外の診療所	223 100.0	185 83.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	38 17.0
機能強化型在支病(単独型)	19 100.0	13 68.4	1 5.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 10.5	3 15.8
機能強化型在支病(連携型)	39 100.0	27 69.2	1 2.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 10.3	7 17.9
在支病	75 100.0	63 84.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 1.3	11 14.7

6か月間の在宅患者緊急時等カンファレンス料の算定回数をみると、機能強化型在支診（単独型）では平均 5.8 回（中央値 0.0）、機能強化型在支診（連携型）では平均 1.6 回（中央値 0.0）、在支診では平均 0.2 回（中央値 0.0）、在支診以外の診療所では平均 0.0 回（中央値 0.0）、機能強化型在支病（単独型）では平均 0.4 回（中央値 0.0）、機能強化型在支病（連携型）では平均 0.2 回（中央値 0.0）、在支病では平均 0.1 回（中央値 0.0）であった。

図表 117 在宅患者緊急時等カンファレンス料の算定回数（平成 28 年 4 月～9 月 6 か月間）

(単位：回)

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	9	5.8	16.2	0.0
機能強化型在支診(連携型)	53	1.6	6.1	0.0
在支診	252	0.2	1.1	0.0
在支診以外の診療所	186	0.0	0.1	0.0
機能強化型在支病(単独型)	16	0.4	1.8	0.0
機能強化型在支病(連携型)	31	0.2	0.9	0.0
在支病	64	0.1	0.6	0.0

(注) 在宅患者緊急時等カンファレンス料の算定回数について記入のあった施設を集計対象とした。

図表 118 在宅患者緊急時等カンファレンス料の算定回数別分布(平成 28 年 4 月～9 月 6 か月間)

(単位：上段「件」、下段「%」)

	総数	0回	1回	2回	3回	4回	5回以上	無回答
機能強化型在支診(単独型)	10 100.0	7 70.0	0 0.0	0 0.0	1 10.0	0 0.0	1 10.0	1 10.0
機能強化型在支診(連携型)	66 100.0	44 66.7	1 1.5	2 3.0	1 1.5	1 1.5	4 6.1	13 19.7
在支診	327 100.0	240 73.4	4 1.2	0 0.0	4 1.2	0 0.0	4 1.2	75 22.9
在支診以外の診療所	223 100.0	185 83.0	1 0.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	37 16.6
機能強化型在支病(単独型)	19 100.0	15 78.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 5.3	3 15.8
機能強化型在支病(連携型)	39 100.0	30 76.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 2.6	8 20.5
在支病	75 100.0	62 82.7	0 0.0	0 0.0	1 1.3	1 1.3	0 0.0	11 14.7

6か月間の在宅患者訪問点滴注射管理指導料の算定回数をみると、機能強化型在支診（単独型）では平均4.1回（中央値0.0）、機能強化型在支診（連携型）では平均10.2回（中央値2.0）、在支診では平均3.3回（中央値0.0）、在支診以外の診療所では平均1.0回（中央値0.0）、機能強化型在支病（単独型）では平均4.5回（中央値0.0）、機能強化型在支病（連携型）では平均11.5回（中央値1.0）、在支病では平均2.6回（中央値0.0）であった。

図表 119 在宅患者訪問点滴注射管理指導料の算定回数（平成28年4月～9月6か月間）

(単位：回)

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	10	4.1	8.4	0.0
機能強化型在支診(連携型)	57	10.2	20.5	2.0
在支診	263	3.3	12.9	0.0
在支診以外の診療所	192	1.0	4.5	0.0
機能強化型在支病(単独型)	17	4.5	8.9	0.0
機能強化型在支病(連携型)	33	11.5	27.1	1.0
在支病	69	2.6	6.6	0.0

(注) 在宅患者訪問点滴注射管理指導料の算定回数について記入のあった施設を集計対象とした。

図表 120 在宅患者訪問点滴注射管理指導料の算定回数別分布（平成28年4月～9月6か月間）

(単位：上段「件」、下段「%」)

	総数	0回	1～9回	10～19回	20～29回	30～39回	40～49回	50回以上	無回答
機能強化型在支診(単独型)	10 100.0	7 70.0	1 10.0	1 10.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
機能強化型在支診(連携型)	66 100.0	25 37.9	19 28.8	5 7.6	1 1.5	1 1.5	0 0.0	6 9.1	9 13.6
在支診	327 100.0	199 60.9	44 13.5	8 2.4	5 1.5	1 0.3	1 0.3	5 1.5	64 19.6
在支診以外の診療所	223 100.0	166 74.4	19 8.5	3 1.3	3 1.3	1 0.4	0 0.0	0 0.0	31 13.9
機能強化型在支病(単独型)	19 100.0	9 47.4	6 31.6	1 5.3	0 0.0	1 5.3	0 0.0	0 0.0	2 10.5
機能強化型在支病(連携型)	39 100.0	16 41.0	9 23.1	2 5.1	3 7.7	1 2.6	0 0.0	2 5.1	6 15.4
在支病	75 100.0	47 62.7	14 18.7	6 8.0	0 0.0	2 2.7	0 0.0	0 0.0	6 8.0

6か月間の在宅患者訪問薬剤管理指導料の算定回数をみると、機能強化型在支診（単独型）では平均 0.0 回（中央値 0.0）、機能強化型在支診（連携型）では平均 0.3 回（中央値 0.0）、在支診では平均 4.2 回（中央値 0.0）、在支診以外の診療所では平均 0.4 回（中央値 0.0）、機能強化型在支病（単独型）では平均 0.0 回（中央値 0.0）、機能強化型在支病（連携型）では平均 1.8 回（中央値 0.0）、在支病では平均 0.0 回（中央値 0.0）であった。

図表 121 在宅患者訪問薬剤管理指導料の算定回数（平成 28 年 4 月～9 月 6か月間）

(単位：回)

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	9	0.0	-	0.0
機能強化型在支診(連携型)	54	0.3	1.7	0.0
在支診	257	4.2	57.6	0.0
在支診以外の診療所	187	0.4	2.5	0.0
機能強化型在支病(単独型)	16	0.0	-	0.0
機能強化型在支病(連携型)	30	1.8	5.9	0.0
在支病	64	0.0	0.1	0.0

(注) 在宅患者訪問薬剤管理指導料の算定回数について記入のあった施設を集計対象とした。

図表 122 在宅患者訪問薬剤管理指導料の算定回数別分布（平成 28 年 4 月～9 月 6か月間）

(単位：上段「件」、下段「%」)

	総数	0回	1回	2回	3回	4回	5回以上	無回答
機能強化型在支診(単独型)	10 100.0	9 90.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 10.0
機能強化型在支診(連携型)	66 100.0	52 78.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 1.5	1 1.5	12 18.2
在支診	327 100.0	247 75.5	0 0.0	2 0.6	1 0.3	0 0.0	7 2.1	70 21.4
在支診以外の診療所	223 100.0	180 80.7	1 0.4	1 0.4	0 0.0	2 0.9	3 1.3	36 16.1
機能強化型在支病(単独型)	19 100.0	16 84.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 15.8
機能強化型在支病(連携型)	39 100.0	27 69.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 7.7	9 23.1
在支病	75 100.0	63 84.0	1 1.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	11 14.7

6か月間の在宅患者訪問褥瘡管理指導料の算定回数をみると、いずれの施設でもほとんど実績がなかった。

図表 123 在宅患者訪問褥瘡管理指導料の算定回数（平成28年4月～9月6か月間）

(単位：回)

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	9	0.0	-	0.0
機能強化型在支診(連携型)	52	0.0	-	0.0
在支診	251	0.0	0.5	0.0
在支診以外の診療所	187	0.0	0.4	0.0
機能強化型在支病(単独型)	16	0.0	-	0.0
機能強化型在支病(連携型)	30	0.0	-	0.0
在支病	64	0.0	-	0.0

(注) 在宅患者訪問褥瘡管理指導料の算定回数について記入のあった施設を集計対象とした。

図表 124 在宅患者訪問褥瘡管理指導料の算定回数別分布（平成28年4月～9月6か月間）

(単位：上段「件」、下段「%」)

	総数	0回	1回	2回	3回	4回	5回以上	無回答
機能強化型在支診(単独型)	10 100.0	9 90.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 10.0
機能強化型在支診(連携型)	66 100.0	52 78.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	14 21.2
在支診	327 100.0	250 76.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 0.3	76 23.2
在支診以外の診療所	223 100.0	186 83.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 0.4	36 16.1
機能強化型在支病(単独型)	19 100.0	16 84.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 15.8
機能強化型在支病(連携型)	39 100.0	30 76.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	9 23.1
在支病	75 100.0	64 85.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	11 14.7

6か月間の在宅移行早期加算の算定回数をみると、機能強化型在支診（単独型）では平均73.1回（中央値9.0）、機能強化型在支診（連携型）では平均37.9回（中央値12.0）、在支診では平均7.2回（中央値0.0）、在支診以外の診療所では平均0.6回（中央値0.0）、機能強化型在支病（単独型）では平均88.8回（中央値43.0）、機能強化型在支病（連携型）では平均56.3回（中央値10.0）、在支病では平均8.5回（中央値0.0）であった。

図表 125 在宅移行早期加算の算定回数（平成28年4月～9月6か月間）

(単位：回)

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	9	73.1	89.7	9.0
機能強化型在支診(連携型)	59	37.9	58.4	12.0
在支診	270	7.2	21.4	0.0
在支診以外の診療所	189	0.6	2.8	0.0
機能強化型在支病(単独型)	17	88.8	103.1	43.0
機能強化型在支病(連携型)	35	56.3	118.9	10.0
在支病	68	8.5	21.4	0.0

(注) 在宅移行早期加算の算定回数について記入のあった施設を集計対象とした。

図表 126 在宅移行早期加算の算定回数別分布（平成28年4月～9月6か月間）

(単位：上段「件」、下段「%」)

	総数	0回	1～9回	10～19回	20～29回	30～39回	40～49回	50回以上	無回答
機能強化型在支診(単独型)	10 100.0	4 40.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 40.0	1 10.0
機能強化型在支診(連携型)	66 100.0	19 28.8	9 13.6	9 13.6	3 4.5	3 4.5	3 4.5	13 19.7	7 10.6
在支診	327 100.0	192 58.7	34 10.4	20 6.1	6 1.8	4 1.2	3 0.9	11 3.4	57 17.4
在支診以外の診療所	223 100.0	177 79.4	8 3.6	2 0.9	2 0.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	34 15.2
機能強化型在支病(単独型)	19 100.0	2 10.5	2 10.5	1 5.3	2 10.5	1 5.3	1 5.3	8 42.1	2 10.5
機能強化型在支病(連携型)	39 100.0	13 33.3	4 10.3	2 5.1	3 7.7	4 10.3	0 0.0	9 23.1	4 10.3
在支病	75 100.0	45 60.0	10 13.3	4 5.3	1 1.3	3 4.0	1 1.3	4 5.3	7 9.3

6か月間の退院時共同指導料の算定回数をみると、機能強化型在支診（単独型）では平均1.1回（中央値0.0）、機能強化型在支診（連携型）では平均3.7回（中央値0.0）、在支診では平均0.3回（中央値0.0）、在支診以外の診療所では平均0.0回（中央値0.0）、機能強化型在支病（単独型）では平均2.7回（中央値0.0）、機能強化型在支病（連携型）では平均1.8回（中央値0.0）、在支病では平均1.1回（中央値0.0）であった。

図表 127 退院時共同指導料の算定回数（平成28年4月～9月6か月間）

(単位：回)

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	9	1.1	3.3	0.0
機能強化型在支診(連携型)	55	3.7	8.9	0.0
在支診	257	0.3	1.4	0.0
在支診以外の診療所	186	0.0	—	0.0
機能強化型在支病(単独型)	17	2.7	8.4	0.0
機能強化型在支病(連携型)	32	1.8	7.4	0.0
在支病	69	1.1	5.1	0.0

(注) 退院時共同指導料の算定回数について記入のあった施設を集計対象とした。

図表 128 退院時共同指導料の算定回数別分布（平成28年4月～9月6か月間）

(単位：上段「件」、下段「%」)

	総数	0回	1回	2回	3回	4回	5回以上	無回答
機能強化型在支診(単独型)	10 100.0	8 80.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 10.0	1 10.0
機能強化型在支診(連携型)	66 100.0	37 56.1	4 6.1	2 3.0	1 1.5	0 0.3	11 16.7	11 16.7
在支診	327 100.0	238 72.8	6 1.8	5 1.5	1 0.3	1 0.3	6 1.8	70 21.4
在支診以外の診療所	223 100.0	186 83.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	37 16.6
機能強化型在支病(単独型)	19 100.0	12 63.2	0 0.0	3 15.8	0 0.0	0 0.0	2 10.5	2 10.5
機能強化型在支病(連携型)	39 100.0	25 64.1	2 5.1	1 2.6	2 5.1	0 0.0	2 5.1	7 17.9
在支病	75 100.0	60 80.0	4 5.3	1 1.3	0 0.0	0 0.0	4 5.3	6 8.0

6か月間の診療情報提供料（I）の算定回数をみると、機能強化型在支診（単独型）では平均289.2回（中央値101.0）、機能強化型在支診（連携型）では平均114.0回（中央値61.0）、在支診では平均37.0回（中央値4.0）、在支診以外の診療所では平均24.2回（中央値0.0）、機能強化型在支病（単独型）では平均522.9回（中央値35.5）、機能強化型在支病（連携型）では平均229.3回（中央値54.5）、在支病では平均188.7回（中央値36.0）であった。

図表 129 診療情報提供料（I）の算定回数（平成28年4月～9月6か月間）

(単位：回)

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	10	289.2	610.9	101.0
機能強化型在支診(連携型)	61	114.0	222.4	61.0
在支診	312	37.0	69.2	4.0
在支診以外の診療所	213	24.2	61.5	0.0
機能強化型在支病(単独型)	16	522.9	1,263.8	35.5
機能強化型在支病(連携型)	38	229.3	362.7	54.5
在支病	70	188.7	314.6	36.0

(注) 診療情報提供料（I）の算定回数について記入のあった施設を集計対象とした。

図表 130 診療情報提供料（I）の算定回数別分布（平成28年4月～9月6か月間）

(単位：上段「件」、下段「%」)

	総数	0回	1～49回	50～99回	100～149回	150～199回	200～299回	300回以上	無回答
機能強化型在支診(単独型)	10 100.0	1 10.0	2 20.0	2 20.0	1 10.0	2 20.0	1 10.0	1 10.0	0 0.0
機能強化型在支診(連携型)	66 100.0	9 13.6	19 28.8	9 13.6	11 16.7	4 6.1	6 9.1	3 4.5	5 7.6
在支診	327 100.0	111 33.9	128 39.1	29 8.9	20 6.1	8 2.4	11 3.4	5 1.5	15 4.6
在支診以外の診療所	223 100.0	126 56.5	53 23.8	12 5.4	10 4.5	8 3.6	3 1.3	1 0.4	10 4.5
機能強化型在支病(単独型)	19 100.0	3 15.8	6 31.6	0 0.0	2 10.5	0 0.0	1 5.3	4 21.1	3 15.8
機能強化型在支病(連携型)	39 100.0	6 15.4	13 33.3	4 10.3	1 2.6	1 2.6	2 5.1	11 28.2	1 2.6
在支病	75 100.0	17 22.7	20 26.7	6 8.0	5 6.7	4 5.3	2 2.7	16 21.3	5 6.7

6か月間の歯科医療機関連携加算の算定回数をみると、機能強化型在支診（単独型）では平均0.0回（中央値0.0）、機能強化型在支診（連携型）では平均0.1回（中央値0.0）、在支診では平均0.0回（中央値0.0）、在支診以外の診療所では平均0.0回（中央値0.0）、機能強化型在支病（単独型）では平均0.5回（中央値0.0）、機能強化型在支病（連携型）では平均0.6回（中央値0.0）、在支病では平均0.0回（中央値0.0）であった。

図表 131 歯科医療機関連携加算の算定回数（平成28年4月～9月6か月間）

(単位：回)

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	9	0.0	—	0.0
機能強化型在支診(連携型)	50	0.1	0.6	0.0
在支診	245	0.0	0.3	0.0
在支診以外の診療所	184	0.0	—	0.0
機能強化型在支病(単独型)	15	0.5	2.1	0.0
機能強化型在支病(連携型)	31	0.6	3.6	0.0
在支病	63	0.0	0.1	0.0

(注) 歯科医療機関連携加算の算定回数について記入のあった施設を集計対象とした。

図表 132 歯科医療機関連携加算の算定回数別分布（平成28年4月～9月6か月間）

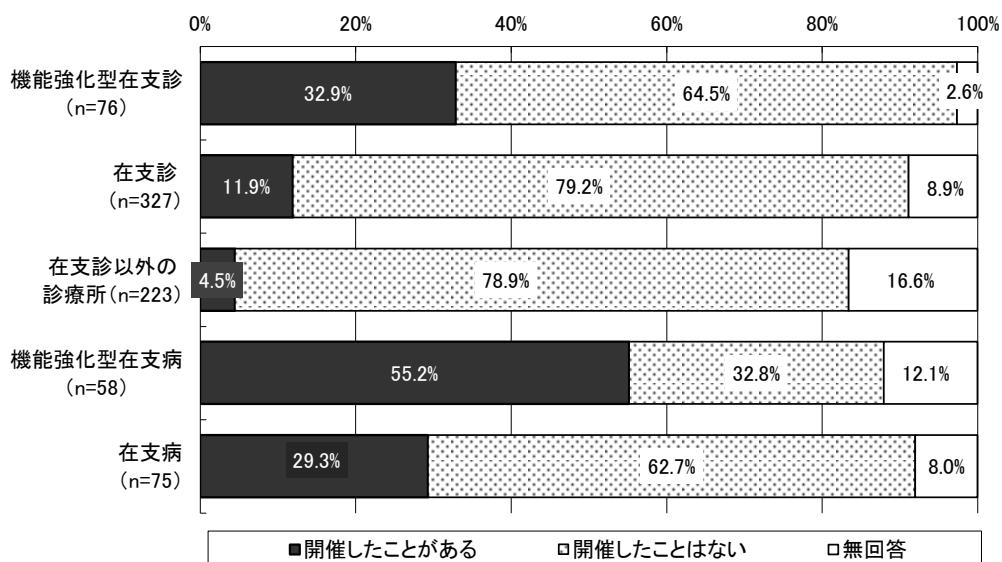
(単位：上段「件」、下段「%」)

	総数	0回	1回	2回	3回	4回	5回以上	無回答
機能強化型在支診(単独型)	10 100.0	9 90.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 10.0
機能強化型在支診(連携型)	66 100.0	49 74.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 1.5	0 0.0	16 24.2
在支診	327 100.0	240 73.4	1 0.3	4 1.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	82 25.1
在支診以外の診療所	223 100.0	184 82.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	39 17.5
機能強化型在支病(単独型)	19 100.0	14 73.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 5.3	4 21.1
機能強化型在支病(連携型)	39 100.0	30 76.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 2.6	8 20.5
在支病	75 100.0	62 82.7	1 1.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	12 16.0

#### ⑫自院が主体となって開催した医療・介護の連携のための会議の有無

自院が主体となって開催した医療・介護の連携のための会議の有無をみると、「開催したことがある」の割合は、機能強化型在支診が32.9%、在支診が11.9%、在支診以外の診療所が4.5%、機能強化型在支病が55.2%、在支病が29.3%であった。

図表 133 自院が主体となって開催したことのある医療・介護の連携のための会議の有無



図表 134 自院が主体となって開催した医療・介護の連携のための会議の開催数  
(会議を開催している施設、6か月間)

(単位：回)

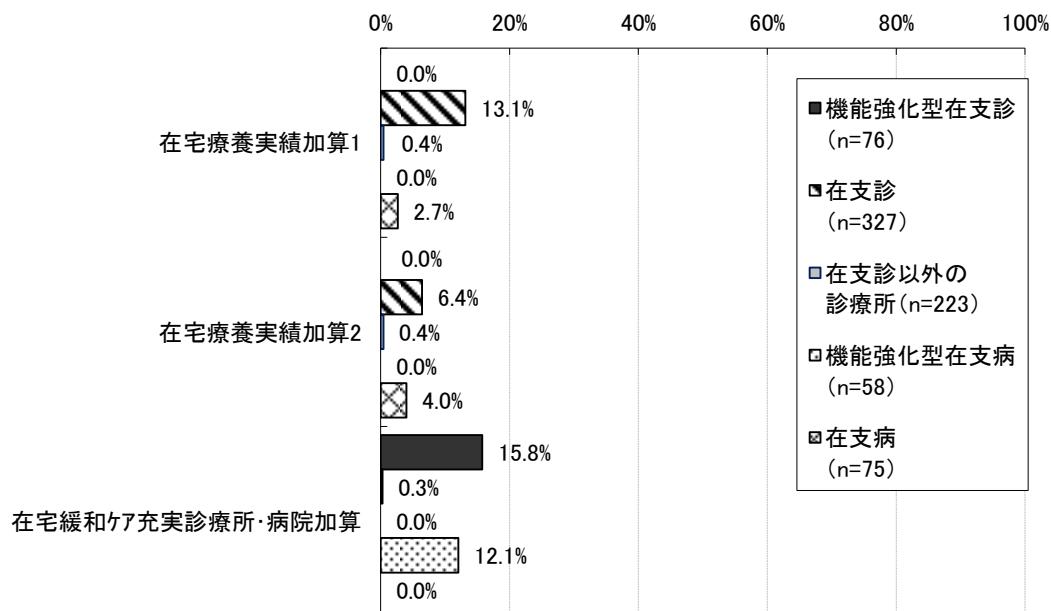
	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	4	3.3	1.9	2.5
機能強化型在支診(連携型)	20	8.3	10.9	6.0
在支診	36	3.6	4.5	2.0
在支診以外の診療所	9	2.1	1.6	2.0
機能強化型在支病(単独型)	9	7.1	6.9	6.0
機能強化型在支病(連携型)	21	5.5	3.2	6.0
在支病	22	14.3	22.4	5.0

(注) 平成28年4月～9月の開催数について記入のあった施設を集計対象とした。

### ⑬届出のある施設基準

届出のある施設基準をみると、在支診では「在宅療養実績加算1」については13.1%、「在宅療養実績加算2」については6.4%が施設基準の届出があった。「在宅緩和ケア充実診療所・病院加算」について届出があるのは、機能強化型在支診では15.8%、機能強化型在支病では12.1%であった。

図表 135 届出のある施設基準（複数回答）



#### ⑯1か月の算定実績等

##### 1) 在宅患者訪問看護・指導料、同一建物居住者訪問看護・指導料

平成28年9月1か月間の在宅患者訪問看護・指導料、同一建物居住者訪問看護・指導料の算定患者数（実人数）をみると、機能強化型在支病（単独型）は平均9.0人（中央値0.0）、機能強化型在支病（連携型）は平均6.9人（中央値0.0）であった。

図表 136 平成28年9月1か月間の在宅患者訪問看護・指導料、同一建物居住者  
訪問看護・指導料の算定患者数（実人数）

（単位：人）

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	10	1.9	4.7	0.0
機能強化型在支診(連携型)	56	1.1	4.3	0.0
在支診	247	1.7	5.3	0.0
在支診以外の診療所	137	0.5	1.9	0.0
機能強化型在支病(単独型)	17	9.0	22.8	0.0
機能強化型在支病(連携型)	29	6.9	22.8	0.0
在支病	65	1.7	5.4	0.0

（注）平成28年9月1か月間の在宅患者訪問看護・指導料、同一建物居住者訪問看護・指導料の算定患者数について記入のあった施設を集計対象とした。

図表 137 平成28年9月1か月間の在宅患者訪問看護・指導料、同一建物居住者  
訪問看護・指導料の算定患者数（実人数）別分布

（単位：上段「件」、下段「%」）

	総数	0人	1人	2人	3人	4人	5人以上	無回答
機能強化型在支診(単独型)	10 100.0	6 60.0	2 20.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	1 10.0	0 0.0
機能強化型在支診(連携型)	66 100.0	43 65.2	6 9.1	1 1.5	1 1.5	1 1.5	4 6.1	10 15.2
在支診	327 100.0	178 54.4	19 5.8	11 3.4	7 2.1	5 1.5	27 8.3	80 24.5
在支診以外の診療所	223 100.0	119 53.4	8 3.6	3 1.3	1 0.4	0 0.0	6 2.7	86 38.6
機能強化型在支病(単独型)	19 100.0	12 63.2	1 5.3	0 0.0	0 0.0	1 5.3	3 15.8	2 10.5
機能強化型在支病(連携型)	39 100.0	20 51.3	3 7.7	0 0.0	1 2.6	1 2.6	4 10.3	10 25.6
在支病	75 100.0	51 68.0	3 4.0	3 4.0	2 2.7	0 0.0	6 8.0	10 13.3

平成 28 年 9 月 1 か月間の在宅患者訪問看護・指導料、同一建物居住者訪問看護・指導料の算定回数をみると、機能強化型在支病（単独型）は平均 13.6 回（中央値 0.0）、機能強化型在支病（連携型）は平均 73.9 回（中央値 0.0）であった。

図表 138 平成 28 年 9 月 1 か月間の在宅患者訪問看護・指導料、同一建物居住者  
訪問看護・指導料の算定回数

（単位：回）

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	10	3.1	5.2	0.0
機能強化型在支診(連携型)	56	1.7	6.2	0.0
在支診	247	4.6	17.9	0.0
在支診以外の診療所	137	1.1	4.3	0.0
機能強化型在支病(単独型)	17	13.6	29.2	0.0
機能強化型在支病(連携型)	29	73.9	255.3	0.0
在支病	65	7.7	22.4	0.0

（注）平成 28 年 9 月 1 か月間の在宅患者訪問看護・指導料、同一建物居住者訪問看護・指導料の算定患者数について記入のあった施設を集計対象とした。

図表 139 平成 28 年 9 月 1 か月間の在宅患者訪問看護・指導料、同一建物居住者  
訪問看護・指導料の算定回数別分布

（単位：上段「件」、下段「%」）

	総数	0回	1回	2回	3回	4回	5回以上	無回答
機能強化型在支診(単独型)	10 100.0	6 60.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 30.0	0 0.0
機能強化型在支診(連携型)	66 100.0	43 65.2	4 6.1	1 1.5	2 3.0	0 0.0	6 9.1	10 15.2
在支診	327 100.0	178 54.4	7 2.1	11 3.4	4 1.2	3 0.9	44 13.5	80 24.5
在支診以外の診療所	223 100.0	119 53.4	3 1.3	2 0.9	1 0.4	1 0.4	11 4.9	86 38.6
機能強化型在支病(単独型)	19 100.0	12 63.2	1 5.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 21.1	2 10.5
機能強化型在支病(連携型)	39 100.0	20 51.3	2 5.1	1 2.6	0 0.0	0 0.0	6 15.4	10 25.6
在支病	75 100.0	51 68.0	2 2.7	2 2.7	0 0.0	0 0.0	10 13.3	10 13.3

## 2) 精神科訪問看護・指導料（I・IIIのみ）

平成28年9月1か月間の精神科訪問看護・指導料（I・IIIのみ）の算定患者数をみると、機能強化型在支病（連携型）は平均3.5人（中央値0.0）であったが、他の施設では平均値が1.0未満であり、中央値も0.0であった。

図表 140 平成28年9月1か月間の精神科訪問看護・指導料（I・IIIのみ）の  
算定患者数（実人数）

(単位：人)

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	10	0.9	2.8	0.0
機能強化型在支診(連携型)	56	0.0	-	0.0
在支診	247	0.3	3.8	0.0
在支診以外の診療所	137	0.1	1.7	0.0
機能強化型在支病(単独型)	17	0.7	2.9	0.0
機能強化型在支病(連携型)	29	3.5	16.3	0.0
在支病	65	0.0	-	0.0

(注) 平成28年9月1か月間の精神科訪問看護・指導料（I・IIIのみ）の算定患者数について  
記入のあった施設を集計対象とした。

図表 141 平成28年9月1か月間の精神科訪問看護・指導料（I・IIIのみ）の  
算定患者数（実人数）別分布

(単位：上段「件」、下段「%」)

	総数	0人	1人	2人	3人	4人	5人以上	無回答
機能強化型在支診(単独型)	10 100.0	9 90.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 10.0	0 0.0
機能強化型在支診(連携型)	66 100.0	56 84.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	10 15.2
在支診	327 100.0	245 74.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 0.3	1 0.3	80 24.5
在支診以外の診療所	223 100.0	136 61.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 0.4	86 38.6
機能強化型在支病(単独型)	19 100.0	16 84.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 5.3	2 10.5
機能強化型在支病(連携型)	39 100.0	27 69.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 5.1	10 25.6
在支病	75 100.0	65 86.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	10 13.3

平成 28 年 9 月 1 か月間の精神科訪問看護・指導料（I・IIIのみ）の算定回数をみると、機能強化型在支病（連携型）は平均 18.1 回（中央値 0.0）であったが、他の施設では平均値が 1.0 未満であり、中央値も 0.0 であった。

図表 142 平成 28 年 9 月 1 か月間の精神科訪問看護・指導料（I・IIIのみ）の算定回数

(単位：回)

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	10	0.9	2.8	0.0
機能強化型在支診(連携型)	56	0.0	—	0.0
在支診	247	0.3	3.9	0.0
在支診以外の診療所	137	0.2	2.3	0.0
機能強化型在支病(単独型)	17	0.8	3.4	0.0
機能強化型在支病(連携型)	29	18.1	94.6	0.0
在支病	65	0.0	—	0.0

(注) 平成 28 年 9 月 1 か月間の精神科訪問看護・指導料（I・IIIのみ）の算定回数について  
記入のあった施設を集計対象とした。

図表 143 平成 28 年 9 月 1 か月間の精神科訪問看護・指導料（I・IIIのみ）の  
算定回数別分布

(単位：上段「件」、下段「%」)

	総数	0回	1回	2回	3回	4回	5回以上	無回答
機能強化型在支診(単独型)	10 100.0	9 90.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 10.0	0 0.0
機能強化型在支診(連携型)	66 100.0	56 84.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	10 15.2
在支診	327 100.0	245 74.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 0.6	80 24.5
在支診以外の診療所	223 100.0	136 61.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 0.4	86 38.6
機能強化型在支病(単独型)	19 100.0	16 84.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 5.3	2 10.5
機能強化型在支病(連携型)	39 100.0	27 69.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 5.1	10 25.6
在支病	75 100.0	65 86.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	10 13.3

### ⑯1か月の交付件数

#### 1) 訪問看護指示書

平成 28 年 9 月 1 か月間の訪問看護指示書の交付件数をみると、機能強化型在支診（単独型）では平均 33.9 件（中央値 12.5）、機能強化型在支診（連携型）では平均 26.6 件（中央値 14.0）、在支診では平均 7.8 件（中央値 3.0）、在支診以外の診療所では平均 3.6 件（中央値 2.0）、機能強化型在支病（単独型）では平均 66.1 件（中央値 31.5）、機能強化型在支病（連携型）では平均 30.5 件（中央値 15.0）、在支病では平均 15.4 件（中央値 5.0）であった。

図表 144 平成 28 年 9 月 1 か月間の訪問看護指示書の交付件数

（単位：件）

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	10	33.9	42.0	12.5
機能強化型在支診(連携型)	64	26.6	35.7	14.0
在支診	288	7.8	16.8	3.0
在支診以外の診療所	177	3.6	7.5	2.0
機能強化型在支病(単独型)	18	66.1	135.3	31.5
機能強化型在支病(連携型)	36	30.5	33.8	15.0
在支病	71	15.4	30.8	5.0

(注) 平成 28 年 9 月 1 か月間の訪問看護指示書の交付件数について記入のあった施設を集計対象とした。

図表 145 平成 28 年 9 月 1 か月間の訪問看護指示書の交付件数別分布

（単位：上段「件」、下段「%」）

	総数	0 回	1～9 回	10～19 回	20～29 回	30～39 回	40～49 回	50 回以上	無回答
機能強化型在支診(単独型)	10 100.0	1 10.0	3 30.0	2 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 40.0	0 0.0
機能強化型在支診(連携型)	66 100.0	5 7.6	20 30.3	14 21.2	6 9.1	4 6.1	6 9.1	9 13.6	2 3.0
在支診	327 100.0	72 22.0	156 47.7	31 9.5	14 4.3	5 1.5	3 0.9	7 2.1	39 11.9
在支診以外の診療所	223 100.0	59 26.5	105 47.1	7 3.1	1 0.4	3 1.3	1 0.4	1 0.4	46 20.6
機能強化型在支病(単独型)	19 100.0	1 5.3	2 10.5	1 5.3	5 26.3	1 5.3	3 15.8	5 26.3	1 5.3
機能強化型在支病(連携型)	39 100.0	3 7.7	11 28.2	5 12.8	3 7.7	4 10.3	1 2.6	9 23.1	3 7.7
在支病	75 100.0	11 14.7	32 42.7	13 17.3	5 6.7	4 5.3	2 2.7	4 5.3	4 5.3

## 2) 特別訪問看護指示書

平成 28 年 9 月 1 か月間の特別訪問看護指示書の交付件数をみると、機能強化型在支診(単独型)では平均 1.2 件(中央値 0.0)、機能強化型在支診(連携型)では平均 1.6 件(中央値 0.0)、在支診では平均 1.0 件(中央値 0.0)、在支診以外の診療所では平均 0.4 件(中央値 0.0)、機能強化型在支病(単独型)では平均 2.4 件(中央値 1.0)、機能強化型在支病(連携型)では平均 3.0 件(中央値 1.0)、在支病では平均 0.6 件(中央値 0.0)であった。

図表 146 平成 28 年 9 月 1 か月間の特別訪問看護指示書の交付件数

(単位：件)

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	10	1.2	2.2	0.0
機能強化型在支診(連携型)	58	1.6	3.0	0.0
在支診	230	1.0	4.6	0.0
在支診以外の診療所	133	0.4	1.2	0.0
機能強化型在支病(単独型)	17	2.4	5.4	1.0
機能強化型在支病(連携型)	32	3.0	5.6	1.0
在支病	64	0.6	2.0	0.0

(注) 平成 28 年 9 月 1 か月間の特別訪問看護指示書の交付件数について記入のあった施設を集計対象とした。

図表 147 平成 28 年 9 月 1 か月間の特別訪問看護指示書の交付件数別分布

(単位：上段「件」、下段「%」)

	総数	0 件	1 件	2 件	3 件	4 件	5 件以上	無回答
機能強化型在支診(単独型)	10 100.0	6 60.0	1 10.0	2 20.0	0 0.0	0 0.0	1 10.0	0 0.0
機能強化型在支診(連携型)	66 100.0	31 47.0	10 15.2	8 12.1	1 1.5	2 3.0	6 9.1	8 12.1
在支診	327 100.0	168 51.4	26 8.0	14 4.3	11 3.4	1 0.3	10 3.1	97 29.7
在支診以外の診療所	223 100.0	109 48.9	17 7.6	4 1.8	0 0.0	0 0.0	3 1.3	90 40.4
機能強化型在支病(単独型)	19 100.0	5 26.3	7 36.8	2 10.5	1 5.3	1 5.3	1 5.3	2 10.5
機能強化型在支病(連携型)	39 100.0	10 25.6	9 23.1	5 12.8	1 2.6	0 0.0	7 17.9	7 17.9
在支病	75 100.0	49 65.3	6 8.0	7 9.3	0 0.0	0 0.0	2 2.7	11 14.7

### 3) 精神科訪問看護指示書

平成 28 年 9 月 1 か月間の精神科訪問看護指示書の交付件数は、以下のとおりであった。

図表 148 平成 28 年 9 月 1 か月間の精神科訪問看護指示書の交付件数

(単位：件)

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	9	0.0	-	0.0
機能強化型在支診(連携型)	53	0.7	5.4	0.0
在支診	217	0.1	0.9	0.0
在支診以外の診療所	124	0.2	1.8	0.0
機能強化型在支病(単独型)	16	0.3	0.9	0.0
機能強化型在支病(連携型)	26	0.3	1.4	0.0
在支病	62	0.0	0.1	0.0

(注) 平成 28 年 9 月 1 か月間の精神科訪問看護指示書の交付件数について記入のあった施設を集計対象とした。

### 4) 精神科特別訪問看護指示書

平成 28 年 9 月 1 か月間の精神科特別訪問看護指示書の交付件数は、以下のとおりであった。

図表 149 平成 28 年 9 月 1 か月間の精神科特別訪問看護指示書の交付件数

(単位：件)

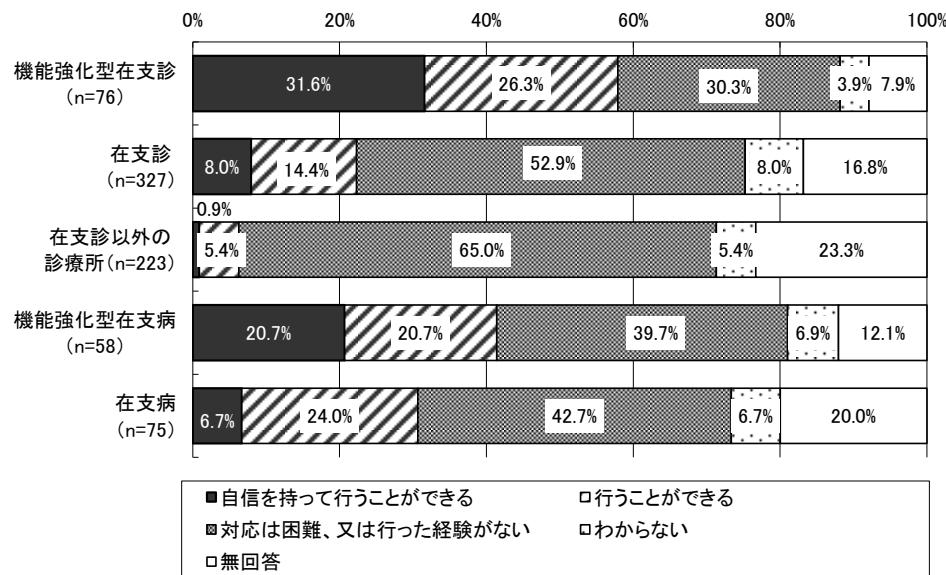
	施設数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型在支診(単独型)	9	0.0	-	0.0
機能強化型在支診(連携型)	53	0.0	-	0.0
在支診	216	0.0	-	0.0
在支診以外の診療所	123	0.0	0.2	0.0
機能強化型在支病(単独型)	16	0.0	-	0.0
機能強化型在支病(連携型)	26	0.0	-	0.0
在支病	62	0.0	-	0.0

(注) 平成 28 年 9 月 1 か月間の精神科特別訪問看護指示書の交付件数について記入のあった施設を集計対象とした。

### ⑯治療に対する状況

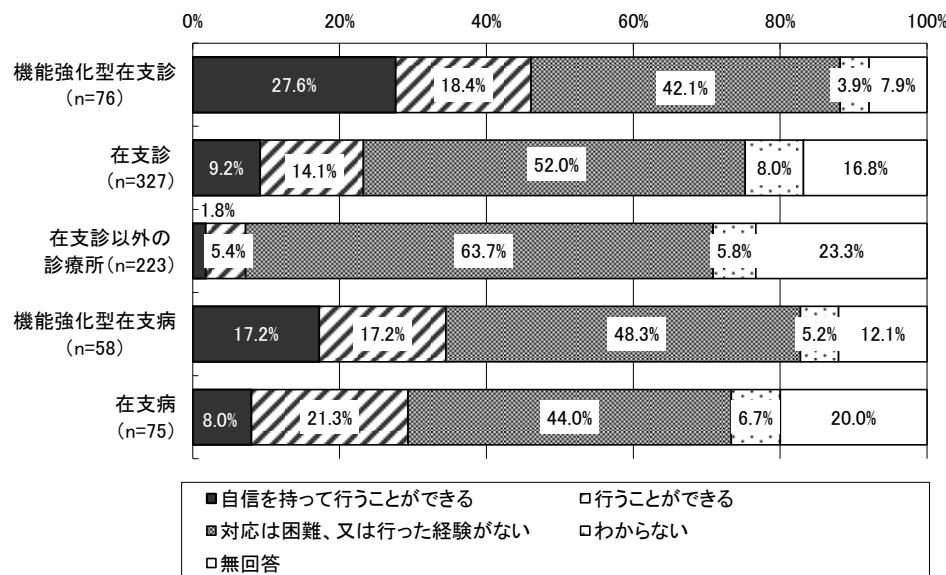
治療に対する状況としてモルヒネの持続皮下注射をみると、「自信を持って行うことができる」の割合は、機能強化型在支診では 31.6%、在支診では 8.0%、在支診以外の診療所では 0.9%、機能強化型在支病では 20.7%、在支病では 6.7% であった。一方、「対応は困難、又は行った経験がない」の割合は、機能強化型在支診では 30.3%、在支診では 52.9%、在支診以外の診療所では 65.0%、機能強化型在支病では 39.7%、在支病では 42.7% であった。

図表 150 治療に対する状況～モルヒネの持続皮下注射～



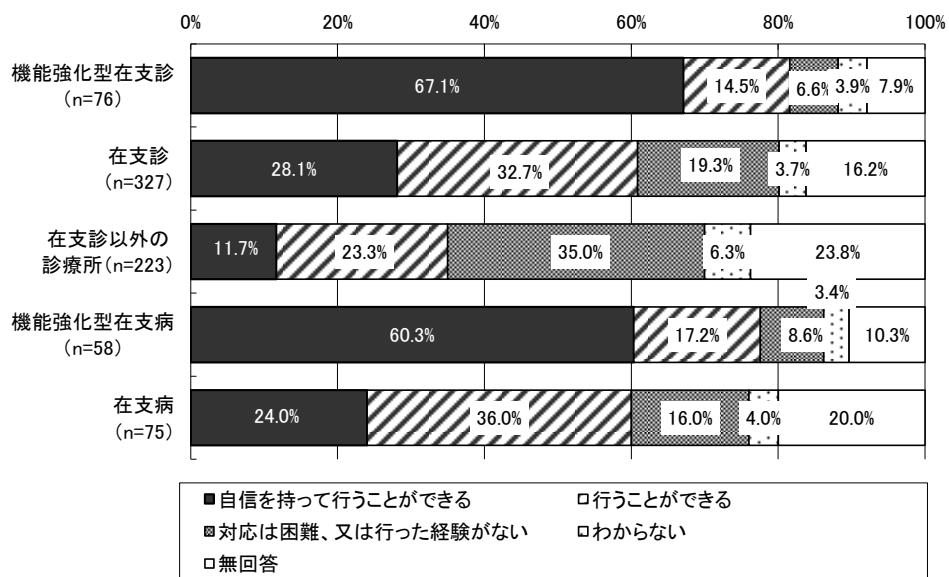
治療に対する状況として鎮静薬の持続皮下注射をみると、「自信を持って行うことができる」の割合は、機能強化型在支診では 27.6%、在支診では 9.2%、在支診以外の診療所では 1.8%、機能強化型在支病では 17.2%、在支病では 8.0% であった。一方、「対応は困難、又は行った経験がない」の割合は、機能強化型在支診では 42.1%、在支診では 52.0%、在支診以外の診療所では 63.7%、機能強化型在支病では 48.3%、在支病では 44.0% であった。

図表 151 治療に対する状況～鎮静薬の持続皮下注射～



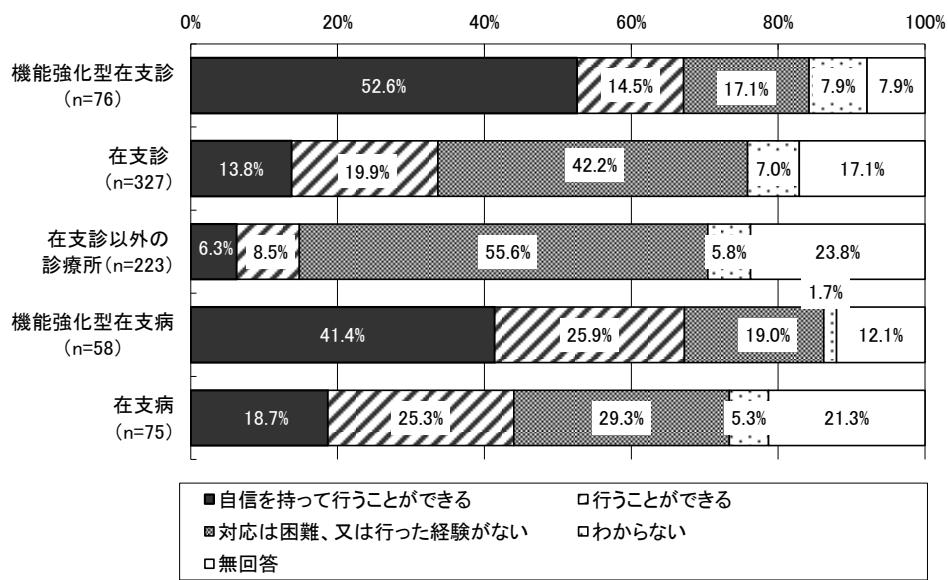
治療に対する状況として経口麻薬の投与をみると、「自信を持って行うことができる」の割合は、機能強化型在支診では 67.1%、在支診では 28.1%、在支診以外の診療所では 11.7%、機能強化型在支病では 60.3%、在支病では 24.0% であった。一方、「対応は困難、又は行った経験がない」の割合は、機能強化型在支診では 6.6%、在支診では 19.3%、在支診以外の診療所では 35.0%、機能強化型在支病では 8.6%、在支病では 16.0% であった。

図表 152 治療に対する状況～経口麻薬の投与～



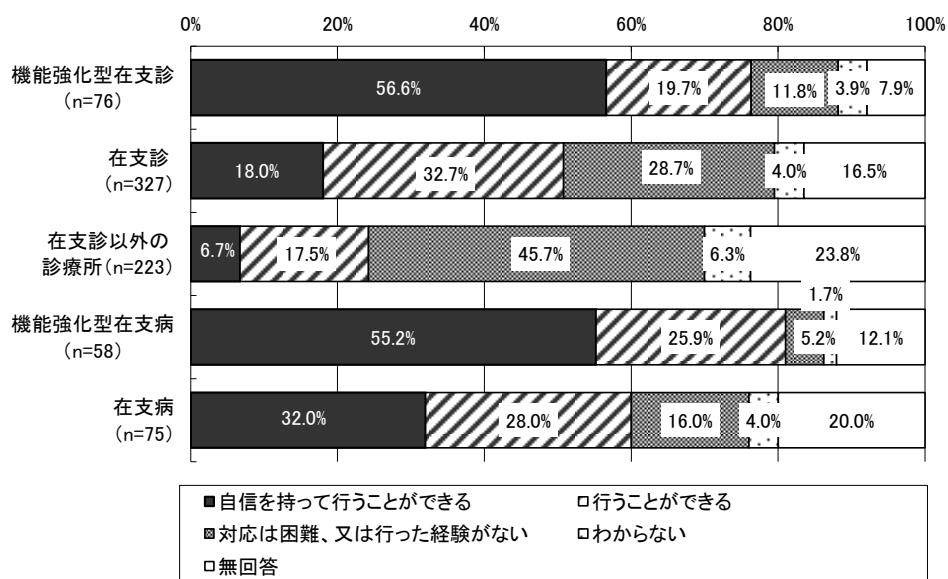
治療に対する状況として皮下輸液をみると、「自信を持って行うことができる」の割合は、機能強化型在支診では 52.6%、在支診では 13.8%、在支診以外の診療所では 6.3%、機能強化型在支病では 41.4%、在支病では 18.7% であった。一方、「対応は困難、又は行った経験がない」の割合は、機能強化型在支診では 17.1%、在支診では 42.2%、在支診以外の診療所では 55.6%、機能強化型在支病では 19.0%、在支病では 29.3% であった。

図表 153 治療に対する状況～皮下輸液～



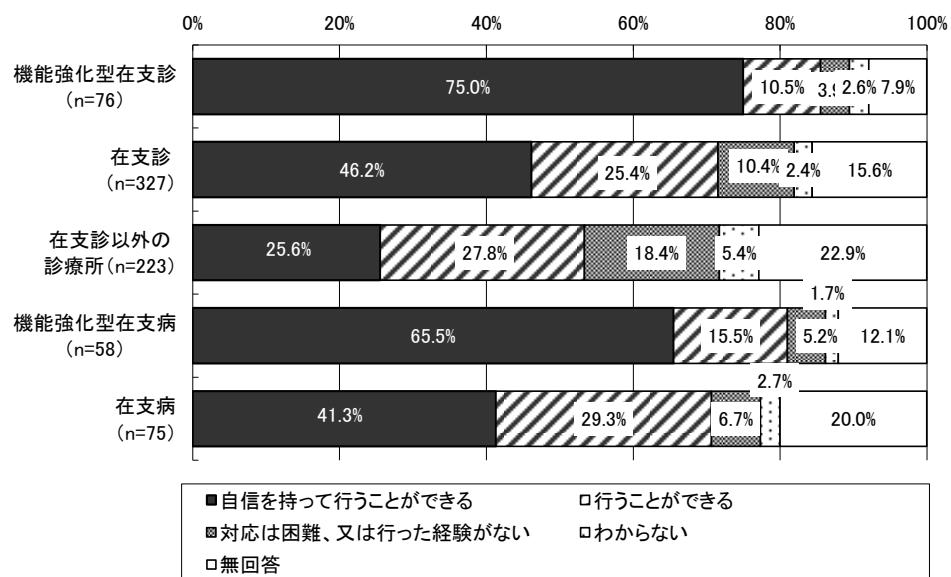
治療に対する状況として中心静脈栄養・ポート管理をみると、「自信を持って行うことができる」の割合は、機能強化型在支診では 56.6%、在支診では 18.0%、在支診以外の診療所では 6.7%、機能強化型在支病では 55.2%、在支病では 32.0% であった。機能強化型在支診、機能強化型在支病では「自信を持って行うことができる」が 5 割を大きく超えた。一方、「対応は困難、又は行った経験がない」の割合は、機能強化型在支診では 11.8%、在支診では 28.7%、在支診以外の診療所では 45.7%、機能強化型在支病では 5.2%、在支病では 16.0% であった。

図表 154 治療に対する状況～中心静脈栄養・ポート管理～



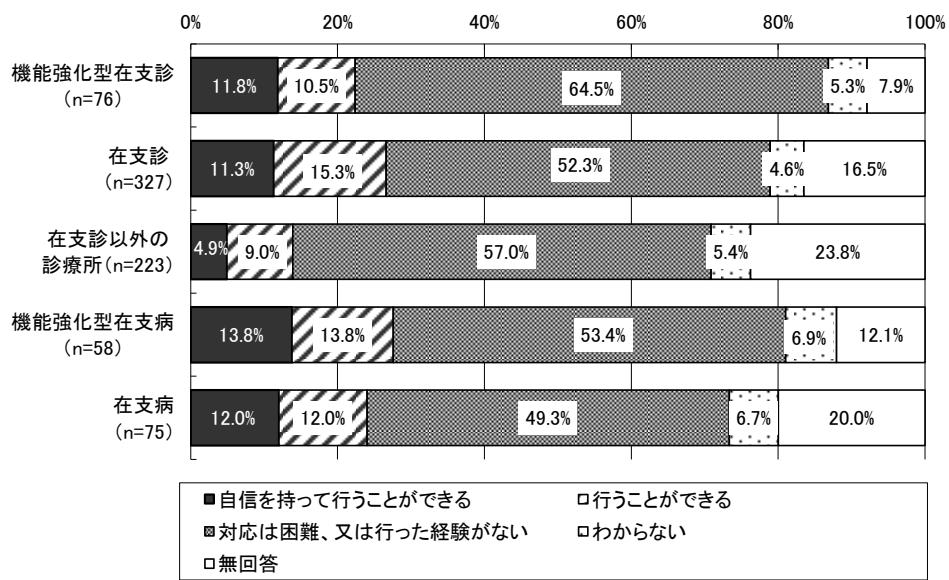
治療に対する状況として抹消静脈点滴をみると、「自信を持って行うことができる」の割合は、機能強化型在支診では 75.0%、在支診では 46.2%、在支診以外の診療所では 25.6%、機能強化型在支病では 65.5%、在支病では 41.3% であった。機能強化型在支診、機能強化型在支病では「自信を持って行うことができる」が 6 割を大きく超えた。一方、「対応は困難、又は行った経験がない」の割合は、機能強化型在支診では 3.9%、在支診では 10.4%、在支診以外の診療所では 18.4%、機能強化型在支病では 5.2%、在支病では 6.7% であった。

図表 155 治療に対する状況～抹消静脈点滴～



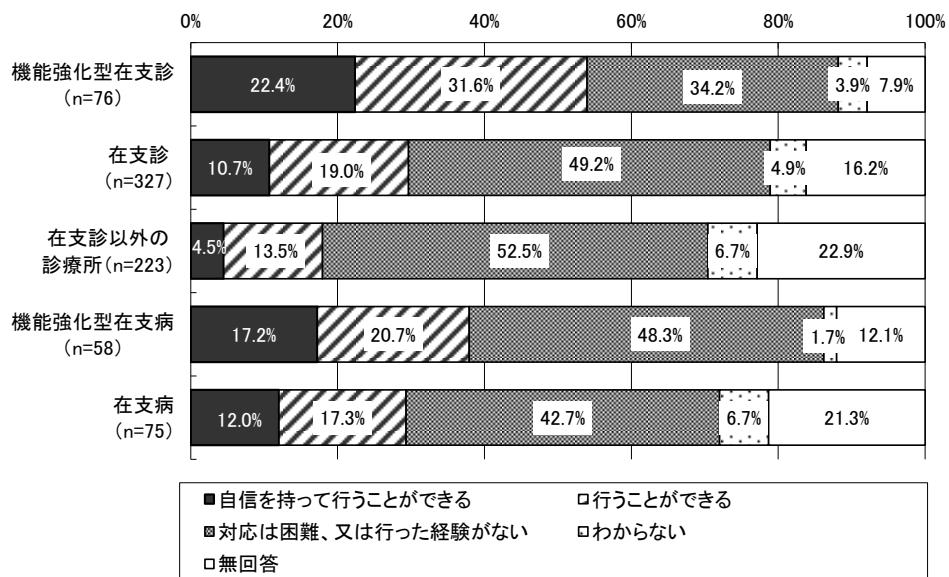
治療に対する状況として輸血をみると、「自信を持って行うことができる」の割合は、機能強化型在支診では 11.8%、在支診では 11.3%、在支診以外の診療所では 4.9%、機能強化型在支病では 13.8%、在支病では 12.0% であった。一方、「対応は困難、又は行った経験がない」の割合は、機能強化型在支診では 64.5%、在支診では 52.3%、在支診以外の診療所では 57.0%、機能強化型在支病では 53.4%、在支病では 49.3% であった。

図表 156 治療に対する状況～輸血～



治療に対する状況として胸水穿刺、腹水穿刺をみると、「自信を持って行うことができる」の割合は、機能強化型在支診では 22.4%、在支診では 10.7%、在支診以外の診療所では 4.5%、機能強化型在支病では 17.2%、在支病では 12.0% であった。一方、「対応は困難、又は行った経験がない」の割合は、機能強化型在支診では 34.2%、在支診では 49.2%、在支診以外の診療所では 52.5%、機能強化型在支病では 48.3%、在支病では 42.7% であった。

図表 157 治療に対する状況～胸水穿刺、腹水穿刺～



## (5) 訪問診療を受けている患者の状況等（「患者調査」）

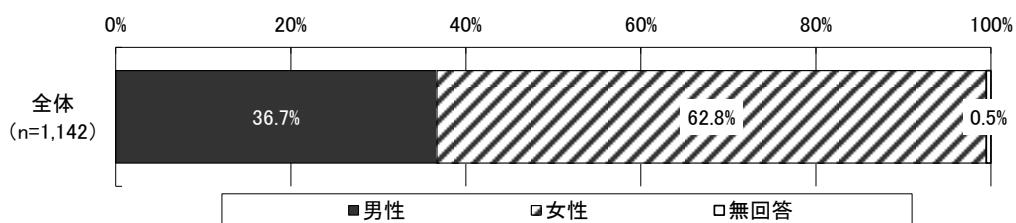
- 平成 28 年 10 月 16 日～10 月 31 日に、最初に訪問した患者と最後に訪問した患者、合計 2 名を調査対象とした。
- 結果、1,142 名分の患者票を回収した。

## ①基本属性等

## 1) 性別

患者の性別をみると、「男性」が 36.7%、「女性」が 62.8% であった。

図表 158 性別



## 2) 年齢

年齢をみると、平均 83.1 歳（中央値 86.0）であった。男性は平均 79.2 歳（中央値 82.0）で、女性は平均 85.4 歳（中央値 88.0）であり、女性のほうが年齢が高かった。

また、年齢階級別患者分布は、全体では「85～89 歳」（23.1%）が最も多く、次いで「90～94 歳」（20.3%）、「80～84 歳」（17.2%）であった。また、男性は女性と比較して 84 歳以下の各年齢階級では割合が高く、85 歳以上の各年齢階級で低かった。

図表 159 年齢

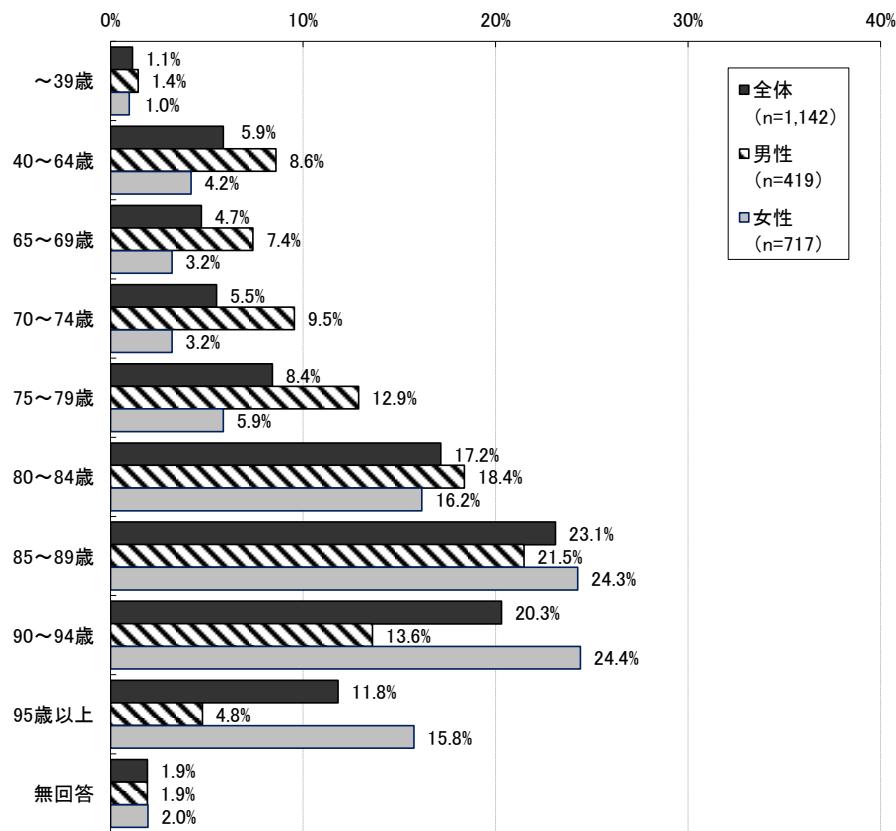
(単位：歳)

	人数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,120	83.1	12.9	86.0
男性	411	79.2	13.3	82.0
女性	703	85.4	12.1	88.0

(注)・年齢について記入のあったものを集計対象とした。

・「全体」には性別が不明のもの 6 人分が含まれる。

図表 160 年齢階級別患者分布（男女別）



(注) 「全体」には性別が不明のもの 6 人分が含まれる。

図表 161 平均年齢（訪問医療機関別）

(単位：歳)

	患者数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,120	83.1	12.9	86.0
機能強化型在支診(単独型)	20	81.4	17.4	84.5
機能強化型在支診(連携型)	123	81.4	15.3	85.0
在支診	496	83.6	11.7	86.0
在支診以外の診療所	244	82.9	13.9	85.0
機能強化型在支病(単独型)	38	82.4	9.9	84.0
機能強化型在支病(連携型)	72	82.5	16.0	87.0
在支病	119	84.0	11.6	86.0

(注) ・年齢について記入のあったものを集計対象とした。

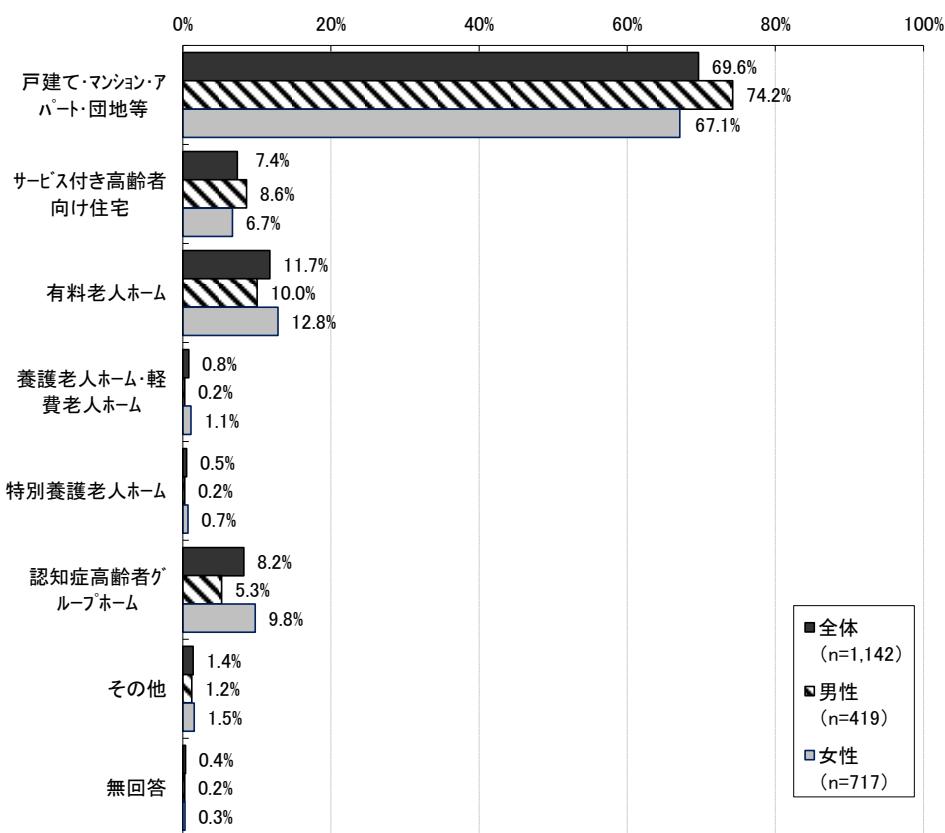
・「全体」には訪問医療機関が不明のもの 8 人分が含まれる。

### 3) 患者の居住場所

患者の居住場所をみると、全体では「戸建て・マンション・アパート・団地等」(69.6%)が最も多く、次いで「有料老人ホーム」(11.7%)、「認知症高齢者グループホーム」(8.2%)、「サービス付き高齢者向け住宅」(7.4%)となった。

また、男女別にみると、男性は女性と比較して「戸建て・マンション・アパート・団地等」の割合が7.1ポイント高く、女性は男性と比較して「認知症高齢者グループホーム」の割合が4.5ポイント高かった。

図表 162 患者の居住場所（男女別、単数回答）



(注)・「全体」には性別が不明のもの6人分が含まれる。

・「その他」の内容として、「小規模多機能事業所」、「宅老所」、「障害者集合住宅」、「短期入所施設」等が挙げられた。

年齢階級別に患者の居住場所をみると、いずれの年齢階級でも「戸建て・マンション・アパート・団地等」が最も多かった。85～89歳では「サービス付き高齢者向け住宅」、「有料老人ホーム」の割合が他の年齢階級と比較して高かった。85歳以上の年齢階級では「認知症高齢者グループホーム」の割合が1割程度となった。

図表 163 患者の居住場所（年齢階級別、単数回答）

(単位：上段「人」、下段「%」)

	総数	戸建て・マ ンション・ア パート・団 地等	サービス付 き高齢者 向け 住宅	有料老人 ホーム	養護老人 ホーム・輕 費老人ホ ーム	特別養護 老人ホーム	認知症高 齢者 グループ ホーム	その他	無回答
全体	1,142	795	84	134	9	6	94	16	4
	100.0	69.6	7.4	11.7	0.8	0.5	8.2	1.4	0.4
～39歳	13	13	0	0	0	0	0	0	0
	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
40～64歳	67	60	3	2	0	0	0	0	2
	100.0	89.6	4.5	3.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0
65～74歳	117	93	10	9	0	0	3	2	0
	100.0	79.5	8.5	7.7	0.0	0.0	2.6	1.7	0.0
75～79歳	96	77	6	9	0	0	4	0	0
	100.0	80.2	6.3	9.4	0.0	0.0	4.2	0.0	0.0
80～84歳	196	139	12	22	1	1	19	1	1
	100.0	70.9	6.1	11.2	0.5	0.5	9.7	0.5	0.5
85～89歳	264	159	24	40	3	0	31	6	1
	100.0	60.2	9.1	15.2	1.1	0.0	11.7	2.3	0.4
90～94歳	232	145	21	34	3	2	22	5	0
	100.0	62.5	9.1	14.7	1.3	0.9	9.5	2.2	0.0
95歳以上	135	93	8	15	0	2	15	2	0
	100.0	68.9	5.9	11.1	0.0	1.5	11.1	1.5	0.0

(注)・「全体」には年齢が不明のもの22人分が含まれる。

- ・「その他」の内容として、「小規模多機能事業所」、「宅老所」、「障害者集合住宅」、「短期入所施設」等が挙げられた。

訪問医療機関別に患者の居住場所をみると、いずれの医療機関でも「戸建て・マンション・アパート・団地等」が最も多かった。特に、機能強化型在支病（単独型）と機能強化型在支診（単独型）では「戸建て・マンション・アパート・団地等」が8割以上となった。

図表 164 患者の居住場所（訪問医療機関別、単数回答）

(単位：上段「人」、下段「%」)

	総数	戸建て・マンション・アパート・団地等	サービス付き高齢者向け住宅	有料老人ホーム	養護老人ホーム・軽費老人ホーム	特別養護老人ホーム	認知症高齢者グループホーム	その他	無回答
全体	1,142	795	84	134	9	6	94	16	4
	100.0	69.6	7.4	11.7	0.8	0.5	8.2	1.4	0.4
機能強化型在支診 (単独型)	20	16	1	0	0	0	2	1	0
	100.0	80.0	5.0	0.0	0.0	0.0	10.0	5.0	0.0
機能強化型在支診 (連携型)	126	95	7	12	0	1	11	0	0
	100.0	75.4	5.6	9.5	0.0	0.8	8.7	0.0	0.0
在支診	508	338	35	73	3	5	44	8	2
	100.0	66.5	6.9	14.4	0.6	1.0	8.7	1.6	0.4
在支診以外の診療所	250	193	16	22	3	0	13	3	0
	100.0	77.2	6.4	8.8	1.2	0.0	5.2	1.2	0.0
機能強化型在支病 (単独型)	38	33	2	2	0	0	0	1	0
	100.0	86.8	5.3	5.3	0.0	0.0	0.0	2.6	0.0
機能強化型在支病 (連携型)	72	49	7	11	2	0	3	0	0
	100.0	68.1	9.7	15.3	2.8	0.0	4.2	0.0	0.0
在支病	120	69	16	12	1	0	19	1	2
	100.0	57.5	13.3	10.0	0.8	0.0	15.8	0.8	1.7

(注)・「全体」には訪問医療機関が不明のもの8人分が含まれる。

- ・「その他」の内容として、「小規模多機能事業所」、「宅老所」、「障害者集合住宅」、「短期入所施設」等が挙げられた。

#### 4) 単一建物内に訪問診療を行っている患者数

患者の居住場所別に自院が単一建物内に訪問診療を行っている患者数をみると、「戸建て・マンション・アパート団地等」では「1人」が87.8%で最も多く、「サービス付き高齢者向け住宅」と「認知症高齢者グループホーム」では「2~9人」がそれぞれ47.6%、57.4%で最も多かった。「有料老人ホーム」では「10人以上」が50.7%で最も多かった。

図表 165 単一建物内に訪問診療を行っている患者数（居住場所別）

(単位：上段「人」、下段「%」)

	総数	1人	2~9人	10人以上	無回答
全体	1,142 100.0	747 65.4	216 18.9	141 12.3	38 3.3
戸建て・マンション・アパート・団地等	795 100.0	698 87.8	59 7.4	6 0.8	32 4.0
サービス付き高齢者向け住宅	84 100.0	16 19.0	40 47.6	26 31.0	2 2.4
有料老人ホーム	134 100.0	15 11.2	49 36.6	68 50.7	2 1.5
養護老人ホーム・軽費老人ホーム	9 100.0	1 11.1	4 44.4	3 33.3	1 11.1
特別養護老人ホーム	6 100.0	1 16.7	0 0.0	5 83.3	0 0.0
認知症高齢者グループホーム	94 100.0	10 10.6	54 57.4	29 30.9	1 1.1
その他	16 100.0	5 31.3	8 50.0	3 18.8	0 0.0

(注)・単一建物内に同じ医療機関の訪問診療を受けている患者数（当該患者を含める）。

・「全体」には居住場所が不明のもの4人分が含まれる。

訪問医療機関別に自院が单一建物内で訪問診療を行っている患者数をみると、在支診では「1人」の割合が62.6%と6割を超えており、他の診療所と比較するとやや低く、「2~9人」「10人以上」を合わせた割合が33.9%と患者の3分の1を占めた。同様に、在支病では「1人」の割合が53.3%と5割を超えており、他の病院と比較するとやや低く、「2~9人」「10人以上」を合わせた割合が44.2%と相対的に高かった。

図表 166 単一建物内で自院が訪問診療を行っている患者数（訪問医療機関別）

(単位：上段「人」、下段「%」)

	総数	1人	2~9人	10人以上	無回答
全体	1,142 100.0	747 65.4	216 18.9	141 12.3	38 3.3
機能強化型在支 診(単独型)	20 100.0	16 80.0	0 0.0	2 10.0	2 10.0
機能強化型在支 診(連携型)	126 100.0	88 69.8	18 14.3	17 13.5	3 2.4
在支診	508 100.0	318 62.6	108 21.3	64 12.6	18 3.5
在支診以外の診 療所	250 100.0	186 74.4	40 16.0	20 8.0	4 1.6
機能強化型在支 病(単独型)	38 100.0	31 81.6	2 5.3	4 10.5	1 2.6
機能強化型在支 病(連携型)	72 100.0	40 55.6	11 15.3	14 19.4	7 9.7
在支病	120 100.0	64 53.3	35 29.2	18 15.0	3 2.5

(注)・単一建物内に同じ医療機関の訪問診療を受けている患者数（当該患者を含める）。

・「全体」には訪問医療機関が不明のもの8人分が含まれる。

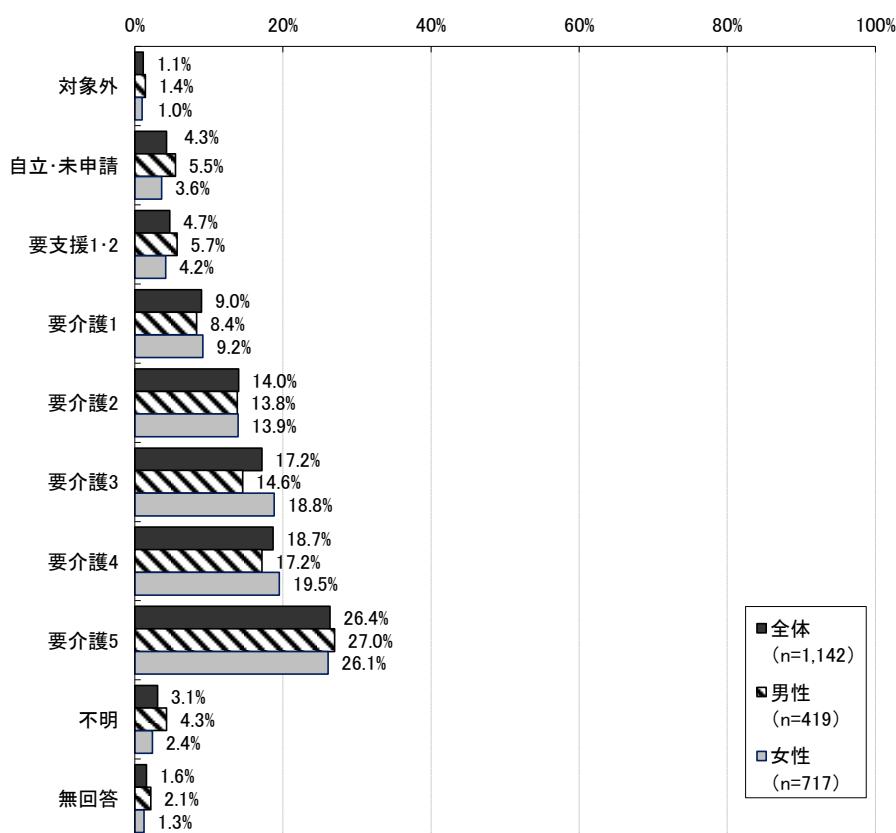
## ②患者の状態等

### 1) 要介護度

要介護度をみると、全体では「要介護 5」(26.4%) が最も多く、次いで「要介護 4」(18.7%)、「要介護 3」(17.2%)、「要介護 2」(14.0%)、「要介護 1」(9.0%) であった。

男女別に要介護度をみると、男女による大きな差異はみられなかった。

図表 167 要介護度（男女別、単数回答）



(注) 「全員」には性別が不明のもの 6 人分が含まれる。

年齢階級別に要介護度をみると、40～64 歳では「自立・未申請」が 32.8%で最も多いが、「要介護 5」が 31.3%で次に多かった。65 歳以上の年齢階級では「要介護 4」「要介護 5」が多く、両者を合わせた割合は、65～74 歳で 47.9%、75～79 歳で 43.8%、80～84 歳で 39.8%、85～89 歳で 42.1%、90～94 歳で 50.5%、95 歳以上では 54.8%であり、4 割～5 割強を占めている。

図表 168 要介護度（年齢階級別）

(単位：上段「人」、下段「%」)

	総数	対象外	自立・ 未申請	要支援 1・2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	不明	無回答
全体	1,142	13	49	54	103	160	196	213	301	35	18
	100.0	1.1	4.3	4.7	9.0	14.0	17.2	18.7	26.4	3.1	1.6
～39 歳	13	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
40～64 歳	67	0	22	0	1	7	4	6	21	4	2
	100.0	0.0	32.8	0.0	1.5	10.4	6.0	9.0	31.3	6.0	3.0
65～74 歳	117	0	4	3	17	12	19	13	43	5	1
	100.0	0.0	3.4	2.6	14.5	10.3	16.2	11.1	36.8	4.3	0.9
75～79 歳	96	0	3	2	10	16	19	21	21	4	0
	100.0	0.0	3.1	2.1	10.4	16.7	19.8	21.9	21.9	4.2	0.0
80～84 歳	196	0	7	15	19	35	34	28	50	5	3
	100.0	0.0	3.6	7.7	9.7	17.9	17.3	14.3	25.5	2.6	1.5
85～89 歳	264	0	10	16	24	32	51	57	54	12	8
	100.0	0.0	3.8	6.1	9.1	12.1	19.3	21.6	20.5	4.5	3.0
90～94 歳	232	0	2	12	18	35	43	44	73	4	1
	100.0	0.0	0.9	5.2	7.8	15.1	18.5	19.0	31.5	1.7	0.4
95 歳以上	135	0	1	4	12	20	21	42	32	1	2
	100.0	0.0	0.7	3.0	8.9	14.8	15.6	31.1	23.7	0.7	1.5

(注) 「全体」には年齢が不明のもの 22 人分が含まれる。

訪問医療機関別に要介護度をみると、「要介護4」「要介護5」の割合は、機能強化型在支診（単独型）が45.0%、機能強化型在支診（連携型）が50.0%、在支診が46.5%、在支診以外の診療所が39.6%、機能強化型在支病（単独型）が55.3%、機能強化型在支病（連携型）が41.7%、在支病が46.6%であり、機能強化型在支病（単独型）で割合が最も高かった。

図表 169 要介護度（訪問医療機関別）

(単位：上段「人」、下段「%」)

	総数	対象外	自立・未申請	要支援 1・2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	不明	無回答
全体	1,142	13	49	54	103	160	196	213	301	35	18
	100.0	1.1	4.3	4.7	9.0	14.0	17.2	18.7	26.4	3.1	1.6
機能強化型在支診（単独型）	20	1	0	0	1	1	6	2	7	1	1
	100.0	5.0	0.0	0.0	5.0	5.0	30.0	10.0	35.0	5.0	5.0
機能強化型在支診（連携型）	126	2	6	2	13	15	21	22	41	2	2
	100.0	1.6	4.8	1.6	10.3	11.9	16.7	17.5	32.5	1.6	1.6
在支診	508	3	22	36	43	69	82	94	142	9	8
	100.0	0.6	4.3	7.1	8.5	13.6	16.1	18.5	28.0	1.8	1.6
在支診以外の診療所	250	3	18	7	21	44	47	49	50	8	3
	100.0	1.2	7.2	2.8	8.4	17.6	18.8	19.6	20.0	3.2	1.2
機能強化型在支病（単独型）	38	0	0	1	3	3	7	8	13	3	0
	100.0	0.0	0.0	2.6	7.9	7.9	18.4	21.1	34.2	7.9	0.0
機能強化型在支病（連携型）	72	3	1	4	6	7	16	13	17	3	2
	100.0	4.2	1.4	5.6	8.3	9.7	22.2	18.1	23.6	4.2	2.8
在支病	120	1	2	3	12	18	17	25	31	9	2
	100.0	0.8	1.7	2.5	10.0	15.0	14.2	20.8	25.8	7.5	1.7

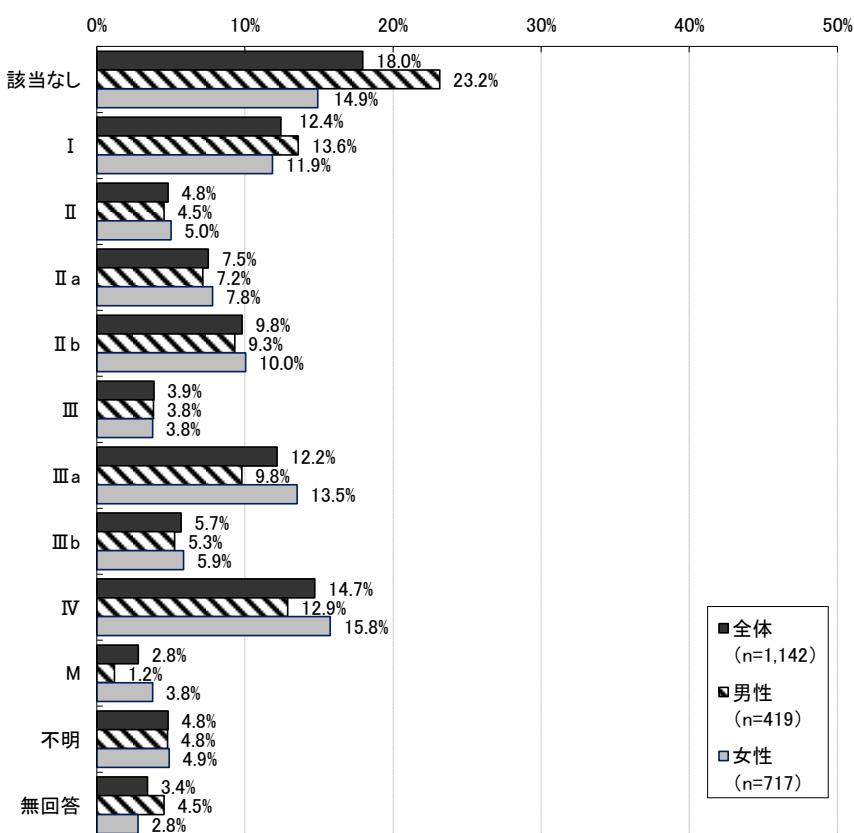
(注)「全体」には訪問医療機関が不明のもの8人分が含まれる。

## 2) 認知症高齢者の日常生活自立度

認知症高齢者の日常生活自立度をみると、全体では「該当なし」が 18.0%で最も多く、次いで「IV」が 14.7%、「I」が 12.4%、「IIIa」が 12.2%であった。全体では「III」以上が 39.3%であった。

男女別にみると、「該当なし」の割合は男性が女性よりも 8.3 ポイント高かった。「III」以上の割合は、男性では 33.0%、女性では 42.8%であり、女性の方が男性より 9.8 ポイント高かった。

図表 170 認知症高齢者の日常生活自立度（男女別、単数回答）



(注) 「全般」には性別が不明のもの 6 人分が含まれる。

年齢階級別に認知症高齢者の日常生活自立度をみると、「Ⅲ」以上の割合は、80～84歳では40.4%、85～89歳では45.8%、90～94歳では50.4%、95歳以上では45.9%であった。

図表 171 認知症高齢者の日常生活自立度（年齢階級別、単数回答）

(単位：上段「人」、下段「%」)

	総数	該当なし	I	II	IIa	IIb	III	IIIa	IIIb	IV	M	不明	無回答
全体	1,142	205	142	55	86	112	44	139	65	168	32	55	39
	100.0	18.0	12.4	4.8	7.5	9.8	3.9	12.2	5.7	14.7	2.8	4.8	3.4
～39歳	13	9	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	1
	100.0	69.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.7	0.0	0.0	0.0	15.4	7.7
40～64歳	67	42	1	0	1	2	1	1	2	6	0	7	4
	100.0	62.7	1.5	0.0	1.5	3.0	1.5	1.5	3.0	9.0	0.0	10.4	6.0
65～74歳	117	43	18	3	9	12	1	5	1	13	5	6	1
	100.0	36.8	15.4	2.6	7.7	10.3	0.9	4.3	0.9	11.1	4.3	5.1	0.9
75～79歳	96	29	12	5	3	14	3	5	4	9	3	5	4
	100.0	30.2	12.5	5.2	3.1	14.6	3.1	5.2	4.2	9.4	3.1	5.2	4.2
80～84歳	196	28	28	13	15	15	5	26	13	30	5	10	8
	100.0	14.3	14.3	6.6	7.7	7.7	2.6	13.3	6.6	15.3	2.6	5.1	4.1
85～89歳	264	35	27	15	21	23	17	44	13	42	5	14	8
	100.0	13.3	10.2	5.7	8.0	8.7	6.4	16.7	4.9	15.9	1.9	5.3	3.0
90～94歳	232	13	31	9	22	26	6	36	20	45	10	8	6
	100.0	5.6	13.4	3.9	9.5	11.2	2.6	15.5	8.6	19.4	4.3	3.4	2.6
95歳以上	135	4	18	10	15	18	9	18	11	20	4	3	5
	100.0	3.0	13.3	7.4	11.1	13.3	6.7	13.3	8.1	14.8	3.0	2.2	3.7

(注)「全体」には年齢が不明のもの22人分が含まれる。

訪問医療機関別に認知症高齢者の日常生活自立度をみると、「Ⅲ」以上の割合は、機能強化型在支病(単独型)が47.3%で最も高く、次いで在支病が45.8%、機能強化型在支診(連携型)が41.3%、在支診が40.6%であった。

図表 172 認知症高齢者の日常生活自立度（訪問医療機関別、単数回答）

(単位：上段「人」、下段「%」)

	総数	該当なし	I	II	IIa	IIb	III	IIIa	IIIb	IV	M	不明	無回答
全体	1,142	205	142	55	86	112	44	139	65	168	32	55	39
	100.0	18.0	12.4	4.8	7.5	9.8	3.9	12.2	5.7	14.7	2.8	4.8	3.4
機能強化型在支診(単独型)	20	6	2	1	1	4	0	0	1	4	0	1	0
	100.0	30.0	10.0	5.0	5.0	20.0	0.0	0.0	5.0	20.0	0.0	5.0	0.0
機能強化型在支診(連携型)	126	26	19	0	6	18	5	15	4	25	3	3	2
	100.0	20.6	15.1	0.0	4.8	14.3	4.0	11.9	3.2	19.8	2.4	2.4	1.6
在支診	508	83	63	26	39	45	13	67	30	77	19	26	20
	100.0	16.3	12.4	5.1	7.7	8.9	2.6	13.2	5.9	15.2	3.7	5.1	3.9
在支診以外の診療所	250	62	26	16	20	26	11	27	15	27	6	6	8
	100.0	24.8	10.4	6.4	8.0	10.4	4.4	10.8	6.0	10.8	2.4	2.4	3.2
機能強化型在支病(単独型)	38	5	5	1	5	2	3	4	1	10	0	0	2
	100.0	13.2	13.2	2.6	13.2	5.3	7.9	10.5	2.6	26.3	0.0	0.0	5.3
機能強化型在支病(連携型)	72	11	11	3	6	5	3	8	6	8	0	8	3
	100.0	15.3	15.3	4.2	8.3	6.9	4.2	11.1	8.3	11.1	0.0	11.1	4.2
在支病	120	11	16	8	7	9	9	18	8	16	4	10	4
	100.0	9.2	13.3	6.7	5.8	7.5	7.5	15.0	6.7	13.3	3.3	8.3	3.3

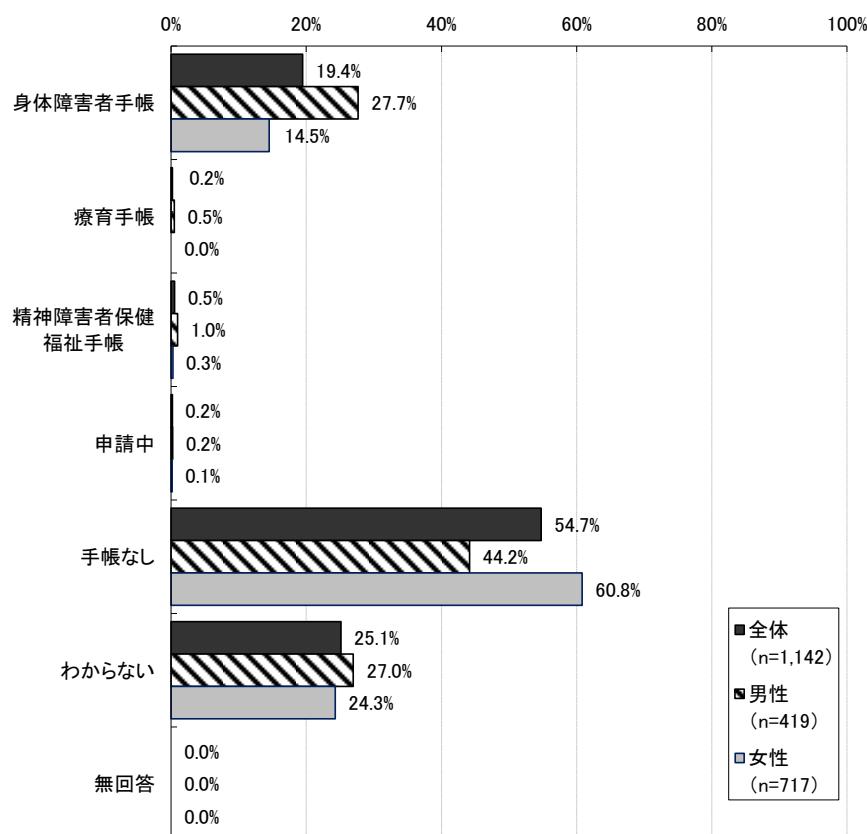
(注)「全體」には訪問医療機関が不明のもの8人分が含まれる。

### 3) 障害者手帳などの種類

障害者手帳などの種類をみると、全体では「手帳なし」が 54.7% であった。また、「身体障害者手帳」が 19.4%、「わからない」が 25.1% であった。

男女別にみると、男性では「身体障害者手帳」の割合が女性と比較して 13.2 ポイント高く、女性は「手帳なし」の割合が男性よりも 16.6 ポイント高かった。

図表 173 障害者手帳などの種類（男女別、単数回答）



(注) 「全般」には性別が不明のもの 6 人分が含まれる。

年齢階級別に障害者手帳などの種類をみると、80 歳以上では「手帳なし」の割合が高かった。  
「身体障害者手帳」の保有者は、39 歳以下では 53.8%、40~64 歳では 59.7% と 5 割を超えた。

図表 174 障害者手帳などの種類（年齢階級別、単数回答）

(単位：上段「人」、下段「%」)

	総数	身体 障害者 手帳	療育 手帳	精神障 害者保 健福祉 手帳	申請中	手帳なし	わから ない	無回答
全体	1,142	222	2	6	2	625	287	0
	100.0	19.4	0.2	0.5	0.2	54.7	25.1	0.0
~39 歳	13	7	1	0	0	0	6	0
	100.0	53.8	7.7	0.0	0.0	0.0	46.2	0.0
40~64 歳	67	40	1	4	0	8	14	0
	100.0	59.7	1.5	6.0	0.0	11.9	20.9	0.0
65~74 歳	117	52	0	2	1	37	26	0
	100.0	44.4	0.0	1.7	0.9	31.6	22.2	0.0
75~79 歳	96	30	0	0	1	37	28	0
	100.0	31.3	0.0	0.0	1.0	38.5	29.2	0.0
80~84 歳	196	27	0	0	0	119	50	0
	100.0	13.8	0.0	0.0	0.0	60.7	25.5	0.0
85~89 歳	264	30	0	0	0	171	63	0
	100.0	11.4	0.0	0.0	0.0	64.8	23.9	0.0
90~94 歳	232	20	0	0	0	155	57	0
	100.0	8.6	0.0	0.0	0.0	66.8	24.6	0.0
95 歳以上	135	10	0	0	0	89	36	0
	100.0	7.4	0.0	0.0	0.0	65.9	26.7	0.0

(注) 「全体」には年齢が不明のもの 22 人分が含まれる。

訪問医療機関別に障害者手帳などの種類をみると、「身体障害者手帳」については、機能強化型在支診（連携型）が27.8%で他の医療機関と比較すると、最も多かった。

図表 175 障害者手帳などの種類（訪問医療機関別、単数回答）

(単位：上段「人」、下段「%」)

	総数	身体 障害者 手帳	療育 手帳	精神障 害者保 健福祉 手帳	申請中	手帳 なし	わから ない	無回答
全体	1,142 100.0	222 19.4	2 0.2	6 0.5	2 0.2	625 54.7	287 25.1	0 0.0
機能強化型在支診 (単独型)	20 100.0	5 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	11 55.0	4 20.0	0 0.0
機能強化型在支診 (連携型)	126 100.0	35 27.8	0 0.0	1 0.8	0 0.0	67 53.2	23 18.3	0 0.0
在支診	508 100.0	97 19.1	0 0.0	2 0.4	2 0.4	280 55.1	128 25.2	0 0.0
在支診以外の診療 所	250 100.0	48 19.2	1 0.4	3 1.2	0 0.0	134 53.6	64 25.6	0 0.0
機能強化型在支病 (単独型)	38 100.0	10 26.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	17 44.7	11 28.9	0 0.0
機能強化型在支病 (連携型)	72 100.0	8 11.1	1 1.4	0 0.0	0 0.0	43 59.7	21 29.2	0 0.0
在支病	120 100.0	19 15.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	67 55.8	34 28.3	0 0.0

(注)「全体」には訪問医療機関が不明のもの8人分が含まれる。

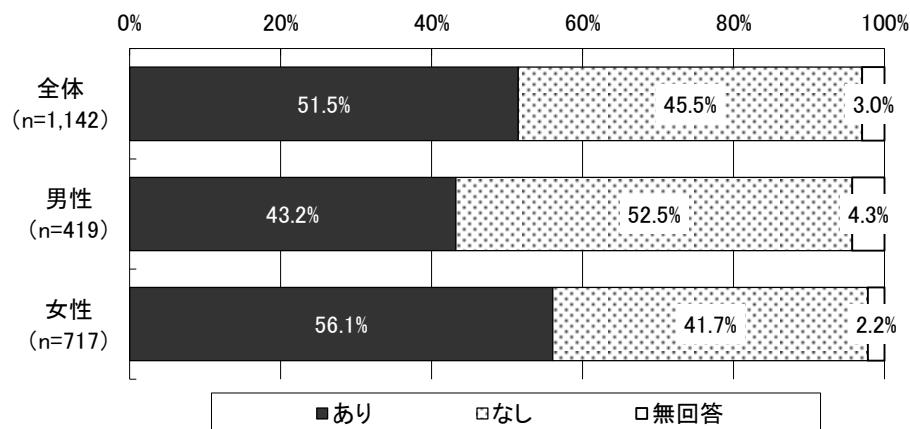
#### 4) 精神疾患の有無

精神疾患の有無をみると、全体では「あり」が 51.5%、「なし」が 45.5%であった。

男女別にみると、女性では「あり」の割合が男性と比較して 12.9 ポイント高かった。

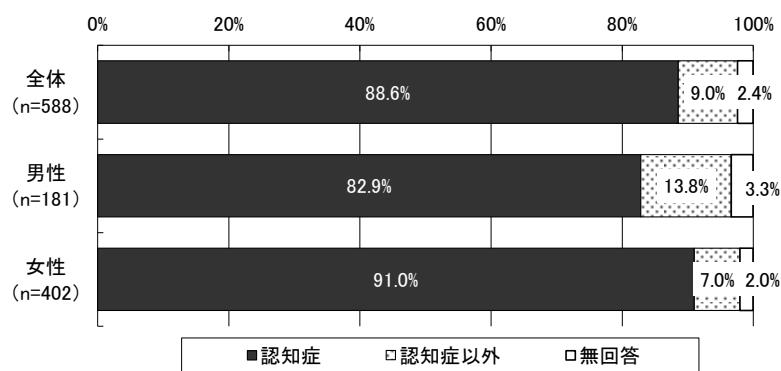
また、精神疾患の内訳をみると、「認知症」が精神疾患「あり」という患者の 88.6%（男性では 82.9%、女性では 91.0%）を占めた。

図表 176 精神疾患の有無（男女別）



(注) 「全体」には性別が不明のもの 6 人分が含まれる。

図表 177 精神疾患の内訳（精神疾患がある患者、男女別）

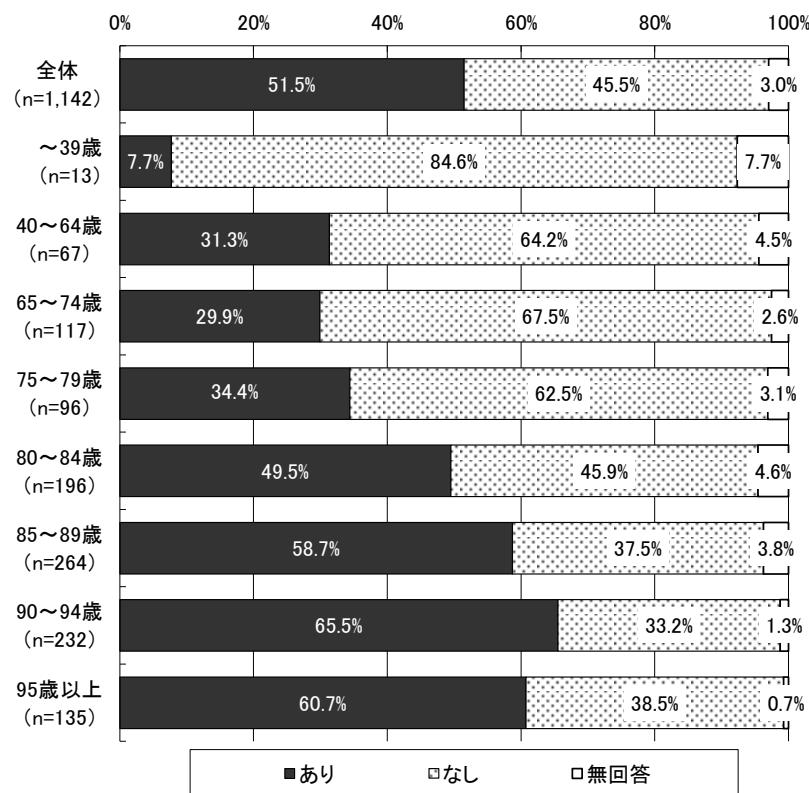


(注) 「全体」には性別が不明のもの 5 人分が含まれる。

年齢階級別に精神疾患の有無をみると、75歳以上では年齢階級が高くなるほど「あり」の割合が高くなる傾向がみられた。特に、90～94歳では「あり」が65.5%とおよそ3分の2を占め、他の年齢階級と比較しても高かった。

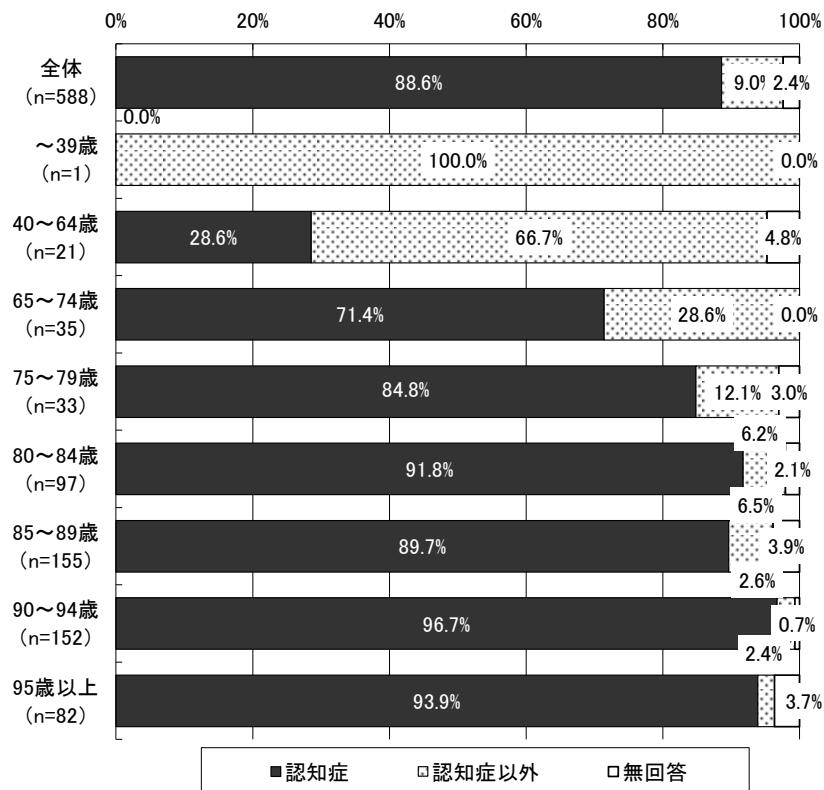
また、精神疾患の内訳をみると、75歳以上の各年齢階級では「認知症」が8割以上を占めた。

図表 178 精神疾患の有無（年齢階級別）



(注) 「全体」には年齢が不明のもの22人分が含まれる。

図表 179 精神疾患の内訳（精神疾患がある患者、年齢階級別）



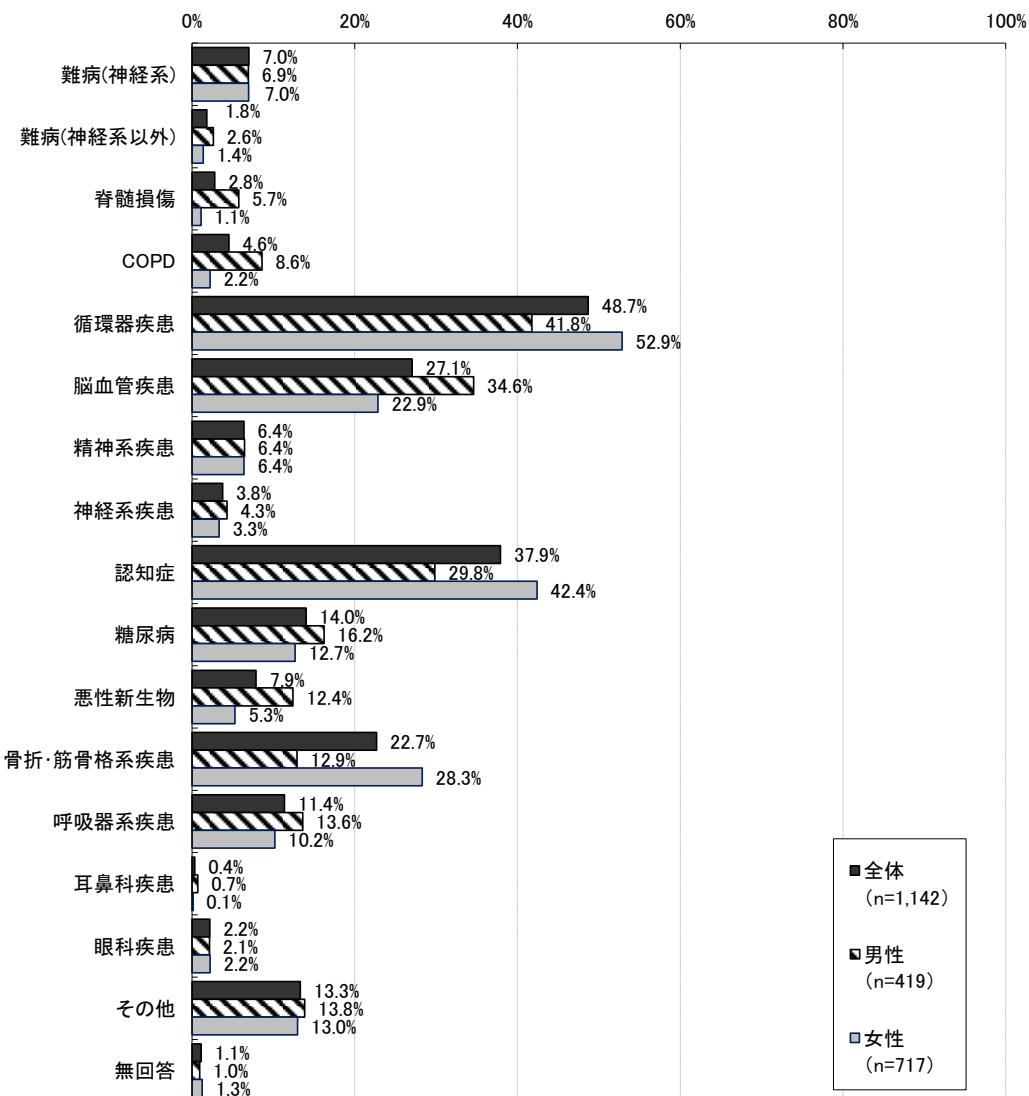
(注) 「全体」には年齢が不明のもの 12 人分が含まれる。

##### 5) 現在、訪問診療を行っている原因の病名

現在、訪問診療を行っている原因の病名をみると、全体では「循環器疾患」が 48.7%で最も多く、次いで「認知症」(37.9%)、「脳血管疾患」(27.1%) であった。

男女別にみると、男性では「循環器疾患」が 41.8%で最も多く、次いで「脳血管疾患」(34.6%)、「認知症」(29.8%) であり、女性では「循環器疾患」が 52.9%で最も多く、次いで「認知症」(42.4%)、「骨折・筋骨格系疾患」(28.3%) であった。男性が女性と比較して割合が高かったのは「脳血管疾患」(11.7 ポイント)、「悪性新生物」(7.1 ポイント) であった。女性が男性と比較して割合が高かったのは「骨折・筋骨格系疾患」(15.4 ポイント)、「認知症」(12.6 ポイント)、「循環器疾患」(11.1 ポイント) であった。

図表 180 現在、訪問診療を行っている原因の病名（複数回答）



(注)・「全体」には性別が不明のもの 6 人分が含まれる。

・「その他」の内容として、「褥瘡」、「廐用症候群」、「胃瘻造設状態」、「前立腺肥大症」、「フレイル」、「歩行困難」等が挙げられた。

年齢階級別に、現在、訪問診療を行っている原因の病名をみると、39歳以下では「難病（神経系+神経系以外）」、「脳血管疾患」、「呼吸器系疾患」が多かった。40～64歳では「難病（神経系）」、「脳血管疾患」が多かった。65～74歳では「脳血管疾患」が31.6%で最も多く、次いで「循環器疾患」（23.1%）であった。75歳以上の各年齢階級では「循環器疾患」が最も多く、年齢階級が高くなるほどその割合も高くなる傾向がみられた。また、2番目に多かったのは、「認知症」であった。

図表 181 現在、訪問診療を行っている原因の病名（年齢階級別、複数回答）

(単位：上段「人」、下段「%」)

	総数	難病 (神経系)	難病 (神経系 以外)	脊髄 損傷	COPD	循環器 疾患	脳血管 疾患	精神系 疾患	神経系 疾患
全体	1,142	80	21	32	52	556	309	73	43
	100.0	7.0	1.8	2.8	4.6	48.7	27.1	6.4	3.8
~39 歳	13	2	3	0	0	1	4	0	1
	100.0	15.4	23.1	0.0	0.0	7.7	30.8	0.0	7.7
40~64 歳	67	18	2	8	1	11	16	8	8
	100.0	26.9	3.0	11.9	1.5	16.4	23.9	11.9	11.9
65~74 歳	117	18	4	6	6	27	37	9	2
	100.0	15.4	3.4	5.1	5.1	23.1	31.6	7.7	1.7
75~79 歳	96	11	1	6	7	35	26	5	6
	100.0	11.5	1.0	6.3	7.3	36.5	27.1	5.2	6.3
80~84 歳	196	10	7	4	8	94	60	11	8
	100.0	5.1	3.6	2.0	4.1	48.0	30.6	5.6	4.1
85~89 歳	264	12	1	5	15	155	65	25	7
	100.0	4.5	0.4	1.9	5.7	58.7	24.6	9.5	2.7
90~94 歳	232	3	3	1	12	137	68	11	7
	100.0	1.3	1.3	0.4	5.2	59.1	29.3	4.7	3.0
95 歳以上	135	3	0	2	2	91	29	3	3
	100.0	2.2	0.0	1.5	1.5	67.4	21.5	2.2	2.2

	認知症	糖尿病	悪性 新生物	骨折・筋 骨格系 疾患	呼吸器系 疾患	耳鼻科 疾患	眼科 疾患	その他	無回答
全体	433	160	90	259	130	4	25	152	13
	37.9	14.0	7.9	22.7	11.4	0.4	2.2	13.3	1.1
~39 歳	0	0	2	0	4	0	0	3	1
	0.0	0.0	15.4	0.0	30.8	0.0	0.0	23.1	7.7
40~64 歳	4	7	3	5	6	0	1	13	3
	6.0	10.4	4.5	7.5	9.0	0.0	1.5	19.4	4.5
65~74 歳	20	21	14	14	8	0	1	11	2
	17.1	17.9	12.0	12.0	6.8	0.0	0.9	9.4	1.7
75~79 歳	22	13	10	20	9	0	1	11	1
	22.9	13.5	10.4	20.8	9.4	0.0	1.0	11.5	1.0
80~84 歳	71	39	11	42	31	1	6	25	0
	36.2	19.9	5.6	21.4	15.8	0.5	3.1	12.8	0.0
85~89 歳	125	40	23	63	31	2	8	28	2
	47.3	15.2	8.7	23.9	11.7	0.8	3.0	10.6	0.8
90~94 歳	122	21	20	66	29	0	7	32	1
	52.6	9.1	8.6	28.4	12.5	0.0	3.0	13.8	0.4
95 歳以上	62	15	3	43	12	1	1	28	2
	45.9	11.1	2.2	31.9	8.9	0.7	0.7	20.7	1.5

(注) 「全体」には年齢が不明のもの 22 人分が含まれる。

訪問医療機関別に、現在、訪問診療を行っている原因の病名をみると、在支診以外の診療所では「認知症」の割合が最も高かったが、他の施設では「循環器疾患」が最も多かった。「循環器疾患」の割合は機能強化型在支診が47.1%、在支診が49.8%、在支診以外の診療所が40.7%、機能強化型在支病が47.4%、在支病が45.5%であり、いずれの施設でも4割を超えた。また、「認知症」の割合は機能強化型在支診が30.7%、在支診が39.3%、在支診以外の診療所が44.4%、機能強化型在支病が32.6%、在支病が33.3%であり、3割強から4割強を占めた。在支診以外の診療所では「骨折・筋骨格系疾患」の割合が他の施設と比較して高かった。

図表 182 現在、訪問診療を行っている原因の病名（訪問医療機関別、複数回答）

(単位：上段「人」、下段「%」)

	総数	難病 (神経系)	難病 (神経系 以外)	脊髄損傷	COPD	循環器 疾患	脳血管 疾患	精神系 疾患	神経系 疾患
全体	1,142	80	21	32	52	556	309	73	43
	100.0	7.0	1.8	2.8	4.6	48.7	27.1	6.4	3.8
機能強化型 在支診	146	9	5	1	4	68	47	11	6
	100.0	6.2	3.4	0.7	2.7	46.6	32.2	7.5	4.1
在支診	508	34	7	13	29	253	139	33	22
	100.0	6.7	1.4	2.6	5.7	49.8	27.4	6.5	4.3
在支診以外 の診療所	250	18	4	11	8	111	59	16	8
	100.0	7.2	1.6	4.4	3.2	44.4	23.6	6.4	3.2
機能強化型 在支病	110	7	3	3	6	53	29	7	3
	100.0	6.4	2.7	2.7	5.5	48.2	26.4	6.4	2.7
在支病	120	12	2	4	5	65	32	6	4
	100.0	10.0	1.7	3.3	4.2	54.2	26.7	5.0	3.3

	認知症	糖尿病	悪性 新生物	骨折・筋 骨格系 疾患	呼吸器系 疾患	耳鼻科 疾患	眼科疾患	その他	無回答
全体	433	160	90	259	130	4	25	152	13
	37.9	14.0	7.9	22.7	11.4	0.4	2.2	13.3	1.1
機能強化型 在支診	47	11	20	32	15	1	4	20	4
	32.2	7.5	13.7	21.9	10.3	0.7	2.7	13.7	2.7
在支診	207	67	35	117	58	2	9	67	5
	40.7	13.2	6.9	23.0	11.4	0.4	1.8	13.2	1.0
在支診以外 の診療所	96	41	12	61	25	0	5	33	2
	38.4	16.4	4.8	24.4	10.0	0.0	2.0	13.2	0.8
機能強化型 在支病	36	13	11	26	12	0	5	11	1
	32.7	11.8	10.0	23.6	10.9	0.0	4.5	10.0	0.9
在支病	43	27	11	22	18	1	2	21	1
	35.8	22.5	9.2	18.3	15.0	0.8	1.7	17.5	0.8

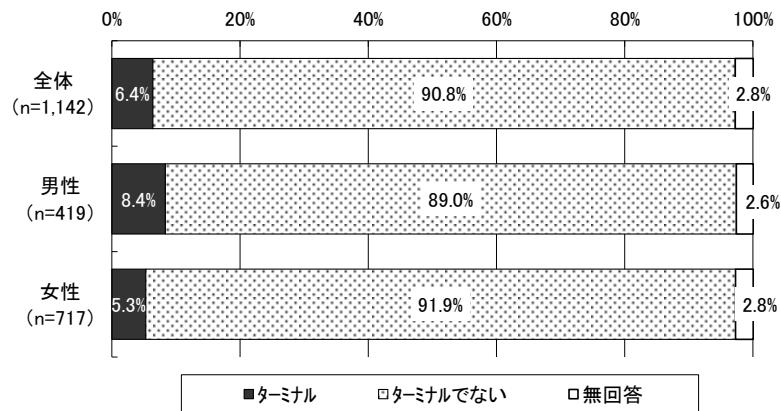
(注)「全体」には訪問医療機関が不明のもの8人分が含まれる。

## 6) ターミナルかどうか

ターミナルかどうかをみると、全体では「ターミナル」が 6.4%、「ターミナルでない」が 90.8% であった。

男女別にみると、「ターミナル」の割合は男性が 8.4%、女性が 5.3% で、男性の方が女性よりも 3.1 ポイント高かった。

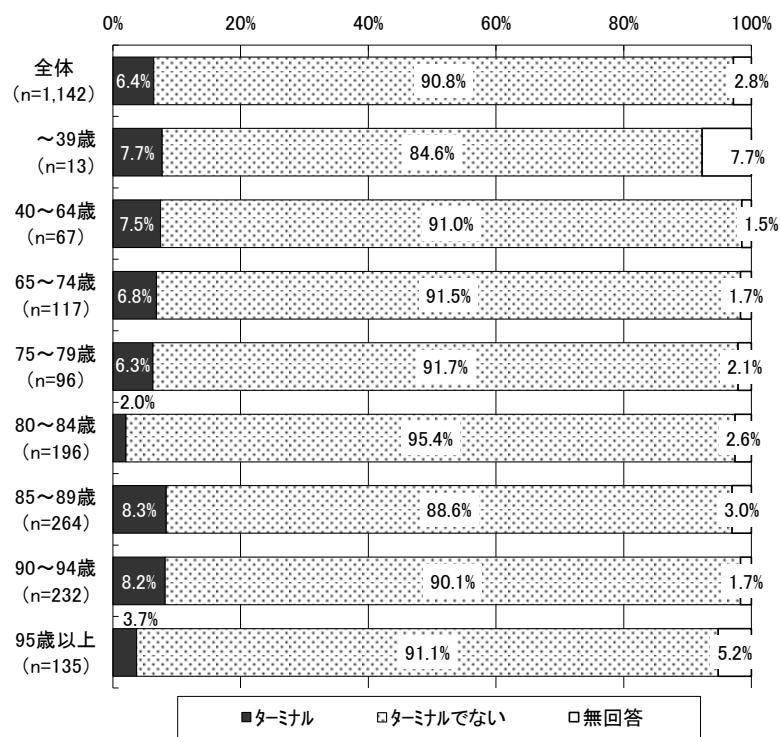
図表 183 ターミナルかどうか（男女別）



(注) 「全体」には性別が不明のもの 6 人分が含まれる。

年齢階級別に、ターミナルかどうかをみたものは、以下のとおりである。

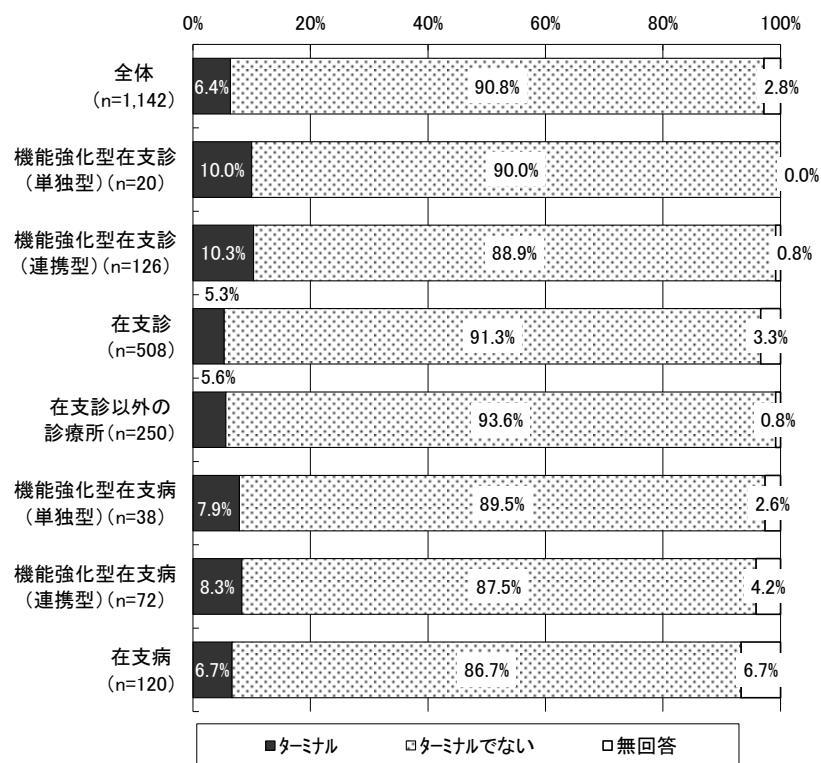
図表 184 ターミナルかどうか（年齢階級別）



(注) 「全体」には年齢が不明のもの 22 人分が含まれる。

訪問医療機関別に、ターミナルかどうかをみると、機能強化型在支診（単独型）、機能強化型在支診（連携型）では「ターミナル」の割合がそれぞれ、10.0%、10.3%で、全体や他の施設と比較すると高かった。

図表 185 ターミナルかどうか（訪問医療機関別）



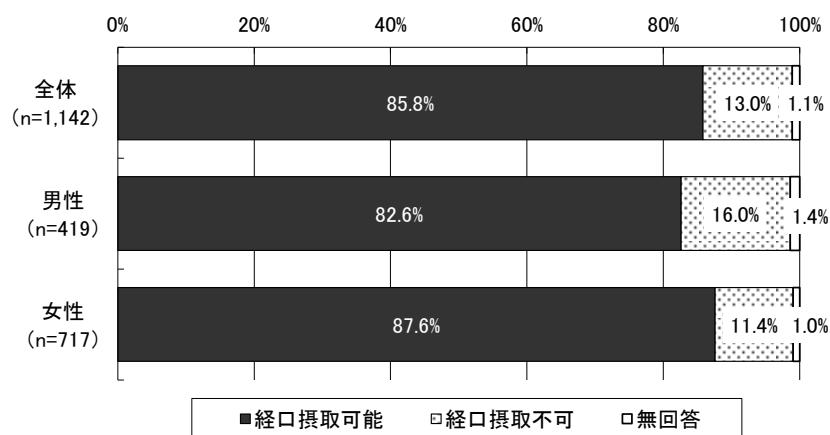
(注) 「全体」には訪問医療機関が不明のもの 8 人分が含まれる。

## 7) 経口摂取の状況

経口摂取の状況をみると、全体では「経口摂取可能」が 85.8%、「経口摂取不可」が 13.0%であった。

男女別にみると、「経口摂取不可」の割合は、男性が 16.0%、女性が 11.4%で、男性は女性よりも 4.6 ポイント高かった。

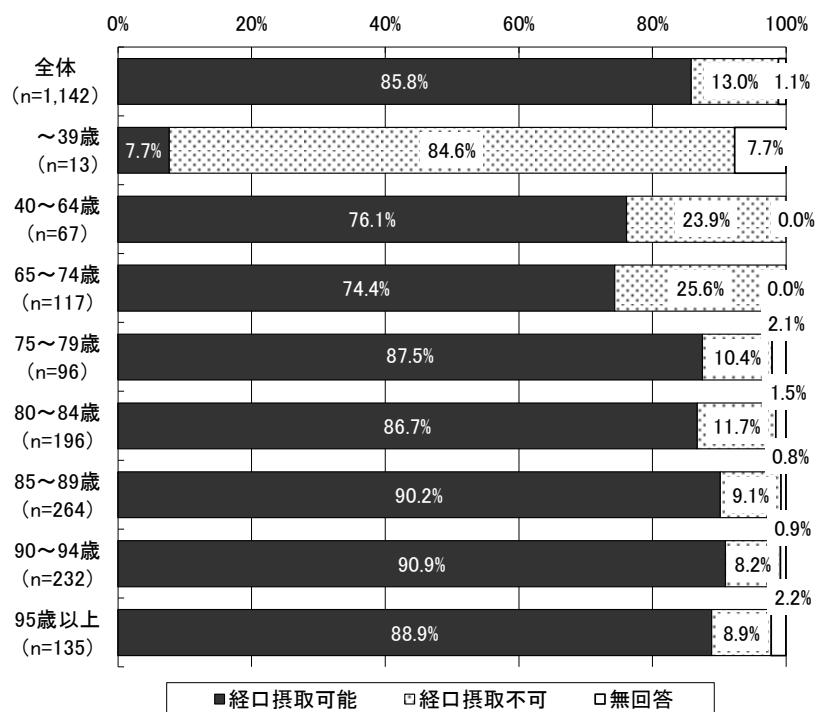
図表 186 経口摂取の状況（男女別）



(注) 「全体」には性別が不明のもの 6 人分が含まれる。

年齢階級別にみると、39 歳以下では患者数が少ないものの「経口摂取不可」が 84.6% であった。また、40 歳～64 歳、65～74 歳では「経口摂取不可」がそれぞれ 23.9%、25.6% と 2 割を超えた。

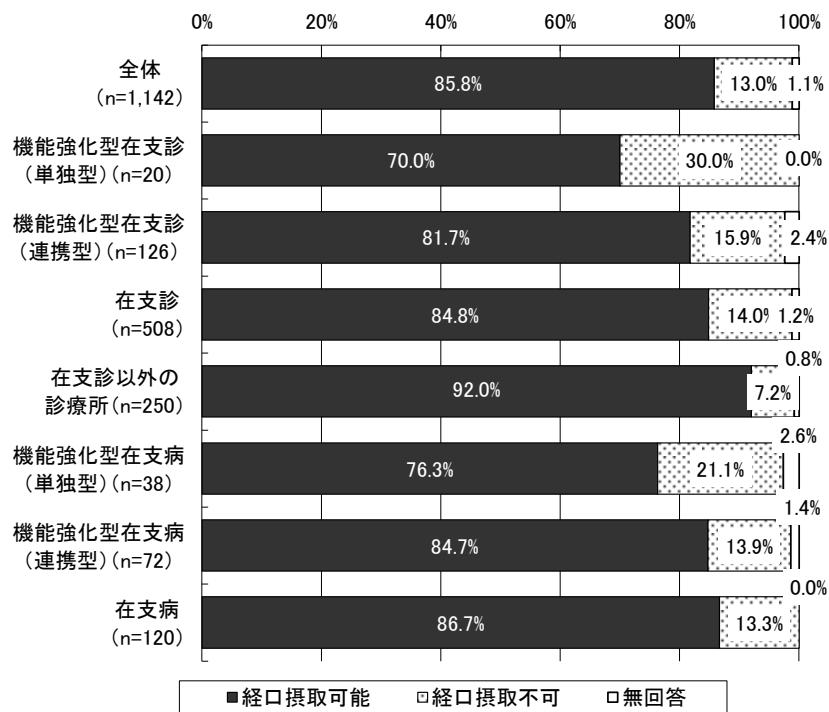
図表 187 経口摂取の状況（年齢階級別）



(注) 「全体」には年齢が不明のもの 22 人分が含まれる。

訪問医療機関別に経口摂取の状況をみると、機能強化型在支診（単独型）、機能強化型在支病（単独型）では、「経口摂取不可」がそれぞれ30.0%、21.1%で、全体や他の施設と比較して高かった。

図表 188 経口摂取の状況（訪問医療機関別）



(注) 「全体」には訪問医療機関が不明のもの8人分が含まれる。

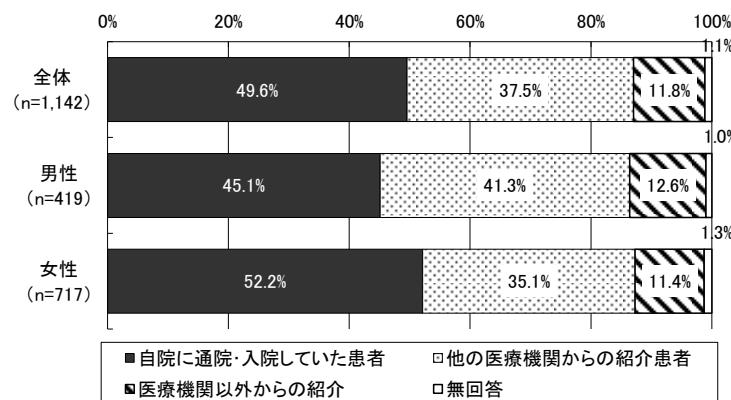
### ③訪問診療の実施内容等

#### 1) 訪問診療を行ったきっかけ

訪問診療を行ったきっかけをみると、全体では「自院に通院・入院していた患者」が49.6%で最も多く、次いで「他の医療機関からの紹介患者」が37.5%、「医療機関以外からの紹介」が11.8%であった。

男女別にみると、女性の方が男性と比較して「自院に通院・入院していた患者」の割合が7.1ポイント高かった。

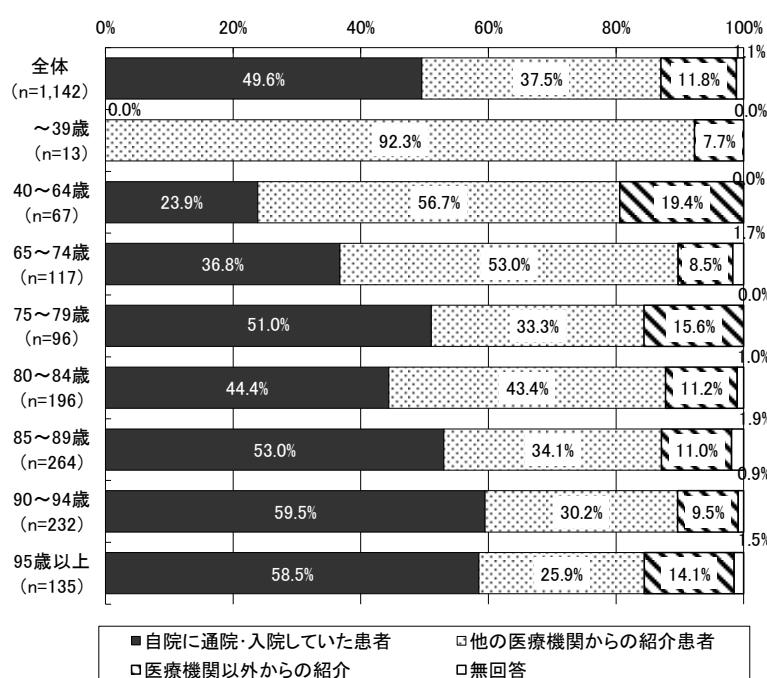
図表 189 訪問診療を行ったきっかけ（男女別）



(注)「全体」には性別が不明のもの6人分が含まれる。

年齢階級別にみると、75～79歳を除くと、年齢階級が高くなるほど、「自院に通院・入院していた患者」の割合が高くなる傾向がみられた。

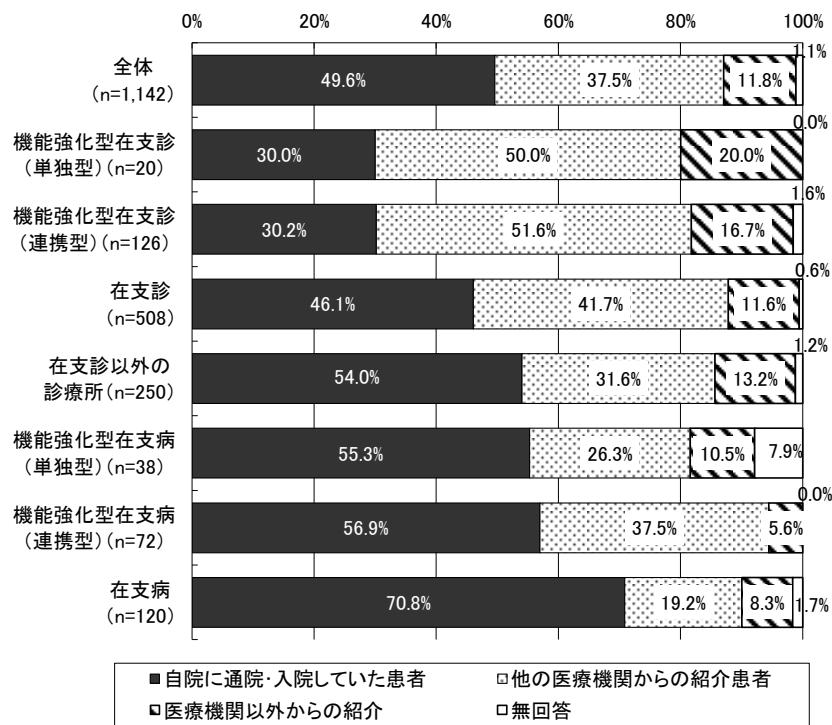
図表 190 訪問診療を行ったきっかけ（年齢階級別）



(注)「全般」には年齢が不明のもの22人分が含まれる。

訪問医療機関別にみると、機能強化型在支診（単独型）、機能強化型在支診（連携型）では「他の医療機関からの紹介患者」が5割近くを占めた。

図表 191 訪問診療を行ったきっかけ（訪問医療機関別）

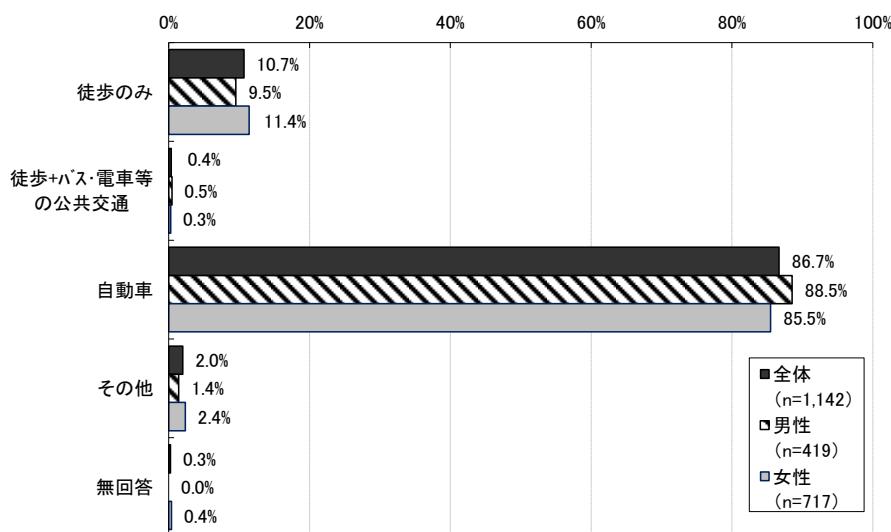


(注) 「全体」には訪問医療機関が不明のもの8人分が含まれる。

## 2) 患家を訪問するのに用いる交通手段と移動時間

患家を訪問するのに用いる交通手段をみると、全体では「自動車」が86.7%、「徒歩のみ」が10.7%であった。また、患家までの片道の移動時間は平均11.8分であった。

図表 192 患家を訪問するのに用いる交通手段（男女別、単数回答）



(注) •「全般」には性別が不明のもの6人分が含まれる。  
 •「その他」の内容として、「自転車」、「バイク」等が挙げられた。

図表 193 患家を訪問する移動時間（片道）（男女別）

(単位：分)

	患者数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全般	1,126	11.8	8.2	10.0
男性	414	12.1	7.8	10.0
女性	706	11.6	8.4	10.0

(注) •「全般」には性別が不明のもの6人分が含まれる。  
 •移動時間について記入のあったものを集計対象とした。

図表 194 患家を訪問するのに用いる交通手段（年齢階級別、単数回答）

(単位：上段「人」、下段「%」)

	総数	徒歩のみ	徒歩+バス・電車等の公共交通	自動車	その他	無回答
全体	1,142 100.0	122 10.7	4 0.4	990 86.7	23 2.0	3 0.3
~39 歳	13 100.0	0 0.0	0 0.0	13 100.0	0 0.0	0 0.0
40~64 歳	67 100.0	3 4.5	0 0.0	61 91.0	3 4.5	0 0.0
65~74 歳	117 100.0	9 7.7	1 0.9	104 88.9	3 2.6	0 0.0
75~79 歳	96 100.0	6 6.3	0 0.0	89 92.7	1 1.0	0 0.0
80~84 歳	196 100.0	18 9.2	1 0.5	173 88.3	3 1.5	1 0.5
85~89 歳	264 100.0	35 13.3	0 0.0	224 84.8	5 1.9	0 0.0
90~94 歳	232 100.0	25 10.8	1 0.4	197 84.9	7 3.0	2 0.9
95 歳以上	135 100.0	24 17.8	0 0.0	110 81.5	1 0.7	0 0.0

(注)・「全体」には年齢が不明のもの 22 人分が含まれる。

・「その他」の内容として、「自転車」、「バイク」等が挙げられた。

図表 195 患家を訪問する移動時間（片道）（年齢階級別）

(単位：分)

	患者数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,126	11.8	8.2	10.0
~39 歳	13	13.1	7.5	10.0
40~64 歳	66	15.0	9.3	15.0
65~74 歳	117	13.0	8.1	10.0
75~79 歳	96	12.3	7.5	10.0
80~84 歳	192	11.5	7.6	10.0
85~89 歳	259	11.5	8.5	10.0
90~94 歳	226	11.6	8.7	10.0
95 歳以上	135	10.3	6.9	10.0

(注)・「全体」には年齢が不明のもの 22 人分が含まれる。

・移動時間について記入のあったものを集計対象とした。

図表 196 患家を訪問するのに用いる交通手段（訪問医療機関別、単数回答）

(単位：上段「人」、下段「%」)

	総数	徒歩のみ	徒歩+バス・電車等の公共交通	自動車	その他	無回答
全体	1,142 100.0	122 10.7	4 0.4	990 86.7	23 2.0	3 0.3
機能強化型在支診 (単独型)	20 100.0	0 0.0	0 0.0	19 95.0	1 5.0	0 0.0
機能強化型在支診 (連携型)	126 100.0	8 6.3	1 0.8	116 92.1	1 0.8	0 0.0
在支診	508 100.0	63 12.4	1 0.2	429 84.4	13 2.6	2 0.4
在支診以外の診療所	250 100.0	29 11.6	2 0.8	211 84.4	8 3.2	0 0.0
機能強化型在支病 (単独型)	38 100.0	1 2.6	0 0.0	37 97.4	0 0.0	0 0.0
機能強化型在支病 (連携型)	72 100.0	5 6.9	0 0.0	67 93.1	0 0.0	0 0.0
在支病	120 100.0	16 13.3	0 0.0	103 85.8	0 0.0	1 0.8

(注)・「全体」には訪問医療機関が不明のもの8人分が含まれる。

・「その他」の内容として、「自転車」、「バイク」等が挙げられた。

図表 197 患家を訪問する移動時間（片道）（訪問医療機関別）

(単位：分)

	患者数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,126	11.8	8.2	10.0
機能強化型在支診(単独型)	20	13.3	6.4	11.0
機能強化型在支診(連携型)	126	11.8	7.7	10.0
在支診	498	12.1	8.7	10.0
在支診以外の診療所	248	11.0	7.1	10.0
機能強化型在支病(単独型)	37	12.6	8.6	10.0
機能強化型在支病(連携型)	72	13.5	10.5	10.0
在支病	117	9.9	5.9	10.0

(注)・「全体」には訪問医療機関が不明のもの8人分が含まれる。

・移動時間について記入のあったものを集計対象とした。

### 3) 訪問診療実施期間

当該患者に対する訪問診療実施期間をみると、全体では「1年以上3年未満」が30.6%で最も多く、次いで「5年以上」(19.8%)であった。

男女別にみると、女性では男性と比較して「5年以上」の割合が4.8ポイント高かった。

図表 198 訪問診療実施期間別分布（男女別）

(単位：上段「人」、下段「%」)

	総数	1か月未満	1か月以上3か月未満	3か月以上6か月未満	6か月以上1年未満	1年以上3年未満	3年以上5年未満	5年以上	無回答
全体	1,142	20	83	89	148	349	165	226	62
	100.0	1.8	7.3	7.8	13.0	30.6	14.4	19.8	5.4
男性	419	12	44	31	50	125	62	70	25
	100.0	2.9	10.5	7.4	11.9	29.8	14.8	16.7	6.0
女性	717	8	39	58	97	222	102	154	37
	100.0	1.1	5.4	8.1	13.5	31.0	14.2	21.5	5.2

(注)「全体」には性別が不明のもの6人分が含まれる。

年齢階級別にみると、39歳以下、40～64歳では「5年以上」が3割を超えた。

図表 199 訪問診療実施期間別分布（年齢階級別）

(単位：上段「人」、下段「%」)

	総数	1か月未満	1か月以上3か月未満	3か月以上6か月未満	6か月以上1年未満	1年以上3年未満	3年以上5年未満	5年以上	無回答
全体	1,142	20	83	89	148	349	165	226	62
	100.0	1.8	7.3	7.8	13.0	30.6	14.4	19.8	5.4
~39歳	13	1	2	1	0	2	2	4	1
	100.0	7.7	15.4	7.7	0.0	15.4	15.4	30.8	7.7
40～64歳	67	1	5	4	3	16	10	23	5
	100.0	1.5	7.5	6.0	4.5	23.9	14.9	34.3	7.5
65～74歳	117	5	6	12	16	38	13	21	6
	100.0	4.3	5.1	10.3	13.7	32.5	11.1	17.9	5.1
75～79歳	96	4	10	4	10	25	23	16	4
	100.0	4.2	10.4	4.2	10.4	26.0	24.0	16.7	4.2
80～84歳	196	2	14	17	26	72	22	34	9
	100.0	1.0	7.1	8.7	13.3	36.7	11.2	17.3	4.6
85～89歳	264	5	28	22	35	85	29	48	12
	100.0	1.9	10.6	8.3	13.3	32.2	11.0	18.2	4.5
90～94歳	232	2	9	22	39	69	40	40	11
	100.0	0.9	3.9	9.5	16.8	29.7	17.2	17.2	4.7
95歳以上	135	0	9	3	19	36	25	36	7
	100.0	0.0	6.7	2.2	14.1	26.7	18.5	26.7	5.2

(注)「全体」には年齢が不明のもの22人分が含まれる。

訪問医療機関別に訪問診療実施期間をみると、「5年以上」の割合は、在支診が23.6%で最も多かった。

図表 200 訪問診療実施期間（訪問医療機関別）

(単位：上段「人」、下段「%」)

	総数	1か月未満	1か月以上3か月未満	3か月以上6か月未満	6か月以上1年未満	1年以上3年未満	3年以上5年未満	5年以上	無回答
全体	1,142	20	83	89	148	349	165	226	62
	100.0	1.8	7.3	7.8	13.0	30.6	14.4	19.8	5.4
機能強化型在支診(単独型)	20	0	1	2	2	4	7	4	0
	100.0	0.0	5.0	10.0	10.0	20.0	35.0	20.0	0.0
機能強化型在支診(連携型)	126	2	8	7	18	45	17	26	3
	100.0	1.6	6.3	5.6	14.3	35.7	13.5	20.6	2.4
在支診	508	7	32	38	44	163	67	120	37
	100.0	1.4	6.3	7.5	8.7	32.1	13.2	23.6	7.3
在支診以外の診療所	250	4	19	18	42	67	37	46	17
	100.0	1.6	7.6	7.2	16.8	26.8	14.8	18.4	6.8
機能強化型在支病(単独型)	38	3	5	3	3	8	9	5	2
	100.0	7.9	13.2	7.9	7.9	21.1	23.7	13.2	5.3
機能強化型在支病(連携型)	72	4	3	7	16	22	11	8	1
	100.0	5.6	4.2	9.7	22.2	30.6	15.3	11.1	1.4
在支病	120	0	11	14	22	38	16	17	2
	100.0	0.0	9.2	11.7	18.3	31.7	13.3	14.2	1.7

(注)「全体」には訪問医療機関が不明のもの8人分が含まれる。

算定している医学管理料別に訪問診療実施期間をみると、在総管（重症患者）では「5年以上」が24.5%であった。

図表 201 訪問診療実施期間（算定している医学管理料別）

（単位：上段「人」、下段「%」）

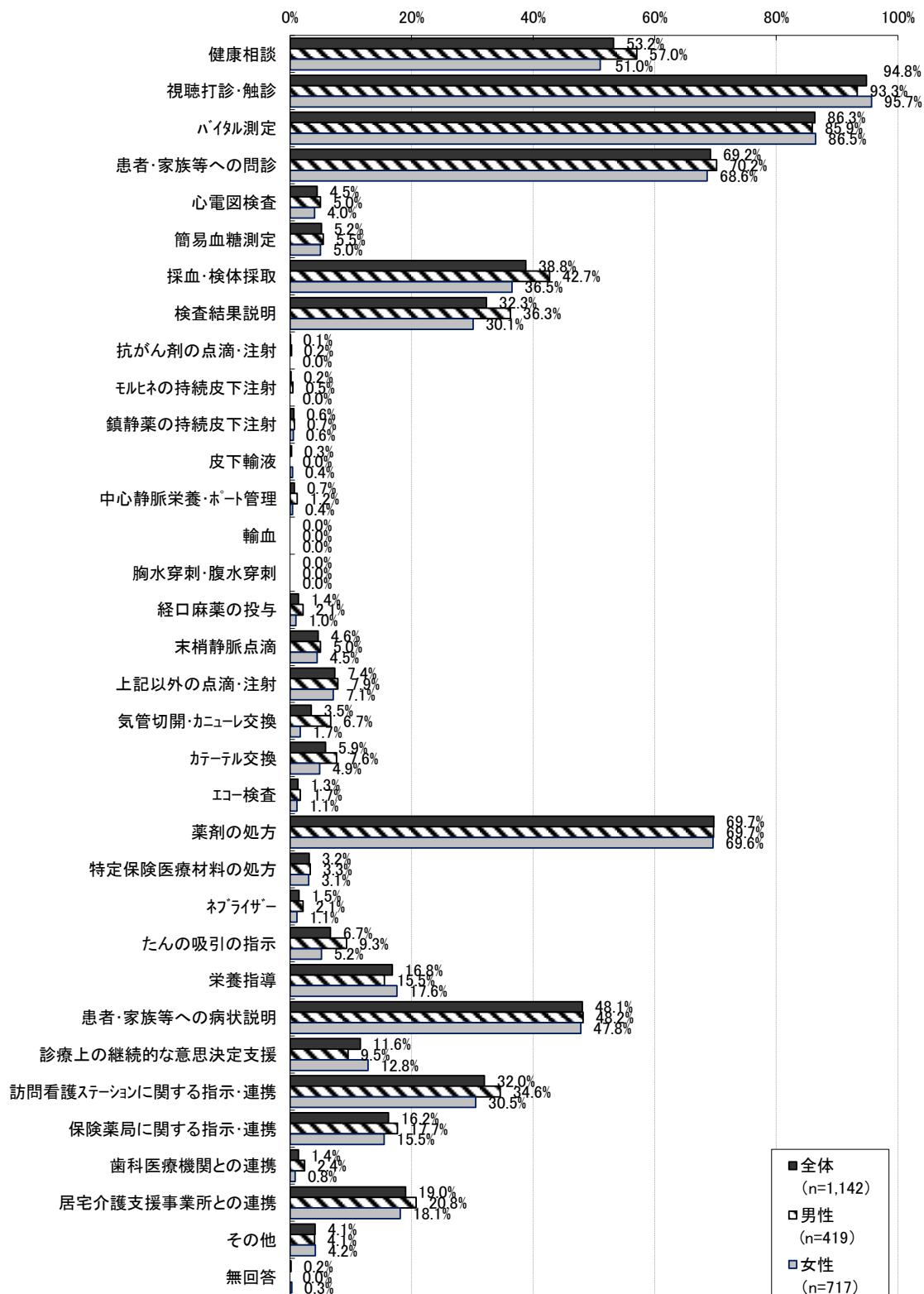
	総数	1か月未満	1か月以上3か月未満	3か月以上6か月未満	6か月以上1年未満	1年以上3年未満	3年以上5年未満	5年以上	無回答
全体	1,142	20	83	89	148	349	165	226	62
	100.0	1.8	7.3	7.8	13.0	30.6	14.4	19.8	5.4
在総管（重症患者）	102	0	12	8	16	25	13	25	3
	100.0	0.0	11.8	7.8	15.7	24.5	12.7	24.5	2.9
在総管（月2回以上）	500	0	25	30	59	159	93	111	23
	100.0	0.0	5.0	6.0	11.8	31.8	18.6	22.2	4.6
在総管（月1回）	142	0	13	11	15	47	21	25	10
	100.0	0.0	9.2	7.7	10.6	33.1	14.8	17.6	7.0
施設総管（重症患者）	9	0	1	1	1	4	1	1	0
	100.0	0.0	11.1	11.1	11.1	44.4	11.1	11.1	0.0
施設総管（月2回以上）	114	0	11	21	17	38	13	13	1
	100.0	0.0	9.6	18.4	14.9	33.3	11.4	11.4	0.9
施設総管（月1回）	23	0	2	4	5	5	3	1	3
	100.0	0.0	8.7	17.4	21.7	21.7	13.0	4.3	13.0
算定していない	219	20	16	11	32	65	18	45	12
	100.0	9.1	7.3	5.0	14.6	29.7	8.2	20.5	5.5

(注)「全体」には算定している医学管理料が不明のもの33人分が含まれる。

#### 4) 医師が実施した診療内容・連携等

医師が実施した診療内容・連携等をみると、全体では「視聴打診・触診」が94.8%で最も高く、「バイタル測定」(86.3%)、「薬剤の処方」(69.7%)、「患者・家族等への問診」(69.2%)であった。

図表 202 医師が直近 1か月間に実施した診療内容・連携等（男女別、複数回答）



(注)「全体」には性別が不明のもの 6 人分が含まれる。

患者の年齢階級別に医師が実施した診療内容・連携等をみたものが、次の図表である。

図表 203 医師が直近 1か月間に実施した診療内容・連携等（年齢階級別、複数回答）

(単位：上段「人」、下段「%」)

	総数	健康相談	視聴打診・触診	バイタル測定	患者・家族等への問診	心電図検査	簡易血糖測定	採血・検体採取	検査結果説明	抗がん剤の点滴・注射	モルヒネの持続皮下注射	鎮静薬の持続皮下注射
全体	1,142 100.0	608 53.2	1,083 94.8	986 86.3	790 69.2	51 4.5	59 5.2	443 38.8	369 32.3	1 0.1	2 0.2	7 0.6
～39歳	13 100.0	4 30.8	12 92.3	10 76.9	9 69.2	0 0.0	0 0.0	1 7.7	2 15.4	0 0.0	0 0.0	1 7.7
40～64歳	67 100.0	33 49.3	66 98.5	60 89.6	57 85.1	2 3.0	0 0.0	22 32.8	16 23.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0
65～74歳	117 100.0	62 53.0	110 94.0	100 85.5	77 65.8	7 6.0	10 8.5	44 37.6	38 32.5	0 0.0	2 1.7	1 0.9
75～79歳	96 100.0	60 62.5	90 93.8	85 88.5	66 68.8	4 4.2	8 8.3	44 45.8	38 39.6	0 0.0	0 0.0	1 1.0
80～84歳	196 100.0	109 55.6	184 93.9	170 86.7	134 68.4	5 2.6	15 7.7	73 37.2	57 29.1	1 0.5	0 0.0	0 0.0
85～89歳	264 100.0	133 50.4	251 95.1	224 84.8	164 62.1	15 5.7	13 4.9	105 39.8	92 34.8	0 0.0	0 0.0	1 0.4
90～94歳	232 100.0	115 49.6	223 96.1	198 85.3	170 73.3	13 5.6	7 3.0	92 39.7	79 34.1	0 0.0	0 0.0	2 0.9
95歳以上	135 100.0	80 59.3	126 93.3	123 91.1	98 72.6	4 3.0	3 2.2	52 38.5	40 29.6	0 0.0	0 0.0	1 0.7

	皮下輸液	中心静脈栄養・ポート管理	輸血	胸水穿刺・腹水穿刺	経口麻薬の投与	末梢静脈点滴	上記以外の点滴・注射	気管切開・カニューレ交換	カテーテル交換	エコー検査	薬剤の処方	特定保険医療材料の処方
全体	3 0.3	8 0.7	0 0.0	0 0.0	16 1.4	53 4.6	84 7.4	40 3.5	67 5.9	15 1.3	796 69.7	36 3.2
～39歳	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	6 46.2	1 7.7	0 0.0	8 61.5	1 7.7
40～64歳	0 0.0	2 3.0	0 0.0	0 0.0	2 3.0	1 1.5	5 7.5	7 10.4	9 13.4	1 1.5	43 64.2	1 1.5
65～74歳	1 0.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5 4.3	4 3.4	5 4.3	15 12.8	8 6.8	0 0.0	72 61.5	14 12.0
75～79歳	0 0.0	2 2.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 3.1	8 8.3	5 5.2	7 7.3	2 2.1	61 63.5	0 0.0
80～84歳	0 0.0	2 1.0	0 0.0	0 0.0	5 2.6	10 5.1	17 8.7	1 0.5	7 3.6	2 1.0	148 75.5	6 3.1
85～89歳	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 1.1	13 4.9	17 6.4	4 1.5	14 5.3	4 1.5	181 68.6	8 3.0
90～94歳	1 0.4	2 0.9	0 0.0	0 0.0	1 0.4	17 7.3	20 8.6	1 0.4	10 4.3	4 1.7	163 70.3	2 0.9
95歳以上	1 0.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 3.0	10 7.4	0 0.0	6 4.4	1 0.7	106 78.5	4 3.0

## 在宅医療調査

	ネプライザー	たんの吸引の指示	栄養指導	患者・家族等への病状説明	診療上の継続的な意思決定支援	訪問看護ステーションに関する指示・連携	保険薬局に関する指示・連携	歯科医療機関との連携	居宅介護支援事業所との連携	その他	無回答
全体	17 1.5	76 6.7	192 16.8	549 48.1	132 11.6	365 32.0	185 16.2	16 1.4	217 19.0	47 4.1	2 0.2
~39 歳	0 0.0	4 30.8	3 23.1	8 61.5	3 23.1	7 53.8	0 0.0	0 0.0	1 7.7	2 15.4	1 7.7
40~64 歳	1 1.5	6 9.0	15 22.4	29 43.3	8 11.9	29 43.3	6 9.0	1 1.5	9 13.4	2 3.0	0 0.0
65~74 歳	2 1.7	13 11.1	20 17.1	55 47.0	19 16.2	45 38.5	28 23.9	3 2.6	28 23.9	9 7.7	0 0.0
75~79 歳	1 1.0	5 5.2	24 25.0	49 51.0	12 12.5	38 39.6	27 28.1	2 2.1	23 24.0	3 3.1	0 0.0
80~84 歳	3 1.5	9 4.6	32 16.3	86 43.9	18 9.2	57 29.1	29 14.8	2 1.0	36 18.4	14 7.1	0 0.0
85~89 歳	4 1.5	20 7.6	40 15.2	126 47.7	19 7.2	70 26.5	42 15.9	4 1.5	48 18.2	5 1.9	0 0.0
90~94 歳	3 1.3	11 4.7	30 12.9	111 47.8	32 13.8	66 28.4	34 14.7	3 1.3	48 20.7	5 2.2	0 0.0
95 歳以上	2 1.5	6 4.4	24 17.8	76 56.3	17 12.6	41 30.4	15 11.1	0 0.0	22 16.3	7 5.2	1 0.7

(注) 「全体」には年齢が不明のもの 22 人分が含まれる。

算定している医学管理料別に医師が実施した診療内容・連携等をみたものが、次の図表である。「在総管（重症患者）」、「施設総管（重症患者）」では他の患者と比較して「採血・検体採取」、「末梢静脈点滴」、「カテーテル交換」、「薬剤の処方」、「たんの吸引の指示」や「訪問看護ステーションに関する指示・連携」、「保険薬局に関する指示・連携」、「居宅介護支援事業所との連携」の割合が相対的に高かった。

図表 204 医師が直近1か月間に実施した診療内容・連携等（算定している医学管理料別、複数回答）

(単位：上段「人」、下段「%」)

	総数	健康相談	視聴打診・触診	バイタル測定	患者・家族等への問診	心電図検査	簡易血糖測定	採血・検体採取	検査結果説明	抗がん剤の点滴・注射	モルヒネの持続皮下注射	鎮静薬の持続皮下注射
全体	1,142 100.0	608 53.2	1,083 94.8	986 86.3	790 69.2	51 4.5	59 5.2	443 38.8	369 32.3	1 0.1	2 0.2	7 0.6
在総管(重症患者)	102 100.0	52 51.0	97 95.1	98 96.1	86 84.3	6 5.9	4 3.9	45 44.1	41 40.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0
在総管(月2回以上)	500 100.0	270 54.0	479 95.8	448 89.6	370 74.0	14 2.8	27 5.4	203 40.6	171 34.2	0 0.0	0 0.0	2 0.4
在総管(月1回)	142 100.0	91 64.1	140 98.6	125 88.0	103 72.5	8 5.6	8 5.6	50 35.2	42 29.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0
施設総管(重症患者)	9 100.0	3 33.3	9 100.0	7 77.8	2 22.2	1 11.1	0 0.0	5 55.6	2 22.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0
施設総管(月2回以上)	114 100.0	57 50.0	108 94.7	95 83.3	56 49.1	11 9.6	6 5.3	49 43.0	44 38.6	1 0.9	0 0.0	0 0.0
施設総管(月1回)	23 100.0	17 73.9	20 87.0	18 78.3	11 47.8	2 8.7	0 0.0	6 26.1	3 13.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
算定していない	219 100.0	101 46.1	200 91.3	169 77.2	146 66.7	7 3.2	12 5.5	78 35.6	62 28.3	0 0.0	2 0.9	5 2.3

	皮下輸液	中心静脈栄養・ポート管理	輸血	胸水穿刺・腹水穿刺	経口麻薬の投与	末梢静脈点滴	上記以外の点滴・注射	気管切開・カニューレ交換	カテーテル交換	エコー検査	薬剤の処方	特定保険医療材料の処方
全体	3 0.3	8 0.7	0 0.0	0 0.0	16 1.4	53 4.6	84 7.4	40 3.5	67 5.9	15 1.3	796 69.7	36 3.2
在総管(重症患者)	0 0.0	4 3.9	0 0.0	0 0.0	2 2.0	10 9.8	4 3.9	17 16.7	18 17.6	2 2.0	82 80.4	10 9.8
在総管(月2回以上)	2 0.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 0.8	15 3.0	40 8.0	13 2.6	33 6.6	7 1.4	362 72.4	20 4.0
在総管(月1回)	0 0.0	1 0.7	0 0.0	0 0.0	2 1.4	6 4.2	7 4.9	1 0.7	3 2.1	0 0.0	108 76.1	2 1.4
施設総管(重症患者)	1 11.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 11.1	0 0.0	0 0.0	2 22.2	0 0.0	7 77.8	0 0.0
施設総管(月2回以上)	0 0.0	3 2.6	0 0.0	0 0.0	1 0.9	6 5.3	10 8.8	1 0.9	2 1.8	0 0.0	71 62.3	0 0.0
施設総管(月1回)	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 4.3	0 0.0	0 0.0	1 4.3	1 4.3	15 65.2	0 0.0
算定していない	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	7 3.2	11 5.0	20 9.1	6 2.7	7 3.2	5 2.3	132 60.3	4 1.8

	ネプライザー	たんの吸引の指示	栄養指導	患者・家族等への病状説明	診療上の継続的な意思決定支援	訪問看護ステーションに関する指示・連携	保険薬局に関する指示・連携	歯科医療機関との連携	居宅介護支援事業所との連携	その他	無回答
全体	17 1.5	76 6.7	192 16.8	549 48.1	132 11.6	365 32.0	185 16.2	16 1.4	217 19.0	47 4.1	2 0.2
在総管(重症患者)	5 4.9	20 19.6	24 23.5	71 69.6	19 18.6	69 67.6	24 23.5	1 1.0	34 33.3	4 3.9	0 0.0
在総管(月2回以上)	5 1.0	29 5.8	88 17.6	249 49.8	57 11.4	170 34.0	90 18.0	8 1.6	109 21.8	8 1.6	0 0.0
在総管(月1回)	1 0.7	8 5.6	28 19.7	67 47.2	18 12.7	44 31.0	14 9.9	1 0.7	29 20.4	5 3.5	0 0.0
施設総管(重症患者)	0 0.0	2 22.2	0 0.0	4 44.4	0 0.0	2 22.2	4 44.4	0 0.0	5 55.6	1 11.1	0 0.0
施設総管(月2回以上)	3 2.6	2 1.8	14 12.3	38 33.3	9 7.9	12 10.5	18 15.8	2 1.8	16 14.0	10 8.8	0 0.0
施設総管(月1回)	0 0.0	1 4.3	3 13.0	5 21.7	2 8.7	2 8.7	5 21.7	1 4.3	1 4.3	1 4.3	0 0.0
算定していない	3 1.4	13 5.9	30 13.7	104 47.5	23 10.5	57 26.0	28 12.8	3 1.4	21 9.6	17 7.8	0 0.0

(注)「全体」には算定している医学管理料が不明のもの33人分が含まれる。

訪問医療機関別に医師が実施した診療内容・連携等をみたものが、次の図表である。

図表 205 医師が直近1か月間に実施した診療内容・連携等（訪問医療機関別、複数回答）

(単位：上段「人」、下段「%」)

	総数	健康相談	視聴打診・触診	バイタル測定	患者・家族等への問診	心電図検査	簡易血糖測定	採血・検体採取	検査結果説明	抗がん剤の点滴・注射	モルヒネの持続皮下注射	鎮静薬の持続皮下注射
全体	1,142 100.0	608 53.2	1,083 94.8	986 86.3	790 69.2	51 4.5	59 5.2	443 38.8	369 32.3	1 0.1	2 0.2	7 0.6
機能強化型在支診(単独型)	20 100.0	14 70.0	20 100.0	18 90.0	20 100.0	3 15.0	3 15.0	6 30.0	9 45.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
機能強化型在支診(連携型)	126 100.0	74 58.7	120 95.2	117 92.9	102 81.0	3 2.4	3 2.4	51 40.5	48 38.1	1 0.8	0 0.0	0 0.0
在支診	508 100.0	260 51.2	486 95.7	444 87.4	345 67.9	22 4.3	31 6.1	217 42.7	181 35.6	0 0.0	2 0.4	3 0.6
在支診以外の診療所	250 100.0	127 50.8	233 93.2	210 84.0	160 64.0	12 4.8	15 6.0	96 38.4	66 26.4	0 0.0	0 0.0	1 0.4
機能強化型在支病(単独型)	38 100.0	24 63.2	37 97.4	35 92.1	29 76.3	1 2.6	0 0.0	14 36.8	12 31.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0
機能強化型在支病(連携型)	72 100.0	37 51.4	70 97.2	61 84.7	51 70.8	2 2.8	2 2.8	22 30.6	22 30.6	0 0.0	0 0.0	1 1.4
在支病	120 100.0	70 58.3	109 90.8	95 79.2	79 65.8	8 6.7	5 4.2	35 29.2	29 24.2	0 0.0	0 0.0	2 1.7

	皮下輸液	中心静脈栄養・ポート管理	輸血	胸水穿刺・腹水穿刺	経口麻薬の投与	末梢静脈点滴	上記以外の点滴・注射	気管切開・カニューレ交換	カテーテル交換	エコー検査	薬剤の処方	特定保険医療材料の処方
全体	3 0.3	8 0.7	0 0.0	0 0.0	16 1.4	53 4.6	84 7.4	40 3.5	67 5.9	15 1.3	796 69.7	36 3.2
機能強化型在支診(単独型)	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 10.0	1 5.0	4 20.0	2 10.0	2 10.0	16 80.0	0 0.0
機能強化型在支診(連携型)	0 0.0	1 0.8	0 0.0	0 0.0	6 4.8	7 5.6	5 4.0	4 3.2	14 11.1	2 1.6	85 67.5	5 4.0
在支診	2 0.4	2 0.4	0 0.0	0 0.0	4 0.8	25 4.9	48 9.4	17 3.3	27 5.3	7 1.4	355 69.9	19 3.7
在支診以外の診療所	0 0.0	1 0.4	0 0.0	0 0.0	3 1.2	4 1.6	15 6.0	4 1.6	10 4.0	2 0.8	167 66.8	4 1.6
機能強化型在支病(単独型)	1 2.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 7.9	2 5.3	6 15.8	5 13.2	0 0.0	33 86.8	3 7.9
機能強化型在支病(連携型)	0 0.0	2 2.8	0 0.0	0 0.0	2 2.8	6 8.3	6 8.3	3 4.2	4 5.6	0 0.0	48 66.7	1 1.4
在支病	0 0.0	2 1.7	0 0.0	0 0.0	1 0.8	6 5.0	6 5.0	2 1.7	5 4.2	2 1.7	86 71.7	4 3.3

	ネブライザー	たんの吸引の指示	栄養指導	患者・家族等への病状説明	診療上の継続的な意思決定支援	訪問看護ステーションに関する指示・連携	保険薬局に関する指示・連携	歯科医療機関との連携	居宅介護支援事業所との連携	その他	無回答
全体	17 1.5	76 6.7	192 16.8	549 48.1	132 11.6	365 32.0	185 16.2	16 1.4	217 19.0	47 4.1	2 0.2
機能強化型在支診(単独型)	0 0.0	5 25.0	5 25.0	11 55.0	3 15.0	7 35.0	6 30.0	0 0.0	10 50.0	1 5.0	0 0.0
機能強化型在支診(連携型)	3 2.4	11 8.7	22 17.5	64 50.8	22 17.5	59 46.8	35 27.8	3 2.4	47 37.3	5 4.0	0 0.0
在支診	6 1.2	40 7.9	95 18.7	249 49.0	59 11.6	165 32.5	86 16.9	8 1.6	87 17.1	20 3.9	0 0.0
在支診以外の診療所	5 2.0	7 2.8	48 19.2	119 47.6	24 9.6	63 25.2	22 8.8	2 0.8	17 6.8	13 5.2	1 0.4
機能強化型在支病(単独型)	1 2.6	3 7.9	3 7.9	23 60.5	7 18.4	14 36.8	7 18.4	0 0.0	11 28.9	0 0.0	0 0.0
機能強化型在支病(連携型)	0 0.0	4 5.6	10 13.9	30 41.7	6 8.3	28 38.9	10 13.9	1 1.4	18 25.0	3 4.2	0 0.0
在支病	2 1.7	6 5.0	9 7.5	50 41.7	11 9.2	29 24.2	19 15.8	2 1.7	27 22.5	5 4.2	1 0.8

(注)「全体」には訪問医療機関が不明のもの8人分が含まれる。

## 5) 医師の指示又は依頼のもと、看護職員が実施したもの

医師の指示又は依頼のもと、看護職員が実施したものとして多かったのは、「血圧・脈拍の測定」(88.6%)、「健康相談」(34.5%)、「服薬援助・管理」(26.5%) であった。

図表 206 医師の指示又は依頼のもと、看護職員が実施したもの（男女別、3つまで）

(単位：上段「人」、下段「%」)

	総数	健康相談	血圧・脈拍の測定	心電図検査	簡易血糖測定	血糖自己測定	服薬援助・管理	胃ろう・腸ろうによる栄養管理	経鼻経管栄養	中心静脈栄養	吸入・吸引
全体	770	266	682	26	29	10	204	41	16	4	49
	100.0	34.5	88.6	3.4	3.8	1.3	26.5	5.3	2.1	0.5	6.4
男性	288	95	248	8	12	4	73	18	6	3	25
	100.0	33.0	86.1	2.8	4.2	1.4	25.3	6.3	2.1	1.0	8.7
女性	481	171	433	18	17	6	131	23	10	1	24
	100.0	35.6	90.0	3.7	3.5	1.2	27.2	4.8	2.1	0.2	5.0

	ネブライザー	創傷処置	体位変換	浣腸・摘便	褥瘡の処置	インスリン注射	点滴・注射	膀胱(留置)カテーテルの管理	人工肛門・人工膀胱の管理	人工呼吸器の管理	気管切開の処置
全体	4 0.5	33 4.3	34 4.4	67 8.7	56 7.3	5 0.6	71 9.2	47 6.1	9 1.2	13 1.7	11 1.4
男性	2 0.7	12 4.2	13 4.5	26 9.0	19 6.6	4 1.4	26 9.0	22 7.6	3 1.0	8 2.8	6 2.1
女性	2 0.4	21 4.4	21 4.4	41 8.5	37 7.7	1 0.2	45 9.4	25 5.2	6 1.2	5 1.0	5 1.0

	酸素療法管理	がん末期の疼痛管理	慢性疼痛の管理	透析・腹膜還流	リハビリテーション	口腔ケア	歯科医療	連携施設・事業所との連絡・調整	社会福祉制度、相談窓口等の紹介	その他	無回答
全体	37 4.8	11 1.4	6 0.8	2 0.3	12 1.6	25 3.2	1 0.1	83 10.8	3 0.4	13 1.7	0 0.0
男性	20 6.9	6 2.1	1 0.3	1 0.3	4 1.4	9 3.1	0 0.0	30 10.4	1 0.3	9 3.1	0 0.0
女性	17 3.5	5 1.0	5 1.0	1 0.2	8 1.7	16 3.3	1 0.2	53 11.0	2 0.4	4 0.8	0 0.0

(注)「全体」には性別が不明のもの1人分が含まれる。

図表 207 医師の指示又は依頼のもと、看護職員が実施したもの（年齢階級別、3つまで）

(単位：上段「人」、下段「%」)

	総数	健康相談	血圧・脈拍の測定	心電図検査	簡易血糖測定	血糖自己測定	服薬援助・管理	胃ろう・腸ろうによる栄養管理	経鼻経管栄養	中心静脈栄養	吸入・吸引
全体	770 100.0	266 34.5	682 88.6	26 3.4	29 3.8	10 1.3	204 26.5	41 5.3	16 2.1	4 0.5	49 6.4
~39歳	10 100.0	1 10.0	6 60.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 20.0	1 10.0	0 0.0	6 60.0
40~64歳	49 100.0	12 24.5	42 85.7	0 0.0	2 4.1	0 0.0	9 18.4	3 6.1	4 8.2	0 0.0	5 10.2
65~74歳	76 100.0	21 27.6	63 82.9	1 1.3	4 5.3	1 1.3	17 22.4	10 13.2	1 1.3	0 0.0	15 19.7
75~79歳	63 100.0	28 44.4	55 87.3	3 4.8	4 6.3	1 1.6	15 23.8	1 1.6	0 0.0	2 3.2	2 3.2
80~84歳	118 100.0	53 44.9	112 94.9	5 4.2	5 4.2	0 0.0	34 28.8	9 7.6	2 1.7	1 0.8	6 5.1
85~89歳	187 100.0	55 29.4	166 88.8	7 3.7	5 2.7	7 3.7	57 30.5	8 4.3	3 1.6	0 0.0	10 5.3
90~94歳	166 100.0	51 30.7	149 89.8	7 4.2	5 3.0	1 0.6	38 22.9	5 3.0	3 1.8	1 0.6	4 2.4
95歳以上	86 100.0	38 44.2	76 88.4	3 3.5	2 2.3	0 0.0	29 33.7	2 2.3	1 1.2	0 0.0	1 1.2

	ネブライザー	創傷処置	体位変換	浣腸・摘便	褥瘡の処置	インスリン注射	点滴・注射	膀胱(留置)カテーテルの管理	人工肛門・人工膀胱の管理	人工呼吸器の管理	気管切開の処置
全体	4 0.5	33 4.3	34 4.4	67 8.7	56 7.3	5 0.6	71 9.2	47 6.1	9 1.2	13 1.7	11 1.4
~39歳	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5 50.0	3 30.0
40~64歳	1 2.0	5 10.2	3 6.1	5 10.2	3 6.1	0 0.0	4 8.2	4 8.2	2 4.1	2 4.1	3 6.1
65~74歳	0 0.0	1 1.3	2 2.6	12 15.8	3 3.9	2 2.6	7 9.2	5 6.6	0 0.0	4 5.3	4 5.3
75~79歳	0 0.0	1 1.6	3 4.8	7 11.1	7 11.1	1 1.6	3 4.8	4 6.3	2 3.2	1 1.6	0 0.0
80~84歳	1 0.8	3 2.5	5 4.2	8 6.8	7 5.9	0 0.0	11 9.3	11 9.3	0 0.0	0 0.0	1 0.8
85~89歳	1 0.5	6 3.2	8 4.3	14 7.5	14 7.5	0 0.0	18 9.6	13 7.0	4 2.1	0 0.0	0 0.0
90~94歳	0 0.0	12 7.2	9 5.4	14 8.4	15 9.0	2 1.2	18 10.8	7 4.2	0 0.0	1 0.6	0 0.0
95歳以上	1 1.2	4 4.7	4 4.7	4 4.7	6 7.0	0 0.0	8 9.3	3 3.5	1 1.2	0 0.0	0 0.0

	酸素療法 管理	がん末期 の疼痛 管理	慢性疼痛 の管理	透析・腹 膜還流	リハビリテー ション	口腔ケア	歯科医療	連携施 設・事業 所との連 絡・調整	社会福祉 制度、相 談窓口等 の紹介	その他	無回答
全体	37 4.8	11 1.4	6 0.8	2 0.3	12 1.6	25 3.2	1 0.1	83 10.8	3 0.4	13 1.7	0 0.0
~39 歳	1 10.0	0 0.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
40~64 歳	0 0.0	3 6.1	0 0.0	0 0.0	2 4.1	1 2.0	1 2.0	4 8.2	1 2.0	0 0.0	0 0.0
65~74 歳	6 7.9	2 2.6	1 1.3	1 1.3	0 0.0	4 5.3	0 0.0	7 9.2	0 0.0	2 2.6	0 0.0
75~79 歳	4 6.3	2 3.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	6 9.5	1 1.6	2 3.2	0 0.0
80~84 歳	4 3.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 1.7	5 4.2	0 0.0	16 13.6	0 0.0	2 1.7	0 0.0
85~89 歳	9 4.8	2 1.1	2 1.1	0 0.0	2 1.1	9 4.8	0 0.0	19 10.2	0 0.0	2 1.1	0 0.0
90~94 歳	10 6.0	2 1.2	2 1.2	1 0.6	5 3.0	4 2.4	0 0.0	19 11.4	1 0.6	2 1.2	0 0.0
95 歳以上	2 2.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 1.2	0 0.0	10 11.6	0 0.0	3 3.5	0 0.0

(注)「全体」には年齢が不明のもの 15 人分が含まれる。

図表 208 医師の指示又は依頼のもと、看護職員が実施したもの（算定している医学管理料別、3 つまで）

(単位：上段「人」、下段「%」)

	総数	健康相談	血圧・脈 拍の測定	心電図 検査	簡易血糖 測定	血糖自己 測定	服薬援 助・管理	胃ろう・腸 ろうによ る栄養 管理	経鼻経管 栄養	中心静脈 栄養	吸入・ 吸引
全体	770 100.0	266 34.5	682 88.6	26 3.4	29 3.8	10 1.3	204 26.5	41 5.3	16 2.1	4 0.5	49 6.4
在総管(重症患 者)	83 100.0	17 20.5	61 73.5	0 0.0	2 2.4	1 1.2	16 19.3	9 10.8	2 2.4	2 2.4	16 19.3
在総管(月 2 回 以上)	334 100.0	123 36.8	293 87.7	11 3.3	13 3.9	3 0.9	95 28.4	20 6.0	10 3.0	0 0.0	22 6.6
在総管(月 1 回)	93 100.0	40 43.0	83 89.2	2 2.2	4 4.3	2 2.2	16 17.2	8 8.6	2 2.2	0 0.0	4 4.3
施設総管(重症 患者)	6 100.0	0 0.0	6 100.0	0 0.0	1 16.7	0 0.0	1 16.7	1 16.7	0 0.0	0 0.0	1 16.7
施設総管(月 2 回以上)	83 100.0	25 30.1	78 94.0	8 9.6	5 6.0	3 3.6	27 32.5	0 0.0	0 0.0	2 2.4	1 1.2
施設総管(月 1 回)	17 100.0	8 47.1	14 82.4	0 0.0	1 5.9	0 0.0	4 23.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 5.9
算定していない	136 100.0	47 34.6	131 96.3	5 3.7	3 2.2	1 0.7	40 29.4	3 2.2	2 1.5	0 0.0	2 1.5

	ネプライザー	創傷処置	体位変換	浣腸・摘便	褥瘡の処置	インスリン注射	点滴・注射	膀胱(留置)カテーテルの管理	人工肛門・人工膀胱の管理	人工呼吸器の管理	気管切開の処置
全体	4 0.5	33 4.3	34 4.4	67 8.7	56 7.3	5 0.6	71 9.2	47 6.1	9 1.2	13 1.7	11 1.4
在総管(重症患者)	0 0.0	2 2.4	3 3.6	13 15.7	18 21.7	1 1.2	8 9.6	11 13.3	5 6.0	9 10.8	7 8.4
在総管(月2回以上)	2 0.6	19 5.7	18 5.4	27 8.1	22 6.6	2 0.6	24 7.2	18 5.4	1 0.3	2 0.6	3 0.9
在総管(月1回)	0 0.0	1 1.1	3 3.2	12 12.9	5 5.4	0 0.0	4 4.3	6 6.5	2 2.2	0 0.0	0 0.0
施設総管(重症患者)	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 33.3	3 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
施設総管(月2回以上)	1 1.2	2 2.4	1 1.2	2 2.4	4 4.8	2 2.4	12 14.5	2 2.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0
施設総管(月1回)	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 17.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
算定していない	1 0.7	9 6.6	9 6.6	11 8.1	5 3.7	0 0.0	15 11.0	6 4.4	1 0.7	2 1.5	1 0.7

	酸素療法管理	がん末期の疼痛管理	慢性疼痛の管理	透析・腹膜還流	リハビリーション	口腔ケア	歯科医療	連携施設・事業所との連絡・調整	社会福祉制度、相談窓口等の紹介	その他	無回答
全体	37 4.8	11 1.4	6 0.8	2 0.3	12 1.6	25 3.2	1 0.1	83 10.8	3 0.4	13 1.7	0 0.0
在総管(重症患者)	12 14.5	5 6.0	0 0.0	2 2.4	1 1.2	2 2.4	0 0.0	6 7.2	0 0.0	3 3.6	0 0.0
在総管(月2回以上)	8 2.4	2 0.6	2 0.6	0 0.0	7 2.1	14 4.2	1 0.3	42 12.6	1 0.3	3 0.9	0 0.0
在総管(月1回)	4 4.3	0 0.0	1 1.1	0 0.0	2 2.2	1 1.1	0 0.0	9 9.7	0 0.0	3 3.2	0 0.0
施設総管(重症患者)	1 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
施設総管(月2回以上)	2 2.4	0 0.0	1 1.2	0 0.0	0 0.0	1 1.2	0 0.0	12 14.5	2 2.4	0 0.0	0 0.0
施設総管(月1回)	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 17.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0
算定していない	9 6.6	4 2.9	2 1.5	0 0.0	2 1.5	4 2.9	0 0.0	9 6.6	0 0.0	3 2.2	0 0.0

(注)「全体」には算定している医学管理料が不明のもの18人分が含まれる。

図表 209 医師の指示又は依頼のもと、看護職員が実施したもの（訪問医療機関別、3つまで）

(単位：上段「人」、下段「%」)

	総数	健康相談	血圧・脈拍の測定	心電図検査	簡易血糖測定	血糖自己測定	服薬援助・管理	胃ろう・腸ろうによる栄養管理	経鼻経管栄養	中心静脈栄養	吸入・吸引
全体	770 100.0	266 34.5	682 88.6	26 3.4	29 3.8	10 1.3	204 26.5	41 5.3	16 2.1	4 0.5	49 6.4
機能強化型在支診(単独型)	18 100.0	8 44.4	15 83.3	0 0.0	1 5.6	0 0.0	2 11.1	1 5.6	2 11.1	0 0.0	4 22.2
機能強化型在支診(連携型)	90 100.0	34 37.8	72 80.0	5 5.6	5 5.6	0 0.0	26 28.9	6 6.7	3 3.3	0 0.0	12 13.3
在支診	343 100.0	123 35.9	311 90.7	14 4.1	14 4.1	3 0.9	110 32.1	22 6.4	6 1.7	1 0.3	19 5.5
在支診以外の診療所	128 100.0	39 30.5	114 89.1	0 0.0	4 3.1	3 2.3	21 16.4	3 2.3	2 1.6	1 0.8	4 3.1
機能強化型在支病(単独型)	31 100.0	10 32.3	27 87.1	3 9.7	0 0.0	0 0.0	8 25.8	2 6.5	1 3.2	0 0.0	4 12.9
機能強化型在支病(連携型)	59 100.0	19 32.2	53 89.8	1 1.7	2 3.4	2 3.4	13 22.0	1 1.7	1 1.7	1 1.7	3 5.1
在支病	94 100.0	28 29.8	84 89.4	3 3.2	3 3.2	2 2.1	22 23.4	6 6.4	1 1.1	1 1.1	3 3.2

	ネプライザー	創傷処置	体位変換	浣腸・摘便	褥瘡の処置	インスリン注射	点滴・注射	膀胱(留置)カテーテルの管理	人工肛門・人工膀胱の管理	人工呼吸器の管理	気管切開の処置
全体	4 0.5	33 4.3	34 4.4	67 8.7	56 7.3	5 0.6	71 9.2	47 6.1	9 1.2	13 1.7	11 1.4
機能強化型在支診(単独型)	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 5.6	0 0.0	1 5.6	0 0.0
機能強化型在支診(連携型)	0 0.0	5 5.6	5 5.6	16 17.8	10 11.1	1 1.1	6 6.7	5 5.6	2 2.2	1 1.1	2 2.2
在支診	2 0.6	17 5.0	16 4.7	18 5.2	25 7.3	1 0.3	35 10.2	23 6.7	4 1.2	4 1.2	3 0.9
在支診以外の診療所	2 1.6	8 6.3	9 7.0	19 14.8	10 7.8	1 0.8	12 9.4	4 3.1	1 0.8	3 2.3	2 1.6
機能強化型在支病(単独型)	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 6.5	1 3.2	0 0.0	6 19.4	3 9.7	1 3.2	3 9.7	2 6.5
機能強化型在支病(連携型)	0 0.0	2 3.4	3 5.1	2 3.4	2 3.4	0 0.0	5 8.5	4 6.8	0 0.0	1 1.7	2 3.4
在支病	0 0.0	1 1.1	1 1.1	10 10.6	8 8.5	2 2.1	7 7.4	7 7.4	1 1.1	0 0.0	0 0.0

	酸素療法 管理	がん末期 の疼痛 管理	慢性疼痛 の管理	透析・腹 膜還流	リハビリテー ション	口腔ケア	歯科医療	連携施 設・事業 所との連 絡・調整	社会福祉 制度、相 談窓口等 の紹介	その他	無回答
全体	37 4.8	11 1.4	6 0.8	2 0.3	12 1.6	25 3.2	1 0.1	83 10.8	3 0.4	13 1.7	0 0.0
機能強化型在支 診(単独型)	2 11.1	1 5.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 11.1	1 5.6	3 16.7	0 0.0
機能強化型在支 診(連携型)	3 3.3	4 4.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 2.2	0 0.0	13 14.4	0 0.0	2 2.2	0 0.0
在支診	15 4.4	0 0.0	2 0.6	0 0.0	10 2.9	14 4.1	0 0.0	27 7.9	1 0.3	2 0.6	0 0.0
在支診以外の診 療所	4 3.1	3 2.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	6 4.7	1 0.8	9 7.0	0 0.0	2 1.6	0 0.0
機能強化型在支 病(単独型)	2 6.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 6.5	0 0.0	6 19.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0
機能強化型在支 病(連携型)	5 8.5	2 3.4	3 5.1	0 0.0	0 0.0	1 1.7	0 0.0	9 15.3	1 1.7	2 3.4	0 0.0
在支病	6 6.4	1 1.1	1 1.1	2 2.1	2 2.1	0 0.0	0 0.0	17 18.1	0 0.0	2 2.1	0 0.0

(注)「全体」には訪問医療機関が不明のもの7人分が含まれる。

## 6) 医師の指示又は依頼のもと、リハビリ職が実施したもの

医師の指示又は依頼のもと、リハビリ職が実施したものとして多かったのは、「リハビリーション」(78.8%)、「血圧・脈拍の測定」(28.3%)、「体位変換」(17.7%)であった。

図表 210 医師の指示又は依頼のもと、リハビリ職が実施したもの（男女別、3つまで）

(単位：上段「人」、下段「%」)

	総数	健康相談	血圧・脈拍の測定	心電図検査	簡易血糖測定	血糖自己測定	服薬援助・管理	胃ろう・腸ろうによる栄養管理	経鼻経管栄養	中心静脈栄養	吸入・吸引
全体	198	18	56	0	0	1	5	1	0	0	1
	100.0	9.1	28.3	0.0	0.0	0.5	2.5	0.5	0.0	0.0	0.5
男性	78	8	23	0	0	1	1	0	0	0	1
	100.0	10.3	29.5	0.0	0.0	1.3	1.3	0.0	0.0	0.0	1.3
女性	120	10	33	0	0	0	4	1	0	0	0
	100.0	8.3	27.5	0.0	0.0	0.0	3.3	0.8	0.0	0.0	0.0

	ネプライザー	創傷処置	体位変換	浣腸・摘便	褥瘡の処置	インスリン注射	点滴・注射	膀胱(留置)カテーテルの管理	人工肛門・人工膀胱の管理	人工呼吸器の管理	気管切開の処置
全体	0	2	35	0	0	0	1	0	0	1	0
	0.0	1.0	17.7	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	0.5	0.0
男性	0	2	12	0	0	0	0	0	0	1	0
	0.0	2.6	15.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.3	0.0
女性	0	0	23	0	0	0	1	0	0	0	0
	0.0	0.0	19.2	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0

	酸素療法管理	がん末期の疼痛管理	慢性疼痛の管理	透析・腹膜還流	リハビリテーション	口腔ケア	歯科医療	連携施設・事業所との連絡・調整	社会福祉制度、相談窓口等の紹介	その他	無回答
全体	0	0	3	0	156	12	0	16	1	13	0
	0.0	0.0	1.5	0.0	78.8	6.1	0.0	8.1	0.5	6.6	0.0
男性	0	0	1	0	65	4	0	7	1	4	0
	0.0	0.0	1.3	0.0	83.3	5.1	0.0	9.0	1.3	5.1	0.0
女性	0	0	2	0	91	8	0	9	0	9	0
	0.0	0.0	1.7	0.0	75.8	6.7	0.0	7.5	0.0	7.5	0.0

図表 211 医師の指示又は依頼のもと、リハビリ職が実施したもの（年齢階級別、3つまで）

(単位：上段「人」、下段「%」)

	総数	健康相談	血圧・脈拍の測定	心電図検査	簡易血糖測定	血糖自己測定	服薬援助・管理	胃ろう・腸ろうによる栄養管理	経鼻経管栄養	中心静脈栄養	吸入・吸引
全体	198	18	56	0	0	1	5	1	0	0	1
	100.0	9.1	28.3	0.0	0.0	0.5	2.5	0.5	0.0	0.0	0.5
~39歳	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
40~64歳	18	3	5	0	0	0	1	0	0	0	0
	100.0	16.7	27.8	0.0	0.0	0.0	5.6	0.0	0.0	0.0	0.0
65~74歳	29	4	6	0	0	0	0	0	0	0	1
	100.0	13.8	20.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.4
75~79歳	24	3	7	0	0	0	0	0	0	0	0
	100.0	12.5	29.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
80~84歳	31	1	9	0	0	1	1	1	0	0	0
	100.0	3.2	29.0	0.0	0.0	3.2	3.2	3.2	0.0	0.0	0.0
85~89歳	40	2	12	0	0	0	3	0	0	0	0
	100.0	5.0	30.0	0.0	0.0	0.0	7.5	0.0	0.0	0.0	0.0
90~94歳	30	2	11	0	0	0	0	0	0	0	0
	100.0	6.7	36.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
95歳以上	18	3	6	0	0	0	0	0	0	0	0
	100.0	16.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

	ネプライザー	創傷処置	体位変換	浣腸・摘便	褥瘡の処置	インスリン注射	点滴・注射	膀胱(留置)カテーテルの管理	人工肛門・人工膀胱の管理	人工呼吸器の管理	気管切開の処置
全体	0	2	35	0	0	0	1	0	0	1	0
	0.0	1.0	17.7	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	0.5	0.0
~39歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
40~64歳	0	1	5	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.0	5.6	27.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
65~74歳	0	0	8	0	0	0	0	0	0	1	0
	0.0	0.0	27.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.4	0.0
75~79歳	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
80~84歳	0	1	7	0	0	0	1	0	0	0	0
	0.0	3.2	22.6	0.0	0.0	0.0	3.2	0.0	0.0	0.0	0.0
85~89歳	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
90~94歳	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
95歳以上	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

	酸素療法管理	がん末期の疼痛管理	慢性疼痛の管理	透析・腹膜還流	リハビリテーション	口腔ケア	歯科医療	連携施設・事業所との連絡・調整	社会福祉制度、相談窓口等の紹介	その他	無回答
全体	0 0.0	0 0.0	3 1.5	0 0.0	156 78.8	12 6.1	0 0.0	16 8.1	1 0.5	13 6.6	0 0.0
~39歳	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 75.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	1 25.0	0 0.0
40~64歳	0 0.0	0 0.0	1 5.6	0 0.0	12 66.7	1 5.6	0 0.0	4 22.2	0 0.0	1 5.6	0 0.0
65~74歳	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	25 86.2	3 10.3	0 0.0	1 3.4	0 0.0	3 10.3	0 0.0
75~79歳	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	21 87.5	0 0.0	0 0.0	2 8.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0
80~84歳	0 0.0	0 0.0	1 3.2	0 0.0	23 74.2	2 6.5	0 0.0	4 12.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0
85~89歳	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	33 82.5	4 10.0	0 0.0	3 7.5	0 0.0	2 5.0	0 0.0
90~94歳	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	23 76.7	0 0.0	0 0.0	2 6.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0
95歳以上	0 0.0	0 0.0	1 5.6	0 0.0	12 66.7	2 11.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	6 33.3	0 0.0

(注)「全体」には年齢が不明のもの4人分が含まれる。

図表 212 医師の指示又は依頼のもと、リハビリ職が実施したもの（算定している医学管理料別、3つまで）

(単位：上段「人」、下段「%」)

	総数	健康相談	血圧・脈拍の測定	心電図検査	簡易血糖測定	血糖自己測定	服薬援助・管理	胃ろう・腸ろうによる栄養管理	経鼻経管栄養	中心静脈栄養	吸入・吸引
全体	198 100.0	18 9.1	56 28.3	0 0.0	0 0.0	1 0.5	5 2.5	1 0.5	0 0.0	0 0.0	1 0.5
在総管(重症患者)	41 100.0	3 7.3	12 29.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 2.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
在総管(月2回以上)	84 100.0	10 11.9	24 28.6	0 0.0	0 0.0	1 1.2	3 3.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
在総管(月1回)	19 100.0	2 10.5	2 10.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
施設総管(重症患者)	3 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
施設総管(月2回以上)	13 100.0	0 0.0	5 38.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
施設総管(月1回)	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
算定していない	29 100.0	2 6.9	8 27.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 3.4	0 0.0	0 0.0	1 3.4

	ネプライザー	創傷処置	体位変換	浣腸・摘便	褥瘡の処置	インスリン注射	点滴・注射	膀胱(留置)カテーテルの管理	人工肛門・人工膀胱の管理	人工呼吸器の管理	気管切開の処置
全体	0 0.0	2 1.0	35 17.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 0.5	0 0.0	0 0.0	1 0.5	0 0.0
在総管(重症患者)	0 0.0	1 2.4	8 19.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 2.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
在総管(月2回以上)	0 0.0	0 0.0	13 15.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
在総管(月1回)	0 0.0	1 5.3	5 26.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
施設総管(重症患者)	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
施設総管(月2回以上)	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
施設総管(月1回)	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
算定していない	0 0.0	0 0.0	6 20.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 3.4	0 0.0

	酸素療法管理	がん末期の疼痛管理	慢性疼痛の管理	透析・腹膜還流	リハビリーション	口腔ケア	歯科医療	連携施設・事業所との連絡・調整	社会福祉制度、相談窓口等の紹介	その他	無回答
全体	0 0.0	0 0.0	3 1.5	0 0.0	156 78.8	12 6.1	0 0.0	16 8.1	1 0.5	13 6.6	0 0.0
在総管(重症患者)	0 0.0	0 0.0	1 2.4	0 0.0	33 80.5	2 4.9	0 0.0	3 7.3	0 0.0	2 4.9	0 0.0
在総管(月2回以上)	0 0.0	0 0.0	1 1.2	0 0.0	71 84.5	3 3.6	0 0.0	7 8.3	0 0.0	6 7.1	0 0.0
在総管(月1回)	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	13 68.4	1 5.3	0 0.0	3 15.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0
施設総管(重症患者)	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
施設総管(月2回以上)	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	9 69.2	2 15.4	0 0.0	1 7.7	0 0.0	2 15.4	0 0.0
施設総管(月1回)	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
算定していない	0 0.0	0 0.0	1 3.4	0 0.0	20 69.0	2 6.9	0 0.0	1 3.4	0 0.0	3 10.3	0 0.0

(注)「全体」には算定している医学管理料が不明のもの8人分が含まれる。

図表 213 医師の指示又は依頼のもと、リハビリ職が実施したもの（訪問医療機関別、3つまで）

(単位：上段「人」、下段「%」)

	総数	健康相談	血圧・脈拍の測定	心電図検査	簡易血糖測定	血糖自己測定	服薬援助・管理	胃ろう・腸ろうによる栄養管理	経鼻経管栄養	中心静脈栄養	吸入・吸引
全体	198 100.0	18 9.1	56 28.3	0 0.0	0 0.0	1 0.5	5 2.5	1 0.5	0 0.0	0 0.0	1 0.5
機能強化型在支診(単独型)	4 100.0	1 25.0	2 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
機能強化型在支診(連携型)	31 100.0	5 16.1	10 32.3	0 0.0	0 0.0	1 3.2	1 3.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
在支診	87 100.0	6 6.9	24 27.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 3.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
在支診以外の診療所	38 100.0	2 5.3	8 21.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
機能強化型在支病(単独型)	6 100.0	1 16.7	4 66.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
機能強化型在支病(連携型)	9 100.0	1 11.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
在支病	23 100.0	2 8.7	8 34.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 4.3	1 4.3	0 0.0	0 0.0	1 4.3

	ネプライザー	創傷処置	体位変換	浣腸・摘便	褥瘡の処置	インスリン注射	点滴・注射	膀胱(留置)カテーテルの管理	人工肛門・人工膀胱の管理	人工呼吸器の管理	気管切開の処置
全体	0 0.0	2 1.0	35 17.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 0.5	0 0.0	0 0.0	1 0.5	0 0.0
機能強化型在支診(単独型)	0 0.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
機能強化型在支診(連携型)	0 0.0	0 0.0	7 22.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
在支診	0 0.0	1 1.1	13 14.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 1.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
在支診以外の診療所	0 0.0	1 2.6	6 15.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
機能強化型在支病(単独型)	0 0.0	0 0.0	2 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
機能強化型在支病(連携型)	0 0.0	0 0.0	1 11.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
在支病	0 0.0	0 0.0	5 21.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 4.3	0 0.0

	酸素療法管理	がん末期の疼痛管理	慢性疼痛の管理	透析・腹膜還流	リハビリテーション	口腔ケア	歯科医療	連携施設・事業所との連絡・調整	社会福祉制度、相談窓口等の紹介	その他	無回答
全体	0 0.0	0 0.0	3 1.5	0 0.0	156 78.8	12 6.1	0 0.0	16 8.1	1 0.5	13 6.6	0 0.0
機能強化型在支診(単独型)	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
機能強化型在支診(連携型)	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	23 74.2	3 9.7	0 0.0	5 16.1	0 0.0	2 6.5	0 0.0
在支診	0 0.0	0 0.0	3 3.4	0 0.0	65 74.7	4 4.6	0 0.0	5 5.7	0 0.0	6 6.9	0 0.0
在支診以外の診療所	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	32 84.2	1 2.6	0 0.0	2 5.3	0 0.0	3 7.9	0 0.0
機能強化型在支病(単独型)	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5 83.3	0 0.0	0 0.0	1 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0
機能強化型在支病(連携型)	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	9 100.0	1 11.1	0 0.0	1 11.1	1 11.1	0 0.0	0 0.0
在支病	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	18 78.3	3 13.0	0 0.0	2 8.7	0 0.0	2 8.7	0 0.0

## 7) 調査日の診察状況

調査日の診察状況をみると、「戸建て・マンション・アパート団地等」では「単一建物内で当該患者のみ診察」が96.0%で他の施設と比較しても最も多かった。一方、他の施設では、「単一建物内で複数の患者を診察」のほうが「単一建物内で当該患者のみ診察」よりも多かった。患者数が少ない「養護老人ホーム・軽費老人ホーム」、「特別養護老人ホーム」を除くと、「認知症高齢者グループホーム」では70.2%、「有料老人ホーム」では69.4%、「サービス付き高齢者向け住宅」では67.9%と7割近い患者が「単一建物内で複数の患者を診察」であった。

図表 214 調査日の診察状況（居住場所別、単数回答）

(単位：上段「人」、下段「%」)

	総数	単一の建 物内で複 数の患者 を診察	単一の建 物内で当 該患者の み診察	無回答
全体	1,142 100.0	269 23.6	866 75.8	7 0.6
戸建て・マンション・アパート・団地等	795 100.0	30 3.8	763 96.0	2 0.3
サービス付き高齢者向け住宅	84 100.0	57 67.9	27 32.1	0 0.0
有料老人ホーム	134 100.0	93 69.4	39 29.1	2 1.5
養護老人ホーム・軽費老人ホーム	9 100.0	7 77.8	2 22.2	0 0.0
特別養護老人ホーム	6 100.0	5 83.3	1 16.7	0 0.0
認知症高齢者グループホーム	94 100.0	66 70.2	25 26.6	3 3.2
その他	16 100.0	9 56.3	7 43.8	0 0.0

(注) 「全体」には患者の居住場所が不明のもの4人分が含まれる。

訪問医療機関別に調査日の診察状況をみると、「单一建物内で複数の患者を診察」の割合は、在支病が38.3%で最も高く、次いで機能強化型在支病（連携型）（26.4%）、在支診（25.2%）であつた。

図表 215 調査日の診察状況（訪問医療機関別、単数回答）

（単位：上段「人」、下段「%」）

	総数	单一の建 物内で複 数の患者 を診察	单一の建 物内で当 該患者の み診察	無回答
全体	1,142 100.0	269 23.6	866 75.8	7 0.6
機能強化型在支診（単独型）	20 100.0	2 10.0	18 90.0	0 0.0
機能強化型在支診（連携型）	126 100.0	27 21.4	99 78.6	0 0.0
在支診	508 100.0	128 25.2	376 74.0	4 0.8
在支診以外の診療所	250 100.0	40 16.0	209 83.6	1 0.4
機能強化型在支病（単独型）	38 100.0	4 10.5	33 86.8	1 2.6
機能強化型在支病（連携型）	72 100.0	19 26.4	53 73.6	0 0.0
在支病	120 100.0	46 38.3	73 60.8	1 0.8

（注）「全体」には訪問医療機関が不明のもの8人分が含まれる。

## 8) 調査日における診療時間

調査日における診療時間をみると、全体では平均 18.1 分（中央値 15.0）であった。

男女別にみると、男性では平均 19.6 分（中央値 15.0）、女性では平均 17.3 分（中央値 15.0）であった。

図表 216 調査日における診療時間（男女別）

(単位：分)

	患者数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,113	18.1	12.7	15.0
男性	410	19.6	14.5	15.0
女性	697	17.3	11.4	15.0

(注)・「全体」には性別が不明のもの 6 人分が含まれる。

・診療時間について記入のあったものを集計対象とした。

年齢階級別にみると、39 歳以下が平均 22.7 分（中央値 20.0）で最も長く、次いで 75～79 歳が平均 21.1 分（中央値 15.0）、65～74 歳が平均 19.9 分（中央値 18.5）であった。

図表 217 調査日における診療時間（年齢階級別）

(単位：分)

	患者数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,113	18.1	12.7	15.0
~39 歳	11	22.7	11.7	20.0
40～64 歳	65	19.3	11.9	20.0
65～74 歳	116	19.9	12.3	18.5
75～79 歳	93	21.1	19.8	15.0
80～84 歳	194	17.1	10.5	15.0
85～89 歳	252	17.7	10.5	15.0
90～94 歳	227	17.0	14.2	15.0
95 歳以上	133	17.5	11.1	15.0

(注)・「全体」には年齢が不明のもの 22 人分が含まれる。

・診療時間について記入のあったものを集計対象とした。

調査日の診察状況別に、調査日における診療時間みると、「单一建物内で当該患者のみ診察」が平均 19.5 分（中央値 15.0）で、「单一建物内で複数の患者を診察」が平均 13.8 分（中央値 10.0）となっており、当該患者のみ診察する方が平均で 5.7 分長かった。

図表 218 調査日における診療時間（調査日の診察状況別）

(単位：分)

	患者数 (人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,113	18.1	12.7	15.0
単一の建物内で複数の患者を診察	260	13.8	13.6	10.0
単一の建物内で当該患者のみ診察	847	19.5	12.2	15.0

(注)・「全体」には調査日の診察状況が不明のもの 6 人分が含まれる。

・診療時間について記入のあったものを集計対象とした。

訪問医療機関別の、調査日における診療時間は、以下のとおりである。

図表 219 調査日における診療時間（訪問医療機関別）

(単位：分)

	患者数 (人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,113	18.1	12.7	15.0
機能強化型在支診(単独型)	20	19.5	17.2	15.0
機能強化型在支診(連携型)	125	18.7	13.0	15.0
在支診	494	18.3	10.8	15.0
在支診以外の診療所	243	19.6	17.3	15.0
機能強化型在支病(単独型)	38	16.1	6.7	15.0
機能強化型在支病(連携型)	68	13.5	7.5	10.0
在支病	117	16.6	11.1	15.0

(注)・「全体」には訪問医療機関が不明のもの 8 人分が含まれる。

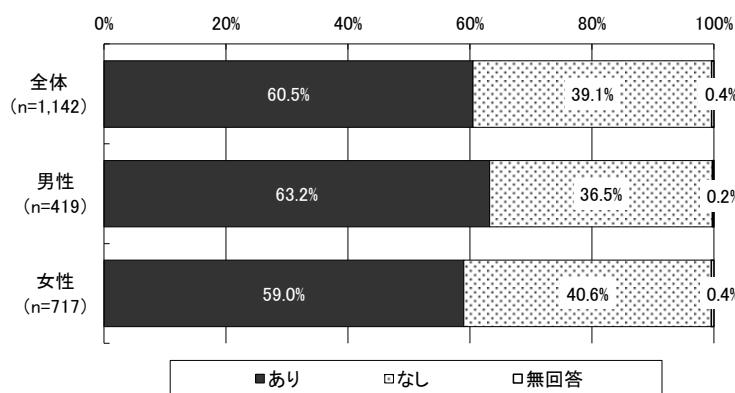
・診療時間について記入のあったものを集計対象とした。

## 9) 調査日の診療における看護職員の同行

調査日の診療における看護職員の同行をみると、全体では「あり」が 60.5%、「なし」が 39.1% であった。

男女別にみると、「あり」の割合は男性が 63.2%、女性が 59.0% で、男性の方が女性と比較して 4.2 ポイント高かった。

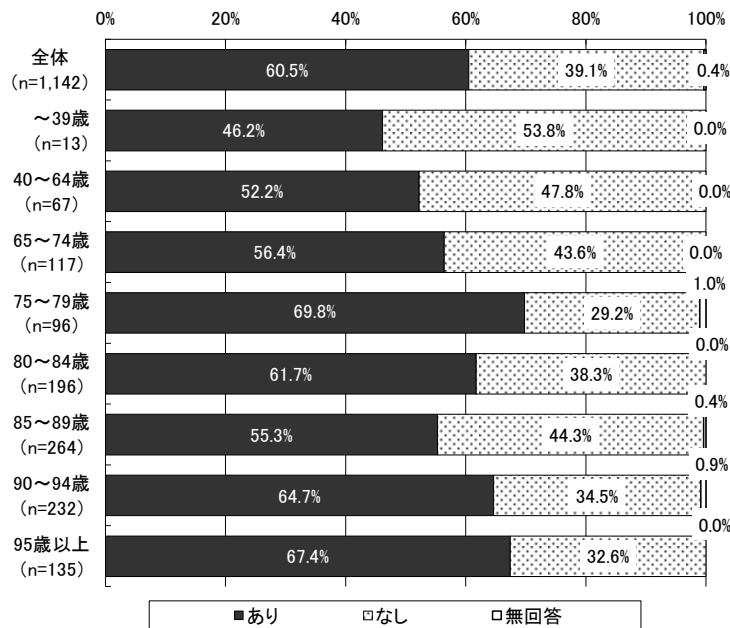
図表 220 調査日の診療における看護職員の同行（男女別）



(注)「全体」には性別が不明のもの 6 人分が含まれる。

年齢階級別に、調査日の診療における看護職員の同行をみると、「あり」の割合が特に高いのは75～79歳（69.8%）、95歳以上（67.4%）であった。

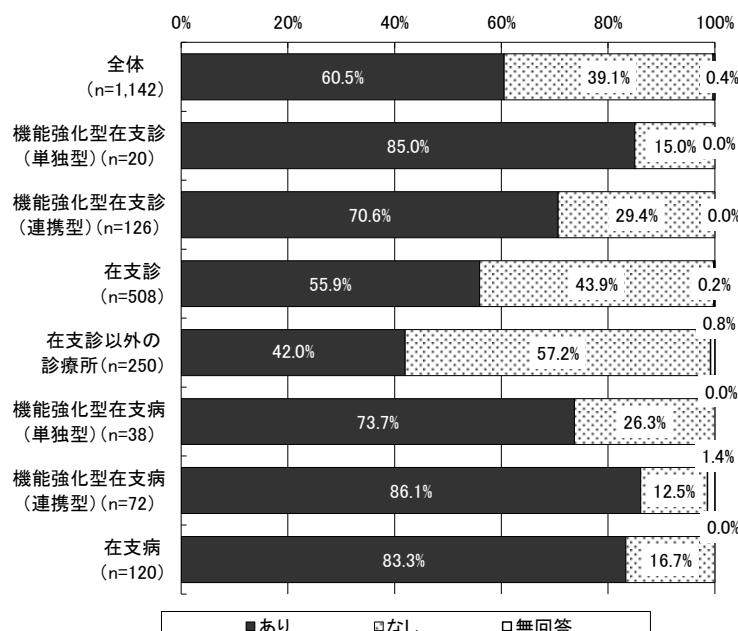
図表 221 調査日の診療における看護職員の同行（年齢階級別）



(注)「全体」には年齢が不明のもの22人分が含まれる。

訪問医療機関別に、調査日の診療における看護職員の同行をみると、「あり」の割合は機能強化型在支病（連携型）（86.1%）と機能強化型在支診（単独型）（85.0%）で85%以上と特に高かった。

図表 222 調査日の診療における看護職員の同行（訪問医療機関別）



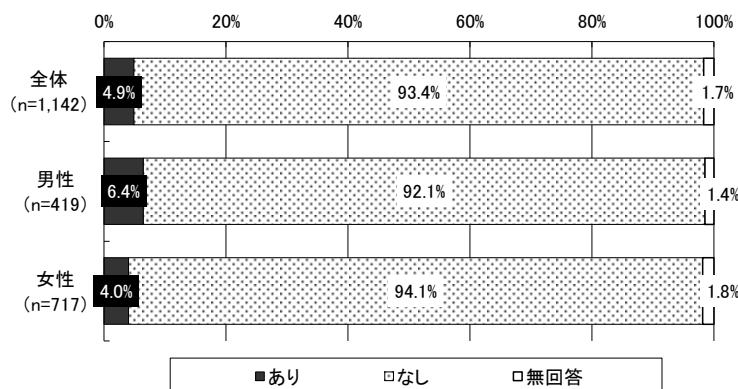
(注)「全体」には訪問医療機関が不明のもの8人分が含まれる。

## 10) 当該患者に関する歯科医療機関との連携の有無

当該患者に関する歯科医療機関との連携の有無をみると、全体では「あり」が4.9%、「なし」が93.4%であった。

男女別にみると、「あり」の割合は男性が6.4%、女性が4.0%で、男性の方が女性と比較して2.4ポイント高かった。

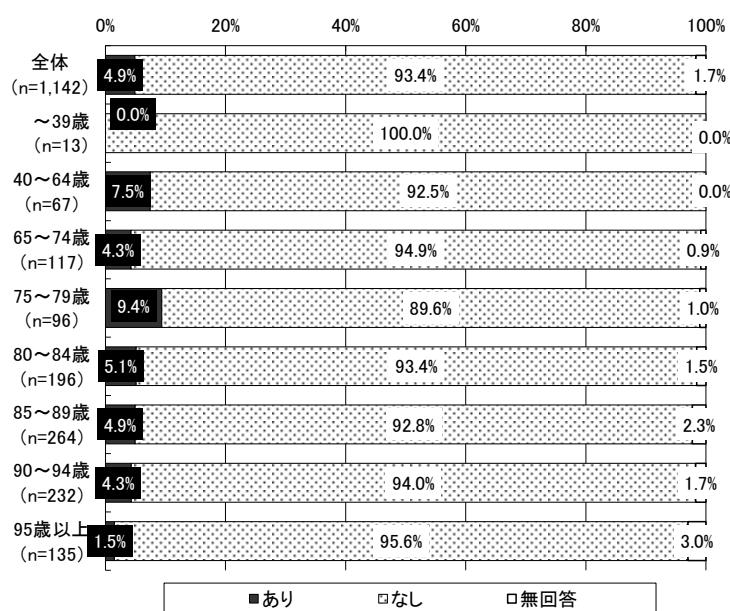
図表 223 当該患者に関する歯科医療機関との連携の有無（男女別）



(注)「全体」には性別が不明のもの6人分が含まれる。

年齢階級別に、当該患者に関する歯科医療機関との連携の有無をみると、「あり」の割合が特に高いのは75～79歳(9.4%)で、全体や他の年齢階級と比較すると高かった。

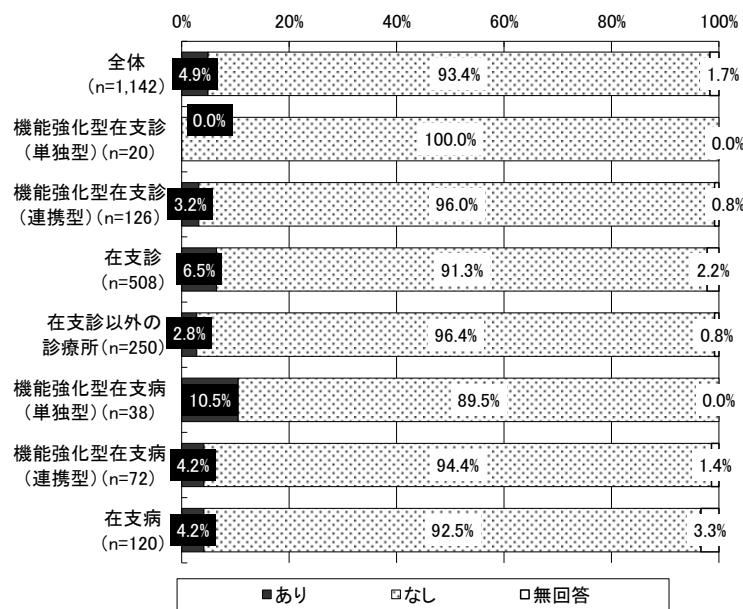
図表 224 当該患者に関する歯科医療機関との連携の有無（年齢階級別）



(注)「全体」には年齢が不明のもの22人分が含まれる。

訪問医療機関別に、当該患者に関する歯科医療機関との連携の有無をみると、「あり」の割合は機能強化型在支病（単独型）で10.5%と全体や他と比較して高かった。

図表 225 当該患者に関する歯科医療機関との連携の有無（訪問医療機関別）



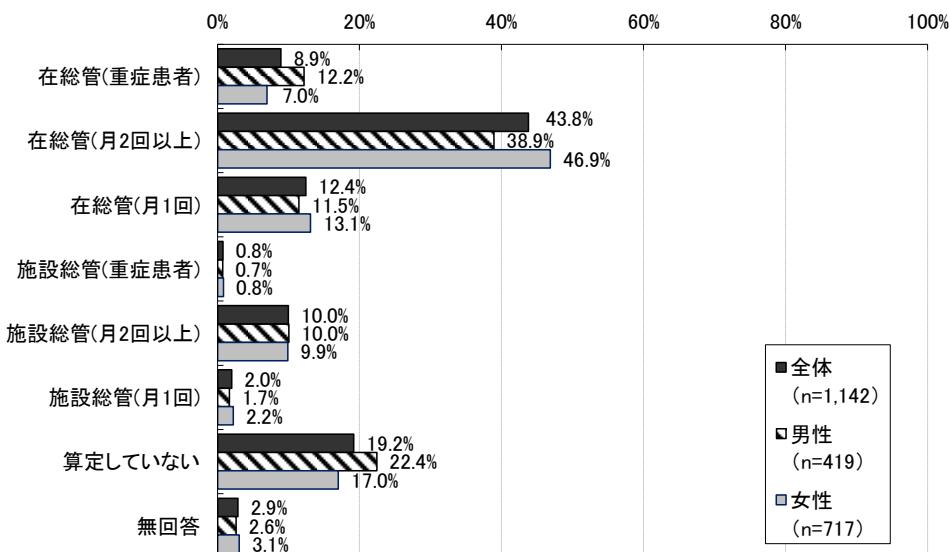
(注)「全体」には訪問医療機関が不明のもの8人分が含まれる。

## 11) 医学管理料の算定状況

医学管理料の算定状況をみると、全体では「在総管（月2回以上）」が43.8%で最も多く、次いで「算定していない」が19.2%、「在総管（月1回）」が12.4%であった。

男女別にみると、女性では男性と比較して「在総管（月2回以上）」が8.0ポイント高かった。

図表 226 医学管理料の算定状況（男女別、単数回答）



(注)「全体」には性別が不明のもの6人分が含まれる。

年齢階級別に、医学管理料の算定状況をみると、40歳以上では「在総管（月2回以上）」が最も高かった。また、患者数が少ないものの39歳以下、40～64歳では「在総管（重症患者）」の割合が他の年齢階級と比較して相対的に高かった。

図表 227 医学管理料の算定状況（年齢階級別）

(単位：上段「人」、下段「%」)

	総数	在総管 (重症患者)	在総管 (月2回以上)	在総管 (月1回)	施設総 管(重症 患者)	施設総 管(月2 回以上)	施設総 管(月1 回)	算定して いない	無回答
全体	1,142	102	500	142	9	114	23	219	33
	100.0	8.9	43.8	12.4	0.8	10.0	2.0	19.2	2.9
～39歳	13	5	4	0	0	0	0	2	2
	100.0	38.5	30.8	0.0	0.0	0.0	0.0	15.4	15.4
40～64歳	67	17	26	11	0	2	1	10	0
	100.0	25.4	38.8	16.4	0.0	3.0	1.5	14.9	0.0
65～74歳	117	16	44	17	3	6	0	28	3
	100.0	13.7	37.6	14.5	2.6	5.1	0.0	23.9	2.6
75～79歳	96	8	48	10	0	8	3	17	2
	100.0	8.3	50.0	10.4	0.0	8.3	3.1	17.7	2.1
80～84歳	196	11	84	29	0	23	1	40	8
	100.0	5.6	42.9	14.8	0.0	11.7	0.5	20.4	4.1
85～89歳	264	16	114	30	6	33	8	48	9
	100.0	6.1	43.2	11.4	2.3	12.5	3.0	18.2	3.4
90～94歳	232	20	99	26	0	24	7	52	4
	100.0	8.6	42.7	11.2	0.0	10.3	3.0	22.4	1.7
95歳以上	135	8	74	17	0	16	1	17	2
	100.0	5.9	54.8	12.6	0.0	11.9	0.7	12.6	1.5

(注)「全体」には年齢が不明のもの22人分が含まれる。

訪問医療機関別に医学管理料の算定状況をみると、「在総管（重症患者）」の割合が比較的高かったのは機能強化型在支診（単独型）（30.0%）、機能強化型在支診（連携型）（19.8%）、機能強化型在支病（単独型）（18.4%）であった。

図表 228 医学管理料の算定状況（訪問医療機関別）

(単位：上段「人」下段「%」)

	総数	在総管(重 症患者)	在総管(月 2回以上)	在総管(月 1回)	施設総管 (重症患者)	施設総管 (月2回以 上)	施設総管 (月1回)	算定してい ない	無回答
全体	1,142	102	500	142	9	114	23	219	33
	100.0	8.9	43.8	12.4	0.8	10.0	2.0	19.2	2.9
機能強化型在 支診(単独型)	20	6	9	4	0	1	0	0	0
	100.0	30.0	45.0	20.0	0.0	5.0	0.0	0.0	0.0
機能強化型在 支診(連携型)	126	25	68	9	1	13	2	8	0
	100.0	19.8	54.0	7.1	0.8	10.3	1.6	6.3	0.0
在支診	508	38	235	50	5	62	6	101	11
	100.0	7.5	46.3	9.8	1.0	12.2	1.2	19.9	2.2
在支診以外の 診療所	250	10	102	48	1	11	4	66	8
	100.0	4.0	40.8	19.2	0.4	4.4	1.6	26.4	3.2
機能強化型在 支病(単独型)	38	7	15	3	1	1	0	8	3
	100.0	18.4	39.5	7.9	2.6	2.6	0.0	21.1	7.9
機能強化型在 支病(連携型)	72	8	24	8	0	13	2	16	1
	100.0	11.1	33.3	11.1	0.0	18.1	2.8	22.2	1.4
在支病	120	8	44	20	1	12	9	17	9
	100.0	6.7	36.7	16.7	0.8	10.0	7.5	14.2	7.5

(注) 「全体」には訪問医療機関が不明のもの 8 人分が含まれる。

## 12) 1か月間の訪問回数（平成 28 年 9 月）

1か月間の訪問回数をみると、全体では平均 2.3 回（中央値 2.0）であった。

男女による大きな差異はみられなかった。

図表 229 1か月間の訪問回数（男女別）

(単位：回)

	患者数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,123	2.3	2.0	2.0
男性	412	2.4	2.6	2.0
女性	705	2.2	1.5	2.0

(注) • 1か月間の訪問回数について記入のあったものを集計対象とした。

• 「全体」には性別が不明のもの 6 人分が含まれる。

年齢階級による大きな差異はみられなかった。

図表 230 1か月間の訪問回数（年齢階級別）

(単位：回)

	患者数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,123	2.3	2.0	2.0
~39歳	12	2.2	1.1	2.0
40~64歳	67	2.5	1.7	2.0
65~74歳	117	2.2	1.6	2.0
75~79歳	93	2.1	1.4	2.0
80~84歳	193	2.2	1.5	2.0
85~89歳	260	2.5	2.9	2.0
90~94歳	230	2.3	1.8	2.0
95歳以上	131	2.3	1.4	2.0

(注)・1か月間の訪問回数について記入のあったものを集計対象とした。

・「全体」には年齢が不明のもの 20 人分が含まれる。

算定している医学管理料別にみると、「在総管（重症患者）」では平均 2.8 回（中央値 2.0）であった。

図表 231 1か月間の訪問回数（算定している医学管理料別）

(単位：回)

	患者数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,123	2.3	2.0	2.0
在総管(重症患者)	100	2.8	1.3	2.0
在総管(月 2 回以上)	497	2.6	2.2	2.0
在総管(月 1 回)	141	1.7	1.7	1.0
施設総管(重症患者)	8	2.4	0.7	2.0
施設総管(月 2 回以上)	114	2.7	1.8	2.0
施設総管(月 1 回)	22	1.3	0.7	1.0
算定していない	216	1.7	1.7	1.0

(注)・1か月間の訪問回数について記入のあったものを集計対象とした。

・「全体」には算定している医学管理料が不明のもの 25 人分が含まれる。

訪問医療機関別にみると、機能強化型在支診（単独型）では平均 2.9 回（標準偏差 2.2、中央値 2.0）で最も多かった。

図表 232 1か月間の訪問回数（訪問医療機関別）

(単位：回)

	患者数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,123	2.3	2.0	2.0
機能強化型在支診(単独型)	20	2.9	2.2	2.0
機能強化型在支診(連携型)	124	2.3	1.1	2.0
在支診	501	2.6	2.4	2.0
在支診以外の診療所	245	2.0	1.6	2.0
機能強化型在支病(単独型)	38	1.9	1.0	2.0
機能強化型在支病(連携型)	71	1.8	0.9	2.0
在支病	116	2.2	1.5	2.0

(注) • 1か月間の訪問回数について記入のあったものを集計対象とした。

• 「全体」には訪問医療機関が不明のもの 8 人分が含まれる。

#### ④往診等の状況

##### 1) 往診回数

6か月間に当該患者に行った往診回数をみると、全体としては平均2.0回（中央値0.0）であった。

男女別にみると、男性では平均2.2回（中央値0.0）、女性では平均1.9回（中央値0.0）であった。

図表 233 6か月間に往診を行った回数（男女別）

(単位：回)

	患者数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,112	2.0	4.8	0.0
男性	408	2.2	5.4	0.0
女性	698	1.9	4.5	0.0

(注)・6か月間の往診回数について記入のあったものを集計対象とした。

・「全体」には性別が不明のもの6人分が含まれる。

図表 234 6か月間の往診回数別分布（男女別）

(単位：上段「人」、下段「%」)

	総数	0回	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回	9回	10回以上	無回答
全体	1,142	685	147	83	24	21	15	32	6	6	2	91	30
	100.0	60.0	12.9	7.3	2.1	1.8	1.3	2.8	0.5	0.5	0.2	8.0	2.6
男性	419	234	65	32	10	9	9	8	3	3	0	35	11
	100.0	55.8	15.5	7.6	2.4	2.1	2.1	1.9	0.7	0.7	0.0	8.4	2.6
女性	717	447	82	50	14	12	6	24	3	3	2	55	19
	100.0	62.3	11.4	7.0	2.0	1.7	0.8	3.3	0.4	0.4	0.3	7.7	2.6

(注)「全体」には性別が不明のもの6人分が含まれる。

年齢階級別にみると、65～74歳では平均3.1回で全体や他の年齢階級と比較して多かった。

図表 235 6か月間に往診を行った回数（年齢階級別）

(単位：回)

	患者数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,112	2.0	4.8	0.0
~39歳	12	1.0	1.8	0.0
40～64歳	64	2.4	8.4	0.0
65～74歳	114	3.1	6.1	0.0
75～79歳	93	1.5	3.2	0.0
80～84歳	191	2.0	4.6	0.0
85～89歳	256	2.5	5.4	0.0
90～94歳	227	1.5	3.2	0.0
95歳以上	134	1.3	3.6	0.0

(注)・6か月間の往診回数について記入のあったものを集計対象とした。

・「全体」には年齢が不明のもの21人分が含まれる。

図表 236 6か月間の往診回数別分布（年齢階級別）

(単位：上段「人」、下段「%」)

	総数	0回	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回	9回	10回以上	無回答
全体	1,142	685	147	83	24	21	15	32	6	6	2	91	30
	100.0	60.0	12.9	7.3	2.1	1.8	1.3	2.8	0.5	0.5	0.2	8.0	2.6
~39歳	13	8	1	1	0	1	1	0	0	0	0	0	1
	100.0	61.5	7.7	7.7	0.0	7.7	7.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.7
40~64歳	67	41	10	4	2	2	0	1	1	0	0	3	3
	100.0	61.2	14.9	6.0	3.0	3.0	0.0	1.5	1.5	0.0	0.0	4.5	4.5
65~74歳	117	68	9	10	2	0	1	5	0	1	0	18	3
	100.0	58.1	7.7	8.5	1.7	0.0	0.9	4.3	0.0	0.9	0.0	15.4	2.6
75~79歳	96	61	13	5	2	1	2	2	1	0	1	5	3
	100.0	63.5	13.5	5.2	2.1	1.0	2.1	2.1	1.0	0.0	1.0	5.2	3.1
80~84歳	196	122	22	10	4	5	3	4	3	2	0	16	5
	100.0	62.2	11.2	5.1	2.0	2.6	1.5	2.0	1.5	1.0	0.0	8.2	2.6
85~89歳	264	147	37	20	7	4	2	8	0	3	0	28	8
	100.0	55.7	14.0	7.6	2.7	1.5	0.8	3.0	0.0	1.1	0.0	10.6	3.0
90~94歳	232	135	39	20	3	3	4	9	0	0	1	13	5
	100.0	58.2	16.8	8.6	1.3	1.3	1.7	3.9	0.0	0.0	0.4	5.6	2.2
95歳以上	135	90	15	13	2	2	2	3	1	0	0	6	1
	100.0	66.7	11.1	9.6	1.5	1.5	1.5	2.2	0.7	0.0	0.0	4.4	0.7

(注)「全体」には年齢が不明のもの 22 人分が含まれる。

訪問医療機関別に、6か月間の往診回数をみると、在支診が平均 2.4 回で全体や他の施設と比較して多かった。

図表 237 6か月間に往診を行った回数（訪問医療機関別）

(単位：回)

	患者数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,112	2.0	4.8	0.0
機能強化型在支診(単独型)	20	1.7	2.4	1.0
機能強化型在支診(連携型)	123	2.2	5.4	0.0
在支診	495	2.4	5.6	0.0
在支診以外の診療所	238	2.0	4.4	0.0
機能強化型在支病(単独型)	38	1.7	3.3	0.0
機能強化型在支病(連携型)	72	1.9	4.0	0.0
在支病	118	0.9	2.2	0.0

(注)・6か月間の往診回数について記入のあったものを集計対象とした。

・「全体」には訪問医療機関が不明のもの 8 人分が含まれる。

図表 238 6か月間の往診回数別分布（訪問医療機関別）

(単位：上段「人」、下段「%」)

	総数	0回	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回	9回	10回以上	無回答
全体	1,142 100.0	685 60.0	147 12.9	83 7.3	24 2.1	21 1.8	15 1.3	32 2.8	6 0.5	6 0.5	2 0.2	91 8.0	30 2.6
機能強化型在支 診(単独型)	20 100.0	8 40.0	5 25.0	3 15.0	0 0.0	3 15.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 5.0	0 0.0
機能強化型在支 診(連携型)	126 100.0	75 59.5	23 18.3	6 4.8	1 0.8	3 2.4	2 1.6	2 1.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	11 8.7	3 2.4
在支診	508 100.0	293 57.7	63 12.4	43 8.5	10 2.0	12 2.4	7 1.4	14 2.8	2 0.4	3 0.6	1 0.2	47 9.3	13 2.6
在支診以外の診 療所	250 100.0	144 57.6	32 12.8	18 7.2	8 3.2	1 0.4	3 1.2	8 3.2	3 1.2	1 0.4	0 0.0	20 8.0	12 4.8
機能強化型在支 病(単独型)	38 100.0	21 55.3	6 15.8	6 15.8	1 2.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 2.6	0 0.0	0 0.0	3 7.9	0 0.0
機能強化型在支 病(連携型)	72 100.0	48 66.7	7 9.7	3 4.2	1 1.4	2 2.8	2 2.8	1 1.4	0 0.0	1 1.4	1 1.4	6 8.3	0 0.0
在支病	120 100.0	91 75.8	10 8.3	3 2.5	3 2.5	0 0.0	1 0.8	7 5.8	0 0.0	1 0.8	0 0.0	2 1.7	2 1.7

(注)「全体」には訪問医療機関が不明のもの8人分が含まれる。

## 2) 往診のうち、入院に至った回数

6か月間に行った往診のうち、入院に至った回数をみると、全体では平均0.1回（標準偏差0.4、中央値0.0）であった。

図表 239 往診のうち、入院に至った回数（男女別）

(単位：回)

	患者数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,110	0.1	0.4	0.0
男性	407	0.1	0.4	0.0
女性	697	0.1	0.4	0.0

(注)・6か月間に行った往診のうち、入院に至った回数について記入のあったものを集計対象とした。

・「全体」には性別が不明のもの6人分が含まれる。

図表 240 往診のうち、入院に至った回数（年齢階級別）

(単位：回)

	患者数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,110	0.1	0.4	0.0
~39 歳	12	0.2	0.6	0.0
40～64 歳	66	0.1	0.2	0.0
65～74 歳	115	0.1	0.6	0.0
75～79 歳	93	0.1	0.4	0.0
80～84 歳	192	0.1	0.4	0.0
85～89 歳	255	0.1	0.3	0.0
90～94 歳	223	0.1	0.3	0.0
95 歳以上	133	0.1	0.5	0.0

(注)・6か月間に行った往診のうち、入院に至った回数について記入のあったものを集計対象とした。

・「全体」には年齢が不明のもの 21 人分が含まれる。

図表 241 往診のうち、入院に至った回数（訪問医療機関別）

(単位：回)

	患者数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,110	0.1	0.4	0.0
機能強化型在支診(単独型)	20	0.1	0.2	0.0
機能強化型在支診(連携型)	123	0.2	0.8	0.0
在支診	494	0.1	0.3	0.0
在支診以外の診療所	236	0.0	0.2	0.0
機能強化型在支病(単独型)	38	0.1	0.3	0.0
機能強化型在支病(連携型)	72	0.2	0.5	0.0
在支病	119	0.1	0.3	0.0

(注)・6か月間に行った往診のうち、入院に至った回数について記入のあったものを集計対象とした。

・「全体」には訪問医療機関が不明のもの 8 人分が含まれる。

### 3) 夜間の往診回数

夜間の往診回数をみると、全体としては平均 0.1 回（中央値 0.0）であった。

図表 242 夜間の往診回数（男女別）

(単位：回)

	患者数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,106	0.1	0.5	0.0
男性	406	0.1	0.8	0.0
女性	694	0.0	0.3	0.0

(注)・6か月間に行った夜間の往診回数について記入のあったものを集計対象とした。

・「全体」には性別が不明のもの 6 人分が含まれる。

図表 243 夜間の往診回数（年齢階級別）

(単位：回)

	患者数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,106	0.1	0.5	0.0
~39 歳	12	0.0	–	0.0
40～64 歳	66	0.1	0.2	0.0
65～74 歳	114	0.1	0.3	0.0
75～79 歳	94	0.1	0.3	0.0
80～84 歳	189	0.1	0.8	0.0
85～89 歳	256	0.0	0.2	0.0
90～94 歳	223	0.1	0.3	0.0
95 歳以上	132	0.1	0.9	0.0

(注)・6か月間に行った夜間の往診回数について記入のあったものを集計対象とした。  
 ・「全体」には年齢が不明のもの 20 人分が含まれる。

図表 244 夜間の往診回数（訪問医療機関別）

(単位：回)

	患者数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,106	0.1	0.5	0.0
機能強化型在支診(単独型)	20	0.1	0.2	0.0
機能強化型在支診(連携型)	123	0.2	1.3	0.0
在支診	489	0.1	0.4	0.0
在支診以外の診療所	238	0.0	0.2	0.0
機能強化型在支病(単独型)	38	0.1	0.2	0.0
機能強化型在支病(連携型)	72	0.0	–	0.0
在支病	118	0.0	0.1	0.0

(注)・6か月間に行った夜間の往診回数について記入のあったものを集計対象とした。  
 ・「全体」には訪問医療機関が不明のもの 8 人分が含まれる。

#### 4) 深夜の往診回数

深夜の往診回数をみると、全体としては平均 0.0 回（中央値 0.0）であった。

図表 245 深夜の往診回数（男女別）

(単位：回)

	患者数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,107	0.0	0.1	0.0
男性	406	0.0	0.2	0.0
女性	695	0.0	0.1	0.0

(注)・6か月間に行った深夜の往診回数について記入のあったものを集計対象とした。  
 ・「全体」には性別が不明のもの 6 人分が含まれる。

図表 246 深夜の往診回数（年齢階級別）

(単位：回)

	患者数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,107	0.0	0.1	0.0
~39 歳	12	0.0	–	0.0
40～64 歳	66	0.0	–	0.0
65～74 歳	114	0.0	0.1	0.0
75～79 歳	94	0.0	0.1	0.0
80～84 歳	190	0.0	0.2	0.0
85～89 歳	256	0.0	–	0.0
90～94 歳	223	0.0	0.2	0.0
95 歳以上	132	0.0	0.2	0.0

(注)・6か月間に行った深夜の往診回数について記入のあったものを集計対象とした。  
 ・「全体」には年齢が不明のもの 20 人分が含まれる。

図表 247 深夜の往診回数（訪問医療機関別）

(単位：回)

	患者数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,107	0.0	0.1	0.0
機能強化型在支診(単独型)	20	0.0	–	0.0
機能強化型在支診(連携型)	123	0.0	0.3	0.0
在支診	490	0.0	0.2	0.0
在支診以外の診療所	238	0.0	0.1	0.0
機能強化型在支病(単独型)	38	0.0	–	0.0
機能強化型在支病(連携型)	72	0.0	–	0.0
在支病	118	0.0	–	0.0

(注)・6か月間に行った深夜の往診回数について記入のあったものを集計対象とした。  
 ・「全体」には訪問医療機関が不明のもの 8 人分が含まれる。

### 3. 訪問看護調査

#### 【調査対象等】

調査対象：①機能強化型訪問看護管理療養費の届出事業所（悉皆）、②全国の訪問看護ステーションの中から無作為抽出した訪問看護ステーション、①②合わせて1,000事業所。

回答数：610事業所

回答者：管理者

#### （1）事業所の概要

##### ①所在地

事業所の所在地は、以下のとおりである。

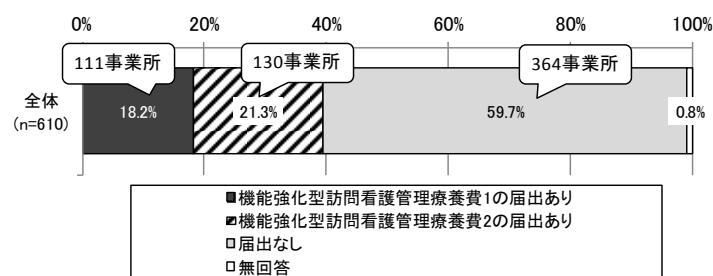
図表 248 所在地

都道府県	事業所数	構成割合(%)	都道府県	事業所数	構成割合(%)
北海道	28	4.6	滋賀県	7	1.1
青森県	6	1.0	京都府	13	2.1
岩手県	8	1.3	大阪府	55	9.0
宮城県	11	1.8	兵庫県	34	5.6
秋田県	4	0.7	奈良県	6	1.0
山形県	5	0.8	和歌山県	10	1.6
福島県	11	1.8	鳥取県	0	0.0
茨城県	9	1.5	島根県	5	0.8
栃木県	7	1.1	岡山県	6	1.0
群馬県	13	2.1	広島県	18	3.0
埼玉県	23	3.8	山口県	9	1.5
千葉県	20	3.3	徳島県	5	0.8
東京都	59	9.7	香川県	4	0.7
神奈川県	32	5.2	愛媛県	11	1.8
新潟県	12	2.0	高知県	3	0.5
富山県	5	0.8	福岡県	25	4.1
石川県	9	1.5	佐賀県	6	1.0
福井県	4	0.7	長崎県	8	1.3
山梨県	4	0.7	熊本県	12	2.0
長野県	14	2.3	大分県	9	1.5
岐阜県	9	1.5	宮崎県	5	0.8
静岡県	12	2.0	鹿児島県	11	1.8
愛知県	27	4.4	沖縄県	6	1.0
三重県	10	1.6	合計	610	100.0

## ②機能強化型訪問看護ステーションの届出の有無

機能強化型訪問看護ステーションの届出の有無についてみると、「機能強化型訪問看護管理療養費 1 の届出あり」は 18.2% (111 事業所)、「機能強化型訪問看護管理療養費 2 の届出あり」は 21.3% (130 事業所)、「届出なし」が 59.7% (364 事業所) であった。

図表 249 機能強化型訪問看護ステーションの届出の有無

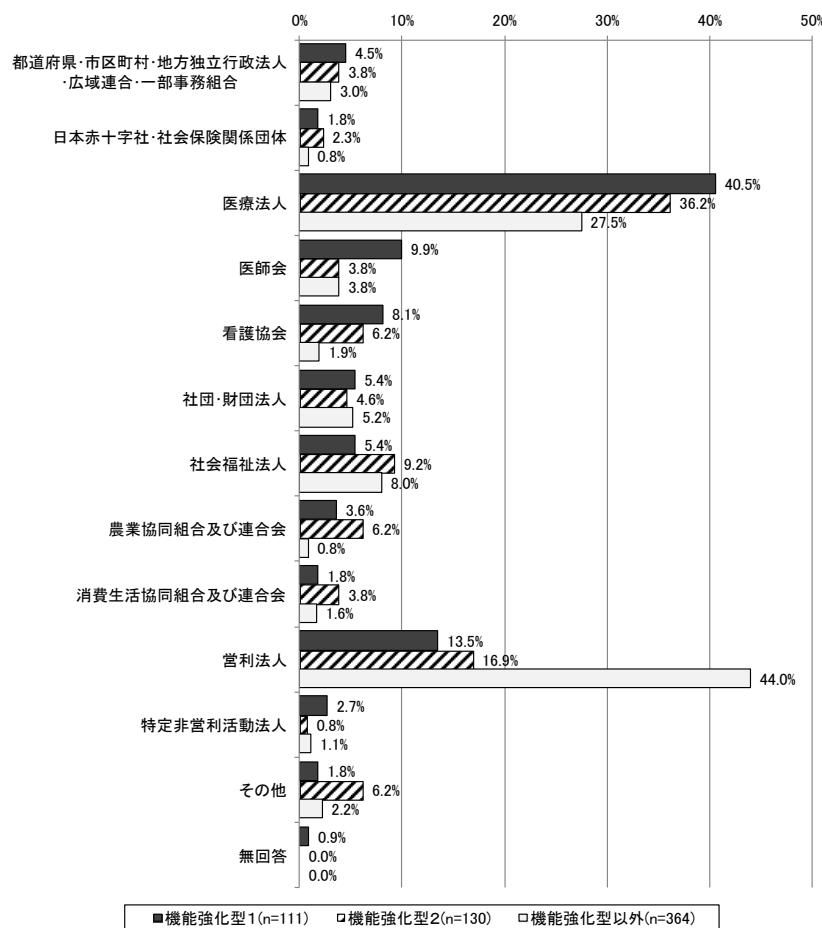


以降、「機能強化型訪問看護管理療養費 1 の届出あり」と回答した 111 事業所を「機能強化型 1」、「機能強化型訪問看護管理療養費 2 の届出あり」と回答した 130 事業所を「機能強化型 2」、「届出なし」と回答した 364 事業所を「機能強化型以外」として集計を行った結果を示す（機能強化型訪問看護ステーションの届出状況によって差がみられない一部の項目については、全体として結果を示す）。

### ③開設者

開設者についてみると、「機能強化型1」と「機能強化型2」では「医療法人」がそれぞれ40.5%、36.2%で最も多かった。「機能強化型以外」では「営利法人」が44.0%で最も多かった。

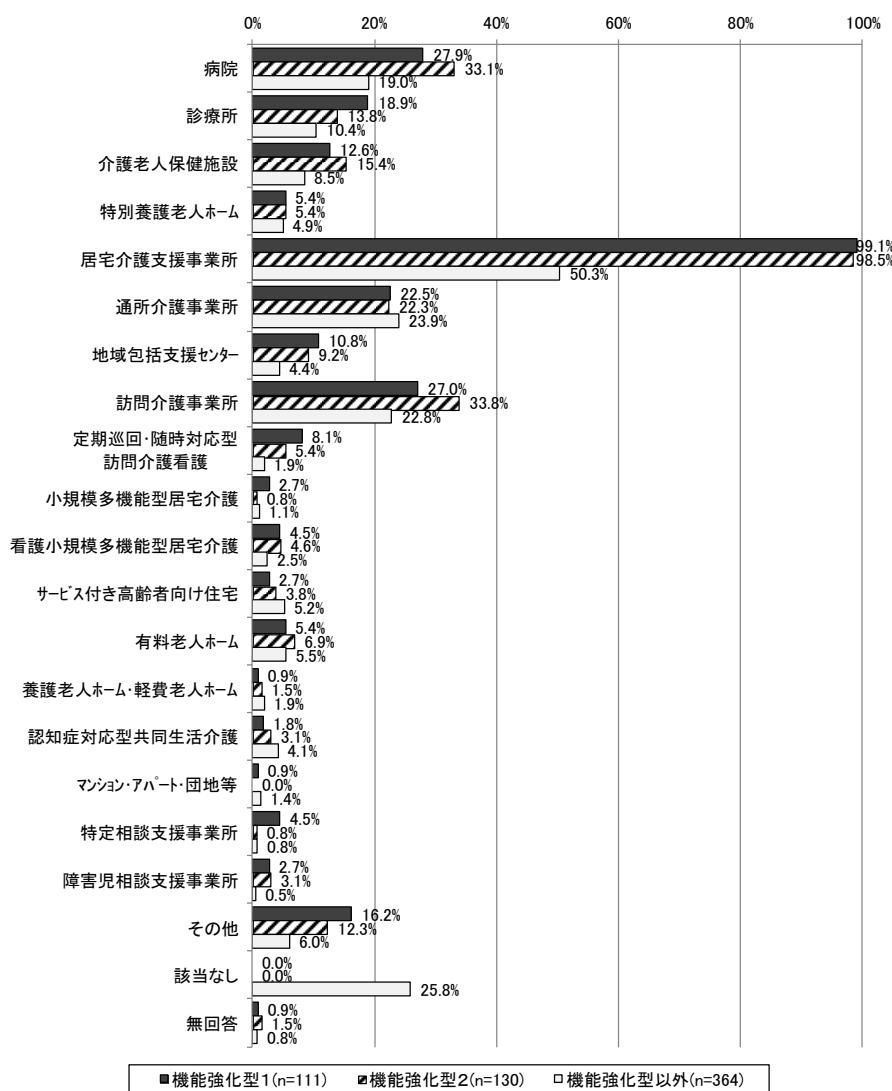
図表 250 開設者（単数回答）



#### ④同一敷地内または隣接している施設・事業所

同一敷地内または隣接している施設・事業所についてみると、「機能強化型1」では「居宅介護支援事業所」が99.1%で最も多く、次いで「病院」(27.9%)であった。「機能強化型2」では、「居宅介護支援事業所」が98.5%で最も多く、次いで「訪問介護事業所」(33.8%)であった。「機能強化型以外」では、「居宅介護支援事業所」が50.3%で最も多く、次いで「通所介護事業所」(23.9%)であった。

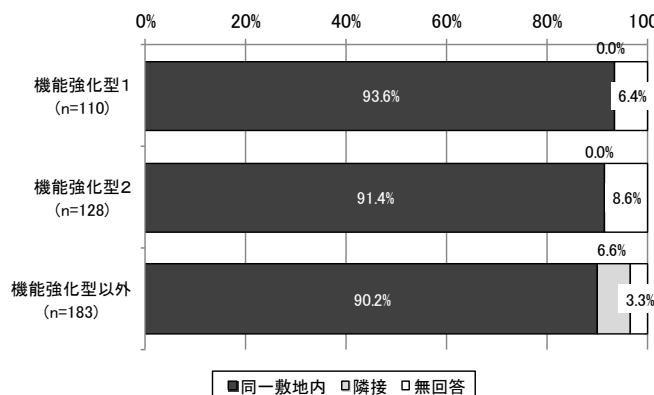
図表 251 同一敷地内または隣接している施設・事業所（複数回答）



(注)「その他」の内容として、「通所リハビリ」、「福祉用具貸与・販売」、「療養通所介護」、「認知症対応型通所介護」、「短期入所生活介護」、「健診センター」、「保育所」、「介護専門学校」等が挙げられた。

同一敷地内または隣接している居宅介護支援事業所がある事業所に、居宅介護支援事業所の所在地について尋ねたところ、「機能強化型 1」、「機能強化型 2」、「機能強化型以外」のいずれも、「同一敷地内」が9割以上であった。

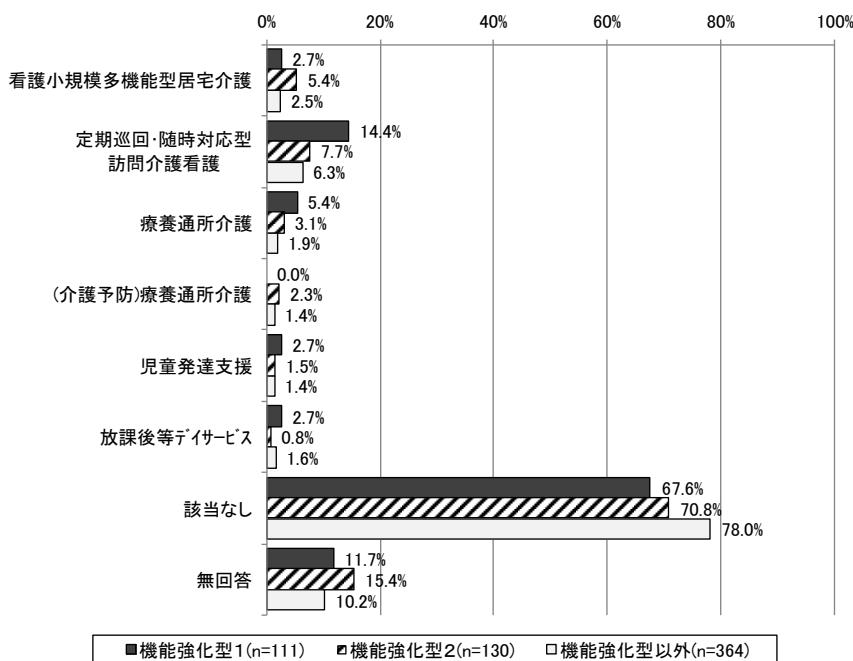
図表 252 居宅介護支援事業所の所在地  
(同一敷地内または隣接している居宅介護支援事業所がある事業所)



#### ⑤指定を受けている介護保険サービス・障害福祉サービス

指定を受けている介護保険サービス・障害福祉サービスについてみると、「機能強化型 1」、「機能強化型 2」、「機能強化型以外」のいずれも、「該当なし」が最も多く、次いで「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」であった。

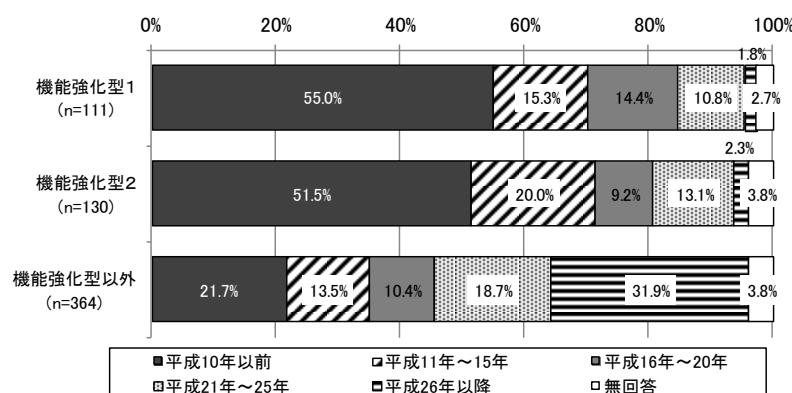
図表 253 指定を受けている介護保険サービス・障害福祉サービス（複数回答）



## ⑥訪問看護を開始した時期

訪問看護を開始した時期についてみると、「機能強化型1」と「機能強化型2」では「平成10年以前」がそれぞれ55.0%、51.5%で最も多かった。「機能強化型以外」では「平成26年以降」が31.9%で最も多かった。

図表 254 訪問看護を開始した時期

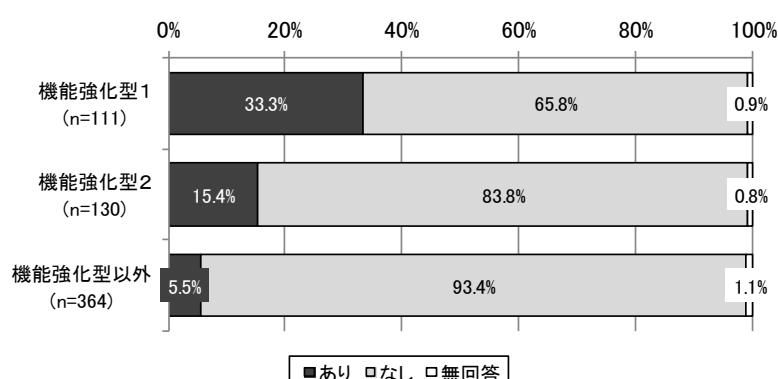


## ⑦サテライトの有無等

サテライトの有無は、以下のとおりである。

「機能強化型1」、「機能強化型2」、「機能強化型以外」の順に「あり」の割合がそれぞれ33.3%、15.4%、5.5%と高かった。

図表 255 サテライトの有無



サテライトのある事業所に、サテライトの数を尋ねたところ、「機能強化型1」では平均1.6か所、「機能強化型2」では平均1.3か所、「機能強化型以外」では平均1.3か所であった。

図表 256 サテライトの数（サテライトのある事業所）

(単位：か所)

	事業所数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型1	37	1.6	0.9	1.0
機能強化型2	20	1.3	0.5	1.0
機能強化型以外	20	1.3	0.4	1.0

(注) 記載のあった事業所を集計対象とした。

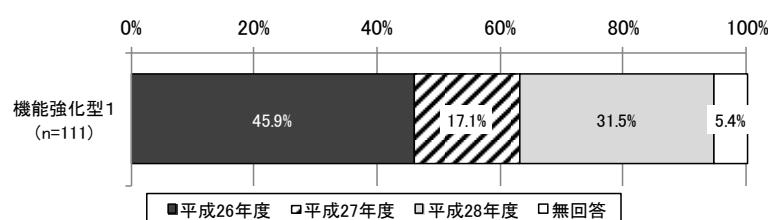
## ⑧機能強化型訪問看護ステーションの届出状況

### 1) 機能強化型訪問看護管理療養費 1 の届出状況

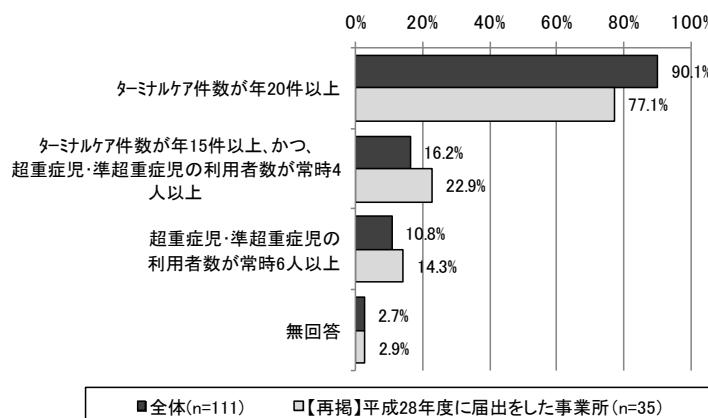
機能強化型訪問看護管理療養費 1 の届出をしている事業所に、届出時期を尋ねたところ、「平成 26 年度」が 45.9% で最も多く、次いで「平成 28 年度」(31.5%) であった。

満たしている要件についてみると、「ターミナルケア件数が年 20 件以上」が 90.1% で最も多かった。「平成 28 年度に届出をした事業所」では、「全体」と比較すると、「ターミナルケア件数が年 15 件以上、かつ、超重症児・準超重症児の利用者数が常時 4 人以上」の割合が 6.7 ポイント、「超重症児・準超重症児の利用者が常時 6 人以上」の割合が 3.5 ポイント高かった。

図表 257 機能強化型訪問看護管理療養費 1 の届出時期（機能強化型 1）



図表 258 機能強化型訪問看護管理療養費 1 で満たしている要件（機能強化型 1、複数回答）

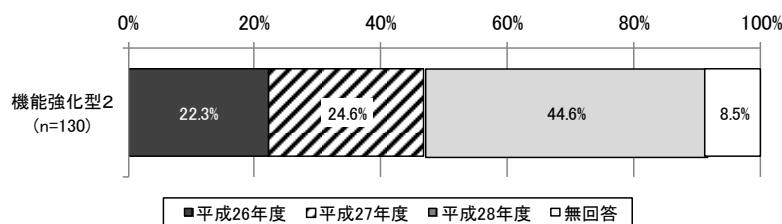


## 2) 機能強化型訪問看護管理療養費 2 の届出状況

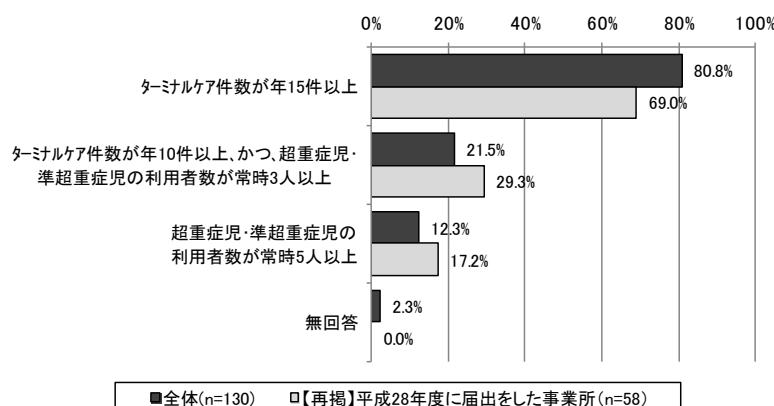
機能強化型訪問看護管理療養費 2 の届出をしている事業所に、届出時期を尋ねたところ、「平成 28 年度」が 44.6% で最も多く、次いで「平成 27 年度」(24.6%) であった。

満たしている要件についてみると、「ターミナルケア件数が年 15 件以上」が 80.8% で最も多かった。「平成 28 年度に届出をした事業所」では、「全体」と比較すると、「ターミナルケア件数が年 10 件以上、かつ、超重症児・準超重症児の利用者数が常時 3 人以上」の割合が 7.8 ポイント、「超重症児・準超重症児の利用者が常時 5 人以上」の割合が 4.9 ポイント高かった。

図表 259 機能強化型訪問看護管理療養費 2 の届出時期（機能強化型 2）



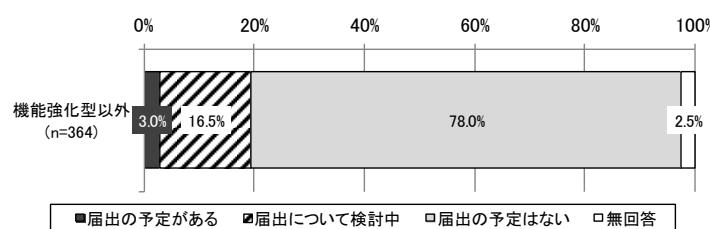
図表 260 機能強化型訪問看護管理療養費 2 で満たしている要件（機能強化型 2、複数回答）



## ⑨今後の機能強化型訪問看護ステーションの届出意向

機能強化型訪問看護管理療養費の届出がない事業所に、今後の機能強化型訪問看護ステーションの届出意向を尋ねたところ、「届出の予定がある」が 3.0%、「届出について検討中」が 16.5%、「届出の予定はない」が 78.0% であった。

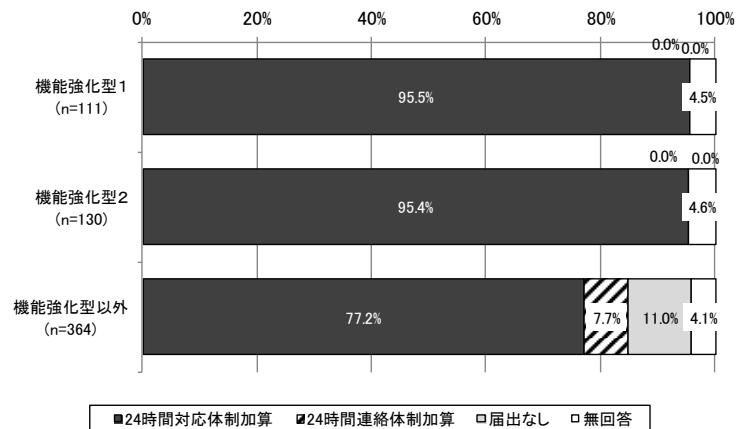
図表 261 今後の機能強化型訪問看護ステーションの届出意向（機能強化型以外）



#### ⑩24 時間対応体制加算・連絡体制加算の届出の有無

24 時間対応体制加算・連絡体制加算の届出の有無は、以下のとおりである。

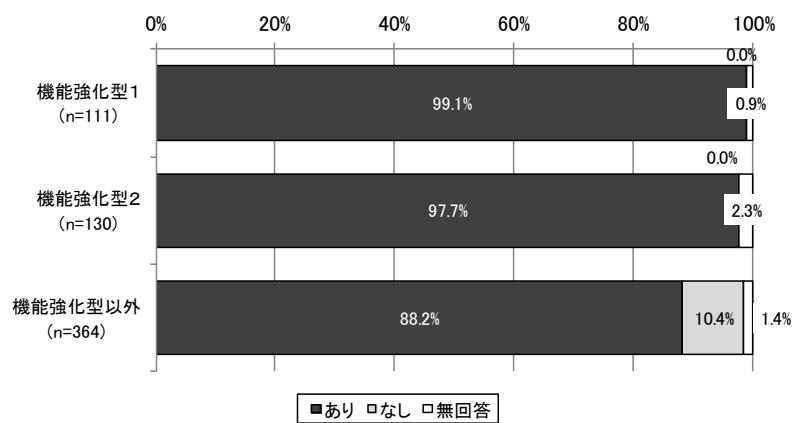
図表 262 24 時間対応体制加算・連絡体制加算の届出の有無



#### ⑪特別管理加算（医療保険）の届出の有無

特別管理加算（医療保険）の届出の有無は、以下のとおりである。

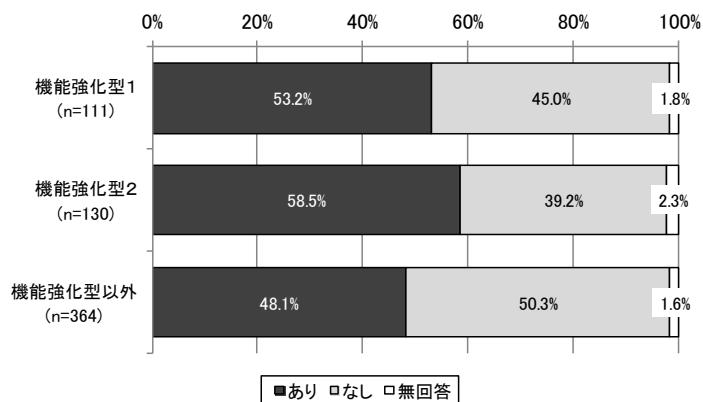
図表 263 特別管理加算（医療保険）の届出の有無



⑫精神科訪問看護基本療養費の届出の有無

精神科訪問看護基本療養費の届出の有無は、以下のとおりである。

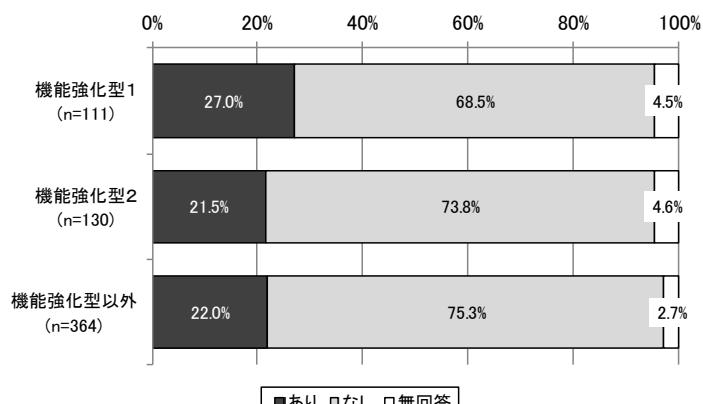
図表 264 精神科訪問看護基本療養費の届出の有無



⑬精神科複数回訪問加算の届出の有無

精神科複数回訪問加算の届出の有無は、以下のとおりである。

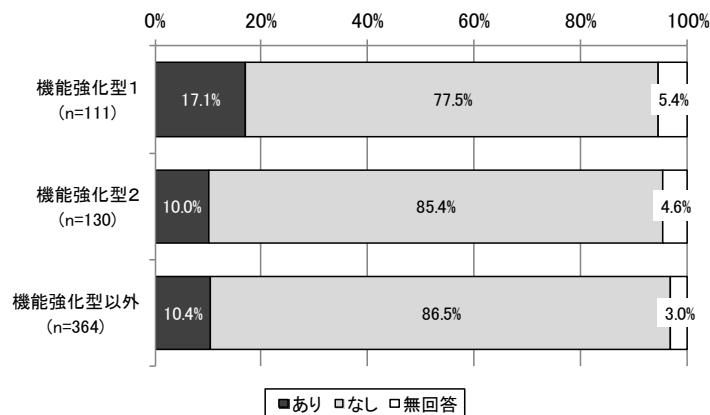
図表 265 精神科複数回訪問加算の届出の有無



**⑭精神科重症患者早期集中支援管理連携加算の届出の有無**

精神科重症患者早期集中支援管理連携加算の届出の有無は、以下のとおりである。

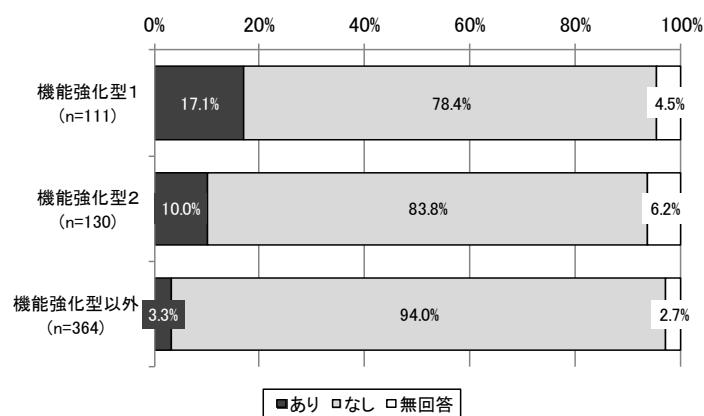
図表 266 精神科重症患者早期集中支援管理連携加算の届出の有無



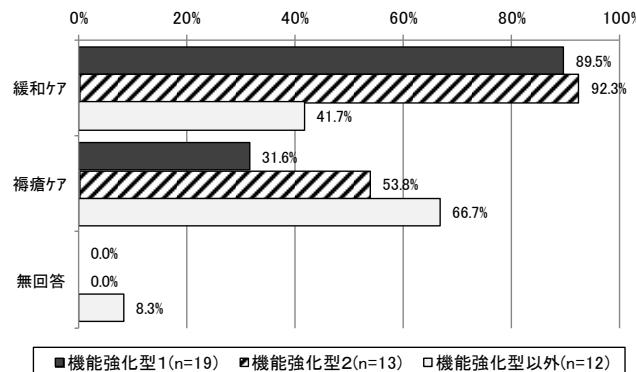
**⑮訪問看護基本療養費（Ⅰ）のハ及び（Ⅱ）のハに係る専門の研修を受けた看護師に係る届出の有無**

訪問看護基本療養費（Ⅰ）のハ及び（Ⅱ）のハに係る専門の研修を受けた看護師に係る届出の有無は、以下のとおりである。

図表 267 訪問看護基本療養費（Ⅰ）のハ及び（Ⅱ）のハに係る専門の研修を受けた看護師に係る届出の有無



図表 268 専門の研修の種類（専門の研修を受けた看護師に係る届出のある事業所）  
(複数回答)



#### ⑯職員数

職員数についてみると、「機能強化型 1」では、保健師・助産師・看護師が平均 12.6 人、准看護師が平均 0.4 人、リハビリ職（PT・OT・ST）が平均 2.9 人であった。「機能強化型 2」では、保健師・助産師・看護師が平均 9.0 人、准看護師が平均 0.3 人、リハビリ職（PT・OT・ST）が 2.1 人であった。「機能強化型以外」では、保健師・助産師・看護師が平均 4.3 人、准看護師が平均 0.4 人、リハビリ職（PT・OT・ST）が 1.1 人であった。

保健師・助産師・看護師とリハビリ職（PT・OT・ST）の職員数については、「機能強化型 1」、「機能強化型 2」、「機能強化型以外」の順に多くなっていた。

図表 269 職員数（機能強化型 1、n=102）

(単位：人)

	平均	標準偏差	中央値
保健師・助産師・看護師	12.6	4.6	11.1
准看護師	0.4	1.0	0.0
リハビリ職(PT・OT・ST)	2.9	3.5	2.0
その他の職員	2.1	2.0	2.0
うち、看護補助者・介護職員	0.1	0.4	0.0
うち、精神保健福祉士	0.0	—	0.0
うち、介護支援専門員	0.4	1.0	0.0
うち、事務職員	1.5	1.1	1.5
全職員	17.9	7.7	16.5

(注) 上記の職員数についてすべて記載のあった事業所を集計対象とした。

図表 270 職員数（機能強化型 2、n=122）

(単位：人)

	平均	標準偏差	中央値
保健師・助産師・看護師	9.0	3.6	8.0
准看護師	0.3	1.2	0.0
リハビリ職(PT・OT・ST)	2.1	2.8	1.2
その他の職員	1.3	1.9	1.0
うち、看護補助者・介護職員	0.2	1.1	0.0
うち、精神保健福祉士	0.0	0.2	0.0
うち、介護支援専門員	0.2	0.6	0.0
うち、事務職員	0.8	0.8	0.8
全職員	12.8	6.1	11.1

(注) 上記の職員数についてすべて記載のあった事業所を集計対象とした。

図表 271 職員数（機能強化型以外、n=355）

(単位：人)

	平均	標準偏差	中央値
保健師・助産師・看護師	4.3	2.1	3.8
准看護師	0.4	0.7	0.0
リハビリ職(PT・OT・ST)	1.1	2.2	0.0
その他の職員	0.5	0.9	0.0
うち、看護補助者・介護職員	0.0	0.5	0.0
うち、精神保健福祉士	0.0	—	0.0
うち、介護支援専門員	0.1	0.4	0.0
うち、事務職員	0.4	0.6	0.0
全職員	6.3	3.7	5.5

(注) 上記の職員数についてすべて記載のあった事業所を集計対象とした。

## (2) 診療報酬の算定状況や利用者の状況等

## ①医療保険の新規利用者数

平成 28 年 9 月 1 か月間における医療保険の新規利用者数は、以下のとおりである。

新規利用者数は「機能強化型 1」、「機能強化型 2」、「機能強化型以外」の順に多かった。

図表 272 医療保険の新規利用者数（平成 28 年 9 月 1 か月間）

(単位：人)

	事業所数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型 1	111	5.1	3.9	4.0
機能強化型 2	130	3.8	2.9	3.0
機能強化型以外	362	1.9	3.8	1.0

(注) 記載のあった事業所を集計対象とした。

## ②医療保険の対応が終了した利用者数

平成 28 年 9 月 1 か月間における医療保険の対応が終了した利用者数と、このうち亡くなった利用者数は、以下のとおりである。

対応が終了した利用者数、亡くなった利用者数ともに「機能強化型 1」、「機能強化型 2」、「機能強化型以外」の順に多かった。

図表 273 医療保険の対応が終了した利用者数（平成 28 年 9 月 1 か月間）

(単位：人)

		事業所数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型 1	対応が終了した利用者数	110	5.0	3.7	4.5
	うち、亡くなった利用者数		3.1	2.6	3.0
機能強化型 2	対応が終了した利用者数	128	3.1	2.4	3.0
	うち、亡くなった利用者数		2.0	2.0	2.0
機能強化型以外	対応が終了した利用者数	360	1.3	1.9	1.0
	うち、亡くなった利用者数		0.6	1.0	0.0

(注) 上記の利用者数についてすべて記載のあった事業所を集計対象とした。

### ③訪問看護の利用者数

訪問看護の利用者数は、以下のとおりである。

平成 27 年 9 月と平成 28 年 9 月で平均値を比較すると、「機能強化型 1」、「機能強化型 2」、「機能強化型以外」のいずれも、全項目で平成 28 年 9 月が多くなっていた。

図表 274 訪問看護の利用者数（実人数）（機能強化型 1、n=102）

(単位：人)

	平成 27 年 9 月			平成 28 年 9 月		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
全利用者数	178.6	91.9	161.0	186.3	93.9	168.5
医療保険のみを算定した利用者数	52.5	26.6	46.0	56.1	26.5	51.0
医療保険と介護保険の両方を算定した利用者数	3.0	6.4	2.0	5.5	23.2	2.0
特掲診療料の施設基準等別表 7 に該当する利用者数	29.9	14.4	27.0	31.9	13.7	27.0
特掲診療料の施設基準等別表 8 に該当する利用者数	22.5	18.3	20.0	24.1	17.8	22.0
精神科訪問看護基本療養費を算定した利用者数	5.6	13.9	0.0	6.4	14.4	0.5
「特別訪問看護指示書」を交付された利用者数	3.5	4.2	2.0	3.8	4.9	2.0
「精神科特別訪問看護指示書」を交付された利用者数	0.7	2.5	0.0	0.8	2.6	0.0
同一建物居住者に該当する利用者数	3.4	10.4	0.0	3.7	11.1	0.0

(注)・上記の利用者数についてすべて記載のあった事業所を集計対象とした。

・「別表 7」とは、以下の疾病等を指す（機能強化型 2、機能強化型以外についても同様）。

末期の悪性腫瘍、多発性硬化症、重症筋無力症、スモン、筋萎縮性側索硬化症、脊髄小脳変性症、ハンチントン病、進行性筋ジストロフィー症、パーキンソン病関連疾患（進行性核上性麻痺、大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病（ホーエン・ヤールの重症度分類がステージ 3 以上であって生活機能障害度がⅡ度又はⅢ度のものに限る。）、多系統萎縮症（線条体黒質変性症、オリーブ橋小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群）、プリオント病、亜急性硬化性全脳炎、ライソゾーム病、副腎白質ジストロフィー、脊髄性筋萎縮症、球脊髄性筋萎縮症、慢性炎症性脱髓性多発神経炎、後天性免疫不全症候群、頸髄損傷、人工呼吸器を使用している状態。

・「別表 8」とは、以下の状態等を指す（機能強化型 2、機能強化型以外についても同様）。

- 一 在宅悪性腫瘍患者指導管理若しくは在宅気管切開患者指導管理を受けている状態にある者又は気管カニューレ若しくは留置カテーテルを使用している状態にある者
- 二 在宅自己腹膜灌流指導管理、在宅血液透析指導管理、在宅酸素療法指導管理、在宅中心静脈栄養法指導管理、在宅成分栄養経管栄養法指導管理、在宅自己導尿指導管理、在宅人工呼吸指導管理、在宅持続陽圧呼吸療法指導管理、在宅自己疼痛管理指導管理又は在宅肺高血圧症患者指導管理を受けている状態にある者
- 三 人工肛門又は人工膀胱を設置している状態にある者
- 四 真皮を超える褥瘡の状態にある者
- 五 在宅患者訪問点滴注射管理指導料を算定している者

図表 275 訪問看護の利用者数（実人数）（機能強化型 2、n=117）

(単位：人)

	平成 27 年 9 月			平成 28 年 9 月		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
全利用者数	117.1	59.2	112.0	124.9	63.9	119.0
医療保険のみを算定した利用者数	36.8	25.3	29.0	39.5	27.9	33.0
医療保険と介護保険の両方を算定した利用者数	1.5	3.3	0.0	2.3	4.0	1.0
特掲診療料の施設基準等別表7に該当する利用者数	21.3	11.6	18.0	22.6	11.6	21.0
特掲診療料の施設基準等別表8に該当する利用者数	14.6	11.5	13.0	15.7	12.0	14.0
精神科訪問看護基本療養費を算定した利用者数	5.0	15.9	0.0	5.9	18.4	0.0
「特別訪問看護指示書」を交付された利用者数	2.1	3.2	1.0	2.5	2.8	2.0
「精神科特別訪問看護指示書」を交付された利用者数	0.2	1.0	0.0	0.2	1.0	0.0
同一建物居住者に該当する利用者数	2.3	6.1	0.0	2.4	5.9	0.0

(注) 上記の利用者数についてすべて記載のあった事業所を集計対象とした。

図表 276 訪問看護の利用者数（実人数）（機能強化型以外、n=275）

(単位：人)

	平成 27 年 9 月			平成 28 年 9 月		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
全利用者数	60.7	46.5	50.0	65.7	46.1	54.0
医療保険のみを算定した利用者数	17.1	20.5	10.0	18.9	22.8	12.0
医療保険と介護保険の両方を算定した利用者数	0.8	1.9	0.0	0.9	2.3	0.0
特掲診療料の施設基準等別表7に該当する利用者数	7.2	7.7	5.0	8.0	8.1	6.0
特掲診療料の施設基準等別表8に該当する利用者数	4.4	6.1	2.0	4.9	6.4	3.0
精神科訪問看護基本療養費を算定した利用者数	5.6	19.5	0.0	6.3	21.8	0.0
「特別訪問看護指示書」を交付された利用者数	1.3	3.1	0.0	1.5	2.8	1.0
「精神科特別訪問看護指示書」を交付された利用者数	0.5	5.5	0.0	0.7	5.9	0.0
同一建物居住者に該当する利用者数	2.7	10.9	0.0	3.2	11.8	0.0

(注) 上記の利用者数についてすべて記載のあった事業所を集計対象とした。

#### ④訪問回数

平成 28 年 9 月 1 か月間における訪問回数は、以下のとおりである。

平成 27 年 9 月と平成 28 年 9 月で平均値を比較すると、「機能強化型 1」、「機能強化型 2」、「機能強化型以外」のいずれも、全項目で平成 28 年 9 月が多くなっていた。

また、「訪問回数（医療保険十介護保険）」と「医療保険による訪問回数」については、「機能強化型 1」、「機能強化型 2」、「機能強化型以外」の順に多い傾向が見られた。

図表 277 訪問回数

(単位：回)

		平成 27 年 9 月			平成 28 年 9 月		
		平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型 1 (n=105)	訪問回数(医療保険十介護保険)	1071.9	551.2	953.0	1157.7	575.0	1037.0
	医療保険による訪問回数	421.8	224.8	371.0	471.4	271.1	410.0
	精神科訪問看護基本療養費を算定している利用者への訪問回数	19.2	42.6	0.0	27.8	67.3	0.0
機能強化型 2 (n=121)	訪問回数(医療保険十介護保険)	755.5	399.5	674.0	842.0	459.1	737.0
	医療保険による訪問回数	284.2	175.4	233.0	327.0	211.7	270.0
	精神科訪問看護基本療養費を算定している利用者への訪問回数	18.0	52.1	0.0	25.0	80.6	0.0
機能強化型以外 (n=287)	訪問回数(医療保険十介護保険)	403.7	345.4	304.0	440.8	356.1	354.0
	医療保険による訪問回数	146.4	173.5	92.0	158.2	173.9	109.0
	精神科訪問看護基本療養費を算定している利用者への訪問回数	29.2	111.5	0.0	35.9	129.9	0.0

(注) 上記の訪問回数についてすべて記載のあった事業所を集計対象とした。

## ⑤要介護度別の利用者数

平成 28 年 9 月 1 か月間における要介護度別の利用者数は、以下のとおりである。

平成 27 年 9 月と平成 28 年 9 月で平均値を比較すると、「機能強化型 1」、「機能強化型 2」、「機能強化型以外」のいずれも、すべての要介護度で平成 28 年 9 月の利用者数が多くなっていた。

図表 278 要介護度別の利用者数

(単位：人)

		平成 27 年 9 月				平成 28 年 9 月			
		平均値	標準偏差	中央値	割合	平均値	標準偏差	中央値	割合
機能強化型 1 (n=88)	要支援1・2	1.6	1.7	1.0	3.8%	1.8	2.5	1.0	4.2%
	要介護1・2・3	12.5	8.2	10.0	30.1%	13.0	8.4	11.0	29.9%
	要介護4	4.5	3.0	4.0	10.9%	4.9	3.2	4.0	11.2%
	要介護5	8.4	5.3	8.0	20.4%	8.7	5.5	8.0	20.0%
	申請中・自立・未申請	14.4	14.9	9.5	34.8%	15.1	14.7	10.0	34.7%
	合計	41.4	24.3	38.5	100.0%	43.5	24.5	38.0	100.0%
機能強化型 2 (n=98)	要支援1・2	1.1	1.5	0.0	4.2%	1.3	1.6	1.0	4.2%
	要介護1・2・3	8.9	7.8	7.0	33.2%	10.2	8.3	8.0	34.4%
	要介護4	3.4	2.7	3.0	12.6%	3.6	3.1	3.0	11.9%
	要介護5	5.9	3.8	5.0	22.0%	6.4	4.5	5.0	21.5%
	申請中・自立・未申請	7.6	8.9	5.0	28.1%	8.3	8.9	6.0	28.0%
	合計	26.9	18.1	22.0	100.0%	29.8	20.4	25.0	100.0%
機能強化型以外 (n=249)	要支援1・2	0.5	0.9	0.0	4.6%	0.6	1.0	0.0	4.9%
	要介護1・2・3	3.5	4.2	2.0	31.4%	3.8	4.6	2.0	31.1%
	要介護4	1.2	1.8	1.0	10.8%	1.3	1.7	1.0	10.7%
	要介護5	2.4	2.9	1.0	21.6%	2.5	2.7	2.0	19.9%
	申請中・自立・未申請	3.5	9.4	1.0	31.5%	4.1	10.5	2.0	33.3%
	合計	11.2	12.4	7.0	100.0%	12.3	13.5	9.0	100.0%

(注) ・医療保険の利用者のうち、40 歳以上の利用者について尋ねた。

・割合は、記入のあった利用者数全体に対する要介護度別の利用者数の割合。

・すべての項目について記載のあった事業所を集計対象とした。

## ⑥日常生活自立度（寝たきり度）別の利用者数

平成 28 年 9 月 1 か月間における日常生活自立度（寝たきり度）別の利用者数は、以下のとおりである。「機能強化型 1」、「機能強化型 2」、「機能強化型以外」のいずれも、「ランク C」が最も多かった。

平成 27 年 9 月と平成 28 年 9 月で平均値を比較すると、「不明」以外のほとんどの項目で平成 28 年 9 月の利用者数が多くなっていた。

図表 279 日常生活自立度（寝たきり度）別の利用者数

(単位：人)

		平成 27 年 9 月				平成 28 年 9 月			
		平均値	標準偏差	中央値	割合	平均値	標準偏差	中央値	割合
機能強化型 1 (n=25)	自立・ランクJ	5.6	12.3	2.0	20.4%	6.3	14.1	2.0	21.6%
	ランクA	6.0	4.5	6.0	21.9%	6.4	5.4	5.0	21.8%
	ランクB	6.0	4.8	4.0	22.1%	6.8	4.5	7.0	23.1%
	ランクC	7.5	4.4	7.0	27.5%	8.2	5.4	7.0	28.0%
	不明	2.2	4.1	0.0	8.1%	1.6	3.1	0.0	5.6%
機能強化型 2 (n=30)	自立・ランクJ	2.3	3.5	1.0	13.0%	2.1	2.9	1.0	11.0%
	ランクA	3.1	2.8	2.5	17.6%	4.3	2.7	4.0	22.1%
	ランクB	5.4	3.0	5.0	30.8%	5.2	3.1	5.0	26.7%
	ランクC	5.7	3.5	5.0	32.8%	6.5	3.5	6.5	33.6%
	不明	1.0	2.6	0.0	5.7%	1.3	3.7	0.0	6.7%
機能強化型以外 (n=114)	自立・ランクJ	0.7	2.2	0.0	12.1%	0.9	2.8	0.0	13.7%
	ランクA	1.4	2.3	0.0	23.3%	1.5	2.7	1.0	22.7%
	ランクB	1.5	3.0	0.0	25.8%	1.7	4.0	1.0	26.6%
	ランクC	1.6	2.7	1.0	27.4%	1.9	2.8	1.0	28.5%
	不明	0.7	6.4	0.0	11.4%	0.5	5.5	0.0	8.3%

(注) ・医療保険の利用者のうち、要介護 1～5 の利用者について尋ねた。

・割合は、記入のあった利用者数全体に対する日常生活自立度（寝たきり度）別の利用者数の割合。

・すべての項目について記載のあった事業所を集計対象とした。

## ⑦認知症高齢者の日常生活自立度別の利用者数

平成 28 年 9 月 1 か月間における認知症高齢者の日常生活自立度別の利用者数は、以下のとおりである。Ⅲ以上の利用者数は「機能強化型 1」では平均 5.5 人、「機能強化型 2」では平均 5.6 人、「機能強化型以外」では平均 1.7 人であった。

平成 27 年 9 月と平成 28 年 9 月で平均値を比較すると、ほとんどの自立度で平成 28 年 9 月の利用者数が多くなっていた。

図表 280 認知症高齢者の日常生活自立度別の利用者数

(単位：人)

		平成 27 年 9 月				平成 28 年 9 月			
		平均値	標準偏差	中央値	割合	平均値	標準偏差	中央値	割合
機能強化型 1 (n=21)	自立・I	12.5	7.8	12.0	47.7%	13.9	8.1	13.0	49.7%
	II	3.7	3.3	3.0	14.0%	4.0	3.9	3.0	14.2%
	III	2.2	1.8	2.0	8.6%	2.4	1.7	2.0	8.7%
	IV	2.2	1.2	2.0	8.4%	2.6	1.7	2.0	9.4%
	M	0.7	1.1	0.0	2.7%	0.5	1.1	0.0	1.9%
	不明	4.9	7.6	1.0	18.6%	4.5	7.3	2.0	16.1%
機能強化型 2 (n=30)	自立・I	8.5	7.2	6.5	45.7%	9.5	6.9	8.0	45.3%
	II	3.4	3.5	3.0	18.0%	3.5	3.4	2.5	16.5%
	III	2.4	3.0	2.0	13.0%	3.1	3.1	2.0	14.9%
	IV	2.1	2.0	1.5	11.1%	1.9	2.3	1.0	9.0%
	M	0.4	0.7	0.0	2.3%	0.6	0.8	0.0	2.8%
	不明	1.8	3.9	0.0	9.8%	2.4	5.3	0.0	11.6%
機能強化型以外 (n=109)	自立・I	2.5	4.1	1.0	41.3%	3.0	5.7	2.0	44.8%
	II	1.1	2.2	0.0	18.4%	1.3	3.0	0.0	19.8%
	III	0.8	1.8	0.0	14.0%	0.9	2.0	0.0	12.8%
	IV	0.5	1.5	0.0	8.5%	0.5	1.4	0.0	7.9%
	M	0.2	0.6	0.0	3.4%	0.3	0.8	0.0	4.3%
	不明	0.9	5.7	0.0	14.3%	0.7	5.0	0.0	10.5%

(注)・医療保険の利用者のうち、要介護 1～5 の利用者について尋ねた。

・割合は、記入のあった利用者数全体に対する認知症高齢者の日常生活自立度別の利用者数の割合。

・すべての項目について記載のあった事業所を集計対象とした。

## ⑧超重症児・準超重症児・医療的ケア児等の利用者数

15歳未満の利用者のうち、超重症児・準超重症児・医療的ケア児等の利用者数は以下のとおりである。平成27年9月と平成28年9月を比較すると、「機能強化型1」、「機能強化型2」、「機能強化型以外」のいずれも、全項目で利用者数の平均値は同じか平成28年9月が多くなっていた。

「機能強化型1」では、平成28年9月の「超重症児」が平均1.7人（中央値1.0）、「準超重症児」が平均1.3人（中央値0.0）で、平成27年9月の平均値と比較するとそれぞれ0.1人多くなっていた。「機能強化型2」では、平成28年9月の「超重症児」が平均0.9人（中央値0.0）、「準超重症児」が平均1.1人（中央値0.0）で、平成27年9月の平均値と比較するとそれぞれ0.1人、0.2人多くなっていた。「機能強化型以外」では、平成28年9月の「超重症児」が平均0.3人（中央値0.0）、「準超重症児」が平均0.2人（中央値0.0）で、平成27年9月の平均値と比較すると「超重症児」は0.1人多くなっていた。

図表 281 超重症児・準超重症児・医療的ケア児等の利用者数（15歳未満の利用者）

（単位：人）

		平成27年9月				平成28年9月			
		平均値	標準偏差	中央値	割合	平均値	標準偏差	中央値	割合
機能強化型1 (n=100)	超重症児	1.6	2.0	1.0	35.2%	1.7	2.2	1.0	32.3%
	準超重症児	1.2	1.6	0.5	25.2%	1.3	1.7	0.0	23.5%
	医療的ケア児	1.2	2.1	0.0	25.2%	1.4	2.2	0.0	26.6%
	その他	0.7	2.0	0.0	14.3%	0.9	2.0	0.0	17.6%
機能強化型2 (n=103)	超重症児	0.8	1.4	0.0	28.7%	0.9	1.6	0.0	27.0%
	準超重症児	0.9	1.5	0.0	30.4%	1.1	1.9	0.0	33.0%
	医療的ケア児	0.7	1.6	0.0	24.2%	0.7	1.4	0.0	22.1%
	その他	0.5	1.4	0.0	16.7%	0.6	2.0	0.0	17.8%
機能強化型以外 (n=260)	超重症児	0.2	0.8	0.0	27.9%	0.3	1.1	0.0	32.7%
	準超重症児	0.2	0.6	0.0	17.5%	0.2	0.7	0.0	19.8%
	医療的ケア児	0.2	0.7	0.0	27.5%	0.3	0.7	0.0	25.1%
	その他	0.2	1.1	0.0	27.1%	0.2	1.1	0.0	22.4%

（注）・医療保険の利用者のうち、15歳未満の利用者について尋ねた。

- ・医療的ケア児は、超重症児・準超重症児を除く、人工呼吸器や胃ろう等を使用し、たんの吸引や経管栄養などの医療的ケアが必要な障害児を指す。
- ・割合は、記入のあった利用者数全体に対する超重症児・準超重症児・医療的ケア児等の状態別の利用者数の割合。
- ・すべての項目について記載のあった事業所を集計対象とした。

また、平成 28 年 4 月～9 月における超重症児・準超重症児・医療的ケア児等の 1 か月あたりの平均利用者数についてみると、「機能強化型 1」では、「超重症児」が平均 1.7 人（中央値 1.0）、「準超重症児」が平均 1.3 人（中央値 0.8）であった。「機能強化型 2」では、「超重症児」が平均 1.0 人（中央値 0.0）、「準超重症児」が平均 1.1 人（中央値 0.0）であった。「機能強化型以外」では「超重症児」が平均 0.3 人（中央値 0.0）、「準超重症児」が平均 0.3 人（中央値 0.0）であった。

図表 282 超重症児・準超重症児・医療的ケア児等の 1 か月あたりの平均利用者数  
(平成 28 年 4 月～9 月、15 歳未満の利用者)

(単位：人)

		平均値	標準偏差	中央値	割合
機能強化型 1 (n=102)	超重症児	1.7	2.1	1.0	33.3%
	準超重症児	1.3	1.7	0.8	25.3%
	医療的ケア児	1.3	2.1	0.0	24.8%
	その他	0.8	2.0	0.0	16.5%
機能強化型 2 (n=104)	超重症児	1.0	1.7	0.0	32.8%
	準超重症児	1.1	1.7	0.0	33.8%
	医療的ケア児	0.7	1.4	0.0	20.8%
	その他	0.4	1.1	0.0	12.5%
機能強化型以外 (n=266)	超重症児	0.3	1.1	0.0	31.1%
	準超重症児	0.3	1.3	0.0	22.7%
	医療的ケア児	0.3	1.1	0.0	27.3%
	その他	0.2	1.2	0.0	18.9%

- (注) • 医療保険の利用者のうち、15 歳未満の利用者について尋ねた。  
 • 医療的ケア児は、超重症児・準超重症児を除く、人工呼吸器や胃ろう等を使用し、たんの吸引や経管栄養などの医療的ケアが必要な障害児を指す。  
 • 割合は、記入のあった利用者数全体に対する超重症児・準超重症児・医療的ケア児等の状態別の利用者数の割合。  
 • すべての項目について記載のあった事業所を集計対象とした。

## ⑨ターミナルケアを行った利用者数

### 1) 訪問看護ターミナルケア療養費を算定した利用者数

平成 28 年 4 月～9 月に訪問看護ターミナルケア療養費を算定した利用者数についてみると、「機能強化型 1」は平均 12.0 人（中央値 11.0）、「機能強化型 2」は平均 7.3 人（中央値 6.0）、「機能強化型以外」は平均 1.5 人（中央値 1.0）であった。

図表 283 訪問看護ターミナルケア療養費を算定した利用者数（平成 28 年 4 月～9 月）

(単位：人)

	事業所数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型 1	111	12.0	7.4	11.0
機能強化型 2	129	7.3	5.7	6.0
機能強化型以外	356	1.5	2.3	1.0

(注) 記載のあった事業所を集計対象とした。

## 2) ターミナルケア加算を算定した利用者数

平成 28 年 4 月～9 月にターミナルケア加算を算定した利用者数についてみると、「機能強化型 1」は平均 3.7 人（中央値 3.0）、「機能強化型 2」は平均 3.0 人（中央値 3.0）、「機能強化型以外」は平均 0.7 人（中央値 0.0）であった。

図表 284 ターミナルケア加算を算定した利用者数（平成 28 年 4 月～9 月）

（単位：人）

	事業所数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型 1	111	3.7	3.2	3.0
機能強化型 2	128	3.0	2.6	3.0
機能強化型以外	356	0.7	1.3	0.0

（注）記載のあった事業所を集計対象とした。

## 3) 共同で訪問看護を行った医療機関が在宅がん医療総合診療料を算定した利用者数

平成 28 年 4 月～9 月に共同で訪問看護を行った医療機関が在宅がん医療総合診療料を算定した利用者数についてみると、「機能強化型 1」は平均 2.0 人（中央値 0.0）、「機能強化型 2」は平均 1.4 人（中央値 0.0）、「機能強化型以外」は平均 0.4 人（中央値 0.0）であった。

図表 285 共同で訪問看護を行った医療機関が在宅がん医療総合診療料を算定した利用者数（平成 28 年 4 月～9 月）

（単位：人）

	事業所数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型 1	100	2.0	7.5	0.0
機能強化型 2	121	1.4	4.2	0.0
機能強化型以外	335	0.4	1.9	0.0

（注）記載のあった事業所を集計対象とした。

#### ⑩ケアの内容別の利用者数（医療保険）

平成 28 年 9 月 1 か月間の医療保険の訪問看護について、ケアの内容別の利用者数は以下のとおりである。

「主に医療処置を行った利用者数」の全利用者に占める比率は、「機能強化型 1」、「機能強化型 2」、「機能強化型以外」の順に高かった。

図表 286 ケアの内容別の利用者数（医療保険）（平成 28 年 9 月 1 か月間）

(単位：人)

		平均値	標準偏差	中央値	全利用者に占める割合
機能強化型 1 (n=48)	主に医療処置を行った利用者数	35.4	18.7	29.0	66.1%
	主に看護職がリハビリテーションを行った利用者数	3.8	5.8	2.0	7.1%
	主にリハビリ職がリハビリテーションを行った利用者数	7.0	8.3	4.0	13.1%
	その他の利用者	7.4	11.4	1.0	13.7%
機能強化型 2 (n=51)	主に医療処置を行った利用者数	21.8	10.6	19.0	51.9%
	主に看護職がリハビリテーションを行った利用者数	2.4	2.9	1.0	5.8%
	主にリハビリ職がリハビリテーションを行った利用者数	7.9	19.9	3.0	18.7%
	その他の利用者	9.9	24.4	3.0	23.6%
機能強化型 以外 (n=216)	主に医療処置を行った利用者数	7.2	8.8	4.5	45.4%
	主に看護職がリハビリテーションを行った利用者数	1.3	2.3	0.0	7.9%
	主にリハビリ職がリハビリテーションを行った利用者数	2.6	8.4	0.0	16.4%
	その他の利用者	4.8	15.2	0.0	30.3%

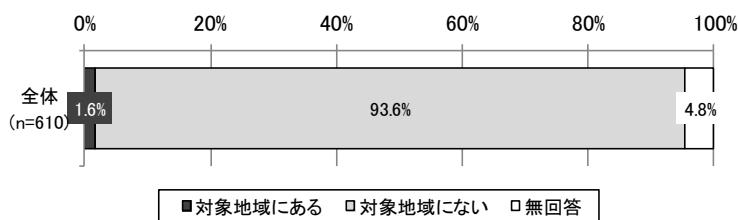
(注)・上記の利用者数についてすべて記載のあった事業所を集計対象とした。

- ・「その他の利用者」の「具体的に行なった内容」として、「健康状態の観察」、「服薬管理」、「エンゼルケア」、「栄養相談」、「ADL 評価」、「保清」、「入浴介助」、「生活指導」、「精神的支援」、「排泄ケア」、「介護者支援」、「リンパマッサージ」等が挙げられた。

#### ⑪特別地域訪問看護加算（医療保険）の算定状況

特別地域訪問看護加算（医療保険）の「対象地域にある」事業所は、以下のとおりである。

図表 287 特別地域訪問看護加算（医療保険）の対象地域にあるか



図表 288 特別地域訪問看護加算の算定利用者数

（対象地域にある事業所、平成 28 年 9 月 1 か月間）

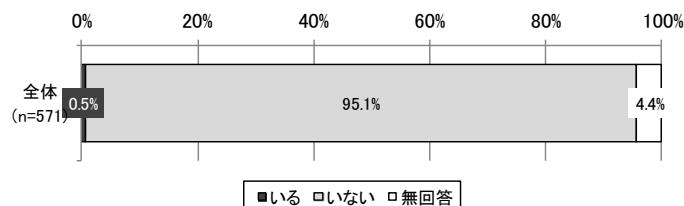
（単位：人）

	事業所数	平均値	標準偏差	中央値
全体	9	20.2	22.9	13.0

（注）記載のあった事業所を集計対象とした。

特別地域訪問看護加算の対象地域にない事業所に、対象地域に居住する利用者の有無を尋ねたところ、該当者はほとんどいなかった。

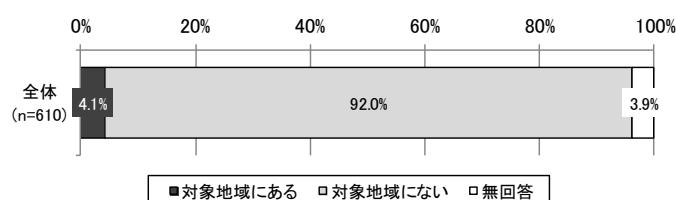
図表 289 特別地域訪問看護加算の対象地域に居住する利用者の有無（対象地域にない事業所）



#### ⑫中山間地域等の小規模事業所加算（介護保険）の算定状況

中山間地域等の小規模事業所加算（介護保険）の対象地域にあるかは、以下のとおりである。

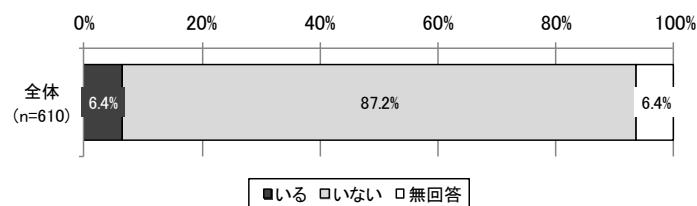
図表 290 中山間地域等の小規模事業所加算（介護保険）の対象地域にあるか



### ⑬中山間地域等提供加算（介護保険）の算定状況

中山間地域提供加算（介護保険）の対象地域に居住する利用者の有無は、以下のとおりである。

図表 291 中山間地域等提供加算（介護保険）の対象地域に居住する利用者の有無



対象地域に居住する利用者がいる事業所における、平成28年9月1か月間の中山間地域等提供加算（介護保険）の算定状況等は、以下のとおりである。

図表 292 中山間地域等提供加算（介護保険）の対象地域に居住する利用者数と算定利用者数  
(対象地域に居住する利用者がいる事業所、平成28年9月1か月間)

(単位：人)

		事業所数	平均値	標準偏差	中央値
全体	対象地域に居住する利用者数	36	16.6	26.2	8.0
	うち、中山間地域等提供加算を算定している利用者数		6.3	9.1	2.0

(注) 記載のあった事業所を集計対象とした。

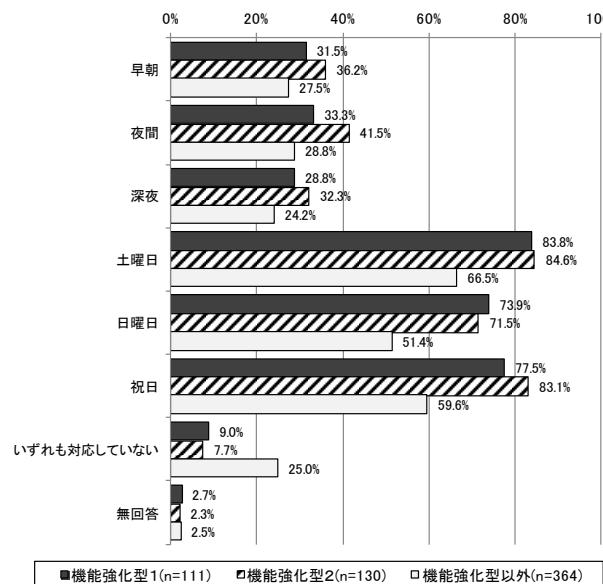
### (3) 土日や夜間、緊急時の対応等

#### ①計画的な訪問看護を実施している時間帯・曜日等

計画的な訪問看護を実施している時間帯・曜日等についてみると、「機能強化型1」、「機能強化型2」、「機能強化型以外」のいずれも、実施している割合は「土曜日」が最も多かった。

また、「機能強化型1」、「機能強化型2」の7割以上が「土曜日」、「日曜日」、「祝日」で計画的な訪問看護を実施していた。

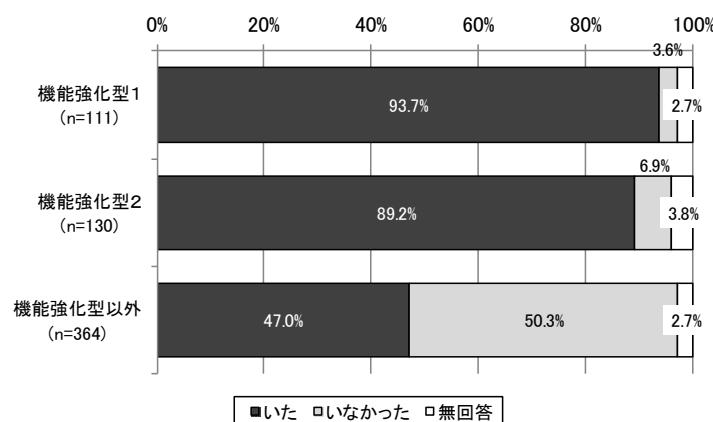
図表 293 計画的な訪問看護を実施している時間帯・曜日等（複数回答）



#### ②緊急訪問の実施状況

平成28年9月1か月間の緊急訪問した利用者の有無についてみると、「いた」の割合は、「機能強化型1」では93.7%、「機能強化型2」では89.2%、「機能強化型以外」では47.0%であった。

図表 294 緊急訪問した利用者の有無（平成28年9月1か月間）



図表 295 緊急訪問した利用者数  
(平成 28 年 9 月 1 か月間、緊急訪問した利用者がいた事業所)

(単位：人)

	事業所数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型 1	83	7.4	5.6	6.0
機能強化型 2	97	5.6	4.1	5.0
機能強化型以外	153	3.3	5.1	2.0

(注) 緊急訪問した利用者数、延べ緊急訪問回数、緊急訪問看護加算の算定回数のすべての項目に記載のあった事業所を集計対象とした。

図表 296 延べ緊急訪問回数 (平成 28 年 9 月 1 か月間、緊急訪問した利用者がいた事業所)

(単位：回)

	事業所数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型 1	83	17.3	33.6	10.0
機能強化型 2	97	14.2	21.0	8.0
機能強化型以外	153	10.9	35.3	3.0

(注) 緊急訪問した利用者数、延べ緊急訪問回数、緊急訪問看護加算の算定回数のすべての項目に記載のあった事業所を集計対象とした。

図表 297 緊急訪問看護加算の算定回数  
(平成 28 年 9 月 1 か月間、緊急訪問した利用者がいた事業所)

(単位：回)

	事業所数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型 1	83	5.9	6.5	3.0
機能強化型 2	97	4.4	7.0	1.0
機能強化型以外	153	2.2	4.0	1.0

(注) 緊急訪問した利用者数、延べ緊急訪問回数、緊急訪問看護加算の算定回数のすべての項目に記載のあった事業所を集計対象とした。

## (4) 他の医療機関や訪問看護ステーション等との連携状況

## ①連携に関する診療報酬項目の算定状況

平成 28 年 9 月 1 か月間における、連携に関する診療報酬項目の算定利用者数及び算定回数は、以下のとおりである。

図表 298 連携に関する診療報酬項目の算定利用者数（平成 28 年 9 月 1 か月間）

(単位：人)

		平均値	標準偏差	中央値
機能強化型 1 (n=98)	退院時共同指導加算(医療保険)	1.8	2.5	1.0
	在宅患者連携指導加算	0.5	2.0	0.0
	在宅患者緊急時等カンファレンス加算	0.6	2.3	0.0
	訪問看護情報提供療養費	37.9	32.5	34.5
機能強化型 2 (n=115)	退院時共同指導加算(医療保険)	0.8	1.2	0.0
	在宅患者連携指導加算	0.3	2.7	0.0
	在宅患者緊急時等カンファレンス加算	0.2	0.9	0.0
	訪問看護情報提供療養費	20.0	24.8	14.0
機能強化型以外 (n=318)	退院時共同指導加算(医療保険)	0.3	0.7	0.0
	在宅患者連携指導加算	0.0	0.4	0.0
	在宅患者緊急時等カンファレンス加算	0.1	0.5	0.0
	訪問看護情報提供療養費	7.4	17.0	0.0

(注) 上記診療報酬項目の算定利用者数と算定回数についてすべて記載のあった事業所を集計対象とした。

図表 299 連携に関する診療報酬項目の算定回数（平成 28 年 9 月 1 か月間）

(単位：回)

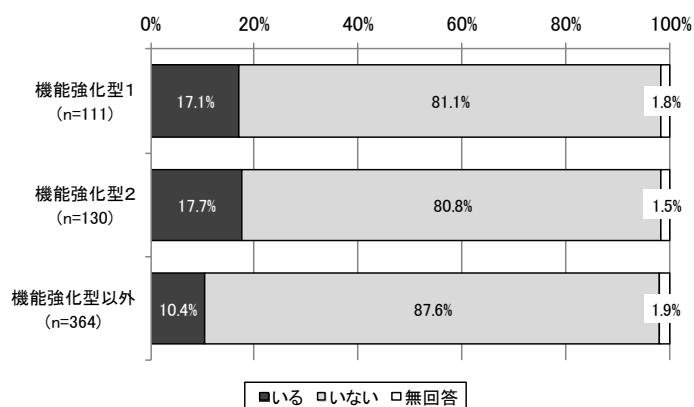
		平均値	標準偏差	中央値
機能強化型 1 (n=98)	退院時共同指導加算(医療保険)	1.9	2.5	1.0
	在宅患者連携指導加算	0.5	2.0	0.0
	在宅患者緊急時等カンファレンス加算	0.8	3.7	0.0
	訪問看護情報提供療養費	38.4	32.5	35.5
機能強化型 2 (n=115)	退院時共同指導加算(医療保険)	0.8	1.2	0.0
	在宅患者連携指導加算	0.3	2.7	0.0
	在宅患者緊急時等カンファレンス加算	0.2	0.9	0.0
	訪問看護情報提供療養費	20.0	24.8	14.0
機能強化型以外 (n=318)	退院時共同指導加算(医療保険)	0.3	0.7	0.0
	在宅患者連携指導加算	0.0	0.4	0.0
	在宅患者緊急時等カンファレンス加算	0.1	1.0	0.0
	訪問看護情報提供療養費	7.9	19.5	0.0

(注) 上記診療報酬項目の算定利用者数と算定回数についてすべて記載のあった事業所を集計対象とした。

## ②在宅褥瘡管理者の有無

在宅褥瘡管理者の有無は、以下のとおりである。

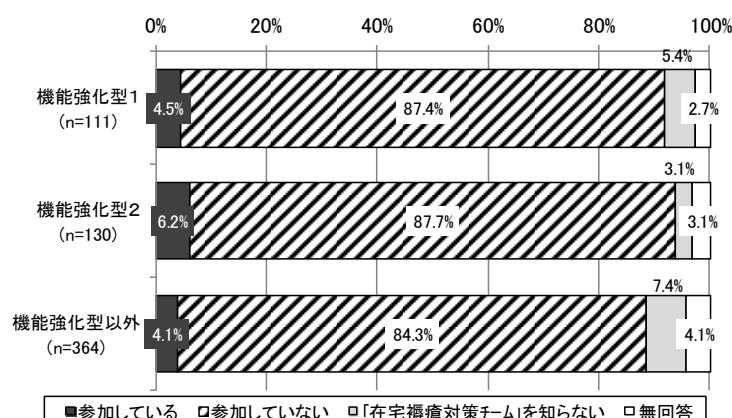
図表 300 在宅褥瘡管理者の有無



## ③在宅褥瘡対策チームへの参加状況

在宅褥瘡対策チームへの参加状況は、以下のとおりである。

図表 301 在宅褥瘡対策チームへの参加状況



図表 302 在宅患者訪問褥瘡管理指導料の算定利用者数（平成 28 年 9 月 1 か月間）

(在宅褥瘡対策チームに参加している事業所)

(単位：人)

	事業所数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型 1	4	0.8	0.5	1.0
機能強化型 2	6	0.3	0.5	0.0
機能強化型以外	13	1.0	1.5	0.0

(注) 記載のあった事業所を集計対象とした。

#### ④複数の実施主体による訪問看護の実施状況

複数の実施主体による訪問看護の実施状況についてみると、「機能強化型1」では、平成28年9月の「複数の実施主体による訪問看護を利用している人数」が平均3.0人、このうち「同一日に自事業所が2か所目の緊急訪問を実施した人数」が平均0.1人で、平成27年9月と比較するとそれぞれ0.4人、0.1人多くなっていた。

図表 303 複数の実施主体による訪問看護の実施状況（機能強化型1、n=96）

(単位：人)

	平成27年9月			平成28年9月		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
複数の実施主体による訪問看護を利用している人数	2.6	2.8	2.0	3.0	3.1	2.0
自事業所以外の訪問看護ステーションと併用している人数	2.5	2.7	2.0	2.9	3.0	2.0
病院・診療所の訪問看護と併用している人数	0.2	0.9	0.0	0.2	0.6	0.0
同一日に自事業所が2か所目の緊急訪問を実施した人数	0.0	0.1	0.0	0.1	0.2	0.0

(注) 上記の利用者数についてすべて記載のあった事業所を集計対象とした。

「機能強化型2」では、平成28年9月の「複数の実施主体による訪問看護を利用している人数」が平均2.2人、このうち「同一日に自事業所が2か所目の緊急訪問を実施した人数」が平均0.1人で、平成27年9月と比較するとそれぞれ0.2人、0.1人多くなっていた。

図表 304 複数の実施主体による訪問看護の実施状況（機能強化型2、n=114）

(単位：人)

	平成27年9月			平成28年9月		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
複数の実施主体による訪問看護を利用している人数	2.0	2.9	1.0	2.2	3.4	1.0
自事業所以外の訪問看護ステーションと併用している人数	2.0	2.9	1.0	2.2	3.4	1.0
病院・診療所の訪問看護と併用している人数	0.0	0.2	0.0	0.1	0.2	0.0
同一日に自事業所が2か所目の緊急訪問を実施した人数	0.0	0.1	0.0	0.1	0.3	0.0

(注) 上記の利用者数についてすべて記載のあった事業所を集計対象とした。

「機能強化型以外」では、平成 28 年 9 月の「複数の実施主体による訪問看護を利用している人數」が平均 1.3 人、このうち「同一日に自事業所が 2 か所目の緊急訪問を実施した人數」が平均 0.0 人で、平成 27 年 9 月と比較すると「複数の実施主体による訪問看護を利用している人數」は 0.4 ポイント多くなっていた。

図表 305 複数の実施主体による訪問看護の実施状況（機能強化型以外、n=289）

(単位：人)

	平成 27 年 9 月			平成 28 年 9 月		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
複数の実施主体による訪問看護を利用している人數	0.9	2.3	0.0	1.3	3.5	1.0
自事業所以外の訪問看護ステーションと併用している人數	0.9	2.2	0.0	1.2	3.3	0.0
病院・診療所の訪問看護と併用している人數	0.1	0.4	0.0	0.1	0.8	0.0
同一日に自事業所が 2 か所目の緊急訪問を実施した人數	0.0	-	0.0	0.0	0.1	0.0

(注) 上記の利用者数についてすべて記載のあった事業所を集計対象とした。

同一日に自事業所が 2 か所目の緊急訪問を実施した人がいる事業所に、1 か所目の訪問看護ステーションが緊急訪問できなかった理由を尋ねたところ、「事前の取り決めで対応することになっていたから」が最も多い傾向にあった。

図表 306 1 か所目の訪問看護ステーションが緊急訪問できなかった理由  
(同一日に自事業所が 2 か所目の緊急訪問を実施した人がいる事業所、複数回答)

(単位：件)

事業所数	1 か所目の訪問看護ステーションが 24 時間対応体制加算を届出していないから	1 か所目の訪問看護ステーションが対応困難な状態だったから	1 か所目の訪問看護ステーションに利用者から連絡がつかなかったから	事前の取り決めで対応することになっていたから	その他	無回答
機能強化型 1	6	0	2	1	2	0
機能強化型 2	4	1	0	0	2	1
機能強化型以外	2	0	1	0	1	0

(注) 「その他」の内容としては「もう一か所はリハビリのみで訪問している事業所だから」が挙げられた。

## ⑤病院・診療所との訪問看護指示書の受け渡し状況

平成 28 年 9 月 1 か月間における病院・診療所との訪問看護指示書の受け渡し状況、訪問看護計画書・訪問看護報告書の受け渡し状況は、以下のとおりである。

訪問看護指示書、訪問看護計画書・訪問看護報告書のいずれも、「受け渡しのあった病院・診療所数」、「書面（紙）での受け渡し回数」の平均値は、「機能強化型 1」、「機能強化型 2」、「機能強化型以外」の順に多かった。電子ファイル等での受け渡しはほとんどなかった。

図表 307 病院・診療所との訪問看護指示書の受け渡し状況（平成 28 年 9 月 1 か月間）

		平均値	標準偏差	中央値
機能強化型 1(n=96)	受け渡しのあった病院・診療所数(か所)	21.6	19.2	16.0
	書面(紙)での受け渡し回数(回)	33.0	33.2	22.5
	電子ファイル等での受け渡し回数(回)	0.0	-	0.0
機能強化型 2(n=113)	受け渡しのあった病院・診療所数(か所)	13.4	12.1	9.0
	書面(紙)での受け渡し回数(回)	22.9	28.8	15.0
	電子ファイル等での受け渡し回数(回)	0.1	0.6	0.0
機能強化型以外 (n=312)	受け渡しのあった病院・診療所数(か所)	6.7	8.9	4.0
	書面(紙)での受け渡し回数(回)	9.5	13.2	5.0
	電子ファイル等での受け渡し回数(回)	0.1	1.1	0.0

(注) すべての項目について記載のあった事業所を集計対象とした。

図表 308 病院・診療所との訪問看護計画書・訪問看護報告書の受け渡し状況

(平成 28 年 9 月 1 か月間)

		平均値	標準偏差	中央値
機能強化型 1(n=99)	受け渡しのあった病院・診療所数(か所)	30.1	22.1	25.0
	書面(紙)での受け渡し回数(回)	53.8	59.7	35.0
	電子ファイル等での受け渡し回数(回)	0.0	-	0.0
機能強化型 2(n=117)	受け渡しのあった病院・診療所数(か所)	21.4	18.5	15.0
	書面(紙)での受け渡し回数(回)	36.6	40.5	28.0
	電子ファイル等での受け渡し回数(回)	0.3	2.2	0.0
機能強化型以外 (n=316)	受け渡しのあった病院・診療所数(か所)	10.1	12.2	6.0
	書面(紙)での受け渡し回数(回)	14.6	18.3	9.0
	電子ファイル等での受け渡し回数(回)	0.3	5.1	0.0

(注) すべての項目について記載のあった事業所を集計対象とした。

## ⑥医療保険の利用者に関する情報提供や共有の状況

平成 28 年 9 月 1 か月間に、医療保険の利用者について情報提供や共有を行った施設・事業所数及び利用者数をみると、「機能強化型 1」、「機能強化型 2」、「機能強化型以外」のいずれも、居宅介護支援事業所、病院、診療所との情報提供や共有が多かった。

図表 309 情報提供や共有を行った施設・事業者数、利用者数（平成 28 年 9 月 1 か月間）  
(機能強化型 1)

		平均値	標準偏差	中央値
病院(n=73)	情報提供や共有を行った施設数(か所)	9.1	11.2	5.0
	情報提供や共有を行った利用者数(人)	15.2	25.4	10.0
診療所(n=68)	情報提供や共有を行った施設数(か所)	8.7	16.5	4.0
	情報提供や共有を行った利用者数(人)	16.1	20.7	9.0
歯科診療所 (n=71)	情報提供や共有を行った施設数(か所)	0.3	0.6	0.0
	情報提供や共有を行った利用者数(人)	0.4	0.9	0.0
保健薬局 (n=63)	情報提供や共有を行った施設数(か所)	2.0	4.8	1.0
	情報提供や共有を行った利用者数(人)	3.8	7.3	1.0
居宅介護支援事業所 (n=62)	情報提供や共有を行った事業所数(か所)	12.0	12.2	8.0
	情報提供や共有を行った利用者数(人)	21.1	28.9	11.0
介護老人保健施設 (n=57)	情報提供や共有を行った施設数(か所)	0.4	0.9	0.0
	情報提供や共有を行った利用者数(人)	0.5	1.0	0.0
その他介護保険サービス事業所 (n=58)	情報提供や共有を行った事業所数(か所)	3.5	6.3	1.0
	情報提供や共有を行った利用者数(人)	4.9	9.0	1.0
地域包括支援センター (n=61)	情報提供や共有を行った施設数(か所)	1.0	1.6	0.0
	情報提供や共有を行った利用者数(人)	1.3	2.3	0.0
特定相談事業者・障害児相談支援事業者 (n=66)	情報提供や共有を行った事業者数(か所)	1.1	1.6	0.5
	情報提供や共有を行った利用者数(人)	1.9	3.7	0.5
保育所・幼稚園・学校 (n=68)	情報提供や共有を行った施設数(か所)	0.1	0.4	0.0
	情報提供や共有を行った利用者数(人)	0.2	0.7	0.0

(注)・情報提供や共有には、文書の有無に関わらず、カンファレンス、電話等での情報共有も含める（病院・診療所については、訪問看護指示書、訪問看護計画書・訪問看護報告書の授受を除く）。

- ・施設・事業者ごとに、情報提供や共有を行った施設・事業者数、利用者数、療養に関する文書を提供した回数・受け取った回数のすべての項目について記載のあった事業所を集計対象とした。
- ・「その他介護保険サービス事業所」は、居宅介護支援事業所と介護老人保健施設以外の介護保険サービス事業所について尋ねている。

図表 310 情報提供や共有を行った施設・事業者数、利用者数（平成 28 年 9 月 1 か月間）  
 (機能強化型 2)

		平均値	標準偏差	中央値
病院 (n=96)	情報提供や共有を行った施設数(か所)	5.8	7.1	3.0
	情報提供や共有を行った利用者数(人)	10.1	14.1	5.5
診療所 (n=89)	情報提供や共有を行った施設数(か所)	4.7	9.9	2.0
	情報提供や共有を行った利用者数(人)	8.1	15.6	2.0
歯科診療所 (n=84)	情報提供や共有を行った施設数(か所)	0.3	0.7	0.0
	情報提供や共有を行った利用者数(人)	0.4	1.6	0.0
保険薬局 (n=76)	情報提供や共有を行った施設数(か所)	0.9	1.2	0.0
	情報提供や共有を行った利用者数(人)	1.5	3.5	0.0
居宅介護支援事 業所 (n=83)	情報提供や共有を行った事業所数(か所)	9.1	8.4	8.0
	情報提供や共有を行った利用者数(人)	18.4	26.6	10.0
介護老人保健施 設 (n=80)	情報提供や共有を行った施設数(か所)	0.4	1.0	0.0
	情報提供や共有を行った利用者数(人)	0.4	1.2	0.0
その他介護保険 サービス事業所 (n=76)	情報提供や共有を行った事業所数(か所)	2.1	4.5	0.0
	情報提供や共有を行った利用者数(人)	3.1	7.0	0.0
地域包括支援セ ンター (n=78)	情報提供や共有を行った施設数(か所)	0.9	1.5	1.0
	情報提供や共有を行った利用者数(人)	1.5	2.7	1.0
特定相談事業者・ 障害児相談支援 事業者 (n=80)	情報提供や共有を行った事業者数(か所)	0.8	1.5	0.0
	情報提供や共有を行った利用者数(人)	1.1	1.9	0.0
保育所・幼稚園・ 学校(n=83)	情報提供や共有を行った施設数(か所)	0.1	0.4	0.0
	情報提供や共有を行った利用者数(人)	0.1	0.3	0.0

(注)・情報提供や共有には、文書の有無に関わらず、カンファレンス、電話等での情報共有も含める（病院・診療所については、訪問看護指示書、訪問看護計画書・訪問看護報告書の授受を除く）。

- ・施設・事業者ごとに、情報提供や共有を行った施設・事業者数、利用者数、療養に関する文書を提供した回数・受け取った回数のすべての項目について記載のあった事業所を集計対象とした。
- ・「その他介護保険サービス事業所」は、居宅介護支援事業所と介護老人保健施設以外の介護保険サービス事業所について尋ねている。

図表 311 情報提供や共有を行った施設・事業者数、利用者数（平成 28 年 9 月 1 か月間）  
 (機能強化型以外)

		平均値	標準偏差	中央値
病院 (n=262)	情報提供や共有を行った施設数(か所)	2.2	3.2	1.0
	情報提供や共有を行った利用者数(人)	4.2	8.4	2.0
診療所 (n=248)	情報提供や共有を行った施設数(か所)	1.5	2.7	1.0
	情報提供や共有を行った利用者数(人)	3.3	8.3	1.0
歯科診療所 (n=240)	情報提供や共有を行った施設数(か所)	0.1	0.3	0.0
	情報提供や共有を行った利用者数(人)	0.1	0.4	0.0
保険薬局 (n=230)	情報提供や共有を行った施設数(か所)	0.4	0.9	0.0
	情報提供や共有を行った利用者数(人)	0.6	1.6	0.0
居宅介護支援事 業所(n=229)	情報提供や共有を行った事業所数(か所)	3.2	4.4	2.0
	情報提供や共有を行った利用者数(人)	4.8	7.4	2.0
介護老人保健施 設 (n=236)	情報提供や共有を行った施設数(か所)	0.1	0.3	0.0
	情報提供や共有を行った利用者数(人)	0.1	0.4	0.0
その他介護保険 サービス事業所 (n=225)	情報提供や共有を行った事業所数(か所)	0.6	1.7	0.0
	情報提供や共有を行った利用者数(人)	0.7	1.8	0.0
地域包括支援セ ンター (n=230)	情報提供や共有を行った施設数(か所)	0.4	1.0	0.0
	情報提供や共有を行った利用者数(人)	0.4	1.1	0.0
特定相談事業者・ 障害児相談支援 事業者 (n=231)	情報提供や共有を行った事業者数(か所)	0.4	1.2	0.0
	情報提供や共有を行った利用者数(人)	0.4	1.3	0.0
保育所・幼稚園・ 学校 (n=238)	情報提供や共有を行った施設数(か所)	0.0	0.2	0.0
	情報提供や共有を行った利用者数(人)	0.1	0.3	0.0

- (注)・情報提供や共有には、文書の有無に関わらず、カンファレンス、電話等での情報共有も含める（病院・診療所については、訪問看護指示書、訪問看護計画書・訪問看護報告書の授受を除く）。  
 ・施設・事業者ごとに、情報提供や共有を行った施設・事業者数、利用者数、療養に関する文書を提供した回数・受け取った回数のすべての項目について記載のあった事業所を集計対象とした。  
 ・「その他介護保険サービス事業所」は、居宅介護支援事業所と介護老人保健施設以外の介護保険サービス事業所について尋ねている。

平成 28 年 9 月 1 か月間に、医療保険の利用者について療養に関する文書を提供した回数・受け取った回数についてみると、「機能強化型 1」、「機能強化型 2」、「機能強化型以外」のいずれも、居宅介護支援事業所、病院、診療所との授受が多かった。

図表 312 療養に関する文書を提供した回数・受け取った回数（平成 28 年 9 月 1 か月間）  
(機能強化型 1)

(単位：回)

		平均値	標準偏差	中央値
病院 (n=73)	療養に関する文書を提供した回数	8.4	11.9	5.0
	療養に関する文書を受け取った回数	5.2	6.8	3.0
診療所 (n=68)	療養に関する文書を提供した回数	10.0	19.9	1.0
	療養に関する文書を受け取った回数	7.5	18.2	0.0
歯科診療所 (n=71)	療養に関する文書を提供した回数	0.1	0.4	0.0
	療養に関する文書を受け取った回数	0.1	0.4	0.0
保健薬局 (n=63)	療養に関する文書を提供した回数	1.6	6.2	0.0
	療養に関する文書を受け取った回数	2.2	6.0	0.0
居宅介護支援事 業所 (n=62)	療養に関する文書を提供した回数	13.2	27.0	3.0
	療養に関する文書を受け取った回数	8.9	20.6	2.0
介護老人保健施 設 (n=57)	療養に関する文書を提供した回数	0.3	0.7	0.0
	療養に関する文書を受け取った回数	0.1	0.4	0.0
その他介護保険 サービス事業所 (n=58)	療養に関する文書を提供した回数	1.3	3.2	0.0
	療養に関する文書を受け取った回数	0.7	1.9	0.0
地域包括支援セ ンター (n=61)	療養に関する文書を提供した回数	1.1	3.1	0.0
	療養に関する文書を受け取った回数	0.7	2.4	0.0
特定相談事業者・ 障害児相談支援 事業者 (n=66)	療養に関する文書を提供した回数	0.9	2.6	0.0
	療養に関する文書を受け取った回数	0.3	0.8	0.0
保育所・幼稚園・ 学校 (n=68)	療養に関する文書を提供した回数	0.0	0.2	0.0
	療養に関する文書を受け取った回数	0.0	-	0.0

- (注)・病院・診療所については、訪問看護指示書、訪問看護計画書・訪問看護報告書の授受を除く。  
 ・施設・事業者ごとに、情報提供や共有を行った施設・事業者数、利用者数、療養に関する文書を提供した回数・受け取った回数のすべての項目について記載のあった事業所を集計対象とした。  
 ・「その他介護保険サービス事業所」は、居宅介護支援事業所と介護老人保健施設以外の介護保険サービス事業所について尋ねている。

図表 313 療養に関する文書を提供した回数・受け取った回数（平成 28 年 9 月 1 か月間）  
 (機能強化型 2)

(単位：回)

		平均値	標準偏差	中央値
病院 (n=96)	療養に関する文書を提供した回数	7.5	13.1	3.0
	療養に関する文書を受け取った回数	4.6	6.8	3.0
診療所 (n=89)	療養に関する文書を提供した回数	7.8	19.0	1.0
	療養に関する文書を受け取った回数	3.2	6.6	0.0
歯科診療所 (n=84)	療養に関する文書を提供した回数	0.1	0.4	0.0
	療養に関する文書を受け取った回数	0.4	2.9	0.0
保険薬局 (n=76)	療養に関する文書を提供した回数	0.5	1.1	0.0
	療養に関する文書を受け取った回数	1.2	4.0	0.0
居宅介護支援事業所 (n=83)	療養に関する文書を提供した回数	11.8	22.8	4.0
	療養に関する文書を受け取った回数	5.4	10.6	2.0
介護老人保健施設 (n=80)	療養に関する文書を提供した回数	0.3	1.1	0.0
	療養に関する文書を受け取った回数	0.2	1.1	0.0
その他介護保険サービス事業所 (n=76)	療養に関する文書を提供した回数	1.0	2.8	0.0
	療養に関する文書を受け取った回数	0.4	1.2	0.0
地域包括支援センター (n=78)	療養に関する文書を提供した回数	1.1	2.6	0.0
	療養に関する文書を受け取った回数	0.4	1.3	0.0
特定相談事業者・障害児相談支援事業者 (n=80)	療養に関する文書を提供した回数	0.6	1.6	0.0
	療養に関する文書を受け取った回数	0.4	1.3	0.0
保育所・幼稚園・学校 (n=83)	療養に関する文書を提供した回数	0.0	0.2	0.0
	療養に関する文書を受け取った回数	0.0	0.2	0.0

- (注)・病院・診療所については、訪問看護指示書、訪問看護計画書・訪問看護報告書の授受を除く。  
 ・施設・事業者ごとに、情報提供や共有を行った施設・事業者数、利用者数、療養に関する文書を提供した回数・受け取った回数のすべての項目について記載のあった事業所を集計対象とした。  
 ・「その他介護保険サービス事業所」は、居宅介護支援事業所と介護老人保健施設以外の介護保険サービス事業所について尋ねている。

図表 314 療養に関する文書を提供した回数・受け取った回数（平成 28 年 9 月 1 か月間）  
 (機能強化型以外)

(単位：回)

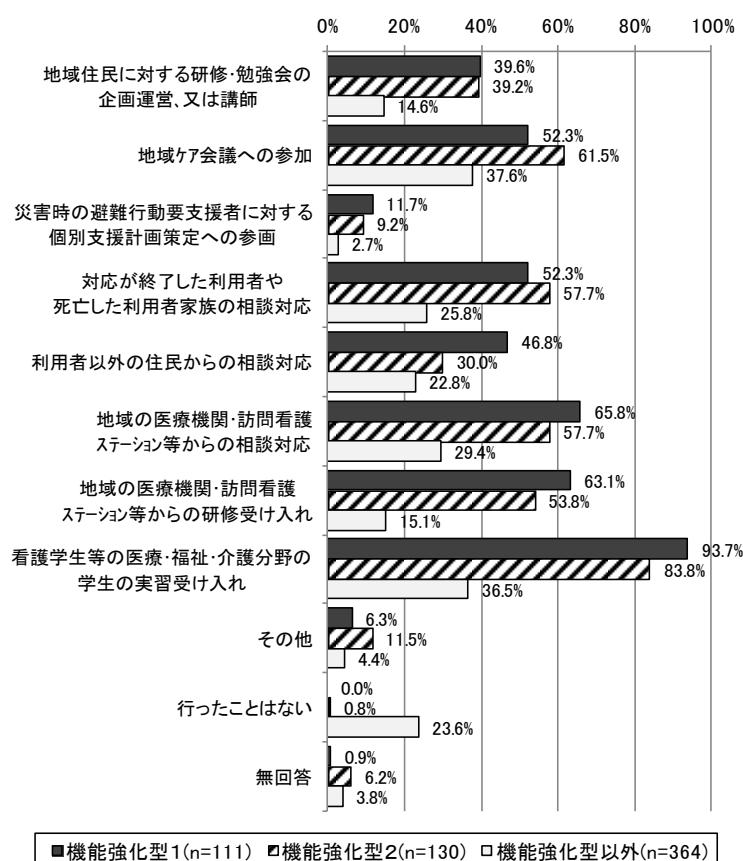
		平均値	標準偏差	中央値
病院 (n=262)	療養に関する文書を提供した回数	2.9	6.7	1.0
	療養に関する文書を受け取った回数	1.9	4.1	1.0
診療所 (n=248)	療養に関する文書を提供した回数	3.4	8.5	0.0
	療養に関する文書を受け取った回数	2.1	5.8	0.0
歯科診療所 (n=240)	療養に関する文書を提供した回数	0.0	0.3	0.0
	療養に関する文書を受け取った回数	0.1	0.4	0.0
保険薬局 (n=230)	療養に関する文書を提供した回数	0.2	1.8	0.0
	療養に関する文書を受け取った回数	0.3	2.2	0.0
居宅介護支援事 業所 (n=229)	療養に関する文書を提供した回数	3.3	8.7	0.0
	療養に関する文書を受け取った回数	2.1	6.5	0.0
介護老人保健施 設 (n=236)	療養に関する文書を提供した回数	0.1	0.4	0.0
	療養に関する文書を受け取った回数	0.1	0.3	0.0
その他介護保険 サービス事業所 (n=225)	療養に関する文書を提供した回数	0.2	1.1	0.0
	療養に関する文書を受け取った回数	0.2	1.3	0.0
地域包括支援セ ンター (n=230)	療養に関する文書を提供した回数	0.2	0.6	0.0
	療養に関する文書を受け取った回数	0.1	0.5	0.0
特定相談事業者・ 障害児相談支援 事業者 (n=231)	療養に関する文書を提供した回数	0.1	0.6	0.0
	療養に関する文書を受け取った回数	0.1	0.6	0.0
保育所・幼稚園・ 学校 (n=238)	療養に関する文書を提供した回数	0.0	0.2	0.0
	療養に関する文書を受け取った回数	0.0	0.2	0.0

- (注)・病院・診療所については、訪問看護指示書、訪問看護計画書・訪問看護報告書の授受を除く。  
 ・施設・事業者ごとに、情報提供や共有を行った施設・事業者数、利用者数、療養に関する文書を提供した回数・受け取った回数のすべての項目について記載のあった事業所を集計対象とした。  
 ・「その他介護保険サービス事業所」は、居宅介護支援事業所と介護老人保健施設以外の介護保険サービス事業所について尋ねている。

## ⑦地域での活動状況（医療保険・介護保険による訪問看護は除く）

平成 28 年 4 月～9 月における地域での活動状況（医療保険・介護保険による訪問看護は除く）についてみると、「機能強化型 1」では、「看護学生等の医療・福祉・介護分野の学生の実習受け入れ」が 93.7% で最も多く、次いで「地域の医療機関・訪問看護ステーション等からの相談対応」（65.8%）であった。「機能強化型 2」では、「看護学生等の医療・福祉・介護分野の学生の実習受け入れ」が 83.8% で最も多く、次いで「地域ケア会議への参加」（61.5%）であった。「機能強化型以外」では、「地域ケア会議への参加」が 37.6% で最も多く、次いで「看護学生等の医療・福祉・介護分野の学生の実習受け入れ」（36.5%）であった。

**図表 315 地域での活動状況（医療保険・介護保険による訪問看護は除く）  
(平成 28 年 4 月～9 月、複数回答)**



- (注)・平成 28 年 4 月～9 月に、地域住民に対する情報提供や相談、人材育成のための研修等の地域での活動（医療保険・介護保険による訪問看護は除く）として行ったことについて尋ねている。  
 ・「その他」の内容として、「認知症カフェ」、「地域行事への参加、研修会の手伝い」、「地域の催しで血圧測定・健康チェック」、「障害者サロンの定期的な実施」、「高校生ボランティアの体験受け入れ」、「中学生の職場体験の受け入れ」等が挙げられた。

## (5) 訪問看護を行った利用者の状況

### 【調査対象等】

調査対象：訪問看護調査の対象事業所の利用者のうち、平成28年9月に医療保険での訪問看護を行った人（1事業所につき4名）を本調査の対象とした。

回答する4名は、①15歳未満の利用者のうち五十音順で最初の利用者1名、  
 ②精神科訪問看護基本療養費の算定利用者のうち五十音順で最初の利用者1名、  
 ③条件①・②で選ばれた利用者を除く全利用者のうち五十音順で早い利用者2名とした。なお、条件①・②に該当する利用者がいない場合は、条件③に基づく回答者数を増やし、4名分の回答とした。

回答数：利用者2,243人分

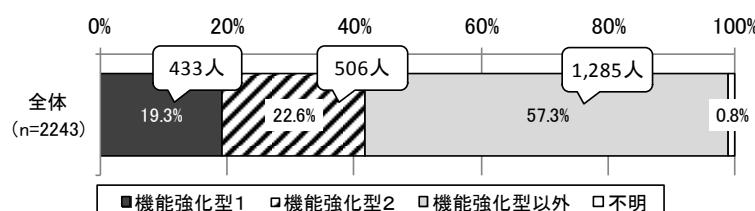
回答者：事業所職員

### ①利用者の属性・病状等

#### 1) 事業所の種類

有効回答が得られた利用者2,243人の事業所の種類についてみると、「機能強化型1」が19.3%、「機能強化型2」が22.6%、「機能強化型以外」が57.3%であった。

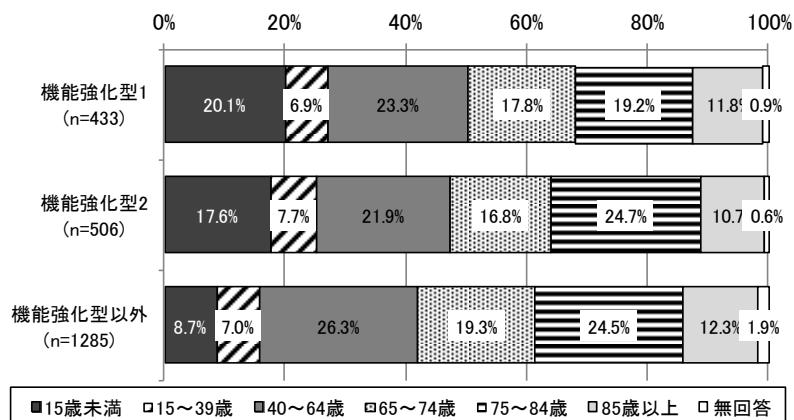
図表 316 事業所の種類別



## 2) 年齢

利用者の年齢は、以下のとおりである。

図表 317 年齢（事業所の種類別）

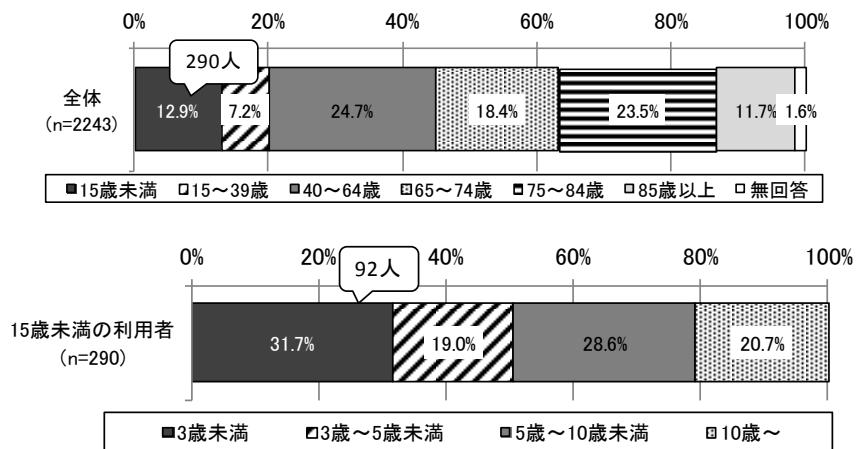


(単位：歳)

	利用者数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型 1	429	54.1	29.2	64.0
機能強化型 2	503	56.4	28.7	66.0
機能強化型以外	1,261	61.8	24.2	69.0

(注) 記載のあった利用者を集計対象とした。

図表 318 年齢（全利用者、15歳未満の利用者）



(単位：歳)

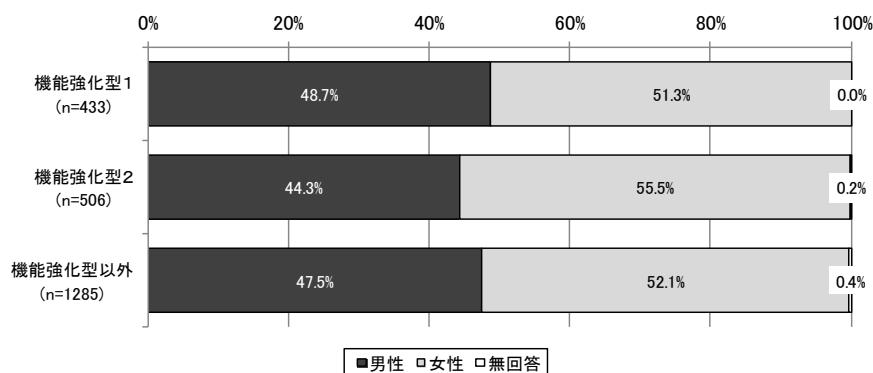
	利用者数	平均値	標準偏差	中央値
全体	2,208	59.0	26.5	67.0
【再掲】15歳未満の利用者	290	5.5	4.2	4.0

(注) 記載のあった利用者を集計対象とした。

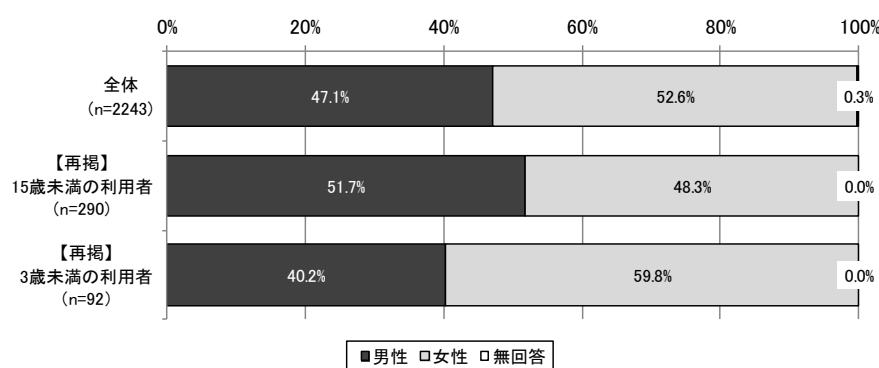
### 3) 性別

利用者の性別は、以下のとおりである。

図表 319 性別（事業所の種類別）



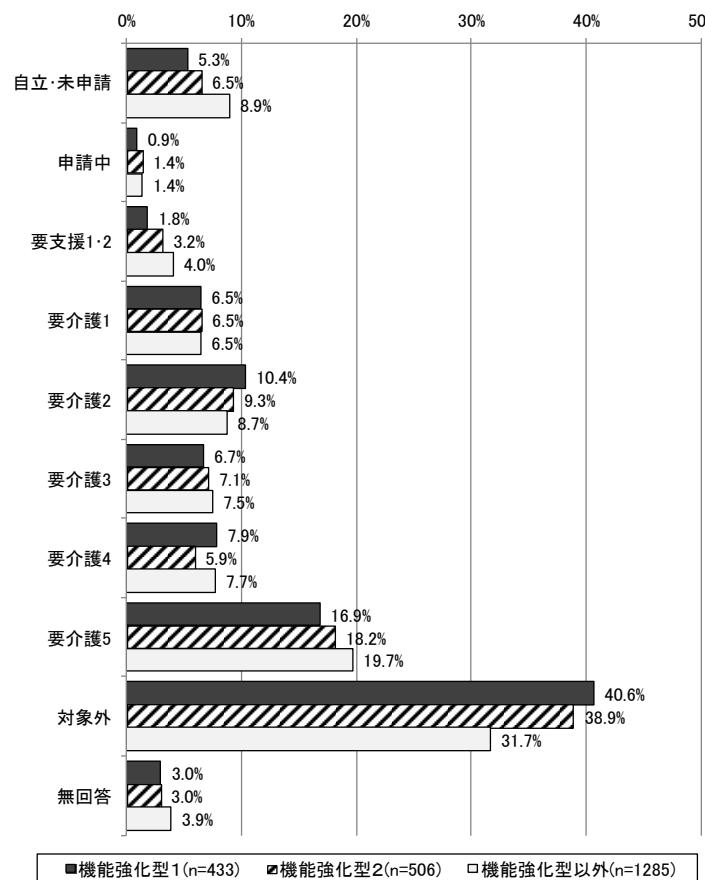
図表 320 性別（年齢別）



## 4) 要介護度（直近）

利用者の要介護度は、以下のとおりである。

図表 321 要介護度（直近、単数回答）（事業所の種類別）

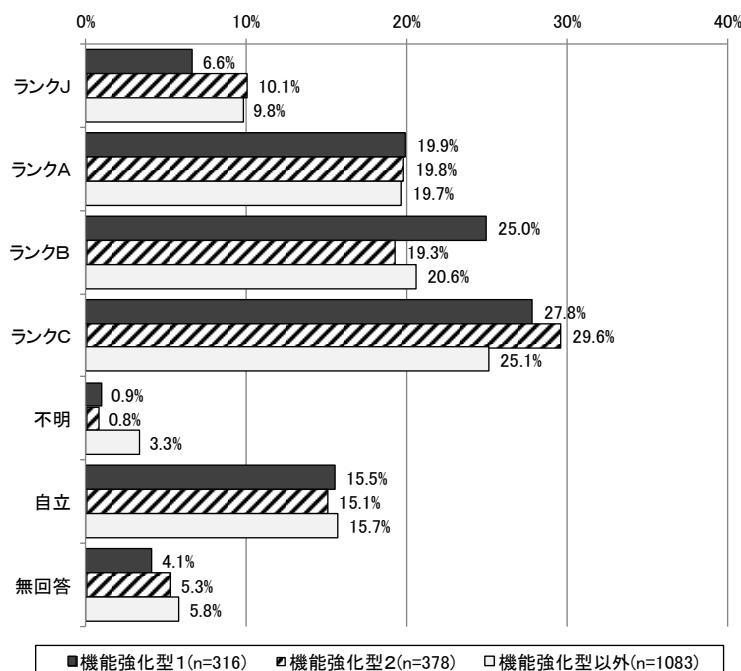


(注) 40歳未満の利用者はすべて「対象外」。

## 5) 障害高齢者の日常生活自立度（直近）

40歳以上の利用者の障害高齢者の日常生活自立度は、以下のとおりである。

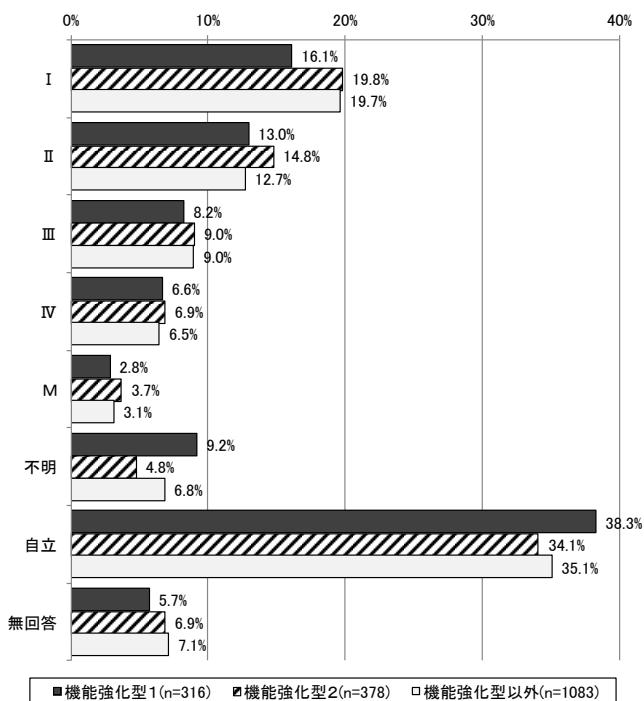
図表 322 障害高齢者の日常生活自立度（直近、40歳以上の利用者、単数回答）  
(事業所の種類別)



## 6) 認知症高齢者の日常生活自立度（直近）

40歳以上の利用者の認知症高齢者の日常生活自立度は、以下のとおりである。

図表 323 認知症高齢者の日常生活自立度（直近、40歳以上の利用者、単数回答）  
(事業所の種類別)

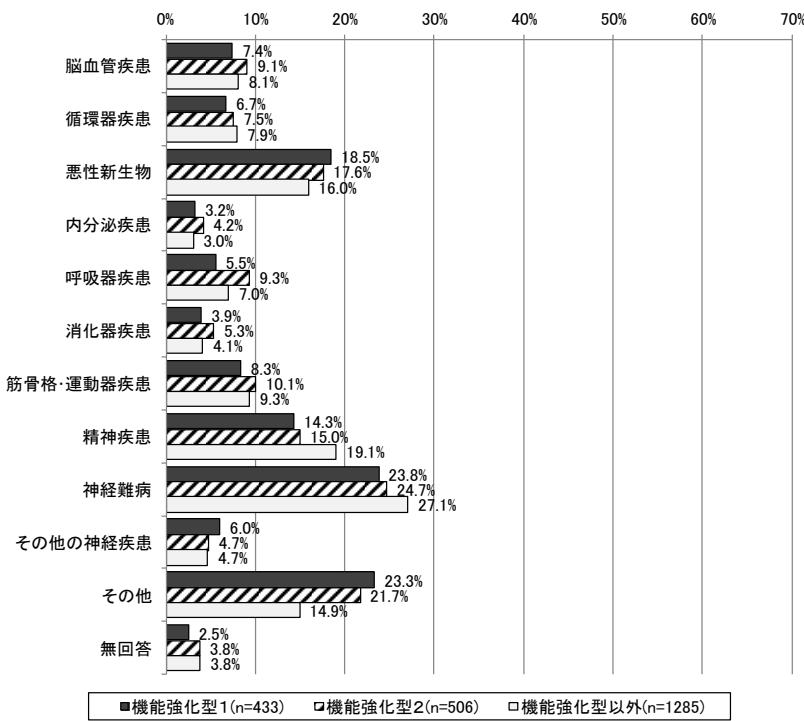


## 7) 現在在宅療養を続けている原因の病名

現在在宅療養を続けている原因の病名についてみると、「機能強化型1」と「機能強化型2」では、「神経難病」が最も多く、次いで「悪性新生物」であった。「機能強化型以外」では、「神経難病」が最も多く、次いで「精神疾患」であった。

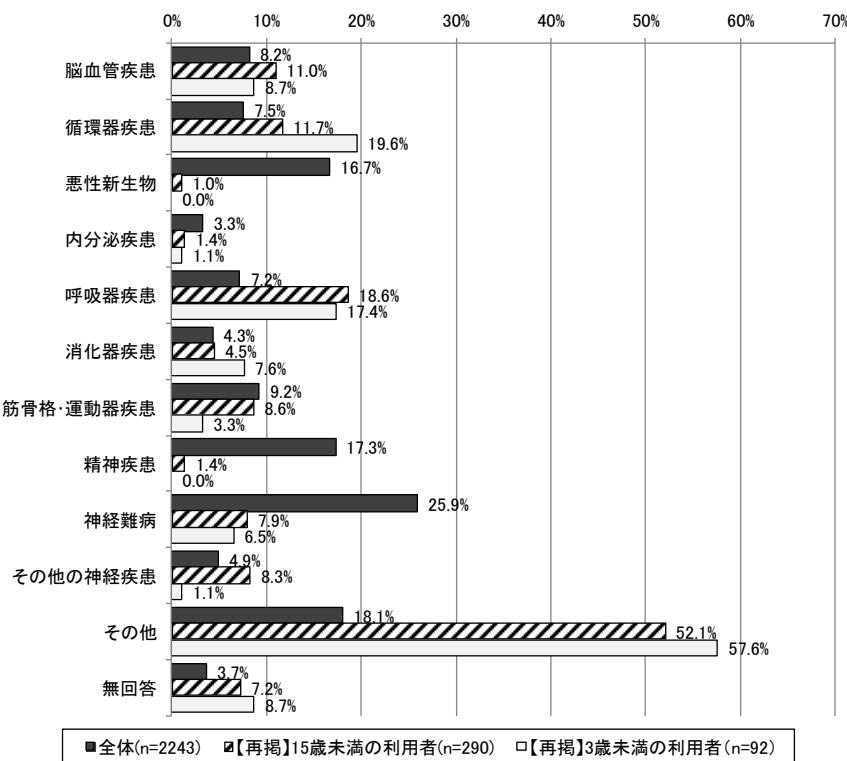
「15歳未満の利用者」では、「呼吸器疾患」が最も多かった。「3歳未満の利用者」では、「循環器疾患」が最も多かった。

図表 324 現在在宅療養を続いている原因の病名（複数回答）（事業所の種類別）



(注)「その他」の内容として、「染色体異常」、「先天性異常」、「HIV脳症」、「嚥下障害」、「急性脳症後遺症」、「重度褥瘡」、「事故後後遺症」、「廐用症候群」、「超低出生体重児」、「老衰」等が挙げられた。

図表 325 現在在宅療養を続いている原因の病医名（複数回答）（年齢別）

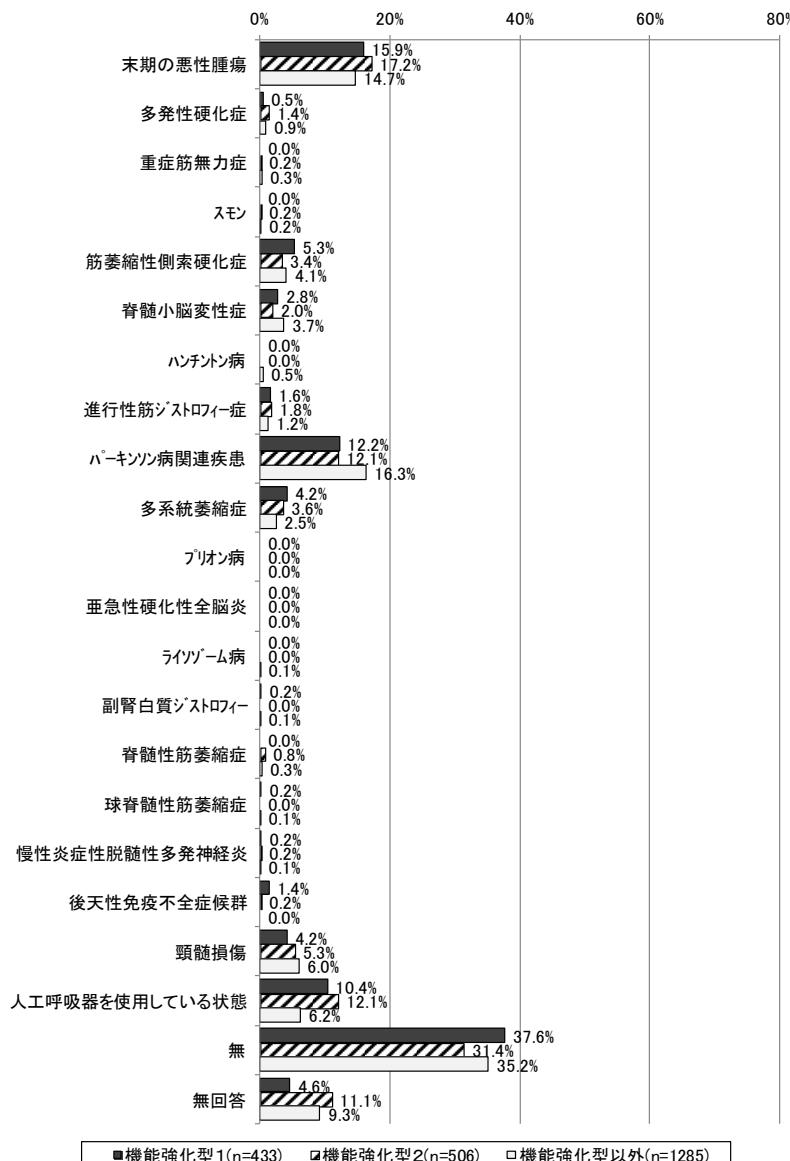


### 8) 別表第七の疾病等の該当の有無

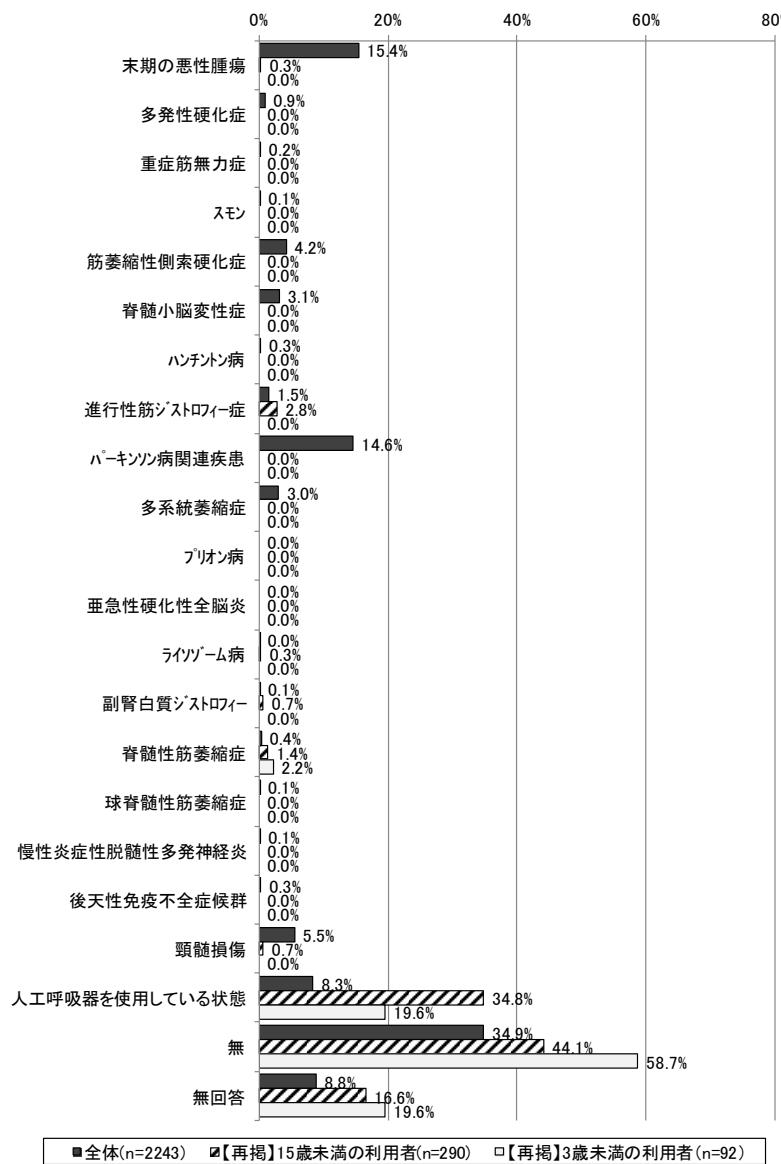
別表第七の疾病等の該当の有無についてみると、「機能強化型 1」では、「末期の悪性腫瘍」が 15.9%で最も多く、次いで「パーキンソン病関連疾患」(12.2%) であった。「機能強化型 2」では、「末期の悪性腫瘍」が 17.2%で最も多く、次いで「パーキンソン病関連疾患」、「人工呼吸器を使用している状態」(ともに 12.1%) であった。「機能強化型以外」では「パーキンソン病関連疾患」が 16.3%で最も多く、次いで「末期の悪性腫瘍」(14.7%) であった。

「15 歳未満の利用者」と「3 歳未満の利用者」では、いずれも「人工呼吸器を利用している状態」がそれぞれ 34.8%、19.6%で最も多かった。また、「無」の割合は「15 歳未満の利用者」が 44.1%、「3 歳未満の利用者」が 58.7%で、「全体」と比較するとその割合は高かった。

図表 326 別表第七の疾病等の該当の有無（複数回答）（事業所の種類別）



図表 327 別表第七の疾病等の該当の有無（複数回答）（年齢別）

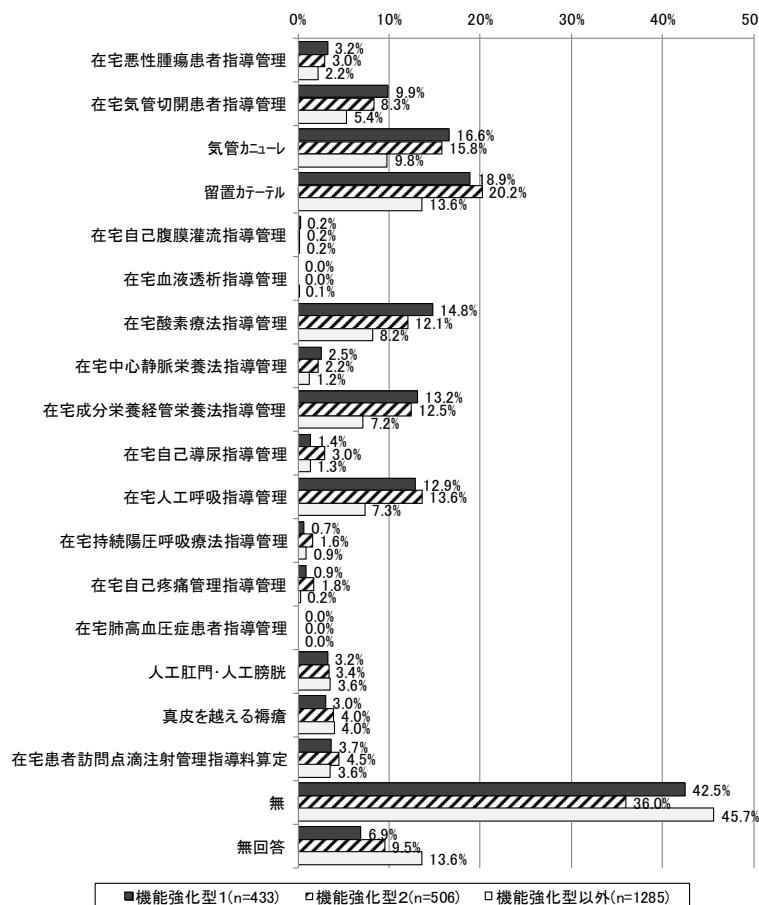


### 9) 別表第八に掲げる特別な管理の有無

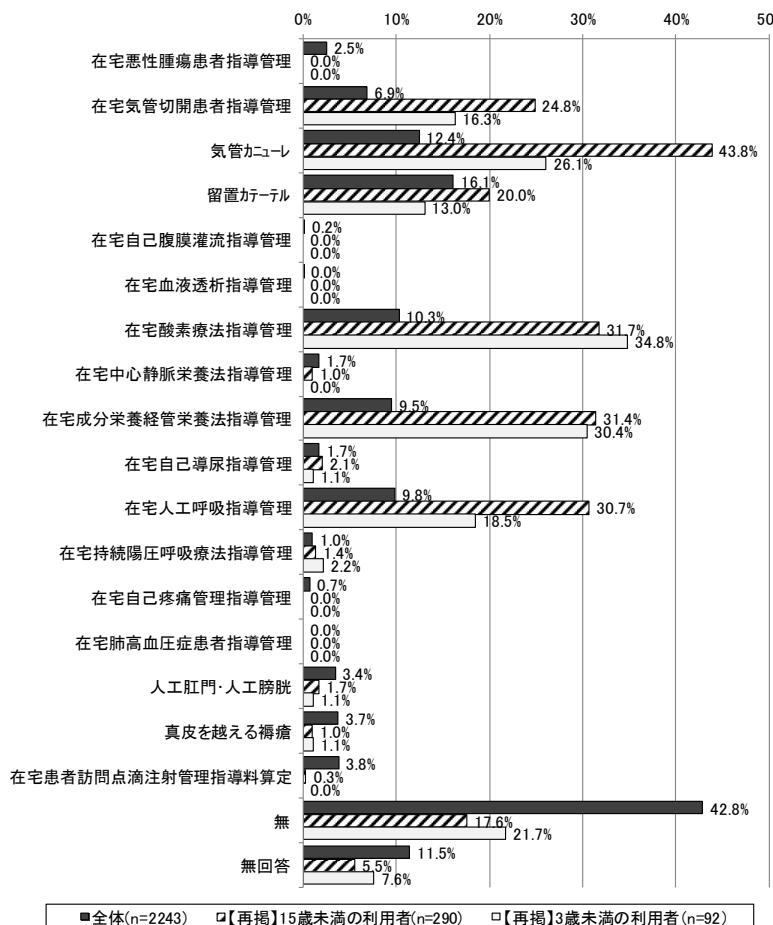
別表第八に掲げる特別な管理の有無についてみると、「機能強化型1」、「機能強化型2」、「機能強化型以外」のいずれも「留置カテーテル」がそれぞれ18.9%、20.2%、13.6%で最も多く、次いで「気管カニューレ」(16.6%、15.8%、9.8%)であった。

「15歳未満の利用者」では、「気管カニューレ」が43.8%で最も多く、次いで「在宅酸素療法指導管理」(31.7%)であった。「3歳未満の利用者」では、「在宅酸素療法指導管理」が34.8%で最も多く、次いで「在宅成分栄養経管栄養法指導管理」(30.4%)であった。また、「無」の割合は「15歳未満の利用者」が17.6%、「3歳未満の利用者」が21.7%で、「全体」と比較するとその割合は低かった。

図表 328 別表第八に掲げる特別な管理の有無（複数回答）（事業所の種類別）



図表 329 別表第八に掲げる特別な管理の有無（複数回答）（年齢別）

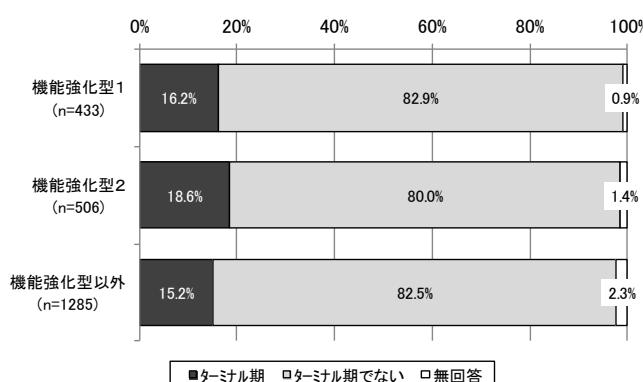


#### 10) ターミナル期かどうか

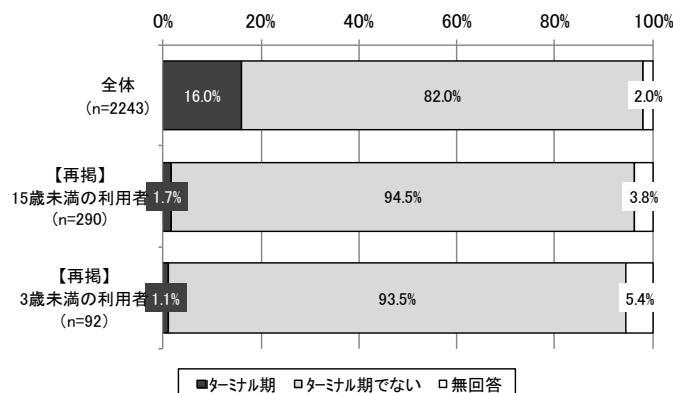
ターミナル期かどうかを尋ねたところ、「ターミナル期」の割合は、「機能強化型1」で16.2%、「機能強化型2」で18.6%、「機能強化型以外」で15.2%であった。

「15歳未満の利用者」と「3歳未満の利用者」のいずれも、ターミナル期の利用者はほとんどいなかった。

図表 330 ターミナル期かどうか（事業所の種類別）



図表 331 ターミナル期かどうか（年齢別）



図表 332 余命の見込み（ターミナル期の利用者）（事業所の種類別）

(単位：か月)

	利用者数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型 1	56	3.8	2.8	3.0
機能強化型 2	74	4.2	3.1	3.0
機能強化型以外	139	3.6	2.5	3.0

(注) 記載のあった利用者を集計対象とした。

図表 333 余命の見込み（ターミナル期の利用者）（年齢別）

(単位：か月)

	利用者数	平均値	標準偏差	中央値
全体	269	3.8	2.7	3.0
【再掲】15歳未満の利用者	2	6.0	-	6.0

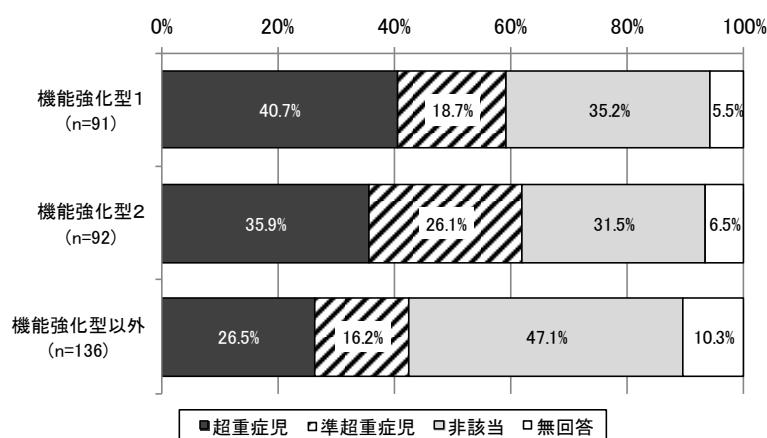
(注) 記載のあった利用者を集計対象とした。

### 11) 超重症児・準超重症児かどうか

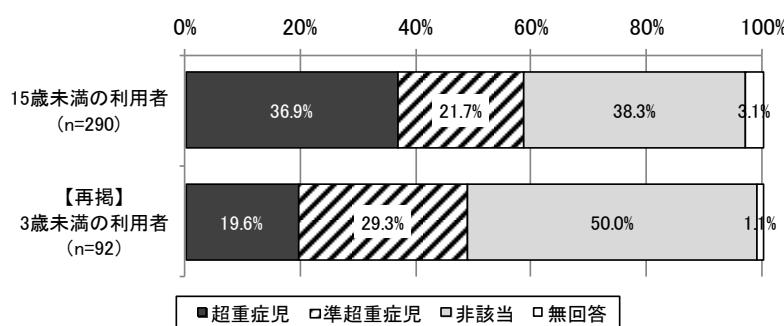
15歳未満の利用者について、超重症児・準超重症児かどうかを尋ねたところ、「機能強化型1」では「超重症児」が40.7%、「準超重症児」が18.7%であった。「機能強化型2」では「超重症児」が35.9%、「準超重症児」が26.1%であった。「機能強化型以外」では「超重症児」が26.5%、「準超重症児」が16.2%であった。「機能強化型1」と「機能強化型2」は、「超重症児」と「準超重症児」が占める割合が、「機能強化型以外」と比較すると高かった。

「15歳未満の利用者」全体では、「超重症児」が36.9%、「準超重症児」が21.7%であった。「3歳未満の利用者」では、「超重症児」が19.6%、「準超重症児」が29.3%であった。

図表 334 超重症児・準超重症児かどうか（15歳未満の利用者）（事業所の種類別）



図表 335 超重症児・準超重症児かどうか（15歳未満の利用者）（年齢別）

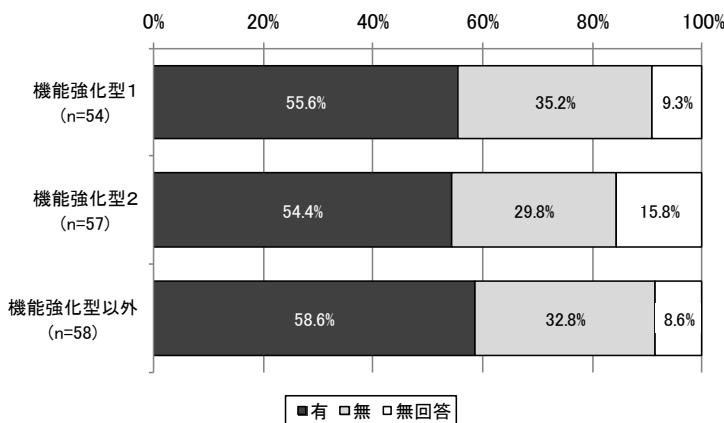


## 12) 特定相談事業者や障害児相談事業者との連携の有無

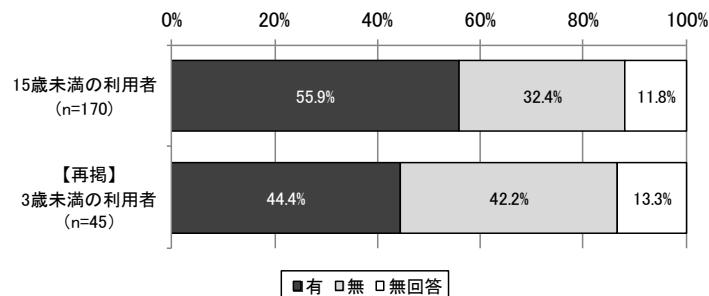
超重症児・準超重症児の利用者について、特定相談事業者や障害児相談事業者との連携の有無を尋ねたところ、「有」の割合は、「機能強化型1」が55.6%、「機能強化型2」が54.4%、「機能強化型以外」が58.6%であった。

「有」の割合は、「15歳未満の利用者」では55.9%、「3歳未満の利用者」では44.4%であった。

**図表 336 特定相談事業者や障害児相談事業者との連携の有無  
(超重症児・準超重症児の利用者) (事業所の種類別)**



**図表 337 特定相談事業者や障害児相談事業者との連携の有無  
(超重症児・準超重症児の利用者) (年齢別)**

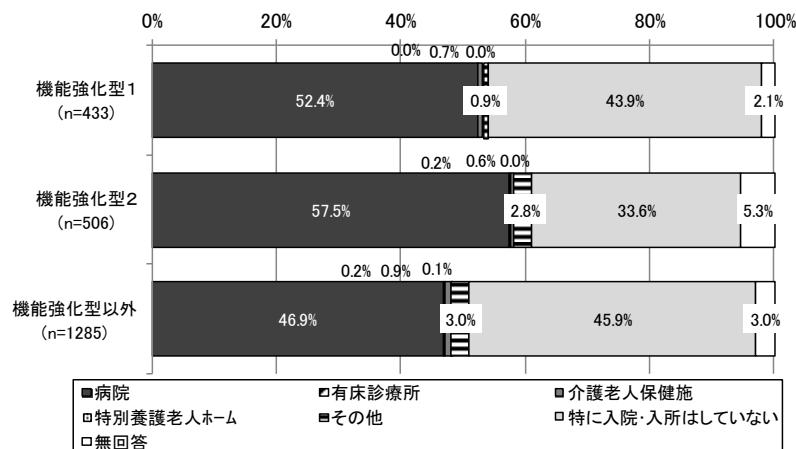


### 13) 在宅移行前の居場所

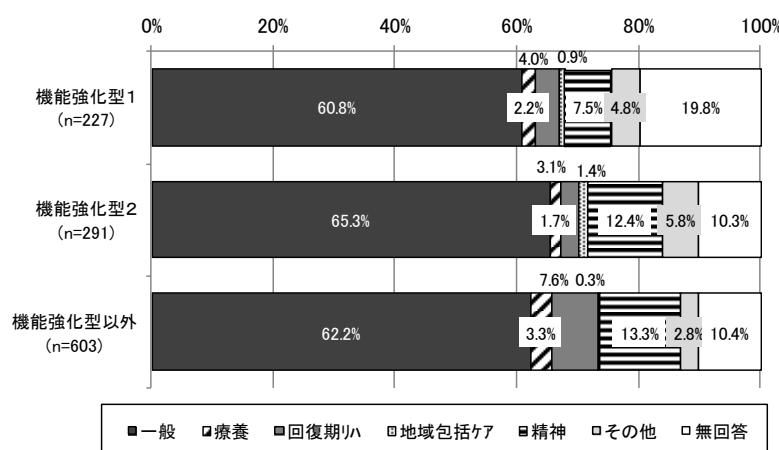
在宅移行前の居場所は、以下のとおりである。

在宅移行前に病院にいた利用者について、在宅移行前にいた病院の病床機能を尋ねたところ、「機能強化型1」、「機能強化型2」、「機能強化型以外」のいずれも「一般」病床が最も多く、次いで「精神」病床であった。

図表 338 在宅移行前の居場所（事業所の種類別）



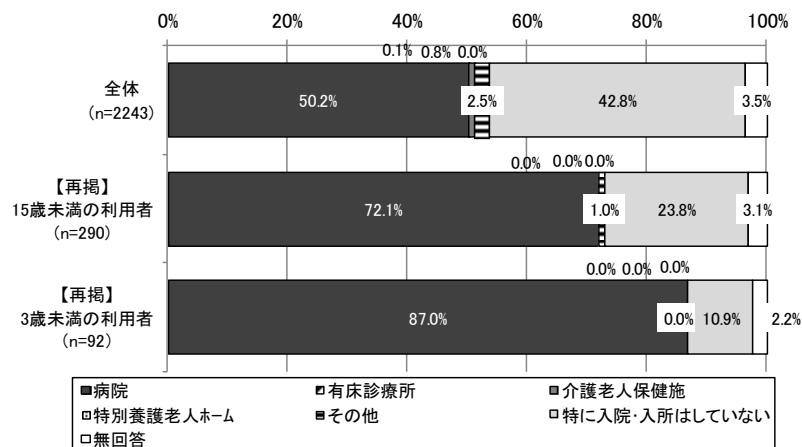
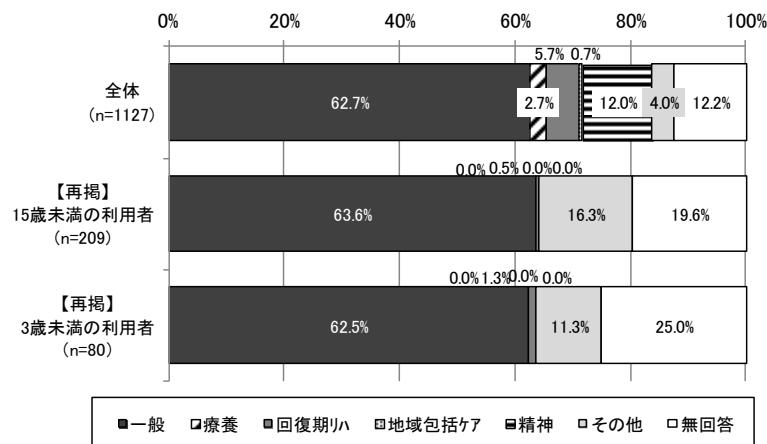
図表 339 在宅移行前にいた病院の病床機能（在宅移行前に病院にいた利用者）  
(事業所の種類別)



在宅移行前の居場所について年齢別にみると、「15歳未満の利用者」、「3歳未満の利用者」のいずれも「病院」が最も多く、「全体」と比較するとその割合は高かった。

在宅移行前に病院にいた利用者について、在宅移行前にいた病院の病床機能を尋ねたところ、「15歳未満の利用者」、「3歳未満の利用者」のいずれも「一般」病床が最も多かった。

図表 340 在宅移行前の居場所（年齢別）

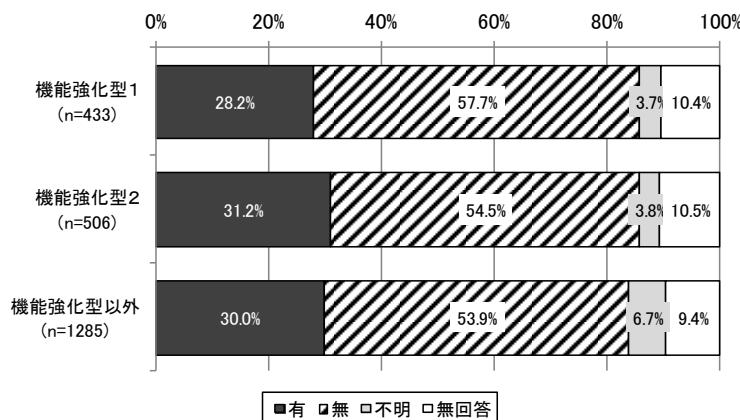
図表 341 在宅移行前にいた病院の病床機能（在宅移行前に病院にいた利用者）  
(年齢別)

#### 14) 直近の退院状況（半年以内）

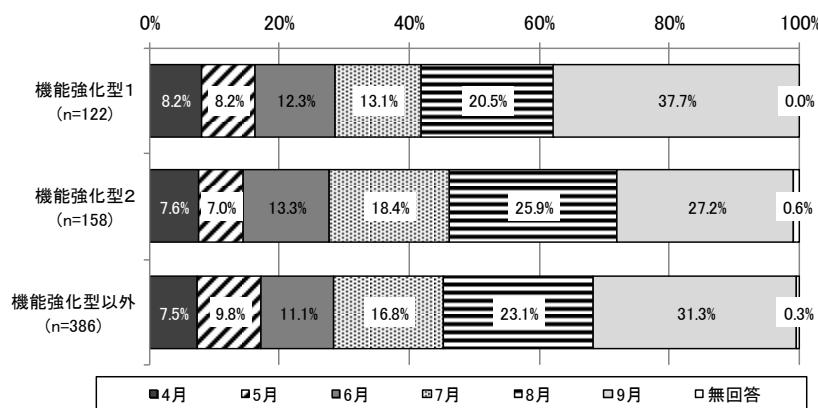
半年以内の退院状況について事業所の種類別にみると、「有」の割合は、「機能強化型1」が28.2%、「機能強化型2」が31.2%、「機能強化型以外」が30.0%であった。

半年以内に退院した利用者について、直近の退院時期を尋ねたところ、「機能強化型1」、「機能強化型2」、「機能強化型以外」のいずれも「9月」が最も多かった。

図表 342 直近の退院状況（半年以内）（事業所の種類別）



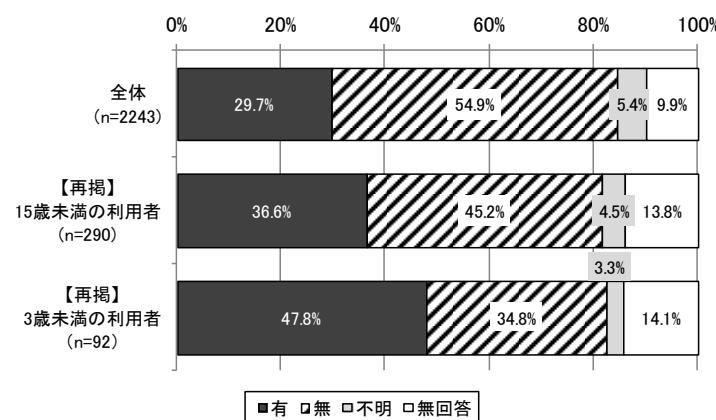
図表 343 直近の退院月（半年以内に退院した利用者）（事業所の種類別）



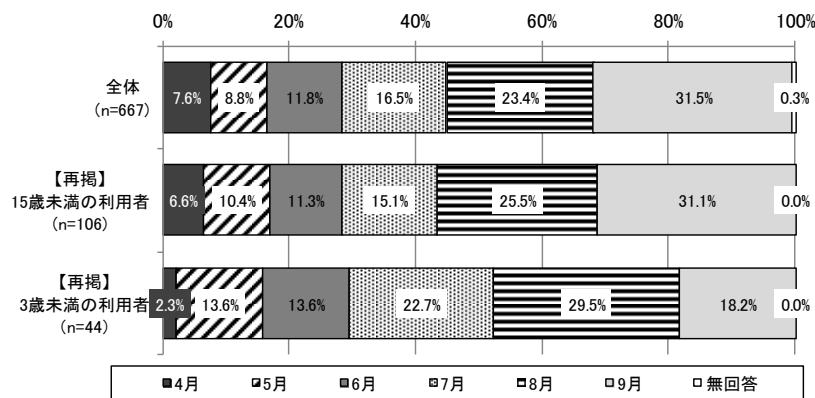
半年以内の退院状況について年齢別にみると、「有」の割合は、「15歳未満の利用者」では36.6%、「3歳未満の利用者」では47.8%であった。

半年以内に退院した利用者について、直近の退院時期を尋ねたところ、「15歳未満の利用者」では「9月」、「3歳未満の利用者」では「8月」が最も多かった。

図表 344 直近の退院状況（半年以内）（年齢別）



図表 345 直近の退院月（半年以内に退院した利用者）（年齢別）



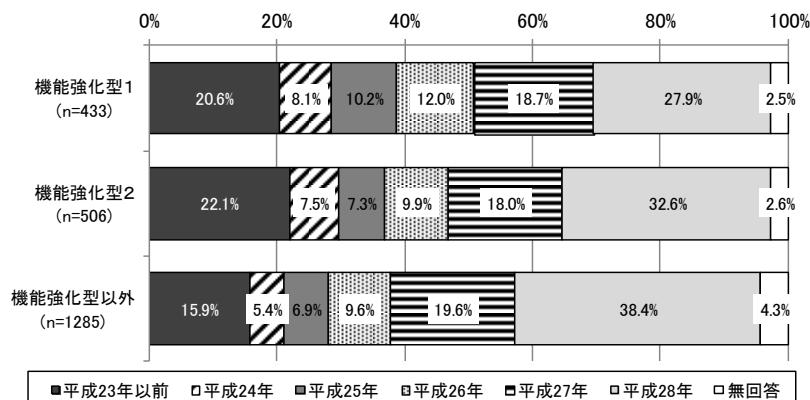
## ②訪問看護の提供状況等

### 1) 自事業所による訪問看護の開始時期

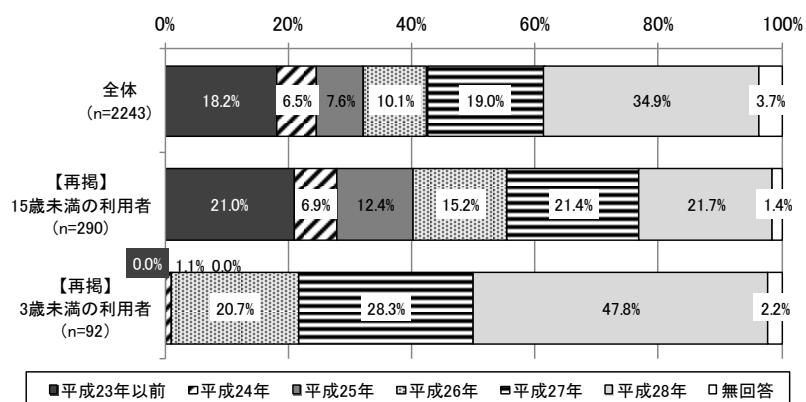
自事業所による訪問看護の開始時期についてみると、「機能強化型1」、「機能強化型2」、「機能強化型以外」のいずれも「平成28年」が最も多かった。

「15歳未満の利用者」、「3歳未満の利用者」のいずれも、「平成28年」が最も多かった。

図表 346 自事業所による訪問看護の開始時期（事業所の種類別）



図表 347 自事業所による訪問看護の開始時期（年齢別）

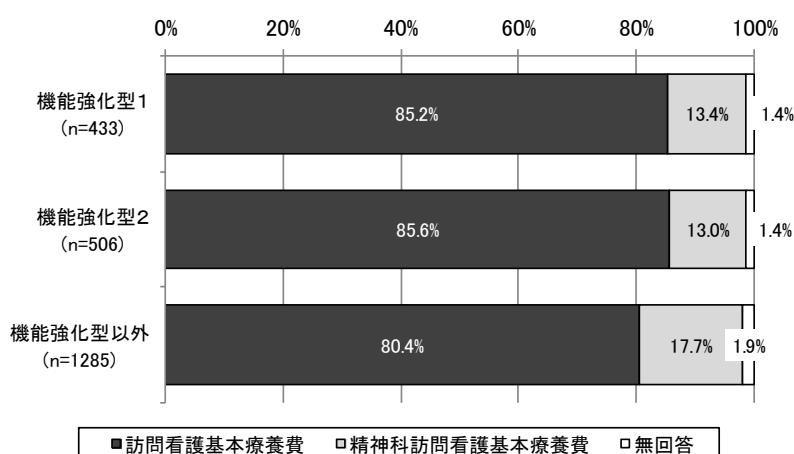


## 2) 訪問看護の種別

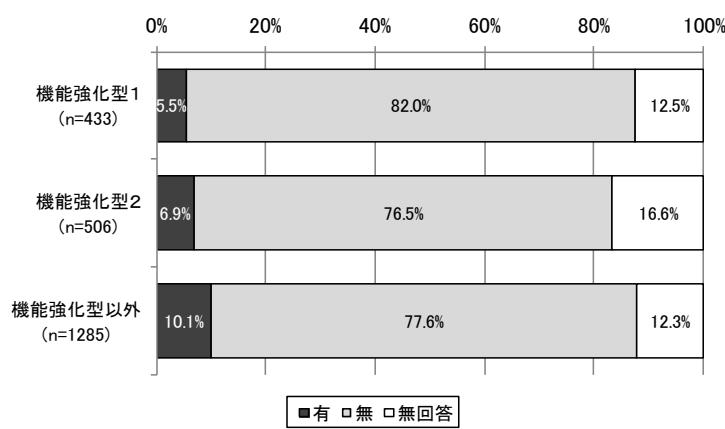
平成 28 年 9 月 1 か月間における訪問看護の種別についてみると、「機能強化型 1」、「機能強化型 2」、「機能強化型以外」のいずれも、「訪問看護基本療養費」が 8 割以上であった。

訪問看護基本療養費 II または精神科訪問看護基本療養費 III の算定の有無についてみると、「有」の割合は、「機能強化型 1」が 5.5%、「機能強化型 2」が 6.9%、「機能強化型以外」が 10.1% であった。

図表 348 訪問看護の種別（平成 28 年 9 月 1 か月間）（事業所の種類別）



図表 349 訪問看護基本療養費 II または精神科訪問看護基本療養費 III の算定の有無  
(事業所の種類別)

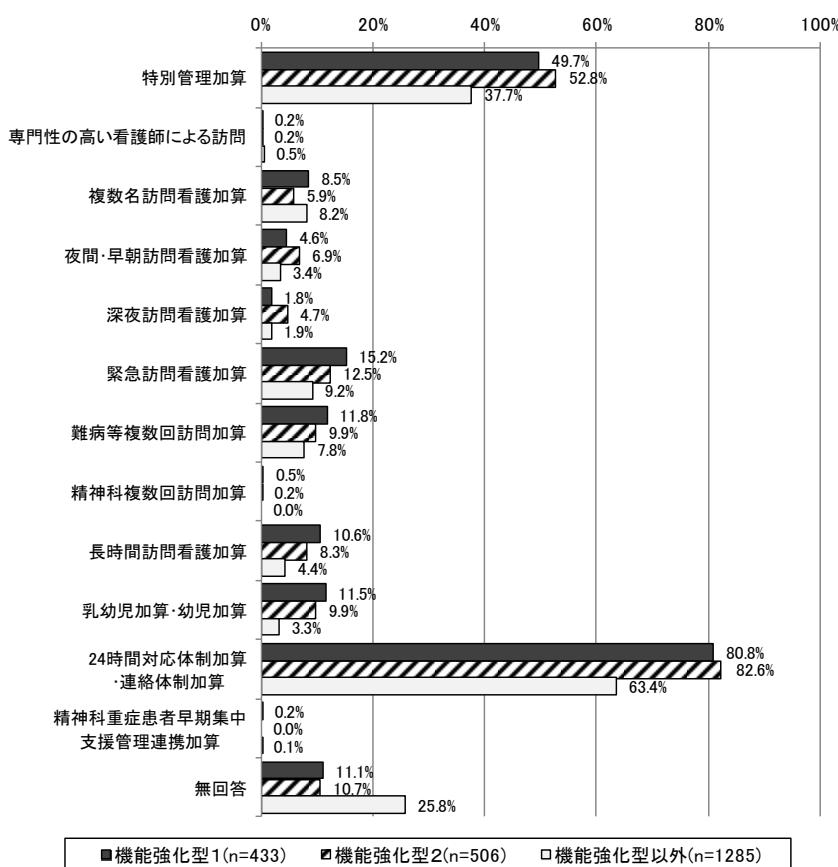


### 3) 訪問看護の加算等の状況

訪問看護の加算の状況についてみると、「機能強化型 1」、「機能強化型 2」、「機能強化型以外」のいずれも、「24 時間対応体制加算・連絡体制加算」がそれぞれ 80.8%、82.6%、63.4%で最も多く、次いで「特別管理加算」(49.7%、52.8%、37.7%) であった。

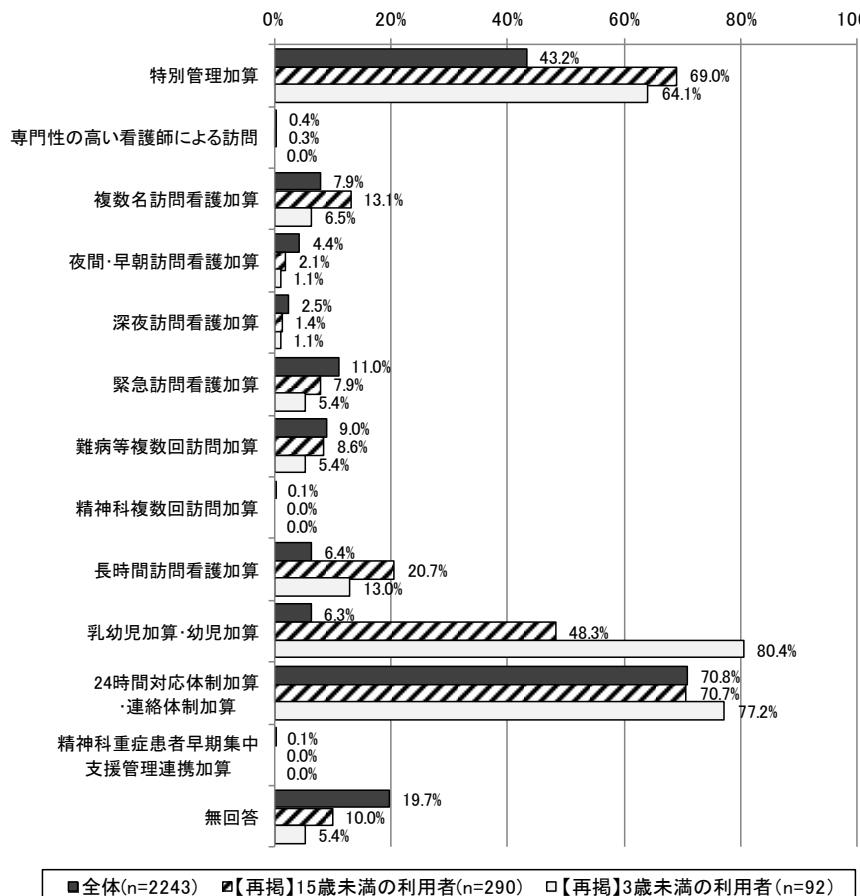
「15 歳未満の利用者」では、「24 時間対応体制加算・連絡体制加算」が 70.7%で最も多く、次いで「特別管理加算」(69.0%)、「乳幼児加算・幼児加算」(48.3%) であった。「3 歳未満の利用者」では、「乳幼児加算・幼児加算」が 80.4%で最も多く、次いで「24 時間対応体制加算・連絡体制加算」(77.2%)、「特別管理加算」(64.1%) であった。

図表 350 訪問看護の加算等の状況（平成 28 年 9 月 1 か月間、複数回答）（事業所の種類別）



(注) 「専門性の高い看護師による訪問」があった場合の看護師は、「機能強化型 1」では「緩和ケア」(1 件)、「機能強化型 2」では「無回答」(1 件)、「機能強化型以外」では「緩和ケア」(3 件)、「褥瘡ケア」(3 件)、「無回答」(1 件) であった。

図表 351 訪問看護の加算等の状況（平成 28 年 9 月 1 か月間、複数回答）（年齢別）

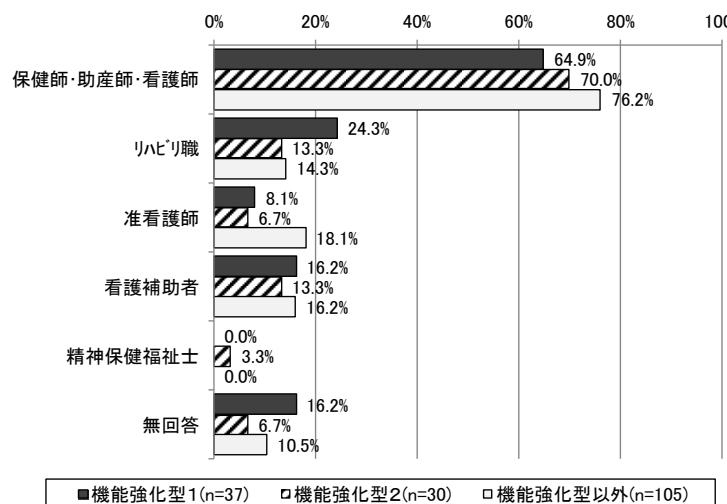


(注) 「専門性の高い看護師による訪問」があつた場合の訪問看護師は、「15歳未満の利用者」では「緩和ケア」(1件) であつた。

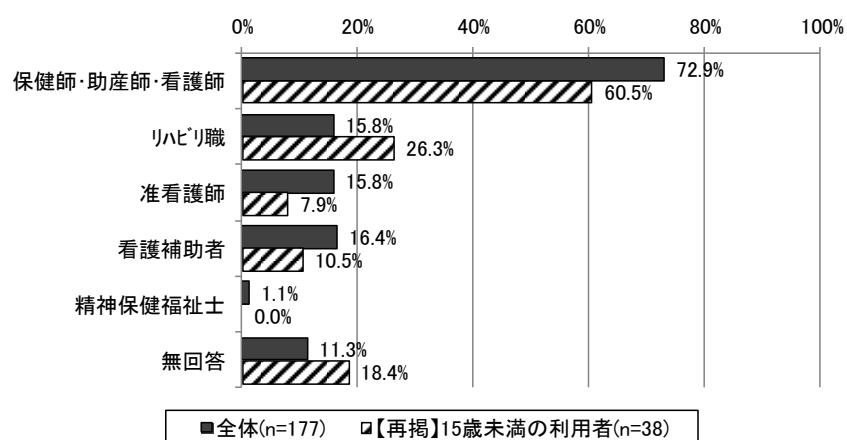
複数名訪問看護加算を算定している利用者について、複数名訪問看護加算での訪問職種を尋ねたところ、「機能強化型1」、「機能強化型2」、「機能強化型以外」のいずれも、「保健師・助産師・看護師」が最も多かった。

「15歳未満の利用者」では、「保健師・助産師・看護師」が最も多く、「全体」と比較すると「リハビリ職」の割合が高かった。

**図表 352 複数名訪問看護加算での訪問職種  
(複数名訪問看護加算を算定している利用者、複数回答) (事業所の種類別)**



**図表 353 複数名訪問看護加算での訪問職種  
(複数名訪問看護加算を算定している事業所、複数回答) (年齢別)**



(注)「3歳未満の利用者」では、該当する利用者が6人で「保健師・助産師・看護師」(2件)、「リハビリ職」(1件)、「准看護師」(1件)、「無回答」(3件)であった。

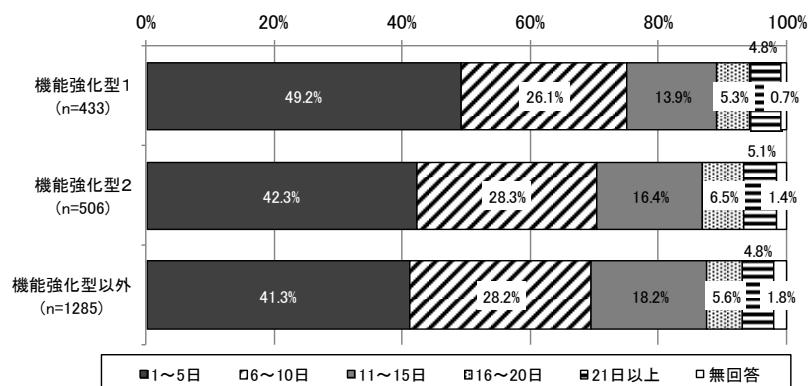
#### 4) 訪問日数

平成28年9月1か月間の訪問日数についてみると、「機能強化型1」、「機能強化型2」、「機能強化型以外」のいずれも、「1~5日」がそれぞれ49.2%、42.3%、41.3%で最も多かった。平均訪問

日数についてみると、「機能強化型1」では平均7.6日（中央値6.0）、「機能強化型2」では平均8.2日（中央値7.0）、「機能強化型以外」では平均8.4日（中央値7.0）であった。

「15歳未満の利用者」、「3歳未満の利用者」のいずれも、「1～5日」がそれぞれ49.3%、54.3%で最も多かった。平均訪問日数についてみると、「15歳未満の利用者」では平均6.7日（中央値5.0）、「3歳未満の利用者」では平均6.5日（中央値5.0）で、「全体」と比較すると少なかった。

図表 354 訪問日数（平成28年9月1か月間）（事業所の種類別）

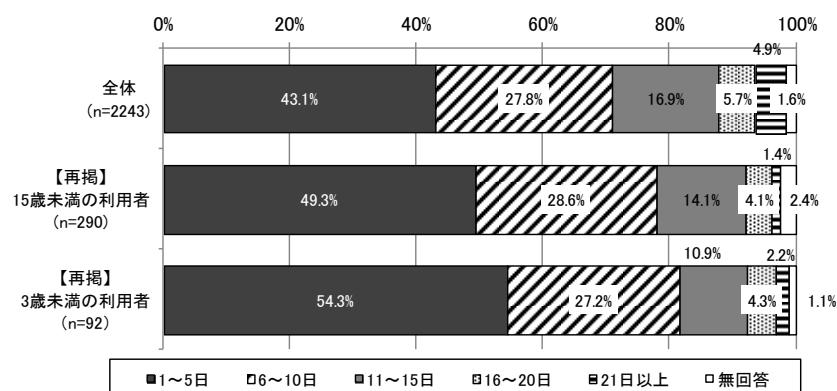


(単位：日)

	利用者数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型1	430	7.6	5.8	6.0
機能強化型2	499	8.2	6.1	7.0
機能強化型以外	1,262	8.4	6.1	7.0

(注) 記載のあった利用者を集計対象とした。

図表 355 訪問日数（平成28年9月1か月間）（年齢別）



(単位：日)

	利用者数	平均値	標準偏差	中央値
全体	2,207	8.2	6.0	7.0
【再掲】15歳未満の利用者	283	6.7	4.8	5.0
【再掲】3歳未満の利用者	91	6.5	5.1	5.0

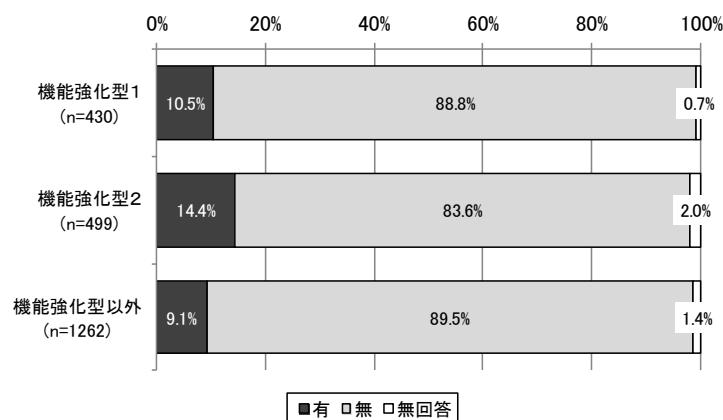
(注) 記載のあった利用者を集計対象とした。

## 5) 緊急訪問の状況

平成 28 年 9 月 1 か月間の緊急訪問の有無についてみると、「有」の割合は、「機能強化型 1」が 10.5%、「機能強化型 2」が 14.4%、「機能強化型以外」が 9.1% であった。

「15 歳未満の利用者」、「3 歳未満の利用者」では、緊急訪問はほとんどなかった。

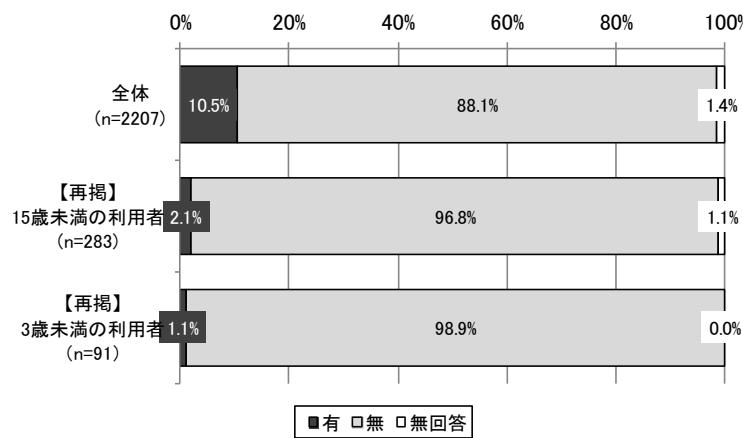
図表 356 緊急訪問の有無（平成 28 年 9 月 1 か月間）（事業所の種類別）



(注) ・訪問日数について記入があった利用者に尋ねている。

・緊急訪問の理由として、「カテーテルトラブル」、「カニューレトラブル」、「意識レベル低下」、「痛み」、「嘔吐」、「吸引」、「急性増悪」、「血圧低下」、「血便・下血」、「呼吸困難」、「脱水」、「点滴もれ」、「転倒」、「尿管の閉塞」、「発熱」、「不眠・せん妄」、「看取り」、「心臓停止」等が挙げられた。

図表 357 緊急訪問の有無（平成 28 年 9 月 1 か月間）（年齢別）

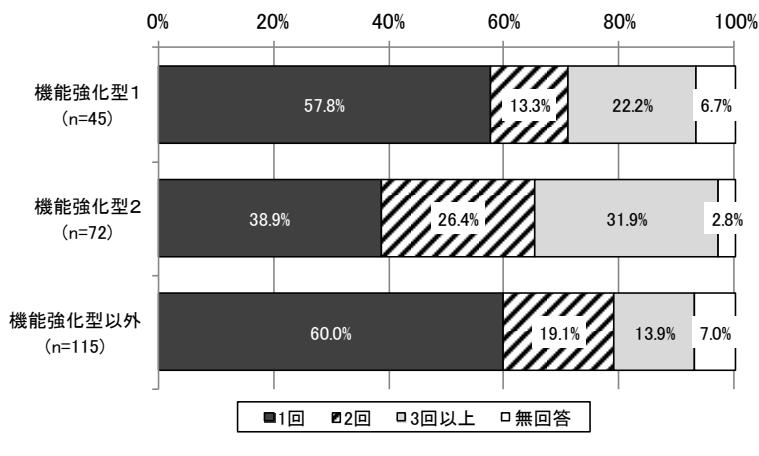


(注) 訪問日数について記入があった利用者に尋ねている。

平成 28 年 9 月 1 か月間に緊急訪問があった利用者について、緊急訪問の回数を尋ねたところ、「機能強化型 1」、「機能強化型 2」、「機能強化型以外」のいずれも、「1 回」がそれぞれ 57.8%、38.9%、60.0% で最も多かった。平均回数についてみると、「機能強化型 1」では平均 1.9 回（中央値 1.0）、「機能強化型 2」では平均 2.8 回（中央値 2.0）、「機能強化型以外」では平均 1.7 回（中央値 1.0）であった。

「15歳未満の利用者」では「1回」が66.7%で最も多く、平均1.8回（中央値1.0）であった。

図表 358 緊急訪問の回数（平成28年9月1か月間、緊急訪問があった利用者）  
(事業所の種類別)

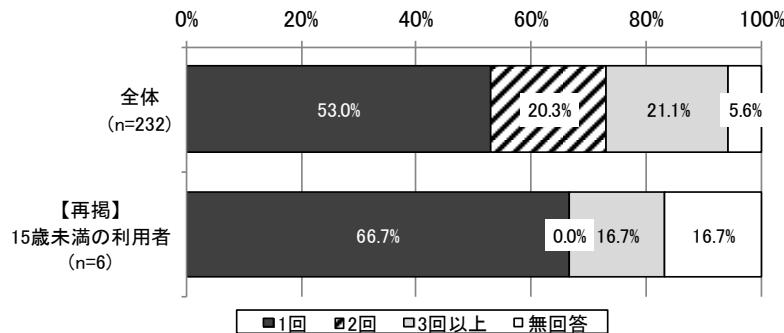


(単位：回)

	利用者数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型1	42	1.9	1.6	1.0
機能強化型2	70	2.8	3.1	2.0
機能強化型以外	107	1.7	1.2	1.0

（注）記載のあった利用者を集計対象とした。

図表 359 緊急訪問の回数（平成28年9月1か月間、緊急訪問があった利用者）  
(年齢別)



（注）「3歳未満の利用者」では、該当する利用者が1人で「1回」であった。

(単位：回)

	利用者数	平均値	標準偏差	中央値
全体	219	2.1	2.1	1.0
【再掲】15歳未満の利用者	5	1.8	1.8	1.0

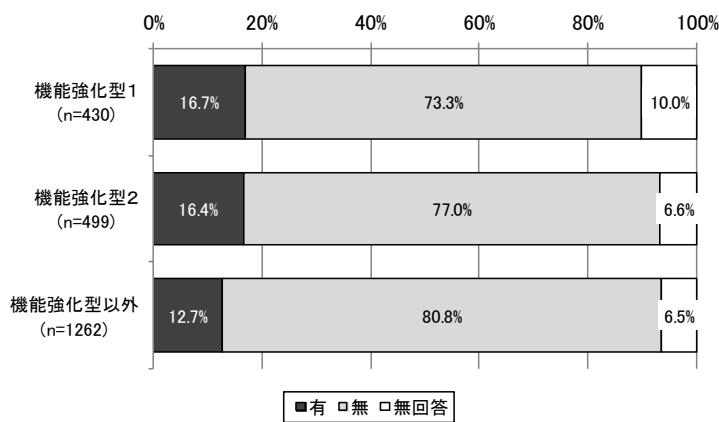
（注）記載のあった利用者を集計対象とした。

## 6) 1日に複数回の訪問を行った状況

平成 28 年 9 月 1 か月間における 1 日に複数回の訪問を行った日の有無についてみると、「有」の割合は、「機能強化型 1」が 16.7%、「機能強化型 2」が 16.4%、「機能強化型以外」が 12.7% であった。

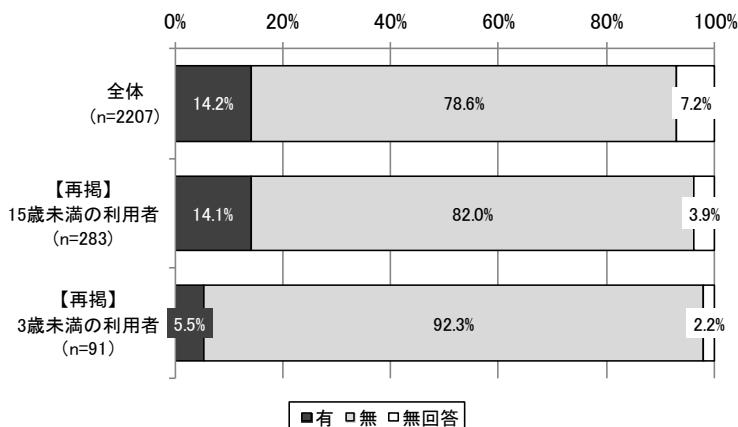
「15 歳未満の利用者」では 14.1%、「3 歳未満の利用者」では 5.5% であった。

図表 360 1日に複数回の訪問を行った日の有無（平成 28 年 9 月 1 か月間）  
(事業所の種類別)



(注) 訪問日数について記入があった利用者に尋ねている。

図表 361 1日に複数回の訪問を行った日の有無（平成 28 年 9 月 1 か月間）（年齢別）

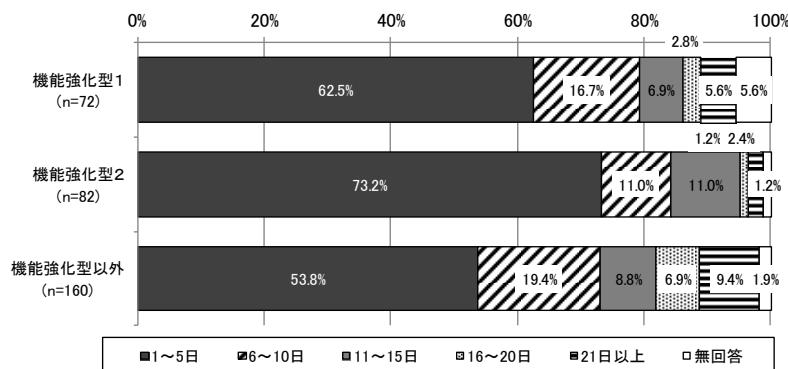


(注) 訪問日数について記入があった利用者に尋ねている。

平成 28 年 9 月 1 か月間に、1 日に複数回の訪問を行った利用者について、1 日に複数回の訪問を行った日数を尋ねたところ、「機能強化型 1」、「機能強化型 2」、「機能強化型以外」のいずれも、「1～5 日」がそれぞれ 62.5%、73.2%、53.8% で最も多かった。1 日に複数回の訪問を行った日数の平均値についてみると、「機能強化型 1」では平均 6.1 日（中央値 4.0）、「機能強化型 2」では平均 4.9 日（中央値 3.0）、「機能強化型以外」では平均 7.8 日（中央値 5.0）であった。

「15 歳未満の利用者」では「1～5 日」が 75.0% で最も多く、平均 3.8 日（中央値 3.0）であった。

図表 362 1 日に複数回の訪問を行った日数（平成 28 年 9 月 1 か月間、1 日に複数回の訪問を行った利用者）（事業所の種類別）

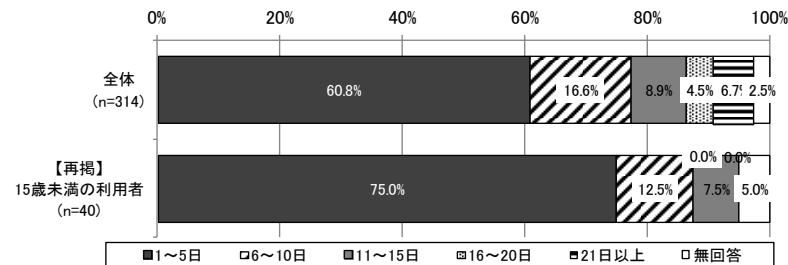


(単位：日)

	利用者数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型 1	68	6.1	6.4	4.0
機能強化型 2	81	4.9	5.5	3.0
機能強化型以外	157	7.8	8.2	5.0

(注) 記載のあった利用者を集計対象とした。

図表 363 1 日に複数回の訪問を行った日数（平成 28 年 9 月 1 か月間、1 日に複数回の訪問を行った利用者）（年齢別）



(注) 「3 歳未満の利用者」では、該当する利用者が 5 人で「1～5 日」(3 件)、「6～10 日」(1 件)、「無回答」(1 件) であった。

(単位：日)

	利用者数	平均値	標準偏差	中央値
全体	306	6.7	7.2	4.0
【再掲】15 歳未満の利用者	38	3.8	3.2	3.0

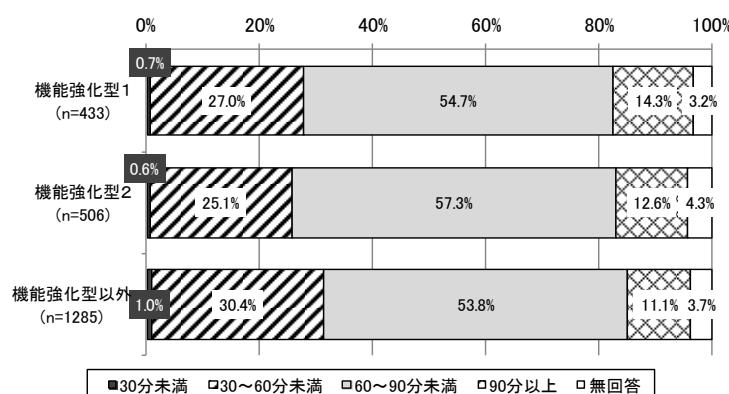
(注) 記載のあった利用者を集計対象とした。

## 7) 直近の1回の訪問時間

直近の1回の訪問時間についてみると、「機能強化型1」、「機能強化型2」、「機能強化型以外」のいずれも、「60～90分未満」がそれぞれ54.7%、57.3%、53.8%で最も多かった。平均訪問時間についてみると、「機能強化型1」では平均61.0分（中央値60.0）、「機能強化型2」では平均60.5分（中央値60.0）、「機能強化型以外」では平均57.8分（中央値60.0）であった。

「15歳未満の利用者」、「3歳未満の利用者」のいずれも、「60～90分未満」がそれぞれ57.2%、59.8%で最も多く、平均訪問時間はそれぞれ平均68.3分（中央値60.0）、平均65.3分（中央値60.0）で「全体」と比較すると長かった。

図表 364 直近の1回の訪問時間（事業所の種類別）



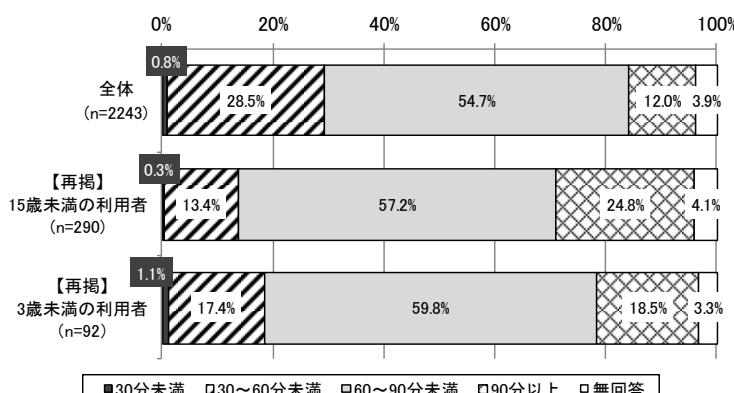
(注) 移動時間は含めない。

(単位：分)

	利用者数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型1	419	61.0	20.3	60.0
機能強化型2	484	60.5	25.1	60.0
機能強化型以外	1,237	57.8	23.3	60.0

(注) 記載のあった利用者を集計対象とした。

図表 365 直近の1回の訪問時間（年齢別）



(注) 移動時間は含めない。

(単位：分)

	利用者数	平均値	標準偏差	中央値
全体	2,155	59.0	23.2	60.0
【再掲】15歳未満の利用者	278	68.3	20.7	60.0
【再掲】3歳未満の利用者	89	65.3	20.7	60.0

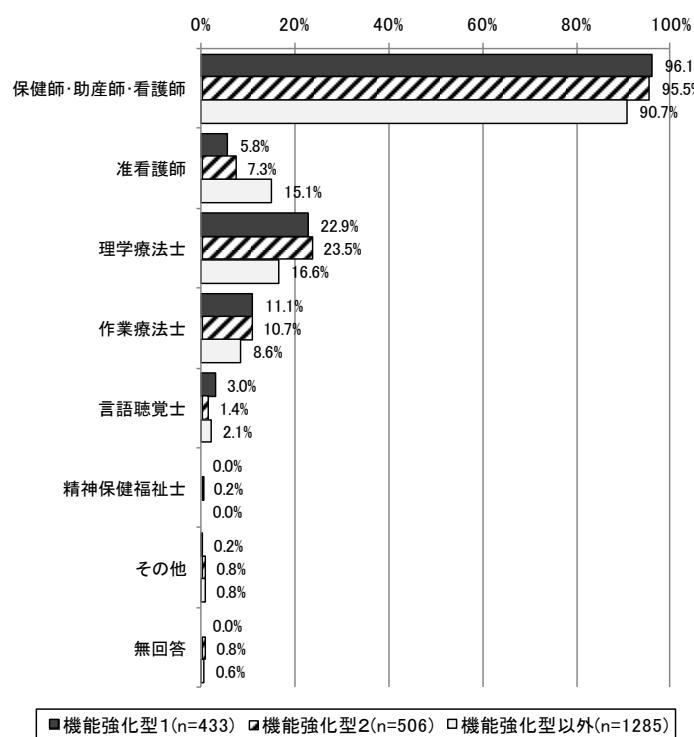
(注) 記載のあった利用者を集計対象とした。

## 8) 提供する職員の職種

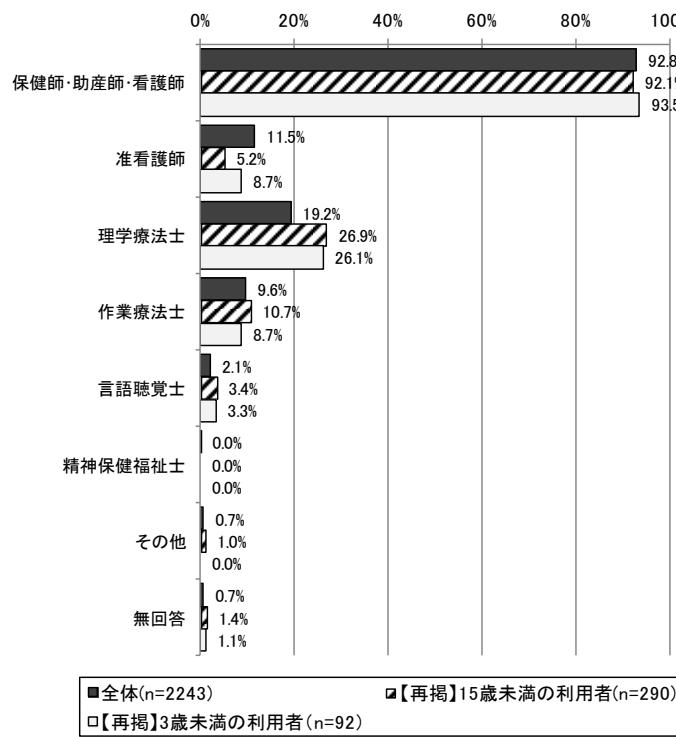
提供する職員の職種についてみると、「機能強化型1」、「機能強化型2」、「機能強化型以外」のいずれも、「保健師・助産師・看護師」がそれぞれ96.1%、95.5%、90.7%で最も多かった。「機能強化型以外」では、「准看護師」の割合が「機能強化型1」、「機能強化型2」と比較すると相対的に高かった。

「15歳未満の利用者」、「3歳未満の利用者」のいずれも、「保健師・助産師・看護師」がそれぞれ92.1%、93.5%で最も多かった。また、「理学療法士」の割合がそれぞれ26.9%、26.1%で「全体」と比較すると高かった。

図表 366 提供する職員の職種（平成28年9月1か月間、複数回答）（事業所の種類別）



図表 367 提供する職員の職種（平成 28 年 9 月 1 か月間、複数回答）（年齢別）

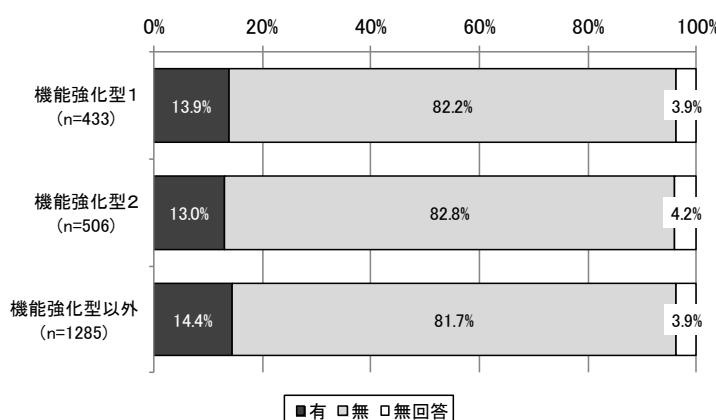


#### 9) 自事業所以外の施設・事業所からの訪問看護の提供状況

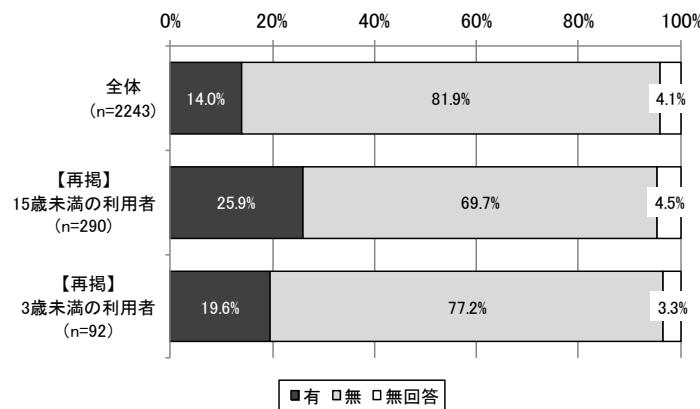
自事業所以外に訪問看護を提供する施設・事業所の有無についてみると、「有」の割合は、「機能強化型 1」が 13.9%、「機能強化型 2」が 13.0%、「機能強化型以外」が 14.4%であった。

「15 歳未満の利用者」では 25.9%、「3 歳未満の利用者」では 19.6%であった。

図表 368 自事業所以外に訪問看護を提供する施設・事業所の有無（事業所の種類別）



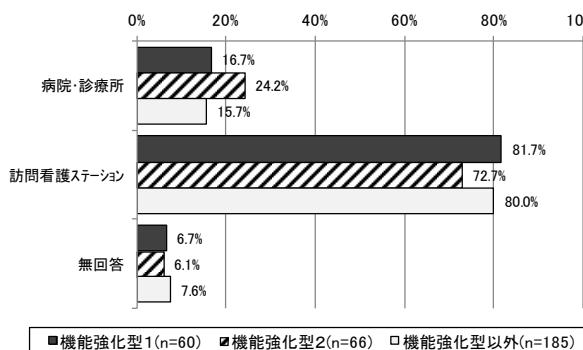
図表 369 自事業所以外に訪問看護を提供する施設・事業所の有無（年齢別）



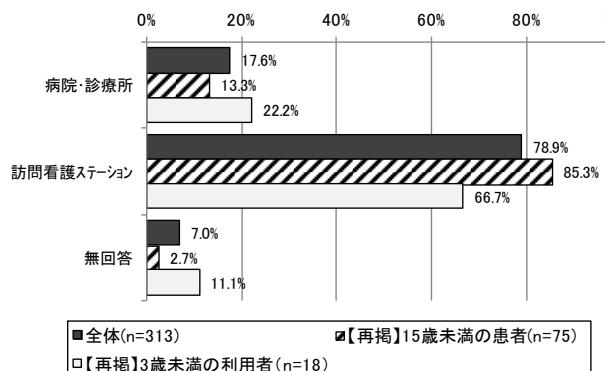
自事業所以外に訪問看護を提供する施設・事業所がある利用者について、訪問看護を提供している主体を尋ねたところ、「機能強化型1」、「機能強化型2」、「機能強化型以外」のいずれも、「訪問看護ステーション」がそれぞれ81.7%、72.7%、80.0%で最も多かった。

「15歳未満の利用者」、「3歳未満の利用者」のいずれも、「訪問看護ステーション」がそれぞれ85.3%、66.7%で最も多かった。

図表 370 自事業所以外に訪問看護を提供している主体（自事業所以外に訪問看護を提供する施設・事業所がある利用者、複数回答）（事業所の種類別）



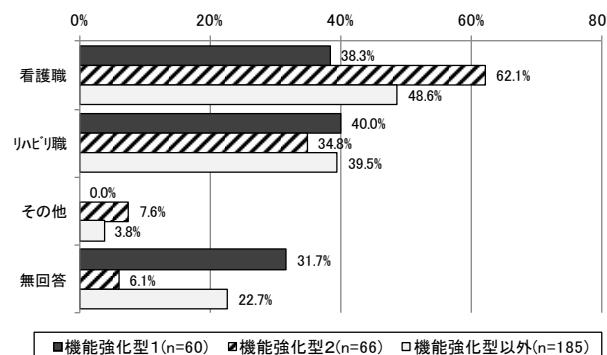
図表 371 自事業所以外に訪問看護を提供している主体（自事業所以外に訪問看護を提供する施設・事業所がある利用者、複数回答）（年齢別）



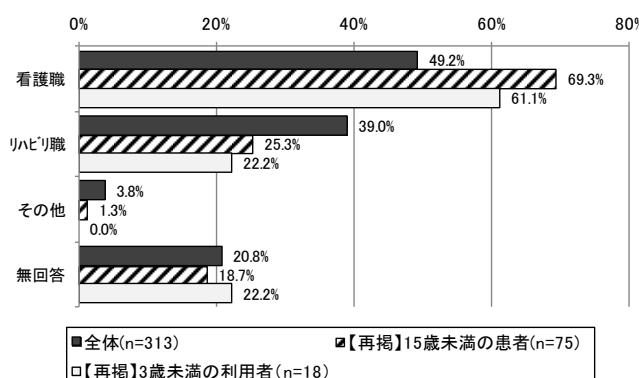
自事業所以外に訪問看護を提供する施設・事業所がある利用者について、事業所以外に訪問看護を提供している施設・事業所からの訪問者の職種を尋ねたところ、「機能強化型1」では「リハビリ職」が40.0%で最も多かった。「機能強化型2」、「機能強化型以外」では、「看護職」がそれぞれ62.1%、48.6%で最も多かった。

「15歳未満の利用者」、「3歳未満の利用者」のいずれも、「看護職」がそれぞれ69.3%、61.1%で最も多く、「全体」と比較するとその割合が高かった。

図表 372 自事業所以外に訪問看護を提供している施設・事業所からの訪問者の職種（自事業所以外に訪問看護を提供する施設・事業所がある利用者、複数回答）（事業所の種類別）



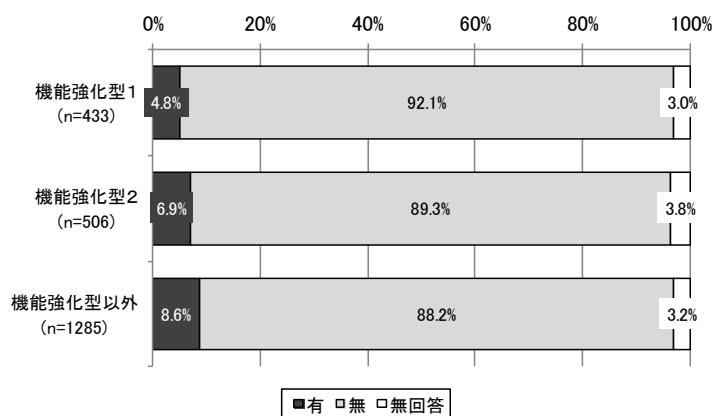
図表 373 自事業所以外に訪問看護を提供している施設・事業所からの訪問者の職種（自事業所以外に訪問看護を提供する施設・事業所がある利用者、複数回答）（年齢別）



## 10) 特別訪問看護指示書（精神科含む）の交付状況

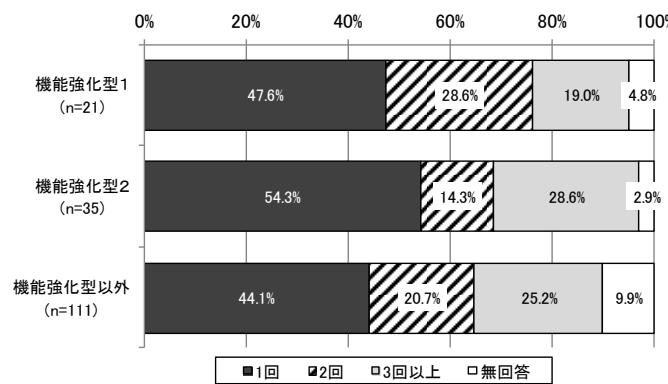
特別訪問看護指示書（精神科含む）の交付の有無についてみると、「有」の割合は、「機能強化型1」が4.8%、「機能強化型2」が6.9%、「機能強化型以外」が8.6%であった。

図表 374 特別訪問看護指示書（精神科含む）の交付の有無（平成28年4月～9月）  
(事業所の種類別)



特別訪問看護指示書（精神科含む）の交付があった利用者について、交付回数を尋ねたところ、「機能強化型1」、「機能強化型2」、「機能強化型以外」のいずれも、「1回」が最も多かった。平均交付回数についてみると、「機能強化型1」では平均2.5回（中央値1.5）、「機能強化型2」では平均2.6回（中央値1.0）、「機能強化型以外」では平均2.8回（中央値2.0）であった。

図表 375 特別訪問看護指示書（精神科含む）の交付回数  
(平成28年4月～9月、交付があった利用者) (事業所の種類別)



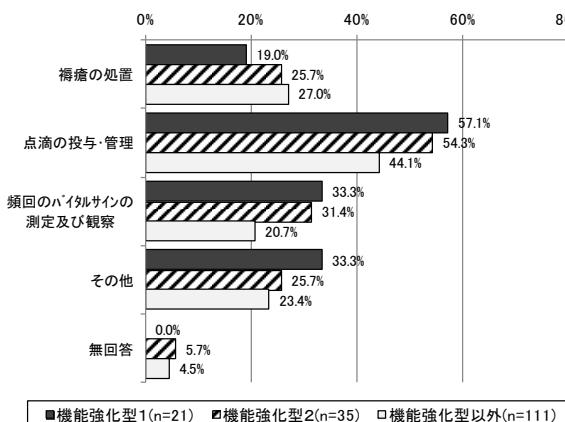
(単位：回)

	利用者数	平均値	標準偏差	中央値
機能強化型1	20	2.5	2.6	1.5
機能強化型2	34	2.6	2.6	1.0
機能強化型以外	100	2.8	3.1	2.0

(注) 記載のあった利用者を集計対象とした。

特別訪問看護指示書（精神科含む）の交付があった利用者について、特別訪問看護指示書の指示の内容を尋ねたところ、「機能強化型1」、「機能強化型2」、「機能強化型以外」のいずれも、「点滴の投与・管理」がそれぞれ57.1%、54.3%、44.1%で最も多かった。

**図表 376 特別訪問看護指示書（精神科含む）の指示の内容**  
 (平成28年4月～9月、交付があった利用者、複数回答) (事業所の種類別)

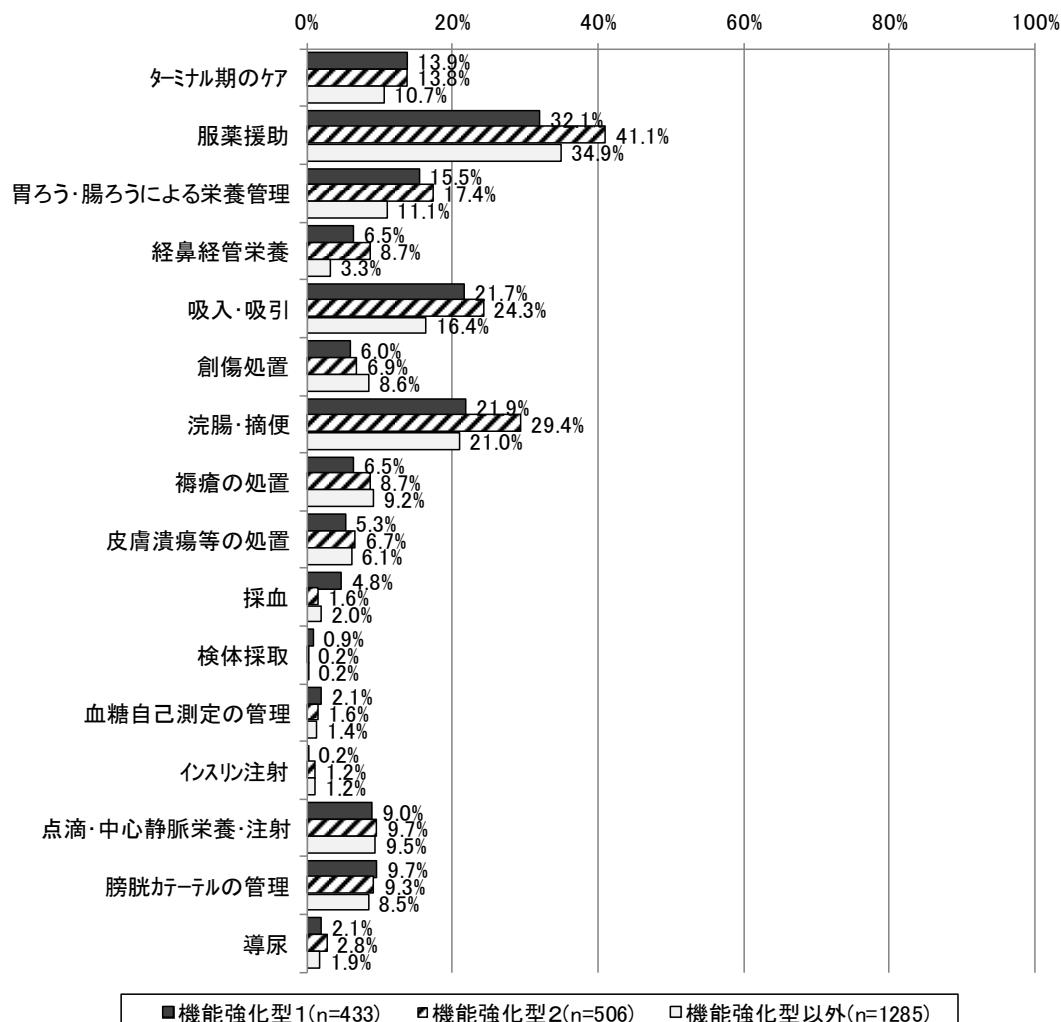


(注)「その他」の内容として、「胃ろう管理」、「人工呼吸器の管理」、「カテーテル管理」、「気管切開カニューレ管理」、「痰の吸引」、「排便コントロール」、「薬物療法継続への援助」、「熱傷の処置」、「麻薬の管理、投与」、「リハビリ」等が挙げられた。

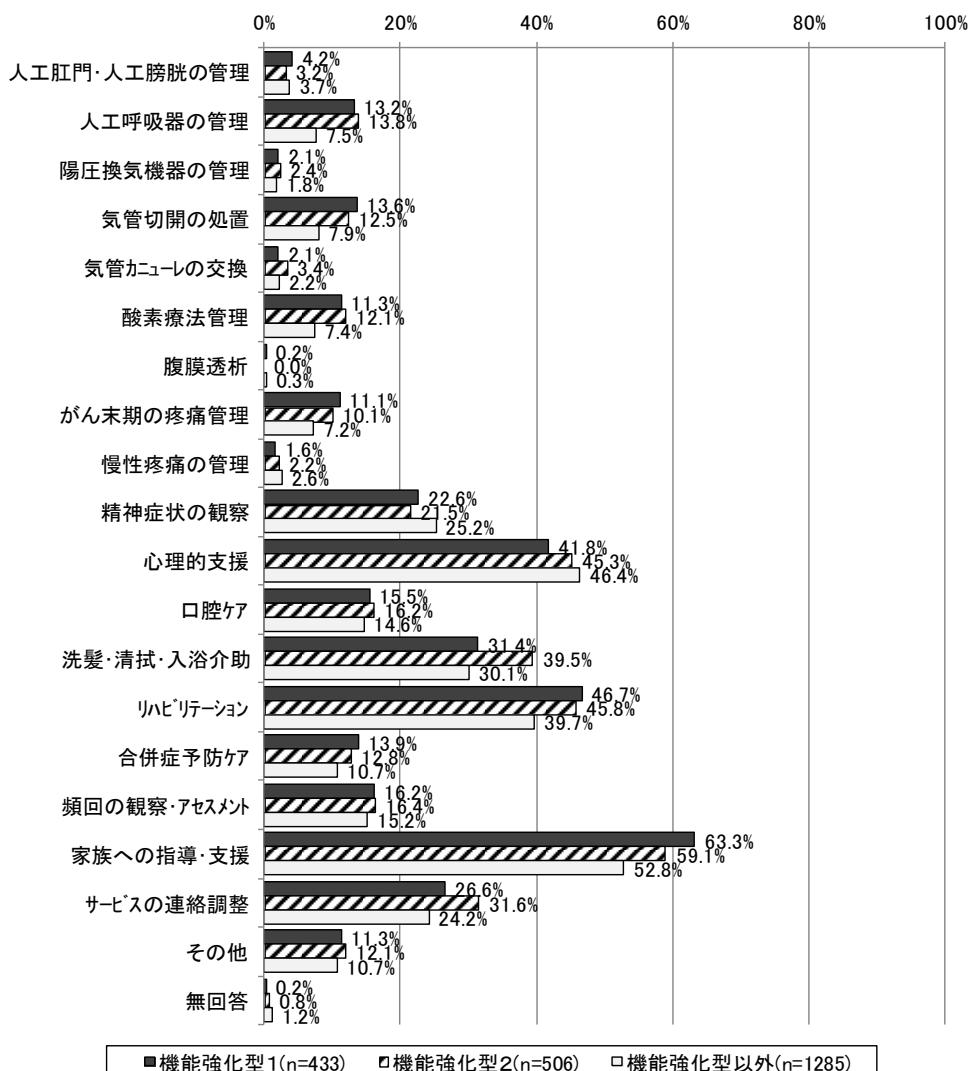
### 11) 訪問看護で提供したケアの内容

平成28年9月1か月間の訪問看護で提供したケアの内容について事業所の種類別にみると、「機能強化型1」では、「家族への指導・支援」が63.3%で最も多く、次いで「リハビリテーション」(46.7%)であった。「機能強化型2」では、「家族への指導・支援」が59.1%で最も多く、次いで「リハビリテーション」(45.8%)であった。「機能強化型以外」では、「家族への指導・支援」が52.8%で最も多く、次いで「心理的支援」(46.4%)であった。

図表 377 平成 28 年 9 月 1 か月間の訪問看護で提供したケアの内容（複数回答）  
 (事業所の種類別) ①



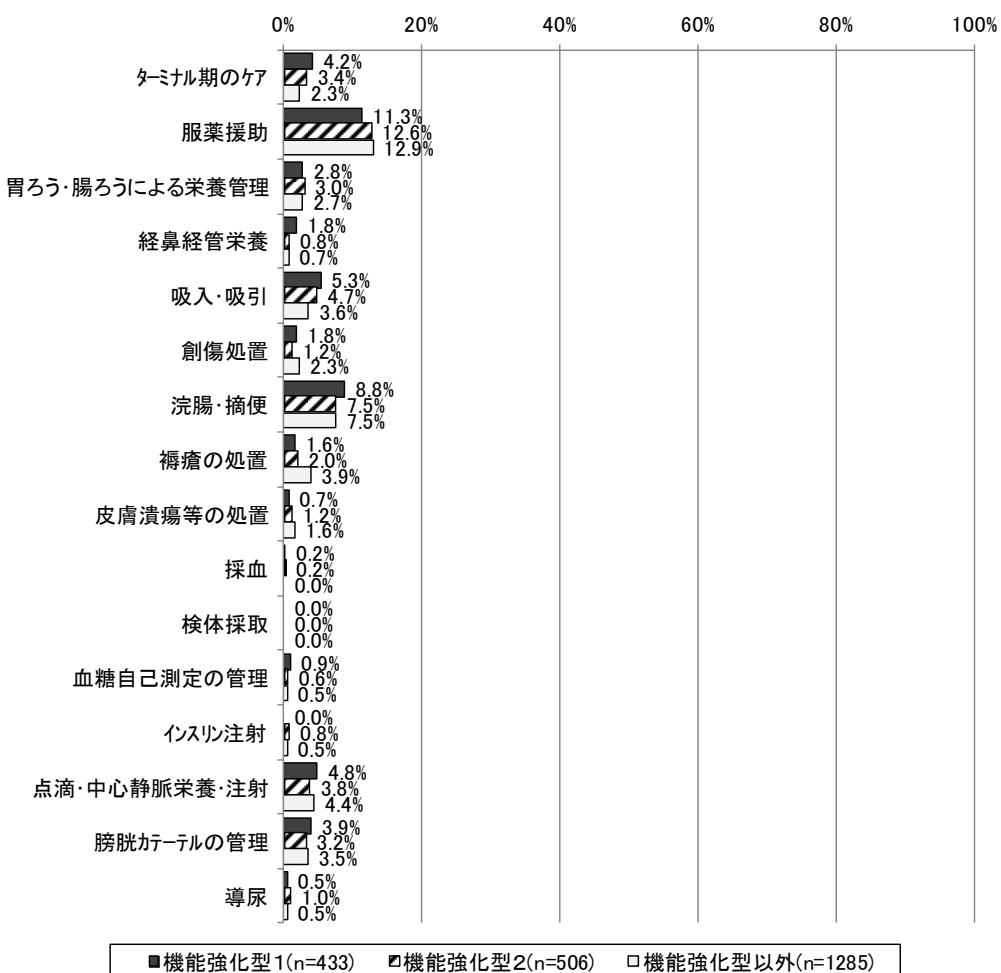
図表 378 平成 28 年 9 月 1 か月間の訪問看護で提供したケアの内容（複数回答）  
 (事業所の種類別) ②



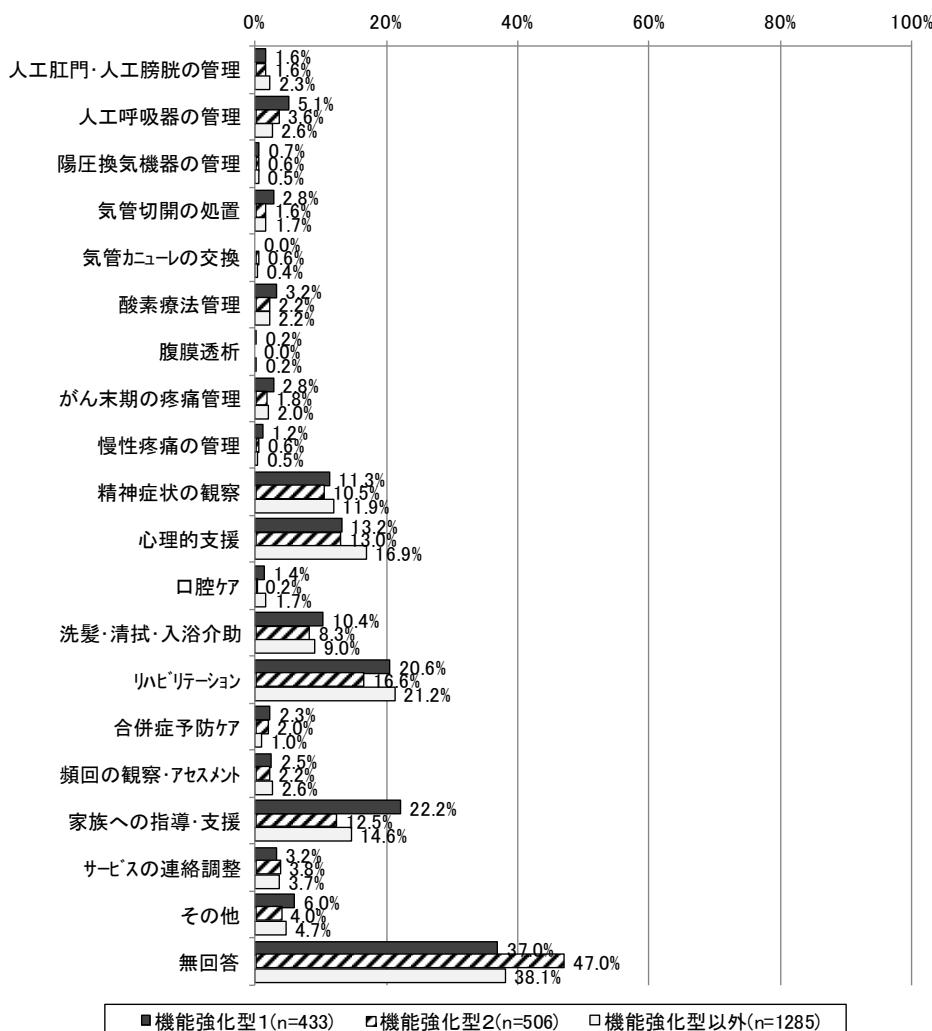
(注)「その他」の内容としては「ADL 訓練」、「経皮経肝胆道ドレナージ管理」、「育児支援」、「日常生活面の援助」、「医療機関への連絡調整」、「膀胱・陰部洗浄」、「オムツ交換」、「エンゼルケア」、「環境整備」、「生活指導」、「外出介助」、「精神的支援」、「マッサージ」等が挙げられた。

直近 1 回の訪問看護で提供したケアの内容についてみると、「機能強化型 1」では、「家族への指導・支援」が 22.2%で最も多く、次いで「リハビリテーション」(20.6%) であった。「機能強化型 2」では、「リハビリテーション」が 16.6%で最も多く、次いで「心理的支援」(13.0%) であった。「機能強化型以外」では、「リハビリテーション」が 21.2%で最も多く、次いで「心理的支援」(16.9%) であった。

図表 379 直近 1 回の訪問看護で提供したケアの内容（主なもの 3 つまで）  
(事業所の種類別) ①



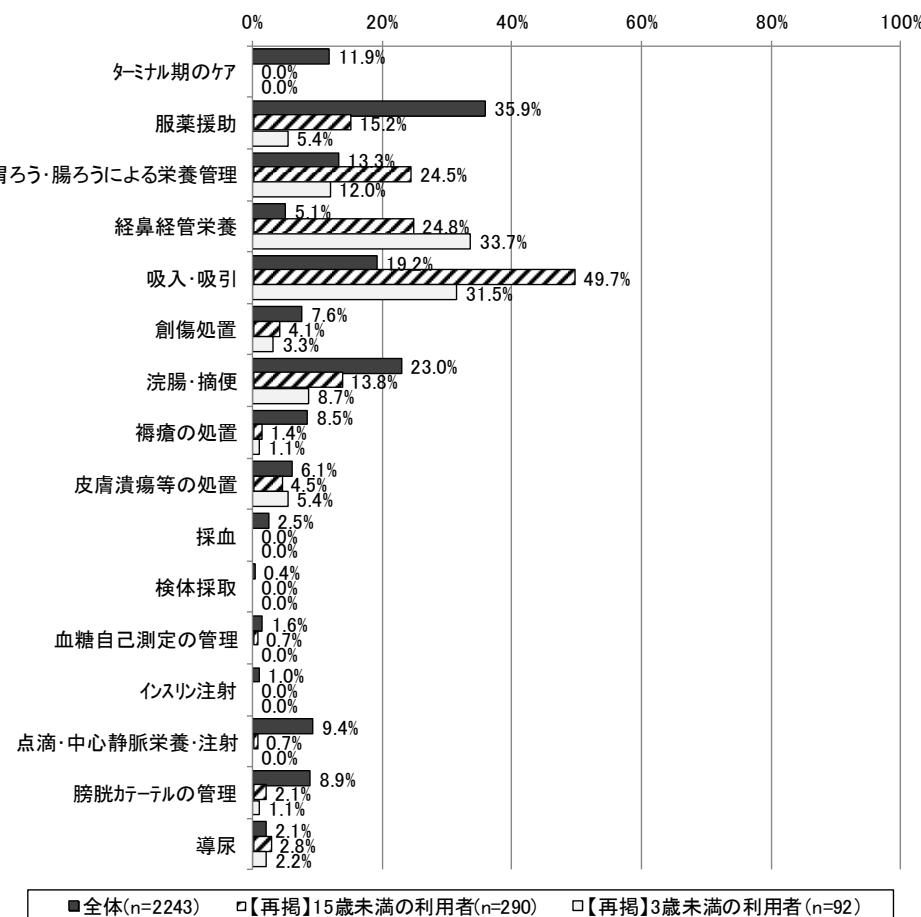
図表 380 直近1回の訪問看護で提供したケアの内容（主なもの3つまで）  
 （事業所の種類別）②



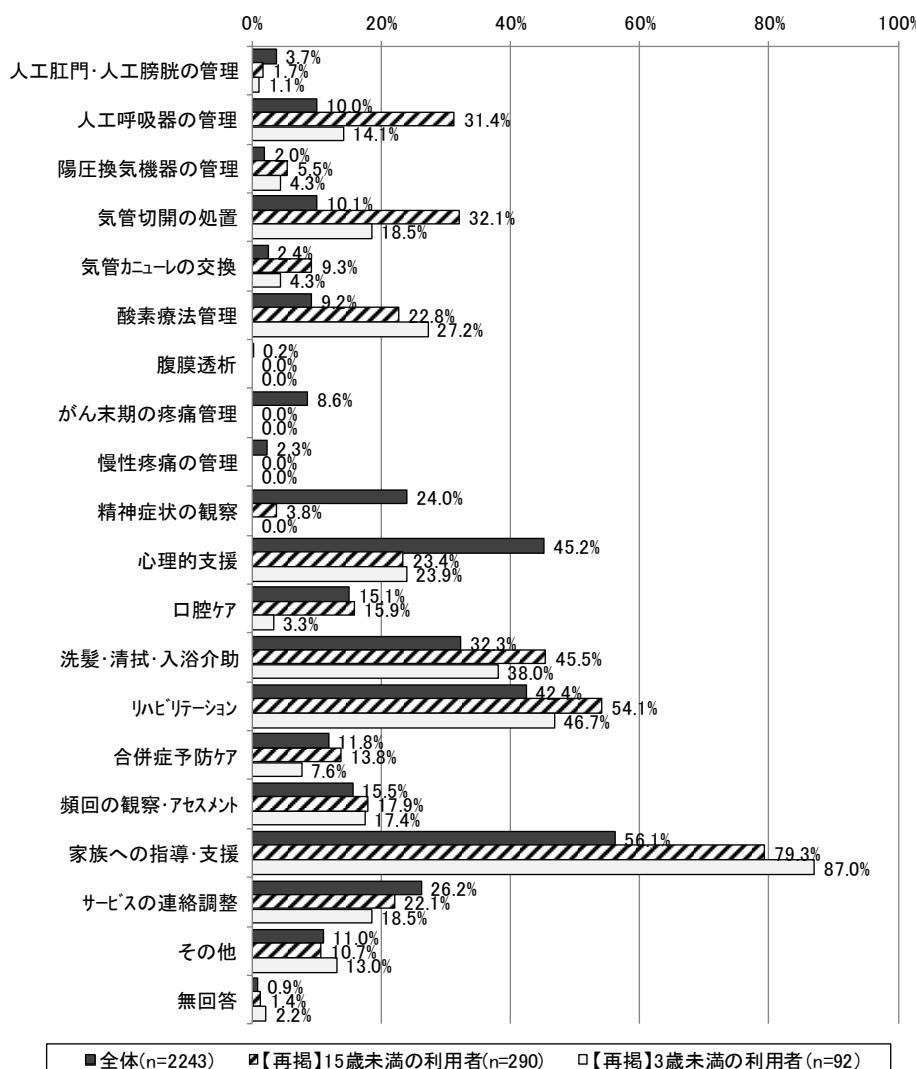
平成 28 年 9 月 1 か月間の訪問看護で提供したケアの内容について年齢別にみると、「15 歳未満の利用者」では、「家族への指導・支援」が 79.3% で最も多く、次いで「リハビリテーション」(54.1%)、「吸入・吸引」(49.7%) であった。「3 歳未満の利用者」では、「家族への指導・支援」が 87.0% で最も多く、次いで「リハビリテーション」(46.7%)、「洗髪・清拭・入浴介助」(38.0%) であった。

図表 381 平成 28 年 9 月 1 か月間の訪問看護で提供したケアの内容（複数回答）

(年齢別) ①



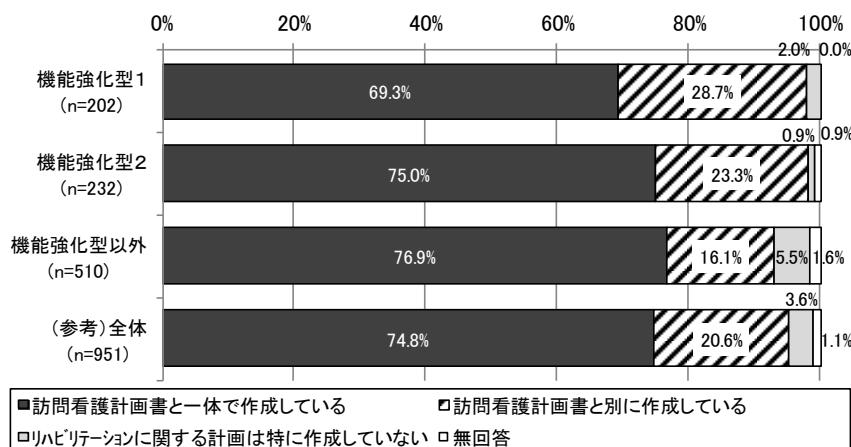
図表 382 平成 28 年 9 月 1 か月間の訪問看護で提供したケアの内容（複数回答）  
(年齢別) ②



## 12) リハビリテーションの実施体制等

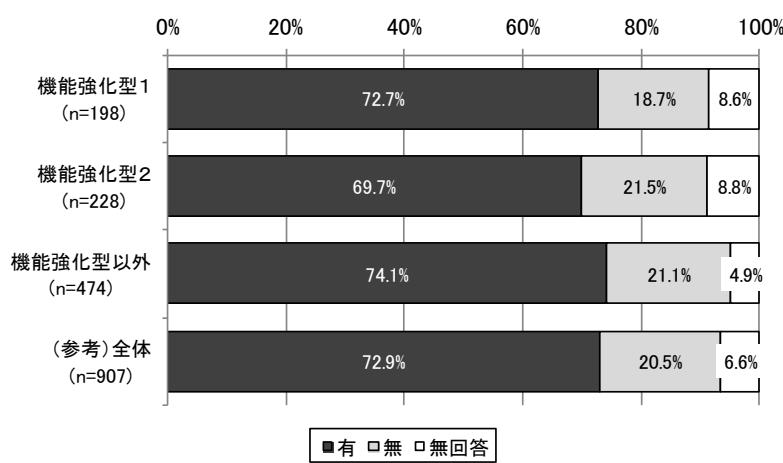
平成 28 年 9 月 1 か月間にリハビリテーションを行った利用者について、リハビリテーションに関する計画の作成方法を尋ねたところ、「機能強化型 1」、「機能強化型 2」、「機能強化型以外」のいずれも、「訪問看護計画書と一体で作成している」がそれぞれ 69.3%、75.0%、76.9% で最も多かった。

**図表 383 リハビリテーションに関する計画の作成方法**  
 (平成 28 年 9 月 1 か月間でリハビリテーションを行った利用者) (事業所の種類別)



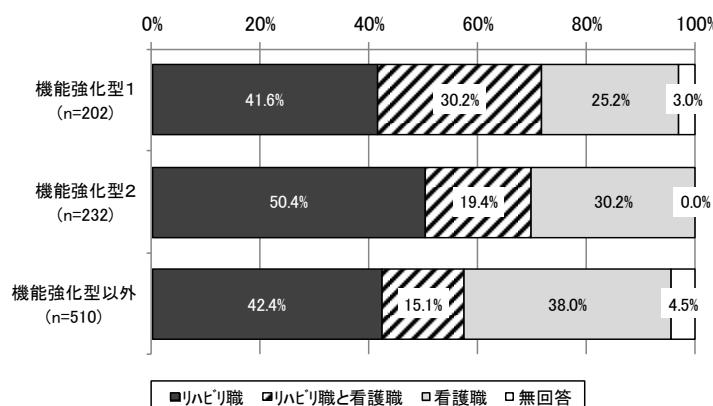
リハビリテーションに関する計画を作成している利用者について、リハビリテーションに関する計画・評価への看護職の関与の有無を尋ねたところ、「有」の割合は「機能強化型 1」が 72.7%、「機能強化型 2」が 69.7%、「機能強化型以外」が 74.1% であった。

**図表 384 リハビリテーションに関する計画の作成・評価への看護職の関与の有無**  
 (リハビリテーションに関する計画を作成している利用者) (事業所の種類別)

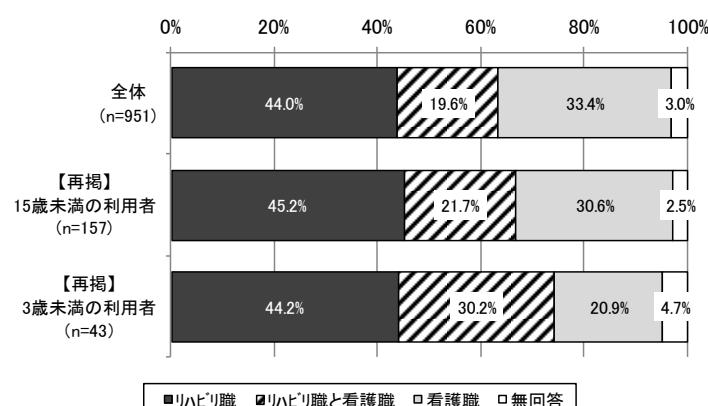


平成 28 年 9 月 1 か月間にリハビリテーションを行った利用者について、リハビリテーションの主たる実施者を尋ねたところ、「機能強化型 1」では「リハビリ職」が 41.6%で最も多く、次いで「リハビリ職と看護職」(30.2%)、「看護職」(25.2%) であった。「機能強化型 2」では、「リハビリ職」が 50.4%で最も多く、次いで「看護職」(30.2%)、「リハビリ職と看護職」(19.4%) であった。「機能強化型以外」では、「リハビリ職」が 42.4%で最も多く、次いで「看護職」(38.0%)、「リハビリ職と看護職」(15.1%) であった。

図表 385 リハビリテーションの主たる実施者  
(平成 28 年 9 月 1 か月間でリハビリテーションを行った利用者) (事業所の種類別)

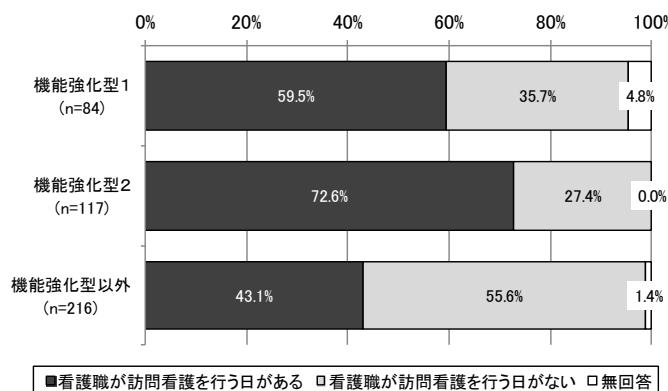


図表 386 リハビリテーションの主たる実施者  
(平成 28 年 9 月 1 か月間でリハビリテーションを行った利用者) (年齢別)

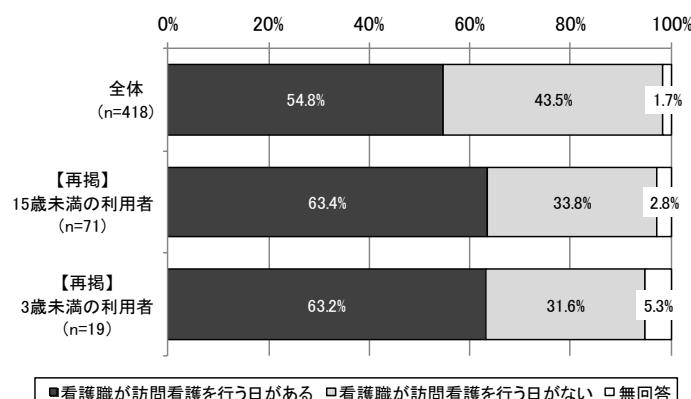


リハビリテーションの主たる実施者がリハビリ職の利用者について、看護職による訪問看護の実施状況を尋ねたところ、「看護職が訪問看護を行う日がある」という割合は、「機能強化型 1」では 59.5%、「機能強化型 2」では 72.6%、「機能強化型以外」では 43.1%であった。

図表 387 看護職による訪問看護の実施状況  
(リハビリテーションの主たる実施者がリハビリ職の利用者) (事業所の種類別)



図表 388 看護職による訪問看護の実施状況  
(リハビリテーションの主たる実施者がリハビリ職の利用者) (年齢別)



平成 28 年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（平成 28 年度調査）

重症度や居住形態に応じた評価の影響調査等を含む  
在宅医療・訪問看護の実施状況調査  
～歯科編～ 報告書（案）

◇◆目 次◆◇

I . 調査の概要 .....	244
II . 調査の結果 .....	248
1 . 回収結果 .....	248
2 . 施設調査 .....	249
( 1 ) 管理者の基本属性 .....	249
( 2 ) 施設の概要 .....	250
( 3 ) 歯科訪問診療の体制等 .....	254
( 4 ) 歯科訪問診療を提供した患者数等 .....	258
( 5 ) 歯科訪問診療等における取組内容 .....	277
( 6 ) 他施設等との連携状況 .....	286
( 7 ) 調査日における歯科訪問診療等 .....	292
3 . 患者調査 .....	294
( 1 ) 患者の基本属性等 .....	294
( 2 ) 歯科訪問診療等の内容 .....	297

## I. 調査の概要

### 1. 目的

平成 28 年度診療報酬改定では、休日の往診・看取り・重症児に対する医学管理等について実績を有する医療機関に対して評価が行われるとともに、個々の患者の状態や居住場所に応じたきめ細やかな報酬体系に見直しが行われた。また、在宅医療専門の保険医療機関が設けられた。

本調査では、このような診療報酬改定の内容を踏まえ、在宅医療（歯科訪問診療を含む）・訪問看護を提供する医療機関等の状況や、在宅医療・訪問看護を受けている患者の居住場所や重症度と診療の状況等について調査を行った。

なお、本報告書では在宅歯科医療についてのみとりまとめを行っている。

<主なねらい>

- ・歯科訪問診療の診療体制、診療内容等の把握
- ・歯科訪問診療を行った患者の状態、診療内容等の把握

### 2. 調査対象

本調査では、全国の在宅療養支援歯科診療所の施設基準の届出をしている歯科診療所の中から無作為抽出した 1,000 施設を本調査の対象とした。

### 3. 調査方法

- ・対象施設の開設者・管理者が記入する自記式調査票の郵送配布・回収とした。
- ・調査実施時期は平成 28 年 10 月 24 日～平成 28 年 12 月 22 日であった。

### 4. 調査項目

- ・調査項目は次のとおりである。

区分	主な調査項目
施設調査	<ul style="list-style-type: none"><li>○施設の概況<ul style="list-style-type: none"><li>・所在地、開設主体、標榜診療科、医科の医療機関の併設状況、同一建物内または同一敷地内の施設・事業所、届出のある施設基準</li><li>・職員数、歯科訪問診療に従事した職員数、医療機器等の保有台数</li><li>・施設基準の届出様式に記載した受講済みの「高齢者の心身の特性、口腔機能の管理及び緊急時対応等に係る研修」に関してのその後の受講状況</li></ul></li><li>○歯科訪問診療の実施状況等<ul style="list-style-type: none"><li>・歯科訪問診療体制、在宅歯科医療に係る経験が 3 年以上の歯科医師数、</li></ul></li></ul>

	<p>歯科訪問診療を実施していない理由</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歯科訪問診療を専門に行っている施設における患者・家族等からの連絡に対する体制、外来歯科診療が必要な患者について診療を依頼している歯科医療機関数、往診や訪問診療に対応できなかつたことの有無とその理由</li> <li>・平成 27 年 9 月と平成 28 年 9 月の歯科外来患者総数（延べ人数）・歯科外来患者数（実人数）</li> <li>・訪問診療の開始時期</li> <li>・「特別な関係」にある病院又は施設等への歯科訪問診療等の有無</li> <li>・平成 28 年 9 月 1 か月間の歯科医師による歯科訪問診療を行った延べ日数、歯科衛生士が訪問歯科衛生指導を実施した延べ日数、歯科訪問診療等の延べ日数が「0」の場合の理由</li> <li>・平成 28 年 9 月 1 か月間の歯科訪問診療等を行った患者数（延べ人数、実人数、居宅療養管理指導を行った実人数、歯科衛生士のみで訪問し訪問歯科衛生指導（居宅療養管理指導を含む）を実施した患者の実人数、「在宅患者訪問口腔リハビリテーション指導管理料」を算定した患者の実人数）</li> <li>・平成 28 年 9 月 1 か月間の算定回数（歯科訪問診療 1、2、3、居宅療養管理指導費（歯科医師、歯科衛生士等））</li> <li>・歯科医師が歯科訪問診療で訪問した建物の数（平成 28 年 9 月 1 か月間、施設種類別）</li> <li>・最も遠くに住む患者と最も近くに住む患者について、訪問に際しての交通手段、移動時間、「単一建物診療患者数」、住居形態、歯科診療所との位置関係</li> <li>・歯科のある病院への歯科訪問診療等の有無、訪問のきっかけ、治療内容、役割分担の状況、分担内容（平成 28 年 4 月以降）</li> <li>・在宅患者訪問口腔リハビリテーション指導管理料算定の有無、平成 28 年度 3 月以前の「摂食機能療法」の算定の有無、摂食機能療法と比較した対象患者・診療内容の変化、在宅患者訪問口腔リハビリテーション指導管理料を算定していない場合の理由</li> <li>・栄養サポートチーム連携加算 1、2 について算定の有無、NST・ミールラウンド等に参加している施設数、平成 28 年 3 月以前の NST・ミールラウンド等への参加の有無、平成 28 年 4 月以降の参加依頼件数の増加の有無、栄養サポートチーム連携加算 1、2 について算定していない場合の理由</li> <li>・在宅歯科医療推進加算の届け出の有無、平成 28 年 3 月以前の「在宅かかりつけ歯科診療所加算」の届出の有無、「在宅かかりつけ歯科診療所加算」の届出を行っていなかつたが、在宅歯科医療推進加算の届</li> </ul>
--	--

	<p>出をした理由</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歯科訪問診療を行う上で困っていること</li> </ul> <p>○他施設との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機関からの患者紹介、情報提供・共有等の有無（医科医療機関、歯科医療機関）、文書による情報提供の内容</li> <li>・ 介護保険施設等との連携状況</li> <li>・ 直近1年間における、地域の在宅医療・介護等を担う医療機関・事業所との連携や地域住民を対象とした活動等の状況</li> <li>・ その他の機関等との連携、その具体例</li> <li>・ 他施設と連携する際に困ること</li> </ul> <p>○歯科訪問診療の実施状況</p> <p>（平成28年9月1日～9月30日の内で最も実績の多かった日について）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歯科訪問を行った職員数</li> <li>・ 患者数、同一建物内の患者数、診療等合計時間</li> </ul>
患者調査	<p>○基本属性等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 性別、年齢、住居、同居家族の有無</li> </ul> <p>○患者の状態</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 要介護度、認知症高齢者の日常生活自立度</li> </ul> <p>○在宅医療・介護サービスの利用状況等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 当該患者の利用している在宅医療・介護サービスの把握状況</li> <li>・ 歯科訪問診療以外に利用している在宅医療・介護サービスの内容</li> </ul> <p>○歯科訪問診療の状況等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 調査日に同一建物内で歯科訪問診療を行った患者数</li> <li>・ 算定した歯科訪問診療料の種類</li> <li>・ 平成28年9月1か月間に行った歯科訪問診療の頻度</li> <li>・ 調査日に行った診療内容</li> <li>・ 当該初診期間内に調査日以外に行った診療内容</li> <li>・ 調査日における診療時間、機器の準備・後片付けの時間</li> </ul>

## 5. 調査検討委員会

本調査を実施するにあたり、調査設計、調査票の作成、調査の実施、集計・分析、報告書案等の検討を行うため、以下の通り、調査検討委員会を設置・開催した。

【委 員】(○は委員長、五十音順、敬称略)

- 稻葉 孝夫 稲葉歯科医院 院長  
○ 印南 一路 慶應義塾大学総合政策学部 教授  
枝広 あや子 東京都健康長寿医療センター研究所 自立促進と介護予防研究チーム  
佐々木 啓一 東北大学大学院 歯学研究科長  
東北大学 歯学部長  
細野 純 細野歯科クリニック院長  
松原 由美 早稲田大学人間科学学術院 准教授

## II. 調査の結果

### 1. 回収結果

発送数は1,000件であり、有効回答数は597件、有効回答率は59.7%であった。

図表 1 回収の状況

	①発送数	②回収数	③回収率 (②／①)	④有効回答数	⑤有効回答率 (④／①)
在宅歯科票	1,000	604	60.4%	597	59.7%

## 2. 施設調査

### 【調査対象等】

調査対象：全国の在宅療養支援歯科診療所の施設基準の届出をしている歯科診療所の中から無作為抽出した1,000施設。

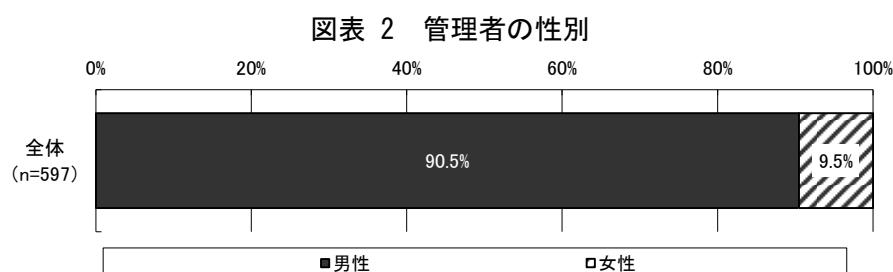
回答数：597施設

回答者：管理者

### (1) 管理者の基本属性

#### ①性別

管理者の性別は次のとおりである。



#### ②年齢

管理者の年齢は次のとおりである。

**図表 3 管理者の年齢 (n=594)**

(単位：歳)

平均値	標準偏差	中央値
56.0	10.1	56.5

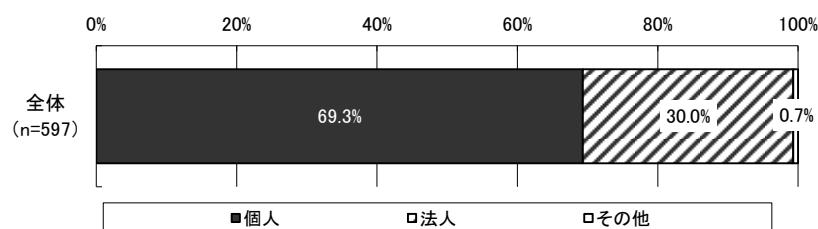
(注) 年齢について記入のあった594施設を集計対象とした。

## (2) 施設の概要

### ①開設主体

開設主体は次のとおりである。

図表 4 開設主体



### ②標榜診療科

標榜診療科は次のとおりである。

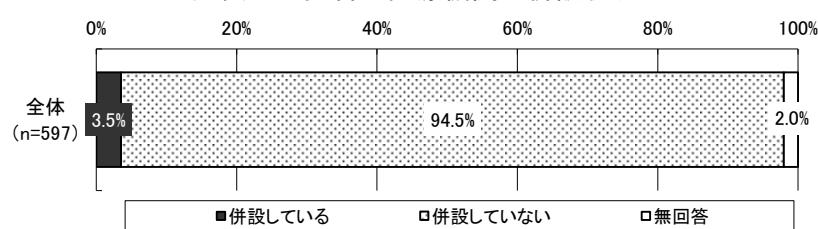
図表 5 標榜診療科（複数回答、n=597）



### ③医科の医療機関の併設状況

医科の医療機関の併設状況をみると、「併設している」が3.5%、「併設していない」が94.5%であった。

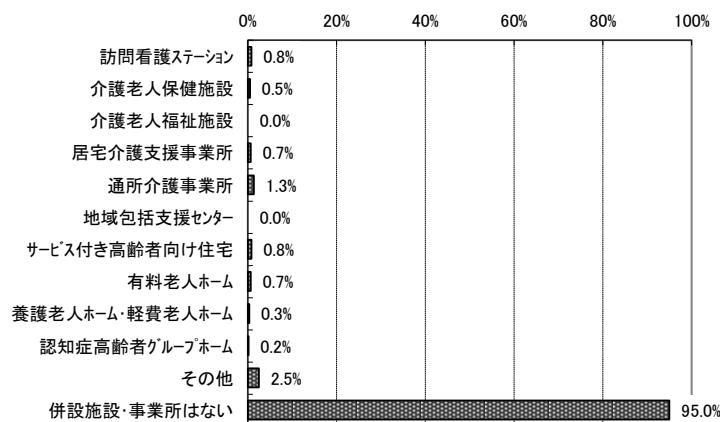
図表 6 医科の医療機関の併設状況



#### ④同一建物内または同一敷地内の施設・事業所

自院と同一建物内または同一敷地内の施設・事業所をみると、「併設施設・事業所はない」が95.0%であった。

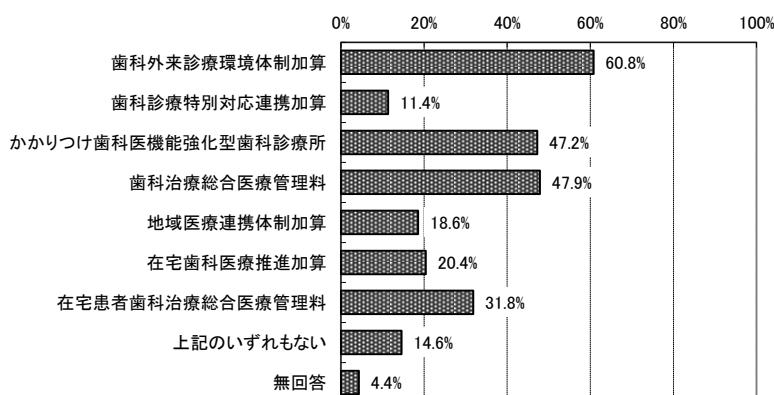
図表 7 同一建物内または同一敷地内の施設・事業所（複数回答、n=597）



#### ⑤施設基準の届出状況

施設基準の届出状況をみると、「歯科外来診療環境体制加算」が60.8%で最も多く、次いで「歯科治療総合医療管理料」(47.9%)、「かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所」(47.2%)、「在宅患者歯科治療総合医療管理料」(31.8%)であった。

図表 8 施設基準の届出状況（複数回答、n=597）



**⑥職員数**

1 施設あたりの職員数をみると、歯科医師は常勤が平均 1.71 人、非常勤が平均 0.53 人であった。また、歯科衛生士は常勤が平均 2.04 人、非常勤が平均 0.99 人であった。

1 施設あたりの職員数合計は常勤が平均 5.66 人、非常勤が平均 2.14 人であった。

図表 9 1 施設あたりの職員数 (n=596)

(単位：人)

	常勤			非常勤(常勤換算)		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
歯科医師	1.71	3.29	1.00	0.53	1.36	0.00
看護師・准看護師	0.03	0.37	0.00	0.01	0.09	0.00
歯科衛生士	2.04	2.03	2.00	0.99	1.53	0.50
歯科技工士	0.24	0.58	0.00	0.03	0.16	0.00
管理栄養士・栄養士	0.01	0.08	0.00	0.00	0.04	0.00
言語聴覚士	0.00	0.08	0.00	0.00	0.05	0.00
その他	1.63	2.10	1.00	0.58	1.42	0.00
合計	5.66	6.03	5.00	2.14	3.34	1.00

(注) 職員数について記入のあった 596 施設を集計対象とした。

**⑦医療機器等の保有台数**

医療機器等の保有台数は次のとおりである。

図表 10 医療機器等の保有台数

(単位：台)

	施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
歯科ユニット台数	590	4.03	2.39	4.00
ポータブル歯科治療用ユニット	458	0.63	0.77	1.00
ポータブルエンジン(携帯用マイクロモーター)	567	1.29	1.12	1.00
ポータブルバキューム	477	0.79	1.01	1.00
ポータブル歯科用X線装置	445	0.47	0.67	0.00

(注) 各医療機器について記入のあった施設を集計対象とした。

図表 11 医療機器等の保有台数 (0 を除く)

(単位：台)

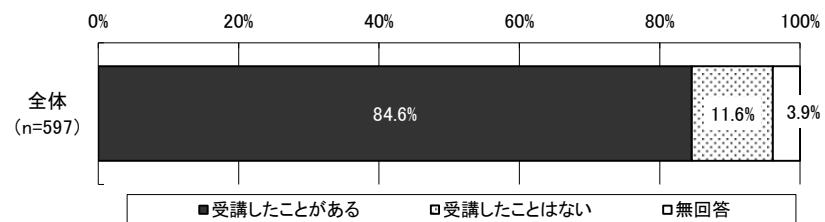
	施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
歯科ユニット台数	587	4.05	2.37	4.00
ポータブル歯科治療用ユニット	233	1.24	0.64	1.00
ポータブルエンジン(携帯用マイクロモーター)	538	1.36	1.11	1.00
ポータブルバキューム	290	1.30	1.02	1.00
ポータブル歯科用X線装置	184	1.15	0.55	1.00

(注) 各医療機器について「0」という回答を除いて集計対象とした。

#### ⑧高齢者の心身の特性、口腔機能の管理及び緊急時対応等に係る研修の受講状況

在宅療養支援歯科診療所の届出様式に記載した受講済みの「高齢者の心身の特性、口腔機能の管理及び緊急時対応等に係る研修」に関して、その後における当該内容の研修（類似する内容も含む）の受講状況をみると、「受講したことがある」が 84.6%、「受講したことはない」が 11.6% であった。

図表 12 高齢者の心身の特性、口腔機能の管理及び緊急時対応等に係る研修の受講状況

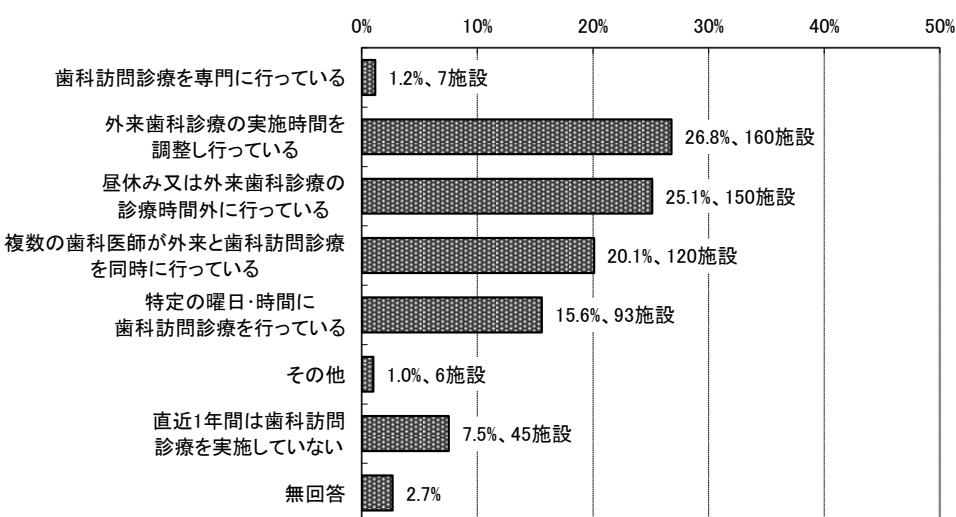


## (3) 歯科訪問診療の体制等

## ①歯科訪問診療の実施体制（平成 28 年 9 月）

歯科訪問診療の実施体制をみると、「外来歯科診療の実施時間を調整し(歯科訪問診療を行っている」が 26.8% (160 施設) で最も多く、次いで「昼休み又は外来歯科診療の診療時間外に(歯科訪問診療を行っている」が 25.1% (150 施設)、「複数の歯科医師が(いて,)外来(歯科診療)と歯科訪問診療を同時に行っている」が 20.1% (120 施設)、「特定の曜日・時間に歯科訪問診療を行っている」が 15.6% (93 施設)、「歯科訪問診療を専門に行ってい(外来歯科診療は 5%未満)」(以下、「主として歯科訪問診療を実施する診療所」とする)が 1.2% (7 施設) であった。また、「直近 1 年間は歯科訪問診療を実施していない」が 7.5% (45 施設) であった。

図表 13 歯科訪問診療の実施体制（単数回答、n=597）

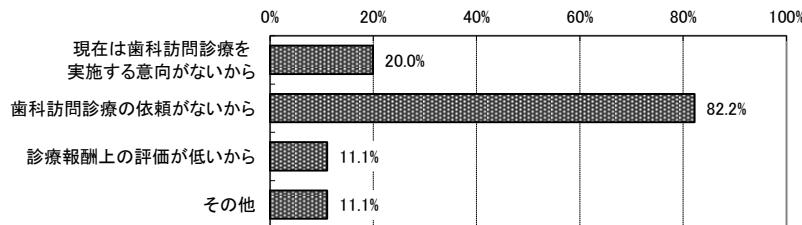


(注)「その他」の内容として、「時間が取れた日の外来診療後と土日」、「患者の要望により外来時間内、時間外ともに行っている」等が挙げられた。

## ②歯科訪問診療を実施していない理由

歯科訪問診療を実施していない施設に対して実施していない理由を尋ねたところ、「歯科訪問診療の依頼がないから」が 82.2%で最も多く、次いで「現在は歯科訪問診療を実施する意向がないから」(20.0%)、「診療報酬上の評価が低いから」(11.1%) であった。

**図表 14 歯科訪問診療を実施していない理由**  
(歯科訪問診療を実施していない施設、複数回答、n=45)



(注) 「その他」の内容として、「体力的な衰え」、「外来診療等で手一杯」等が挙げられた。

## ③歯科訪問診療等に従事した職員数

平成 28 年 9 月 1 か月間に歯科訪問診療等に従事した職員数についてみると、歯科医師は常勤が平均 1.30 人、非常勤が平均 0.29 人、歯科衛生士は常勤が平均 1.28 人、非常勤が平均 0.68 人であった。

歯科訪問診療等に従事した職員数の合計は常勤が平均 3.14 人、非常勤が平均 1.13 人であった。

**図表 15 歯科訪問診療等に従事した職員数 (平成 28 年 9 月、n=437)**

(単位：人)

	常勤			非常勤(常勤換算)		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
歯科医師	1.30	1.28	1.00	0.29	1.04	0.00
看護師・准看護師	0.03	0.41	0.00	0.00	0.05	0.00
歯科衛生士	1.28	1.41	1.00	0.68	1.45	0.00
歯科技工士	0.04	0.22	0.00	0.01	0.11	0.00
管理栄養士・栄養士	0.01	0.08	0.00	0.00	0.00	0.00
言語聴覚士	0.00	0.05	0.00	0.00	0.03	0.00
その他	0.48	1.57	0.00	0.15	0.99	0.00
合計	3.14	3.22	2.00	1.13	2.88	0.00

(注) ・「歯科訪問診療等」とは、歯科医師による歯科訪問診療の他、歯科衛生士の訪問による口腔衛生指導なども含む（以下、同様）。

・平成 28 年 9 月 1 か月間の歯科訪問診療等の患者総数が 1 人以上で、常勤・非常勤ともに歯科訪問診療等に従事した職員数について記入のあった 437 施設を集計対象とした。

**図表 16 在宅歯科医療に係る経験が 3 年以上の歯科医師数【常勤】(実人数、n=523)**

(単位：人)

平均値	標準偏差	中央値
1.26	1.21	1.00

(注) 在宅歯科医療に係る経験が 3 年以上の歯科医師数について記入のあった 523 施設を集計対象とした。

#### ④患者・家族等からの連絡（緊急時を含む）への対応体制

主として歯科訪問診療を実施する診療所（歯科訪問診療を行った患者数が95%以上）7施設における、患者・家族等からの連絡（緊急時を含む）への対応体制をみると、「診療所の受付電話で対応（受付担当者が対応）」が4施設（57.1%）、「診療所の受付電話が歯科医師に自動転送される」が2施設（28.6%）、「歯科医師の携帯電話で対応」が2施設（28.6%）であった。

図表 17 患者・家族等からの連絡（緊急時を含む）への対応体制  
(主として歯科訪問診療を実施する診療所、複数回答)

	施設数(件)	構成割合
診療所の受付電話で対応(受付担当者が対応)	4	57.1%
診療所の受付電話が歯科医師に自動転送される	2	28.6%
歯科医師の携帯電話で対応	2	28.6%
コールセンターが対応	0	0.0%
その他	1	14.3%
全 体	7	100.0%

#### ⑤外来歯科診療が必要な患者について診療を依頼している歯科医療機関数

主として歯科訪問診療を実施する診療所7施設における、外来歯科診療が必要な患者について診療を依頼している歯科医療機関数別施設数は次のとおりである。

図表 18 外来歯科診療が必要な患者について診療を依頼している歯科医療機関数別施設数  
(主として歯科訪問診療を実施する診療所)

	施設数(件)	構成割合
0 施設	1	14.3%
1 施設	1	14.3%
2 施設	2	28.6%
3 施設	1	14.3%
4 施設	0	0.0%
5 施設	1	14.3%
6 施設	0	0.0%
7 施設	0	0.0%
8 施設	1	14.3%
全 体	7	100.0%

#### ⑥患者・家族等からの往診や訪問診療を求められたものの対応ができなかったことの有無

主として歯科訪問診療を実施する診療所 7 施設における、患者・家族等からの往診や訪問診療を求められたものの対応ができなかったことの有無をみると、「ある」が2施設(28.6%)、「ない」が5施設(71.4%)であった。

図表 19 往診や訪問診療を求められたものの対応ができなかったことの有無  
(主として歯科訪問診療を実施する診療所)

	施設数(件)	構成割合
ある	2	28.6%
ない	5	71.4%
全体	7	100.0%

## (4) 歯科訪問診療を提供した患者数等

## ①歯科外来患者数

歯科外来患者数は次のとおりである。

図表 20 歯科外来患者数（歯科訪問診療等を行っている施設）(n=435)

(単位：人)

	平成27年9月			平成28年9月		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
歯科外来患者総数(延べ人数)	616.2	434.2	523.0	627.5	447.5	544.0
歯科外来患者数(実人数)	346.3	275.8	281.0	346.3	267.8	284.0

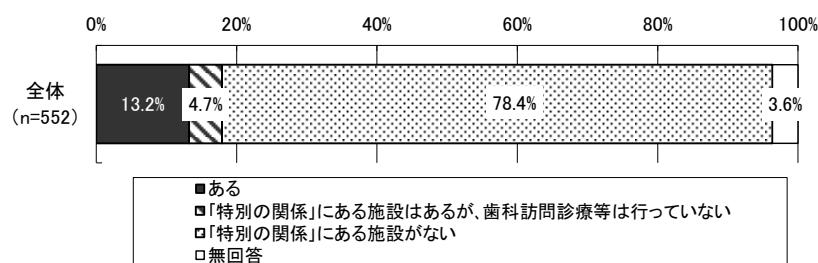
(注) 歯科外来患者総数、歯科外来患者数について、平成 27 年 9 月及び平成 28 年 9 月ともに記入のあった 435 施設をそれぞれ集計対象とした。

## ②「特別の関係」にある病院又は施設等への歯科訪問診療等の有無

「特別の関係」にある病院又は施設等への歯科訪問診療等の有無をみると、「ある」が 13.2%、「『特別の関係』にある施設はあるが、歯科訪問診療等は行っていない」が 4.7%、「『特別の関係』にある施設がない」が 78.4% であった。

図表 21 「特別の関係」にある病院又は施設等への歯科訪問診療等の有無

(歯科訪問診療等を行っている施設)



(注) 歯科訪問診療等を行っている 552 施設を集計対象とした。

## ③平成 28 年 9 月 1 か月間における、歯科訪問診療等を行った延べ日数

平成 28 年 9 月 1 か月間における、歯科医師が歯科訪問診療を行った延べ日数（歯科訪問診療を実施した延べ日数）は平均 13.9 日（中央値 5.0）であった。

図表 22 歯科医師が歯科訪問診療を行った延べ日数

(歯科訪問診療を行っている施設、n=533)

(単位：日)

平均値	標準偏差	中央値
13.9	38.7	5.0

(注) 歯科訪問診療等を行っている施設のうち、延べ日数について記入のあった 533 施設を集計対象とした。

平成 28 年 9 月 1 か月間における、歯科医師の指示のもとに、歯科衛生士が訪問歯科衛生指導（居宅療養管理指導を含む）を実施した延べ日数は平均 6.3 日であった。

**図表 23 歯科医師の指示のもとに、歯科衛生士が訪問歯科衛生指導（居宅療養管理指導を含む）を実施した延べ日数  
(歯科訪問診療を行っている施設、n=540)**

(単位：日)

平均値	標準偏差	中央値
6.3	25.2	0.0

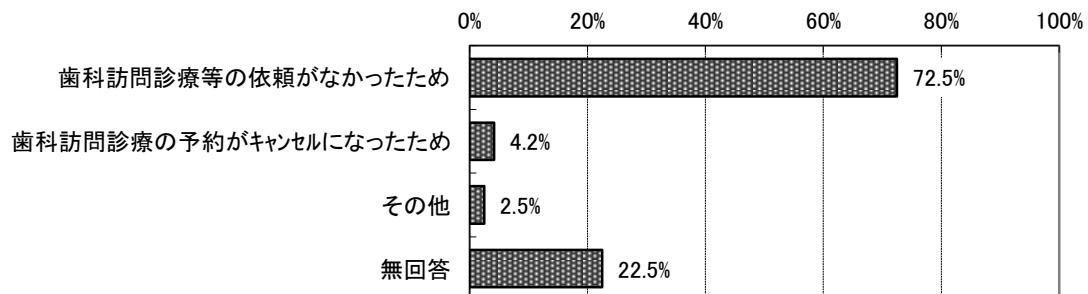
(注) 歯科訪問診療等を行っている施設のうち、歯科医師の指示のもとに歯科衛生士が訪問歯科衛生指導を行っている 540 施設を集計対象とした。

#### ④平成 28 年 9 月 1 か月間の歯科訪問診療等の実績がなかった理由

平成 28 年 9 月 1 か月間の歯科訪問診療等の実績がなかった理由をみると、「歯科訪問診療等の依頼がなかったため」が 72.5%、「歯科訪問診療の予約がキャンセルになったため」(4.2%) であった。

**図表 24 平成 28 年 9 月 1 か月間の歯科訪問診療等の実績がなかった理由**

(歯科訪問診療等の実績がなかった施設、複数回答、n=120)



### ⑤平成 28 年 9 月 1 か月間の歯科訪問診療等を行った患者数

平成 28 年 9 月 1 か月間の歯科訪問診療等の実績は次のとおりである。

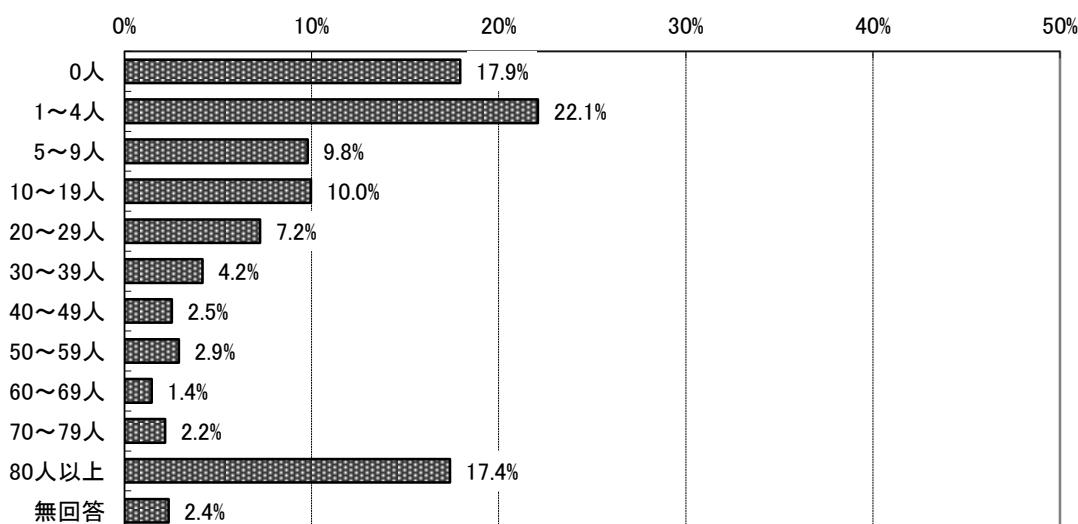
図表 25 平成 28 年 9 月 1 か月間の歯科訪問診療等の実績  
(歯科訪問診療を行っている施設)

(単位：人)

	施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
歯科訪問診療等の患者総数(延べ人数)	539	78.2	244.1	9.0
歯科医師が歯科訪問診療を行った患者の実人数	541	34.8	98.4	5.0
歯科医師が居宅療養管理指導を行った患者の実人数	538	13.9	39.4	1.0
歯科医師の指示のもと、歯科衛生士のみで訪問し、訪問歯科衛生指導を実施した患者の実人数	546	7.1	32.7	0.0
「在宅患者訪問口腔リハビリテーション指導管理料」を算定した患者の実人数	543	1.2	6.4	0.0

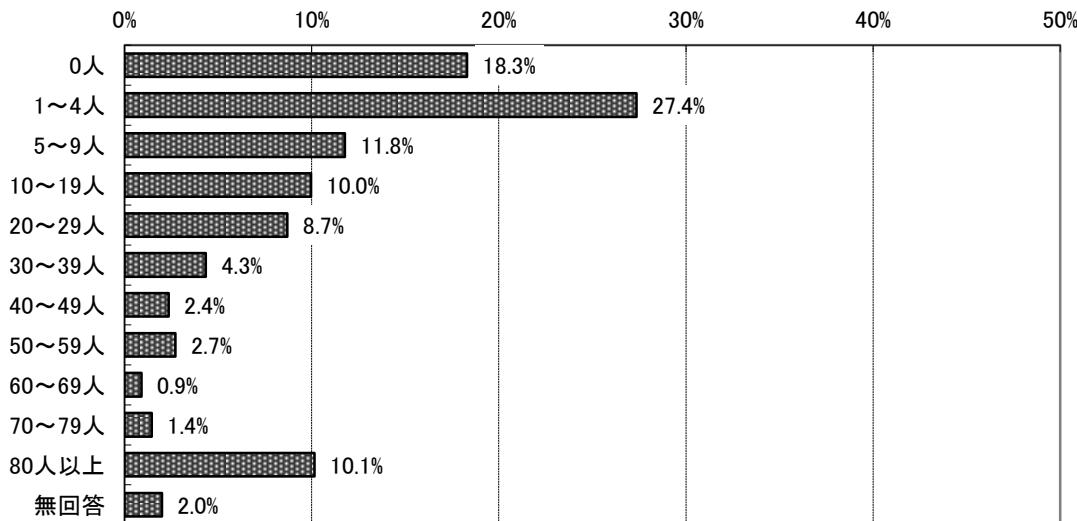
平成 28 年 9 月 1 か月間の歯科訪問診療等の患者総数（延べ人数）別分布をみると、「1～4 人」が 22.1%、「0 人」が 17.9%、「5～9 人」が 9.8% であった。10 人未満が 5 割近くを占める一方で、「80 人以上」の施設が 2 割近くあった。

図表 26 平成 28 年 9 月 1 か月間の歯科訪問診療等の患者総数（延べ人数）別分布  
(歯科訪問診療を行っている施設、n=552)



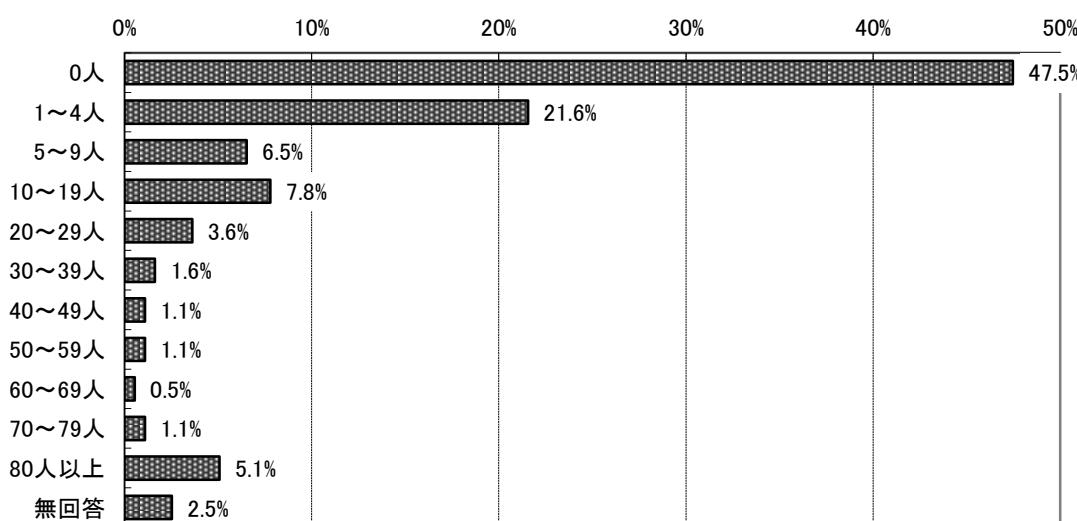
平成28年9月1か月間に歯科医師が歯科訪問診療を行った患者の実人数別分布をみると、「1～4人」が27.4%、「0人」が18.3%であった。一方、「80人以上」が10.1%であった。

**図表 27 平成28年9月1か月間に歯科医師が歯科訪問診療を行った患者の実人数別分布  
(歯科訪問診療を行っている施設、n=552)**



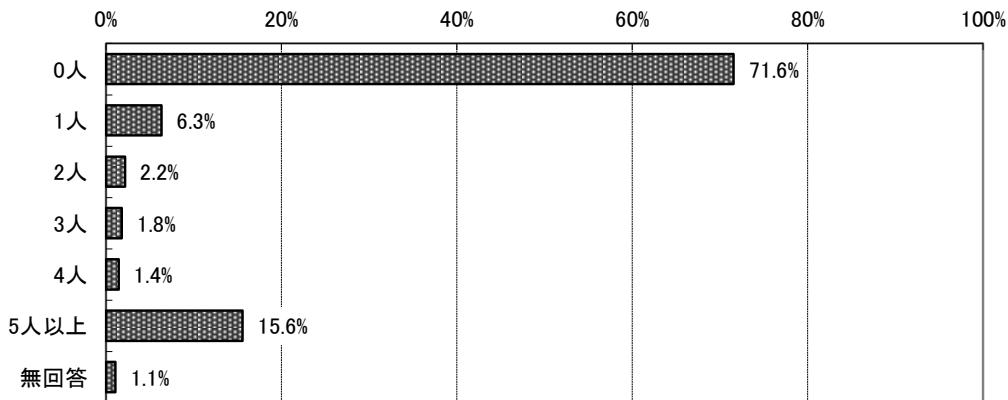
平成28年9月1か月間に歯科医師が居宅療養管理指導を行った患者の実人数別分布をみると、「0人」が47.5%で最も多く、次いで「1～4人」(21.6%)であった。

**図表 28 平成28年9月1か月間に歯科医師が居宅療養管理指導を行った  
患者の実人数別分布  
(歯科訪問診療を行っている施設、n=552)**



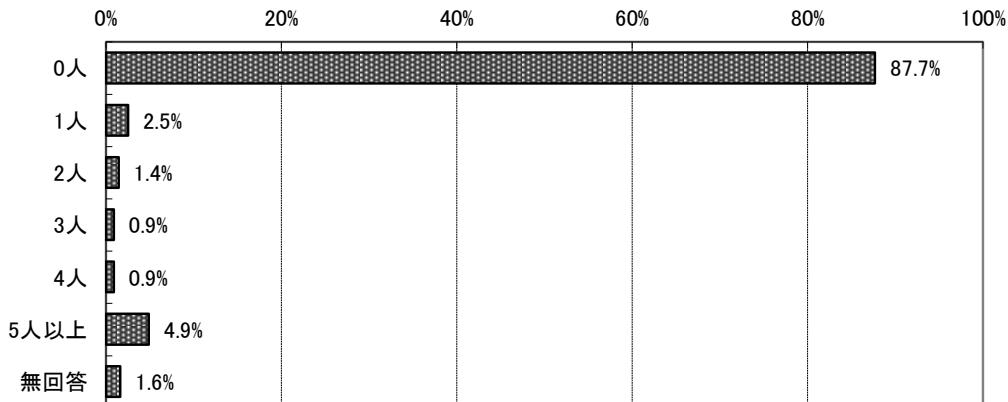
平成 28 年 9 月 1 か月間に、歯科医師の指示のもと、歯科衛生士のみで訪問し、訪問歯科衛生指導を実施した患者の実人数別分布をみると、「0 人」が 71.6% で最も多かった。また、「1 人」が 6.3%、「2 人」が 2.2%、「3 人」が 1.8%、「4 人」が 1.4%、「5 人以上」が 15.6% であった。

**図表 29 平成 28 年 9 月 1 か月間に、歯科医師の指示のもと、歯科衛生士のみで訪問し、訪問歯科衛生指導を実施した患者の実人数別分布  
(歯科訪問診療を行っている施設、n=552)**



平成 28 年 9 月 1 か月間に、「在宅患者訪問口腔リハビリテーション指導管理料」を算定した患者の実人数別分布をみると、「0 人」が 87.7% で最も多かった。また、「1 人」が 2.5%、「2 人」が 1.4%、「3 人」、「4 人」がともに 0.9%、「5 人以上」が 4.9% であった。

**図表 30 平成 28 年 9 月 1 か月間に、「在宅患者訪問口腔リハビリテーション指導管理料」を算定した患者の実人数別分布  
(歯科訪問診療を行っている施設、n=552)**



#### ⑥平成 28 年 9 月 1 か月間の歯科訪問診療の算定回数

平成 28 年 9 月 1 か月間の歯科訪問診療の算定回数は次のとおりである。各算定回数の平均は、歯科訪問診療 1 が 12.1 回、歯科訪問診療 2 が 19.0 回、歯科訪問診療 3 が 17.4 回であった。また、歯科訪問診療 1 のうち、「著しく歯科診療が困難な者」または「要介護 3 以上」に準じる状態により、20 分以上の診療が困難であった回数は平均 1.5 回であった。同様に、歯科訪問診療 3 の内訳をみると、20 分未満の歯科訪問診療が平均 16.0 回、同一建物で 10 人以上の患者の歯科訪問診療が 14.5 回、20 分未満かつ同一建物で 10 人以上の歯科訪問診療が 13.1 回であった。

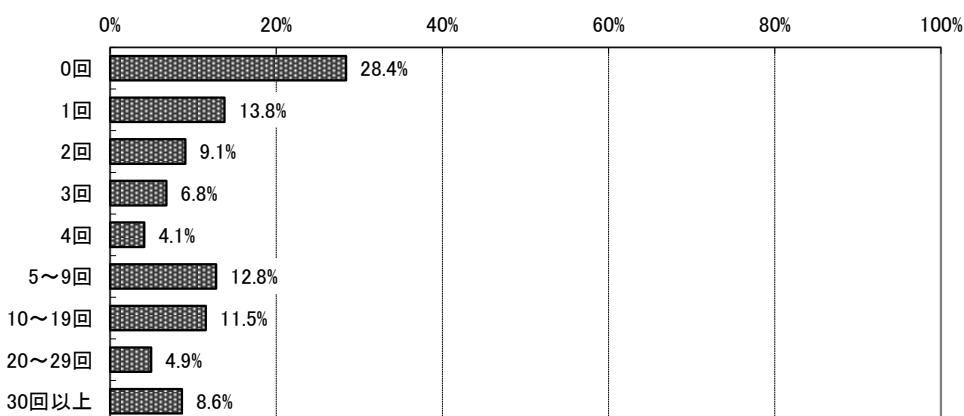
図表 31 平成 28 年 9 月 1 か月間の歯科訪問診療の算定回数 (n=486)

(単位：回)

	平均値	標準偏差	中央値
歯科訪問診療1	12.1	35.1	2.0
(うち)「著しく歯科診療が困難な者」または「要介護3以上」に準じる状態により、20分以上の診療が困難であった回数	1.5	10.2	0.0
歯科訪問診療2	19.0	89.1	0.0
歯科訪問診療3	17.4	130.8	0.0
(うち)20分未満の歯科訪問診療の算定回数	16.0	130.0	0.0
(うち)同一建物で10人以上の患者の歯科訪問診療の算定回数	14.5	126.5	0.0
(うち)20分未満かつ同一建物で10人以上の歯科訪問診療の算定回数	13.1	125.7	0.0

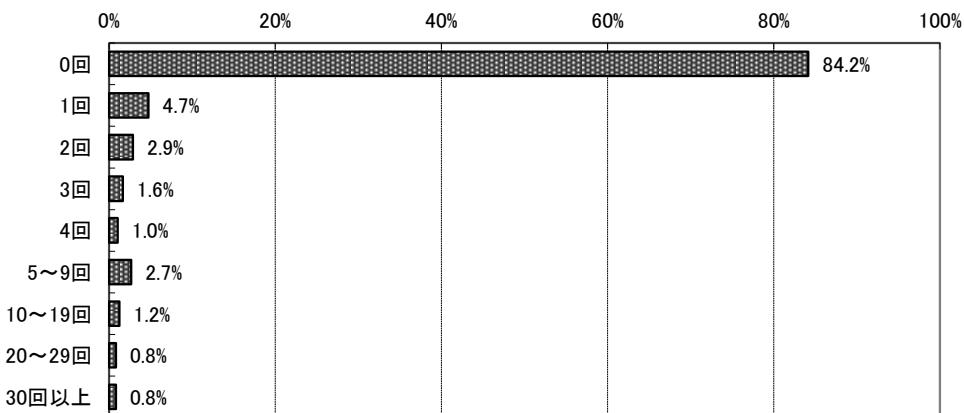
(注) すべての算定回数について記入のあった施設を集計対象とした。

図表 32 歯科訪問診療 1 の算定回数別分布 (n=486)



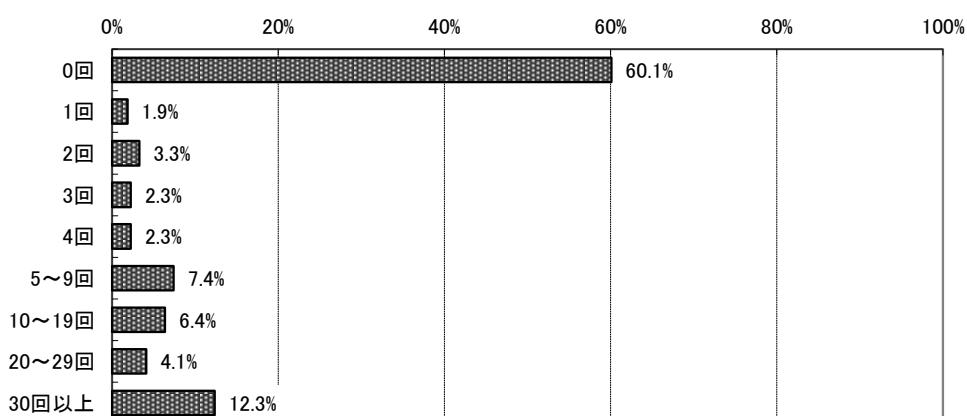
(注) 平成 28 年 9 月 1 か月間の算定回数について記入のあった施設を集計対象とした。

図表 33 歯科訪問診療 1 のうち 20 分以上の診療が困難であった回数別分布 (n=486)



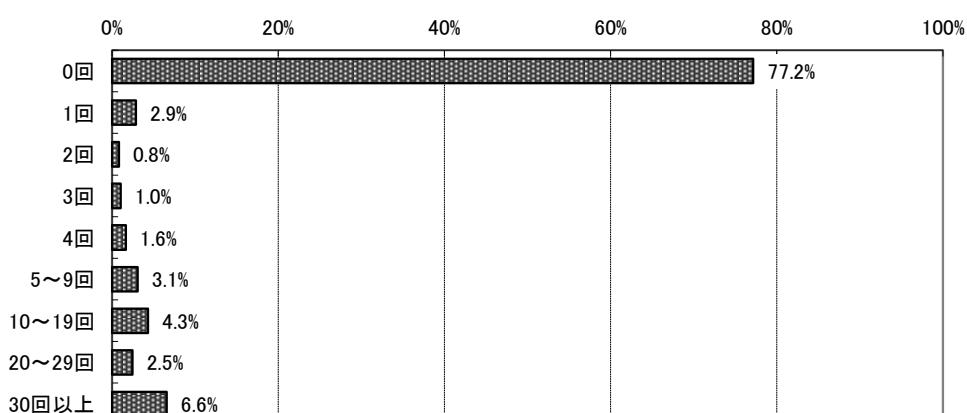
(注) 平成 28 年 9 月 1 か月間の算定回数について記入のあった施設を集計対象とした。

図表 34 歯科訪問診療 2 の算定回数別分布 (n=486)



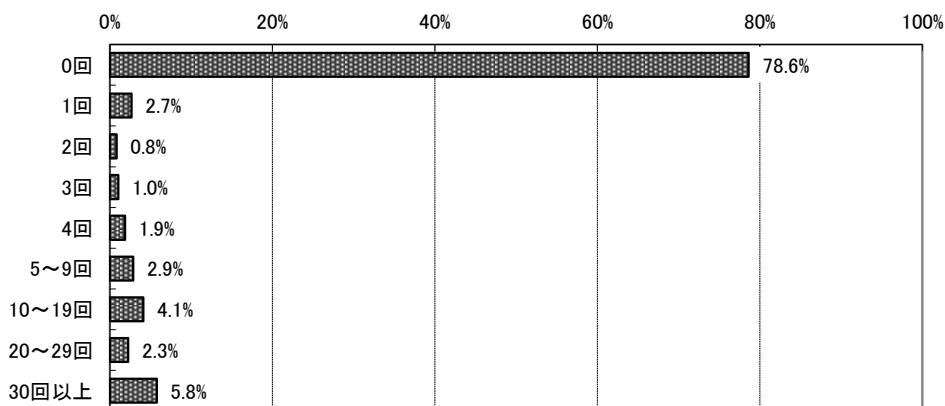
(注) 平成 28 年 9 月 1 か月間の算定回数について記入のあった施設を集計対象とした。

図表 35 歯科訪問診療 3 の算定回数別分布 (n=486)



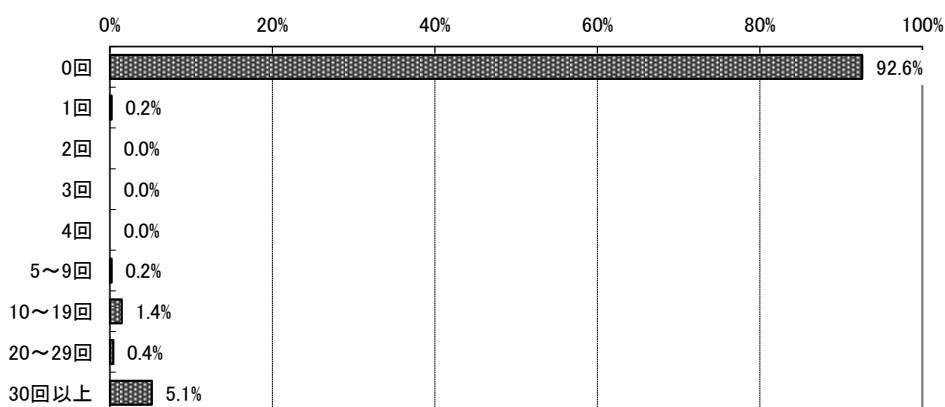
(注) 平成 28 年 9 月 1 か月間の算定回数について記入のあった施設を集計対象とした。

図表 36 歯科訪問診療 3 のうち、20 分未満の歯科訪問診療の算定回数別分布 (n=486)



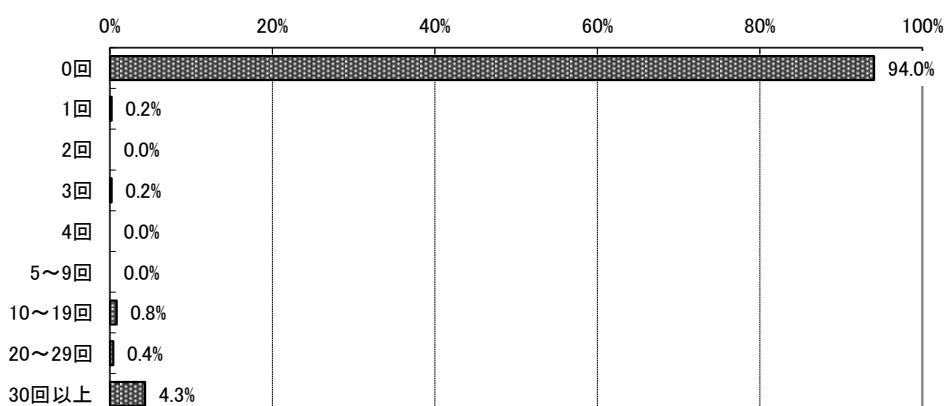
(注) 平成 28 年 9 月 1 か月間の算定回数について記入のあった施設を集計対象とした。

図表 37 歯科訪問診療 3 のうち、同一建物で 10 人以上の患者の歯科訪問診療の算定回数別分布 (n=486)



(注) 平成 28 年 9 月 1 か月間の算定回数について記入のあった施設を集計対象とした。

図表 38 歯科訪問診療 3 のうち、20 分未満かつ、同一建物で 10 人以上の患者の歯科訪問診療の算定回数別分布 (n=486)



(注) 平成 28 年 9 月 1 か月間の算定回数について記入のあった施設を集計対象とした。

### ⑦平成 28 年 9 月 1 か月間の居宅療養管理指導費の算定回数

平成 28 年 9 月 1 か月間の居宅療養管理指導費の算定回数は次のとおりである。

図表 39 平成 28 年 9 月 1 か月間の居宅療養管理指導費の算定回数

(単位：回)

	施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
居宅療養管理指導費(歯科医師)	483	13.1	52.9	0.0
居宅療養管理指導費(歯科衛生士等)	469	18.2	81.8	0.0

(注) 平成 28 年 9 月 1 か月間の居宅療養管理指導費の算定回数について、それぞれ記入のあった施設を集計対象とした。

図表 40 平成 28 年 9 月 1 か月間の居宅療養管理指導費の算定回数 (0 除く)

(単位：回)

	施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
居宅療養管理指導費(歯科医師)	202	31.4	78.4	6.0
居宅療養管理指導費(歯科衛生士等)	164	52.1	132.0	9.0

(注) 平成 28 年 9 月 1 か月間の居宅療養管理指導費の算定回数について、「0」という回答の施設を除いてそれぞれ集計対象とした。

### ⑧平成 28 年 9 月 1 か月間に歯科医師が訪問した建物の数

平成 28 年 9 月 1 か月間に歯科医師が訪問した建物の数は次のとおりである。

図表 41 平成 28 年 9 月 1 か月間に歯科医師が訪問した建物の数 (n=522)

(単位：か所)

	平均値	標準偏差	中央値
歯科訪問診療で歯科医師が訪問した建物の数	8.6	22.2	2.0
(うち)自宅	5.5	18.4	1.0
(うち)居住系施設	1.4	3.3	0.0
(うち)介護老人保健施設	0.5	1.5	0.0
(うち)介護老人福祉施設	0.5	1.3	0.0
(うち)病院	0.5	1.0	0.0
(うち)その他	0.2	0.8	0.0

(注) ・マンションなどの集合住宅の場合、「棟」単位とした。

・「自宅」とは、施設以外で、戸建て（持家・借家問わず）、団地・マンション等の集合住宅を指す。

・「居住系施設」とは、自宅及び介護老人保健施設・介護老人福祉施設以外の居住先で、有料老人ホーム、軽費老人ホーム、サ高住、認知症グループホーム等が該当する。

・記入のあった 522 施設を集計対象とした。

図表 42 平成 28 年 9 月 1 か月間に歯科医師が訪問した建物の数 (0 を除く)

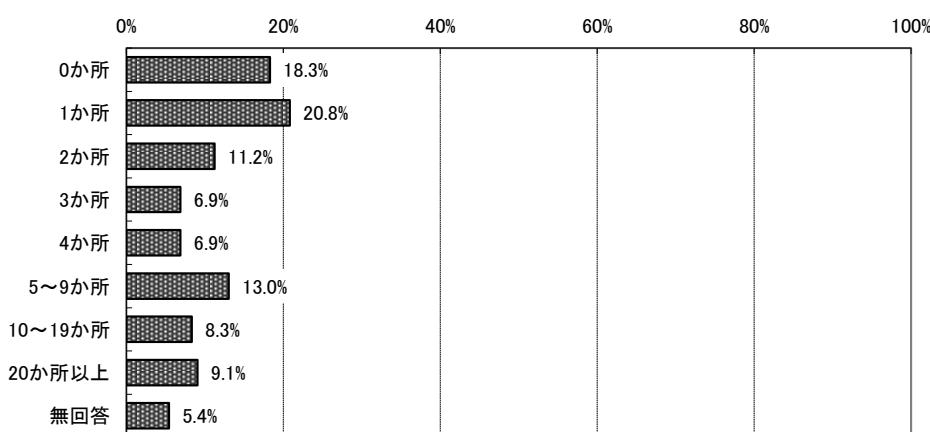
(単位 : か所)

	施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
歯科訪問診療で歯科医師が訪問した建物の数	421	10.7	24.3	3.0
(うち)自宅	295	9.8	23.6	2.0
(うち)居住系施設	210	3.6	4.4	2.0
(うち)介護老人保健施設	140	1.8	2.6	1.0
(うち)介護老人福祉施設	141	2.0	1.8	1.0
(うち)病院	150	1.6	1.2	1.0
(うち)その他	34	2.4	1.8	2.0

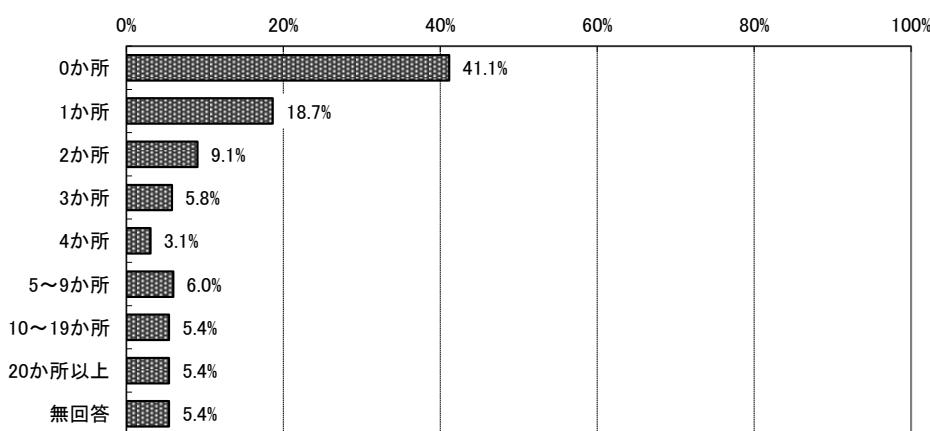
(注)・マンションなどの集合住宅の場合、「棟」単位とした。

- ・「自宅」とは、施設以外で、戸建て（持家・借家問わず）、団地・マンション等の集合住宅を指す。
- ・「居住系施設」とは、自宅及び介護老人保健施設・介護老人福祉施設以外の居住先で、有料老人ホーム、軽費老人ホーム、サ高住、認知症グループホーム等が該当する。
- ・平成 28 年 9 月 1 か月間に歯科医師が訪問した建物の数について、「0」という回答の施設を除いてそれぞれ集計対象とした。

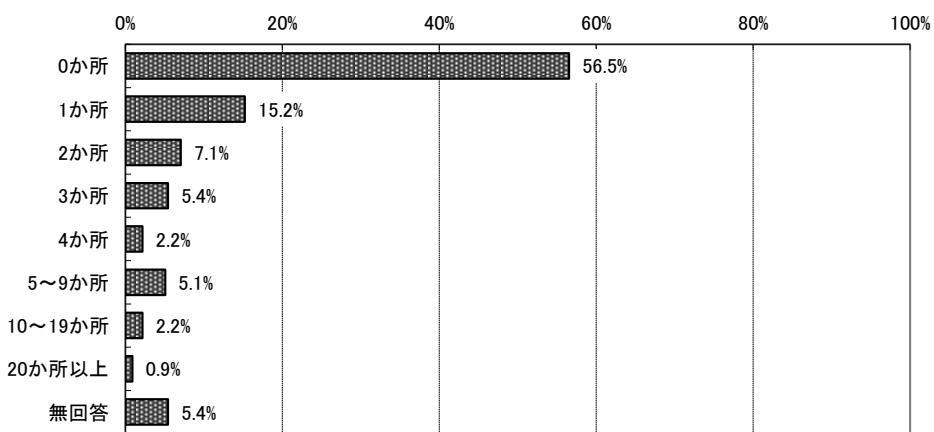
図表 43 平成 28 年 9 月 1 か月間に歯科医師が訪問した建物の数別分布 (n=552)



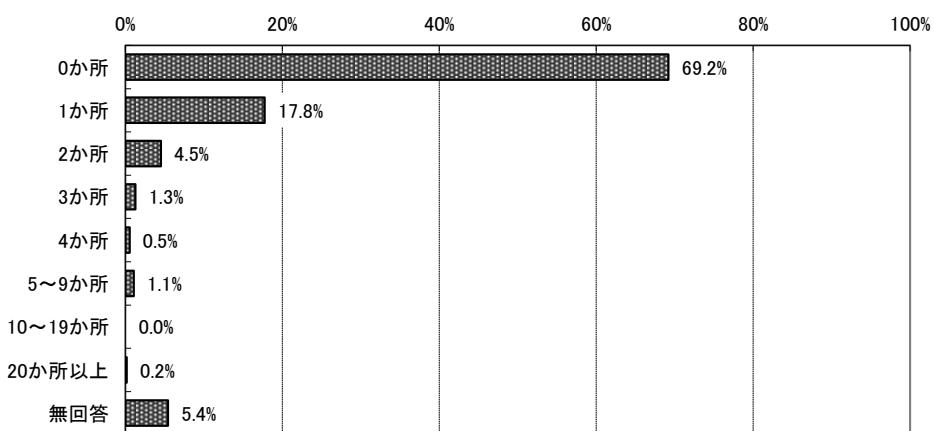
図表 44 平成 28 年 9 月 1 か月間に歯科医師が訪問した建物＜自宅＞の数別分布 (n=552)



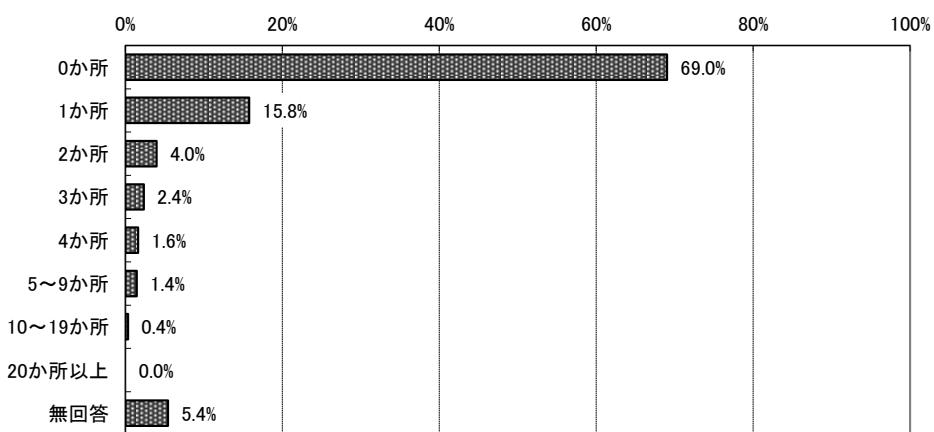
図表 45 平成 28 年 9 月 1 か月間に歯科医師が訪問した建物<居住系施設>の数別分布 (n=552)



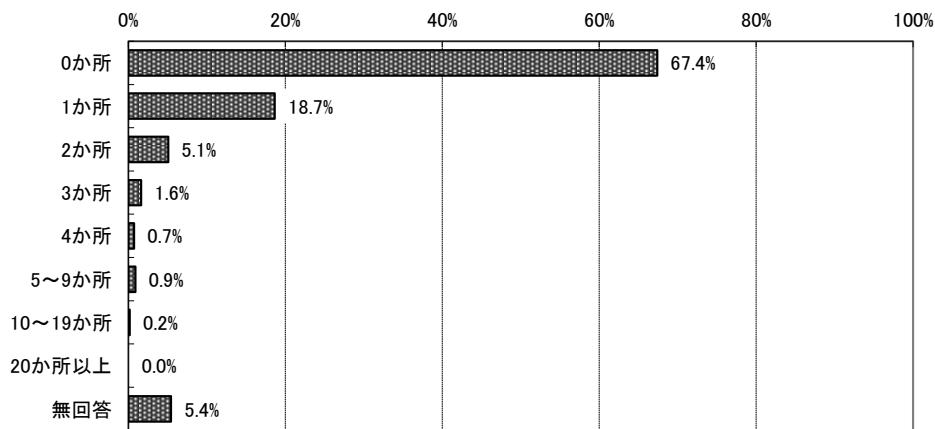
図表 46 平成 28 年 9 月 1 か月間に歯科医師が訪問した建物<介護老人保健施設>の数別分布 (n=552)



図表 47 平成 28 年 9 月 1 か月間に歯科医師が訪問した建物<介護老人福祉施設>の数別分布 (n=552)



図表 48 平成 28 年 9 月 1 か月間に歯科医師が訪問した建物＜病院＞の数別分布 (n=552)

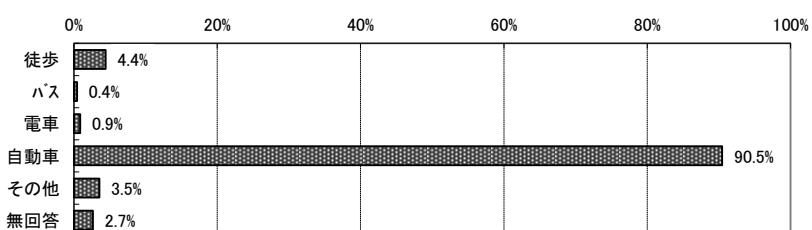


#### ⑨平成 28 年 9 月 1 か月間に歯科医師が歯科訪問診療を行った患者の居場所等

平成 28 年 9 月 1 か月間に歯科医師が歯科訪問診療を行った患者の居場所等は次のとおりである。

##### 1) 最も遠くに住む患者

図表 49 患家に訪問するのに用いる交通手段（複数回答、n=451）  
～最も遠くに住む患者～

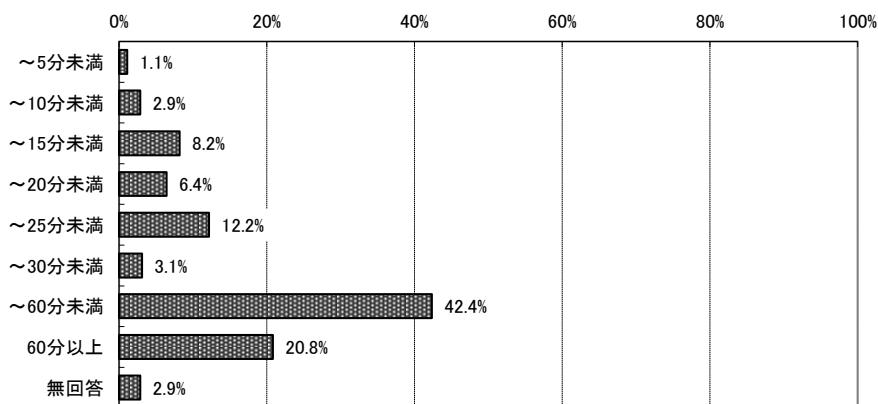


図表 50 患家までの移動に要する総時間（往復）(n=438)  
～最も遠くに住む患者～  
(単位：分)

平均値	標準偏差	中央値
38.8	25.5	34.5

(注) 患家までの移動に要する総時間について記入のあった 438 施設を集計の対象とした。

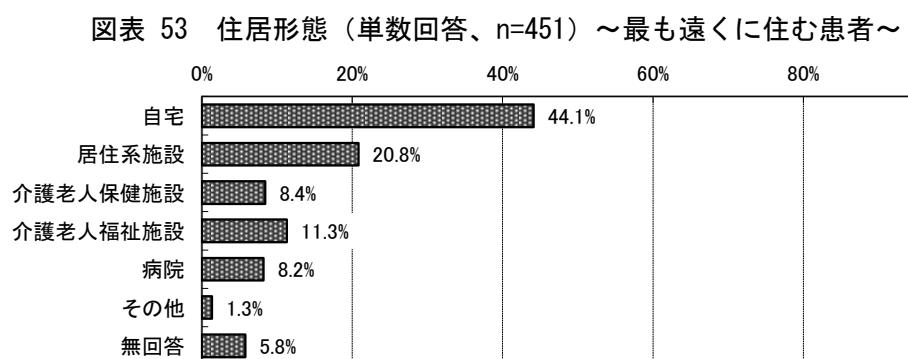
図表 51 患家までの移動に要する総時間（往復）別分布（n=451）  
～最も遠くに住む患者～



図表 52 当該患家の「単一建物診療患者数」（n=369）  
～最も遠くに住む患者～  
(単位：人)

平均値	標準偏差	中央値
3.4	8.6	1.0

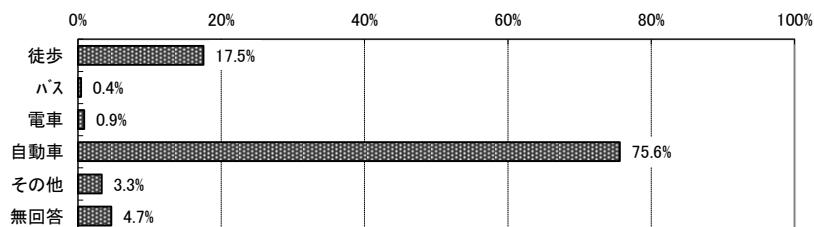
(注) 当該患家の「単一建物診療患者数」について記入のあった369施設を集計の対象とした。



## 2) 最も近くに住む患者

図表 54 患家に訪問するのに用いる交通手段（複数回答、n=451）

～最も近くに住む患者～



図表 55 患家までの移動に要する総時間（往復）（n=427）

～最も近くに住む患者～

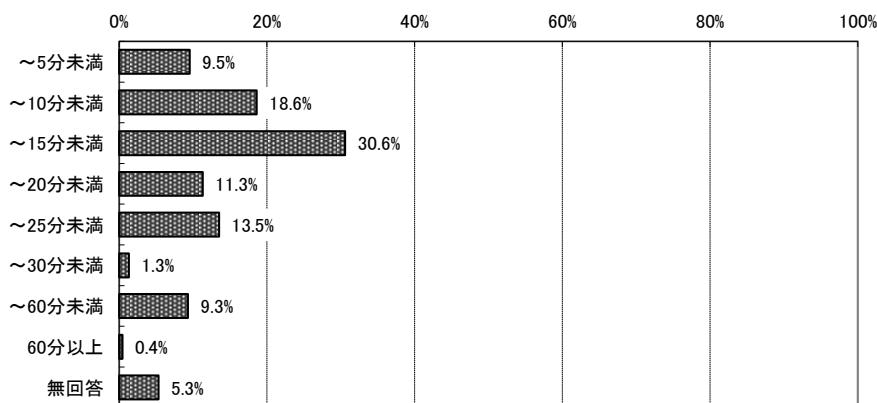
(単位：分)

平均値	標準偏差	中央値
13.5	10.1	10.0

(注) 患家までの移動に要する総時間について記入のあった 427 施設を集計の対象とした。

図表 56 患家までの移動に要する総時間（往復）別分布（n=451）

～最も近くに住む患者～



図表 57 当該患家の「单一建物診療患者数」（n=362）

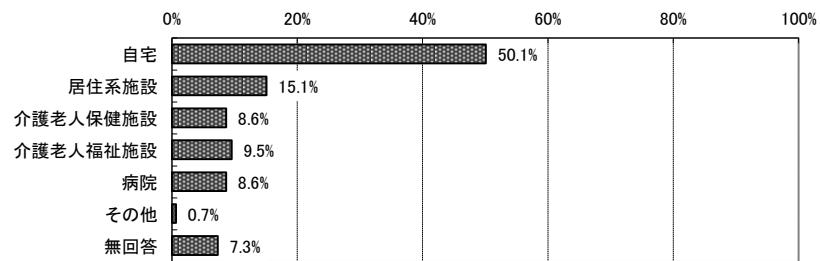
～最も近くに住む患者～

(単位：人)

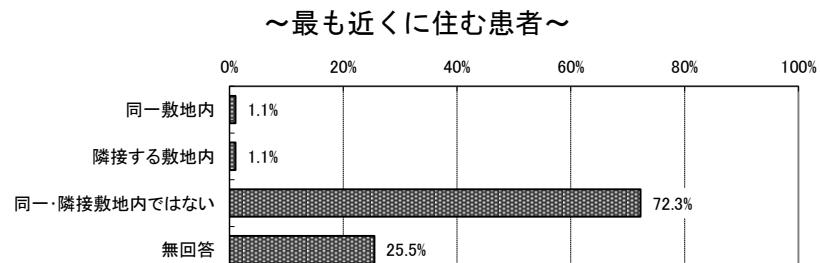
平均値	標準偏差	中央値
3.0	7.4	1.0

(注) 当該患家の「单一建物診療患者数」について記入のあった 362 施設を集計の対象とした。

図表 58 住居形態（単数回答、n=451）～最も近くに住む患者～



図表 59 自院と患者との位置関係（単数回答、n=451）



⑩主として歯科訪問診療を実施する診療所における歯科訪問診療等の実績

図表 60 平成 28 年 9 月 1 か月間の歯科訪問診療等の実績  
(主として歯科訪問診療を実施する診療所)

(単位：人)

	施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
歯科訪問診療等の患者総数(延べ人数)	6	228.8	166.8	176.5
歯科医師が歯科訪問診療を行った患者の実人数	6	125.3	66.4	125.0
歯科医師が居宅療養管理指導を行った患者の実人数	6	85.2	59.8	125.0
歯科医師の指示のもと、歯科衛生士のみで訪問し、訪問歯科衛生指導を実施した患者の実人数	6	80.2	90.4	56.0
「在宅患者訪問口腔リハビリテーション指導管理料」を算定した患者の実人数	6	1.0	2.4	0.0

図表 61 平成 28 年 9 月 1 か月間の歯科訪問診療等の患者総数（延べ人数）別分布  
(主として歯科訪問診療を実施する診療所)

	施設数(件)	構成割合
0～49人	0	0.0
50～99人	1	14.3
100～149人	1	14.3
150～199人	1	14.3
200～249人	1	14.3
250～299人	0	0.0
300～349人	0	0.0
350～399人	1	14.3
400人以上	1	14.3
無回答	1	14.3
全体	7	100.0

図表 62 平成 28 年 9 月 1 か月間に歯科医師が歯科訪問診療を行った患者の実人数別分布  
(主として歯科訪問診療を実施する診療所)

	施設数(件)	構成割合
0～49人	0	0.0
50～99人	3	42.9
100～149人	0	0.0
150～199人	2	28.6
200～249人	1	14.3
250～299人	0	0.0
300人以上	0	0.0
無回答	1	14.3
全体	7	100.0

図表 63 平成 28 年 9 月 1 か月間に歯科医師が居宅療養管理指導を行った患者の実人数別分布（主として歯科訪問診療を実施する診療所）

	施設数(件)	構成割合
0～49人	1	14.3
50～99人	3	42.9
100～149人	1	14.3
150～199人	1	14.3
200人以上	0	0.0
無回答	1	14.3
全体	7	100.0

図表 64 平成 28 年 9 月 1 か月間に、歯科医師の指示のもと、歯科衛生士のみで訪問し、訪問歯科衛生指導を実施した患者の実人数別分布（主として歯科訪問診療を実施する診療所）

	施設数(件)	構成割合
0人	2	28.6
1人	0	0.0
2人	0	0.0
3人	0	0.0
4人	0	0.0
5人以上	4	57.1
無回答	1	14.3
全体	7	100.0

図表 65 平成 28 年 9 月 1 か月間に、「在宅患者訪問口腔リハビリテーション指導管理料」を算定した患者の実人数別分布（主として歯科訪問診療を実施する診療所）

	施設数(件)	構成割合
0人	5	71.4
1人	0	0.0
2人	0	0.0
3人	0	0.0
4人	0	0.0
5人以上	1	14.3
無回答	1	14.3
全体	7	100.0

図表 66 歯科訪問診療 1 の算定回数別分布（平成 28 年 9 月 1 か月間）  
 (主として歯科訪問診療を実施する診療所)

	歯科訪問診療1		(うち)20分以上の診療が困難であった回数別分布	
	施設数(件)	構成割合	施設数(件)	構成割合
0回	1	14.3%	3	42.9%
1回	0	0.0%	0	0.0%
2回	0	0.0%	0	0.0%
3回	0	0.0%	0	0.0%
4回	0	0.0%	0	0.0%
5～9回	0	0.0%	0	0.0%
10～19回	1	14.3%	1	14.3%
20～29回	0	0.0%	0	0.0%
30回以上	3	42.9%	0	0.0%
無回答	2	28.6%	3	42.9%
全体	7	100.0%	7	100.0%

図表 67 歯科訪問診療 2 の算定回数別分布（平成 28 年 9 月 1 か月間）  
 (主として歯科訪問診療を実施する診療所)

	施設数(件)	構成割合
0回	0	0.0%
1回	0	0.0%
2回	0	0.0%
3回	0	0.0%
4回	0	0.0%
5～9回	2	28.6%
10～19回	0	0.0%
20～29回	0	0.0%
30回以上	3	42.9%
無回答	2	28.6%
全体	7	100.0%

図表 68 歯科訪問診療 3 の算定回数別分布（平成 28 年 9 月 1 か月間）  
 (主として歯科訪問診療を実施する診療所)

	歯科訪問診療3		(うち)20分未満の歯科訪問診療の算定回数別分布		(うち)同一建物で10人以上の患者の歯科訪問診療の算定回数別分布		(うち)20分未満かつ、同一建物で10人以上の患者の歯科訪問診療の算定回数別分布	
	施設数(件)	構成割合	施設数(件)	構成割合	施設数(件)	構成割合	施設数(件)	構成割合
0回	1	14.3%	1	14.3%	3	42.9%	3	42.9%
1回	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
2回	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
3回	1	14.3%	1	14.3%	0	0.0%	0	0.0%
4回	1	14.3%	1	14.3%	0	0.0%	0	0.0%
5～9回	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
10～19回	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
20～29回	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
30回以上	2	28.6%	2	28.6%	2	28.6%	2	28.6%
無回答	2	28.6%	2	28.6%	2	28.6%	2	28.6%
全体	7	100.0%	7	100.0%	7	100.0%	7	100.0%

図表 69 平成 28 年 9 月 1 か月間に歯科医師が訪問した建物の数別分布  
(主として歯科訪問診療を実施する診療所)

	施設数(件)	構成割合
0か所	0	0.0%
1か所	0	0.0%
2か所	0	0.0%
3か所	0	0.0%
4か所	0	0.0%
5～9か所	1	14.3%
10～19か所	1	14.3%
20か所以上	3	42.9%
無回答	2	28.6%
全体	7	100.0%

図表 70 平成 28 年 9 月 1 か月間に歯科医師が訪問した建物内訳  
(主として歯科訪問診療を実施する診療所)

	自宅		居住系施設		介護老人保健施設	
	施設数(件)	構成割合	施設数(件)	構成割合	施設数(件)	構成割合
0か所	1	14.3%	1	14.3%	2	28.6%
1か所	0	0.0%	0	0.0%	2	28.6%
2か所	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
3か所	1	14.3%	0	0.0%	0	0.0%
4か所	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
5～9か所	0	0.0%	3	42.9%	1	14.3%
10～19か所	1	14.3%	0	0.0%	0	0.0%
20か所以上	2	28.6%	1	14.3%	0	0.0%
無回答	2	28.6%	2	28.6%	2	28.6%
全体	7	100.0%	7	100.0%	7	100.0%

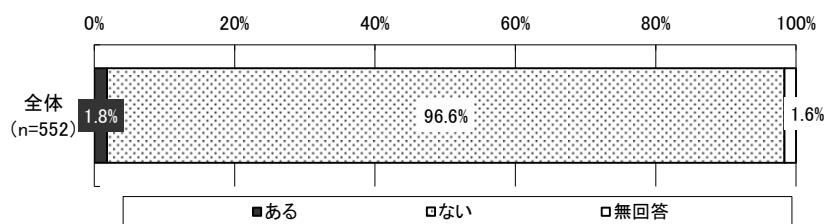
	介護老人福祉施設		病院		その他	
	施設数(件)	構成割合	施設数(件)	構成割合	施設数(件)	構成割合
0か所	5	71.4%	5	71.4%	4	57.1%
1か所	0	0.0%	0	0.0%	1	14.3%
2か所	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
3か所	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
4か所	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
5～9か所	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
10～19か所	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
20か所以上	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	2	28.6%	2	28.6%	2	28.6%
全体	7	100.0%	7	100.0%	7	100.0%

## (5) 歯科訪問診療等における取組内容

## ①歯科のある病院への歯科訪問診療等

平成28年4月以降、周術期口腔機能管理に関連して、歯科のある（歯科を標榜している）病院への歯科訪問診療等の有無をみると、「ある」は1.8%であった。

図表 71 歯科のある病院への歯科訪問診療等の有無



(注) 歯科訪問診療等を行っている552施設を集計対象とした。

平成28年4月以降、歯科のある（歯科を標榜している）病院に訪問するようになったきっかけをみると、「施設に通院していた患者からの依頼」が9施設（90.0%）であった。また、「病院の医師からの依頼」と「地域歯科医師会からの依頼・紹介」がともに3施設（30.0%）であった。

図表 72 歯科のある病院に訪問するようになったきっかけ（複数回答）

（歯科のある病院への歯科訪問診療等を行ったことがある施設）

	施設数(件)	構成割合
施設に通院していた患者からの依頼	9	90.0%
病院の歯科医師からの依頼	1	10.0%
病院の医師からの依頼	3	30.0%
地域歯科医師会からの依頼・紹介	3	30.0%
その他	0	0.0%
全体	10	100.0%

平成 28 年 4 月以降、歯科のある（歯科を標榜している）病院に訪問する場合の治療内容をみると、「義歯調整、有床義歯修理、有床義歯内面適合法」が 8 施設（80.0%）、「歯周病検査、歯周基本治療」、「口腔衛生指導」が各 7 施設（70.0%）であった。

図表 73 歯科のある病院に訪問する場合の治療内容（複数回答）  
(歯科のある病院への歯科訪問診療等を行ったことがある施設)

	施設数(件)	構成割合
周術期口腔機能管理計画の策定	1	10.0%
歯周病検査、歯周基本治療	7	70.0%
口腔衛生指導	7	70.0%
う蝕治療	3	30.0%
抜髓、感染根管治療	2	20.0%
抜歯	2	20.0%
義歯製作	3	30.0%
義歯調整、有床義歯修理、有床義歯内面適合法	8	80.0%
その他	0	0.0%
全体	10	100.0%

歯科のある（歯科を標榜している）病院の病院歯科との役割分担の内容をみると、「治療内容でそれぞれの分担を取り決めている」、「役割分担について特に取り決めはない」がそれぞれ 3 施設（30.0%）、「患者毎に担当を分担している」、「患者毎に、術前に必要な治療のみ施設が分担している」が各 2 施設（20.0%）であった。

図表 74 歯科のある病院の病院歯科との役割分担の内容（複数回答）  
(歯科のある病院への歯科訪問診療等を行ったことがある施設)

	施設数(件)	構成割合
患者毎に担当を分担している	2	20.0%
治療内容でそれぞれの分担を取り決めている	3	30.0%
患者毎に、術前に必要な治療のみ施設が分担している	2	20.0%
患者毎に、術前に必要な治療のみ病院の歯科が分担している	1	10.0%
役割分担について特に取り決めはない	3	30.0%
その他	1	10.0%
全体	10	100.0%

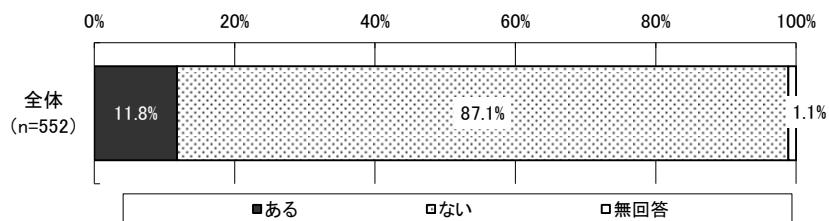
図表 75 治療内容でそれぞれの分担を取り決めている場合の自院の担当内容（複数回答）  
(「治療内容でそれぞれの分担を取り決めている」と回答した施設)

	施設数(件)	構成割合
周術期口腔機能管理計画の策定	0	0.0%
歯周病検査、歯周基本治療	1	33.3%
口腔衛生指導	2	66.7%
う蝕治療	1	33.3%
抜髓、感染根管治療	1	33.3%
抜歯	1	33.3%
義歯製作	2	66.7%
義歯調整、有床義歯修理、有床義歯内面適合法	2	66.7%
その他	0	0.0%
全体	3	100.0%

## ②在宅患者訪問口腔リハビリテーション指導管理料に関する取組状況等

平成28年4月以降、在宅患者訪問口腔リハビリテーション指導管理料の算定の有無をみると、「ある」は11.8%であった。

図表 76 在宅患者訪問口腔リハビリテーション指導管理料の算定の有無

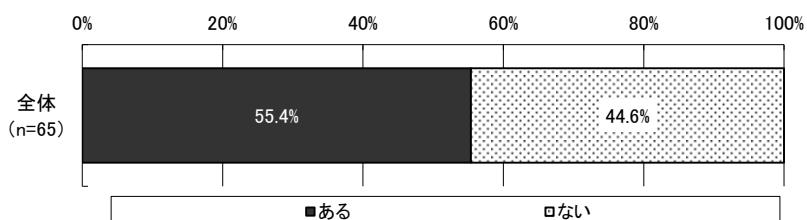


(注) 歯科訪問診療等を行っている552施設を集計対象とした。

平成28年4月以降に「在宅患者訪問口腔リハビリテーション指導管理料」を算定している施設における、平成28年3月以前の摂食機能療法の算定の有無をみると、「ある」が55.4%、「ない」が44.6%であった。

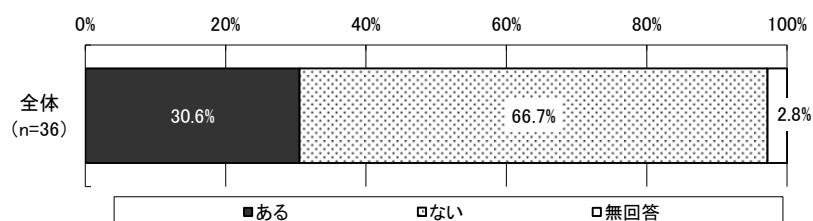
図表 77 平成28年3月以前の摂食機能療法の算定の有無

(平成28年4月以降、在宅患者訪問口腔リハビリテーション指導管理料の算定がある施設)



平成28年3月以前に摂食機能療法の算定が「ある」と回答した施設に対して、摂食機能療法から在宅患者訪問口腔リハビリテーション指導管理料を算定するようになって、対象患者や実際の診療内容に変化があったかどうかを尋ねたところ、「ある」と回答した施設が30.6%であった。

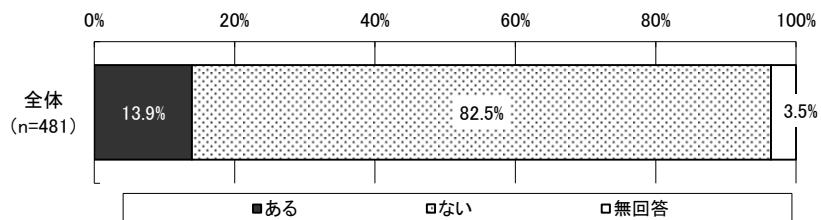
図表 78 摂食機能療法を算定した時と比較して対象患者や実際の診療内容における変化の有無(平成28年3月以前に摂食機能療法を算定したことが「ある」と回答した施設)



(注) 変化の内容としては「日常生活の幅の広がり」、「開口状態の改善」、「舌機能の改善」、「口腔内が清潔になる」、「咀嚼、嚥下の改善」、「食事時間の短縮」、「発語量が増えた」等が挙げられた。

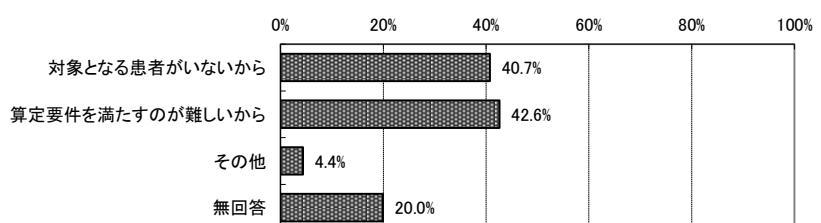
平成 28 年 4 月以降、在宅患者訪問口腔リハビリテーション指導管理料を算定していない施設における、平成 28 年 3 月以前の摂食機能療法の算定をみると、「ある」は 13.9% であった。

**図表 79 平成 28 年 3 月以前の摂食機能療法の算定の有無**  
(平成 28 年 4 月以降、在宅患者訪問口腔リハビリテーション指導管理料の算定がない施設)



平成 28 年 4 月以降、在宅患者訪問口腔リハビリテーション指導管理料を算定していない施設における、算定していない理由をみると、「算定要件を満たすのが難しいから」が 42.6% で最も多く、次いで「対象となる患者がいないから」(40.7%) であった。

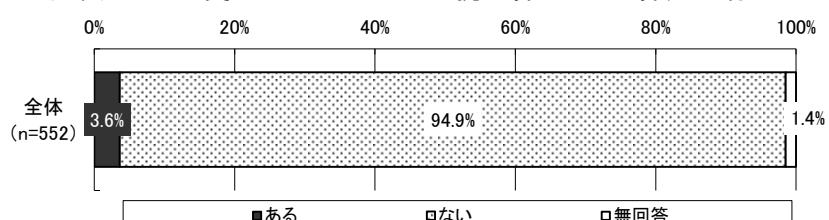
**図表 80 現在、在宅患者訪問口腔リハビリテーション指導管理料を算定していない理由 (複数回答、n=481)**  
(平成 28 年 4 月以降、在宅患者訪問口腔リハビリテーション指導管理料の算定がない施設)



### ③栄養サポートチーム連携加算に関する取組状況等

平成 28 年 4 月以降、栄養サポートチーム連携加算 1・2 の算定の有無をみると、「ある」は 3.6% であった。

**図表 81 栄養サポートチーム連携加算 1・2 の算定の有無**



(注) 歯科訪問診療等を行っている 552 施設を集計対象とした。

平成 28 年 4 月以降、栄養サポートチーム連携加算 1・2 を算定している施設における、NST やミールラウンド（食事観察）等に参加している施設数は次のとおりである。

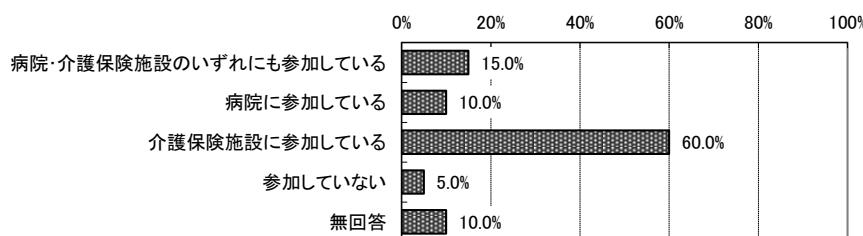
図表 82 NST やミールラウンド（食事観察）等に参加している施設数  
(栄養サポートチーム連携加算 1・2 を算定している施設)  
(単位：施設)

	施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
病院	18	0.4	0.9	0.0
介護保険施設	16	3.5	9.8	1.0

(注) 栄養サポートチーム連携加算 1・2 を算定している施設のうち、参加している施設数について記入のあった施設を集計の対象とした。

栄養サポートチーム連携加算 1・2 を算定している施設に対して、平成 28 年 3 月以前からの NST やミールラウンド（食事観察）等への参加状況をみると、「介護保険施設に参加している」が 60.0% で最も多く、次いで「病院・介護保険施設のいずれにも参加している」(15.0%) であった。

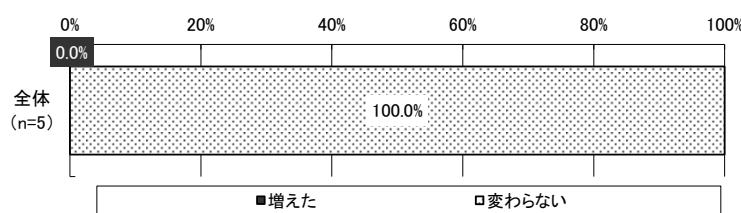
図表 83 平成 28 年 3 月以前からの NST やミールラウンド（食事観察）等への  
参加状況（栄養サポートチーム連携加算 1・2 を算定している施設、複数回答、n=20）



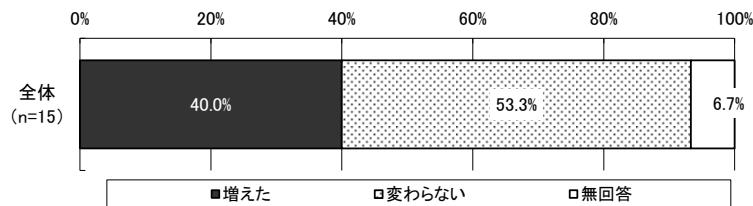
栄養サポートチーム連携加算 1・2 を算定している施設に対して、平成 28 年 4 月以降、NST やミールラウンド（食事観察）等への参加依頼が増えたかどうかを尋ねたところ、全ての施設が病院からの依頼については「変わらない」と回答した。

一方、介護保険施設からの依頼については「増えた」が 40.0% であった。

図表 84 平成 28 年 4 月以降の、NST やミールラウンド（食事観察）等への病院からの  
参加依頼の状況（栄養サポートチーム連携加算 1・2 を算定している施設）

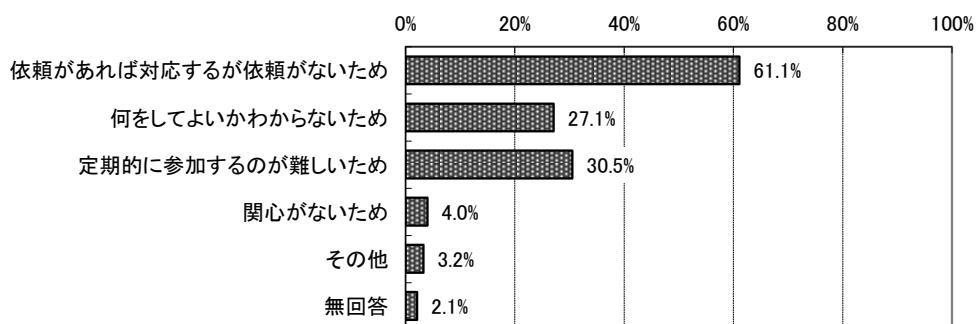


**図表 85 平成 28 年 4 月以降の、NST やミールラウンド（食事観察）等への  
介護保険施設からの参加依頼の状況  
(栄養サポートチーム連携加算 1・2 を算定している施設)**



平成 28 年 4 月以降、栄養サポートチーム連携加算 1・2 を算定していない施設における、その理由をみると、「依頼があれば対応するが依頼がないため」が 61.1% で最も多く、次いで「定期的に参加するのが難しいため」(30.5%)、「何をしてよいかわからないため」(27.1%) であった。

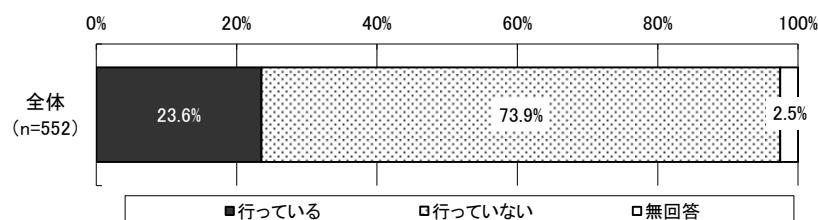
**図表 86 栄養サポートチーム連携加算 1・2 を算定していない理由 (複数回答、n=524)  
(平成 28 年 4 月以降、栄養サポートチーム連携加算 1・2 を算定していない施設)**



#### ④在宅歯科医療推進加算の届出状況

在宅歯科医療推進加算の届出状況をみると、届出を「行っている」が 23.6%、「行っていない」が 73.9% であった。

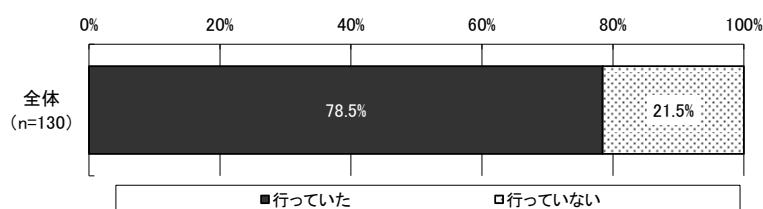
**図表 87 在宅歯科医療推進加算の届出の有無**



(注) 歯科訪問診療等を行っている 552 施設を集計対象とした。

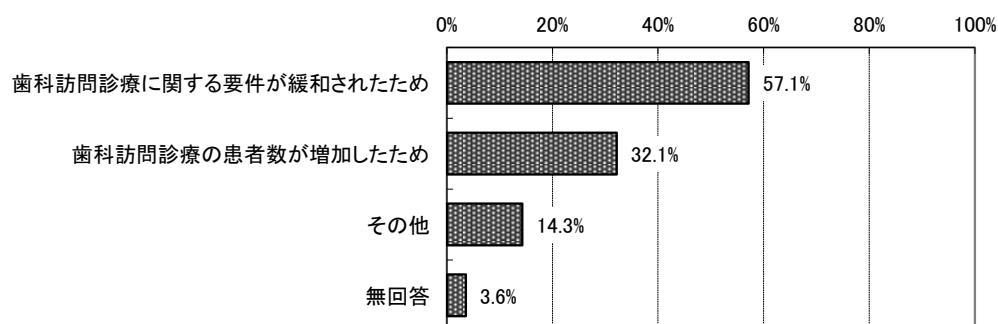
在宅歯科医療推進加算の届出を「行っている」施設に対して、平成28年3月以前の「在宅かかりつけ歯科診療所加算」の届出状況を尋ねたところ、届出を「行っていた」が78.5%、「行っていない」が21.5%であった。

図表 88 平成28年3月以前における「在宅かかりつけ歯科診療所加算」の届出状況  
(在宅歯科医療推進加算の届出を行っている施設)



平成28年3月以前は在宅かかりつけ歯科診療所加算の届出を行っていなかったが、平成28年4月以降、在宅歯科医療推進加算の届出を行った理由を尋ねたところ、「歯科訪問診療に関する要件が緩和されたため」が57.1%で最も多く、次いで「歯科訪問診療の患者数が増加したため」(32.1%)であった。

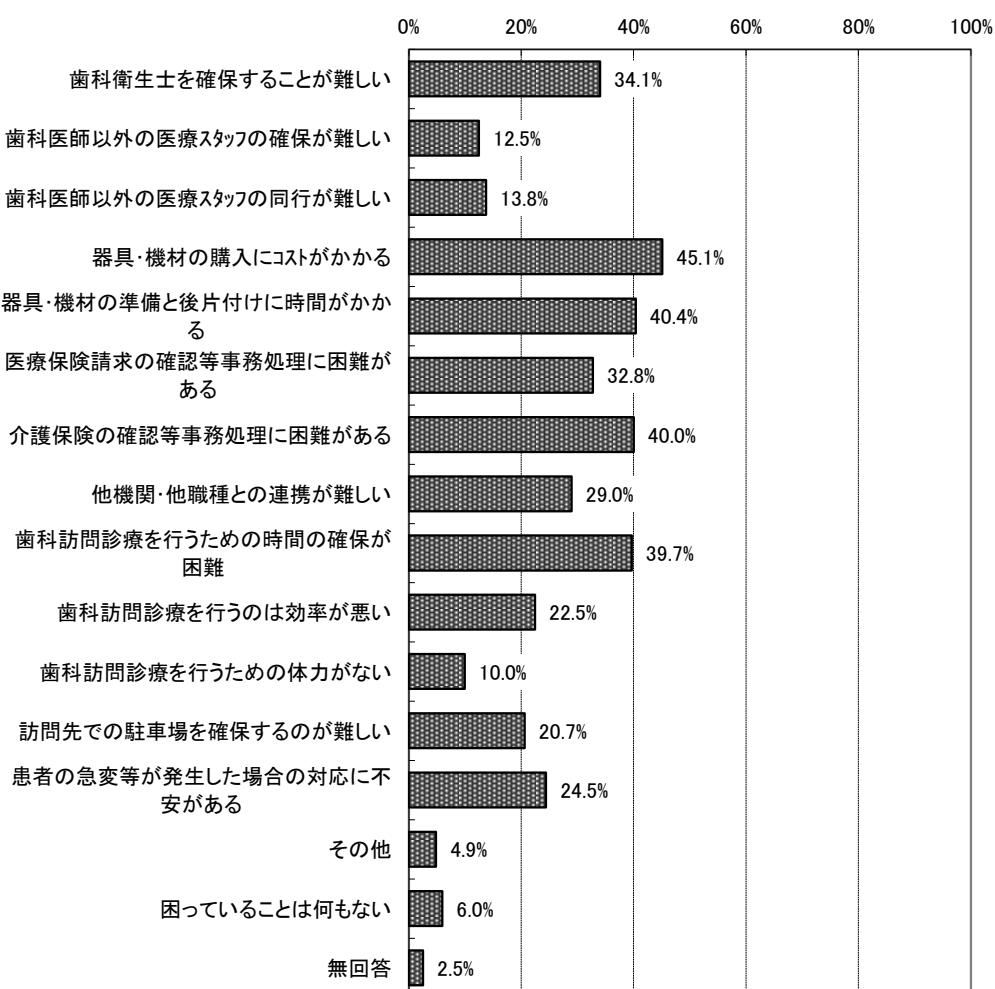
図表 89 平成28年4月以降、在宅歯科医療推進加算の届出を行った理由  
(平成28年3月以前に在宅かかりつけ歯科診療所加算の届出を行っていなかった施設)  
(複数回答、n=28)



## ⑤歯科訪問診療を行う上で困っていること

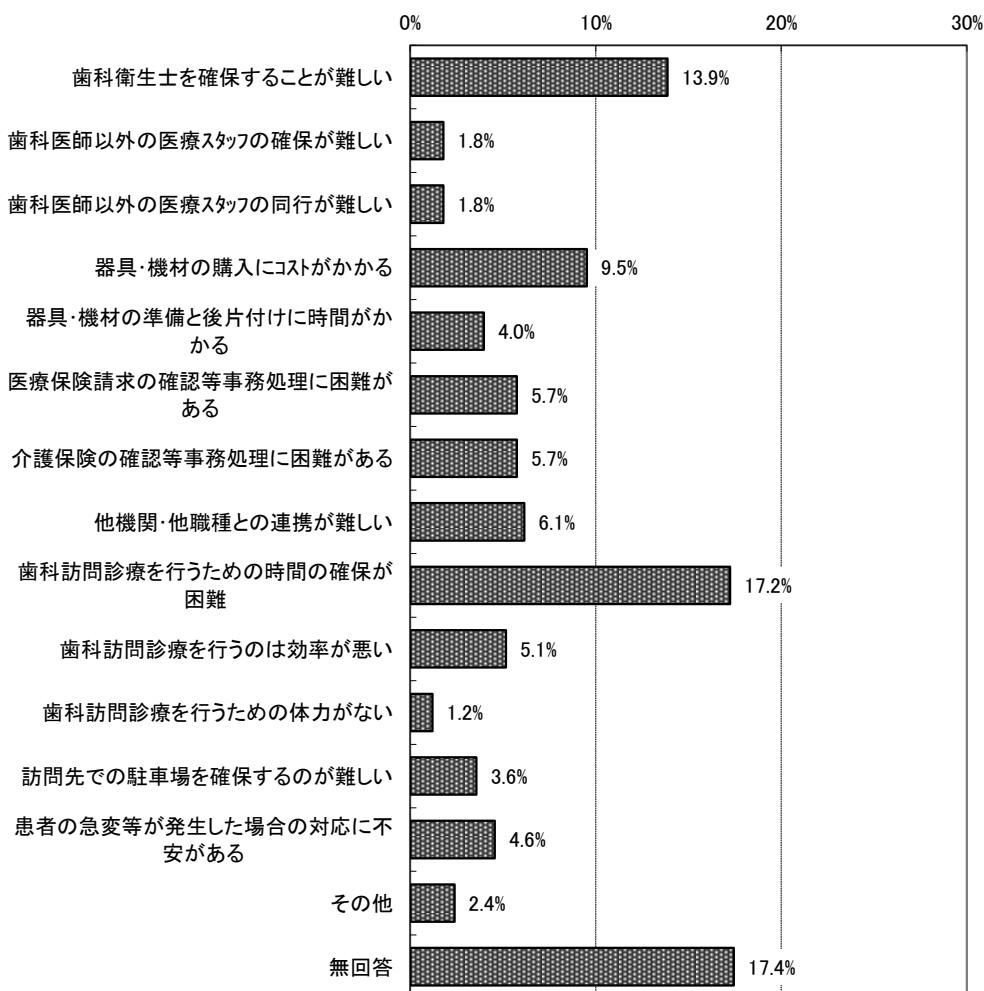
歯科訪問診療を行う上で困っていることをみると、「器具・機材の購入にコストがかかる」が45.1%で最も多く、次いで「器具・機材の準備と後片付けに時間がかかる」(40.4%)、「介護保険の確認等事務処理に困難がある」(40.0%)、「歯科訪問診療を行うための時間の確保が困難」(39.7%)であった。

**図表 90 歯科訪問診療を行う上で困っていること  
(歯科訪問診療を行っている施設、複数回答、n=552)**



歯科訪問診療を行う上で最も困っていることをみると、「歯科訪問診療を行うための時間の確保が困難」が 17.2%で最も多く、次いで「歯科衛生士を確保することが難しい」(13.9%)、「器具・機材の購入にコストがかかる」(9.5%) であった。

**図表 91 歯科訪問診療を行う上で最も困っていること  
(歯科訪問診療を行っている施設、単数回答、n=505)**



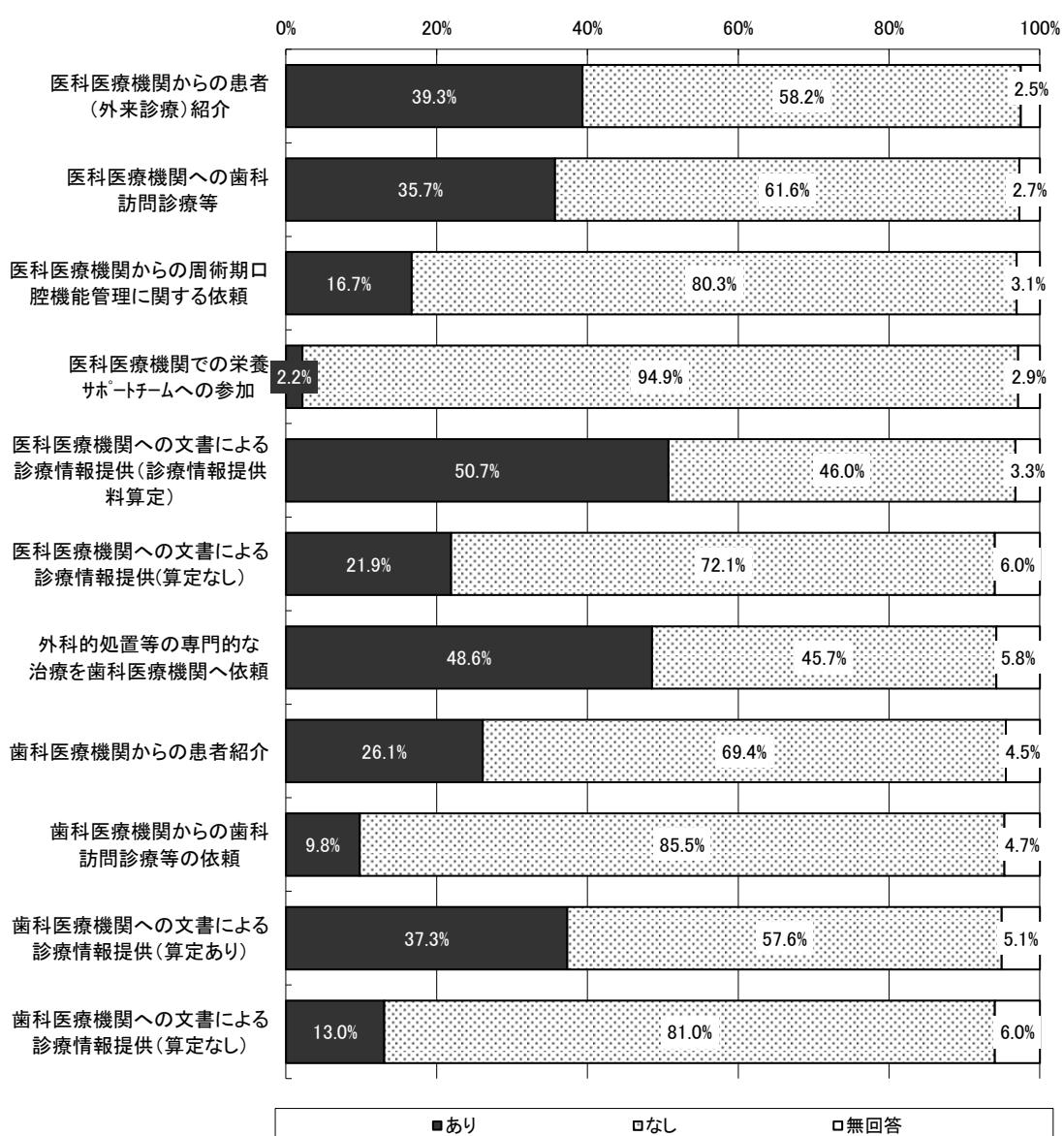
(注)「歯科訪問診療を行う上で困っていること」について無回答だった施設を除く施設を集計対象とした。

## (6) 他施設等との連携状況

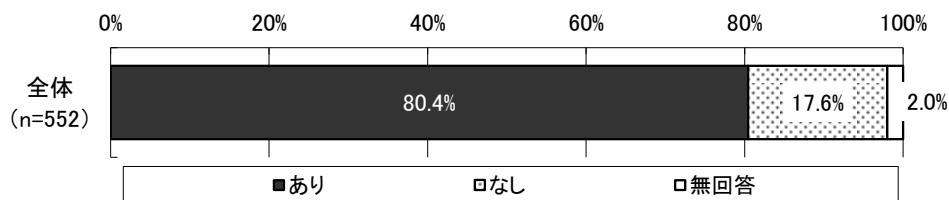
## ①医科医療機関・歯科医療機関との患者紹介や情報提供・共有等

平成28年8月～10月の3か月間における、医科医療機関・歯科医療機関との患者紹介や情報提供・共有等をみると、「あり」の割合が高かったのは、「医科医療機関への文書による診療情報提供（診療情報提供料算定）」が（50.7%）、「外科的処置等の専門的な治療を歯科医療機関へ依頼」（48.6%）であった。一方、「医科医療機関での栄養サポートチームへの参加」（2.2%）は特に「あり」の割合が低かった。

図表 92 医科医療機関・歯科医療機関との患者紹介や情報提供・共有等 (n=552)



図表 93 医科医療機関・歯科医療機関との連携の有無



(注) 前の図表に記載の連携内容についていずれか1つでも行っているものを「あり」、いずれも行っていないものを「なし」、それ以外（「なし」+無回答、すべて無回答）を「無回答」として集計した結果である。

図表 94 診療情報提供料を算定していないが文書による情報提供を行っている場合の具体的な内容（自由記述式）

## ○医科

- ・当日の診療内容、実地指導状況、次回の予定等について等の経過報告。
- ・口腔清掃ができていない部位のブラッシング指導や義歯の洗浄方法など。
- ・病棟でのフォローの依頼。
- ・全身疾患の照会。
- ・服薬の確認。
- ・高血圧治療薬による歯肉増殖のため、処方薬の変更依頼。
- ・投薬について注意の必要があるか否かを確認。
- ・抜歯可否についての問合せ。
- ・休薬依頼。
- ・医科依頼でないVE（嚥下内視鏡）検査の結果報告。

## ○歯科

- ・歯列不正、咬合異常。
- ・抜歯依頼。
- ・処置に対するセカンドオピニオンのために紹介。
- ・小児の治療困難な場合。
- ・大学歯科への依頼（口腔外科）。
- ・口腔内腫瘍等

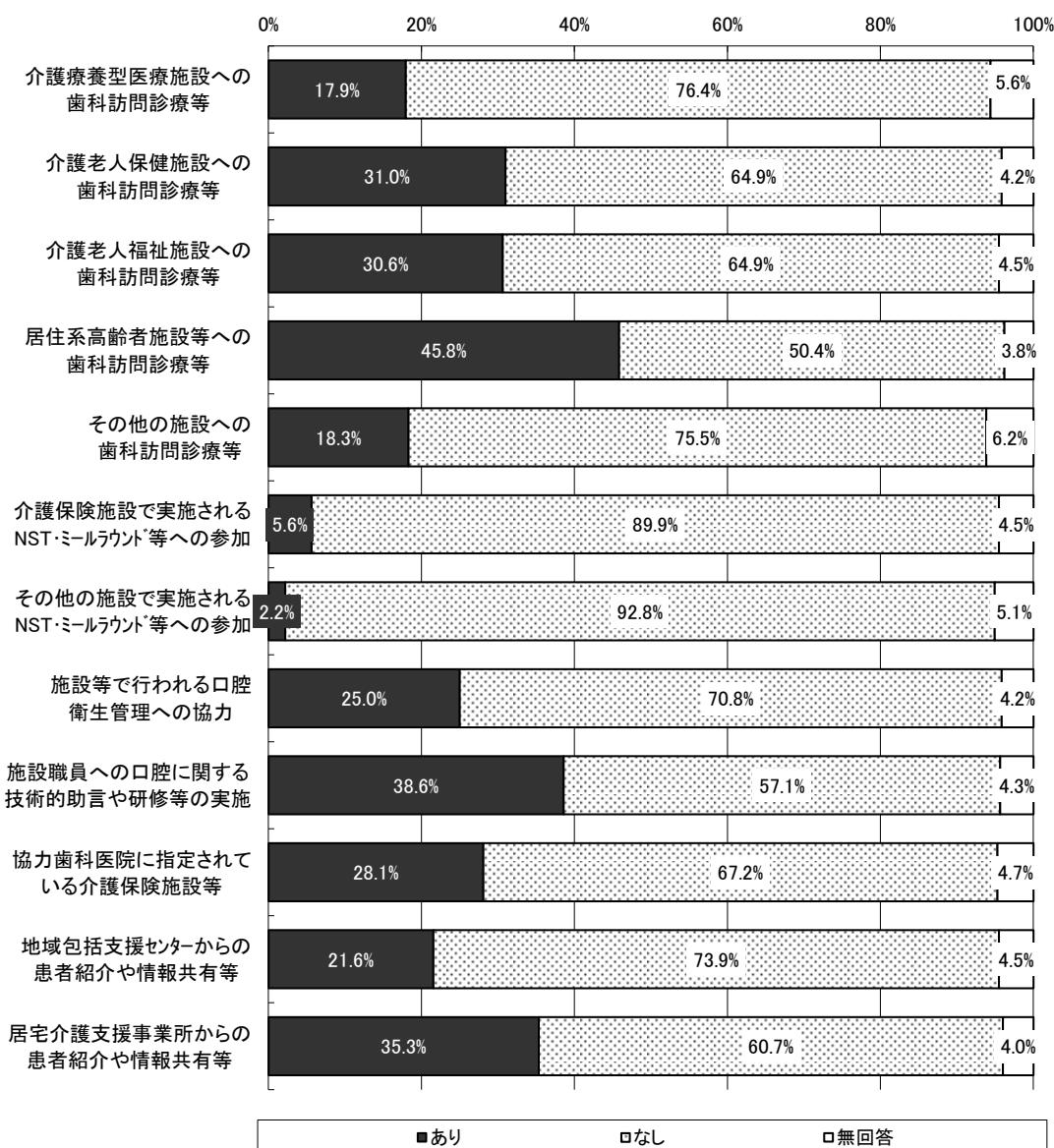
## ○その他

- ・同月2回目の文書のため未算定。
- ・同法人内の情報提供。
- ・情報提供に対する返信。

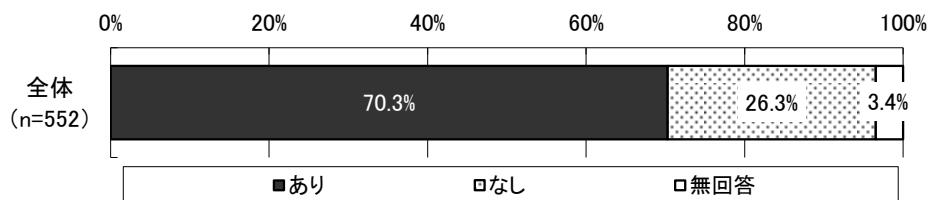
## ②介護保険施設等との連携状況

平成 28 年 8 月～10 月の 3 か月間における、介護保険施設等との連携状況をみると、「あり」の割合が高かったのは、「居住系高齢者施設等への歯科訪問診療等」(45.8%)、「施設職員への口腔に関する技術的助言や研修等の実施」(38.6%) であった。一方、「その他の施設で実施される NST・ミールラウンド等への参加」(2.2%) は特に「あり」の割合が低かった。

図表 95 介護保険施設等との連携状況 (n=552)



図表 96 介護保険施設等との連携の有無



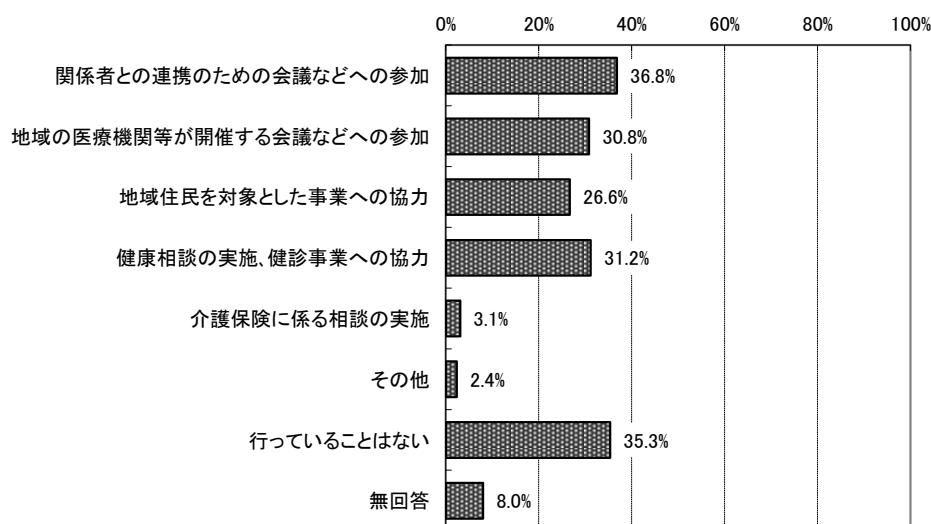
(注) 前の図表に記載の連携内容についていずれか1つでも行っているものを「あり」、いずれも行っていないものを「なし」、それ以外（「なし」+無回答、すべて無回答）を「無回答」として集計した結果である。

### ③地域の在宅医療・介護等を担う医療機関・事業所との連携等

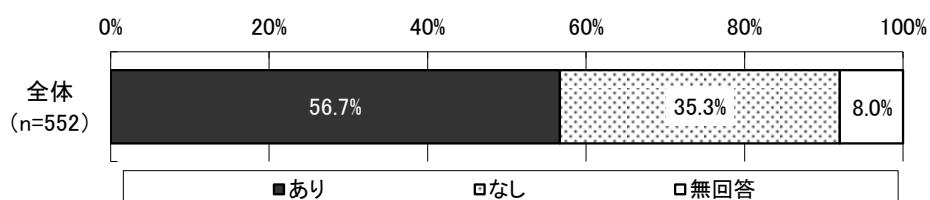
地域の在宅医療・介護等を担う医療機関・事業所との連携等をみると、「関係者との連携のための会議などへの参加」が36.8%、「健康相談の実施、健診事業への協力」が31.2%、「地域の医療機関等が開催する会議などへの参加」が30.8%であった。一方、「行っていることはない」が35.3%であった。

図表 97 地域の在宅医療・介護等を担う医療機関・事業所との連携等

(複数回答、n=552)



図表 98 地域の在宅医療・介護等を担う医療機関・事業所とのその他の連携等の有無

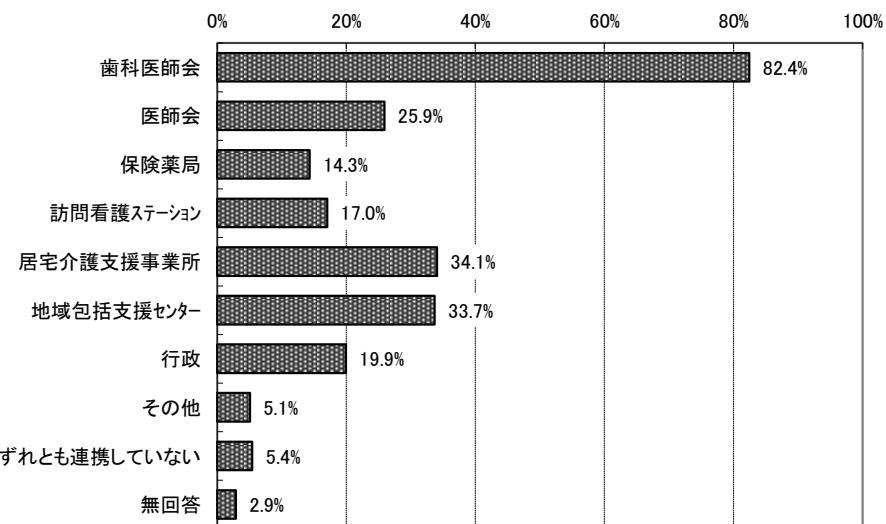


(注) 前の図表に記載の連携内容についていずれか1つでも行っているものを「あり」、いずれも行っていないものを「なし」、それ以外（「なし」+無回答、すべて無回答）を「無回答」として集計した結果である。

#### ④連携している機関等

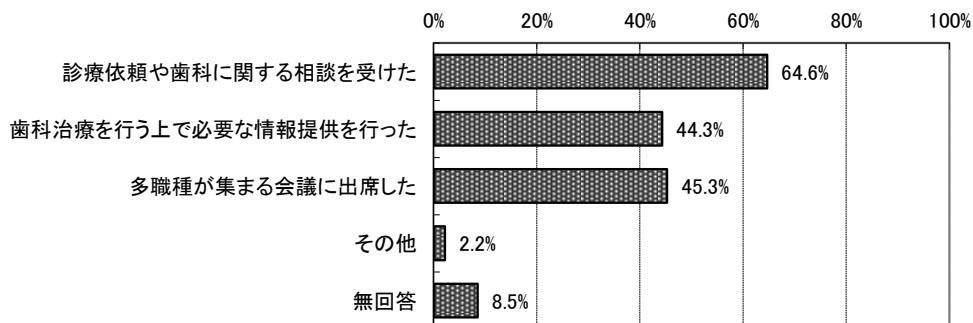
連携している機関等は次のとおりである。

図表 99 連携している機関等（複数回答、n=552）



上記の機関との連携内容は次のとおりである。

図表 100 連携内容等（連携機関等がある施設、複数回答、n=506）



## ⑤連携する上で困っていること

連携する上で困っていることを自由記述式で記載していただいた内容は次のとおりである。

図表 101 連携する上で困っていること（自由記述式）

### ○情報共有

- ・集まる時間が診療時間と重なり参加できない。地域連絡のできるSNSなどがあれば良い。
- ・医科との情報の交換をやりやすくしてほしい。条件が厳しい。よく理解できない。
- ・医科からの情報提供は全くない。
- ・医科の先生方の訪問診療における歯科への関心の無さ。
- ・お互いがお互いの仕事について無理解・理解不足。
- ・他医療機関や他施設での診断結果や生活状況が不明。またこちらの情報が他施設で反映されているのかも不明。
- ・ケアマネジャーに協力してもらえない。
- ・歯科訪問診療に関わる職種で、連携などに関する会合がない。
- ・歯科医師の介護現場に関する知識の圧倒的な不足。
- ・病院施設等の訪問対象患者とのコーディネイト役がわからない。
- ・どのように連携を進めるべきかわからない。
- ・患者の体調が急変した際、病院・居宅介護支援事業所・地域包括支援センター等からの連絡がない。

### ○認知症等の病気のある患者

- ・どこまで介入（治療）していいのか判断に迷う。応急処置で終了。
- ・口腔状態や全身レベルが下がってから診療依頼がある場合が多い。
- ・病気のある人に対する抜歯で困っている。

### ○時間の調整

- ・時間の確保。
- ・時間の調整。

### ○理解の低さ

- ・歯科訪問診療への理解度が低い（特に口腔ケア、口腔機能管理の必要性について）。
- ・介護施設により口腔（歯科）に対する意識レベルの差があり、効果に支障を来たす。

### ○診療点数

- ・歯科訪問診療料2と3の点数が低すぎて経営効率が悪い。
- ・点数が低く、人が手配できない。

### ○その他

- ・依頼が少ない。
- ・一部負担金の徴収に困ることがある。

## (7) 調査日における歯科訪問診療等

※調査日：平成28年9月1日～9月30日の間で1日の歯科訪問診療等の実績が  
最も多かった日

## ①歯科訪問診療等を行った職員数

歯科訪問診療等を行った職員数は次のとおりである。

図表 102 歯科訪問診療等を行った職員数

(単位：人)

	施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
歯科医師	543	1.2	1.6	1.0
歯科衛生士	542	1.3	1.9	1.0
その他の職員	541	0.4	1.2	0.0
合計	543	2.8	4.1	2.0

(注) 記入のあった543施設を集計対象とした。

## ②歯科訪問診療等を行った患者数

調査日1日に歯科訪問診療等を行った患者数は次のとおりである。

図表 103 歯科訪問診療等を行った患者数 (n=475)

(単位：人)

	歯科訪問診療等を行った患者数／日			同一建物内の患者数／日		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
歯科医師のみが訪問	0.9	3.3	0.0	0.7	3.0	0.0
歯科医師及び歯科衛生士が訪問	4.1	11.1	1.0	3.2	10.1	0.0
歯科医師及びその他の職員が訪問	0.4	2.9	0.0	0.3	1.7	0.0
歯科医師、歯科衛生士及びその他の職員が訪問	1.7	6.3	0.0	1.3	5.3	0.0
歯科医師の指示のもとに歯科衛生士が訪問	0.8	4.0	0.0	0.6	3.5	0.0

(注) • 歯科訪問診療等を行った患者数について全て記入した475施設を集計対象とした。

- 「歯科医師の指示のもとに歯科衛生士が訪問」とは、歯科医師の指示のもとに歯科衛生士のみ（もしくは歯科衛生士と歯科医師以外の職種）が訪問したものと指す。

### ③歯科訪問診療等の診療等合計時間

調査日 1 日の歯科訪問診療等の診療等合計時間は次のとおりである。

図表 104 歯科訪問診療等の診療等合計時間／日 (n=475)

(単位：分)

	平均値	標準偏差	中央値
歯科医師のみが訪問	21.7	63.6	0.0
歯科医師及び歯科衛生士が訪問 歯科医師の診療時間	59.1	134.2	0.0
歯科医師及び歯科衛生士が訪問 歯科衛生士の指導時間	49.2	160.6	0.0
歯科医師及びその他の職員が訪問	11.7	74.8	0.0
歯科医師、歯科衛生士及びその他の職員が訪問 歯科医師の診療時間	29.7	100.9	0.0
歯科医師、歯科衛生士及びその他の職員が訪問 歯科衛生士の指導時間	21.0	104.1	0.0
歯科医師の指示のもとに歯科衛生士が訪問	14.9	81.7	0.0

- (注) • 歯科訪問診療等の診療等合計時間について記入のあった施設を集計対象とした。  
 • 「歯科医師の指示のもとに歯科衛生士が訪問」とは、歯科医師の指示のもとに歯科衛生士のみ（もしくは歯科衛生士と歯科医師以外の職種）が訪問したものと指す。

### 3. 患者調査

#### 【調査対象等】

調査対象：施設調査の対象施設が調査日に歯科訪問診療を行った患者 1 施設に最大 2 名。

回答数：768 件

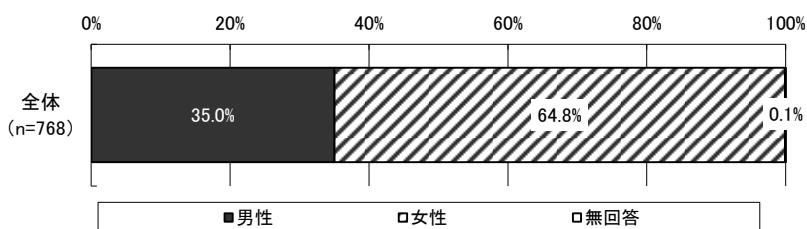
回答者：管理者

#### (1) 患者の基本属性等

##### ①患者の性別

歯科訪問診療等を行った患者の性別は次のとおりである。

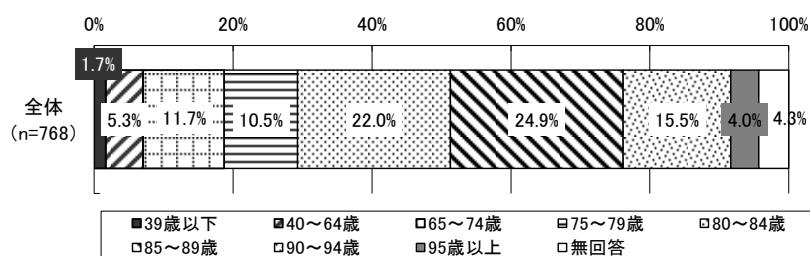
図表 105 患者の性別



##### ②患者の年齢

歯科訪問診療等を行った患者の年齢は次のとおりである。

図表 106 患者の年齢



図表 107 患者の平均年齢

(単位：歳)

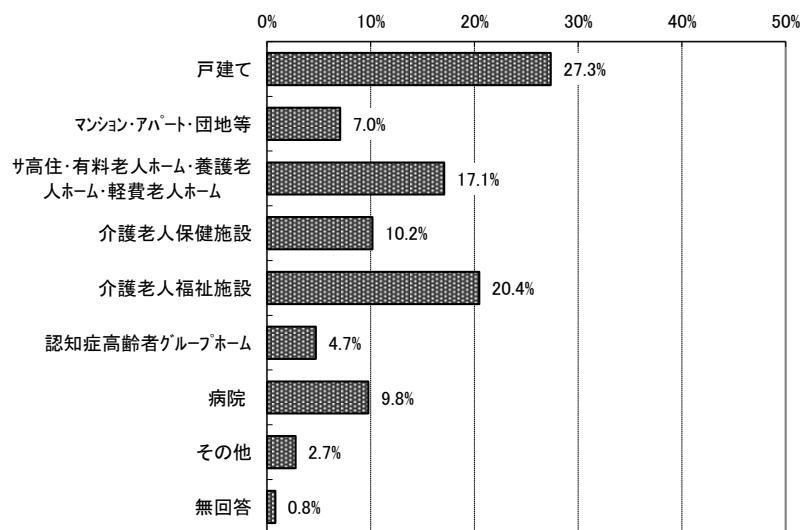
患者数(人)	平均値	標準偏差	中央値
735	81.2	11.9	84.0

(注) 年齢について記入のあった施設を集計対象とした。

### ③訪問先の建物種別

訪問先の建物種別をみると、「戸建て」が27.3%で最も多く、次いで「介護老人福祉施設」(20.4%)、「サ高住・有料老人ホーム・養護老人ホーム・軽費老人ホーム」(17.1%)であった。

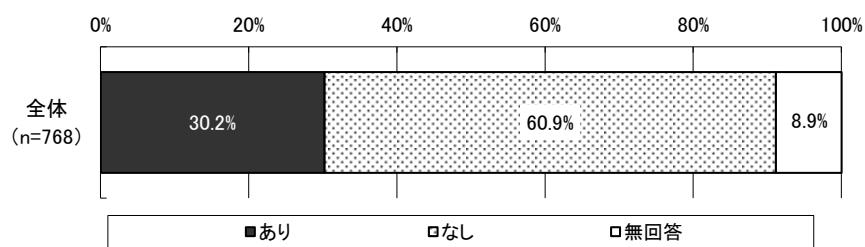
図表 108 訪問先の建物種別（単数回答、n=768）



### ④同居家族の有無

同居家族の有無をみると、「あり」が30.2%、「なし」が60.9%であった。

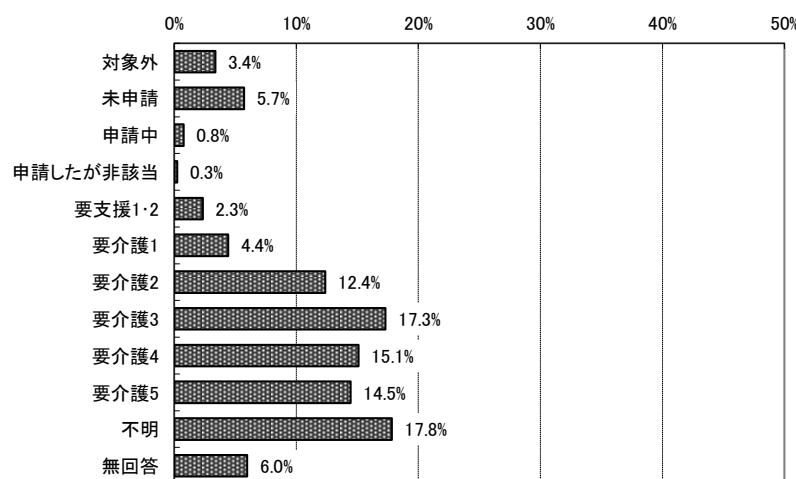
図表 109 同居家族の有無



## ⑤要介護度

要介護度をみると、「要介護3」が17.3%、「要介護4」が15.1%、「要介護5」が14.5%であった。また、「不明」が17.8%であった。

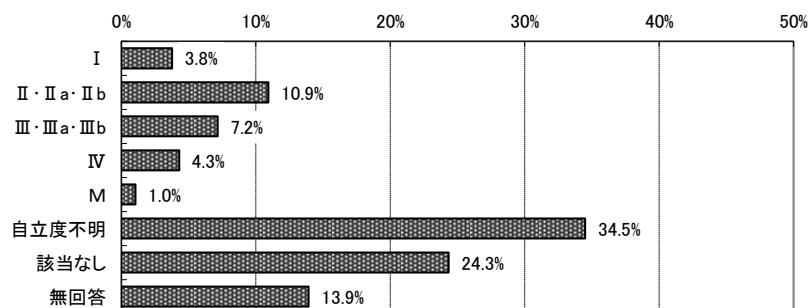
図表 110 要介護度（単数回答、n=768）



## ⑥認知症高齢者の日常生活自立度

認知症高齢者の日常生活自立度は次のとおりである。

図表 111 認知症高齢者の日常生活自立度（単数回答、n=768）

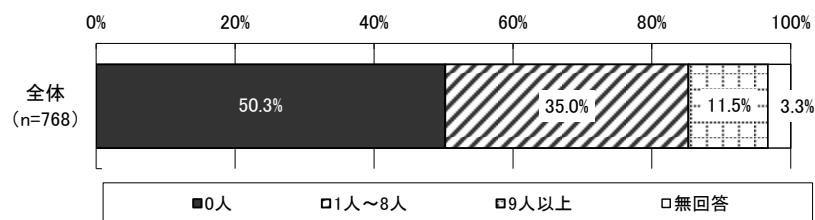


## (2) 歯科訪問診療等の内容

### ①同一建物内における歯科訪問診療を行った患者数

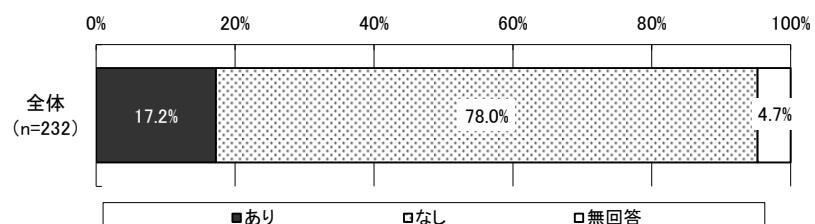
同一日の、同一建物内における歯科訪問診療を行った患者数（当該患者を除く）をみると、「0人」が50.3%、「1人～8人」が35.0%、「9人以上」が11.5%であった。

図表 112 同一建物内における歯科訪問診療を行った患者数



調査日における同居家族に対する歯科訪問診療の有無をみると、「あり」が17.2%、「なし」が78.0%であった。

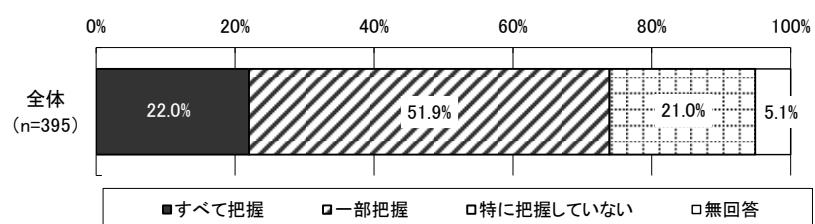
図表 113 調査日の同居家族に対する歯科訪問診療の有無  
(同居家族のある患者)



### ②当該患者の在宅医療・介護サービスの把握状況

当該患者の在宅医療・介護サービスの把握状況をみると、「全て把握」が22.0%、「一部把握」が51.9%、「特に把握していない」が21.0%であった。

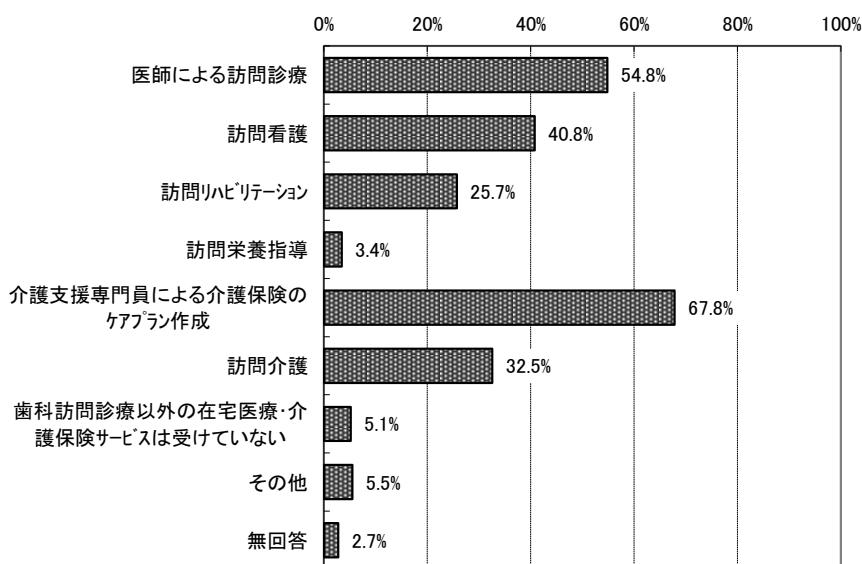
図表 114 当該患者の在宅医療・介護サービスの把握状況



### ③歯科訪問診療以外に当該患者が受けている在宅医療・介護サービスの内容

歯科訪問診療以外に当該患者が受けている在宅医療・介護サービスの内容をみると、「介護支援専門員による介護保険のケアプラン作成」が 67.8%で最も多く、次いで「医師による訪問診療」(54.8%)、「訪問看護」(40.8%)、「訪問介護」(32.5%)、「訪問リハビリテーション」(25.7%) であった。

**図表 115 歯科訪問診療以外に当該患者が受けている在宅医療・介護サービスの内容  
(サービス内容を把握している患者、複数回答、n=292)**

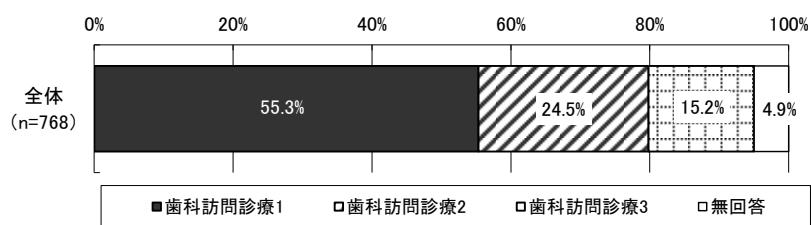


(注) 当該患者の在宅医療・介護サービスの利用状況を「すべて把握」または「一部把握」と回答のあったものを対象に尋ねた質問である。

### ④算定した歯科訪問診療料の種類

算定した歯科訪問診療料の種類をみると、「歯科訪問診療 1」が 55.3%、「歯科訪問診療 2」が 24.5%、「歯科訪問診療 3」が 15.2%であった。

**図表 116 算定した歯科訪問診療料の種類**



図表 117 算定した歯科訪問診療料の種類（訪問先別）

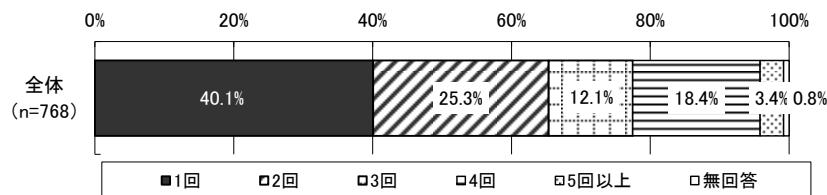
(単位：上段「人」、下段「%」)

	総数	歯科訪問 診療1	歯科訪問 診療2	歯科訪問 診療3	無回答
全体	768	425	188	117	38
	100.0	55.3	24.5	15.2	4.9
戸建て	210	198	3	0	9
	100.0	94.3	1.4	0.0	4.3
マンション・アパート・団地等	54	49	0	0	5
	100.0	90.7	0.0	0.0	9.3
サ高住・有料老人ホーム・養護老人ホーム・ 軽費老人ホーム	131	56	55	16	4
	100.0	42.7	42.0	12.2	3.1
介護老人保健施設	78	27	19	24	8
	100.0	34.6	24.4	30.8	10.3
介護老人福祉施設	157	32	67	51	7
	100.0	20.4	42.7	32.5	4.5
認知症高齢者グループホーム	36	16	14	5	1
	100.0	44.4	38.9	13.9	2.8
病院	75	36	23	15	1
	100.0	48.0	30.7	20.0	1.3
その他	21	8	7	3	3
	100.0	38.1	33.3	14.3	14.3

### ⑤1か月間における歯科訪問診療の頻度

平成28年9月1か月間における歯科訪問診療の頻度をみると、「1回」が40.1%で最も多く、次いで「2回」(25.3%)、「4回」(18.4%)、「3回」(12.1%)、「5回以上」(3.4%)であった。

図表 118 1か月間における歯科訪問診療の頻度



図表 119 1か月間における歯科訪問診療の頻度（算定した歯科訪問診療料別）

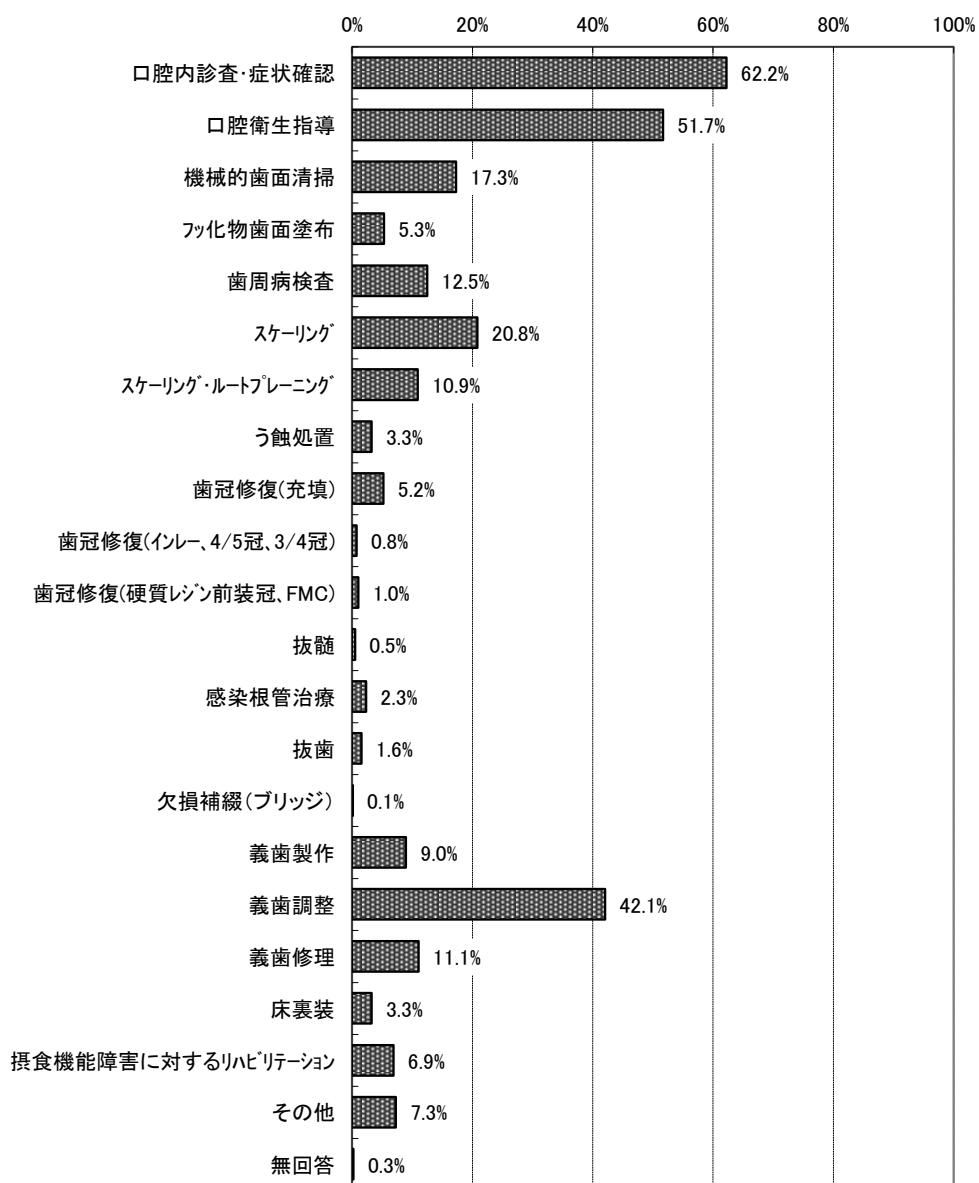
(単位：上段「人」、下段「%」)

	総数	1回	2回	3回	4回以上	無回答
全体	768	308	194	93	167	6
	100.0	40.1	25.3	12.1	21.7	0.8
歯科訪問診療1	425	181	116	47	76	5
	100.0	42.6	27.3	11.1	17.9	1.2
歯科訪問診療2	188	78	42	22	45	1
	100.0	41.5	22.3	11.7	23.9	0.5
歯科訪問診療3	117	37	24	19	37	0
	100.0	31.6	20.5	16.2	31.6	0.0

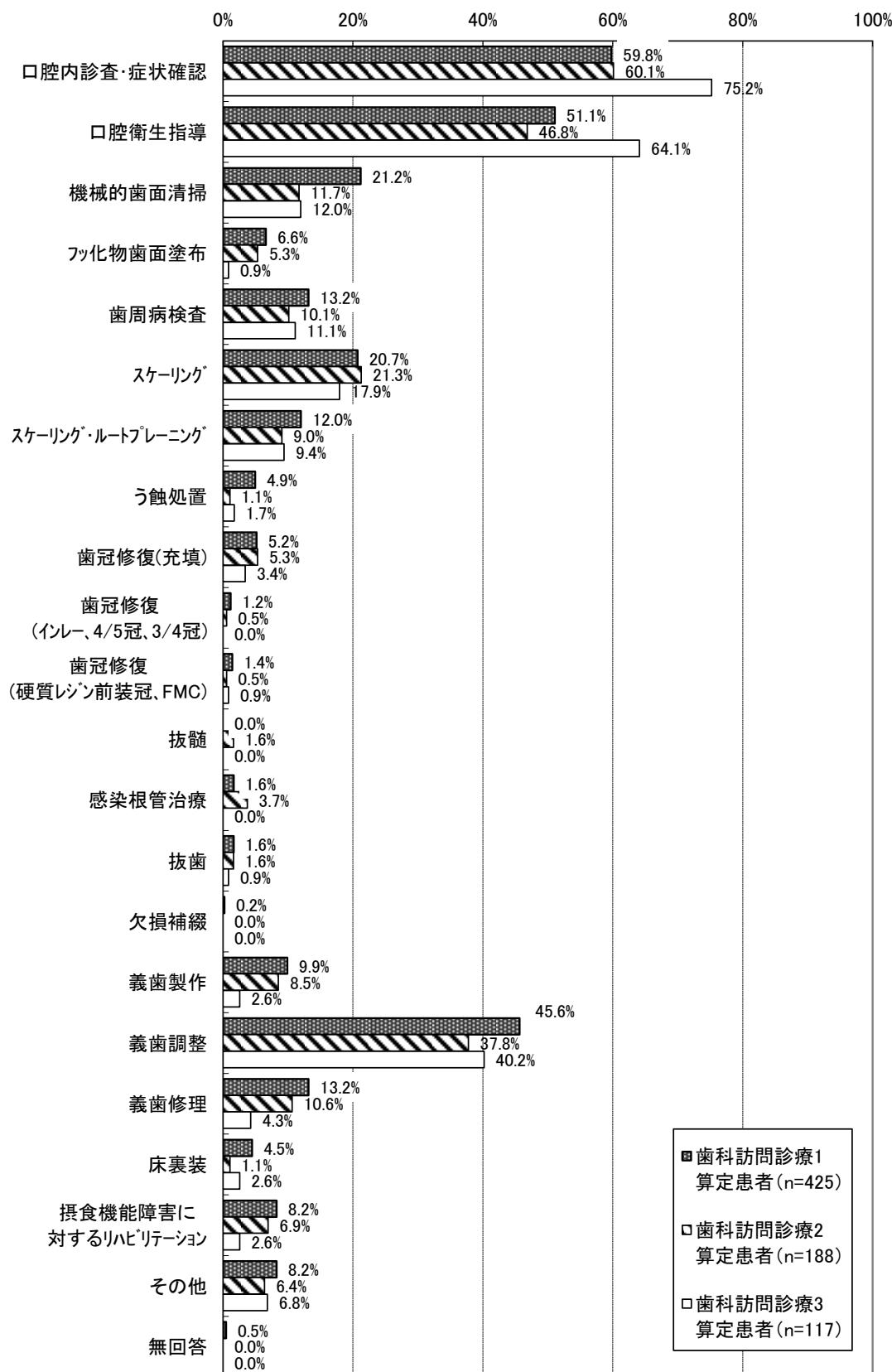
## ⑥調査日に行った診療内容

調査日に行った診療内容（各項目の一連に係る行為を含む）をみると、「口腔内診査・症状確認」が62.2%で最も多く、次いで「口腔衛生指導」(51.7%)、「義歯調整」(42.1%)、「スケーリング」(20.8%)、「機械的歯面清掃」(17.3%)であった。

図表 120 調査日に行った診療内容（複数回答、n=768）



図表 121 調査日に行った診療内容(算定した歯科訪問診療料の種類別、複数回答、n=768)

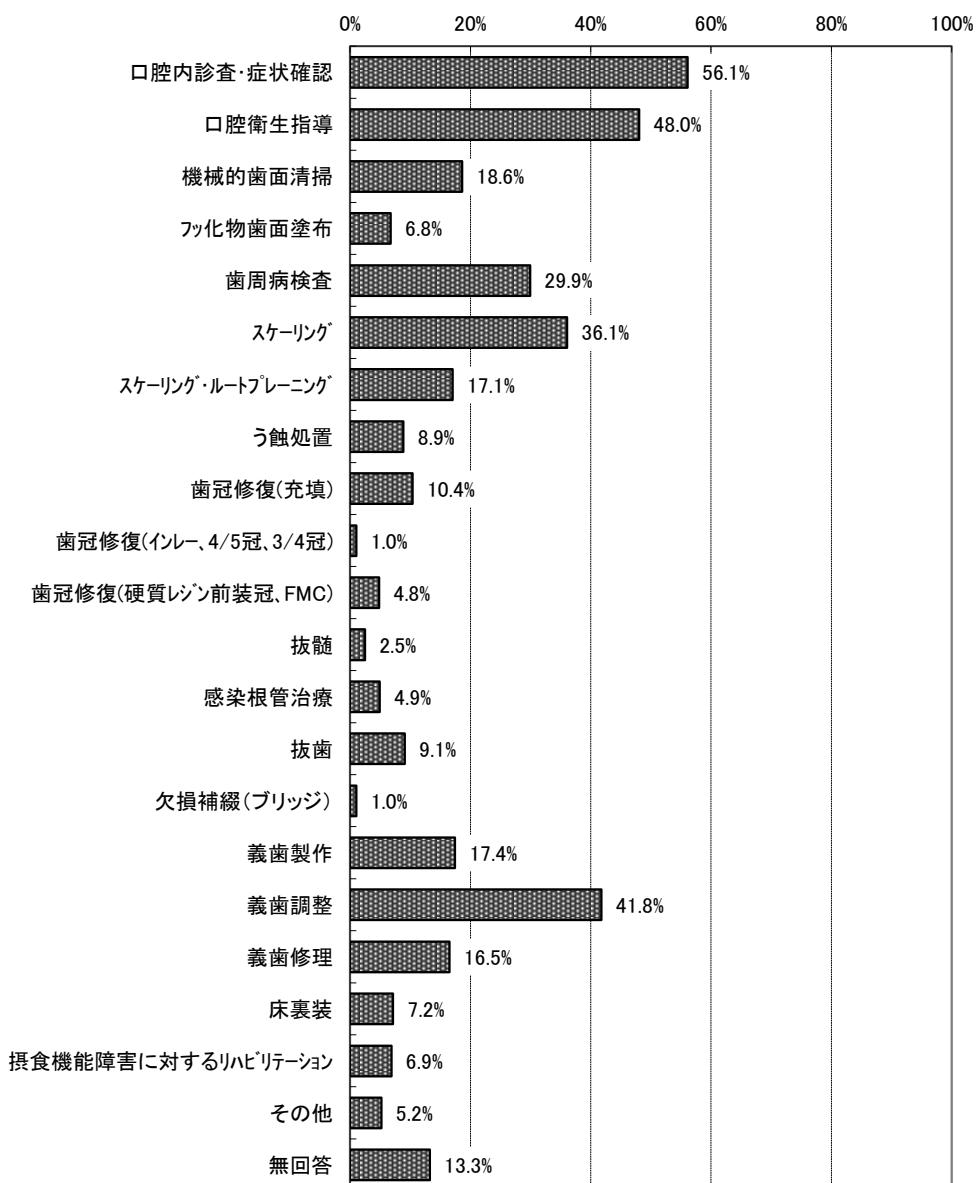


(注) 算定した歯科訪問診療料について記入のあったものを集計対象とした。

## ⑦当該初診期間内に行った診療内容

当該初診期間内に行った診療内容（調査日を除く）をみると、「口腔内診査・症状確認」が56.1%で最も多く、次いで「口腔衛生指導」(48.0%)、「義歯調整」(41.8%)、「スケーリング」(36.1%)、「歯周病検査」(29.9%)であった。

図表 122 当該初診期間内に行った診療内容（複数回答、n=768）

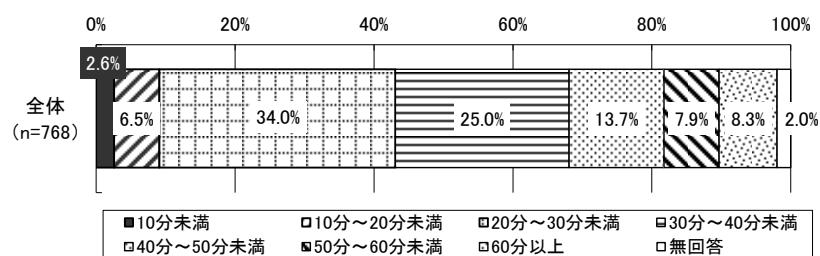


## ⑧調査日に患者の診療に要した時間

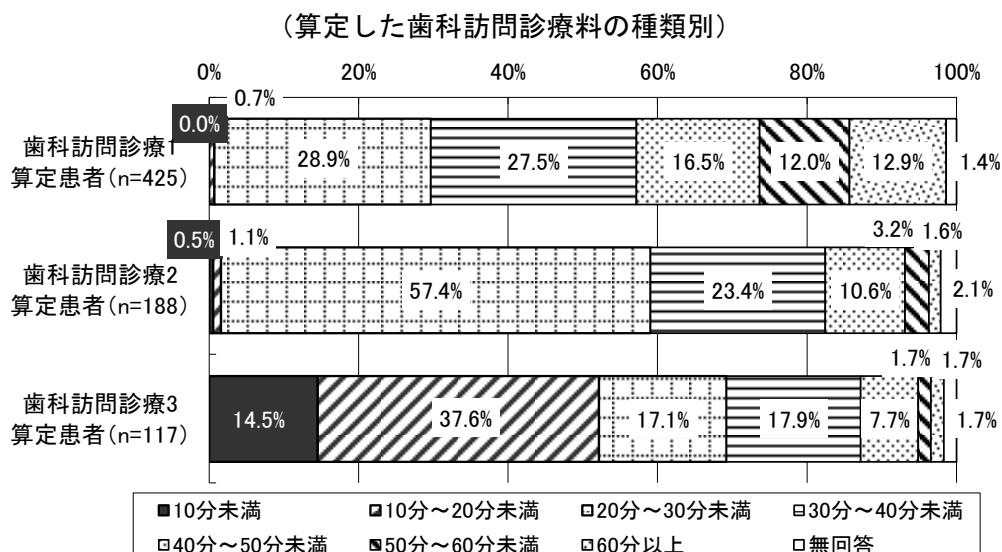
調査日に患者の診療に要した時間別分布をみると、「20分～30分未満」が34.0%で最も多く、次いで「30分～40分未満」(25.0%)であった。

算定した歯科訪問診療料の種類別にみると、歯科訪問診療1では平均39.2分(中央値35.0)、歯科訪問診療2では平均29.0分(中央値25.0)、歯科訪問診療3では平均22.7分(中央値17.0)であった。

図表 123 調査日に患者の診療に要した時間別分布



図表 124 調査日に患者の診療に要した時間別分布



(注) 算定した歯科訪問診療料について記入のあったものを集計対象とした。

図表 125 調査日に患者の診療に要した時間

(算定した歯科訪問診療料の種類別)

(単位: 分)

	患者数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	753	34.4	20.5	30.0
歯科訪問診療1	419	39.2	19.3	35.0
歯科訪問診療2	184	29.0	10.7	25.0
歯科訪問診療3	115	22.7	19.2	17.0

(注) 診療に要した時間について記入のあったものを集計対象とした。

⑨機器の準備・後片付けの時間

機器の準備・後片付けの時間は、平均 7.3 分（中央値 5.0）であった。

図表 126 機器の準備・後片付けの時間

(単位：分)

患者数(人)	平均値	標準偏差	中央値
725	7.3	6.0	5.0

(注) 機器の準備・後片付けの時間について記入のあったものを集計対象とした。

## NDB データを用いた集計

### 1. 在宅緩和ケア充実病院・診療所加算の算定状況

(平成 28 年 5 月診療分)

	算定件数	算定回数
往診	138,490	205,893
在宅緩和ケア充実診療所・病院加算	4,494	6,304
	4,155	6,018
	273	399
在宅患者訪問診療料 在宅ターミナルケア加算	6,329	6,329
在宅緩和ケア充実診療所・病院加算	1,379	1,380
	992	1,018
	100	149
在宅時医学総合管理料	333,891 <small>注)</small>	333,901
在宅緩和ケア充実診療所・病院加算	45,542	45,559
	51,727	51,774
	4,219	4,221
施設入居時等医学総合管理料（注）	183,512 <small>注)</small>	183,516
在宅緩和ケア充実診療所・病院加算	14,914	14,922
	26,352	26,421
	1,536	1,536
在宅がん医療総合診療料	2,321	50,276
在宅緩和ケア充実診療所・病院加算	830	17,789
	346	7,626
	12	190

注) 当該月において 2 つ以上の管理料を算定しているレセプトの取扱いが異なるため 1. と 2. において、算定件数の合計は一致しない。

## 2. 在宅時医学総合管理料等の算定状況

### (1) 在宅時医学総合管理料の算定件数<sup>注)</sup> (平成 28 年 5 月診療分)

		月 2 回以上		月 1 回訪問
		重症患者	重症患者以外	
単一建物 診療患者数	1 人	47, 109	113, 142	41, 076
	2 ~ 9 人	5, 941	66, 306	4, 562
	10 人以上	7, 136	45, 542	3, 082

### (2) 施設入居時等医学総合管理料の算定件数<sup>注)</sup> (平成 28 年 5 月診療分)

		月 2 回以上		月 1 回訪問
		重症患者	重症患者以外	
単一建物 診療患者数	1 人	730	2, 618	1, 479
	2 ~ 9 人	2, 890	23, 740	8, 421
	10 人以上	16, 116	115, 533	11, 986

注) 当該月において 2 つ以上の管理料を算定しているレセプトの取扱いが異なるため 1. と 2. において、算定件数の合計は一致しない。

## 3. 在宅患者訪問看護・指導料、同一建物居住者訪問看護・指導料、精神科訪問看護・指導料 (I) ~ (III) の算定医療機関数 (平成 28 年 5 月診療分)

	在宅患者訪問・看護指導料	同一建物居住者訪問看護・指導料	精神科訪問看護・指導料 (I)	精神科訪問看護・指導料 (II)	精神科訪問看護・指導料 (III)
病院	653	43	1, 015	130	399
診療所	2, 026	385	451	17	88

**4. 在宅患者訪問看護・指導料、同一建物居住者訪問看護・指導料、精神科訪問看護・指導料（Ⅰ）～（Ⅲ）の算定件数・算定回数**  
**（平成 28 年 5 月診療分）**

	在宅患者訪問・看護指導料		同一建物居住者訪問看護・指導料		精神科訪問看護・指導料（Ⅰ）		精神科訪問看護・指導料（Ⅱ）		精神科訪問看護・指導料（Ⅲ）	
	算定件数	算定回数	算定件数	算定回数	算定件数	算定回数	算定件数	算定回数	算定件数	算定回数
病院	2,661	10,543	424	3,187	26,233	61,462	877	11,250	3,313	11,250
診療所	8,083	29,735	4,686	27,231	5,840	18,288	87	4,216	1,027	4,216

**5. 衛生材料等提供加算等の算定件数（平成 28 年 5 月診療分）**

	訪問看護指示料			精神科訪問看護指示料				
			特別訪問看護指示加算	衛生材料等提供加算			精神科特別訪問看護指示加算	衛生材料等提供加算
	算定件数	算定件数	算定件数	算定件数	算定件数	算定件数	算定件数	算定件数
病院	72,853	2,240	665	9,088	60	*		
診療所	151,553	7,106	749	3,172	88	-		

注) “－”印は当該レセプトが無い場合、“＊”印は当該レセプト件数が 10 件未満の場合。

**6. 歯科訪問診療料の算定医療機関数、算定件数、算定回数**  
**（平成 28 年 5 月診療分）**

歯科訪問診療料の区分	算定医療機関数	算定件数	算定回数
歯科訪問診療 1	12,017	104,774	184,181
歯科訪問診療 2	6,052	144,037	256,282
歯科訪問診療 3	3,976	194,278	406,441

## 7. 歯科訪問診療 1、2、3 の算定医療機関の状況（平成 28 年 5 月診療分）

算定している歯科訪問診療料の区分	算定医療機関数	割合 (%)
歯科訪問診療 1 のみ	6,444	47.8%
歯科訪問診療 1 と 2 のみ	2,450	18.2%
歯科訪問診療 1 と 3 のみ	586	4.3%
歯科訪問診療 1、2、3 全て	2,537	18.8%
歯科訪問診療 2 のみ	605	4.5%
歯科訪問診療 2 と 3 のみ	460	3.4%
歯科訪問診療 3 のみ	393	2.9%

## 8. 歯科訪問診療料の各加算の算定保険医療機関、算定回数別の算定件数

区分	平成 27 年 5 月			平成 28 年 5 月		
	算定医療機関数	算定件数	算定回数	算定医療機関数	算定件数	算定回数
在宅歯科医療推進加算 (在宅かかりつけ歯科診療所加算)	941	13,739	26,752	1,143	19468	36,685

## 9. 訪問歯科衛生指導料の算定医療機関数、算定件数、算定回数

（平成 28 年 5 月診療分）

訪問歯科衛生指導料の区分	算定医療機関数	算定件数	算定回数
1 複雑なもの	4,108	133,285	313,274
2 簡単なもの	2,313	58,488	112,025

## 10. 歯科訪問診療料を算定しているレセプトに含まれる周術期口腔機能管理

（平成 28 年 5 月診療分）

	歯科訪問診療料を算定しているレセプト		
	算定医療機関数	算定件数	算定回数
周術期口腔機能管理料（I）	11	11	14
周術期口腔機能管理料（III）	*	*	*

（平成 27 年 5 月診療分）

	歯科訪問診療料を算定しているレセプト		
	算定医療機関数	算定件数	算定回数
周術期口腔機能管理料（I）	7	22	52
周術期口腔機能管理料（III）	*	*	*

注) “\*”印は当該医療機関数が3施設未満の場合又は当該レセプト回数が10件未満の場合。

### 11. 在宅患者歯科治療総合医療管理料（I）又は在宅患者歯科治療総合医療管理料（II）の算定医療機関数、算定件数、算定回数

（平成28年5月診療分）

	算定医療 機関数	算定件数	算定回数
在宅患者歯科治療総合医療管理料（I）	141	1,397	1,397
在宅患者歯科治療総合医療管理料（II）	299	3,224	5,655

（平成27年5月診療分）

	算定医療機関数	算定回数
在宅患者歯科治療総合医療管理料	79	1,094

### 12. 在宅患者訪問口腔リハビリテーション指導管理料等の算定医療機関数、算定件数、算定回数（平成28年5月診療分）

在宅患者訪問口腔リハビリテーション指導管理料の区分	算定医療 機関数	算定件数	算定回数
1 1歯以上10歯未満	203	865	1,851
2 10歯以上20歯未満	151	418	905
3 20歯以上	194	546	1,186
かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所加算	114	876	1,975
在宅療養支援歯科診療所加算	106	655	1,283

### 13. 歯科疾患在宅療養管理料と栄養サポートチーム連携加算の算定医療機関数、算定回数（平成28年5月診療分）

区分		算定医療機関数	算定回数
歯科疾患在宅療 養管理料	1 在宅療養支援歯科診療所の場合	3,756	147,024
	2 1以外の場合	3,495	49,466
栄養サポートチーム連携加算1		43	229
栄養サポートチーム連携加算2		164	3,310

平成 28 年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（平成 28 年度調査）  
**重症度や居住形態に応じた評価の影響調査等を含む  
 在宅医療の実施状況調査 調査票**

- ※ この調査票は、訪問診療を実施している医療機関の開設者・管理者の方に、貴施設における訪問診療等の実施状況についてお伺いするものです。
- ※ ご回答の際は、あてはまる番号を○（マル）で囲んでください。また、（　）内には具体的な数値、用語等をお書きください。（　）内に数値を記入する設問で、該当なしは「0（ゼロ）」を、わからない場合は「一」をお書きください。
- ※ 特に断りのない場合は、平成 28 年 10 月 1 日時点の状況についてご記入ください。

**1. 貴施設の概要についてお伺いします（平成 28 年 10 月 1 日現在）。**

①施設名				
②所在地	( ) 都・道・府・県			
③開設者 ※○は1つだけ	01. 国 05. 医療法人	02. 公立 06. 個人	03. 公的 07. 学校法人	04. 社会保険関係団体 08. その他の法人
④訪問診療を行っている診療科 ※○はいくつでも	01. 内科 05. 小児科 09. 精神科 13. 泌尿器科 15. その他（具体的に	02. 外科 06. 呼吸器科 10. 眼科 14. リハビリテーション科	03. 整形外科 07. 消化器科 11. 皮膚科	04. 脳神経外科 08. 循環器科 12. 耳鼻咽喉科
⑤医療機関の種別 ※○は1つだけ	01. 病院      02. 有床診療所      03. 無床診療所			
⑥許可病床数	1) 施設全体の許可病床数：( ) 床 2) うち、在宅患者緊急一時入院病床：( ) 床 ※特段、確保していない場合は「0」と記入してください			
⑦医師会への入会の有無 ※○は1つだけ	01. あり      02. なし			
⑧貴法人・関連法人 が運営している 施設・事業所・サ ービス等 ※○はいくつでも	01. 病院（貴施設以外） 03. 訪問看護ステーション 05. 介護老人福祉施設 07. 通所介護事業所 09. サービス付き高齢者向け住宅 11. 養護老人ホーム・軽費老人ホーム 13. 通所リハビリテーション 15. その他（具体的に			
⑨貴施設と同一敷 地内または隣接 している施設・事 業所・サービス等 ※○はいくつでも	02. 一般診療所（貴施設以外） 04. 介護老人保健施設 06. 居宅介護支援事業所 08. 地域包括支援センター 10. 有料老人ホーム 12. 認知症高齢者グループホーム 14. 他に運営施設・事業所等はない			
	01. 病院 03. 訪問看護ステーション 05. 介護老人福祉施設 07. 通所介護事業所 09. サービス付き高齢者向け住宅 11. 養護老人ホーム・軽費老人ホーム 13. 通所リハビリテーション 15. その他（具体的に			

## 2. 貴施設の診療体制についてお伺いします。

①平成28年7月～9月における各月の延べ患者数

	7月	8月	9月
1) 初診患者数 ※在宅医療分は含めない	( ) 人	( ) 人	( ) 人
2) 再診延べ患者数 ※在宅医療分は含めない	( ) 人	( ) 人	( ) 人
3) 往診及び訪問診療を行った延べ患者数	( ) 人	( ) 人	( ) 人

②貴施設では、訪問診療を行う時間をどのように定めていますか。※最も近いものに○は1つだけ

01. 訪問診療・往診を中心に行っている（外来患者が5%未満）
02. 午前中は外来診療のみを行い、午後に訪問診療を行っている
03. 午前中に訪問診療を行い、午後は外来診療のみを行っている
04. 特定の曜日に訪問診療を行っている
05. 外来診療の実施時間を調整し訪問診療を行っている
06. 昼休みまたは外来の前後で訪問診療を行っている
07. 午前・午後ともに外来診療も訪問診療も行っている（医師が複数名体制）
08. 往診を行っているが、訪問診療は行っていない
09. その他（具体的に）

③-1 全職員数（常勤換算\*1）をご記入ください。※小数点以下第1位まで ※平成28年10月1日現在

医師	歯科 医師	保健師 助産師 看護師	准看 護師	薬剤師	リハビ リ職 *2	管理 栄養士	その他の 医療職 *3	社会 福祉士	その他の 職員	計
.	.	.	.	.	.	.	.	.	.	.

③-2 上記③-1のうち、在宅医療の実施のため、患者に訪問をする職員数（常勤換算\*1）をご記入ください。

※平成28年9月1か月間について、在宅医療に携わった時間で換算してください。例）1週間の勤務時間40時間のうち、在宅医療に携わった時間が16時間であれば $16 \div 40 = 0.4 \rightarrow 「0.4人」と数えてください。$ 

医師	歯科 医師	保健師 助産師 看護師	准看 護師	薬剤師	リハビ リ職 *2	管理 栄養士	その他の 医療職 *3	社会 福祉士	その他の 職員	計
.	.	.	.	.	.	.	.	.	.	.

\*1 非常勤職員の「常勤換算」は以下の方法で計算してください。

■1週間に数回勤務の場合：(非常勤職員の1週間の勤務時間) ÷ (貴施設が定めている常勤職員の1週間の勤務時間)

■1か月に数回勤務の場合：(非常勤職員の1か月の勤務時間) ÷ (貴施設が定めている常勤職員の1週間の勤務時間×4)

\*2 リハビリ職とは、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士を指します。

\*3 その他の医療職とは、臨床工学技士、臨床検査技師等、他の医療系資格を有する者を指します。

③-3 上記③-1のうち、以下の職員数をご記入ください。

1) 在宅医療を担当する常勤の医師数	常勤 ( ) 人
2) 上記1)のうち、「認知症サポート医養成研修事業」を受講した認知症サポート医の医師数	常勤 ( ) 人
3) 上記1)のうち、「がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会の開催指針に準拠した研修」又は「緩和ケアの基本教育のための都道府県指導者研修会等」を修了した医師数	常勤 ( ) 人
4) 在宅褥瘡管理者の有無と人数	01. あり→ ( ) 人      02. なし

5) 他医療機関との連携窓口を担当する職員として配置している職種とその人数 ※○はいくつでも					
01. 社会福祉士 ( ) 人	02. 介護支援専門員 ( ) 人	03. 看護職員 ( ) 人	04. 事務職員 ( ) 人	05. その他 ( ) 人	06. 担当職員はいない
④貴施設では、貴施設あるいは訪問看護ステーションとの連携により 24 時間訪問看護の提供が可能な体制となっていますか。※○は1つだけ					
01. <u>自施設と訪問看護ステーションとの連携の両方で</u> 24 時間訪問看護の提供が可能な体制となっている 02. <u>自施設単独で</u> 24 時間訪問看護の提供が可能な体制となっている 03. <u>訪問看護ステーションとの連携により</u> 、24 時間訪問看護の提供が可能な体制となっている 04. 24 時間訪問看護の提供が可能な体制となっていない					
⑤【診療所の場合】時間外対応加算の届出状況 ※○は1つだけ		01. 時間外対応加算 1	02. 時間外対応加算 2	03. 時間外対応加算 3	04. 届出なし
⑥精神科重症患者早期集中支援管理料の届出の有無 ※○は1つだけ		01. 届出あり	02. 届出なし		
⑦貴施設が訪問診療を開始した時期		昭和・平成 ( ) 年 ( ) 月頃			
⑧外来における院内・院外処方の状況 ※○は1つだけ		01. 主として院内処方	02. 主として院外処方		
⑨連携している 24 時間対応の薬局の有無 ※○は1つだけ		01. あり	02. なし		

### 3. 在宅療養支援病院（在支病）・在宅療養支援診療所（在支診）の届出状況等についてお伺いします。

①貴施設の在宅療養支援病院・診療所の届出区分はどのようになっていますか。※○は1つだけ					
01. 機能強化型在宅療養支援病院（単独型）（→左の「01」に○をつけ、次に5ページの質問⑪へ） 02. 機能強化型在宅療養支援病院（連携型）（→左の「02」に○をつけ、次に4ページの質問⑨へ） 03. 機能強化型在宅療養支援診療所（単独型）（→左の「03」に○をつけ、次に5ページの質問⑪へ） 04. 機能強化型在宅療養支援診療所（連携型）（→左の「04」に○をつけ、次に4ページの質問⑨へ） 05. 上記以外の在宅療養支援病院・在宅療養支援診療所（→左の「05」に○をつけ、次に4ページの質問⑤へ） 06. 在宅療養支援病院（在支病）・診療所（在支診）ではない（→左の「06」に○をつけ、次に質問②へ）					

【上記①で「06. 在支病・在支診ではない」と回答した施設の方にお伺いします。】

②「在支病・在支診」の届出をしていない理由をお答えください。※○はいくつでも					
01. 在宅医療を担当する常勤の医師を確保することができないから 02. 24 時間連絡を受ける体制を構築することが困難なため 03. 24 時間往診体制を確保することが困難なため 04. 24 時間訪問看護の提供体制を確保することが困難なため 05. 在宅療養患者のための緊急時の入院病床を常に確保することが困難なため 06. 在宅医療の提供体制を強化する上で適切な連携医療機関を確保できないから 07. 在宅患者が 95%以上の在支診が満たすべき要件を満たせないから  →満たせない要件					
071. 1 年に 5 か所以上の医療機関からの新規患者紹介実績 072. 1 年に 20 件以上の看取り実績 073. 1 年に 10 人以上の超・準超重症児の患者 074. 施設総管／（在総管+施設総管）≤0.7 075. （要介護 3 以上の患者+重症患者）／（在総管・施設総管の件数）≥0.5					
08. その他（具体的に )					

③上記②のうち、届出をしなかった理由として最大の理由は何ですか。 ※上記01.~08.の中からあてはまる番号を1つだけお書きください。	
④貴施設では、今後、在支病・在支診の届出を行う意向がありますか。※○は1つだけ	
01. 届出の予定がある→届出予定時期：平成（　　）年（　　）月頃 02. 届出について検討中 03. 届出の予定はない 04. その他（具体的に　　）	

(→この後は5ページの質問4. ①へ)

【上記①で「05. 上記以外の（機能強化型ではない）在支病・在支診」と回答した施設の方にお伺いします。】

⑤在宅療養支援病院・在宅療養支援診療所の届出時期	平成（　　）年（　　）月
⑥機能強化型在支病・在支診の届出をしていない理由をお答えください。※○はいくつでも	
01. 在宅医療の提供体制を強化する上で適切な連携医療機関を確保できないから 02. （連携型）連携内で、在宅医療を担当する常勤の医師を3人以上確保することができないから 03. （連携型）連携内での、過去1年間の緊急往診の実績が10件未満であるから 04. （連携型）連携内で、過去1年間の緊急往診の実績が4件以上を確保できない医療機関があるから 05. （連携型）連携内で、過去1年間の看取りの実績が4件未満であるから 06. （連携型）連携内で、過去1年間の看取りまたは超・準超重症児の医学管理の実績2件以上を確保できない医療機関があるから 07. （単独型）自施設単独で、在宅医療を担当する常勤の医師が3人未満であるから 08. （単独型）自施設単独で、過去1年間の緊急往診の実績が10件未満であるから 09. （単独型）過去1年間の看取り又は超・準超重症児の医学管理の実績4件以上を確保できないから 10. その他（具体的に　　）	
⑦上記⑥のうち、届出をしなかった理由として最大の理由は何ですか。 ※上記01.~10.の中からあてはまる番号を1つだけお書きください。	
⑧貴施設では、今後、機能強化型在支病・在支診の届出を行う意向がありますか。※○は1つだけ	
01. 届出の予定がある→届出予定時期：平成（　　）年（　　）月頃 02. 届出について検討中 03. 届出の予定はない 04. その他（具体的に　　）	

(→この後は5ページの質問4. ①へ)

【上記①で「02. または 04. 機能強化型（連携型）在支病・在支診」と回答した施設の方にお伺いします。】

⑨ 在宅支援連携体制についてお伺いします。		
1) 届出をしている病院・診療所別の連携医療機関数	連携診療所数（病床あり）	（　　）施設
	連携診療所数（病床なし）	（　　）施設
	連携病院数	（　　）施設
	合計	（　　）施設
2) 在宅医療を担当する常勤の医師数（自施設+連携施設）	（　　）人	
⑩在支病・在支診の届出を行った時期はいつですか。機能強化型の届出時期もお答えください。		
1) 在宅療養支援病院・在宅療養支援診療所の届出時期	平成（　　）年（　　）月	
2) 機能強化型在支病・在支診の届出時期	平成（　　）年（　　）月	

(→この後は5ページの質問4. ①へ)

【上記①で「01. または 03. 機能強化型（単独型）在支病・在支診」と回答した施設の方にお伺いします。】

⑪在支病・在支診の届出を行った時期はいつですか。機能強化型の届出時期もお答えください。

1) 在宅療養支援病院・在宅療養支援診療所の届出時期	平成( )年( )月
2) 機能強化型の届出時期	平成( )年( )月

(→この後は質問4. ①へ)

#### 4. 貴施設における在宅医療の実施状況等についてお伺いします。

①貴施設が主治医として訪問診療を提供している患者の人数についてお伺いします。

平成28年9月の1か月間に訪問診療を実施した患者数（実人数）についてお答えください。

1) 訪問診療を提供した患者数（何回訪問しても「1人」と数えてください。）	人
2) 年齢別の患者数	人
15歳未満	人
15歳以上 40歳未満	人
40歳以上 65歳未満	人
65歳以上 75歳未満	人
75歳以上	人
3) (15歳未満) 超重症児・準超重症児の患者数	人
4) 要介護度別の患者数	人
対象外（40歳未満など）	人
自立・未申請	人
要支援1・2	人
要介護1	人
要介護2	人
要介護3	人
要介護4	人
要介護5	人
申請中	人
不明・その他	人
5) 身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳を保有する患者数 ※1人の患者が複数の手帳を保有している場合も「1人」と数えてください。	人
6) 特定疾患医療受給者証を保有する患者数	人

②平成28年4月～平成28年9月の6か月間に貴施設が在宅療養を担当した患者数についてお答えください。

1) 在宅療養を担当した患者数	人
2) 上記1) のうち、死亡患者数	人
3) 上記2) のうち、医療機関以外で死亡した患者数 ※4) +5) +6) =3)	人
4) 上記3) のうち、自宅（※1）での死亡者数	人
5) 上記3) のうち、居住系施設（※2）・介護老人福祉施設での死亡者数	人
6) 上記3) のうち、自宅・居住系施設以外での死亡者数	人
7) 上記3) のうち、看取りを行った患者数	人
8) 上記2) のうち、医療機関で死亡した患者数	人
9) 上記8) のうち、連携医療機関で死亡した患者数	人
10) 上記8) のうち、連携医療機関以外で死亡した患者数	人

※1 「自宅」とは、施設以外で、戸建て（持家・借家問わず）、団地・マンション等の集合住宅を指します。

※2 「居住系施設」とは、上記の「※1」及び介護老人福祉施設・介護老人保健施設以外の居住先をいい、有料老人ホーム・軽費老人ホーム・サ高住・認知症グループホーム等が該当します。

③平成 28 年 9 月に貴施設が訪問診療を実施した患者のうち、「最も遠くに住む（貴施設からの移動時間が最も長い患家の）患者」と「最も近くに住む（貴施設からの移動時間が最も短い患家の）患者」について、以下の内容をお答えください。

	最も遠くに住む患者	最も近くに住む患者
1) 患家に訪問するのに用いる交通手段 ※○はいくつでも	01. 徒歩 02. バス 03. 電車 04. 自動車 05. その他 ( )	01. 徒歩 02. バス 03. 電車 04. 自動車 05. その他 ( )
2) 移動に要する総時間（往復）	往復 ( ) 分	往復 ( ) 分
3) 当該患家の「単一建物診療患者数」	( ) 人	( ) 人
4) 住居形態	01. 自宅（※1） 02. 居住系施設（※2） 03. 介護老人福祉施設 04. その他 ( )	01. 自宅（※1） 02. 居住系施設（※2） 03. 介護老人福祉施設 04. その他 ( )
5) 貴施設との位置関係		01. 同一敷地内 02. 隣接する敷地内 03. 同一・隣接敷地内ではない

※1 「自宅」とは、施設以外で、戸建て（持家・借家問わず）、団地・マンション等の集合住宅を指します。

※2 「居住系施設」とは、上記の「※1」及び介護老人福祉施設・介護老人保健施設以外の居住先をいい、有料老人ホーム・軽費老人ホーム・サ高住・認知症グループホーム等が該当します。

④平成 28 年 9 月に在総管・施設総管で「重症患者」を算定した患者がいた場合、その患者の人数をお書きください。

※1人の患者が複数の疾患・状態に該当する場合は、それぞれに数えてください。

例：末期の悪性腫瘍患者で酸素療法を実施している場合→末期の悪性腫瘍患者、酸素療法のそれぞれに「1人」となります。

1) 末期の悪性腫瘍患者	( ) 人
2) スモンの患者	( ) 人
3) 指定難病の患者	( ) 人
4) 後天性免疫不全症候群の患者	( ) 人
5) 脊髄損傷の患者	( ) 人
6) 真皮を超える褥瘡の患者	( ) 人
7) 人工呼吸器を使用している患者	( ) 人
8) 気管切開の管理を要する患者	( ) 人
9) 気管カニューレを使用している患者	( ) 人
10) ドレーンチューブ等を使用している患者	( ) 人
11) 人工肛門等の管理を要する患者	( ) 人
12) 在宅自己腹膜灌流を実施している患者	( ) 人
13) 在宅血液透析を実施している患者	( ) 人
14) 酸素療法を実施している患者	( ) 人
15) 在宅中心静脈栄養を実施している患者	( ) 人
16) 在宅成分栄養経管栄養法を実施している患者	( ) 人
17) 在宅自己導尿を実施している患者	( ) 人
18) 植込み型脳・脊髄電気刺激装置による疼痛管理を受けている患者	( ) 人
19) 携帯型精密輸液ポンプによるプロスタグラジン I 2 製剤の投与を受けている患者	( ) 人

⑤上記④以外で、訪問診療を行う際に、診療において困難を伴う患者があれば、該当患者の状態や環境、診療内容等を具体的にお書きください。

⑥平成28年4月～平成28年9月の6か月間における以下の算定回数をお答えください。

1) 在宅がん医療総合診療料	回	6) 在宅移行早期加算	回
2) 在宅患者緊急時等カンファレンス料	回	7) 退院時共同指導料	回
3) 在宅患者訪問点滴注射管理指導料	回	8) 診療情報提供料（I）	回
4) 在宅患者訪問薬剤管理指導料	回	9) 歯科医療機関連携加算	回
5) 在宅患者訪問褥瘡管理指導料	回		

⑦平成28年4月～平成28年9月の6か月間で、貴施設が主体となって、担当患者の医療・介護等を担う医療機関・事業所と、連携のための会議を開催したことはありますか。ある場合はその回数もお答えください（ケアマネジャーの行う『サービス担当者会議』や地域包括支援センターの行う『地域ケア会議』への出席は除きます）。※○は1つだけ

01. 開催したことがある→開催回数：（ ）回      02. 開催したことはない

⑧以下の施設基準のうち、届出のあるものは何ですか。※○はいくつでも

- |                      |                |
|----------------------|----------------|
| 01. 在宅療養実績加算 1       | 02. 在宅療養実績加算 2 |
| 03. 在宅緩和ケア充実診療所・病院加算 |                |

⑨平成28年9月1か月間の以下の実績等についてお答えください。

	算定患者数（実人数）	算定回数
1) 在宅患者訪問看護・指導料、同一建物居住者訪問看護・指導料	人	回
2) 精神科訪問看護・指導料（I・Ⅲのみ）	人	回

⑩平成28年9月1か月間の以下の交付件数についてお答えください。

1) 訪問看護指示書	件	3) 精神科訪問看護指示書	件
2) 特別訪問看護指示書	件	4) 精神科特別訪問看護指示書	件

⑪貴施設では、在宅療養患者に対する以下の治療についてどのような状況でしょうか。最も近いものの番号に○をつけてください。※○はそれぞれ1つだけ

	A)自信を持って行うことができる	B)行なうことができる（A・Cのどちらでもない）	C)対応は困難、又は行った経験がない	D)わからない
1) モルヒネの持続皮下注射	1	2	3	4
2) 鎮静薬の持続皮下注射	1	2	3	4
3) 経口麻薬の投与	1	2	3	4
4) 皮下輸液	1	2	3	4
5) 中心静脈栄養・ポート管理	1	2	3	4
6) 末梢静脈点滴	1	2	3	4
7) 輸血	1	2	3	4
8) 胸水穿刺、腹水穿刺	1	2	3	4

5. 調査期間中（平成 28 年 10 月 16 日～10 月 31 日）に貴施設が訪問診療を実施した患者 2 名についてお書きください（調査要綱ご参照）。

## 患者票A

1) 患者の性別	1. 男性      2. 女性	2) 年齢	( ) 歳
3) 訪問先	1. 戸建て・マンション・アパート・団地等 2. サービス付き高齢者向け住宅      3. 有料老人ホーム 4. 養護老人ホーム・軽費老人ホーム      5. 特別養護老人ホーム 6. 認知症高齢者グループホーム      7. その他（具体的に）		
4) 上記 3) の訪問先（单一建物）において、貴施設が訪問診療を実施している患者数（※この患者を含めた人数）	( ) 人		
5) 調査日の診察状況	1. 単一の建物内で複数の患者を診察      2. 単一の建物内で当該患者のみ診察		
6) 要介護度	1. 対象外      2. 自立・未申請      3. 要支援 1・2      4. 要介護 1 5. 要介護 2      6. 要介護 3      7. 要介護 4      8. 要介護 5      9. 不明		
7) 認知症高齢者の日常生活自立度 ※分かる範囲で直近の評価を記載	1. 該当なし      2. I      3. II      4. IIa      5. IIb 6. III      7. IIIa      8. IIIb      9. IV      10. M      11. 不明		
8) 精神疾患の有無	1. あり→（1. 認知症      2. 認知症以外）      2. なし		
9) 障害者手帳などの種類	1. 身体障害者手帳（ ）級      2. 療育手帳（ ）度 3. 精神障害者保健福祉手帳（ ）級 4. 申請中      5. 手帳なし      6. わからない		
10) 患家を訪問するのに用いる交通手段と移動時間 ※移動時間は貴施設から患家までの片道時間をお書きください。	1. 徒歩のみ→（ ）分 2. 徒歩+バス・電車等の公共交通→（ ）分 3. 自動車→（ ）分 4. その他（具体的に）→（ ）分		
11) 訪問診療を行ったきっかけ			
1. 自院に通院・入院していた患者      2. 他の医療機関からの紹介患者 3. 医療機関以外からの紹介（具体的に）			
12) 訪問診療の対象病名 ※○はいくつでも			
1. 難病（神経系）      2. 難病（神経系以外）      3. 脊髄損傷      4. COPD 5. 循環器疾患（高血圧症、心不全など）      6. 脳血管疾患（脳梗塞、脳内出血など） 7. 精神系疾患      8. 神経系疾患      9. 認知症      10. 糖尿病      11. 悪性新生物 12. 骨折・筋骨格系疾患      13. 呼吸器系疾患      14. 耳鼻科疾患      15. 眼科疾患 16. その他（具体的に）			
13) ターミナルかどうか	1. ターミナル→余命の見込み：（ ）か月      2. ターミナルでない		
14) 当該患者に対して、医師が実施した診療内容・連携等（※この 1 か月間に実施したもの）※○はいくつでも			
1. 健康相談      2. 視聴打診・触診      3. バイタル測定      4. 患者・家族等への問診      5. 心電図検査 6. 簡易血糖測定      7. 採血・検体採取      8. 検査結果説明      9. 抗がん剤の点滴・注射 10. モルヒネの持続皮下注射      11. 鎮静薬の持続皮下注射      12. 皮下輸液 13. 中心静脈栄養・ポート管理      14. 輸血      15. 胸水穿刺・腹水穿刺 16. 経口麻薬の投与      17. 末梢静脈点滴      18. 上記以外の点滴・注射			

19. 気管切開・カニューレ交換	20. カテーテル交換 (カテーテルの部位)	21. エコー検査 )
22. 薬剤の処方	23. 特定保険医療材料の処方	24. ネブライザー
26. 栄養指導	27. 患者・家族等への病状説明	25. たんの吸引の指示
29. 訪問看護ステーションに関する指示・連携 (具体的に )		
30. 保険薬局に関する指示・連携 (具体的に )		
31. 歯科医療機関との連携 (具体的に )		
32. 居宅介護支援事業所との連携 (具体的に )		
33. その他 (具体的に )		
15) 当該患者に対して訪問診療を行う医師の指示又は依頼のもと、医師以外の職種 (貴施設以外の職員も含む) が提供している医療内容等 (※この1か月間に提供したもの) a) ~c) の職種ごとに主な実施内容を下の【選択肢】の1.~31.の中から3つまで選び、該当の番号をお書きください。		
a) 看護職員が実施したもの		
b) リハビリ職が実施したもの		
c) その他の職員 ( ) が実施したもの		
<b>【選択肢】</b>		
1. 健康相談	2. 血圧・脈拍の測定	3. 心電図検査
5. 血糖自己測定 (SMBG 管理)	6. 服薬援助・管理 (点眼薬等を含む)	4. 簡易血糖測定
7. 胃ろう・腸ろうによる栄養管理	8. 経鼻経管栄養	9. 中心静脈栄養
10. 吸入・吸引		
11. ネブライザー	12. 創傷処置	13. 体位変換
14. 浣腸・摘便	15. 褥瘡の処置	
16. インスリン注射	17. 点滴・注射 (9.・16.以外)	18. 膀胱 (留置) カテーテルの管理
19. 人工肛門・人工膀胱の管理	20. 人工呼吸器の管理	21. 気管切開の処置
22. 酸素療法管理 (在宅酸素・酸素吸入)	23. がん末期の疼痛管理	24. 慢性疼痛の管理 (23.以外)
25. 透析・腹膜還流	26. リハビリテーション	27. 口腔ケア
28. 歯科医療		
29. 連携施設・事業所との連絡・調整	30. 社会福祉制度、相談窓口等の紹介	
31. その他 (具体的に )		
16) 経口摂取の状況	1. 経口摂取可能	2. 経口摂取不可
17) 貴施設が当該患者に訪問診療を開始した時期	平成 ( ) 年 ( ) 月頃	
18) 1か月間の訪問回数 (平成 28年9月)	( ) 回	
19) 医学管理料の算定状況 (平成 28年9月)	1. 在総管 (重症患者) 2. 在総管 (月2回以上) 3. 在総管 (月1回) 4. 施設総管 (重症患者) 5. 施設総管 (月2回以上) 6. 施設総管 (月1回) 7. 算定していない	
20) 調査日の診療時間 (当該患者のために患者に滞在した時間)	( ) 分	
21) 調査日の診療における看護職員の同行	1. あり	2. なし
22) 当該患者に関する歯科医療機関との連携の有無	1. あり	2. なし
23) 往診 (定期的・計画的な訪問診療ではない) を行った回数 (平成 28年4月~平成 28年9月の6か月間)	( ) 回	
24) 上記23) のうち、入院に至った回数 (平成 28年4月~平成 28年9月の6か月間)	( ) 回	
25) 上記23) のうち、夜間の往診回数 (平成 28年4月~平成 28年9月の6か月間)	( ) 回	
26) 上記23) のうち、深夜の往診回数 (平成 28年4月~平成 28年9月の6か月間)	( ) 回	

## 患者票B

1) 患者の性別	1. 男性      2. 女性	2) 年齢	( ) 歳
3) 訪問先	1. 戸建て・マンション・アパート・団地等 2. サービス付き高齢者向け住宅      3. 有料老人ホーム 4. 養護老人ホーム・軽費老人ホーム      5. 特別養護老人ホーム 6. 認知症高齢者グループホーム      7. その他 (具体的に)		
4) 上記3)の訪問先(単一建物)において、貴施設が訪問診療を実施している患者数(※この患者を含めた人数)	( ) 人		
5) 調査日の診察状況	1. 単一の建物内で複数の患者を診察      2. 単一の建物内で当該患者のみ診察		
6) 要介護度	1. 対象外      2. 自立・未申請      3. 要支援 1・2      4. 要介護 1 5. 要介護 2      6. 要介護 3      7. 要介護 4      8. 要介護 5      9. 不明		
7) 認知症高齢者の日常生活自立度 ※分かれる範囲で直近の評価を記載	1. 該当なし      2. I      3. II      4. IIa      5. IIb 6. III      7. IIIa      8. IIIb      9. IV      10. M      11. 不明		
8) 精神疾患の有無	1. あり→ (1. 認知症      2. 認知症以外)      2. なし		
9) 障害者手帳などの種類	1. 身体障害者手帳 ( ) 級      2. 療育手帳 ( ) 度 3. 精神障害者保健福祉手帳 ( ) 級 4. 申請中      5. 手帳なし      6. わからない		
10) 患家を訪問するのに用いる交通手段と移動時間 ※移動時間は貴施設から患家までの片道時間をお書きください。	1. 徒歩のみ→ ( ) 分 2. 徒歩+バス・電車等の公共交通→ ( ) 分 3. 自動車→ ( ) 分 4. その他 (具体的に) → ( ) 分		
11) 訪問診療を行ったきっかけ			
1. 自院に通院・入院していた患者      2. 他の医療機関からの紹介患者 3. 医療機関以外からの紹介 (具体的に)			
12) 訪問診療の対象病名 ※○はいくつでも			
1. 難病 (神経系)      2. 難病 (神経系以外)      3. 脊髄損傷      4. COPD 5. 循環器疾患 (高血圧症、心不全など)      6. 脳血管疾患 (脳梗塞、脳内出血など) 7. 精神系疾患      8. 神経系疾患      9. 認知症      10. 糖尿病      11. 悪性新生物 12. 骨折・筋骨格系疾患      13. 呼吸器系疾患      14. 耳鼻科疾患      15. 眼科疾患 16. その他 (具体的に)			
13) ターミナルかどうか	1. ターミナル→余命の見込み: ( ) か月      2. ターミナルでない		
14) 当該患者に対して、医師が実施した診療内容・連携等 (※この1か月間に実施したもの) ※○はいくつでも			
1. 健康相談      2. 視聴打診・触診      3. バイタル測定      4. 患者・家族等への問診      5. 心電図検査 6. 簡易血糖測定      7. 採血・検体採取      8. 検査結果説明      9. 抗がん剤の点滴・注射 10. モルヒネの持続皮下注射      11. 鎮静薬の持続皮下注射      12. 皮下輸液 13. 中心静脈栄養・ポート管理      14. 輸血      15. 胸水穿刺・腹水穿刺 16. 経口麻薬の投与      17. 末梢静脈点滴      18. 上記以外の点滴・注射 19. 気管切開・カニューレ交換      20. カテーテル交換 (カテーテルの部位)      21. エコー検査 22. 薬剤の処方      23. 特定保険医療材料の処方      24. ネブライザー      25. たんの吸引の指示			

26. 栄養指導	27. 患者・家族等への病状説明	28. 診療上の継続的な意思決定支援	
29. 訪問看護ステーションに関する指示・連携 (具体的に)		)	
30. 保険薬局に関する指示・連携 (具体的に)		)	
31. 歯科医療機関との連携 (具体的に)		)	
32. 居宅介護支援事業所との連携 (具体的に)		)	
33. その他 (具体的に)		)	
15) 当該患者に対して訪問診療を行う医師の指示又は依頼のもと、医師以外の職種（貴施設以外の職員も含む）が提供している医療内容等（※この1か月間に提供したもの） a)～c) の職種ごとに主な実施内容を下の【選択肢】の1.～31.の中から <u>3つまで</u> 選び、該当の番号をお書きください。			
a) 看護職員が実施したもの			
b) リハビリ職が実施したもの			
c) その他の職員 ( ) が実施したもの			
<b>【選択肢】</b>			
1. 健康相談	2. 血圧・脈拍の測定	3. 心電図検査	4. 簡易血糖測定
5. 血糖自己測定 (SMBG 管理)	6. 服薬援助・管理 (点眼薬等を含む)		
7. 胃ろう・腸ろうによる栄養管理	8. 経鼻経管栄養	9. 中心静脈栄養	10. 吸入・吸引
11. ネプライザー	12. 創傷処置	13. 体位変換	14. 浸脇・摘便
15. ネブライザー	16. インスリン注射	17. 点滴・注射 (9.・16.以外)	18. 膀胱 (留置) カテーテルの管理
19. 人工肛門・人工膀胱の管理	20. 人工呼吸器の管理	21. 気管切開の処置	
22. 酸素療法管理 (在宅酸素・酸素吸入)	23. がん末期の疼痛管理	24. 慢性疼痛の管理 (23.以外)	
25. 透析・腹膜還流	26. リハビリテーション	27. 口腔ケア	28. 歯科医療
29. 連携施設・事業所との連絡・調整	30. 社会福祉制度、相談窓口等の紹介		
31. その他 (具体的に)			)
16) 経口摂取の状況	1. 経口摂取可能	2. 経口摂取不可	
17) 貴施設が当該患者に訪問診療を開始した時期	平成 ( ) 年 ( ) 月頃		
18) 1か月間の訪問回数 (平成 28年9月)	( ) 回		
19) 医学管理料の算定状況 (平成 28年9月)	1. 在総管 (重症患者)	2. 在総管 (月2回以上)	3. 在総管 (月1回)
	4. 施設総管 (重症患者)	5. 施設総管 (月2回以上)	6. 施設総管 (月1回)
	7. 算定していない		
20) 調査日の診療時間 (当該患者のために患者に滞在した時間)	( ) 分		
21) 調査日の診療における看護職員の同行	1. あり	2. なし	
22) 当該患者に関する歯科医療機関との連携の有無	1. あり	2. なし	
23) 往診 (定期的・計画的な訪問診療ではない) を行った回数 (平成 28年4月～平成 28年9月の6か月間)	( ) 回		
24) 上記23) のうち、入院に至った回数 (平成 28年4月～平成 28年9月の6か月間)	( ) 回		
25) 上記23) のうち、夜間の往診回数 (平成 28年4月～平成 28年9月の6か月間)	( ) 回		
26) 上記23) のうち、深夜の往診回数 (平成 28年4月～平成 28年9月の6か月間)	( ) 回		

平成 28 年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（平成 28 年度調査）  
重症度や居住形態に応じた評価の影響調査等を含む  
訪問看護の実施状況調査 調査票

- ※ この調査票は、訪問看護ステーションの管理者の方に、訪問看護の実施状況や在宅医療機関との連携状況等についてお伺いするものです。
  - ※ ご回答の際は、あてはまる番号を○（マル）で囲んでください。また、（　）内には具体的な数値、用語等をお書きください。（　）内に数値を記入する設問で、該当なしは「〇（ゼロ）」を、わからない場合は「一」をお書きください。
  - ※ 特に断りのない場合は、平成 28 年 10 月 1 日時点の状況についてご記入ください。

※特に断りのない場合は、『医療保険』の訪問看護に関してお答えください。  
介護保険など医療保険以外に関しては、設問内で指定がない場合には含みません。

1. 貴事業所の概要についてお伺いします。

## ⑧機能強化型訪問看護ステーションの届出の有無

1. 届出なし

2. 機能強化型訪問看護管理療養費 1 の届出あり

→届出時期：平成（　　）年（　　）月

→貴事業所が満たしている要件：※○はいくつでも

a. ターミナルケア件数が年 20 件以上

b. ターミナルケア件数が年 15 件以上、かつ、超重症児・準超重症児の利用者数が常時 4 人以上

c. 超重症児・準超重症児の利用者数が常時 6 人以上

3. 機能強化型訪問看護管理療養費 2 の届出あり

→届出時期：平成（　　）年（　　）月

→貴事業所が満たしている要件：※○はいくつでも

a. ターミナルケア件数が年 15 件以上

b. ターミナルケア件数が年 10 件以上、かつ、超重症児・準超重症児の利用者数が常時 3 人以上

c. 超重症児・準超重症児の利用者数が常時 5 人以上

## ▶【届出がない場合】

## ⑧-1 今後の機能強化型訪問看護ステーション届出意向

1. 届出の予定がある 2. 届出について検討中 3. 届出の予定はない

## ⑨24 時間対応体制加算・連絡体制加算の届出（医療保険）の有無

1. 24 時間対応体制加算

2. 24 時間連絡体制加算

3. 届出なし

## ⑩特別管理加算（医療保険）の届出の有無

1. あり

2. なし

## ⑪精神科訪問看護基本療養費の届出の有無

1. あり

2. なし

## ⑫精神科複数回訪問加算の届出の有無

1. あり

2. なし

## ⑬精神科重症患者早期集中支援管理連携加算の届出の有無

1. あり

2. なし

## ⑭訪問看護基本療養費（I）のハ及び（II）のハに係る専門の研修を受けた看護師に係る届出の有無

1. あり→(a. 緩和ケア b. 褥瘡ケア) 2. なし

⑮貴事業所の職員数を常勤換算\*（請求する保険の種別を問わず訪問看護業務に従事する全職員を常勤換算）でお答えください。※平成 28 年 10 月 1 日時点の状況

保健師 助産師 看護師	准看護師	リハビリ職 (PT・OT・ ST)	その他の 職員	(うち) 看護補助者 介護職員	(うち) 精神保健 福祉士	(うち) 介護支援 専門員	(うち) 事務職員	合計
.	.	.	.	.	.	.	.	.

\*非常勤職員・兼務職員の「常勤換算」は以下の方法で計算してください。（小数点以下第1位まで）

■1週間に数回勤務の場合：（非常勤職員の1週間の勤務時間）÷（貴事業所が定めている常勤職員の1週間の勤務時間）

■1か月に数回勤務の場合：（非常勤職員の1か月の勤務時間）÷（貴事業所が定めている常勤職員の1週間の勤務時間×4）

## 2. 診療報酬の算定状況や利用者の状況等についてお伺いします。

①平成 28 年 9 月の 1 か月間における、新規利用者数と対応が終了した利用者数をご記入ください。

1) 新規利用者数（医療保険）	人
2) 対応が終了した利用者数（医療保険）	人
3) このうち、亡くなった利用者数（医療保険）	人

②平成 27 年 9 月と平成 28 年 9 月の各 1 か月間の訪問看護の利用者数（実人数）と訪問回数をご記入ください。		平成 27 年 9 月	平成 28 年 9 月
1) 全利用者数（医療保険の利用者と介護保険の利用者を合わせた人数）		人	人
2) 医療保険のみを算定した利用者数		人	人
3) 医療保険と介護保険の両方を算定した利用者数		人	人
4) 医療保険の特掲診療料の施設基準等別表 7（厚生労働大臣の定める疾病等）に該当する利用者数		人	人
5) 医療保険の特掲診療料の施設基準等別表 8（厚生労働大臣の定める状態等にあるもの）に該当する利用者数		人	人
6) 精神科訪問看護基本療養費を算定した利用者数		人	人
7) 「特別訪問看護指示書」を交付された利用者数		人	人
8) 「精神科特別訪問看護指示書」を交付された利用者数		人	人
9) 同一建物居住者に該当する利用者数		人	人
10) 訪問回数（医療保険の利用者分と介護保険の利用者分を合わせた延べ回数）		回	回
11) 医療保険による訪問回数		回	回
12) 精神科訪問看護基本療養費を算定している利用者への訪問回数		回	回

③医療保険の利用者のうち、40 歳以上の利用者について、要介護度別の人数をご記入ください。						
	要支援 1・2	要介護 1・2・3	要介護 4	要介護 5	申請中・自立・未申請	合計
1) 平成 27 年 9 月	人	人	人	人	人	人
2) 平成 28 年 9 月	人	人	人	人	人	人

④医療保険の利用者のうち、要介護者（要介護 1～5 の利用者）について、日常生活自立度（寝たきり度）別の人数をご記入ください。					
	自立・ランク J	ランク A	ランク B	ランク C	不明
1) 平成 27 年 9 月	人	人	人	人	人
2) 平成 28 年 9 月	人	人	人	人	人

⑤医療保険の利用者のうち、要介護者（要介護 1～5 の利用者）について、認知症高齢者の日常生活自立度の区分別の人数をご記入ください。						
	自立・I	II	III	IV	M	不明
1) 平成 27 年 9 月	人	人	人	人	人	人
2) 平成 28 年 9 月	人	人	人	人	人	人

⑥医療保険の利用者のうち、15 歳未満の利用者について、超重症児・準超重症児・医療的ケア児・その他の人数をご記入ください。※「3) 平成 28 年 4～9 月での 1 か月あたりの平均」は小数点第 1 位まで記入				
	i) 超重症児 (運動機能が座位まで、判定スコアが 25 点以上)	ii) 準超重症児 (運動機能が座位まで、判定スコアが 10 点以上 25 点未満)	iii) 医療的ケア児＊ (i)・ii) を除く)	iv) その他
1) 平成 27 年 9 月	人	人	人	人
2) 平成 28 年 9 月	人	人	人	人
3) 平成 28 年 4～9 月での 1 か月あたりの平均	. 人／月	. 人／月	. 人／月	. 人／月

\* 医療的ケア児: 人工呼吸器や胃ろう等を使用し、たんの吸引や経管栄養などの医療的ケアが必要な障害児

⑦平成 28 年 4~9 月の期間に、ターミナルケアを行った利用者数をご記入ください。

1) 訪問看護ターミナルケア療養費を算定した利用者数（医療保険）	( ) 人
2) ターミナルケア加算を算定した利用者数（介護保険）	( ) 人
3) 共同で訪問看護を行った保険医療機関が在宅がん医療総合診療料を算定していた利用者数	( ) 人

⑧平成 28 年 9 月の 1 か月間の医療保険の訪問看護について、主に行ったケアの内容別に利用者数をご記入ください。医療処置とリハビリテーションの両方を行った利用者は、主として行っているどちらか一方にのみ含めてください。

1) 主に医療処置を行った利用者数	( ) 人
2) 主に看護職がリハビリテーションを行った利用者数	( ) 人
3) 主にリハビリ職がリハビリテーションを行った利用者数	( ) 人
4) その他（上記 1) ~3) 以外）の利用者数 (具体的に行つた内容 : )	( ) 人

⑨貴事業所は特別地域訪問看護加算（医療保険）の対象地域にありますか。ある場合は、平成 28 年 9 月の 1 か月間における特別地域訪問看護加算（医療保険）の算定利用者数をご記入ください。

1. 対象地域にある →特別地域訪問看護加算の算定利用者数 : ( ) 人 ※実人数

2. 対象地域にない

【対象地域にない場合】

⑨-1 特別地域訪問看護加算（医療保険）の対象地域に居住する利用者はいますか。

1. いる →特別地域訪問看護加算の対象地域に居住する利用者数 : ( ) 人 ※実人数

2. いない

⑩貴事業所は中山間地域等の小規模事業所加算（介護保険）の対象地域にありますか。

1. 対象地域にある 2. 対象地域にない

⑪中山間地域等提供加算（介護保険）の対象地域に居住する利用者はいますか。いる場合は、その人数と平成 28 年 9 月の 1 か月間における算定利用者数をご記入ください。

1. いる →中山間地域等提供加算の対象地域に居住する利用者数 : ( ) 人 ※実人数

→上記のうち、中山間地域等提供加算を算定している利用者数 : ( ) 人 ※実人数

2. いない

### 3. 土日や夜間、緊急時の対応についてお伺いします（医療保険に限ります）。

①早朝・夜間・深夜や土日祝日の計画的な訪問に対応していますか。対応しているものをお答えください。※○はいくつでも

- |                      |                      |                      |
|----------------------|----------------------|----------------------|
| 1. 早朝（朝 6 時から 8 時まで） | 2. 夜間（18 時から 22 時まで） | 3. 深夜（22 時から朝 6 時まで） |
| 4. 土曜日               | 5. 日曜日               | 6. 祝日                |
| 7. いずれも対応していない       |                      |                      |

②平成 28 年 9 月の 1 か月間で、緊急訪問した利用者はいましたか。いた場合は、その人数と延べ訪問回数、緊急訪問看護加算（医療保険）の算定回数をご記入ください。

1. いなかつた

2. いた →利用者数 : ( ) 人 ※実人数

→延べ訪問回数 : ( ) 回、緊急訪問看護加算の算定回数 : ( ) 回

4. 他の医療機関や訪問看護ステーション等との連携状況についてお伺いします(医療保険に限ります)。

①平成 28 年 9 月の 1 か月間について、連携に関する診療報酬項目の算定利用者数と算定回数をご記入ください。

	算定利用者数(実人数)	算定回数
1) 退院時共同指導加算(医療保険)	人	回
2) 在宅患者連携指導加算	人	回
3) 在宅患者緊急時等カンファレンス加算	人	回
4) 訪問看護情報提供療養費	人	回

②貴事業所に在宅褥瘡管理者はいますか。いる場合はその人数をご記入ください。

1. いる→( ) 人      2. いない

③貴事業所では、医療機関と連携して、多職種から構成される「在宅褥瘡対策チーム」(診療報酬上、医療機関が「在宅患者訪問褥瘡管理指導料」を算定するもの)に参加していますか。

1. 参加している →平成 28 年 9 月 1 か月間での算定利用者数: ( ) 人      ※実人数  
 2. 参加していない  
 3. 「在宅褥瘡対策チーム」を知らない

④平成 27 年 9 月と平成 28 年 9 月の各 1 か月間の医療保険の利用者のうち、貴事業所以外の実施主体による訪問看護も利用している人数(実人数)をご記入ください。

	平成 27 年 9 月	平成 28 年 9 月
1) 複数の実施主体による訪問看護を利用している人数	( ) 人	( ) 人
2) 貴事業所以外の訪問看護ステーションと併用している人数	( ) 人	( ) 人
3) 病院・診療所の訪問看護と併用している人数	( ) 人	( ) 人
4) 同一日に貴事業所が 2 か所目の緊急訪問を実施した人数	( ) 人	( ) 人

【平成 28 年 9 月に同一日に貴事業所が 2 か所目の緊急訪問を実施した利用者がいる場合】

④-1 1 か所目の訪問看護ステーションが緊急訪問できなかった理由は何ですか。※○はいくつでも

1. 1 か所目の訪問看護ステーションが 24 時間対応体制加算を届出していないから  
 2. 1 か所目の訪問看護ステーションが対応困難な状態だったから  
 3. 1 か所目の訪問看護ステーションに利用者から連絡がつかなかつたから  
 4. 事前の取り決めで貴事業所(2 か所目の訪問看護ステーション)が対応することになっていたから  
 5. その他(具体的に )

⑤平成 28 年 9 月の 1 か月間に行った、訪問看護指示書、訪問看護計画書・訪問看護報告書の受け渡し(医療保険)について、授受のあった病院・診療所数と受け渡し方法別の回数をご記入ください。

	受け渡しのあった 病院・診療所数	書面(紙)での 受け渡し回数	電子ファイル等での 受け渡し回数 *
1) 訪問看護指示書(精神科含む)	( ) か所	( ) 回	( ) 回
2) 訪問看護計画書・訪問看護報告書(精神科含む)	( ) か所	( ) 回	( ) 回

\*電子ファイル等での受け渡し:書面における署名又は記名・押印に代わり、電子署名を施して、電子的な方法により受け渡すもの

⑥平成 28 年 9 月 1 か月間における、医療保険の利用者についての情報提供等の状況についてお伺いします。

A) B) 情報提供や共有を行った施設・事業所数、利用者数をご記入ください。

※情報提供や共有には、文書の有無に関わらず、カンファレンス、電話等での情報共有も含めます。

C) D) サマリー等の療養に関する文書を提供した回数、受け取った回数をご記入ください。

	A) 情報提供や共有を行った施設・事業所数	B) 情報提供や共有を行った利用者数	C) 貴事業所から <u>文書</u> を提供した回数	D) 貴事業所が <u>文書</u> を受け取った回数
1) 病院 ※訪問看護指示書、訪問看護計画書・訪問看護報告書を除く	( ) か所	( ) 人	( ) 回	( ) 回
2) 診療所 ※訪問看護指示書、訪問看護計画書・訪問看護報告書を除く	( ) か所	( ) 人	( ) 回	( ) 回
3) 歯科医療機関	( ) か所	( ) 人	( ) 回	( ) 回
4) 保険薬局	( ) か所	( ) 人	( ) 回	( ) 回
5) 居宅介護支援事業所	( ) か所	( ) 人	( ) 回	( ) 回
6) 介護老人保健施設	( ) か所	( ) 人	( ) 回	( ) 回
7) 5)・6)以外の介護保険サービス事業者	( ) か所	( ) 人	( ) 回	( ) 回
8) 地域包括支援センター	( ) か所	( ) 人	( ) 回	( ) 回
9) 特定相談事業者・障害児相談支援事業者	( ) か所	( ) 人	( ) 回	( ) 回
10) 保育所・幼稚園・学校	( ) か所	( ) 人	( ) 回	( ) 回

⑦平成 28 年 4 月～9 月に、地域住民に対する情報提供や相談、人材育成のための研修等の地域での活動（医療保険や介護保険によるものは除く）として行ったことは何ですか。 ※○はいくつでも

1. 行ったことはない
2. 地域住民に対する研修・勉強会の企画運営、又は講師
3. 地域ケア会議への参加
4. 災害時の避難行動要支援者（人工呼吸器装着者を含む）に対する個別支援計画策定への参画
5. 対応が終了した利用者や死亡した利用者家族の相談対応
6. 利用者以外の住民からの相談対応
7. 地域の医療機関・訪問看護ステーション等からの相談対応
8. 地域の医療機関・訪問看護ステーション等からの研修受け入れ
9. 看護学生等の医療・福祉・介護分野の学生の実習受け入れ
10. その他（具体的に )

5. 平成 28 年度の訪問看護に関する診療報酬項目の改定について、ご意見がございましたら具体的にご記入ください。

6. ここからは平成28年9月に貴事業所が「医療保険」で訪問看護を行った利用者4名について、利用状況等をお伺いします。回答する利用者は下記①～③の順に計4名お選びください。

- ① 15歳未満の利用者のうち、五十音順で最初の利用者1名
- ② 精神科訪問看護基本療養費の算定利用者のうち、五十音順で最初の利用者1名
- ③ 上記①・②で選ばれた利用者を除く全利用者のうち、五十音順で早い利用者2名

※①・②に該当する利用者がいない場合は、③の条件での回答利用者数を増やして、合計4名分をご回答ください。

例えば、①に該当する利用者がいない場合は、②の条件で1名、③の条件で3名をご回答ください。

### 利用者A

1) 性別	1. 男性      2. 女性	2) 年齢	( ) 歳
3) 要介護度(直近)	0. 対象外      1. 自立・未申請      2. 申請中      3. 要支援1・2 4. 要介護1      5. 要介護2      6. 要介護3      7. 要介護4      8. 要介護5		
4) 障害高齢者の日常生活自立度(寝たきり度)(直近)	0. 自立      1. J      2. A      3. B      4. C      5. 不明		
5) 認知症高齢者の日常生活自立度(直近)	0. 自立      1. I      2. II      3. III      4. IV      5. M      6. 不明		
6) 現在在宅療養を続けている原因の病名(指示書にある傷病名) ※○はいくつでも	1. 脳血管疾患      2. 循環器疾患      3. 悪性新生物 4. 内分泌疾患      5. 呼吸器疾患      6. 消化器疾患 7. 筋骨格・運動器疾患      8. 精神疾患      9. 神経難病 10. その他の神経疾患      11. その他(具体的に )		
7) 別表第七の疾病等の該当の有無 ※○はいくつでも	0. 無 1. 末期の悪性腫瘍      2. 多発性硬化症      3. 重症筋無力症 4. スモン      5. 筋萎縮性側索硬化症      6. 脊髄小脳変性症 7. ハンチントン病      8. 進行性筋ジストロフィー症      9. パーキンソン病関連疾患 10. 多系統萎縮症      11. プリオン病      12. 亜急性硬化性全脳炎 13. ライソゾーム病      14. 副腎白質ジストロフィー      15. 脊髄性筋萎縮症 16. 球脊髄性筋萎縮症      17. 慢性炎症性脱髓性多発神経炎      18. 後天性免疫不全症候群 19. 頸髄損傷      20. 人工呼吸器を使用している状態		
8) 別表第八に掲げる特別な管理の有無 ※○はいくつでも	0. 無 1. 在宅悪性腫瘍患者指導管理      2. 在宅気管切開患者指導管理 3. 気管カニューレ      4. 留置カテーテル 5. 在宅自己腹膜灌流指導管理      6. 在宅血液透析指導管理 7. 在宅酸素療法指導管理      8. 在宅中心静脈栄養法指導管理 9. 在宅成分栄養経管栄養法指導管理      10. 在宅自己導尿指導管理 11. 在宅人工呼吸指導管理      12. 在宅持続陽圧呼吸療法指導管理 13. 在宅自己疼痛管理指導管理      14. 在宅肺高血圧症患者指導管理 15. 人工肛門・人工膀胱      16. 真皮を越える褥瘡 17. 在宅患者訪問点滴注射管理指導料算定		
9) ターミナル期かどうか	1. ターミナル期→余命の見込み( )か月      2. ターミナル期でない		
10) 超重症児・準超重症児かどうか(15歳未満の場合)	1. 超重症児      2. 準超重症児      3. 非該当		
(1.超重症児／2.準超重症児の場合)特定相談事業者や障害児相談事業者との連携の有無		1. 有      2. 無	
11) 貴事業所でこの利用者に訪問看護を開始した時期	平成( )年( )月頃		
12) 在宅移行前の場所	0. 特に入院・入所はしていない 1. 病院→病床(a.一般 b.療養 c.回復期リハ d.地域包括ケア e.精神 f.その他) 2. 有床診療所      3. 介護老人保健施設      4. 特別養護老人ホーム      5. その他		
13) 直近の退院月(半年以内、直近)	1. 平成28年( )月      2. 無      3. 不明		

14) 訪問看護の種別（平成 28 年 9 月分）	1. 訪問看護基本療養費 2. 精神科訪問看護基本療養費	
14)-1 訪問看護基本療養費Ⅱまたは精神科訪問看護基本療養費Ⅲの算定の有無		1. 有 2. 無
15) 訪問看護の加算等の状況（平成 28 年 9 月分） ※○はいくつでも ※精神科を含む		
1. 特別管理加算 2. 専門性の高い看護師による訪問→ (a. 緩和ケア b. 褥瘡ケア) 3. 複数名訪問看護加算→ (a. 保健師・助産師・看護師 b. リハビリ職 c. 准看護師 d. 看護補助者 e. 精神保健福祉士) 4. 夜間・早朝訪問看護加算 5. 深夜訪問看護加算 6. 緊急訪問看護加算 7. 難病等複数回訪問加算 8. 精神科複数回訪問加算 9. 長時間訪問看護加算 10. 乳幼児加算・幼児加算 11. 24 時間対応体制加算・連絡体制加算 12. 精神科重症患者早期集中支援管理連携加算		
16) 貴事業所からの訪問日数（平成 28 年 9 月 1 か月間）	( ) 日	
うち、緊急訪問の有無・回数・理由	1. 有→ ( ) 回、理由 ( ) 2. 無	
うち、1 日につき複数回の訪問を行った日の有無・日数	1. 有→ ( ) 日 2. 無	
17) 直近の 1 回の訪問時間（分）※移動時間は含まない	( ) 分	
18) 提供する職員の職種 ※○はいくつでも (平成 28 年 9 月の訪問者)	1. 保健師・助産師・看護師 2. 准看護師 3. 理学療法士 4. 作業療法士 5. 言語聴覚士 6. 精神保健福祉士 7. その他	
19) 貴事業所以外に訪問看護を提供する施設・事業所の有無、種別・訪問者の職種	1. 有→種別 (a. 病院・診療所 b. 訪問看護ステーション) →主な訪問者の職種 (a. 看護職 b. リハビリ職 c. その他) 2. 無	
20) 特別訪問看護指示書（精神科を含む）の交付の有無・回数（平成 28 年 4~9 月）	1. 有→ ( ) 回 2. 無	
(有の場合) 指示の内容 ※○はいくつでも	1. 褥瘡の処置 2. 点滴の投与・管理 3. 頻回のバイタルサインの測定及び観察 4. その他 (具体的に)	
21) 平成 28 年 9 月 1 か月間に訪問看護で提供したケア内容に全て○をつけてください (○はいくつでも)。また、直近 1 回の訪問時に行ったケア内容のうち、主なもの 3 つまでに◎をつけてください。		
1. ターミナル期のケア 2. 服薬援助 (点眼薬等を含む) 3. 胃ろう・腸ろうによる栄養管理 4. 経鼻経管栄養 5. 吸入・吸引 6. 創傷処置 7. 浸脳・摘便 8. 褥瘡の処置 9. 皮膚潰瘍等の処置 10. 採血 11. 検体採取 (10.以外) 12. 血糖自己測定の管理 13. インスリン注射 14. 点滴・中心静脈栄養・注射 (13.以外) 15. 膀胱 (留置) カテーテルの管理 16. 導尿 17. 人工肛門・人工膀胱の管理 18. 人工呼吸器の管理 19. 陽圧換気機器の管理 20. 気管切開の処置 21. 気管カニューレの交換 22. 酸素療法管理 (在宅酸素・酸素吸入) 23. 腹膜透析 24. がん末期の疼痛管理 25. 慢性疼痛の管理 (24.以外) 26. 精神症状の観察 27. 心理的支援 28. 口腔ケア 29. 洗髪・清拭・入浴介助 30. リハビリテーション 31. 合併症予防ケア (肺炎予防等) 32. 頻回の観察・アセスメント 33. 家族への指導・支援 34. サービスの連絡調整 35. その他 (具体的に)		
→ (リハビリテーションを行った場合) 22) リハビリテーションに関する計画は訪問看護計画書と一体で作成していますか。		
1. 訪問看護計画書と一体で作成している 2. 訪問看護計画書と別に作成している 3. リハビリテーションに関する計画は特に作成していない		
(1. 一体で作成している、2. 別に作成している場合) リハビリテーションに関する計画の作成・評価への看護職の関与		
1. 有 2. 無		
(リハビリテーションを行った場合) 23) リハビリテーションの主たる実施者		
1. リハビリ職 2. リハビリ職と看護職 3. 看護職		
(1. リハビリ職の場合) 看護職による訪問看護の実施状況		
1. 看護職が訪問看護 (リハビリ以外) を行う日がある 2. 看護職が訪問看護 (リハビリ以外) を行う日がない		

## 利用者B

1) 性別		1. 男性      2. 女性	2) 年齢	( ) 歳	
3) 要介護度 (直近)		0. 対象外      1. 自立・未申請      2. 申請中      3. 要支援1・2 4. 要介護1      5. 要介護2      6. 要介護3      7. 要介護4      8. 要介護5			
4) 障害高齢者の日常生活自立度 (寝たきり度) (直近)		0. 自立      1. J      2. A      3. B      4. C      5. 不明			
5) 認知症高齢者の日常生活自立度 (直近)		0. 自立      1. I      2. II      3. III      4. IV      5. M      6. 不明			
6) 現在在宅療養を続いている原因の病名 (指示書にある傷病名) ※○はいくつでも		1. 脳血管疾患      2. 循環器疾患      3. 悪性新生物 4. 内分泌疾患      5. 呼吸器疾患      6. 消化器疾患 7. 筋骨格・運動器疾患      8. 精神疾患      9. 神経難病 10. その他の神経疾患      11. その他 (具体的に )			
7) 別表第七の疾病等の該当の有無 ※○はいくつでも		0. 無 1. 末期の悪性腫瘍      2. 多発性硬化症      3. 重症筋無力症 4. スモン      5. 筋萎縮性側索硬化症      6. 脊髄小脳変性症 7. ハンチントン病      8. 進行性筋ジストロフィー症      9. パーキンソン病関連疾患 10. 多系統萎縮症      11. プリオン病      12. 亜急性硬化性全脳炎 13. ライソゾーム病      14. 副腎白質ジストロフィー      15. 脊髄性筋萎縮症 16. 球脊髄性筋萎縮症      17. 慢性炎症性脱髓性多発神経炎      18. 後天性免疫不全症候群 19. 頸髄損傷      20. 人工呼吸器を使用している状態			
8) 別表第八に掲げる特別な管理の有無 ※○はいくつでも		0. 無 1. 在宅悪性腫瘍患者指導管理      2. 在宅気管切開患者指導管理 3. 気管カニューレ      4. 留置カテーテル 5. 在宅自己腹膜灌流指導管理      6. 在宅血液透析指導管理 7. 在宅酸素療法指導管理      8. 在宅中心静脈栄養法指導管理 9. 在宅成分栄養経管栄養法指導管理      10. 在宅自己導尿指導管理 11. 在宅人工呼吸指導管理      12. 在宅持続陽圧呼吸療法指導管理 13. 在宅自己疼痛管理指導管理      14. 在宅肺高血圧症患者指導管理 15. 人工肛門・人工膀胱      16. 真皮を越える褥瘡 17. 在宅患者訪問点滴注射管理指導料算定			
9) ターミナル期かどうか		1. ターミナル期→余命の見込み ( ) か月	2. ターミナル期でない		
10) 超重症児・準超重症児かどうか (15歳未満の場合)		1. 超重症児      2. 準超重症児      3. 非該当			
(1. 超重症児／2. 準超重症児の場合) 特定相談事業者や障害児相談事業者との連携の有無		1. 有      2. 無			
11) 貴事業所でこの利用者に訪問看護を開始した時期		平成 ( ) 年 ( ) 月頃			
12) 在宅移行前の場所		0. 特に入院・入所はしていない 1. 病院→病床 (a. 一般 b. 療養 c. 回復期リハ d. 地域包括ケア e. 精神 f. その他) 2. 有床診療所      3. 介護老人保健施設      4. 特別養護老人ホーム      5. その他			
13) 直近の退院月 (半年以内、直近)		1. 平成28年 ( ) 月      2. 無      3. 不明			

14) 訪問看護の種別（平成 28 年 9 月分）	1. 訪問看護基本療養費 2. 精神科訪問看護基本療養費	
14)-1 訪問看護基本療養費Ⅱまたは精神科訪問看護基本療養費Ⅲの算定の有無		1. 有 2. 無
15) 訪問看護の加算等の状況（平成 28 年 9 月分） ※○はいくつでも ※精神科を含む		
1. 特別管理加算 2. 専門性の高い看護師による訪問→ (a. 緩和ケア b. 褥瘡ケア) 3. 複数名訪問看護加算→ (a. 保健師・助産師・看護師 b. リハビリ職 c. 准看護師 d. 看護補助者 e. 精神保健福祉士) 4. 夜間・早朝訪問看護加算 5. 深夜訪問看護加算 6. 緊急訪問看護加算 7. 難病等複数回訪問加算 8. 精神科複数回訪問加算 9. 長時間訪問看護加算 10. 乳幼児加算・幼児加算 11. 24 時間対応体制加算・連絡体制加算 12. 精神科重症患者早期集中支援管理連携加算		
16) 貴事業所からの訪問日数（平成 28 年 9 月 1 か月間）	( ) 日	
うち、緊急訪問の有無・回数・理由	1. 有→ ( ) 回、理由 ( ) 2. 無	
うち、1 日につき複数回の訪問を行った日の有無・日数	1. 有→ ( ) 日 2. 無	
17) 直近の 1 回の訪問時間（分）※移動時間は含まない	( ) 分	
18) 提供する職員の職種 ※○はいくつでも (平成 28 年 9 月の訪問者)	1. 保健師・助産師・看護師 2. 准看護師 3. 理学療法士 4. 作業療法士 5. 言語聴覚士 6. 精神保健福祉士 7. その他	
19) 貴事業所以外に訪問看護を提供する施設・事業所の有無、種別・訪問者の職種	1. 有→種別 (a. 病院・診療所 b. 訪問看護ステーション) →主な訪問者の職種 (a. 看護職 b. リハビリ職 c. その他) 2. 無	
20) 特別訪問看護指示書（精神科を含む）の交付の有無・回数（平成 28 年 4~9 月）	1. 有→ ( ) 回 2. 無	
(有の場合) 指示の内容 ※○はいくつでも	1. 褥瘡の処置 2. 点滴の投与・管理 3. 頻回のバイタルサインの測定及び観察 4. その他 (具体的に)	
21) 平成 28 年 9 月 1 か月間に訪問看護で提供したケア内容に全て○をつけてください (○はいくつでも)。また、直近 1 回の訪問時に行ったケア内容のうち、主なもの 3 つまでに◎をつけてください。		
1. ターミナル期のケア 2. 服薬援助 (点眼薬等を含む) 3. 胃ろう・腸ろうによる栄養管理 4. 経鼻経管栄養 5. 吸入・吸引 6. 創傷処置 7. 浸脳・摘便 8. 褥瘡の処置 9. 皮膚潰瘍等の処置 10. 採血 11. 検体採取 (10.以外) 12. 血糖自己測定の管理 13. インスリン注射 14. 点滴・中心静脈栄養・注射 (13.以外) 15. 膀胱 (留置) カテーテルの管理 16. 導尿 17. 人工肛門・人工膀胱の管理 18. 人工呼吸器の管理 19. 陽圧換気機器の管理 20. 気管切開の処置 21. 気管カニューレの交換 22. 酸素療法管理 (在宅酸素・酸素吸入) 23. 腹膜透析 24. がん末期の疼痛管理 25. 慢性疼痛の管理 (24.以外) 26. 精神症状の観察 27. 心理的支援 28. 口腔ケア 29. 洗髪・清拭・入浴介助 30. リハビリテーション 31. 合併症予防ケア (肺炎予防等) 32. 頻回の観察・アセスメント 33. 家族への指導・支援 34. サービスの連絡調整 35. その他 (具体的に)		
→ (リハビリテーションを行った場合) 22) リハビリテーションに関する計画は訪問看護計画書と一体で作成していますか。		
1. 訪問看護計画書と一体で作成している 2. 訪問看護計画書と別に作成している 3. リハビリテーションに関する計画は特に作成していない		
(1. 一体で作成している、2. 別に作成している場合) リハビリテーションに関する計画の作成・評価への看護職の関与		
1. 有 2. 無		
(リハビリテーションを行った場合) 23) リハビリテーションの主たる実施者		
1. リハビリ職 2. リハビリ職と看護職 3. 看護職		
(1. リハビリ職の場合) 看護職による訪問看護の実施状況		
1. 看護職が訪問看護 (リハビリ以外) を行う日がある 2. 看護職が訪問看護 (リハビリ以外) を行う日がない		

## 利用者C

1) 性別		1. 男性      2. 女性	2) 年齢	( ) 歳	
3) 要介護度（直近）		0. 対象外      1. 自立・未申請      2. 申請中      3. 要支援1・2 4. 要介護1      5. 要介護2      6. 要介護3      7. 要介護4      8. 要介護5			
4) 障害高齢者の日常生活自立度（寝たきり度）（直近）		0. 自立      1. J      2. A      3. B      4. C      5. 不明			
5) 認知症高齢者の日常生活自立度（直近）		0. 自立      1. I      2. II      3. III      4. IV      5. M      6. 不明			
6) 現在在宅療養を続いている原因の病名（指示書にある傷病名） ※○はいくつでも		1. 脳血管疾患      2. 循環器疾患      3. 悪性新生物 4. 内分泌疾患      5. 呼吸器疾患      6. 消化器疾患 7. 筋骨格・運動器疾患      8. 精神疾患      9. 神経難病 10. その他の神経疾患      11. その他（具体的に）			
7) 別表第七の疾病等の該当の有無 ※○はいくつでも		0. 無 1. 末期の悪性腫瘍      2. 多発性硬化症      3. 重症筋無力症 4. スモン      5. 筋萎縮性側索硬化症      6. 脊髄小脳変性症 7. ハンチントン病      8. 進行性筋ジストロフィー症      9. パーキンソン病関連疾患 10. 多系統萎縮症      11. プリオン病      12. 亜急性硬化性全脳炎 13. ライソゾーム病      14. 副腎白質ジストロフィー      15. 脊髄性筋萎縮症 16. 球脊髄性筋萎縮症      17. 慢性炎症性脱髓性多発神経炎      18. 後天性免疫不全症候群 19. 頸髄損傷      20. 人工呼吸器を使用している状態			
8) 別表第八に掲げる特別な管理の有無 ※○はいくつでも		0. 無 1. 在宅悪性腫瘍患者指導管理      2. 在宅気管切開患者指導管理 3. 気管カニューレ      4. 留置カテーテル 5. 在宅自己腹膜灌流指導管理      6. 在宅血液透析指導管理 7. 在宅酸素療法指導管理      8. 在宅中心静脈栄養法指導管理 9. 在宅成分栄養経管栄養法指導管理      10. 在宅自己導尿指導管理 11. 在宅人工呼吸指導管理      12. 在宅持続陽圧呼吸療法指導管理 13. 在宅自己疼痛管理指導管理      14. 在宅肺高血圧症患者指導管理 15. 人工肛門・人工膀胱      16. 真皮を越える褥瘡 17. 在宅患者訪問点滴注射管理指導料算定			
9) ターミナル期かどうか		1. ターミナル期→余命の見込み（ ）か月      2. ターミナル期でない			
10) 超重症児・準超重症児かどうか（15歳未満の場合） (1. 超重症児／2. 準超重症児の場合)特定相談事業者や障害児相談事業者との連携の有無		1. 超重症児      2. 準超重症児      3. 非該当 1. 有      2. 無			
11) 貴事業所でこの利用者に訪問看護を開始した時期		平成（ ）年（ ）月頃			
12) 在宅移行前の場所		0. 特に入院・入所はしていない 1. 病院→病床 (a. 一般 b. 療養 c. 回復期リハ d. 地域包括ケア e. 精神 f. その他) 2. 有床診療所      3. 介護老人保健施設      4. 特別養護老人ホーム      5. その他			
13) 直近の退院月（半年以内、直近）		1. 平成28年（ ）月      2. 無      3. 不明			

14) 訪問看護の種別（平成 28 年 9 月分）	1. 訪問看護基本療養費 2. 精神科訪問看護基本療養費	
14)-1 訪問看護基本療養費Ⅱまたは精神科訪問看護基本療養費Ⅲの算定の有無		1. 有 2. 無
15) 訪問看護の加算等の状況（平成 28 年 9 月分） ※○はいくつでも ※精神科を含む		
1. 特別管理加算 2. 専門性の高い看護師による訪問→ (a. 緩和ケア b. 褥瘡ケア) 3. 複数名訪問看護加算→ (a. 保健師・助産師・看護師 b. リハビリ職 c. 准看護師 d. 看護補助者 e. 精神保健福祉士) 4. 夜間・早朝訪問看護加算 5. 深夜訪問看護加算 6. 緊急訪問看護加算 7. 難病等複数回訪問加算 8. 精神科複数回訪問加算 9. 長時間訪問看護加算 10. 乳幼児加算・幼児加算 11. 24 時間対応体制加算・連絡体制加算 12. 精神科重症患者早期集中支援管理連携加算		
16) 貴事業所からの訪問日数（平成 28 年 9 月 1 か月間）	( ) 日	
うち、緊急訪問の有無・回数・理由	1. 有→ ( ) 回、理由 ( ) 2. 無	
うち、1 日につき複数回の訪問を行った日の有無・日数	1. 有→ ( ) 日 2. 無	
17) 直近の 1 回の訪問時間（分）※移動時間は含まない	( ) 分	
18) 提供する職員の職種 ※○はいくつでも (平成 28 年 9 月の訪問者)	1. 保健師・助産師・看護師 2. 准看護師 3. 理学療法士 4. 作業療法士 5. 言語聴覚士 6. 精神保健福祉士 7. その他	
19) 貴事業所以外に訪問看護を提供する施設・事業所の有無、種別・訪問者の職種	1. 有→種別 (a. 病院・診療所 b. 訪問看護ステーション) →主な訪問者の職種 (a. 看護職 b. リハビリ職 c. その他) 2. 無	
20) 特別訪問看護指示書（精神科を含む）の交付の有無・回数（平成 28 年 4~9 月）	1. 有→ ( ) 回 2. 無	
(有の場合) 指示の内容 ※○はいくつでも	1. 褥瘡の処置 2. 点滴の投与・管理 3. 頻回のバイタルサインの測定及び観察 4. その他 (具体的に)	
21) 平成 28 年 9 月 1 か月間に訪問看護で提供したケア内容に全て○をつけてください (○はいくつでも)。また、直近 1 回の訪問時に行ったケア内容のうち、主なもの 3 つまでに◎をつけてください。		
1. ターミナル期のケア 2. 服薬援助 (点眼薬等を含む) 3. 胃ろう・腸ろうによる栄養管理 4. 経鼻経管栄養 5. 吸入・吸引 6. 創傷処置 7. 浸脳・摘便 8. 褥瘡の処置 9. 皮膚潰瘍等の処置 10. 採血 11. 検体採取 (10.以外) 12. 血糖自己測定の管理 13. インスリン注射 14. 点滴・中心静脈栄養・注射 (13.以外) 15. 膀胱 (留置) カテーテルの管理 16. 導尿 17. 人工肛門・人工膀胱の管理 18. 人工呼吸器の管理 19. 陽圧換気機器の管理 20. 気管切開の処置 21. 気管カニューレの交換 22. 酸素療法管理 (在宅酸素・酸素吸入) 23. 腹膜透析 24. がん末期の疼痛管理 25. 慢性疼痛の管理 (24.以外) 26. 精神症状の観察 27. 心理的支援 28. 口腔ケア 29. 洗髪・清拭・入浴介助 30. リハビリテーション 31. 合併症予防ケア (肺炎予防等) 32. 頻回の観察・アセスメント 33. 家族への指導・支援 34. サービスの連絡調整 35. その他 (具体的に)		
→ (リハビリテーションを行った場合) 22) リハビリテーションに関する計画は訪問看護計画書と一体で作成していますか。		
1. 訪問看護計画書と一体で作成している 2. 訪問看護計画書と別に作成している 3. リハビリテーションに関する計画は特に作成していない		
(1. 一体で作成している、2. 別に作成している場合) リハビリテーションに関する計画の作成・評価への看護職の関与		
1. 有 2. 無		
(リハビリテーションを行った場合) 23) リハビリテーションの主たる実施者		
1. リハビリ職 2. リハビリ職と看護職 3. 看護職		
(1. リハビリ職の場合) 看護職による訪問看護の実施状況		
1. 看護職が訪問看護 (リハビリ以外) を行う日がある 2. 看護職が訪問看護 (リハビリ以外) を行う日がない		

## 利用者D

1) 性別		1. 男性      2. 女性	2) 年齢	( ) 歳	
3) 要介護度 (直近)		0. 対象外      1. 自立・未申請      2. 申請中      3. 要支援1・2 4. 要介護1      5. 要介護2      6. 要介護3      7. 要介護4      8. 要介護5			
4) 障害高齢者の日常生活自立度 (寝たきり度) (直近)		0. 自立      1. J      2. A      3. B      4. C      5. 不明			
5) 認知症高齢者の日常生活自立度 (直近)		0. 自立      1. I      2. II      3. III      4. IV      5. M      6. 不明			
6) 現在在宅療養を続いている原因の病名 (指示書にある傷病名) ※○はいくつでも		1. 脳血管疾患      2. 循環器疾患      3. 悪性新生物 4. 内分泌疾患      5. 呼吸器疾患      6. 消化器疾患 7. 筋骨格・運動器疾患      8. 精神疾患      9. 神経難病 10. その他の神経疾患      11. その他 (具体的に )			
7) 別表第七の疾病等の該当の有無 ※○はいくつでも		0. 無 1. 末期の悪性腫瘍      2. 多発性硬化症      3. 重症筋無力症 4. スモン      5. 筋萎縮性側索硬化症      6. 脊髄小脳変性症 7. ハンチントン病      8. 進行性筋ジストロフィー症      9. パーキンソン病関連疾患 10. 多系統萎縮症      11. プリオン病      12. 亜急性硬化性全脳炎 13. ライソゾーム病      14. 副腎白質ジストロフィー      15. 脊髄性筋萎縮症 16. 球脊髄性筋萎縮症      17. 慢性炎症性脱髓性多発神経炎      18. 後天性免疫不全症候群 19. 頸髄損傷      20. 人工呼吸器を使用している状態			
8) 別表第八に掲げる特別な管理の有無 ※○はいくつでも		0. 無 1. 在宅悪性腫瘍患者指導管理      2. 在宅気管切開患者指導管理 3. 気管カニューレ      4. 留置カテーテル 5. 在宅自己腹膜灌流指導管理      6. 在宅血液透析指導管理 7. 在宅酸素療法指導管理      8. 在宅中心静脈栄養法指導管理 9. 在宅成分栄養経管栄養法指導管理      10. 在宅自己導尿指導管理 11. 在宅人工呼吸指導管理      12. 在宅持続陽圧呼吸療法指導管理 13. 在宅自己疼痛管理指導管理      14. 在宅肺高血圧症患者指導管理 15. 人工肛門・人工膀胱      16. 真皮を越える褥瘡 17. 在宅患者訪問点滴注射管理指導料算定			
9) ターミナル期かどうか		1. ターミナル期→余命の見込み ( ) か月	2. ターミナル期でない		
10) 超重症児・準超重症児かどうか (15歳未満の場合)		1. 超重症児      2. 準超重症児      3. 非該当			
(1. 超重症児／2. 準超重症児の場合) 特定相談事業者や障害児相談事業者との連携の有無		1. 有      2. 無			
11) 貴事業所でこの利用者に訪問看護を開始した時期		平成 ( ) 年 ( ) 月頃			
12) 在宅移行前の場所		0. 特に入院・入所はしていない 1. 病院→病床 (a. 一般 b. 療養 c. 回復期リハ d. 地域包括ケア e. 精神 f. その他) 2. 有床診療所      3. 介護老人保健施設      4. 特別養護老人ホーム      5. その他			
13) 直近の退院月 (半年以内、直近)		1. 平成28年 ( ) 月      2. 無      3. 不明			

14) 訪問看護の種別（平成 28 年 9 月分）	1. 訪問看護基本療養費 2. 精神科訪問看護基本療養費	
14)-1 訪問看護基本療養費Ⅱまたは精神科訪問看護基本療養費Ⅲの算定の有無		1. 有 2. 無
15) 訪問看護の加算等の状況（平成 28 年 9 月分） ※○はいくつでも ※精神科を含む		
1. 特別管理加算 2. 専門性の高い看護師による訪問→ (a. 緩和ケア b. 褥瘡ケア) 3. 複数名訪問看護加算→ (a. 保健師・助産師・看護師 b. リハビリ職 c. 准看護師 d. 看護補助者 e. 精神保健福祉士) 4. 夜間・早朝訪問看護加算 5. 深夜訪問看護加算 6. 緊急訪問看護加算 7. 難病等複数回訪問加算 8. 精神科複数回訪問加算 9. 長時間訪問看護加算 10. 乳幼児加算・幼児加算 11. 24 時間対応体制加算・連絡体制加算 12. 精神科重症患者早期集中支援管理連携加算		
16) 貴事業所からの訪問日数（平成 28 年 9 月 1 か月間）	( ) 日	
うち、緊急訪問の有無・回数・理由	1. 有→ ( ) 回、理由 ( ) 2. 無	
うち、1 日につき複数回の訪問を行った日の有無・日数	1. 有→ ( ) 日 2. 無	
17) 直近の 1 回の訪問時間（分）※移動時間は含まない	( ) 分	
18) 提供する職員の職種 ※○はいくつでも (平成 28 年 9 月の訪問者)	1. 保健師・助産師・看護師 2. 准看護師 3. 理学療法士 4. 作業療法士 5. 言語聴覚士 6. 精神保健福祉士 7. その他	
19) 貴事業所以外に訪問看護を提供する施設・事業所の有無、種別・訪問者の職種	1. 有→種別 (a. 病院・診療所 b. 訪問看護ステーション) →主な訪問者の職種 (a. 看護職 b. リハビリ職 c. その他) 2. 無	
20) 特別訪問看護指示書（精神科を含む）の交付の有無・回数（平成 28 年 4~9 月）	1. 有→ ( ) 回 2. 無	
(有の場合) 指示の内容 ※○はいくつでも	1. 褥瘡の処置 2. 点滴の投与・管理 3. 頻回のバイタルサインの測定及び観察 4. その他 (具体的に)	
21) 平成 28 年 9 月 1 か月間に訪問看護で提供したケア内容に全て○をつけてください (○はいくつでも)。また、直近 1 回の訪問時に行ったケア内容のうち、主なもの 3 つまでに◎をつけてください。		
1. ターミナル期のケア 2. 服薬援助 (点眼薬等を含む) 3. 胃ろう・腸ろうによる栄養管理 4. 経鼻経管栄養 5. 吸入・吸引 6. 創傷処置 7. 浸脳・摘便 8. 褥瘡の処置 9. 皮膚潰瘍等の処置 10. 採血 11. 検体採取 (10.以外) 12. 血糖自己測定の管理 13. インスリン注射 14. 点滴・中心静脈栄養・注射 (13.以外) 15. 膀胱 (留置) カテーテルの管理 16. 導尿 17. 人工肛門・人工膀胱の管理 18. 人工呼吸器の管理 19. 陽圧換気機器の管理 20. 気管切開の処置 21. 気管カニューレの交換 22. 酸素療法管理 (在宅酸素・酸素吸入) 23. 腹膜透析 24. がん末期の疼痛管理 25. 慢性疼痛の管理 (24.以外) 26. 精神症状の観察 27. 心理的支援 28. 口腔ケア 29. 洗髪・清拭・入浴介助 30. リハビリテーション 31. 合併症予防ケア (肺炎予防等) 32. 頻回の観察・アセスメント 33. 家族への指導・支援 34. サービスの連絡調整 35. その他 (具体的に)		
→ (リハビリテーションを行った場合) 22) リハビリテーションに関する計画は訪問看護計画書と一体で作成していますか。		
1. 訪問看護計画書と一体で作成している 2. 訪問看護計画書と別に作成している 3. リハビリテーションに関する計画は特に作成していない		
(1. 一体で作成している、2. 別に作成している場合) リハビリテーションに関する計画の作成・評価への看護職の関与		
1. 有 2. 無		
(リハビリテーションを行った場合) 23) リハビリテーションの主たる実施者		
1. リハビリ職 2. リハビリ職と看護職 3. 看護職		
(1. リハビリ職の場合) 看護職による訪問看護の実施状況		
1. 看護職が訪問看護 (リハビリ以外) を行う日がある 2. 看護職が訪問看護 (リハビリ以外) を行う日がない		

## 平成 28 年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（平成 28 年度調査）

## 在宅歯科医療の実施状況調査 調査票

- ※ この調査票は、在宅療養支援歯科診療所の施設基準の届出をしている歯科医療機関の開設者・管理者の方に、貴施設における歯科訪問診療の実施状況や医科医療機関との連携状況等についてお伺いするものです。
- ※ ご回答の際は、あてはまる番号を○（マル）で囲んでください。また、（　）内には具体的な数値、用語等をお書きください。（　）内に数値を記入する設問で、該当なしは「〇（ゼロ）」を、わからない場合は「一」をお書きください。
- ※ 特に断りのない場合は、平成 28 年 9 月 30 日時点の状況についてご記入ください。
- ※ 患者数について「実人数」と記載のある質問についてはレセプト件数と同数をお答えください。
- ※ 特に断りのない場合は、『医療保険』の歯科訪問診療に関してお答えください。  
介護保険など、医療保険以外に関しては、設問内で指定がない場合には含みません。

管理者についてお伺いします。

① 性別	1. 男性 2. 女性	② 年齢	( ) 歳
------	----------------	------	-------

1. 貴施設の概要（平成 28 年 9 月 30 日時点）についてお伺いします。

①所在地（都道府県まで）	( ) 都・道・府・県		
②開設主体 ※〇は1つだけ	01. 個人	02. 法人	03. その他（具体的に）
③標榜診療科 ※あてはまるものすべてに〇	01. 歯科	02. 矯正歯科	03. 小児歯科 04. 歯科口腔外科
④医科の医療機関の 併設状況 ※〇は1つだけ	01. 併設している	02. 併設していない	
⑤貴施設と同一建物内 または同一敷地内の 施設・事業所（同一法人 かどうかは問わない） ※あてはまるものすべてに〇	01. 訪問看護ステーション 02. 介護老人保健施設 03. 介護老人福祉施設 04. 居宅介護支援事業所 05. 通所介護事業所 06. 地域包括支援センター 07. サービス付き高齢者向け住宅 08. 有料老人ホーム 09. 養護老人ホーム・軽費老人ホーム 10. 認知症高齢者グループホーム 11. その他（具体的に） 12. 併設施設・事業所はない		
⑥施設基準 (届出のあるもの) ※あてはまるものすべてに〇	01. 歯科外来診療環境体制加算 02. 歯科診療特別対応連携加算 03. かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所 04. 歯科治療総合医療管理料 05. 地域医療連携体制加算 06. 在宅歯科医療推進加算 07. 在宅患者歯科治療総合医療管理料 08. 上記のいずれもない		

⑦職員数		常勤	非常勤（常勤換算※）
	1) 歯科医師	( ) 人	( ) 人
	2) 看護師・准看護師	( ) 人	( ) 人
	3) 歯科衛生士	( ) 人	( ) 人
	4) 歯科技工士	( ) 人	( ) 人
	5) 管理栄養士・栄養士	( ) 人	( ) 人
	6) 言語聴覚士	( ) 人	( ) 人
	7) その他	( ) 人	( ) 人
	8) 合計	( ) 人	( ) 人

※常勤換算については、以下の方法で算出してください。また、常勤換算後の職員数は小数点以下第1位までお答えください。

■1週間に数回勤務の場合:(非常勤職員の1週間の勤務時間)÷(貴施設が定めている常勤職員の1週間の勤務時間)

■1か月に数回勤務の場合:(非常勤職員の1か月の勤務時間)÷(貴施設が定めている常勤職員の1週間の勤務時間×4)

⑦-1 ⑦のうち、平成28年9月1か月間に歯科訪問診療等*に従事した職員数		常勤	非常勤（常勤換算）
	1) 歯科医師	( ) 人	( ) 人
	2) 看護師・准看護師	( ) 人	( ) 人
	3) 歯科衛生士	( ) 人	( ) 人
	4) 歯科技工士	( ) 人	( ) 人
	5) 管理栄養士・栄養士	( ) 人	( ) 人
	6) 言語聴覚士	( ) 人	( ) 人
	7) その他	( ) 人	( ) 人
	8) 合計	( ) 人	( ) 人

⑦-2 在宅歯科医療に係る経験が3年以上の歯科医師数（実人数）	( ) 人	( ) 人
---------------------------------	-------	-------

\*歯科訪問診療等:歯科医師による歯科訪問診療の他、歯科衛生士の訪問による口腔衛生指導なども含みます。

⑧医療機器等の保有台数	1) 歯科ユニット台数	( ) 台
	2) ポータブル歯科治療用ユニット	( ) 台
	3) ポータブルエンジン（携帯用マイクロモーター）	( ) 台
	4) ポータブルバキューム	( ) 台
	5) ポータブル歯科用X線装置	( ) 台

⑨貴施設の常勤の歯科医師について、「在宅療養支援歯科診療所」の施設基準の届出様式に記載した受講済みの「高齢者の心身の特性、口腔機能の管理及び緊急時対応等に係る研修」に関して、その後に当該内容の研修（類似する内容も含む）を受講したことはありますか。 ※○は1つだけ

- 01. 受講したことがある
- 02. 受講したことはない

## 2. 貴施設における歯科訪問診療の実施状況等についてお伺いします。

①貴施設では、**歯科訪問診療（歯科衛生士のみの訪問は含まれません）**をどのような体制で行っていますか。  
最もあてはまるものを1つ選んでください。 ※○は1つだけ

- 00. 直近1年間は歯科訪問診療を実施していない
- 01. 歯科訪問診療を専門に行っている（外来歯科診療は5%未満）
- 02. 患者の要望があれば、外来歯科診療の実施時間を調整し歯科訪問診療を行っている（→4ページの質問②へ）
- 03. 昼休み又は外来歯科診療の診療時間外に歯科訪問診療を行っている（→4ページの質問②へ）
- 04. 複数の歯科医師がいて、外来歯科診療と歯科訪問診療を同時にしている（→4ページの質問②へ）
- 05. 特定の曜日・時間に歯科訪問診療を行っている（→4ページの質問②へ）
- 06. その他（具体的に）（→4ページの質問②へ）

【上記①で「00. 歯科訪問診療を実施していない」と回答した施設の方】

①-1 歯科訪問診療を実施していない理由は何ですか。※あてはまるものすべてに○

- 01. 必要な状況になったら対応できるように体制は整えているものの、現在は歯科訪問診療を実施する意向がないから
- 02. 歯科訪問診療の依頼がないから
- 03. 診療報酬上の評価が低いから
- 04. その他（具体的に）

→歯科訪問診療を実施していない施設の方は以上で質問は終わりです。ご協力いただき、ありがとうございました。

【上記①で「01. 歯科訪問診療を専門に行っている」と回答した施設の方】

①-2 患者・家族等からの連絡（緊急時を含む）に対してどのような体制で対応していますか。  
※あてはまるものすべてに○

- 01. 診療所の受付電話で対応（受付担当者が対応）
- 02. 診療所の受付電話が歯科医師に自動転送される
- 03. 歯科医師の携帯電話で対応
- 04. コールセンターが対応
- 05. その他（具体的に）

【上記①で「01. 歯科訪問診療を専門に行っている」と回答した施設の方】

①-3 外来歯科診療が必要な患者について診療を依頼している歯科医療機関数は何施設ありますか。

（ ）施設

【上記①で「01. 歯科訪問診療を専門に行っている」と回答した施設の方】

①-4 平成28年4月以降、患者・家族等から往診や訪問診療を求められたものの対応ができなかったことはありますか。また、ある場合は、どのような理由によるものでしょうか。※○は1つ

- 01. ある一対応できなかった理由



- 02. ない

## 【歯科訪問診療を行っている全ての施設の方にお伺いします。】

②平成 27 年 9 月と平成 28 年 9 月の各 1 か月間の 1) 歯科外来患者総数（当月の初診患者と再診患者の延べ人数）、2) 歯科外来患者の実人数（当月のレセプト件数）をご記入ください。

注）該当患者がいない場合は「0（ゼロ）」、わからない場合は「—」をご記入ください。

	平成 27 年 9 月	平成 28 年 9 月
1) 歯科外来患者総数（延べ人数）	( ) 人	( ) 人
2) 歯科外来患者数（実人数）	( ) 人	( ) 人

③貴施設が歯科訪問診療を開始したのはいつ頃ですか。	昭和・平成 ( ) 年 ( ) 月頃
---------------------------	--------------------

④貴施設では、平成 28 年 4 月以降、「特別の関係」にある病院又は施設等への歯科訪問診療等がありますか。  
※○は 1 つだけ

01. ある                    02. 「特別の関係」にある施設はあるが、歯科訪問診療等は行っていない  
03. 「特別の関係」にある施設がない

※「特別の関係」にある病院又は施設等への歯科訪問診療等とは、歯科診療報酬点数表に関する留意事項通知の第 2 章 第 2 部 (9) (10) で規定されている歯科訪問診療を指します。

⑤平成 28 年 9 月 1 か月間に歯科訪問診療等を行った延べ日数（当月の歯科訪問診療を実施した延べ日数、歯科医師が 1 人で毎日実施の場合は「30 日」、歯科医師が 2 人以上の場合はそれぞれの歯科訪問診療の合計日数となります。）をご記入ください。歯科衛生士の訪問延べ日数も同様です。

1) 歙科医師が歯科訪問診療を行った延べ日数（歯科訪問診療料を算定した延べ日数及び特別の関係にある施設等での歯科訪問診療による初・再診料を算定した延べ日数の合計）	( ) 日
2) 歯科医師の指示のもとに、歯科衛生士が訪問歯科衛生指導（居宅療養管理指導を含む）を実施した延べ日数 ※歯科医師に同行した場合は含みません。	( ) 日

【上記⑤で歯科訪問診療等を行った延べ日数がすべて「0」であった施設の方にお伺いします】

⑤-1 貴施設では、平成 28 年 9 月 1 か月間の歯科訪問診療等の実績がなかったのはなぜですか。  
※あてはまるものすべてに○

01. 調査対象月に歯科訪問診療等の依頼がなかつたため  
02. 調査対象月に入っていた歯科訪問診療の予約がキャンセルになったため  
03. その他（具体的に )

## 【歯科訪問診療を行っている全ての施設の方にお伺いします。】

⑥平成 28 年 9 月 1 か月間の歯科訪問診療等を行った患者数をご記入ください。

1) 歯科訪問診療等の患者総数（延べ人数）(人)	( ) 人
2) 歯科医師が歯科訪問診療を行った患者の実人数（人）（レセプト件数） ※同じ患者に 2 回診療した場合も「1 人」。	( ) 人
3) 歯科医師が居宅療養管理指導を行った患者の実人数（人）	( ) 人
4) 歯科医師の指示のもと、歯科衛生士のみで訪問し、訪問歯科衛生指導（居宅療養管理指導を含む）を実施した患者の実人数（人）	( ) 人
5) 「在宅患者訪問口腔リハビリテーション指導管理料」を算定した患者の実人数（人）	( ) 人

## ⑦平成 28 年 9 月 1 か月間の算定回数をご記入ください。

注) 該当なしは「0 (ゼロ)」、わからない場合は「—」をご記入ください。

1) 歯科訪問診療 1 上記 1) のうち、「著しく歯科診療が困難な者」又は「要介護 3 以上」に準じる状態により、20 分以上の診療が困難であった回数	( ) 回
2) 歯科訪問診療 2	( ) 回
3) 歯科訪問診療 3 ※a) + b) - c) となります。 a) 上記 3) のうち、20 分未満の歯科訪問診療の算定回数 ※10 人以上、10 人未満を問わず 20 分未満の歯科訪問診療についてご記入ください。	( ) 回
b) 上記 3) のうち、同一建物で 10 人以上の患者の歯科訪問診療の算定回数 ※20 分未満、20 分以上を問わず 10 人以上の歯科訪問診療についてご記入ください。	( ) 回
c) 上記 3) のうち、20 分未満かつ同一建物で 10 人以上の歯科訪問診療の算定回数	( ) 回
4) 【介護保険】居宅療養管理指導費 (歯科医師)	( ) 回
5) 【介護保険】居宅療養管理指導費 (歯科衛生士)	( ) 回

## ⑧平成 28 年 9 月 1 か月間に、歯科訪問診療で歯科医師が訪問した建物の数についてご記入ください。

1) 歯科訪問診療で歯科医師が訪問した建物の数 ※マンションなどの集合住宅の場合、「棟」単位	( ) か所
2) 1) のうち、自宅 (※1)	( ) か所
3) 1) のうち、居住系施設 (※2)	( ) か所
4) 1) のうち、介護老人保健施設	( ) か所
5) 1) のうち、介護老人福祉施設	( ) か所
6) 1) のうち、病院	( ) か所
7) 1) のうち、その他 ( )	( ) か所

※1 「自宅」とは、施設以外で、戸建て（持家・借家問わず）、団地・マンション等の集合住宅を指します。

※2 「居住系施設」とは、上記の「※1」及び介護老人保健施設・介護老人福祉施設以外の居住先をいい、有料老人ホーム・軽費老人ホーム・サ高住・認知症グループホーム等が該当します。

## ⑨平成 28 年 9 月に貴施設が歯科訪問診療を実施した患者のうち、「最も遠くに住む（貴施設からの移動時間が最も長い患家の）患者」と「最も近くに住む（貴施設からの移動時間が最も短い患家の）患者」について、以下の内容をお答えください。

	最も遠くに住む患者	最も近くに住む患者
1) 患家に訪問するのに用いる交通手段 ※○はいくつでも	01. 徒歩 02. バス 03. 電車 04. 自動車 05. その他 ( )	01. 徒歩 02. バス 03. 電車 04. 自動車 05. その他 ( )
2) 移動に要する総時間（往復）	往復 ( ) 分	往復 ( ) 分
3) 当該患家の「単一建物診療患者数」	( ) 人 ※当該患者を除く	( ) 人 ※当該患者を除く
4) 住居形態	01. 自宅 (上記※1) 02. 居住系施設 (上記※2) 03. 介護老人保健施設 04. 介護老人福祉施設 05. 病院 06. その他 ( )	01. 自宅 (上記※1) 02. 居住系施設 (上記※2) 03. 介護老人保健施設 04. 介護老人福祉施設 05. 病院 06. その他 ( )
5) 貴施設との位置関係		01. 同一敷地内 02. 隣接する敷地内 03. 同一・隣接敷地内ではない

⑩貴施設では、平成 28 年 4 月以降、周術期口腔機能管理に関連して、歯科のある（歯科を標榜している）病院への歯科訪問診療等がありますか。※〇は 1 つだけ

01. ある

02. ない（→質問⑪～）

## 【上記⑩で「01. ある」と回答した施設の方】

⑩-1 歯科のある病院に訪問するようになったきっかけは何ですか。※あてはまるものすべてに〇

01. 貴施設に通院していた患者からの依頼
02. 病院の歯科医師からの依頼
03. 病院の医師からの依頼
04. 地域歯科医師会からの依頼・紹介
05. その他（具体的に）

## 【上記⑩で「01. ある」と回答した施設の方】

⑩-2 歯科のある病院に訪問する場合、貴施設はどのような治療等を実施していますか。  
※あてはまるものすべてに〇

- |                    |                           |
|--------------------|---------------------------|
| 01. 周術期口腔機能管理計画の策定 | 02. 歯周病検査、歯周基本治療          |
| 03. 口腔衛生指導         | 04. う蝕治療                  |
| 05. 拔髓、感染根管治療      | 06. 拔歯                    |
| 07. 義歯製作           | 08. 義歯調整、有床義歯修理、有床義歯内面適合法 |
| 09. その他（具体的に）      |                           |

## 【上記⑩で「01. ある」と回答した施設の方】

⑩-3 歯科のある病院では、病院の歯科とどのように役割分担をしていますか。※あてはまるものすべてに〇

01. 患者毎に担当を分担している
02. 治療内容でそれぞれの分担を取り決めている

## →貴施設が担当する内容（取り決めをしている内容）

- |                     |                            |                |         |
|---------------------|----------------------------|----------------|---------|
| 021. 周術期口腔機能管理計画の策定 | 022. 歯周病検査、歯周基本治療          |                |         |
| 023. 口腔衛生指導         | 024. う蝕治療                  | 025. 拔髓、感染根管治療 | 026. 拔歯 |
| 027. 義歯製作           | 028. 義歯調整、有床義歯修理、有床義歯内面適合法 |                |         |
| 029. その他（具体的に）      |                            |                |         |

03. 患者毎に、術前に必要な治療のみ貴施設が分担している
04. 患者毎に、術前に必要な治療のみ病院の歯科が分担している
05. 役割分担について特に取り決めはない
06. その他（具体的に）

## 【歯科訪問診療を行っている全ての施設の方にお伺いします。】

⑪貴施設では、平成 28 年 4 月以降、在宅患者訪問口腔リハビリテーション指導管理料を算定したことがありますか。※〇は 1 つだけ

01. ある（→質問⑪-1～）

02. ない（→7 ページの質問⑪-2～）

## 【上記⑪で「01. ある」と回答した施設の方】

⑪-1 平成 28 年 3 月以前に、摂食機能療法を算定したことはありますか。※〇は 1 つだけ

01. ある（→7 ページの質問⑪-1～）

02. ない（→7 ページの質問⑫～）

## 【上記⑪-1で「01. ある」と回答した施設の方】

⑪-1-1 摂食機能療法を算定していた時と比べて、在宅患者訪問口腔リハビリテーション指導管理料では、対象患者や実際の診療内容に変化がありますか。※○は1つだけ

01. ある →変化の内容

02. ない

→この後は質問⑫へ

## 【上記⑪で「02. ない」と回答した施設の方】

⑪-2 平成28年3月以前に、摂食機能療法を算定したことはありますか。※○は1つだけ

01. ある

02. ない

## 【上記⑪で「02. ない」と回答した施設の方】

⑪-3 現在、在宅患者訪問口腔リハビリテーション指導管理料を算定していないのはなぜですか。  
※あてはまるものすべてに○

01. 対象となる患者がいないから

02. 算定要件を満たすのが難しいから

03. その他（具体的に）

## 【歯科訪問診療を行っている全ての施設の方にお伺いします。】

⑫貴施設では、平成28年4月以降、栄養サポートチーム連携加算1・2を算定したことがありますか。  
※○は1つだけ

01. ある（→質問⑫-1～）

02. ない（→質問⑫-4～）

## 【上記⑫で「01. ある」と回答した施設の方】

⑫-1 貴施設がNSTやミールラウンド（食事観察）等に参加している施設はいくつありますか。

病院（ ）施設 介護保険施設（ ）施設

## 【上記⑫で「01. ある」と回答した施設の方】

⑫-2 貴施設では平成28年3月以前から、NSTやミールラウンド（食事観察）等に参加していますか。  
※○は1つだけ

01. 病院・介護保険施設のいずれにも参加している

02. 病院に参加している

03. 介護保険施設に参加している

04. 参加していない（→8ページの質問⑬～）

## 【上記⑫で「01. ある」と回答した施設の方】

⑫-3 平成28年4月以降、NSTやミールラウンド（食事観察）等への参加依頼は増えましたか。  
※○は1つだけ

1) 病院 → 01. 増えた

02. 変わらない

2) 介護保険施設 → 01. 増えた

02. 変わらない

→8ページの質問⑬～

## 【上記⑫で「02. ない」と回答した施設の方】

⑫-4 栄養サポートチーム連携加算1・2を算定していないのはなぜですか。※あてはまるものすべてに○

01. 依頼があれば対応するが依頼がないため

02. 何をしてよいかわからないため

03. 定期的に参加するのが難しいため

04. 関心がないため

05. その他（具体的に）

（）

## 【歯科訪問診療を行っている全ての施設の方にお伺いします。】

(13)貴施設では、在宅歯科医療推進加算の届出を行っていますか。※〇は1つだけ

01. 行っている (→質問⑬-1 へ)

02. 行っていない (→質問⑭へ)

## 【上記⑬で「01. 行っている」と回答した施設の方】

⑬-1 貴施設では平成28年3月以前に、在宅かかりつけ歯科診療所加算の届出を行っていましたか。  
※〇は1つだけ

01. 行っていた (→質問⑭へ)

02. 行っていない (→質問⑬-1-1 へ)

## 【上記⑬-1で「02. 行っていない」と回答した施設の方】

⑬-1-1 平成28年4月以降、在宅歯科医療推進加算の届出を行ったのはなぜですか。  
※あてはまるものすべてに〇

01. 歯科訪問診療に関する要件が緩和されたため

02. 歯科訪問診療の患者数が増加したため

03. その他 (具体的に )

## 【歯科訪問診療を行っている全ての施設の方にお伺いします。】

(14)貴施設が歯科訪問診療を行う上でお困りになっていることは何ですか。※あてはまるものすべてに〇

00. 困っていることは何もない (→質問3. ①へ)

01. 歯科訪問診療を行うための歯科衛生士を確保することが難しい

02. 歯科訪問診療を行うための歯科医師以外の医療スタッフ（歯科衛生士を除く）を確保することが難しい

03. 歯科訪問診療を行う際に、経営上、歯科医師以外の医療スタッフを同行させることが難しい

04. 歯科訪問診療用の器具・機材の購入にコストがかかる

05. 歯科訪問診療に当たっての器具・機材の準備と後片付けに時間がかかる

06. 医療保険請求の確認等事務処理に困難がある

07. 介護保険の確認等事務処理に困難がある

08. 他機関・他職種との連携を構築することが難しい

09. 外来歯科診療を行っており、歯科訪問診療を行うための時間を確保することが難しい

10. 歯科訪問診療を行うのは効率が悪い

11. 歯科訪問診療を行うための体力（身体的な）がない

12. 訪問先での駐車場を確保するのが難しい

13. 歯科訪問診療中に患者の急変等が発生した場合の対応に不安がある

14. その他 (具体的に )

(14)-1 上記⑭のうち、最も困っていることは何ですか。

※上記⑭の01. ~14. の番号の中からあてはまる番号を1つだけご記入ください。

## 【歯科訪問診療を行っている全ての施設の方にお伺いします。】

## 3. 他施設等との連携状況についてお伺いします。

(1)平成28年8月～10月の3か月間について、医科医療機関・歯科医療機関との患者紹介や情報提供・共有等の状況をご記入ください。

1) 医科医療機関からの患者（外来診療）紹介 ※周術期口腔機能管理を除く	01. あり 02. なし
2) 医科医療機関への歯科訪問診療等 * 1	01. あり 02. なし
3) 医科医療機関からの周術期口腔機能管理に関する依頼	01. あり 02. なし
4) 医科医療機関での栄養サポートチームへの参加	01. あり 02. なし

5) 医科医療機関への文書による診療情報提供 (診療情報提供料を算定したもの)	01. あり	02. なし
6) 医科医療機関への文書による診療情報提供 (診療情報提供料を算定していないもの)	01. あり	02. なし
7) 外科的処置等の専門的な治療を歯科医療機関へ依頼	01. あり	02. なし
8) 歯科医療機関からの患者（外来診療）紹介	01. あり	02. なし
9) 歯科医療機関からの歯科訪問診療等の依頼 * 1	01. あり	02. なし
10) 歯科医療機関への文書による診療情報提供 (診療情報提供料を算定したもの)	01. あり	02. なし
11) 歯科医療機関への文書による診療情報提供 (診療情報提供料を算定していないもの)	01. あり	02. なし

\*1 歯科訪問診療等：歯科医師による歯科訪問診療の他、歯科衛生士の訪問による口腔衛生指導なども含みます。

【上記①の 6) または 11) で「01. あり」と回答した施設の方にお伺いします】

①-1 診療情報提供料を算定していないが文書による情報提供を行っている場合、情報提供の具体的な内容についてご記入ください。

②平成 28 年 8 月～10 月の 3 か月間について、介護保険施設等との連携状況をご記入ください。

1) 介護療養型医療施設への歯科訪問診療等 * 1	01. あり	02. なし
2) 介護老人保健施設への歯科訪問診療等 * 1	01. あり	02. なし
3) 介護老人福祉施設への歯科訪問診療等 * 1	01. あり	02. なし
4) 居住系高齢者施設等（サービス付き高齢者向け住宅、有料老人ホーム、ケアハウス、認知症グループホーム等）への歯科訪問診療等 * 1	01. あり	02. なし
5) その他の施設への歯科訪問診療等 * 1	01. あり	02. なし
6) 上記 1)～3) の施設で実施される NST・ミールラウンド等への参加	01. あり	02. なし
7) 上記 4)、5) の施設で実施される NST・ミールラウンド等への参加	01. あり	02. なし
8) 施設等で行われる口腔衛生管理への協力（歯科訪問診療以外で実施するもの） * 2	01. あり	02. なし
9) 施設職員への口腔に関する技術的助言や研修等の実施	01. あり	02. なし
10) 協力歯科医院に指定されている介護保険施設等	01. あり	02. なし
11) 地域包括支援センターからの患者紹介や情報共有等	01. あり	02. なし
12) 居宅介護支援事業所からの患者紹介や情報共有等	01. あり	02. なし

\*2 施設等で行われる口腔衛生管理への協力：介護保険による口腔衛生管理への協力や歯科検診など、診療報酬とは関連しない口腔衛生管理などを指します。

③直近の 1 年間で、上記質問①・②以外に、地域の在宅医療・介護等を担う医療機関・事業所との連携や、地域住民を対象とした活動等を行っていますか。※あてはまるものすべてに○

- 00. 上記質問①・②以外に行っていることはない
- 01. 地域ケア会議、サービス担当者会議、地域の医療・介護等の関係者との連携のための会議などへの参加
- 02. 地域の医療機関や介護サービス事業所等が開催する会議・研修会・勉強会などへの参加（NST、ミールラウンドへの参加を除く）
- 03. 自治体や各種団体等が地域で開催する地域住民を対象とした事業への協力
- 04. 健康相談の実施、健診事業への協力
- 05. 介護保険に係る相談の実施
- 06. その他（具体的に）

④貴施設が連携している機関等は他にありますか。 ※あてはまるものすべてに○

- |                         |                |             |                |
|-------------------------|----------------|-------------|----------------|
| 01. 歯科医師会               | 02. 医師会        | 03. 保険薬局    | 04. 訪問看護ステーション |
| 05. 居宅介護支援事業所           | 06. 地域包括支援センター | 07. 行政（保健所） |                |
| 08. その他（具体的に<br>）       |                |             |                |
| 09. いずれとも連携していない（→質問⑤へ） |                |             |                |

【上記④で連携があると回答した施設の方】

④-1 具体的にどのような連携がありましたか。 ※あてはまるものすべてに○

- |                       |                          |
|-----------------------|--------------------------|
| 01. 診療依頼や歯科に関する相談を受けた | 02. 歯科治療を行う上で必要な情報提供を行った |
| 03. 多職種が集まる会議に出席した    | 04. その他（具体的に<br>）        |

⑤歯科訪問診療において、他施設と連携を進める際に、貴施設がお困りになっていることがあれば、具体的にご記入ください。

4. 調査日（平成 28 年 9 月 1 日～9 月 30 日の間で 1 日の歯科訪問診療等の実績が最も多かった日）における歯科訪問診療の実施状況等についてお伺いします。

（1）調査日における歯科訪問診療等の概要をお伺いします。

①調査日に歯科訪問診療等（歯科衛生士のみの場合も含む）を行った職員数についてお答えください。

A) 歯科医師	( ) 人	B) 歯科衛生士	( ) 人
C) その他の職員	( ) 人	D) 合計	( ) 人

②調査日に歯科訪問診療等（歯科衛生士のみの場合も含む）に行った患者数、このうち同一建物で複数の患者となった人数、診療等合計時間（患者等で実際に診療に要した時間・機器の準備等を含む）をお答えください。なお、2) と 4) と 5) の診療等合計時間では、指定の職種が担当した合計時間のみをご記入ください。

	歯科訪問診療等を行った患者数／日	同一建物内の患者数／日	診療等合計時間／日
1) 歯科医師（上記 A）のみが訪問したもの	( ) 人	( ) 人	( ) 分
2) 歯科医師及び歯科衛生士（上記 A・B）が訪問したもの	( ) 人	( ) 人	歯科医師の診療時間 → ( ) 分 歯科衛生士の指導時間 → ( ) 分
3) 歯科医師及びその他の職員（上記 A・C）が訪問したもの	( ) 人	( ) 人	( ) 分
4) 歯科医師、歯科衛生士及びその他の職員（上記 A・B・C）が訪問したもの	( ) 人	( ) 人	歯科医師の診療時間 → ( ) 分 歯科衛生士の指導時間 → ( ) 分
5) 歯科医師の指示のもとに歯科衛生士が訪問したもの（歯科衛生士及びその他の職員が訪問した場合も含む）（上記 B・C）	( ) 人	( ) 人	歯科衛生士の指導時間 → ( ) 分

（2）調査日に歯科訪問診療を行った患者のうち、最初に訪問した患者（患者 A）と、最後に訪問した患者（患者 B）の診療状況等をお伺いします。

患者Aについてお答えください。

①患者の性別	1. 男性 2. 女性	②患者の年齢 ( ) 歳
③訪問先の建物種別	1. 戸建て 2. マンション・アパート・団地等 3. サ高住・有料老人ホーム・養護老人ホーム・軽費老人ホーム 4. 介護老人保健施設（老健） 5. 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム） 6. 認知症高齢者グループホーム 7. 病院 8. その他（具体的に）	
④上記③の訪問先建物（同一建物）の中に、調査日に貴施設が歯科訪問診療を行った患者が他に何人いますか（この患者以外の人数）。	( ) 人	
【上記③で選択肢1.～3.の場合のみ】 ⑤在宅医療・介護サービスの把握状況 1. すべて把握 2. 一部把握 3. 特に把握していない		
【上記⑤で選択肢1.又は2.の場合のみ】 ⑤-1 歯科訪問診療以外に当該患者が受けている在宅医療・介護サービスの内容 ※○はいくつでも 1. 医師による訪問診療 2. 訪問看護 3. 訪問リハビリテーション 4. 訪問栄養指導 5. 介護支援専門員（ケアマネジャー）による介護保険のケアプラン作成 6. 訪問介護 7. 歯科訪問診療以外の在宅医療・介護保険サービスは受けていない 8. その他（具体的に）		
⑥同居家族の有無	1. なし 2. あり→調査日の同居家族に対する歯科訪問診療の有無：(1. あり 2. なし)	
⑦要介護度	1. 対象外 2. 未申請 3. 申請中 4. 申請したが非該当 5. 要支援1・2 6. 要介護1 7. 要介護2 8. 要介護3 9. 要介護4 10. 要介護5 11. 不明	
⑧認知症高齢者の日常生活自立度	0. 該当なし 1. I 2. II・IIa・IIb 3. III・IIIa・IIIb 4. IV 5. M 6. 自立度不明	
⑨算定した歯科訪問診療料の種類	1. 歯科訪問診療1 2. 歯科訪問診療2 3. 歯科訪問診療3	
⑩この患者に対する歯科訪問診療の頻度	平成28年9月1か月間に（ ）回訪問	
⑪調査日に、この患者に行った診療内容（各項目の一連に係る行為を含む）※○はいくつでも		
1. 口腔内診査・症状確認 2. 口腔衛生指導 3. 機械的歯面清掃 4. フッ化物歯面塗布 5. 歯周病検査 6. スケーリング 7. スケーリング・ルートプレーニング 8. う蝕処置（9～11以外） 9. 歯冠修復（充填） 10. 歯冠修復（インレー、4/5冠、3/4冠） 11. 歯冠修復（硬質レジン前装冠、FMC） 12. 拔歯 13. 感染根管治療 14. 摂食機能障害に対するリハビリテーション 15. 欠損補綴（ブリッジ） 16. 義歯製作 17. 義歯調整 18. 義歯修理 19. 床裏装 20. その他（具体的に）		
⑫当該初診期間内に調査日以外に、この患者に行った診療内容（各項目の一連に係る行為を含む）※○はいくつでも		
1. 口腔内診査・症状確認 2. 口腔衛生指導 3. 機械的歯面清掃 4. フッ化物歯面塗布 5. 歯周病検査 6. スケーリング 7. スケーリング・ルートプレーニング 8. う蝕処置（9～11以外） 9. 歯冠修復（充填） 10. 歯冠修復（インレー、4/5冠、3/4冠） 11. 歯冠修復（硬質レジン前装冠、FMC） 12. 拔歯 13. 感染根管治療 14. 摂食機能障害に対するリハビリテーション 15. 欠損補綴（ブリッジ） 16. 義歯製作 17. 義歯調整 18. 義歯修理 19. 床裏装 20. その他（具体的に）		
⑬当該調査日にこの患者の診療に要した時間	（ ）分 このうち機器の準備・後片付けの時間（ ）分	

**患者B**についてお答えください。

①患者の性別	1. 男性      2. 女性	②患者の年齢	( ) 歳												
③訪問先の建物種別	1. 戸建て      2. マンション・アパート・団地等 3. サ高住・有料老人ホーム・養護老人ホーム・軽費老人ホーム 4. 介護老人保健施設（老健）      5. 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム） 6. 認知症高齢者グループホーム      7. 病院 8. その他（具体的に）（ ）														
④上記③の訪問先建物（同一建物）の中に、調査日に貴施設が歯科訪問診療を行った患者が他に何人いますか（この患者以外の人数）。	( ) 人														
<b>【上記③で選択肢1.～3.の場合のみ】</b> <b>⑤在宅医療・介護サービスの把握状況</b> <table border="1"> <tr> <td>【上記⑤で選択肢1.又は2.の場合のみ】</td> <td>1. すべて把握</td> <td>2. 一部把握</td> <td>3. 特に把握していない</td> </tr> <tr> <td>⑤-1 歯科訪問診療以外に当該患者が受けている在宅医療・介護サービスの内容</td> <td colspan="3">※○はいくつでも</td> </tr> <tr> <td colspan="4">         1. 医師による訪問診療      2. 訪問看護      3. 訪問リハビリテーション      4. 訪問栄養指導          5. 介護支援専門員（ケアマネジャー）による介護保険のケアプラン作成      6. 訪問介護          7. 歯科訪問診療以外の在宅医療・介護保険サービスは受けていない          8. その他（具体的に）（ ）       </td> </tr> </table>				【上記⑤で選択肢1.又は2.の場合のみ】	1. すべて把握	2. 一部把握	3. 特に把握していない	⑤-1 歯科訪問診療以外に当該患者が受けている在宅医療・介護サービスの内容	※○はいくつでも			1. 医師による訪問診療      2. 訪問看護      3. 訪問リハビリテーション      4. 訪問栄養指導 5. 介護支援専門員（ケアマネジャー）による介護保険のケアプラン作成      6. 訪問介護 7. 歯科訪問診療以外の在宅医療・介護保険サービスは受けていない 8. その他（具体的に）（ ）			
【上記⑤で選択肢1.又は2.の場合のみ】	1. すべて把握	2. 一部把握	3. 特に把握していない												
⑤-1 歯科訪問診療以外に当該患者が受けている在宅医療・介護サービスの内容	※○はいくつでも														
1. 医師による訪問診療      2. 訪問看護      3. 訪問リハビリテーション      4. 訪問栄養指導 5. 介護支援専門員（ケアマネジャー）による介護保険のケアプラン作成      6. 訪問介護 7. 歯科訪問診療以外の在宅医療・介護保険サービスは受けていない 8. その他（具体的に）（ ）															
⑥同居家族の有無	1. なし 2. あり → 調査日の同居家族に対する歯科訪問診療の有無：(1. あり      2. なし)														
⑦要介護度	1. 対象外	2. 未申請	3. 申請中												
	5. 要支援1・2	6. 要介護1	7. 要介護2												
	9. 要介護4	10. 要介護5	11. 不明												
⑧認知症高齢者の日常生活自立度	0. 該当なし	1. I	2. II・IIa・IIb												
	3. III・IIIa・IIIb	4. IV	5. M												
⑨算定した歯科訪問診療料の種類	1. 歯科訪問診療 1      2. 歯科訪問診療 2      3. 歯科訪問診療 3														
⑩この患者に対する歯科訪問診療の頻度	平成28年9月1か月間に（ ）回訪問														
<b>⑪調査日に、この患者に行った診療内容（各項目の一連に係る行為を含む）</b> ※○はいくつでも															
1. 口腔内診査・症状確認      2. 口腔衛生指導      3. 機械的歯面清掃      4. フッ化物歯面塗布 5. 歯周病検査      6. スケーリング      7. スケーリング・ルートプレーニング 8. う蝕処置（9～11以外）      9. 歯冠修復（充填）      10. 歯冠修復（インレー、4/5冠、3/4冠） 11. 歯冠修復（硬質レジン前装冠、FMC）      12. 拔歯      13. 感染根管治療 14. 拔歯      15. 欠損補綴（ブリッジ）      16. 義歯製作 17. 義歯調整      18. 義歯修理      19. 床裏装 20. 摂食機能障害に対するリハビリテーション      21. その他（具体的に）（ ）															
<b>⑫当該初診期間内に調査日以外に、この患者に行った診療内容（各項目の一連に係る行為を含む）</b> ※○はいくつでも															
1. 口腔内診査・症状確認      2. 口腔衛生指導      3. 機械的歯面清掃      4. フッ化物歯面塗布 5. 歯周病検査      6. スケーリング      7. スケーリング・ルートプレーニング 8. う蝕処置（9～11以外）      9. 歯冠修復（充填）      10. 歯冠修復（インレー、4/5冠、3/4冠） 11. 歯冠修復（硬質レジン前装冠、FMC）      12. 拔歯      13. 感染根管治療 14. 拔歯      15. 欠損補綴（ブリッジ）      16. 義歯製作 17. 義歯調整      18. 義歯修理      19. 床裏装 20. 摂食機能障害に対するリハビリテーション      21. その他（具体的に）（ ）															
⑬当該調査日にこの患者の診療に要した時間	( ) 分 このうち機器の準備・後片付けの時間 ( ) 分														